Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-①　有形文化財の収集等

1-(1)-①-1　所蔵品一覧表

（単位：件）　令和5年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	132,866	135	1,009	120,812	89	649	8,526	29	200	1,947	13	114	1,581	4	46
絵画	14,009	35	219	11,200	21	105	2,357	9	60	308	4	44	144	1	10
書跡	3,720	37	175	1,930	14	60	1,484	17	78	153	5	29	153	1	8
彫刻	1,465	1	49	1,113	0	24	152	0	3	158	1	16	42	0	6
建築	87	0	2	30	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工	17,462	3	61	16,445	1	17	610	2	31	171	0	11	236	0	2
刀剣	3,535	21	57	3,467	19	57				16	0	0	52	2	0
陶磁	4,527	0	22	2,970	0	13	1,362	0	3	81	0	0	114	0	6
漆工	4,798	6	32	3,969	4	20	542	0	3	109	2	5	178	0	4
染織	5,053	2	30	3,912	0	21	972	1	8	98	1	1	71	0	0
考古	30,508	5	78	28,625	5	55	699	0	11	747	0	8	437	0	4
民族資料	1,399	0	0	1,283	0	0	0	0	0	101	0	0	15	0	0
歴史資料	6,682	0	12	6,250	0	5	299	0	2	0	0	0	133	0	5
和書	17,560	0	2	17,560	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	2,794	0	2	2,794	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋 絵画	719	4	31	719	4	31									
東洋 書跡	1,736	10	13	1,736	10	13									
東洋 彫刻	816	0	20	816	0	20									
東洋 金工	1,041	0	0	1,041	0	0									
東洋 陶磁	3,091	0	11	3,091	0	11									
東洋 漆工	529	0	4	529	0	4									
東洋 染織	615	0	1	615	0	1									
東洋 考古	5,983	0	2	5,983	0	2									
東洋 民族	3,590	0	0	3,590	0	0									
法隆寺献納宝物	326	11	184	326	11	184									
黒田記念館収蔵品	818	0	2	818	0	2									
準歴史資料(含和書)	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり
　京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
＊列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にしるし、列品化整理中の資料と分けて表示している。
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-①-1（参考）
【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）

令和5年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
[文化遺産部]	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,400枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
中村泰寄贈文書	一式
森澄資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
岡嶋家寄贈 大極殿標木建設等資料	1箱
溝辺家寄贈 大極殿標木	2本(4片)
川辺富子寄贈資料	一括
[都城発掘調査部（平城地区）]	
平城宮跡出土木簡（国宝）	3,184点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	31,509箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	36,449箱
平城宮・京出土瓦類	1,005,680箱
平城宮・京出土木簡	252,747点
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
長屋王家木簡附平城京跡左京三条二坊出土木簡（重要文化財）	1,809点
[都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)]	
軒丸瓦・軒平瓦	約37,117点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,867袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	41,808箱
土器　　整理箱	17,093箱
土製品	15,165点
木器・木製品	34,387点
木簡	35,323点
建築部材	約3,000点
金属製品	20,044点
石器・石製品	15,011点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
[飛鳥資料館]	
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	一式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像（夢違観音）複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝２年戸籍残簡複製品	2点
人頭石（光永寺）複製品	1点
鍔淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財圓勝寺銅壺鋳造模型（下道圀依母婦 人骨蔵器）	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁画漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土木簡複製品	13点
暗文土師器復原制作品（脇田宗孝氏制作）	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　蛇行状鉄器複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　馬鈴複製品	1点
扶桑略記　巻二十一～二十八	7冊
高松塚古墳石室　原寸模型	1台
高松塚古墳石室　1/20模型	1台
藤原宮跡木簡複製品	4点一括
飛鳥池遺跡木簡複製品	5点一括
二面石（橘寺　模刻）	1点
呉文字ヘラ書き丸瓦	1点
特別史跡山田寺跡出土「銅板五尊像」　原寸鋳造	1点
特別史跡山田寺跡出土「銅板五尊像」　拡大樹脂製（４倍）	1点
国宝「高松塚古墳壁画」コロタイプ印刷複製品	一式
[埋蔵文化センター]	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

収蔵品(所蔵品・寄託品)件数合計(過去5か年)

(単位:件)　令和5年3月31日現在

		平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品合計	国立博物館 計	142,680	332	2,180	143,576	329	2,180	143,928	332	2,207	144,284	334	2,209	145,458	334	2,213
	東京国立博物館	122,194	144	897	122,462	141	891	122,593	143	910	122,724	143	910	123,480	143	909
	京都国立博物館	14,509	116	812	14,650	117	815	14,697	117	818	14,841	119	819	15,113	118	819
	奈良国立博物館	3,882	66	418	3,885	65	420	3,917	66	423	3,886	66	423	3,884	67	425
	九州国立博物館	2,095	6	53	2,579	6	54	2,721	6	56	2,833	6	57	2,981	6	60
所蔵品	国立博物館 計	130,211	135	994	131,191	135	1,002	131,433	135	1,006	131,771	135	1,006	132,866	135	1,009
	東京国立博物館	119,064	89	644	119,871	89	646	119,942	89	648	120,073	89	648	120,812	89	649
	京都国立博物館	8,075	29	196	8,130	29	200	8,150	29	200	8,279	29	200	8,526	29	200
	奈良国立博物館	1,908	13	113	1,911	13	114	1,929	13	114	1,930	13	114	1,947	13	114
	九州国立博物館	1,164	4	41	1,279	4	42	1,412	4	44	1,489	4	44	1,581	4	46
寄託品	国立博物館 計	12,469	197	1,186	12,385	194	1,178	12,495	197	1,201	12,513	199	1,203	12,592	199	1,204
	東京国立博物館	3,130	55	253	2,591	52	245	2,651	54	262	2,651	54	262	2,668	54	260
	京都国立博物館	6,434	87	616	6,520	88	615	6,547	88	618	6,562	90	619	6,587	89	619
	奈良国立博物館	1,974	53	305	1,974	52	306	1,988	53	309	1,956	53	309	1,937	54	311
	九州国立博物館	931	2	12	1,300	2	12	1,309	2	12	1,344	2	13	1,400	2	14

1-(1)-①-3 令和4年度新収品一覧表

（単位：件）　令和5年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	1,097			741			247			17			92		
計	56	436	605	1	136	604	8	239	0	12	5	0	35	56	1
絵画	5	122	0	0	1	0	2	121	0	1	0	0	2	0	0
書跡	1	111	0	0	3	0	0	108	0	1	0	0	0	0	0
彫刻	3	2	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0
建築	0	0	9	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	3	4	19	0	0	19	1	3	0	2	0	0	0	1	0
刀剣	0	31	1	0	0	1			0	0	0	0	0	31	0
陶磁	2	1	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	2	0	0
漆工	6	6	6	0	2	6	5	3	0	1	1	0	0	0	0
染織	4	127	6	1	111	6	0	1	0	3	1	0	0	14	0
考古	29	12	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	28	10	0
民族資料	0	0	19	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	3	2	2	0	0	1	0	2	0	0	0	0	3	0	1
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	511	0	0	511	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	1	0	0	1	0									
東洋 書跡	0	7	0	0	7	0									
東洋 彫刻	0	2	0	0	2	0									
東洋 金工	0	0	0	0	0	0									
東洋 陶磁	0	2	0	0	2	0									
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0									
東洋 染織	0	2	1	0	2	1									
東洋 考古	0	1	1	0	1	1									
東洋 民族	0	3	28	0	3	28									
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収品一覧表

（単位：件）

	平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	2,005			980			242			338			1,097		
小計	154	348	1,503	87	125	768	69	155	18	41	254	43	56	436	605
絵画	8	22	0	31	9	0	7	8	0	6	104	1	5	122	0
書跡	3	50	0	2	8	0	3	59	0	2	11	0	1	111	0
彫刻	2	3	0	1	0	0	1	18	0	1	3	0	3	2	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
金工	3	21	0	3	12	0	6	1	0	3	9	0	3	4	19
刀剣	1	0	0	0	1	0	2	9	0	0	0	2	0	31	1
陶磁	15	44	0	1	11	0	4	2	0	1	13	4	2	1	2
漆工	4	23	0	1	8	0	5	1	0	1	6	5	6	6	6
染織	30	21	0	3	7	0	7	5	0	8	2	22	4	127	6
考古	81	120	2	34	10	0	30	31	0	11	41	1	29	12	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	19
歴史資料	6	1	0	3	50	0	3	1	0	2	0	0	3	2	2
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料				0	0	767	0	0	16	0	0	0	0	0	511
その他	0	0	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	15	0	3	1	0	0	0	0	5	4	0	0	1	0
東洋 書跡	0	18	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	7	0
東洋 彫刻	0	0	0	4	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0
東洋 金工	0	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 陶磁	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	30	2	0	2	0
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 染織	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	2	1
東洋 考古	0	3	0	0	4	0	0	3	0	0	27	0	0	1	1
東洋 民族	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	3	28
法隆寺献納宝物	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0
黒田記念館収蔵品	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(1)-①-4 令和4年度新収品一覧
【東京国立博物館】(計741件)

（１）購入（1件）

＜染織＞（1件）

1　名称	[重要文化財]小袖染分綸子地小手毬松楓模様 （こそでそめわけりんずじこでまりまつかえでもよう）	品　質	綸子（絹）、刺繍、鹿子絞、縫締絞、摺箔
作者等		員　数	1領
時　代	江戸時代・17世紀	寸法等	丈138.4cm,裄 57.0cm
作品概要	卍繋ぎに牡丹と蓮華の折枝紋を散らした中国産の綸子に、縫い締め絞りの技法で紅・黒紅・白の三色に染め分け、更に鹿の子絞りや刺繍で模様を表した小袖である。黒紅に染めた部分には、型紙と金箔を用いた摺箔の技法で雲や霞、松葉などの模様が捺されていたが、今はすっかり擦り落ちており、かろうじて糊の跡が見える。かつては、色とりどりの刺繍に金箔が輝く、豪奢な小袖であったと考えられる。 地を埋め尽くすように様々な技法を凝らして模様を施すことから「地無」と称された小袖は、江戸時代初期には礼装用の晴れ着として用いられた。松や桜、楓といったお馴染みの模様のほか、安土桃山時代から江戸時代初期にかけて好まれて模様に表されるようになった小手毬の花が刺繍で表される。巴紋や鶴丸紋、有職風の入子菱模様など、部分部分を見れば細かな刺繍に彩られるが、遠目に見ると、複雑で明言し難い染め分け模様の中に、橋が大きくかかり、全身が一枚の風景画のように見えてくる。慶長期から元和期にかけて主流であった段や筋といった区画を重視するデザインから、万治期から寛文期にかけて花ひらく絵画的な構図へと転換する、過渡期的な意匠と位置付けられる。明治期以降、長らく「慶長小袖」と呼び慣らされてきたデザイン様式であるが、その技法的特徴や小袖の形態から、実際は正保期頃に位置付けられるべきである。		

（２）寄贈（136件）

＜絵画＞(1件)

1　名称	中国真景図巻（ちゅうごくしんけいずかん）	品　質	紙本墨画
作者等	伝雪舟等楊（1420～1506?）筆	員　数	1巻
時　代	室町時代・15～16世紀	寸法等	本紙 縦24.9cm 横395.3cm
作品概要	巻子装、牙軸。 雪舟が入明時に眼にしたとされる中国の風景を描いた画巻。雪舟は48歳から50歳にかけて中国への外交使節に随行し、寧波と北京の間を往復した。本作は、北京からの帰路の情景を描いたとされる伝雪舟筆「唐土勝景図巻」（京都国立博物館）前半の図様とほぼ一致する。鎮江周辺の景観のみで構成されているが、京博本をはじめとする他の伝本では見られない風景も収めている。		

＜書跡＞(3件)

2　名称	宮本竹逕所用印（みやもとちくけいしょよういん）	品　質	石製、木製、竹製
作者等		員　数	114顆
時　代	昭和～平成時代・20世紀	寸法等	
作品概要	現代かな書家の宮本竹逕(1912～2002)が所蔵・使用していた印章114顆。印文は「竹逕」「顕」「寒玉」の字を刻んだものが多くを占め、「宮本竹逕作品集」125帖の落款・箱書に使用された印が多数確認されるように、大部分は竹逕の落款印として制作されたものと考えられる。側款には「癸未」(昭和18年(1943))から「癸酉」(平成5年(1993))までの干支が認められ、竹逕の活動期全般にわたる。自刻印は確認されず、おおむね篆刻家が制作したものと考えられ、「蘭台」（二世中村蘭台、1892～1969）「香石」（内藤香石、1908～86）「丁齋」（梅舒適、1916～2008）など、著名な篆刻家の号を側款に刻むものもある。中でも梅舒適作と推定される数点は、落款印として特に愛用されていることが指摘でき、竹逕の作歴と書壇における交友関係を知るうえで重要である。		

3　名称	四大字屏風「敬神勧農」（よんだいじびょうぶけいしんかんのう）	品　質	紙本墨書
作者等	貫名菘翁（1778～1863）筆	員　数	2曲1隻
時　代	江戸時代・文久元年(1861)	寸法等	154.7cm×75.6cm
作品概要	屏風装。貫名菘翁が「敬神勧農」の四文字を大字で揮毫したもの。落款より菘翁84歳の書だが、当館所蔵の菘翁83歳作「いろは屏風」と同様に力強くよどみのない筆遣いで揮毫されている。本作は「いろは屏風」よりもさらに一文字が大きく、菘翁の代表作ともいえるものである。また、菘翁が最晩年まで第一線で活躍していたことがわかる貴重な作品である。屏風装。貫名菘翁が「敬神勧農」の四文字を大字で揮毫したもの。落款より菘翁84歳の書だが、当館所蔵の菘翁83歳作「いろは屏風」と同様に力強くよどみのない筆遣いで揮毫されている。本作は「いろは屏風」よりもさらに一文字が大きく、菘翁の代表作ともいえるものである。また、菘翁が最晩年まで第一線で活躍していたことがわかる貴重な作品である。		

4　名称	装飾法華経 巻第一（そうしょくほけきょう　まきだいいち）	品　質	彩箋墨書
作者等	藤原定信（1088～1154～?）筆	員　数	1巻
時　代	平安時代・12世紀	寸法等	縦25.6cm 全長996.6cm
作品概要	巻子装。木軸。本紙は20紙を継ぐ。料紙に金の截金で単界線を施し、経文を墨書する。第1・2・20紙の天地欄外には銀の砂子・芒に金の小切箔を散らし、第3～19紙の天地欄外には金銀の砂子のみを散らす。紙背にはやや大ぶりの裂箔を交えた金銀箔を散らす。表紙は後補、田中塊堂の筆跡で墨書外題「妙法蓮華経巻第一」を打付け書きする。経文は鳩摩羅什訳『妙法蓮華経』の巻第一を完存する。右肩上がりに崩した字姿が特徴的な筆跡は、藤原定信自筆の書写奥書を有する「般若理趣経」（春敬記念書道文庫蔵）、および定信筆と推定される「久能寺経 譬喩品」（鉄舟禅寺蔵）と同筆と認められる。		

＜漆工＞(2件)

5　名称	[重要美術品]紙胎漆塗彩絵華籠（したいうるしぬりさいえけ	品　質	紙製漆塗
作者等		員　数	1口
時　代	鎌倉時代・13世紀	寸法等	高4.2cm 径24.2cm
作品概要	浅い盆型を呈し、見込みからなだらかに口縁へ向かって広がり、口縁部で垂直に立ち上がる。素地は十枚程度の紙を型を用いて貼り合わせ、漆を塗った紙胎であり、裏面は刷毛目の残る透漆仕上げ、表面（見込み）には白土下地を施して彩絵を施す。見込みには八花形の花托を持つ八弁の蓮花を表し、赤と緑で彩色して金線で縁取る。蓮弁の隙間を透かして背後に八つの三鈷を配し、箔押しして墨で刻線を描き起こしている。三鈷と蓮弁の間には窓が切り透かされており、計16の窓を開けて籠の形状の名残を見せている。		

6　名称	薄桐紋蒔絵椀（すすききりもんまきえわん）	品　質	木製漆塗
作 者 等		員　数	10客
時　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	総高10.8cm 口径13.4cm
作品概要	端反り、落とし蓋形式の塗物椀。蓋、身とも高台周りを広く平坦に残し、腰から側面にかけて面取りしてから丸みを加えて仕上げている。総体黒漆塗に口縁及び蓋の環状把手を金地とし、外側面には平蒔絵で曲線を引き連ねて薄を表し、同じく平蒔絵で五三桐紋を散らす。桐紋は絵梨子地に針描、付描を併用して表されており、技法としては近世初頭に広く行われた高台寺蒔絵に通じる。		

＜染織＞(111件)

7　名称	「虫の音」粘土原型（「むしのね」ねんどげんけい）	品　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和27年（1952	寸 法 等	高11.2cm
作品概要	昭和27年（1952）の個展で出品した木彫彩色の人形「虫の音」を制作するにあたり試作した粘土原型である。女房装束（唐衣裳、いわゆる十二単）をまとい、虫の音に袖を濡らす宮廷女性の姿を捉えている。板裏に郷陽が記した銘記に「周防内侍」とあり「住わひて我さへ軒の忍ふ草 しのふかたかたしけきやとかな」（『金葉和歌集』巻第九 雑部上）をモチーフとしたのだろう。完成品は現在、東京国立近代美術館が所蔵する。		

8　名称	「秋韻」粘土原型（「しゅういん」ねんどげんけい）	品　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和28年（1953）	寸 法 等	高11.2cm
作品概要	第9回日本美術展に出品された木目込人形「秋韻」（昭和28年（1953））の制作に際し、試作した粘土原型である。粘土原型では右手を台座に付き、膝に置いた手に冊子のようなものを手にして物思いにふける振袖の若い女性を形作るが、完成品（寄贈予定）は左手を胸の前に挙げ、人差し指を立てた姿に変わっている。		

9　名称	「清閑」粘土原型（「せいかん」ねんどげんけい）	品　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和36年（1961）	寸 法 等	高10.0cm
作品概要	第8回日本伝統工芸展に出品された衣裳人形「清閑」を制作する際に試作した粘土原型である。完成品とほぼ、同様の形状であるが、原型では背もたれのある椅子に腰かけた着物姿の若い女性像であるが、完成品では木彫に幾何学的な意匠を彩色した着物をまとう姿で、背もたれのない台座に腰かける姿となっている。		

10　名称	「瑞鳥」粘土原型（「ずいちょう」ねんどげんけい）	品　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和36年（1961）頃	寸 法 等	高29.8cm
作品概要	昭和34年（1959）に皇居新宮飾りとして制作された衣裳人形「瑞鳥」のための試作と考えられる。粘土原型では、頭頂に丸く髪を結った少女が左肩に留まった小鳥を愛でる立ち姿であるが、完成品では、髪を結わずに禿風のおかっぱ頭へと変化している。		

11　名称	「荒事」粘土原型（「あらごと」ねんどげんけい）	品　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和37年（1962）	寸 法 等	高8.0cm
作品概要	昭和37年（1962）の第22回人形美術院展に出品した木彫人形「荒事」の試作として制作された粘土原型である。誇張された素襖の袖や袖に表された三枡紋から、市川家のお家芸である「暫」を演じる姿を形にしている。粘土原型にも彩色を施すようになるのは、平田郷陽の昭和30年代後半の特徴である。完成品では、目は見開かれておらず、目は閉じられ、隈取りの美しさが強調される。		

12　名称	「愛趣楽」粘土原型（「あしゅら」ねんどげんけい）	品　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和38年（1963）	寸 法 等	高10cm
作品概要	第10回日本伝統工芸展に出品された衣裳人形「愛趣楽」のために試作された粘土原型である。三角に切り取られた杉板の上に三方を向いた少年が膝下丈の着物をまとい、それぞれ異なるポーズを取って立つ姿は興福寺所蔵の阿修羅像を思わせる。		

13　名称	「越後路」粘土原型（「えちごじ」ねんどげんけい）	品　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1個
時　代	昭和39年（1964）頃	寸 法 等	高2.8cm
作品概要	昭和39年（1964）に開催された第11回日本伝統工芸展に出品された衣裳人形「越後路」のために試作された獅子舞の頭の粘土原型であろう。いわゆる郷土芸能の「越後獅子」をあらわしたものではなく、完成品では、白頭をまとった獅子を被る舞手が腰を低くする造形となっている。		

14　名称	「抱擁」粘土原型（「ほうよう」ねんどげんけい）	品　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和41年（1966）	寸 法 等	高12cm
作品概要	昭和41年（1966）の第13回日本伝統工芸展に出品された木彫衣裳人形「抱擁」のために試作された粘土原型である。着物姿の若い母親が立ち膝で座り、おくるみから顔をのぞかせる赤子に唇を寄せる姿を形づくる。着物の袖のたもとや裾には線刻で大きな葉の模様が描かれる。		

15　名称	「地唄舞」粘土原型（「じうたまい」ねんどげんけい）	品　　質	粘土、胡粉彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和46年（1971）	寸 法 等	高13.5cm
作品概要	昭和47年（1972）の第16回陽門会に出品された木彫木目込人形「地唄舞」のために試作された粘土原型である。江戸時代後期の芸妓風の装いで、深く衿を後方に落とし、幅広の帯をつけ、裾を引く姿に造形される。胡粉を塗り、赤い顔料で上彩色される。完成品もほぼ、おなじ姿形をとる。		

16　名称	「松浦佐用比賣」粘土原型（「まつらさよひめ」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和46年（1971）	寸 法 等	高14cm
作品概要	昭和46年（1971）の第18回日本伝統工芸展に出品された木彫木目込人形「松浦佐用比売」のために試作された粘土原型である。大伴狭手彦が新羅を討つために出征した際、松浦の山の上から領巾を振って見送ったという伝説をもとに、中国風の唐衣に襞のある裳を着て、腕に掛けた領巾をなびかせる瞬間を造形している。粘土で形づくった後、胡粉を塗り、上から赤い顔料で薄く彩色を重ねる。木箱表に「松浦の里」と付箋があり、横に赤字で「松浦の佐用姫」と書き直される。		

17　名称	「寂」粘土原型（「じゃく」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和47年（1972）	寸 法 等	高12.8cm
作品概要	昭和48年（1973）の第17回陽門会に出品された木彫人形「寂」のために試作された粘土原型である。唐風の髪型、衣裳を身にまとい、両手を胸の高さに挙げて水瓶を持つ姿に造形される。胡粉を塗り、赤い顔料で上彩色する。完成品もほぼ、同型である。紙箱表に「寂」と記される。		

18　名称	「をんな」粘土原型（「おんな」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和47年（1972）	寸 法 等	高8.8cm
作品概要	昭和47年(1972）の第19回日本伝統工芸展で出品された木彫人形「朝の庭」のために試作された粘土原型である。前髪を撫えたおかっぱ頭に華やかな花模様を施した着物をまとい、正座した若い女性の姿である。胡粉を塗り、赤や緑、青の顔料で彩色を施す。完成品では、前髪をあげたおかっぱ頭で、着物は白地に紫陽花の模様へと変化している。紙箱表には「をんな　昭和四十七年　六月二十二日　於箱根湯本郷」とある。		

19　名称	「吉野水分玉依姫」粘土原型（「よしのみまくりたまよりひめ」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和48年（1973）	寸 法 等	高7.0cm
作品概要	昭和49年（1974）の「第10回人間国宝新作展」に出品した人形「吉野水分玉依姫」のために試作された粘土原型である。奈良・吉野水分神社に子授かりの神として祀られる玉依姫命を、袿袴姿と思われる宮廷女性の姿に造形される。胡粉を塗り、黄や赤の顔料で上彩色される。木箱表に「吉野水分玉依姫」と記される。		

20　名称	「櫛名田姫衣装像」粘土原型（「くしなだひめいしょうぞう」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和48年（1973）	寸 法 等	高10.5cm
作品概要	昭和48年(1973）の第20回日本伝統工芸展に出品された木彫人形「櫛名田姫衣装像」のために試作された粘土原型である。素戔嗚尊の妻となった櫛名田姫とされるこの像は、古墳時代の巫女のような髪型に中国風の唐衣を左衽にまとい、裳と領巾をつけた姿で立ち膝をし、両手に剣を掲げた姿に形作られる。胡粉を塗り、赤い顔料で彩色する。完成品も同様の姿形である。		

21　名称	「天のうずめの命」粘土原型（「あめのうずめのみこと」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和49年（1974）頃	寸 法 等	高12.5cm
作品概要	第21回日本工芸展に出品された木彫木目込人形「天のうずめの命」を制作するにあたり、試作された粘土原型である。岩戸に隠れた天照大神の気を引くために、岩戸の前で面白おかしく踊ったというアメノウズメを、『古事記』の記述にあるように胸をあらわにした姿でかたどっている。完成品もほぼ、同様の姿形である。紙箱表に「天のうずめの命」とある。		

22　名称	「宴の花」粘土原型（「うたげのはな」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和50年（1975）頃	寸 法 等	高9.7cm
作品概要	昭和50年（1975）の「第22回日本伝統工芸展」に出品された木彫人形「宴の花」のために試作した粘土原型である。左手で小鼓の緒を締め、右手で打ち鳴らそうとする振袖の若い女性が、立ち膝で腰を下ろした姿を形作っている。薄く白い胡粉を塗り、その上から赤、青の顔料で彩色する。完成品もほぼ、同じような姿形である。紙箱表には「花の宴」と記される。		

23　名称	上代女子立像粘土原型（じょうだいじょしりゅうぞうねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高12.0cm
作品概要	古代中国風の唐衣と裳をまとい、後方で低く髪を結った女性の立像である。粘土でおおまかに形を作った試作の粘土原型と考えられるが、現在確認できる完成品の中には、同様の造形の作品を特定することができない。		

24　名称	手を合わせる女子立像　粘土原型（てをあわせるじょしりゅうぞう　ねんどげんけい）	品　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高12.5cm
作品概要	着物を着用し、腰あたりで手を合わせる女性の立ち姿をかたどっている。粘土でおおまかに形を作った試作の粘土原型と考えられるが、現在確認できる完成品の中には、同様の造形の作品を特定することができない。あるいは、昭和46年の「第14回陽門会展」に出品した木彫木目込人形「南庭に遊ぶ菅公」が近い。		

25　名称	人形女子立像（にんぎょうじょしりゅうぞう）	品　質	桐製
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高45.5cm
作品概要	平田郷陽が得意とした木目込人形を制作する過程を見ることができる、未完成の木彫人形である。元結で前髪を上げ、やや細めの帯をしたつい丈の小袖を着用した江戸時代前期頃の女性像は「沢辺の雪」（昭和23年（1948））、「茶」（昭和25年（1950））、「秋韻」（昭和28年（1958））に共通する。通常は顔や手に胡粉を塗り、髪や顔に彩色を施し、綾錦を用いて衣装を貼っていくが、未完成のため、頭、両手先、上半身、下半身の5パーツに分解できる構造であったことがうかがえる。		

26　名称	木彫人形 桃太郎（もくちょうにんぎょう ももたろう）	品　質	木、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	大正13年(1924)	寸 法 等	高25.0cm
作品概要	1つに割れた桃とそこから見栄を切って現れた桃太郎を木彫し、胡粉彩色して髪の毛を絹糸で毛植えする。木彫でありながら、柔らかく肉付きのよい子どもの体形や、頬に見える愛らしいえくぼなど、生人形の制作でキャリアを積んだ平田郷陽の力量がうかがえる。		

27　名称	衣裳人形 婦女（いしょうにんぎょう ふじょ）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和7年(1932)	寸 法 等	高30.0cm
作品概要	昭和7年(1932)の第5回白澤会展に出品された衣裳人形である。体を木彫にし胡粉彩色し、露芝模様を刺繍した水浅葱色の縮緬の着物に鹿の子模様が入った菱繋文の織の丸帯を淡桃色の帯揚と白い丸紐けの帯締めでお太鼓結びにし、桃色の重ねの下着の下に白い襦袢を重ねる。長い髪を後ろで低くまとめ、簪で止めた姿は、昭和初期当時の若い女性の姿をそのままに映している。正座を少し崩した足裏や耳、手指など写実的な技が細部にまで行き届く。		

28　名称	衣裳人形 薬玉（いしょうにんぎょう くすだま）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和8年(1933)	寸 法 等	高72.0cm
作品概要	昭和8年（1933）の「第６回白澤会展」に出品された衣裳人形である。波に千鳥の蒔絵を施した黒漆塗りの葛桶の上に立ち、左手に薬玉を掲げる若い女性である。前髪を揚げて元結でとめ、御所風に髪を高く結んで元結でまとめ、顔は面長、鹿の子絞りを色とりどりの刺繍で表した桜の模様は、まさに井原西鶴の浮世草子に描写されるような元禄期の贅沢な衣装を再現している。振袖の長さや浅葱、紅の下着を重ねる着装もまた、浮世絵を参考にしていると考えられる。帯は紅地芭蕉模様の錦帯を片蝶結びにする。江戸時代前期、元禄期頃の風俗を再現した衣裳人形である。郷陽のリアリズムは顔の表情や耳や手足の細密さ、金糸の細さまで人形のサイズに合わせて細い糸を使用させている点に感じられる。薬玉はもともとはサツキなど初夏の花で飾った薬草の玉に、五色の糸飾りを垂れて几帳や柱などに飾った宮中の端午の節句の行事であるが、この薬玉には内部に電球で仕込んであり、制作当時は薬玉を光らせる仕掛けであった。		

29　名称	衣裳人形 泣く子（いしょうにんぎょう なくこ）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和11年(1936)	寸 法 等	高19.5cm
作品概要	昭和10年(1935)に開催された第一回日本人形社展に出品された衣裳人形であるが、極めて生人形に近い。観世水に向かい横菊紋を地紋に織り出した白綸子地の産衣に襞のついた縮緬の涎掛けをした赤子が力をみなぎらせて泣く姿を写実的に表わす。木彫に胡粉彩色し、髪は絹糸を毛植えする。細部まで写実をつらぬくが、殊に目を見張るのは、赤子の大きく口を開けて泣く口の内部の、歯の生えていない歯茎や舌などの造形である。ビロード貼りの椅子が付属する。		

30　名称	衣裳人形　朝鮮の佳日（いしょうにんぎょう　ちょうせんのかじつ）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	3体
時　代	昭和12年(1937)頃	寸 法 等	（男児）高36.5cm　奥9.0cm（母）高32.5cm（父）高39.0cm
作品概要	昭和12年(1937)の「第２回日本人形社展」に出品された衣裳人形「朝鮮の佳日」。幼い男児とその母親の姿を表わす。父親も同時期に制作されたと考えられる。服装から、満1歳の誕生日を祝うトルラルの場面であることがわかる。男児はカチトゥルマギの上に紺のチョンボクを羽織り、パジと称する白い袴を着用し、刺繍を施した鞋をはく。頭にはポッコンと称する黒い帽子をかぶる。母親は半回装チョゴリに薄絹のチマを着用し、男児が被るポッコンの紐を後ろで結ぶしぐさをする。手先や表情などから、若い母親の喜びと優しさが表現される。父親は20世紀初頭頃の朝鮮両班の普段着で、白いチョゴリに白いバジを履き、足に白いポソン、頭に黒い紗張りのカッを被り、長い煙管を右手にはさみ、火皿を前に座る。人形本体は他の母子と同様、生人形と基本的なつくりは同じで、木彫に胡粉彩色し、口ひげを毛植えする。父母の人形は共に制作されたと考えられるが、日本人形社展では、トルラルの身支度をする男児の人形とポッコンの紐を結ぶ母親の人形が展示されたものの、父親は展示されなかった。この人形を制作するに際し、実際に京城の雑貨店「新羅商会」「朝鮮館」から服飾資料一式を入手していたことが、遺された資料からうかがえる。		

31　名称	衣裳人形 一茶と雀（いしょうにんぎょう いっさとすずめ）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和15年(1940)	寸 法 等	幼児 高16cm ； 雀 高2cm ； 鼠 高1.7cm
作品概要	昭和15年(1940)の第5回日東人形社展に出品された衣裳人形「一茶と雀」である。鶯色地花唐草文緞子の着物を着た幼児が、右手の一指し指をくわえ、足元に留まった雀を凝視する様を表わす。草鞋の片方を脱いで右足裏を左足の甲に載せるといった幼児らしいしぐさを捉える。一茶と雀というモチーフは繰り返し制作され、第5回日本人形社展（昭和15年(1940)）ではほぼ同じ姿形で髪型が異なる衣裳人形を出品しているほか、昭和23年(1948)には子雀を両手で捉えた幼児を表わした人形を、平田郷陽人形新作展（昭和34年(1959)）でも同様の「一茶と雀」、「子雀」のタイトルで第20回日本人形美術院展（昭和35年(1960)）に出品などがある。幼児をモチーフにした衣裳人形は平田郷陽が得意の1つであり、遺された膨大な写真資料から幼児のしぐさや表情を研究していたことがうかがえる。		

32　名称	木彫人形 元禄美人と鍾馗（もくちょうにんぎょう げんろくびじんとしょうき）	品　　質	木、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和18年(1943)	寸 法 等	高35.0cm
作品概要	生人形師として著名な松本喜三郎が文久元年(1861)に制作した生人形を平田郷陽が模作した「鍾馗」「元禄風女」「あまのじゃく」の頭部である。喜三郎の人形では、あまのじゃくを踏みつけた元禄女が鍾馗の髪の間からしらみを採る場面を3体の木彫彩色の生人形に仕立てている。その頭部のみを木彫に彩色で忠実に模倣する。付属する箱に貼り紙があり「松本喜三郎作　鍾馗　元禄風女　あまむじゃく　部分模作」と記される。		

33　名称	衣裳人形 明鏡（いしょうにんぎょう めいきょう）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和22年(1947)	寸 法 等	高30.0cm
作品概要	パーマを当てた髪を整えるために左手に櫛をもち、鏡に映る自分を見つめる姿を衣裳人形に表わす。髪を含めた本体は木彫に胡粉彩色し、大小縞を染めた縮緬（縞の間に絣風の模様を染めていることから、実際はお召の着物を表わしていると考えられる）の中振袖に紅の下着を重ね、地紙散らし模様の繻珍帯を淡紅色の帯揚げと桃色の帯締めでお太鼓結びにする。昭和初期の若い女性の風俗を写実的にとらえた人形である。		

34　名称	衣裳人形 十三夜（いしょうにんぎょう じゅうさんや）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和22年(1947)	寸 法 等	高30.0cm
作品概要	昭和22年(1947)の第1回現代美術展に出品された木彫衣裳人形である。旧暦9月13日に月見する日本の習慣をモチーフに、若い女性が膝をついた姿で月を仰ぐ姿を表わす。昭和初期から女性の間で流行したパーマを前髪にあてた女性は、右手にうちわを持ち、葦に雁の模様を刺繍した卵色の着物、その下に黄土色の下着を重ね、羽衣のような模様を織り出した錦の帯を淡紅の帯揚げと帯締めでお太鼓結びにする。付属する木箱の蓋表に「十三夜　木彫衣装像」と墨書される。		

35　名称	木彫彩色板絵 沢辺の雪（きぼりさいしきいたえ さわべのゆき）	品　　質	額装、木彫、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1面
時　　代	昭和23年（1948）頃	寸 法 等	縦61cm 横45.5cm
作品概要	板に直接江戸時代初期の女性の姿を彫り彩色した板絵風の作品である。女性の姿形はMOA美術館に所蔵される「湯女図」に描かれた女性群像の内、向かって右から2番目の女性を写したものであろう。前髪を元結で挙げた垂髪の女性像はこの後の平田郷陽の作品にしばしば見られる表現である。昭和23年（1948）に同じタイトルで制作された木彫木目込人形があり、本作はその関連作品と位置づけられる。		

36　名称	木目込人形 装い（きめこみにんぎょう よそおい）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和26年(1951)	寸 法 等	高25.5cm
作品概要	昭和26年(1951)の文部省主催「第3回日本現代美術地方巡回展」に出品され、同年に三越本店で開催された人形芸50年展にも出品された木目込人形である。髪をセットした女性が正座して、髪型を気に掛ける様子を表わす。衣装を含めた本体を木彫りにし、顔や手足を胡粉彩色、衣裳は、紬や金襴などを用いて木目込みにする。底部分の足袋を履く足の姿まで丁寧に作られる。付属する木箱の蓋表に貼り紙があり「二十六年作／装い／平田郷陽」と墨書される。		

37　名称	木彫人形 秋韻（もくちょうにんぎょう しゅういん）	品　　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和28年(1953)	寸 法 等	高36.0cm
作品概要	昭和28年(1953)の第9回日展に出品された木目込人形「秋韻」である。本作は、従来の衣裳人形や木目込人形とは異なり、体型を大胆にデフォルメし、衣裳も写実性を排除し、今後の平田郷陽の作品の大きな特徴の1つとなったヨレ貼りの衣裳をまとう。前髪を元結で結い上げ、垂髪を背中で玉結びにし、振袖をまとう江戸時代前期の女性の風俗を表わす。これまでの写実主義から脱却した新しい作風が評価され、同展で北斗賞を受賞。記念碑的作品となった。		

38　名称	衣裳人形 手鏡を持つ女（いしょうにんぎょう てかがみをもつおんな）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和20年代	寸 法 等	高19.5cm
作品概要	頭部や手足を木彫とした衣裳人形である。パーマを当てた髪を整えようと、赤い塗りを施した手鏡を左手に正座し、鏡に横顔を映し出す女性を表わす。本体は髪の毛も含めた木彫に胡粉彩色し、縮緬に白い四弁花を散らして染めた淡い紅色の着物に紅色の下着を重ね、紅地花唐草模様錦の昼夜帯（表と裏で模様が異なる）を、淡紅の帯揚げと淡黄の帯締めでお太鼓結びにする。木箱の蓋表にある貼り紙に「手鏡を持つ女／平田郷陽」とある。		

39　名称	木彫人形 朝霜（もくちょうにんぎょう あさしも）	品　　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和30年(1955)	寸 法 等	高36.0cm
作品概要	昭和30年(1955)の第11回日本美術展に出品された木彫人形である。昭和20年代半ば頃から作風を変えた様式を継ぐもので、人形全体をややデフォルメされた体型を木彫にし胡粉彩色した後に、衣裳の一部分にヨレ貼りを施して彩色を加える。ここでは、鼠色の着物に黒い前掛けをし御所風に髪を結った立ち膝の女性が、赤い頭巾をかぶった赤子を両手に抱えて、指で遊ぶ赤子の姿を愛おしく見つめる姿を表わす。		

40　名称	板絵 影 試作（いたえ かげ しさく）	品　質	木彫、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1面
時　代	昭和35年(1960)	寸 法 等	縦51.5cm 横35.0cm
作品概要	昭和35年(1960)の「童文会絵と人形展」に出品された木彫板絵である。少女の人影を木彫し、影の部分には布張りをしてその上から黒い塗料を塗っている。また、背景の部分には薄墨を塗る。右下隅に「郷陽作」と線刻銘が入る。人形制作とは異なる展開を目指した試作的な作例と位置づけられる。		

41　名称	木目込人形 流れ（きめこみにんぎょう ながれ）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和37年(1962)	寸 法 等	高38.5cm
作品概要	昭和37年(1962)の第9回日本伝統工芸展に出品された木彫木目込人形である。正座して左手で顎を支え左に首を傾ける若い女性が正座した姿を表わす。この頃には郷陽作品の特徴ともなったデフォルメした体型や髪型に形作り、頭部と手足は胡粉彩色を施し、着物は抽象化された模様を織り出した錦を、抽象化した模様の形に合わせて木目込みにする。昭和30年代は帯に正倉院模様の錦を好んで用いた。付属する木箱の蓋表にある貼り紙に「日本伝統工芸展出品／流れ（昭和三十七年）／平田郷陽作」と墨書される。		

42　名称	木目込人形 おんな（きめこみにんぎょう おんな）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和39年(1964)	寸 法 等	高35.5cm
作品概要	昭和39年(1964)の第8回陽門会展に出品された木彫木目込人形である。正座した着物姿の女性がカードを手に思案する姿を表わす。木彫で作られた本体はデフォルメされた髪型や体型が特徴的で頭部や手は胡粉彩色される。抽象化された衣裳の模様に合わせて、光沢のある絹織物や和更紗風に模様を染めた布を木目込にする。帯に用いられる錦は「流れ」の木目込衣裳に用いた錦と同じものだろう。体をやや斜めに崩し、片足を少し立てた後ろ姿が女性らしさを醸す。		

43　名称	木彫人形 越後路（もくちょうにんぎょう えちごじ）	品　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和39年(1964)	寸 法 等	高21.0cm
作品概要	昭和39年(1964)の第11回日本伝統工芸展に出品された木彫人形である。越後の古典芸能である獅子舞の様子を、デフォルメされた木彫とし、胡粉彩色し、一部にはヨレ貼りにして彩色の後、さらに金彩を加える。体全体を低くした後方には、袴をはいた男性の踵を上げた足と下駄がのぞく。女性の風俗や幼児の姿を表わすことを得意とした郷陽作品の中では異色である。		

44　名称	木彫人形 抱擁（もくちょうにんぎょう ほうよう）	品　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和41年(1966)	寸 法 等	高35.0cm
作品概要	昭和41年(1966)の第13回日本伝統工芸展に出品された木彫人形である。平田郷陽の長男の妻が最初の子どもを産んだ年に制作された。立ち膝をし、両手でおくるみに包まれた赤子を抱いた母が、赤子に唇を寄せる姿を表わす。木彫でデフォルメされた体型に形作られ、頭部や手は胡粉彩色し、着物にはヨレ貼りを施して金銀彩色を加える。当館で平成26年(2014)に開催された特別展「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ」でも平田郷陽の代表作として出品された。		

45　名称	木彫人形 香り（もくちょうにんぎょう かおり）	品　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和44年(1969)	寸 法 等	高31.0cm
作品概要	昭和44年(1969)の第16回日本伝統工芸展に出品された木彫人形である。この時期の郷陽作品には珍しく体型のデフォルメ化を避け、香をかぐ京舞妓の丸みを帯びた顔や、肩上げし広く裾を広げた着物、だらりの帯の繊留に入った置屋の家紋、ぽっちりと呼ばれる大きな帯留や花簪まで、舞妓の特徴が細部に至るまで彫り込まれている。全体を胡粉彩色しているが、着物の部分にはヨレ貼りを施し抽象化された模様を彩色する。		

46　名称	木彫人形 朝の庭（もくちょうにんぎょう　あさのにわ）	品　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和47年(1972)	寸 法 等	高34.5cm
作品概要	昭和47年(1972) の第19回日本伝統工芸展に出品された木彫人形である。昭和30年代に展開されたデフォルメや抽象化はやや抑えられ、着物の模様も具象的に木彫で表現される。肩にかかるほどのおかっぱ頭の前髪を頭頂で結い、正座して顔を右手に振るしぐさは早朝の庭を眺めているのだろうか。白地の着物には網を貼り、大輪を開く紫陽花の花が彫られ、彩色される。赤地雲文錦の細帯を締める。後ろに回した右手や足裏にも風情がある。底裏に朱文方印「郷」。		

47　名称	木彫人形 宴の花（もくちょうにんぎょう うたげのはな）	品　質	木、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和50年(1975)	寸 法 等	高30.5cm
作品概要	昭和50年(1975)の第22回日本伝統工芸展に出品された。腰をおろし、左手で小鼓の緒を締め、右手で打ち鳴らそうとかまえる若い女性の凛とした表情を、木彫彩色で表わす。江戸時代前期に見られる島田髷、赤地に桜樹と裾に源氏車を表わした振袖の模様は元禄風である。帯は細めの紫地亀甲模様を片結びにする。平田郷陽の遺作。底裏に貼り紙があり「「宴の花」／平田郷陽」。また、朱文方印「郷」。		

48　名称	女子生人形面部（じょしいきにんぎょうめんぶ）	品　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1面
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	顔長20.5cm、顔幅12.5cm
作品概要	平田郷陽は、江戸時代後期に見世物として流行した生人形を制作する父の後を継ぎ、その初期には生人形師として活動していた。生人形制作に携わっていた頃の作品はほとんど遺されていないが、その貴重な一例と考えられる生人形の面部である。端正な顔立ちの若い女性の顔面は、木彫に胡粉を塗り、彩色して髪や上まつ毛は毛植えし、目にはガラスをはめて表現される。このような生人形制作は、その後、芸術としての人形を目指した平田郷陽の人形制作にも強い影響を与えた。		

49　名称	武士姿三折れ人形（ぶしすがたみつおれにんぎょう）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	伝二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和10～20年代	寸 法 等	高25.5cm
作品概要	三つ折とは、腕、肘、膝などの関節が曲がるような仕掛けをした人形のことである。江戸時代後期には市松人形にこのような仕掛けが作られたが、それを生人形に応用したのである。本作は髷を結い、口ひげを生やした武士の全体像で、生人形と同様に、木彫に胡粉彩色を施し髪は毛植えし、目にはガラスをはめる。現状では、筒袖の下着を着用するのみで、手や足が灰色に塗られているのに違和感があるが、別に小紋革の手袋をはめた関節が動く腕が2本、同じ小紋革の足袋が一足付属することから、本来は狩りや戦に出かける武士を意図していたのかもしれない。平田郷陽は、江戸時代後期に見世物として流行した生人形を制作する父の後を継ぎ、その初期には生人形師として活動していた。生人形制作に携わっていた頃の作品はほとんど遺されていないが、その貴重な一例と考えられる生人形の三つ折人形である。平田郷陽が制作した類例としては、大正～昭和初期に平田郷陽が制作した片岡仁左衛門の三つ折衣裳人形がある。		

50　名称	木目込人形 身支度（きめこみにんぎょう みじたく）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高32.0cm
作品概要	女性が襦袢の上に着物を着付ける姿を木目込人形に表わす。パーマを当てた髪が特徴的な女性が浅葱無地縮緬の着物の着丈を決め、おはしょりをつくろうとしている場面である。髪を含めた頭部、手足などは胡粉彩色し、下着お襦袢や着物は木目込みにする。女性が身支度をする一瞬の動きを的確にとらえている。付属する木箱の蓋に貼り紙があり「身支度／平田郷陽作」とある。		

51　名称	木目込人形 女子納涼姿（きめこみにんぎょう じょしのうりょうすがた）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高23.0cm
作品概要	立ち膝で左手に団扇を持ち、遠くに目をやる女性の姿を木彫木目込人形に表わす。頭部は髪も含めて木彫に胡粉彩色、手も木彫に胡粉を塗る。衣装は全体を木彫にし、縮緬で木目込みにする。やや鬢が張った島田髷、櫛や笄といった髪飾り、藍鼠色の縮緬の小袖に広幅の帯を後ろでだらり結びにした風俗は、江戸時代後期の女性を想定している。		

52　名称	木彫人形 女子立姿（もくちょうにんぎょう じょしたちすがた）	品　　質	木、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高33.0cm
作品概要	前髪を元結で上げ、垂髪を先で玉結びにして浅葱の布で包んだ、江戸時代前期の風俗を表わしたと思われる木彫彩色の女性立ち姿である。髪も含めてすべてを木彫で表わし、胡粉彩色を施すが、髪型や帯結びなどの表現は昭和28年(1953)に第18回日本美術展に出品した木彫人形「秋韻」に近似する。		

53　名称	木彫額 作品（もくちょうがく さくひん）	品　　質	木、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1面
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	縦32cm 横41.5cm
作品概要	板に抽象的なデザインを彫り、金銀彩色を施した板絵額である。平田郷陽は昭和20年代後半から30年代前半にかけて人形制作においてデフォルメ化や抽象表現に傾倒した時期があり、そのような傾向と関連付けられる作品であろう。長らく、平田家の居間に飾られていた。		

54　名称	朝鮮風俗衣裳（ちょうせんふうぞくいしょう）	品　　質	絹、木綿、麻、刺繍など
作 者 等		員　　数	1式
時　　代	20世紀前半	寸 法 等	
作品概要	昭和12年（1937）、平田郷陽「衣裳人形　朝鮮の佳日」の制作時に参照したであろうトルボク一式を含む、計28点の朝鮮風俗衣裳である。トルボクとは満1歳の誕生日であるトルラルに子供が着用するもので、本資料には色縞（セクトン）袖のカチトゥルマギに戦服（チョンボク）、パジ、印金の幞巾（ポッコン）など男児用一式が認められる。これらに加え、婦人用チマチョゴリ等が附属する。とくに、袖口（クットン）とコルムで裂の色が異なる半回装チョゴリと浅葱色のチマは「朝鮮の佳日（母）」にも共通する。さらに、人形用と思われる小型のピニョ（簪）や戦服、幞巾の印金の指示書も認められ、衣裳一式は制作にあたっての参考資料であったことがうかがえる。 なお、1930年～1940年代に京城に実在した雑貨店「新羅商会」、「朝鮮館」の包み紙が附属する。本資料はこれらの商店で入手されたと考えられる。		

55　名称	黄櫨染束帯雛形（こうろぜんそくたいひながた）	品　　質	綾（絹）、浮織物（絹）など
作 者 等		員　　数	1具
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	袍：幅62.5cm　丈49.5cm　袖幅20.0cm　袖丈23.5cm　袿31.0cm、単：幅48.8cm　丈28.0cm　袖幅13.0cm　袖丈22.5cm　袿24.0cm、袍：幅45.8cm　丈24.5cm　袖幅11.8cm　袖丈22.5cm　袿23.5cm、下襲：幅45.3cm　前丈23.5cm　後丈39.5cm　袖幅11.0cm　袖丈23.0cm　袿23.0cm、大口：丈29.3cm　幅23.5cm、表袴：丈27.5cm　幅27.0cm、沓：長10.0cm　幅4.3cm　高4.2cm
作品概要	江戸時代後期、京都では武家や公家に需要があった有職雛の流れをくむ雛形衣裳で、天皇が即位式に着用する黄櫨染御袍一式である。①桐竹鳳凰麒麟文黄櫨染御袍１領、②白綾地小葵文下襲1領、③緋綾地袖（板引）1領、④緋綾地竪四菱文単1領、⑤白地窠霰文浮織物表袴1腰、⑥紅大口1腰、⑦繧繝錦浅沓1組、以上からなる。公家装束は決められた有職模様を織り出した織物が中心であるが、それらの織模様も雛形用に小さく織り出しており、非常に精巧にできている。		

56　名称	鎧直垂（人形用）（よろいひたたれ（にんぎょうよう））	品　　質	
作 者 等		員　　数	1具
時　　代	昭和40年（1965）	寸 法 等	鎧直垂：丈28.3cm　袿27.5cm、袴：丈31.0cm　幅22.5cm
作品概要	人形用に小さく仕立てられた鎧直垂とその付属品である。武家故実に従って精巧に制作されている。内訳は①赤綾地花唐草模様鎧直垂１具（脚絆1組を含む）、②白地鎧直垂1具（腰当を含む）、③萎烏帽子2頭、④白大口1腰、⑤白足袋1足、⑥紐類8本、である。紙箱蓋表に「昭和四十年三月調　ヨロイ下　着衣」とあるほか、以前は昭和11年第一回帝展に出品した衣裳人形「桜梅の少将」の箱に用いられていたようである。戦中の疎開先だった岡山の住所を付した付箋も付属する。		

57　名称	印（いん）	品　　質	
作 者 等		員　　数	12顆
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	
作品概要	平田郷陽が制作した人形に用いた印である。①ツゲ材文字なし(1.5×1.5)、②ツゲ材朱文方印「人形子郷陽蔵」(1.9×2.0)、③ツゲ材「平」(1.5×1.5)、④ツゲ材朱文長方印「goyo Hirata」(0.7×4.3)、⑤ツゲ材白文長方印「彫装像」(3.3×0.6)、⑥ツゲ材朱文方印「日月」(3.0×0.7)、⑦石材白文方印「郷陽」(1.3×1.0)、⑧石材朱文方印「郷」(1.3×1.3)、⑨ツゲ材朱文方印「こうよう」(1.4×1.3)、⑩ツゲ材朱文梅花形印「平」(1.7×2.5)、⑪ツゲ材朱文方印「郷」(1.8×1.8)、⑫ツゲ材白文方印「無心有楽」(1.1×1.1)。なお、「平」を押した紙袋に印章・文房具店「鶯谷　甲州堂／台東区根岸3-5-1／電話（872）7359」の印が押してあることから、③の印を注文した店である可能性がある。		

58　名称	平田郷陽人形制作資料（ひらたごうようにんぎょうせいさくしりょう）	品　　質	紙本着色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	5点
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	①権衡図 縦23cm 横15.9cm ； ②スクラップ・ブック 縦26.7cm 横27.8cm ； ③スクラップ・ブック 縦30.7cm 横23.0cm ； ④沢辺の雪　下絵 縦48.6cm 横33.7cm ； ⑤人体図 縦77.0cm 横34.5cm
作品概要	平田郷陽が人形制作に際し使用した資料5点である。内訳は①権衡図1冊、②スクラップブック1冊、③スクラップブック1冊、④額装木彫板絵「沢辺の雪」下絵1枚、⑤人体図2枚、以上である。④以外は、郷陽が人形を制作する際に体の比率や、顔の表情などさまざまな部分の動きを形にするために参考にした資料と考えられる。		

59　名称	三折れ豆人形（みつおれまめにんぎょう）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	不明	員　　数	1体
時　　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	高7.5cm
作品概要	京都の土産物として江戸時代後期に発達した御所人形を関節が動くように仕掛けを施した三つ折の衣裳人形である。特に小さいことから豆人形と称する。山繭糸で縞模様を織り出した縮緬の産衣には分厚い紫縮緬の袍が裾と袖口につく。帯は萌黄色の精好である。このように小さくても、衣裳を脱ぎ着できる。平田郷陽が人形制作の参考資料として蒐集したと考えられる。		

60　名称	衣裳人形内裏雛（いしょうにんぎょうだいりびな）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	頭部：野口光彦（1896～1977）　衣裳：初代津田蓬玉	員　　数	1組
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	男雛 高27.0cm ； 女雛 高23.5cm
作品概要	御所人形作家・野口光彦が頭を制作し、衣裳人形作家・初代津田蓬玉が衣裳を制作した、内裏雛である。男雛は立纓冠に束帯風、女雛はおすべらかしに髪を結い、平額をつけ、女房装束（唐衣裳、いわゆる十二単）風の出で立ちであるが、いわゆる有職雛ではなく、表着にはきらびやかな金糸入りの錦を用いる。やや下膨れの顔立ちや細い切れ長の目など、古様な表現がみられる。		

61　名称	衣裳人形 海の幸（いしょうにんぎょう うみのさち）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	久保佐四郎（1872～1944）作	員　　数	1組
時　　代	昭和39年（1964）	寸 法 等	童子 高31.5cm ； 鯛 幅11cm ； 釣り竿 長さ29.5cm
作品概要	童形1体、鯛、釣り竿からなり、童子が釣り竿で鯛を獲る場面を表わす。江戸時代に流行した京人形の1つ、嵯峨人形の影響を強く受けた木彫に極彩色を施した人形が特徴である。この作品でも、童形の人形が着用する衣裳に嵯峨人形に特徴的な細密な金彩色や、胡粉を盛り上げ青海波や立波文を表わす。		

62　名称	木目込人形 子雀（きめこみにんぎょう こすずめ）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高27.7cm
作品概要	外形を木彫した上に、胡粉、彩色し、木彫の溝に沿って綾錦を貼り込んだ木目込人形である。垂髪を後ろでまとめた少女が、毬を手にたたずむ姿をとらえている。子どもらしいふっくらした頬や手、上目使いなどを写生的に表現し、子ども特有の肩上げをした着付けや、丈の長い着物を大きくおはしょりを作って着る姿など、子どもの姿や表情を研究し尽くした平田郷陽ならではの視点が感じられる。		

63　名称	生人形女性頭部（いきにんぎょうじょせいとうぶ）	品　　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1頭
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高38.0cm
作品概要	平田郷陽は、江戸時代後期に見世物として流行した生人形を制作する父の後を継ぎ、その初期には生人形師として活動していた。生人形制作に携わっていた頃の作品はほとんど遺されていないが、その貴重な一例と考えられる生人形の頭部である。長い髪を後ろで結い上げた若い女性の頭部で、木彫に胡粉を塗り、彩色して髪は毛植えし、目にはガラスをはめて表現される。このような生人形制作は、その後、芸術としての人形を目指した平田郷陽の人形制作にも強い影響を与えた。		

64　名称	生人形幼児頭部（いきにんぎょうようじとうぶ）	品　　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1頭
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高24.0cm
作品概要	平田郷陽は、江戸時代後期に見世物として流行した生人形を制作する父の後を継ぎ、その初期には生人形師として活動していた。生人形制作に携わっていた頃の作品はほとんど遺されていないが、その貴重な一例と考えられる生人形の頭部である。坊主頭の幼児を写したもので、木彫に胡粉を塗り、彩色して髪は毛植えし、目にはガラスをはめて表現される。箱書に「勝次郎」とあり、あるいは、実際の幼児をモデルに制作したとも考えられる。このような生人形制作は、その後、芸術としての人形を目指した平田郷陽の人形制作にも強い影響を与えた。		

65　名称	金魚牙彫彩色帯留（きんぎょげちょうさいしきおびどめ）	品　　質	象牙、彩色
作 者 等	安藤緑山作	員　　数	1個
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	縦4.2cm 横6.5cm
作品概要	象牙を彫刻し、写生的に水中を泳ぐ金魚の姿を表わし、金魚の赤い斑文を彩色する。裏面には帯留として使用するため、三分紐を通すための金具が付属する。また、裏面には「緑山」の銘が彫られる。		

66　名称	ほおずき牙彫彩色帯留（ほおずきげちょうさいしきおびどめ）	品　質	象牙、彩色
作 者 等	安藤緑山作	員　数	1個
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	縦2.2cm 横5.0cm
作品概要	象牙を彫刻し、写生的に殻が開いた熟れたほおずきと殻を閉じたほおずきを表わし、彩色する。裏面には帯留として使用するため、三分紐を通すための金具が付属する。また、裏面には「緑山」の銘が彫られる。		

67　名称	胡瓜牙彫彩色帯留（きゅうりげちょうさいしきおびどめ）	品　質	象牙、彩色
作 者 等	安藤緑山作	員　数	1個
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	縦1.8cm 横4.1cm
作品概要	象牙を彫刻し、写生的に黄色い花が先に残る胡瓜を表わし、彩色する。裏面には帯留として使用するため、三分紐を通すための通し穴が彫られている。また、裏面には「緑山」の銘が彫られる。		

68　名称	福寿草牙彫彩色帯留（ふくじゅそうげちょうさいしきおびどめ）	品　質	象牙、彩色
作 者 等	安藤緑山作	員　数	1個
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	縦1.8cm 横4.1cm
作品概要	象牙を彫刻し、写生的に大小2本の福寿草が彫られ、その一方は黄色い花が開くさまを表わし、彩色する。裏面には帯留として使用するため、三分紐を通すための金具がつく。裏面には「緑山」の銘が彫られるが、後代にピンを取り付けてブローチとして使用されたため、銘の一部がピンの金具の内側に隠れている。		

69　名称	柚子牙彫彩色帯留（ゆずげちょうさいしきおびどめ）	品　質	象牙、彩色
作 者 等	安藤緑山作	員　数	1個
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	縦2cm 横2.6cm
作品概要	象牙を彫刻し、写生的に黄色く熟れかかる柚子を表わし、彩色する。裏面には帯留として使用するため、三分紐を通すための金具が付属する。また、裏面には「緑山」の銘が彫られる。		

70　名称	丸帯色々裂切継模様（まるおびいろいろぎれきりつぎもよう）	品　質	平絹、相良繍
作 者 等		員　数	1条
時　代	明治時代・19～20世紀	寸 法 等	長さ467cm 幅32.5cm
作品概要	表側にも裏側にも同じ模様を施した丸帯である。木綿地に地模様を型紙で染め、地模様の表面をさまざまな色の絹糸で相良繍や纏繍を施す。帯の模様は名物裂や更紗などの模様を切継にしたようなデザインになっており、切継風の模様も、正平革模様、唐草に雪輪、蜀江錦模様、分銅模様、松皮段更紗模様、鱗形模様、更紗切継模様、青海波模様、松皮菱繋模様、花入襷模様、格天井更紗模様など、11種あまりもあり、それぞれを縫い継いでいる。仕立は袋帯風であるが、表裂の幅が足りなかったためと考えられる。現状では帯の仕立て糸はほつれて失われる。芯がなく、中綿に真綿が薄く敷いてある点は古様な仕立てである。		

71　名称	黒留袖「御所の四季」（くろとめそで「ごしょのしき」）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和30～40年代	寸 法 等	丈 157cm ； 裄 64.5cm
作品概要	江戸時代後期の武家女性が着用した様式的な「茶屋辻」と称される帷子の風景模様を元にデザインされた黒留袖である。黒縮緬に極めて細い糸目糊で四季草花や雲模様を交えた風景模様を白上げにし、その風景模様を透かした御所車を紫に染める。模様全体を白上げであっさりと染める中に、金糸や絹糸による刺繍で色を添えた洒脱な作風は東京友禅の粋な好みを示している。野口家の替え紋である唐花菱の五つ紋が入る。黒留袖の仕立であるため、白地の重ねがつく。八掛にも同様の模様が染められる。右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」。		

72　名称	黒留袖「彩貝」（くろとめそでいろどりがい）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	大正～昭和初期	寸 法 等	丈159cm 裄62cm
作品概要	金銀通しの波模様を織り出した縮緬に蛤に花鳥の模様を染めた黒留袖である。蛤の内部の模様には、雉や鴛鴦、松、椿、牡丹、蔦など四季花鳥を友禅染と刺繍で表わす。比翼（裏裾）八掛は表地の織物の地紋に合わせ、友禅染と金糸の刺繍で立波を白上げにし金糸で波模様を表わす。野口眞造の妻、操のために誂えた留袖で、野口家の五つ紋が入る。		

73　名称	黒留袖「鸚鵡のいる風景」（くろとめそでおうむのいるふうけい）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等		員　数	1領
時　代	昭和30～40年代	寸 法 等	丈156.5cm 裄64cm
作品概要	華やかな赤い額縁の中に3羽の鸚鵡が枝にとまる風景を友禅染で染めた黒留袖である。友禅染の色挿しは油絵を描くようにこまやかで、金糸や絹糸の刺繍が加えられる。鸚鵡が額縁の外にあるはずの葡萄の実をついばみ、額の周囲には葡萄の蔓が染められ、西洋風のモダンなデザインは大彦染の特色を示す。野口眞造の6女眞理子の結婚式に妻・操が着用するために誂えたもので、野口家の五つ紋が入る。共八掛にも同様の友禅染が施される。 右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」。		

74　名称	色留袖小豆色縮緬地波の丸魚の丸模様（いろとめそであずきいろちりめんじなみのまるさかなのまるもよう）	品　質	縮緬（絹）、友禅染
作 者 等		員　数	1領
時　代	昭和10年代	寸 法 等	丈160.5cm 裄62.0cm
作品概要	礼装用の色留袖で、水玉に波や魚にかたどった丸紋の裾模様を友禅染で染める。華やかさを抑えながらも、共八掛に同様の模様を染め、裏地には紅絹を用いる。野口家の替紋である花菱紋の五つ紋を染める。		

75　名称	訪問着「緑の中のくれない」（ほうもんぎ「みどりのなかのくれない」）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍、金箔
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和30年代	寸法等	丈154cm 裄64cm
作品概要	刷毛使いと色糊の技術で絵画風に仕上げ、木漏れ日を表現したモダンな風景模様の訪問着である。木漏れ日のような表現の中には、糸目糊だけではなくさまざまな糊の効果を用いて、友禅染にさまざまな風合いを加えていることがうかがえる。洋風の愛らしい花をそめた細かい柄には、糸目糊や色挿しによって、細やかな染色表現が見える。ぼかしを入れた写生的な表現により、裾回りにデザインされた花の模様が着用の際に一層立体的に見える効果を狙っているようだ。右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」。		

76　名称	振袖淡紅綸子地桜橘模様（ふりそでうすべにりんずじさくらたちばなもよう）	品　質	綸子（絹）、友禅染、刺繍
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和10年代	寸法等	丈164cm 裄63cm
作品概要	大きな卍繋ぎの地紋がある綸子を淡い紅色に染め、枝垂桜の樹と、橘の樹を友禅染で染める。樹の幹は一見、摺匹田のようにみえるが、実際は染匹田で1つ1つ糊を置いて白上げにした手の込んだものである。また、紅、紺、桃色などの絹糸や金糸で刺繍が加えられる。八掛にも共裂が用いられ、同様の模様が友禅染で染められる。裏地には紅絹が用いられる。野口家の五つ紋が入り、正装用の振袖だったと考えられる。		

77　名称	訪問着「シャルトルのノートルダム」（ほうもんぎ「しゃるとるののーとるだむ」）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和40年代	寸法等	丈155.5cm 裄64cm
作品概要	地色の茶の部分と刷毛で描いたような大胆な色糊による染が特徴的な友禅染である。岩肌を思わせる地模様に窓をあけ、シャルトル大聖堂の概観と内部の建物を部分的に友禅染で表わす。建物の表現も筆で描いたような柔らかい表現で染められており、さらに、金彩を加えることで荘重な雰囲気を表現している。右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」がある。眞造がフランスを外遊した後に着想を得たデザインと伝わり、背景となる歴史を鑑みて地色も大胆な柄と色をもちいたという。		

78　名称	訪問着「樹立」（ほうもんぎ「こだち」）	品　質	綾（絹）、友禅染、刺繍
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和40年代	寸法等	丈155.5cm 裄62.0cm
作品概要	イタリアのモザイクに発想を得て、白上げのモザイクとグリーンの筋目を効果的に用いた友禅染の訪問着である。白地のモザイクに微妙なマーブル調のぼかしで入れた黄色やグリーンの色挿しには、特に大彦の職人による高度な技術が見て取れる。黒いモザイクで表現した木立は、壁に映る木立の影のようにも見える。影の部分と、実際の木立の表現の対比もまた、この作品のデザインの面白さである。樹の幹に表された赤い樹皮の刺繍にも細かい技法で模様が施され、モダンな色合いのデザインとなっている。		

79　名称	単衣訪問着淡茶縮緬地睡蓮白鳥模様（ひとえほうもんぎうすちゃちりめんじすいれんはくちょうもよう）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和20年代	寸法等	丈148cm 裄64.5cm
作品概要	水面の色をあえて淡い茶地にそめ、1羽のみ浮かぶ白鳥を大きく白上げにし、輪郭を筆で描いたように太く表わす。睡蓮は花を白上げにした上で素描風の輪郭線を加え、葉は焦茶色と写生とは異なる色合いを用いることで、モダンさを狙ったものだろう。野口眞造の妻・操の衣装と伝えられる。		

80　名称	訪問着「水のセレナーデ」（ほうもんぎ「みずのせれなーで」）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和27、28年頃	寸法等	丈148.0cm 裄64.5cm
作品概要	縮緬地に色糊を効果的に用いて、絵具で描いたかのように染める友禅染の技法を用いる。水面に光を映す写真のような柄を友禅染の技法で表現している。色糊を効果的に用い、筆使いを駆使して水面を巧みに染めた、大彦らしい独創的な技術がみられる。背に一つ、前裾に一つ、白百合の花が水面に浮かぶデザインも洒落ている。裏地には淡紅平絹が用いられる。		

81　名称	訪問着「とまり舟」（ほうもんぎ「とまりふね」）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍、金箔
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和10～20年代	寸法等	丈157.0cm 裄66.5cm
作品概要	大彦初代彦兵衛と親交があった横山大観が、大彦のために描いた絵画「藻刈舟」（藻刈を儲かるにかける）をモチーフに、着物のデザインとして応用した友禅染の訪問着である。肩と裾を濃い藍で暈し染めにし、大粒で空から降りてくる牡丹雪や舟の泊まる水辺の葦の葉には、金箔で小紋箔が施される。小紋箔は江戸時代初期の小袖に流行した技法で、ここにも、大彦染の特徴がみられる。本来は「藻刈舟」であるが、人が表されていないことから「とまり舟」としたと伝わる。右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」。襟裏に「三越」のラベルが付属する。		

82　名称	訪問着「インディアンの工芸」（ほうもんぎ「いんでぃあんのこうげい」）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍、金箔
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和29年頃	寸法等	丈158cm 裄62.5cm
作品概要	アメリカインディアン、ナバホ族を訪ねた時のインディアンの日用品（壺、皿など）からヒントを得たデザインである。当時注目されていなかったナバホ族の工芸はアメリカを訪ねて以後、眞造の関心のひとつであった。紺色に染めた縮緬地に工芸品を落ち着いた色合いの友禅染で染め、その模様の周りは金砂子で幻想的なイメージを表現している。金糸の駒留で模様を繊細に表現し、華やかさを添える。右衽に二つ、方印の染め抜き「眞造統作」「大彦染」。この「統作」とは、野口眞造独自の制作精神を表現する言葉とされ「一人の力によってではなく、織物の制作者や大彦の職人と一体となって1つの作品を作り上げる」という眞造の制作精神から生まれた言葉という。		

83　名称	訪問着「海底美観」（ほうもんぎ「かいていびかん」）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍、金箔
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和35年頃	寸 法 等	丈161.5cm 裄63.5cm
作品概要	樺色に染めた縮緬地を裾にかけて紺の暈し染とし、海底を表わす。褄から裾にかけて、本友禅で海底に泳ぐ美しい魚や珊瑚、海藻などを染め、刺繍を加える。八掛にも共裂を用い、同様の海底模様を染める。裏地は白平絹である。背には、細い金糸の菅繍による野口家の一つ紋（花菱入り木瓜紋）が入る。また、衿先に一つ方印の染抜き「真造統作」がある。 野口眞造氏はこの他にも魚のモチーフの着物を制作しており、現在、国立歴史民俗博物館に所蔵される「単衣　白縮緬地竜宮城模様」（林あやコレクション）も、大彦の可能性がある。		

84　名称	振袖水浅葱縮緬地遠山桜若松紅葉模様（ふりそでみずあさぎちりめんじとおやまざくらわかまつもみじもよう）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍、金箔
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和10年代	寸 法 等	丈161.5cm 裄63.5cm
作品概要	友禅、刺繍、金の小紋箔などを用い、遠山桜、紅葉、若松などを表す。古典柄でありながら、刺繍には昭和初期から戦後にかけて流行した色とりどりのラメ箔の箔糸を、斬新な刺繍技法で用いている。雲模様の内部に施された立涌や七宝繋ぎ、小葵文などの有職風の小紋箔、あるいは、雲の蝙蝠、渦文などの洒落た小紋箔の型押しには、伊勢型紙を使用していると考えられる。小紋箔は江戸時代初期のいわゆる「慶長小袖」に見られる技法であるが、大彦ではオリジナルの模様を用いて、小紋箔で装飾することを１つの特色としていた。裾回しにも模様が染められ、褪色を免れたために、かえって表面より色がよく残る。裏地には紅絹がもちいられる。野口家の五つ紋が入る。		

85　名称	振袖「しのあずり」（ふりそで「しのあずり」）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍、金箔
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	丈158cm 裄63.5cm
作品概要	17～18世紀にヨーロッパで流行した「シノアズリー」と称される中国風にデザインされたインド更紗の立木模様を現代風の模様に翻案した、大彦らしい友禅染である。樹の幹には、他の友禅染には見られない特殊な色挿しの表現も見られ、大彦の個性的な友禅染の特徴を今に伝える。大きな立木模様の間には、樹下で楽器を奏でる女性や釣りを楽しむ男性、橋上で待ち人を思う女性や舟に乗る男性といった人物風景模様がさまざまにあらわされ、刺繍や金箔による装飾も細やかに入る。白上げで野口家の花菱入り木瓜紋の五つ紋（女紋）が入り、裾回しにも同様の模様を入れた正装用の振袖である。右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」がある。		

86　名称	単衣訪問着「孫過庭の書譜」（ひとえほうもんぎ「そんかていのしょふ」）	品　　質	綾（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和10年代	寸 法 等	丈152cm 裄62.5cm
作品概要	訪問着とは、近代以降、外出用に普及した着物の1種である。魚々子風の白綾地に、唐時代の書家、孫過庭の『書譜』をもとに、淡い墨色に散らし書きにし、紫陽花に藤の葉を添えた、初夏にふさわしい涼しげなデザインの単衣である。文字散らし模様は江戸時代前期に流行した小袖模様で近代以降の着物には見られないが、野口眞造が古典的なデザインを現代に応用した意図が感じられる。モダンな色使いの友禅染に、金銀糸の刺繍や絹糸の刺繍がきらめきを添える。野口眞造の妻からその長女に譲られた衣装と伝わる。		

87　名称	訪問着白縮緬地衝立鷹模様（ほうもんぎしろちりめんじついたてたかもよう）	品　　質	綾（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈155.5cm 裄83.5cm
作品概要	大彦初代、彦兵衛が蒐集し、現在、当館が所蔵する「大彦コレクション」の内、「重要文化財 振袖 白縮緬地梅樹衝立鷹模様」（I-3869）を忠実に復元した友禅染の訪問着である。職人の技を駆使して極めて細い糸目糊を置き、鷹の羽一つ一つに至る丁寧な色挿しは精密を極めた作品となっている。友禅染のほかにも、衝立の梅の花などは紅糸や金糸による刺繍がオリジナルと同様に施され、ところどころに配される周辺の地ににじむように広がる紫色の部分は、江戸時代の雛形本で「つかみ染」と記され、現在「爆弾染」と呼ばれる特殊な絞り染によってあらわされる。特にこの技法は、現在では復元が難しいといわれている特殊な技術である。復元作品は当時の天然染料で染めたものであると伝えられる。 江戸時代の逸品を現代の技術で忠実に表現し、現物と全く遜色のないものに仕上げられ、当時いかに野口眞造率いる大彦の技術が優れていたかを証明するものである。		

88　名称	訪問着染分縮緬地住吉風景模様（ほうもんぎそめわけちりめんじすみよしふうけいもよう）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈156cm 裄65cm
作品概要	大彦初代彦兵衛が蒐集し、当館に所蔵される小袖コレクション「大彦コレクション」の内、「帷子 白麻地住吉浦風景模様」（I-3955）の模様を写した友禅染訪問着である。松原の間に三つの屋根が連なる社殿・鳥居・塩釜などが見えることから、大阪の住吉の浦を表わす。原本は帷子（麻地の単仕立）であるが、本品は模様を原本に忠実に写しているものの、縮緬地に友禅染の技法を用いて糸目糊を置き、色挿しを施した袷仕立となっている。また、色彩を褪色した原品よりも鮮やかに復元することで、かつての美しさを伝える作品となっている。糸目糊は極めて繊細で、江戸時代の友禅染の最盛期の技を残す原品を今によみがえらせる、大彦の高い技術を伝えるものである。		

89　名称	訪問着染分縮緬地花の丸模様（ほうもんぎそめわけちりめんじはなのまるもよう）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈155.5cm 裄65.0cm
作品概要	大彦初代・彦兵衛が蒐集し、現在当館に所蔵される小袖コレクション「大彦コレクション」の内、「小袖　鬱金綸子地染分花の丸模様」（I-3878）を復元した訪問着である。縮緬を鬱金色に染め、紅鹿の子、浅葱鹿の子、紫鹿の子など本鹿の子絞りによる染め分けをし、絹糸や金銀糸の刺繍で花の丸紋を表す。花の丸は、桐、菖蒲、葵、藤、松などさまざまである。花の丸模様は、江戸時代前期から中期にかけて、宮崎友禅は扇絵に描いたことが流行になり、その後、和の模様を代表する意匠となった。原品は褪色で色がかなり失われているが、本品は鮮やかな色彩も復元によってよみがえらせている。		

90　名称	訪問着萌黄縮緬地南天松皮菱模様（ほうもんぎもえぎちりめんじなんてんまつかわびしもよう）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈154.5cm 裄61.5cm
作品概要	大彦の初代彦兵衛が蒐集し、現在当館に所蔵される小袖コレクション「大彦コレクション」の内、「小袖 紫萌黄染分縮緬地南天菊垣模様」（I-3974）を元に友禅染で模様を染めた中振袖である。原品は友禅染の小袖で紋付となっているが、それを、振袖として染める。デザインも訪問着にふさわしく、原品と大きく異なる部分として、肩の部分に松皮菱を紫のぼかしで染めている。野口眞造は、江戸時代のデザインを現代風にアレンジして染めることも得意とした。現状は仮縫い仕立てであることから、実際に着用したかは不明である。小札「大彦［朱文印］　小袖　松皮に南天文様」、裏に墨書あり「南天二松皮　訪問ギ」、また染抜きの印形「大彦染」がある。 南天は「難を転ずる」と言われ、日本では吉祥模様として好まれた。特に、悪い夢から目覚めた時、南天の樹の前で「摸喰え」と3回唱えると厄を払うことができるという俗説があることから、枕や夜着の意匠に好まれた模様であった。		

91　名称	訪問着紅縮緬地鳥兜紅葉模様（ほうもんぎべにちりめんじとりかぶともみじもよう）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈153.5cm 裄63.0cm
作品概要	大彦初代彦兵衛が蒐集し、現在は当館に所蔵される小袖コレクション「大彦コレクション」の内、「小袖　紅縮緬地鳥兜紅葉模様」（I-3887）を復元した訪問着である。原品は刺繍のみですべての模様を表しているが、この作品では、友禅染を本領とする大彦にふさわしく、友禅で鳥兜、紅葉の一部を表現し、それに彩を添えるように金糸や絹糸で刺繍を加えている。右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」が入る。 雅楽で使用する鳥兜と呼ばれる帽子と、色づき始める紅葉を散らした模様を刺繍で表した小袖。「鳥兜」と「紅葉」の模様は『源氏物語』の「紅葉賀」の巻を暗示する。江戸時代の小袖模様に好まれたモティーフの１つである。		

92　名称	訪問着染分綸子地手綱歌文字模様（ほうもんぎそめわけりんずじたずなうたもじもよう）	品　　質	綸子（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈155.0cm 裄65.0cm
作品概要	大彦初代彦兵衛が蒐集し、現在、当館の所蔵となる小袖コレクション「大彦コレクション」の内、「小袖　白綸子地斜縞歌文字模様」（I-3870）を元に復元的に制作された訪問着である。オリジナルの作品は、江戸時代前期の男性の衣装で背面および前面には鹿の子絞りや金糸・色糸の刺繍で文字模様が入り『拾遺和歌集』巻第8・雑上、斎宮女御の歌「琴の音に峯の松風かよふらし　いづれの緒よりしらべそめけむ」と読める。大胆な斜縞は「左巻」と称され、貞享～元禄期の小袖雛形本に見られる。この衣装は、菊花紋の綸子地に、絞りではなく友禅染で斜めの手綱模様を染め、金銀糸や紅の刺繍を加える。鹿の子絞りの模様もまた、絞りではなく染匹田（友禅染）で表現する。訪問着としてバランスを考慮し、文字模様もオリジナルよりは少なく染められている。衽に二つ、方印形の染抜き「真造統作」「大彦染」がみられる。		

93　名称	単衣振袖淡紅絽地御簾に冊子杜若模様（ひとえふりそでうすべにろじみすにさっしかきつばたもよう）	品　　質	絽（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	大正時代	寸 法 等	丈160cm 裄63cm
作品概要	鮮やかなピンクを裾に掛けて濃く地色を染めた絽に、明治～大正期に流行した光琳模様のリバイバル模様を思わせる杜若の模様を友禅染で染める。風に舞う御簾や冊子もまた、戦前に流行した元禄模様を彷彿とさせる。絹の薄物である絽で仕立てられた夏の単衣の振袖であることから、結婚前の若い女性が着用したものであろう。金銀の刺繍や箔がきらめきを添える。現代よりも大きめの五つ紋（縦3.8×横3.7cm）を施していることから、明治後期から大正期に用いられたものと考えられる。		

94　名称	単衣振袖染分縮緬地蝶源氏香模様（ひとえふりそでそめわけちりめんじちょうげんじこうもよう）	品　　質	絽（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈153cm 裄61.5cm
作品概要	大彦初代彦兵衛が蒐集し、現在は当館に所蔵される小袖コレクション「大彦コレクション」の内、「帷子 白紅染分麻地秋草源氏香蝶模様」（I-3960)を復元的にデザインした中振袖の単衣である。原品は麻地の帷子であるが、この衣装は、絹縮を淡い紅と白地に染め分け、友禅染にして単仕立てにした夏の単衣である。さらに、金糸や絹糸で刺繍を加えて華やかさを添えている。		

95　名称	単衣クリーム色絽地パンジー模様（ひとえくりーむいろろじぱんじーもよう）	品　　質	絽（絹）、型友禅
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	大正時代・20世紀	寸 法 等	丈151.5cm 裄62.5cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。特に大正期には、初代彦兵衛の息子であった功造・眞造兄弟は型友禅の開発に力を入れた。眞造は、着物を気軽に着られるように、大量生産の着物もあってよいと考えていた。 本品はその一例である。着物のデザインとしては珍しいパンジーの模様を斜めに配し、夏向けの薄物の絽に染めた型友禅の単衣である。型送り(一つの型模様の長さ)は、48.3cmあまりである。		

96　名称	着物白縮緬地バティック切継模様（きものしろちりめんじばていっくきりつぎもよう）	品　　質	縮緬（絹）、型友禅
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和20年代	寸 法 等	丈149.0cm 裄61.5cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。本品はその一例である。 表地はインドネシア・ジャワ島北部のバティック模様に影響を受けたさまざまな模様をつないで型で染めた、型友禅の着物である。眞造氏が戦中に、インドネシア・ジャワに赴き、バティックの技術を研究した影響がうかがえる。型送り（1つの型模様の長さ）は58.0cmあまりである。		

97　名称	着物赤縮緬地立涌花鳥更紗模様（きものあかちりめんじたてわくかちょうさらさもよう）	品　質	縮緬（絹）、型友禅
作者等	大彦作	員　数	1領
時　代	昭和30年代	寸法等	丈151cm 裄63cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。本品はその一例である。 表地には、インド更紗をイメージした赤地にやはりインド更紗の影響をうけたと考えられる花鳥模様が型友禅で染められる。型送り（1つの型模様の長さ）は26.5cmあまりである。初代彦兵衛は「更紗きちがい」と称されるほどに更紗を蒐集し「大彦コレクション」には「彦根更紗」が含まれるが、2代目である野口眞造もまたインド更紗への関心が深く、これ以外にも型友禅の着物や帯の例が遺されている。		

98　名称	着物染分縮緬地更紗切継模様（きものそめわけちりめんじさらさきりつぎもよう）	品　質	縮緬（絹）、型友禅
作者等	大彦作	員　数	1領
時　代	昭和30年代	寸法等	丈160.5cm 裄63cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。本品はその一例である。 表地には、初代彦兵衛が蒐集し、当館に所蔵される「彦根更紗」からモティーフを採用したと思われる様々な種類のインド更紗を切り継ぎ風にデザインし、型友禅で染められる。型送り（1つの型模様の長さ）は37cmあまりである。初代彦兵衛は「更紗きちがい」と称されるほどに更紗を蒐集し「大彦コレクション」には「彦根更紗」が含まれるが、2代目である野口眞造もまたインド更紗への関心が深く、これ以外にも型友禅の着物や帯の例が遺されている。		

99　名称	着物芥子色縮緬地笹鳥熨斗蝶模様（きものからしいろちりめんじささどりのしちょうもよう）	品　質	縮緬（絹）、中形染
作者等	大彦作	員　数	1領
時　代	昭和30年代	寸法等	丈157cm 裄62.5cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。本品はその一例である。本品は地色を芥子色一色に染め、有職模様から派生した熨斗蝶や笹鳥の模様を中形風に白上げにしたデザインである。		

100　名称	茶縞絣紬地筒袖羽織（ちゃよこがすりつむぎじつつそでばおり）	品　質	紬（絹）、型友禅、刺繍
作者等	大彦作	員　数	1領
時　代	昭和30年代	寸法等	丈68cm 裄88cm
作品概要	茶の濃淡で縞絣が入った紬地で仕立てられた男羽織である。作業がしやすいように通常の羽織と異なり、袂がない筒袖の仕立てになっており、野口眞造が独自にデザインし、好んで用いたという。男羽織の特徴の一つは表とは異なりさまざまな意匠を凝らした裏地にあり、この裏地にも大彦染に特徴的な型友禅の更紗が用いられている。更紗模様は唐子、葡萄蔓、山鵲など、日本輸出向け更紗やシノワズリー調のインド更紗に用いられてきた模様をもとにデザインされている。背中心に野口家の花菱木瓜紋が縫紋で施される。		

101　名称	紺紬地筒袖羽織（こんつむぎじつつそでばおり）	品　質	紬（絹）、描絵、刺繍
作者等	大彦作	員　数	1領
時　代	昭和30年代	寸法等	丈94cm 裄72.5cm
作品概要	紺紬地で仕立てられた男羽織である。作業がしやすいように通常の羽織と異なり、袂がない筒袖の仕立てになっており、野口眞造が独自にデザインし、好んで用いたという。男羽織の特徴の一つは表とは異なりさまざまな意匠を凝らした裏地にあり、この裏地には大淡彩で秋草風景模様が描かれている。		

102　名称	単衣白絽地パンジー模様（ひとえしろろじぱんじーもよう）	品　質	絽（絹）、型友禅
作者等	大彦作	員　数	1領
時　代	昭和30年代	寸法等	丈146cm 裄62.5cm
作品概要	大正期に野口功造・眞造兄弟が開発に力を入れてきた量産を目指した型友禅を戦後にリバイバルさせる形で制作された型友禅の単衣である。夏の薄物である絽に型友禅で染めたパンジー模様は、大正期に制作されたものに比較して青系の濃淡で落ち着いた色使いであるが、花の模様はより密に表わされ蔓模様になっている。		

103　名称	単衣染分紬地遠州綴子模様（ひとえそめわけつむぎじえんしゅうどんすもよう）	品　質	紬（絹）、型友禅
作者等	大彦作	員　数	1領
時　代	昭和30年代	寸法等	丈144cm 裄63.5cm
作品概要	紬に遠州綴子の模様を染めた、型友禅の単衣である。遠州模様とは、江戸時代前期の茶人・小堀遠州(1579～1647)が好んだ中国渡りの「遠州綴子」と呼ばれる石畳模様の綴子にちなんだ模様である。江戸時代後期に小袖や帯の模様に好まれるようになり、大彦初代彦兵衛が蒐集した当館所蔵の「大彦コレクション」の中にも、野口眞造寄贈による「小袖 黒綸子地遠州模様」（I-3985)がある。この型友禅の単衣もまた、大彦コレクションに発想を得てデザインされたものと考えられる。四辺をやや波立たせた石畳模様を白・鶯色・芥子色の三色に染め分けているが、石畳の内部には蓮、牡丹、菊、銭形などの模様を表わした、典型的な遠州模様である。型送り(一つの型模様の長さ)は19.0cmあまりである。		

104　名称	名古屋帯染分平絹地変わり菱花弁更紗模様（なごやおびそめわけへいけんじかわりびしかきさらさもよう）	品　質	平絹、型友禅
作者等	大彦作	員　数	1領
時　代	昭和30年代	寸法等	全長357cm 幅30.4cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。本品はその一例である。 名古屋帯とは、お太鼓結びが簡便にできるように仕立てられた日常向けの帯である。その帯地には、インド更紗に特徴的な花弁模様をさまざまに組み合わせ、日本の帯模様に合うように型友禅で染めた帯である。型送り(一つの型模様の長さ)は62.0cmあまりである。初代彦兵衛は「更紗きちがい」と称されるほどに更紗を蒐集し「大彦コレクション」には「彦根更紗」が含まれるが、2代目である野口眞造もまたインド更紗への関心が深く、これ以外にも型友禅の着物や帯の例が遺されている。		

105　名称	羽織染分縮緬地立涌手鞠模様（はおりそめわけちりめんじたてわくてまりもよう）	品　　質	縮緬（絹）、型友禅
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	丈82cm 裄62.5cm
作品概要	型友禅で絞り風の模様をあらわした女性用の羽織である。立涌模様は縫締絞り風に輪郭に絞りのアシを表現し、紫と鼠色という大胆な配色で染め分ける。大小二つの手鞠を組み合わせた模様の内部にも鹿の子絞り風の模様を型友禅で表わす。大きな赤い手鞠には宝尽模様をあらわした帯がデザインされ、一方の小さな手鞠には花唐草模様をあしらう。華やかで愛らしいデザインは、若い少女の衣装と考えられる。裏地にも熨斗橘模様を染めた型友禅の絹地が用いられる。羽織紐が付属する。		

106　名称	羽織黒縮緬地木の葉湖畔模様（はおりくろちりめんじこのはこはんもよう）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	丈79cm 裄63.5cm
作品概要	女性用の羽織である。縮緬を黒味がかった藍色に染め、裾あたりに水面と思われる水の揺らぎを表わす。肩を覆うように樹木の枝を無線友禅で影のように染め、繁る葉の上に雪が降り積もり、枝がしな垂れる様を表わす。右肩に赤と黄に紅葉した葉を大きく友禅染で染めた、大彦染らしいモダンなデザインである。		

107　名称	丸帯萌黄綾地花丸尾長鳥丸八藤菱模様（まるおびもえぎあやじはなのまるおながどりのまるやつふじびしもよう）	品　　質	綾（絹）、刺繍
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	全長411cm 幅31cm
作品概要	丸帯とは、広幅の1反の織物を縦に半分に折り輪にして、表も裏も共裂で仕立てられた本式の帯のことである。本品は有職模様の一つ、雲立涌模様を6枚綾で地紋に織り出し、唐織の様に絵緯糸で白い尾長鳥丸と紫の八藤菱を織り出した絹織物に、さらに南天、菖蒲、藤などの花の丸模様を刺繍で散らした、豪華な帯である。「訪問着　染分綸子地手綱歌文字模様」に合わせる帯として制作されたものと伝わる。		

108　名称	袋帯黒塩瀬地雲地紙桐傘散模様（ふくろおびくろしおぜじくもじがみきりかさちらしもよう）	品　　質	塩瀬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和初期	寸 法 等	全長384cm 幅31.5cm
作品概要	袋帯は丸帯よりはやや略礼装化された形式の帯で、表地と裏地の模様や絹地が異なる。この帯は、表地に柳の枝と変わり鶴菱を染めた雲模様、四季草花を入れた地紙模様、雪持ちの傘や桐の模様を散らした友禅染で、金糸や絹糸の刺繍が加えられる。さらに、江戸小紋の工房・小宮家のものと考えられる江戸小紋（藤色地極鮫小紋）を用いた豪華な帯である。方印を白く染め抜いた「大彦染」の落款がある。		

109　名称	丸帯染分塩瀬地氷割光琳模様（まるおびそめわけしおぜじひわれこうりんもよう）	品　　質	塩瀬（絹）、友禅染、刺繍、銀箔
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1条
時　　代	大正時代	寸 法 等	全長392cm 幅30.5cm
作品概要	丸帯とは、広幅の1反の織物を縦に半分に折り輪にして、表も裏も共裂で仕立てられた本式の帯のことである。本品は、塩瀬地を藍、鼠色、紫などに染め分け、友禅染で明治～昭和初期に断続的に流行の波があった光琳模様で、梅・鶴・竹・鹿・流水などを白上げにする。さらに、鼠色の染料で暈しをいれたり、氷割模様の輪郭や波の渦に沿って銀糸で駒繍を加えたり、絹糸で鶴に陰影をつけた刺繍を施す。付属する畳紙に「大彦塩瀬丸帯」「松坂屋文化帯」と記される。		

110　名称	単衣白平絹地花丸模様（ひとえしろへいけんじはなのまるもよう）	品　　質	平絹、型染（大形）
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	丈136cm 裄55cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。江戸時代には大柄な模様を型紙を用いて染めた「大形」があったが、本品は白地藍の大形染風に染めた単衣である。大小さまざまな花の丸模様を散らした浴衣風のデザインである。他にも白地藍の型染風に染めた単衣の着物が遺されており、量産の開発を手掛けた時代の例の１つであると考えられる。		

111　名称	単衣中振袖白平絹地孔雀羽根模様（ひとえちゅうぶりそでしろへいけんじくじゃくばねもよう）	品　　質	平絹、型染（大形）
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	丈137cm 裄58.5cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。江戸時代には大柄な模様を型紙を用いて染めた「大形」があったが、本品は白地藍の大形染風に染めた単衣である。華やかな孔雀羽根の模様を散らした浴衣風のデザインで、若い女性向けの中振袖に仕立ててある。他にも白地藍の型染風に染めた単衣の着物が遺されており、量産の開発を手掛けた時代の例の１つであると考えられる。		

112　名称	単衣白縮緬地破れ七宝繋蝶模様（ひとえしろちりめんじやぶれしっぽうつなぎちょうもよう）	品　　質	平絹、型染（中形）
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	丈145cm 裄61cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。江戸時代には小紋よりは模様が大振りな模様を型紙を用いて染めた「長板中形」という白地藍の染物があったが、本品は中形染風に染めた単衣である。七宝模様を連続させて七宝繋ぎ模様の所どころに隙間を設けた「破れ七宝模様」を小さな蝶の群れで囲んだ浴衣風のデザインである。他にも白地藍の型染風に染めた単衣の着物が遺されており、量産の開発を手掛けた時代の例の一つであると考えられる。		

113　名称	単衣白格子織地波碇模様（ひとえしろこうしじなみいかりもよう）	品　　質	格子織（絹）、型染（中形）
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	丈149cm 裄63cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。江戸時代には小紋よりは模様が大振りな模様を型紙を用いて染めた「長板中形」という白地藍の染物があったが、本品は中形染風に染めた単衣である。渦を巻く波模様の中に碇の模様を散らした粋な浴衣風のデザインである。他にも白地藍の型染風に染めた単衣の着物が遺されており、量産の開発を手掛けた時代の例の一つであると考えられる。		

114　名称	単衣白絽地草花風景模様（ひとえしろろじくさばなふうけいもよう）	品　　質	絽（絹）、型染（中形）
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	丈153cm 裄65cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。本品は、江戸時代後期の武家女性が夏季に着用した「茶屋辻」と称される帷子の染模様を型友禅で表わした単衣である。白絽地に藍の濃淡で、松、笹、梅、桜、菖蒲、河骨、葦、撫子、萩、菊、秋草、紅葉といった四季草花の模様を染める。		

115　名称	干支飾布（えとかざりぬの）	品　　質	平絹、型友禅
作 者 等	大彦作	員　　数	19枚
時　　代	昭和30～40年代	寸 法 等	各縦31.5cm 横36cm
作品概要	大彦染が手掛けた型友禅の技法で木綿に干支を染めた飾布である。その年の干支に合わせて添えられ、年始の挨拶回りに配ったものであろう。鼠2種、牛2種、虎2種3枚、兎2種、龍2種、蛇2種、馬1種、羊1種、猿1種、鶏1種、犬1種、猪1種の計19枚である。それぞれ包紙が付属し、その表には飾り布の名称を印字し、熨斗を貼り「大彦染繍研究所」の朱文方印を捺す。		

116　名称	大彦染見本（だいひこそめみほん）	品　　質	木綿、型染（形友禅・中形）
作 者 等	大彦作	員　　数	9枚
時　　代	大正～昭和初期	寸 法 等	① 縦35cm 横42.2cm ； ② 縦34.5cm 横43.1cm ； ③ 縦35.5cm 横41.7cm ； ④ 縦36.2cm 横40.2cm
作品概要	夏の浴衣用に染め、各百貨店で「大彦染」のブランドで販売するために作られたサンプルである。型友禅あるいは中形染で染められる。それぞれ以下の4種である。①正藍趣味ゆかた／大彦染／髙島屋特選：紺木綿地松秋草模様（3枚）②大彦染／正藍中形／そごう別染：浅葱木綿地大格子模様（3枚）③大彦染／玉藍ゆかた／大丸別染：鶯色木綿地松竹梅模様（2枚）④趣味の中形／三越製／大彦士工：藍木綿地撫子藤袴模様（1枚）。		

117　名称	白木綿地波鯉模様裂（しろもめんじなみこいもようぎれ）	品　　質	木綿、型染（中形）
作 者 等	大彦作	員　　数	1枚
時　　代	大正～昭和初期	寸 法 等	長さ123cm 幅34cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。江戸時代には小紋よりは模様が大振りな模様を型紙を用いて染めた「長板中形」という白地藍の染物があったが、本品は江戸時代後期の長板中形にもみられるような波鯉模様を復元的に染めようと試みた例である。木綿地に本藍で両面染を試みたもので、高い技術がうかがえる。染始めに「登録商標［大彦締の印］東京大彦染」の染め抜き文字が見られる。		

＜考古＞(1件)

118　名称	中細形銅戈　（なかぼそがたどうか）	品　　質	青銅製
作 者 等	出土地不詳	員　　数	1個
時　　代	弥生時代(中期)・前2～前1世紀	寸 法 等	全長25.2cm 胡幅7.9cm 内幅1.7cm 内長1.6cm 胡最大厚1.2cm 重さ161cm
作品概要	銅戈は柄に直角に着柄する刺突用の武器で、弥生時代中期に朝鮮半島より先行する型式の細形銅戈が伝来した。細形銅戈は実用的な武器であったが、次第に大形かつ扁平で非実用的な祭器へと変化することが知られている。本例は、薄手ながらも実用的な刃部を持つ特徴から中細形銅戈に該当する。九州地方北部では中細形銅戈の段階より鋳型の出土数が急増することが知られ、本例は銅戈の定着と生産の本格化の指標となる重要な作品である。		

＜東洋絵画＞(1件)

119　名称	文字絵屏風（もじえびょうぶ）	品　　質	（画）紙本墨画淡彩、（書）紙本墨書
作 者 等		員　　数	10曲1隻
時　　代	（画）朝鮮時代・19～20世紀、（書）大韓帝国・光武5年（1901）	寸 法 等	（画）各86.8cm×32.5cm、（書）各87.8cm×32.5cm
作品概要	10曲1隻。屏風（衝立）表装は当初のものと推測される。表に画10扇、裏に書8扇。画は、儒教の徳目である、孝、悌、忠、信、礼、義、廉、恥の各字を絵画化し、関連の図像を散りばめた文字絵。書はおそらくその解説。		

＜東洋書跡＞(7件)

120　名称	摶人余土硯（たんじんよどけん）	品　質	石製（澄泥石）
作者等	銘：呉昌碩（1844～1927）、呉丹姮筆	員　数	1面
時　代	清時代・17～19世紀、[呉昌碩銘]中華民国6年（1917）	寸法等	縦11.7cm 横13.8cm 高2.7cm
作品概要	江蘇省蘇州市の霊巌山で採取される　嶰村石のような、澄泥と称される自然石を加工した澄泥硯。澄泥硯は、もとは陶硯の一種と伝わるが、清時代に自然石の硯がこの名で流通したと言う。石色は鱔魚（タウナギ）の体色に似た、鱔魚黄という黄褐色。器形は石材の自然な形状を生かした天成硯（天然硯）と称される形式。清末民国期、沈石友の所蔵時に、呉昌碩・呉丹姮父子の銘が硯背に刻された。呉昌碩銘の「摶人余土。元気万古。」（古代神話の女神、女媧が黄土を摶めて人を創ったという伝説上の土の残余で作られたかのように、万物の源となる元気が永遠に具わる。）の句から、「摶人余土硯」と称される。沈石友輯、沈若懐編『沈氏研林』収録。		

121　名称	双鷺硯（そうがけん）	品　質	石製（端渓石）
作者等	銘：邵士賢、呉昌碩（1844～1927）筆	員　数	1面
時　代	清時代・17～19世紀、[邵士賢銘]清時代・同治7年（1868）、	寸法等	縦10.8cm 横7.2cm 高1.0cm
作品概要	広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した端渓硯。器形は長方形に、硯面は矩形に作り、硯縁には渦状の文様をコ字に施す。硯背は薄く圏足を巡らして、雲が漂う空の下に2羽の鷺鳥が池で泳ぐ図様を彫刻する。硯背には「双鷺硯」と題する邵士賢の銘（同治7年、1868）があり、硯側には沈石友の五言絶句の題詩を呉昌碩が書写した銘がある。邵士賢銘は、譚竹渓がこの硯を作り、同治年間に馮霞軒が停雲館で得たという。その後、沈石友が入手して、呉昌碩の銘が刻された。沈石友輯、沈若懐編『沈氏研林』収録。		

122　名称	草書家書横披（そうしょかしょおうひ）	品　質	彩箋本墨書
作者等	呉昌碩（1844～1927）筆	員　数	1面
時　代	清時代・光緒29年（1903）	寸法等	本紙 縦23.2cm 縦12.6cm ； 封筒 縦15.7cm 横14.8cm ； 表装 縦36.0cm 横(全長)178.0cm
作品概要	横披装。呉昌碩が次子の呉涵に宛てた書簡。魚の画像塼の図様を刷った呉昌碩特製の便箋7枚に、妻で呉涵の母である施酒（1848～1917）のことなどについて書写され、封筒とともに合装される。封筒の消印（1903年）から、呉昌碩60歳、呉涵28歳時の作とわかる。外題簽に「呉昌碩家書」（家書は家族への書簡）とある。		

123　名称	蠅頭書冊「耆儒澄鑑」（ようとうしょさつ　きじゅちょうかん	品　質	紙本墨書
作者等	翁方綱（1733～1818）等全23家筆	員　数	1帖
時　代	清時代・乾隆57～60年（1792～95）	寸法等	本紙（一扇） 縦7.1cm 横4.2cm
作品概要	帖装。翁方綱をはじめとする清朝乾隆期の進士17名を含む全23名の諸家が、秋浦なる人物の求めに応じて、名跡の臨書や跋語等を書写した一帖。各家、蠅頭の書（蠅の頭に例えられる極小の書）で書写し、特製とみられる極小の印を捺す。帖首には伊秉綬による玉箸篆の題字「耆儒澄鑑」（「老儒の秋浦先生、ご高覧ください」の意）があり、帖末には周三燮と戴熙の識語、筆者不詳の篆書の題箋「寸心妙画」が付される。		

124　名称	行書遊天池詩巻（ぎょうしょゆうてんちしかん）	品　質	紙本墨書
作者等	文徴明（1470～1559）筆	員　数	1巻
時　代	明時代・嘉靖17年(1538)	寸法等	（本紙）縦31.3cm 横505.6cm
作品概要	巻子装。文徴明が蘇州(江蘇省)の天池山に遊んだ際に詠んだ七言古詩を蔵経紙に自書した一巻。款記により、文徴明は40歳時(1509)にこの「遊天池詩」を詠み、69歳時(1538)に上質の紙を得たので、旧作の本詩を揮毫したことが知られる。文徴明が得意とした北宋の黄庭堅風の大字行書で記され、この種の様式の代表的な作例の一つである。明の文徴明(1470～1559)、清末民国期の羅振玉(1866～1940)の跋文と羅振玉の外題簽を付す。清末の孔広陶(1832～90)の跋を賦す。		

125　名称	草書唐詩巻（そうしょとうしかん）	品　質	紙本墨書
作者等	王鐸（1592～1652）筆	員　数	1巻
時　代	清時代・順治4年(1647)	寸法等	（本紙）縦31.0cm 横575.2cm
作品概要	巻子装。王鐸が56歳時(1647)に二章老詞契道人のために唐人の五言律詩8首を揮毫した書巻。8首は順番に杜甫「瞿唐両崖」、王維「過香積寺」、杜甫「観李固請司馬弟山水図　三首之一」、杜甫「登兗州城楼」、李白「贈孟浩然」、銭起「和万年成少府寓直」、常建「破山寺後禅院」、杜甫「洞房」である。冒頭の題記には、「この上質の巻紙を喜んだが、紙の前に絵画が一点描かれているのが恨めしく、切り取り除去させ、大いに喜んでこれを書いた」と言う。王鐸が得意とした、連綿を駆使した草書で記される。		

126　名称	楷行草雑書巻（かいぎょうそうざっしょかん）	品　質	(1)紙本墨書　(2)淡藍地金箋本墨書
作者等	王鐸（1592～1652）筆	員　数	1巻
時　代	清時代・嘉慶8年(1803)	寸法等	(1)縦19.0cm 横39.8cm　(2)縦19.0cm 横120.6cm
作品概要	巻子装。劉墉が、謝霊運「登池上楼」の句を1紙に揮毫して遺山に贈った書と、2紙にわたって諸帖を臨書したものを合装した書巻。両者ともに、劉墉が没する前年の85歳時(1803)、9月の作であり、前者が題記に相当する可能性もある。後者の臨書には、陶潜「庚戌歳九月中於西田穫早稲」、同「擬古九首其五」（以上、蘇軾書）、曹操「短歌行」、李白「観魚潭」、孟浩然「万山潭作」、欧陽脩「瑞鶴鵠」の6帖が収録される。		

＜東洋彫刻＞(2件)

127　名称	菩薩立像（ぼさつりゅうぞう）	品　質	塑造彩色
作者等		員　数	1躯
時　代	唐時代・7～10世紀	寸法等	高92cm
作品概要	後頭部の頭髪を左右二つに束ね、左右両肩に垂らす。それ以外の頭髪は円錐状に結う。右手を下ろし、左手を上げる。左脚に重心をかけ、右脚をやや緩めて蓮台の上に立つ。首に瓔珞を付け、胸元を飾る。左右両手首に腕釧を付ける。左肩から右脇腹へと斜めに条帛を掛ける。裳に宝相華文を表す。		

128　名称	ダーキニー立像（だーきにーりゅうぞう）	品　　質	銅造、彩色
作 者 等		員　　数	1躯
時　　代	清時代・18～19世紀	寸 法 等	像高14.8cm 総高16.3cm
作品概要	総髪とし、後頭部に髪束を三条表わす。第三目を表わし、両目を瞋らす。開口して上下の歯列を表わす。五つの髑髏を表わした冠帯をつける。両耳に耳璫をつける。胸から腹にかけて、および腰部に瓔珞を巡らす。両肩から天衣と髑髏の飾りをかける。手足に臂釧および腕釧ならびに足釧をつける。右手は振りあげ、肉切り包丁のカルトリを執り、左手は胸前にて髑髏杯のカパーラを持つ。左脚を上げて蓮華座上に丁字立ちとする。蓮華座は、蓮肉に一重の連珠を巡らし、一重反花及び二重框とする。底板に羯磨金剛を線刻する。 本体、台座とも真鍮製。全身を一鋳とする。右手肘先、天衣、右足枘などは別鋳。台座に底板をかしめて嵌める。本体には中型土が残り、股間に銅板で塞がれた開口部があるため、ここから土をかき出し、垂直に巻子を納入する。台座の前後にも水平に巻子や布類を納入する。顔から首にかけて金彩を施し、頭髪を丹、髑髏の目を朱で彩色する。瓔珞にサンゴとみられる貴石を嵌める。 裸形で、右手にカルトリ、左手にカパーラを持ち、髑髏杖のカトヴァーンガを亡失するものの、肩から髑髏の飾りをかけて踊る姿の女性尊はダーキニーの典型作といえる。入念な造形や象嵌を用いる技法から、清時代に製作されたものであろう。台座も本体と同じ真鍮製であるものの、組成が少し異なり亜鉛分が多いこと、本来足下に踏むべき人体がないこと、台座に使用されない枘が残ることから、転用である可能性があるが、同時期に製作されたとみてよい。		

＜東洋陶磁＞(2件)

129　名称	白釉瓶（はくゆうへい）	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	15～16世紀	寸 法 等	残存高4.9cm 高台径4.3cm
作品概要	鉄分を含む陶質胎、胴下部が膨らんだ瓶。裾広がりの高台を削り出す。高台とその周囲を除き総体に錫白釉を施す。		

130　名称	青磁双耳瓶（せいじそうじへい）	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	15～16世紀	寸 法 等	高8.0cm 口径2.7cm 底径3.6cm
作品概要	白色陶質胎、肩が張り、胴裾に向かって窄まる瓶。口部が広がり、肩の左右に縦耳が付く。胴部に鎬文を施す。底部は平底で、左回り轆轤の糸切痕がある。底裏を除き総体に黄褐色の青磁釉を施す。		

＜東洋染織＞(2件)

131　名称	プルカリ茶木綿地幾何文様刺繍（ぷるかりちゃもめんじきかもんようししゅう）	品　　質	平織（木綿）、刺繍（絹）
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	20世紀	寸 法 等	長さ252.5cm 幅131.5cm ； 裂①(織幅) 幅47cm ； 裂②(織幅) 幅42cm ； 裂③(織幅) 幅42.5cm
作品概要	インド北西部からパキスタン北東部のパンジャーブ地方で伝統的に製作される大判の刺繍裂で、「プル」は「花」を指し、「プルカリ」（Phulkari）は「花刺繍」を意味する。織幅の細長い3枚の裂をはぎ合わせて、全面に刺繍を施している。赤紫色の木綿平織（経緯Z撚り）の地に白、萌黄、紫、淡茶、オレンジ、濃オレンジの6色の絹製刺繍糸をたっぷりと使い、幾何学文様を表している。刺繍は地組織の織り目に沿っており、また、裏面にはほぼ糸が渡らない渡し繍いである。一方の長辺には鎖繍（チェーンステッチ）を用いて、鋸歯文を縁どっており、作品長辺の端はすべてかがり繍い（ボタンホールステッチ）とする。本作のように、一面を刺繍糸が覆う作品は「バグ・プルカリ」（Bagh Phulkari、「バグ」はパンジャーブ語で「庭園」を意味する）と呼ばれる。		

132　名称	袍紺綾地龍文様刺繍（ほうこんあやじりゅうもんようししゅう）	品　　質	
作 者 等		員　　数	1着
時　　代	清時代・19世紀	寸 法 等	身丈123.5cm 裄74cm ； 袖 幅38cm ； 腰 幅81cm ； 裾 幅110.5cm
作品概要	紺色の絹の経三枚綾地に、五爪龍をはじめ、蝶、牡丹、蝙蝠、鶴、桃などの吉祥モチーフを重厚な刺繍で表す。全体に撚金糸・撚銀糸を用い、多色の糸で細かく留めつけているため、色とりどりに輝くように見える。鶴には前段と後段の刺し目をつなげて色彩の濃淡を変化させる套針を用い、また、中央の龍の眼にはビーズ状の珊瑚、真珠を使用した絢爛豪華な袍といえる。裏地は浅葱の絹で、平織地に経六枚綾で花文様を織り出している。清朝の皇帝が着用した龍袍の文様構成であるが、袖の形状から京劇などの清朝の皇帝役の舞台衣装と考えられる。		

＜東洋考古＞(1件)

133　名称	ガラス三連瓶（がらすさんれんへい）	品　　質	3口の吹きガラスを溶着
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	ローマ時代・2世紀	寸 法 等	幅12.2cm 器高16.8cm
作品概要	ローマ帝国内に流通したガラス工芸品の主要な生産地であった地中海東岸のガラス生産、特に製作技法やデザインの多様性を伝える良好な資料。完形の状態で残っている2世紀の三連瓶は、世界的に見ても貴重である。		

＜東洋民族＞(3件)

134　名称	クリス（くりす）	品　　質	鉄、木、象牙、真鍮
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	20世紀	寸 法 等	総長51.8cm、身長41.8cm
作品概要	東南アジア島嶼部に広く分布する鉄剣「クリス」は、その霊力によって持ち主の男性を守護するとともに、持ち主の威信を象徴するものでもある。クリスの剣身は直線状あるいは蛇行状に作り、特殊な加工技術によって幾重もの地鉄が作り出される。また、柄や鞘の材質や造形にも地域ごとに特徴が認められる。 本器は、直線状の剣身に象牙製の柄が付き、木製の鞘が付属する。剣身は、金属を層状に重ねて木目金風の地鉄に作る。柄は、象牙を加工して柄頭を屈曲させた形状に作り、精緻な彫刻によって花葉風の装飾や騎馬人物などを表わす。この象牙柄の意匠は、ジャワ島の北東にあるマドゥラ島の典型的なものである。鞘は木製で、柄を覆う部分を稜形に作るほか、装飾は施さない。		

135　名称	クリス（くりす）	品　　質	鉄、木、真鍮、玳瑁
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	20世紀	寸 法 等	総長49.0cm、身長35.4cm
作品概要	東南アジア島嶼部に広く分布する鉄剣「クリス」は、その霊力によって持ち主の男性を守護するとともに、持ち主の威信を象徴するものでもある。クリスの剣身は直線状あるいは蛇行状に作り、特殊な加工技術によって幾重もの地鉄が作り出される。また、柄や鞘の材質や造形にも地域ごとに特徴が認められる。 本器は、直線状の剣身に木製の柄が付き、真鍮製の鞘が付属する。剣身は、金属を層状に重ねて木目金風の地鉄に作る。柄は、木を加工して柄頭を屈曲させた形状に作り、屈曲部の内側に突起物を作り、刻み目のような彫刻を施す。この木柄の意匠は、ジャワ島のスラカルタの典型的なものである。鞘は真鍮製の本体部に木製の柄覆が付き、本体の先端付近から末端にかけて樋状に透かし、そこに玳瑁を嵌装する。		

136　名称	石貨（せっか）	品　　質	石製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	19～20世紀初頭	寸 法 等	径38.2cm～35.8cm
作品概要	南太平洋のミクロネシア地域のヤップ島の石貨。同島の石貨は日常貨幣ではなく、儀礼における贈答品として用いられた。その形状は、石灰岩などの堆積岩をほぼ円形に成形して中心部に穿孔するのを基本とし、通常は60～100センチであり、小さなもの6センチ、大きなものは300センチに及ぶ。石貨の材料となる石灰岩はヤップ島では産出せず、遠方のパラオにて採掘・製造され、その価値は直径の大小や形状、表面の仕上げ、運搬にかかる労力などによって判断された。 本貨は、透過性のある緑色系の堆積岩を正円に近い形状に成形して、中心部に7.5～10センチの孔を穿ち、表面は平滑に仕上げられているのに対し、裏面には加工の痕跡を留めている。石の透明度が高い部分では光が透過する。		

（３）編入（604件）

＜金工＞19件、＜刀剣＞1件、＜陶磁＞2件、＜漆工＞6件、＜染織＞6件、＜民族＞8件、＜歴史資料＞1件、＜東洋染織＞1件、＜東洋考古＞1件、＜東洋民族＞28件

1～73　名称	鉤　ほか（かぎ　ほか）	員　　数	73件
作品概要	過去に列品として登録されていたが、種々の事由により台帳から削除された作品のうち、令和2年度から令和3年度にかけて行った収蔵品移動に伴う列品情報調査の結果、存在が確認された作品73件。		

＜建築＞(9件)

74　名称	本館屋根瓦　軒丸瓦（ほんかんやねがわら　のきまるがわら）	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	径25.8cm 長さ59.0cm
作品概要	軒先に取り付けられる軒丸瓦である。文様のある瓦当に丸瓦を接合している。瓦当文様は十六弁菊花文で、中房に五つの蓮子を配し、弁区外縁に圏線を1条巡らす。周縁は無文で、施釉後の本焼きで使われた窯道具のトチンの目跡がある。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。軒丸瓦は玉縁の有無と寸法により分類でき、本品は玉縁のある大型品である。		

75　名称	本館屋根瓦　軒平瓦（ほんかんやねがわら　のきひらがわら）	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	全幅41.0cm 長さ50.8cm
作品概要	軒先に取り付けられる軒平瓦である。文様のある瓦当に平瓦を接合している。瓦当文様は唐草文で、中央から3単位の唐草が左右に展開する。周縁は無文で、施釉後の本焼きで使われた窯道具のトチンの目跡がある。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。軒平瓦は側縁前方に設けた突起の位置により分類でき、本品は瓦当面に向かって右側に突起がある。平瓦部凸面には、「大右20」の注記がある。		

76　名称	本館屋根瓦　軒丸瓦、軒平瓦（ほんかんやねがわら　のきまるがわら、のきひらがわら）	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	2個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	軒丸瓦 径22.5cm 長さ54.5cm ； 軒平瓦 全幅40.0cm 長さ50.8cm
作品概要	軒先に取り付けられる軒丸瓦と軒平瓦である。文様のある瓦当に丸瓦または平瓦を接合している。軒丸瓦の瓦当文様は十六弁菊花文で、中房に五つの蓮子を配し、弁区外縁に圏線を１条巡らす。軒平瓦の瓦当文様は唐草文で、中央から３単位の唐草が左右に展開する。軒丸瓦、軒平瓦ともに周縁は無文で、施釉後の本焼きで使われた窯道具のトチンの目跡がある。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。軒丸瓦は玉縁の有無と寸法により分類でき、本品は玉縁のない中型品である。軒平瓦は側縁前方に設けた突起の位置により分類でき、本品は瓦当面に向かって左側に突起がある。		

77　名称	本館屋根瓦　鬼瓦（朱雀）（ほんかんやねがわら　おにがわら（すざく））	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	縦65.0cm 横92.0cm
作品概要	鬼瓦は、屋根の棟先に取り付ける装飾瓦で、雨仕舞いの役割もある。鬼面が彫刻されていないものでも鬼瓦という。本品は朱雀をかたどった鬼瓦である。朱雀は南方を守護する神獣とされる。本品と同形の鬼瓦が本館入口の車寄屋根の正面（南側）に飾られている。翼を大きく広げた姿で、羽毛まで細かく立体的に表現されている。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。		

78　名称	本館屋根瓦　鬼瓦（ほんかんやねがわら　おにがわら）	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	縦38.0cm 横47.3cm
作品概要	鬼瓦は、屋根の棟先に取り付ける装飾瓦で、雨仕舞いの役割もある。鬼面が彫刻されていないものでも鬼瓦という。本品は中央に主題文様のない鬼瓦で、外縁に珠文を巡らしている。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。		

79　名称	本館屋根瓦　鬼瓦（鬼面）（ほんかんやねがわら　おにがわら（きめん））	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	右上顎；縦41.0cm 横26.0cm 左上顎；縦48.0cm 横37.0cm
作品概要	鬼瓦は、屋根の棟先に取り付ける装飾瓦で、雨仕舞いの役割もある。本品は鬼面の鬼瓦の破片である。右目と右角、右上顎の一部にあたる。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。		

80　名称	本館屋根瓦　鬼瓦（鬼面）（ほんかんやねがわら　おにがわら（きめん））	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	縦48.0cm 横37.0cm
作品概要	鬼瓦は、屋根の棟先に取り付ける装飾瓦で、雨仕舞いの役割もある。本品は鬼面の鬼瓦の破片である。右目と右角、右上顎の一部にあたる。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。		

81　名称	本館屋根瓦　鬼瓦（鬼面）（ほんかんやねがわら　おにがわら（きめん））	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	縦40.0cm 横35.0cm
作品概要	鬼瓦は、屋根の棟先に取り付ける装飾瓦で、雨仕舞いの役割もある。本品は鬼面の鬼瓦の破片である。左目と左角の一部にあたる。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。		

82　名称	本館屋根瓦　鬼瓦（鬼面）（ほんかんやねがわら　おにがわら（きめん））	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	縦32.0cm 横34.0cm
作品概要	鬼瓦は、屋根の棟先に取り付ける装飾瓦で、雨仕舞いの役割もある。本品は鬼瓦の破片である。右下顎の一部にあたる。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。		

＜民族＞(11件)

83　名称	マキリ（小刀）（まきり　こがたな）	品　　質	木製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	全長19.3cm、鞘 長14.8cm、幅4.3cm、柄 長4.5cm、幅1.8cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。鞘は二枚矧ぎで三ヶ所に桜皮を巻いて固定し、鞘上部には紐掛用の孔が設けられている。鞘と柄にはアイヌ特有の渦状文や鱗文が施されている。鞘には所有者を示すだろう「土井」の二文字が刻まれている。		

84　名称	マキリ（鞘）（まきり　さや）	品　　質	木製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	鞘 長17.9cm 幅3.2cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。鞘は二枚矧ぎで、五ヶ所に桜皮を巻いて固定し、鞘上部には紐掛用の孔が設けられている。鞘には渦状文や棘状文が施され、「明治〇〇」の文字が刻まれている。		

85　名称	マキリ（小刀）（まきり　こがたな）	品　　質	木製・鉄製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	全長30.8cm、鞘 長21.3cm、幅6.4cm、柄 長9.5cm 幅2.0cm、刀身 長10.4cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。鞘は一木造で表面には鱗文が施され、鞘尻には刳り抜きのための孔が設けられている。刀身は鉄製で、砥ぎ減りしているものの、残りはよい。		

86　名称	マキリ（鞘）（まきり　さや）	品　　質	木製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	鞘 長18.7cm、幅6.0cm 根付 長9.8cm、幅3.0cm、高1.8cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。本例は小刀のうち柄と刀身を欠くも、船形の根付が付属する。鞘は一木造で、下面に刳り抜き孔が施されている。鞘には線刻による文様とともに、「種前村　番家　石切用」の文字が刻まれている。その内容から消防・自警団の詰所である番屋の常備品として用いられたものと考えられる。種前村(明治9～39年)は現在の北海道寿都郡寿都町にあたる。		

87　名称	マキリ（小刀）（まきり　こがたな）	品　　質	木製・鉄製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	全長32.5cm、鞘 長22.2cm、幅4.9cm、柄 長10.3cm、幅2.7cm、刀身 長9.5cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。鞘は一木造で、下面に刳り抜き孔が施されている。表面には綾杉文や鱗文が刻まれている。刀身は鉄製で、砥ぎ減りしているもののよく残る。		

88　名称	マキリ（小刀）（まきり　こがたな）	品　　質	木製・鉄製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	全長30.2cm、鞘 長20.2cm、幅3.8cm、柄 長10.0cm、幅3.4cm、刀身 長13.5cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。鞘は一木造で、表面にはアイヌ特有の渦巻文と鱗文が施され、屋号(やまさん)が刻まれている。鞘尻には刳り抜き孔がある。刀身は鉄製。		

89　名称	マキリ（柄）（まきり　つか）	品　質	木製
作 者 等		員　数	1本
時　代	19世紀	寸 法 等	柄長12.6cm、幅3.5cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。本例は小刀のうち、鞘と刀身を欠く。柄の中央には紐掛用の孔が施されている。柄の周囲をめぐるように線刻が施され、表面には祖印あるいは所有印と考えられる記号とともに、文字が線刻されている（うち一文字は「喜」か）。		

90　名称	マキリ（柄）（まきり　つか）	品　質	木製
作 者 等		員　数	1本
時　代	19世紀	寸 法 等	柄長11.7cm、幅2.1cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。本例は小刀のうち、鞘と刀身を欠く。柄には曲線や渦巻を組み合わせた文様が施されている。		

91　名称	茶台（ちゃだい）	品　質	木製
作 者 等		員　数	1枚
時　代	19世紀	寸 法 等	長径11.0cm、短径5.1cm、高2.1cm、底径4.6cm
作品概要	江戸時代後期になるとアイヌの人々は、自らが使う日用品とは別に、筆立てや筆軸、手拭い掛けなど蝦夷地に滞在する和人のための献上品や土産物を作った。本例もその一つで「蝦夷みやげ」、「蝦夷細工物」などと呼ばれた茶台である。茶台上面の周囲や受けの周りに文様を施し、底面に鉛筆書きで「シコタン土人作　ランコ（ヲンコ）ノ木」とあるため、千島アイヌ(色丹)から収集した茶台であると考えられる。		

92　名称	小熊用玩具（こぐまようがんぐ）	品　質	木製
作 者 等		員　数	1個
時　代	19世紀	寸 法 等	最大長10.4cm、最大幅3.8cm、高4.0cm
作品概要	小熊用玩具は、アイヌがイオマンテ（飼い熊の霊送り儀礼）を行う際に用いる道具。熊送りとは、捕獲した小熊を神から養育を任されたと考え、村内で大切に飼育し、一定期間ののち小熊を神のもとに送り返す（魂を送る）ことで、カムイから生活の安定を保障してもらう儀礼を指す。本例は、飼育する小熊に与えた遊び道具（おしゃぶり）の一つである。		

93　名称	矢毒臼（やどくうす）	品　質	木製
作 者 等		員　数	1個
時　代	19世紀	寸 法 等	最大長10.3cm、最大幅5.8cm、高3.0cm
作品概要	アイヌが狩猟の際にもっぱらに用いた道具は弓である。弓には手持ちの弓と、罠として用いる仕掛け弓があり、いずれも矢の鏃にはトリカブトをすり潰して作られた毒が塗られた。本例はそのトリカブトを刻み、すり潰す際に用いた矢毒臼である。台部には刃物を使用した際にできた傷が良く残る。		

＜写真資料＞(511件)

94～604　名称	写真資料（しゃしんしりょう）	品　質	鶏卵紙、ゼラチンシルバープリント、プラチナプリント等
作 者 等		員　数	511件(1,551枚)
時　代	明治時代・19～20世紀	寸 法 等	15.0cm×24.1cm（台紙30.9cm×39.1cm）ほか
作品概要	今回の511件(1,551枚)は、小川一真が明治21年(1888)の近畿宝物調査時に撮影した絵画・彫刻・美術・工芸等の写真、同じく小川により同34年(1901)に撮影された北京城内の紫禁城や諸宮殿の建築・装飾等の写真、そして早崎梗吉が明治20年代後半に撮影した中国史跡・景観写真等が含まれる。 写真帖に仕立てられているものは1帖を1件（親）と数える（ただし「写真帖　人民之部」10帖は親1件とし10帖を部分とする）。他は、1枚を1件（親）とし、パノラマ撮影の場合は一被写体につき1件とする。 小川一真による宝物調査写真は合計1,044枚で、台紙に貼られている。写真の横には宝物名と所蔵先が書かれた短冊が添えられ、帖に仕立てられている。写真帖表紙には、「一等　絵画　京都府」のように等級、種別、地名が記載されている。表紙には東京帝室博物館シールが貼られ、品名欄に帖の名称が記載されている。「写真帖　人民之部」10帖には個人が所有する宝物の写真が貼られている。 同じく小川による北京城写真は、焼付写真合計352枚からなる。そのうち8件は3枚1組、2件は2枚1組でパノラマ撮影している作品もある。台紙に貼られており、写真の横には表題が記載されている。		

【京都国立博物館】（計247件）

（１）購入（8件）

＜絵画＞（2件）

1　名称	年中行事絵巻模本（ねんちゅうぎょうじえまきもほん）	品　質	紙本墨画
作 者 等		員　数	3巻
時　代	江戸時代　18世紀	寸 法 等	各　縦45.6cm 長（上巻）623.0cm　（中巻）643.0cm　（下巻）404.0cm
作品概要	平安時代末、後白河院の命により制作されたと考えられている絵巻の模本。原本は失われたが、江戸時代の模本が複数伝わる。本作は住吉如慶による白描模本の図像系統を伝えるもので、住吉本第12巻の内容が3巻にわたり写されている。写し崩れが少ないことから住吉本の直模と見られる点が貴重で、祭礼等さまざまな展示での活用が見込まれる。		

2　名称	京都名所六景図（稲荷山図） （きょうとめいしょろっけいず（いなりやまず））	品　質	紙本墨画
作 者 等	池大雅筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代　18世紀	寸 法 等	縦128.4cm　横52.5cm
作品概要	池大雅（1723～1776）が 京都東山周辺の6か所の名所を描いたシリーズのうち、伏見稲荷を描く1点。落款に、中国五代宋初に活躍した画僧巨然の画法を用いて描いたと記す。日本の現実の風景を、中国と結び付けて描写するこのような態度は、江戸時代中期の文化の基調をなすものとして重要。京都の名所を描いた大雅の優品として、当館が収蔵するにふさわしい 。		

＜金工＞（1件）

1　名称	黒漆太刀（くろうるしたち）	品　　質	鉄製　鍛造
作 者 等	長船則光	員　　数	1揃
時　　代	刀身：室町時代・享徳二年（1453） 拵・袋・箱：室町時代　15世紀	寸 法 等	刀身：刃長66.2cm 反り2.5cm 拵：全長97.3cm 把長19.0cm 鞘長76.5cm 袋：長117.0cm 幅16.0cm 箱：長108.4cm 幅16.0cm 高15.8cm
作品概要	奈良・春日大社旧蔵と伝わる古神宝の黒漆太刀一式。「太刀 銘備州長船則光／享徳二年八月日」「黒漆太刀拵」「菊花文銀襴太刀袋」「朱漆塗太刀箱」からなる。刀身は保存状態が極めて良好で、「生刃」と呼ばれる製作当初の状態を残している点が貴重である。拵も製作年代が確実な中世の太刀拵として類例は少ない。また、「菊花文銀襴太刀袋」は文字記録に見える日本製金襴の最古例（『鹿苑日録』文禄元年（1592）三月の条）より約150年近く古い可能性が指摘されており、日本製金襴の最古の現存作例として史料価値が極めて高い。刀剣・金工・漆工・染織各分野の基準作となる本品を収蔵することで、展示と研究の両面に活用が期待できる。		

＜漆工＞（5件）

1　名称	野馬丸紋散箔絵螺鈿書箪笥 （のまるもんちらしはくえらでんしょだんす）	品　　質	木製　漆塗　蒔絵　箔絵　螺鈿
作 者 等		員　　数	1基
時　　代	桃山～江戸時代　17世紀	寸 法 等	縦37cm、横66.6cm、高46.8cm
作品概要	桃山時代から江戸時代の初めに西洋人に向けて輸出されたいわゆる南蛮漆器のうちの書箪笥。幾何学文や丸紋で縁取りつつ、菱形の絵窓のなかに絵画的な野馬図を描き、南蛮漆器としては新しい要素が見られる作例である。天板では欠失した文様を西洋の技法で入念に修復しており、彼の地での受容の歴史も伝える。大型で展示室に映え、異文化交流の証しとして活用が期待される。		

2　名称	蓬莱花見図蒔絵手箱（ほうらいはなみずまきえてばこ）	品　　質	木製　漆塗　蒔絵
作 者 等		員　　数	1合
時　　代	江戸時代　17世紀	寸 法 等	縦26.1cm、横32.4cm、高21.7cm
作品概要	化粧道具などをしまったと思われる手箱。黒漆に平蒔絵を用いた比較的簡易な技法による作品だが、天板は松竹に鶴亀を添えたいわゆる蓬莱文様であり、儀礼的な調度であってもおかしくはない。しかし、側面に桜狩りを楽しむ男性ばかりを描いた風俗図が描かれる点が大変珍しい。蒔絵の受容者層の広がりを考える上で有用な作品である。2013年の「遊び」展にも出品された。		

3　名称	秋草蒔絵香炉（あきくさまきえこうろ）	品　　質	木製　漆塗　蒔絵
作 者 等		員　　数	1基
時　　代	桃山～江戸時代　16-17世紀	寸 法 等	最大径7.9cm 総高8.2cm（火屋なしの高6.9cm）
作品概要	桃山時代に流行したいわゆる高台寺蒔絵様式による香炉。磁器の香炉を写しており、胴部に鐶や二段のくびれを挽き出し、底裏を千鳥形式にしている。小品ながら古風な秋草の表現と千鳥香炉の写しとしては高台の残る初期の形体を見せる点が魅力であり、高台寺蒔絵や香道具、桃山時代をテーマにした展示での活用が見込まれる。		

4　名称	田植蒔絵香盆（たうえまきえこうぼん）	品　　質	木製　漆塗　蒔絵
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	江戸時代　18世紀	寸 法 等	縦28.2cm、横41.2cm、高5cm
作品概要	近世初頭に流行する風俗図蒔絵のなかでも料紙硯箱などに繰り返し描かれた田植図の系統の品。高度で緻密な蒔絵を用いながら、さらさらと手慣れたようすで描かれているところから、見込み生産で作られたことを思わせる。江戸時代の中期以降の蒔絵の需要層の広がりを示すと考えられ、江戸時代の蒔絵の意匠の多様性と技術の高さを伝える好例である。		

5　名称	桜花卍文蒔絵螺鈿平棗 （おうかまんじもんまきえらでんひらなつめ）	品　　質	木製　漆塗　蒔絵　螺鈿
作 者 等		員　　数	1合
時　　代	桃山～江戸時代　16-17世紀	寸 法 等	径6.9cm、高3.9cm
作品概要	平棗を小型にしたような合子。内部まで梨地に仕立てられており、卍や輪宝など仏教的な文様であるため、茶道具というよりは、仏前で用いる塗香などをいれた香合であったと想像される。桜花、卍紋、輪宝などが絶妙な間隔で散らされており、近世初頭の紋散らしの流行を伝える品である。		

（２）寄贈（239件）

＜絵画＞（121件）

1～27 名称	秋山茂樹図（しゅうざんもじゅず）ほか	品　質	絹本墨画など
作 者 等	溥儒筆	員　数	27件
時　代	中国　近代	寸 法 等	-
作品概要	溥儒（1896-1963）に直接師事をした現代作家の伊藤紫虹氏より、溥儒が手本として伊藤氏に与えた絵画27件の寄贈を受けた。溥儒は清朝皇族恭親王奕訢（1833-1898）の孫。張大千（1899-1983、四川の人、上海で活躍）と並んで「南張北溥」と称される中国近現代の代表的書画家である。1949 年に台湾へ渡り、師範学院にて教鞭を執る一方で、日本や韓国、香港などの地を遊歴しつつ、教育機関で講義を行った。寄贈者の伊藤紫虹氏は昭和28年（1953）、10代の大学生であった時に、来日していた溥儒に願い出て門下生となった。寄贈品は小品ながら、最も充実した溥儒晩年の作例である。 1. 秋山茂樹図　溥儒筆　絹本墨画　1幅、 2. 秋山樹径図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 3. 秋色樹影図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 4. 斜陽秋色図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 5. 秋亭臨水図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 6. 秋気図　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 7. 寒湍図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 8. 寒雨疎林図　溥儒筆　紙本著色　1幅、 9. 蒼林暮煙図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 10. 山谷図　溥儒筆　絹本著色　1幅、 11. 松陰図　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 12. 松陰高士図　溥儒筆　絹本墨画　1幅、 13. 月下高士図　溥儒筆　紙本墨画淡彩　1幅、 14. 携琴訪隠図　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 15. 指頭騎驢図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 16. 鍾馗騎驢図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 17. 鍾馗図　溥儒筆　絹本著色　1幅、 18. 古樹攀猿図　一九五五年　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 19. 猿声渡水図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 20. 孝猿図　一九五五年　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅（孝猿図附：霊猿桃実図（臨孝猿図）　伊藤紫虹筆　溥儒題　1幅）、 21. 白猿図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 22. 白鷹図　一九五六年　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 23. 籬辺秋色図　一九五六年　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 24. 迎風浥露図　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 25. 竹図　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 26. 茶花図　一九五五年　溥儒筆　絹本著色　1幅、		

28　名称	百蟹図（ひゃくかいず）	品　質	絹本墨画
作 者 等	李天民筆	員　数	1幅
時　代	大正13年（1924）	寸 法 等	116.5×52.5cm
作品概要	李天民（1893-？）は名を学樵、号を鳴皋といい、清末に台湾で生まれた詩人・画家。蟹は作家の最も得意とした画題で、吉祥的含意もあるため、たびたび贈答として知人に譲っている。本作は為書から富岡鉄斎(1837-1924)に贈られたものとわかる。		

29～49 名称	煙寺晩鐘図（えんじばんしょうず）ほか	品　質	紙本着色ほか
作 者 等	呉石僊筆	員　数	21件
時　代	中国　清～中華民国	寸 法 等	-
作品概要	中国金石学・書道史の研究者、また書家であった須羽源一（号は水雅、1910-1974）の旧蔵品21件。須羽は書家の山本竟山（1863-1934）、篆刻家の河井筌廬（1871-1945）に師事し、漢籍や書画金石を蒐集した。寄贈品は清末から民国初期の書画家、特に書・篆刻に秀でた作家の作例が中心で、日本の書画家が敬慕した呉昌碩、王一亭、斉白石のほか、程庭鷺の画帖が含まれる。 29. 煙寺晩鐘図　呉石僊筆　紙本着色　1幅、 30. 寒山拾得図　施廷輔筆　絹本墨画　1幅、 31. 白雲山図　張坊筆　紙本着色　1幅、 32. 秋斎清供図　童旭滄筆　紙本着色　1幅、 33. 竹石図　王廷珏筆　紙本着色　1幅、 34. 書画扇面（山水図・詩書）王冶梅・衛鑄生筆　絖本着色・墨書　1幅、 35. 松画賛　黄吟梅、陳曼寿筆　絖本着色　1幅、 36. 墨梅冊　王元珍筆　1冊、 37. 小松圖閣画中詩　程庭鷺筆　1冊、 38. 牛背横笛図　王一亭筆　1幅、 39. 達磨図　王一亭筆　1幅、 40. 富貴神仙図　呉昌碩筆　1幅、 41. 葫蘆図　呉昌碩筆　1幅、 42. 墨梅図　朱為弼筆　1幅、 43. 墨蟹図　斉白石筆　1幅、 44. 葡萄老鼠図　斉白石筆　1幅、 45. 書画合璧（山水・詩書）曹知白・文徴明筆　1幅、 46. 松陰観瀑図　潘思牧筆　1幅、 47. 西湖柳艇図　弘昨筆　1幅、 48. 臨石溪山水図　柯易葉筆　1幅、 49. 名士書画帖　1冊		

50　名称	瀑布図（ばくふず）	品　質	絖本墨画
作 者 等	浅井柳塘筆	員　数	1幅
時　代	明治18年（1885）	寸 法 等	165.9×43.2cm
作品概要	浅井柳塘（1842～1907）は京都もしくは阿波の人。百々広年・谷口靄山に文人画を、のち長崎で木下逸雲・鉄翁祖門・清の徐雨亭について山水画を学ぶ。明治13年から京都府画学校につとめた。明治18年（1885）の作。絖本の質感を生かした表現に見どころがある。		

51　名称	牛若丸図（うしわかまるず）	品　質	絹本著色
作 者 等	猪飼嘯谷筆	員　数	2幅
時　代	大正11年（1922）	寸 法 等	各127.8×27.5cm
作品概要	共箱、大正11年（1922）の作。牛若丸を鞍馬寺とともに描く双幅。猪飼嘯谷（1881～1939）は京都の人。谷口香嶠に四条派の絵を学ぶ。はじめ母校京都市美術工芸学校で、明治43年から大正14年までは京都絵画専門学校(現京都市立芸大)で教鞭を執った。歴史画を中心に明治41年以降文展で活躍、帝展に出品せず、昭和12年新文展に無鑑査出品した。		

52 名称	秋菊画賛（しゅうきくがさん）	品　質	紙本墨画
作 者 等	巌谷一六筆	員　数	1幅
時　代	明治時代（19～20世紀）	寸 法 等	131.7×33.0cm
作品概要	巌谷一六（1834～1905）は明治時代の書家・官僚。近江水口藩医。維新後、内閣書記官・元老院議官・貴族院議員。書を中沢雪城、楊守敬に学び、独自の一六流をつくりだした。		

53 名称	出山釈迦図（しゅっせんしゃかず）	品　質	絹本墨画
作 者 等	今尾景年筆	員　数	1幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	108.8×36.4cm
作品概要	今尾景年（1845～1924）は明治～大正時代の日本画家。京都の人。鈴木百年に学ぶ。明治28年、京都後素協会委員長となる。シカゴ、パリなどの万博で受賞。37年帝室技芸員、大正8年帝国美術院会員。		

54 名称	霞自画賛（かすみじがさん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	大田垣蓮月筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	31.7×43.0cm
作品概要	太田垣蓮月（1791～1875）は幕末の歌人、陶芸家。京都の人。自分の歌を彫り込んだ陶器蓮月焼で知られる。和歌は上田秋成・六人部是香に学んだという。「たつひよりのとかになりて世の中のうさをへだつる春かすみかな」。新年を迎えて、年が改まるとともに一新した気分を詠んだ春の歌。正月の注連縄飾を添えている。		

55 名称	菊自画賛（きくじがさん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	大田垣蓮月筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	100.8×36.4cm
作品概要	太田垣蓮月（1791～1875）は幕末の歌人、陶芸家。京都の人。自分の歌を彫り込んだ陶器蓮月焼で知られる。和歌は上田秋成・六人部是香に学んだという。「めてそめしちよのむかしもゆく末の秋のかきりもしらきくの花」。78歳の作。		

56 名称	薄自画賛（すすきじがさん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	大田垣蓮月筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	30.0×42.2cm
作品概要	太田垣蓮月（1791～1875）は幕末の歌人、陶芸家。京都の人。自分の歌を彫り込んだ陶器蓮月焼で知られる。和歌は上田秋成・六人部是香に学んだという。「よなよなにうちこそまされからころもころも更ゆく秋しののさと」。79歳の作。		

57 名称	郭子儀図（かくしぎず）	品　質	絹本著色
作 者 等	暁園筆	員　数	1幅
時　代	嘉永4年（1851）	寸 法 等	144.1×85.9cm
作品概要	明治から大正にかけて活躍した内畠暁園という画家がいるが、時代的に別の画家と思われる。		

58 名称	陶朱公居宅図（とうしゅこうきょたくず）	品　質	絹本著色
作 者 等	海保青陵筆	員　数	1幅
時　代	文化9年（1812）	寸 法 等	109.7×34.1cm
作品概要	海保青陵（1755～1817）は江戸の人。宇佐美灊水に徂徠学を学んだ儒学者・経世家。青陵には自ら賛を記した絵がほかにもあるが、知られている作品数は多くはなく、貴重な1点と言える。陶朱公とは、中国春秋時代の越王勾践の臣、范蠡の別称。本作は、その朱公の邸宅を描いたもの。賛は陶朱公の徳を賞賛しつつ、富裕商人の代名詞ともなった朱公を、京の富商である細辻氏に重ね合わせている。		

59 名称	富士画賛（ふじがさん）	品　質	紙本墨画
作 者 等	烏丸光広筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（17世紀）	寸 法 等	38.3×53.0cm
作品概要	烏丸光広（1579～1638）は公卿、歌人。書家としても知られる。本図は富士山を一筆で描いた淡墨の略画で、その余白に富士山を詠み込んだ和歌を書き添えたもの。光広が富士を詠んだ和歌は多く、家集『黄葉和歌集』（巻第七・羈旅部）には20首が収められている。この和歌はその中には含まれていないが、光広の自詠と見られる。慶應義塾センチュリー赤尾コレクションに、同一の和歌を記した類品がある。		

60 名称	虎鼻蛇蜂猿之図（とらねずみはちさるのず）	品　質	絹本著色
作 者 等	岸竹堂筆	員　数	1幅
時　代	文久2年（1862）	寸 法 等	135.0×57.1cm
作品概要	共箱。『仏説譬喩経』『大方等大集経』などの経典に説かれる、「黒白二鼠のたとえ」あるいは「無常の虎」などと呼ばれる説話を主題とする。岸竹堂（1826～1897）は江戸後期～明治時代の画家。近江の人。狩野永岳や岸連山に学び、岸家の養子となる。帝室技芸員。		

61 名称	朝顔雀図（あさがおすずめず）	品　質	絹本著色
作 者 等	国井応陽筆	員　数	1幅
時　代	明治38年（1905）	寸 法 等	123.3×50.8cm
作品概要	共箱。芦雪画にならう旨を記す。国井応陽（1867～1923）は京都の人。円山派の画家で、応挙の曽孫にあたる国井応文の養子。当館には応文の作品も収蔵されており、円山派の系譜が肉付けされることは意義深い。		

62　名称	太夫・舞妓・芸姑図（たゆう・まいこ・げいこず）	品　質	絹本著色
作 者 等	国井応陽筆	員　数	3幅
時　代	明治41年（1908）	寸 法 等	各111.2×41.5cm
作品概要	中幅に太夫、右幅に舞妓、左幅に芸姑が描かれている。応挙の「三美人図」（岡田美術館蔵）を写した作品。比較すると応挙の技術の高さが際立つが、軸端にも蒔絵が施された丁寧な表装で、共箱が添う優品。国井応陽（1867～1923）は京都の人。円山派の画家で、応挙の曽孫にあたる国井応文の養子。		

63　名称	漁樵図（ぎょしょうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	国井応陽筆	員　数	2幅
時　代	明治44年（1911）	寸 法 等	各104.6×40.8cm
作品概要	漁樵問答の円山派的表現。国井応陽（1867～1923）は京都の人。円山派の画家で、応挙の曽孫にあたる国井応文の養子。		

64　名称	蘭亭曲水図（らんていきょくすいず）	品　質	絹本著色
作 者 等	熊谷酔香筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	135.6×42.1cm
作品概要	熊谷酔香（1817～75)は幕末明治期の商人。京都の鳩居堂7代目当主。酔香は書画の収集家であり、自ら筆を執って画を描くこともあった。落款から、遠藤家の求めに応じ制作したものであることがわかる。末尾には、「殤為」の下に「妄作後之視今」の6字が脱落していたのでこれを追記している。絵はこなれてはいるもののやはり素人の作というレベルだが、当時の文化人たちの交流を知る資料と言える。		

65　名称	秋景山水図（しゅうけいさんすいず）	品　質	絹本著色
作 者 等	幸野楳嶺筆	員　数	1幅
時　代	明治時代（19世紀）	寸 法 等	103.5×41.5cm
作品概要	幸野楳嶺（1844～1895）は京都の人。中島来章、塩川文麟らに学び、花鳥画を得意とした。明治13年京都府画学校（現在の京都市芸大）の設立に参加。竹内栖鳳・川合玉堂・上村松園らを育てた、明治前期京都画壇の重要画家である。付属する資料から、楳嶺の画塾と望月玉泉の画塾資清館の画家たちが合同で絵の頒布会を企画し、この頒布会で須羽彦右衛門が譲り受けたものであることがわかる。		

66　名称	猿柿図（さるかきず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	幸野楳嶺筆	員　数	1幅
時　代	明治時代（19世紀）	寸 法 等	143.0×47.3cm
作品概要	楳嶺の水墨技法の高さがよくわかる優品。		

67　名称	採筍図（さいじゅんず）	品　質	紙本著色
作 者 等	幸野楳嶺筆	員　数	1幅
時　代	明治時代（19世紀）	寸 法 等	120.2×31.6cm
作品概要	幸野楳嶺（1844～1895）は京都の人。中島来章、塩川文麟らに学び、花鳥画を得意とした。明治13年京都府画学校（現在の京都市芸大）の設立に参加。竹内栖鳳・川合玉堂・上村松園らを育てた、明治前期京都画壇の重要画家である		

68　名称	蘭図（らんず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	孝明天皇筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	37.4×55.9cm
作品概要	署名などはないが、孝明天皇宸翰と伝わる画賛。付属の書付には、弘化元年（1844）に佐々木家から安田家に譲られた旨が記されている。ただし、孝明天皇が即位したのは弘化3年なので、書付の内容を信ずるとすれば皇太子時代の作ということになる。		

69　名称	旭日双鶴図（きょくじつそうかくず）	品　質	絹本著色
作 者 等	近藤樵仙筆	員　数	1幅
時　代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	125.4×40.5cm
作品概要	近藤樵仙（1865～1951）は熊本の人。郷里で杉谷雪樵に師事し、その後雪樵とともに上京、日本画会・日本美術協会の中堅画家として文展に出品。宮内省の御用絵画や明治神宮壁画の制作などに携わり、画壇的地位を固めていった。しかし、大正3年の第8回文展の落選をきっかけに忽然と中央画壇から姿を消し、京都、鎌倉地方を遊歴しながらのちの半生を送った。		

70　名称	仙境雪景図（せんきょうせっけいず）	品　質	綾本墨画淡彩
作 者 等	塩川文麟筆	員　数	1幅
時　代	安政5年（1858）	寸 法 等	140.6×86.3cm
作品概要	塩川文麟（1808～1877）は京都の人。岡本豊彦に学び、維新期の四条派の中心的な存在となった。慶応2年（1866）、京都の画家を集めて如雲社を結成し、明治京都画壇の基礎を築いた。門下に幸野楳嶺、野村文挙らがいる。本作は綾本に描かれている点が珍しい。比較的大幅でもあり優品と言ってよい。		

71　名称	郭子儀図（かくしぎず）	品　質	絹本著色
作 者 等	鈴木百年筆	員　数	1幅
時　代	明治20年（1887）	寸 法 等	120.1×55.8cm
作品概要	鈴木百年（1825～91）は幕末～明治時代の画家。赤穂出身の儒学者鈴木星海の子。円山派の大西椿年らに師事（もしくは私淑）。明治13年京都府画学校の開設にあたり北宗科の教師となる。山水・花鳥画を得意とし、鈴木派の祖となった。晩年作。		

72 名称	鷺図（さぎず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	鈴木松年筆	員　数	1幅
時　代	明治時代（19世紀）	寸 法 等	137.6×52.4cm
作品概要	鈴木百年（1825～91）は幕末～明治時代の画家。赤穂出身の儒学者鈴木星海の子。円山派の大西椿年らに師事（もしくは私淑）。明治13年京都府画学校の開設にあたり北宗科の教師となる。山水・花鳥画を得意とし、鈴木派の祖となった。		

73 名称	雪月花図（せつげっかず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	鈴木松年筆	員　数	3幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	各118.1×30.7cm
作品概要	鈴木松年（1848～1918）は京都の人。円山派の画家鈴木百年の長男。明治14年京都府画学校の教員となる。内国勧業博覧会などで受賞。上村松園の最初の師としても知られる。本作は、花見帰りの美人を雪月花の花として中幅に据えた三幅対。「今蕭白」とはまた異なる、瀟洒な円山派の画風が好もしい優品。		

74 名称	達磨図（だるまず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	鈴木松年筆	員　数	4幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	各131.1×57.1cm
作品概要	「今蕭白」らしい力強い作品。顔の表情もユーモラス。松年の達磨図は人気が高く多くの作品が伝わっているが、それぞれポーズを違えた4幅対という大作であり展示効果も高い。		

75 名称	桃山茅屋図（とうざんぼうおくず）	品　質	絹本著色
作 者 等	鈴木松僊筆	員　数	1幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	127.8×36.3cm
作品概要	鈴木松僊（1872～？）は鈴木松年の長男。		

76 名称	達磨図（だるまず）	品　質	絹本墨画淡彩
作 者 等	木村光年筆	員　数	1幅
時　代	明治～昭和時代（19～20世紀）	寸 法 等	113.6×36.7cm
作品概要	木村光年（1877～？）は金沢の人。はじめ東京に出て山本光一に学び、のち京都で鈴木松年の門下となった。本作は光年の描いた達磨の絵に、師である松年が賛を記したもの。		

77 名称	林和靖・李白図（りんなせい・りはくず）	品　質	絹本著色
作 者 等	木村光年筆	員　数	2幅
時　代	明治～昭和時代（19～20世紀）	寸 法 等	各126.1×42.2cm
作品概要	林和靖「梅花」（「雪後園林纔半樹、水辺籬落忽横枝、人憐紅艶多応俗、天与清香似有私」）、李白「望廬山瀑布」（「日照香炉生紫煙、遥看瀑布掛長川、飛流直下三千尺、疑是銀河落九天」）を賛として引用しつつこれを絵画化している。		

78 名称	神武天皇図（じんむてんのうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	谷口香嶠筆	員　数	1幅
時　代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	120.6×56.0cm
作品概要	谷口香嶠（1864～1915）は大坂の人。京都の幸野楳嶺の塾に入門。歴史画に優れ、竹内栖鳳らとともに楳嶺門の四天王といわれる。京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校で教鞭を執った。神武天皇が大和の実力者である長髄彦と戦って勝てなかったとき、金鵄が天皇の弓弭にとまって雷のように輝いたため、長髄彦は眩惑されて戦意を失い、天皇は大和を平定しえたと伝える。本作はこれを主題とする。共箱。		

79 名称	業平東下図（なりひらあずまくだりず）	品　質	絹本著色
作 者 等	土佐光時筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（18～19世紀）	寸 法 等	95.0×34.5cm
作品概要	土佐光時（1764～1819）は土佐光淳の子。父の跡を継いで絵所預となる。寛政2年の内裏造営に際し、円山応挙・岸駒・叔父の土佐光貞らとともに障壁画の制作にあたった。文政元年(1818)には大嘗会悠紀主基屏風を描いた。『伊勢物語』「東下り」を主題とする定型図様。雪が「鹿の子まだらに」積もっている様子を描いているのが面白い。光時が従四位下に叙された文化11年（1814）以降の晩年作。		

80 名称	富士山図（ふじさんず）	品　質	絹本墨画
作 者 等	長澤蘆雪筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	25.1×45.9cm
作品概要	小品ながら、長澤蘆雪（1754～99）の水墨画の佳品である。		

81 名称	恵比寿図（えびすず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	中島来章筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	115.3×41.4cm
作品概要	中島来章（1796～1871）は近江の人。渡辺南岳、のち円山応瑞の門に入る。幕末の円山派の大家として重きをなし、横山清暉・岸連山・塩川文麟とともに平安四名家と称された。門下に幸野楳嶺らがいる。		

82 名称	大黒天図（だいこくてんず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	中島来章筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	97.8×28.6cm
作品概要	中島来章（1796～1871）は近江の人。渡辺南岳、のち円山応瑞の門に入る。幕末の円山派の大家として重きをなし、横山清暉・岸連山・塩川文麟とともに平安四名家と称された。門下に幸野楳嶺らがいる。		

83　名称	蓮図（はすず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	中島来章筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	129.2×58.6cm
作品概要	中島来章（1796～1871）は近江の人。渡辺南岳、のち円山応瑞の門に入る。幕末の円山派の大家として重きをなし、横山清暉・岸連山・塩川文麟とともに平安四名家と称された。門下に幸野楳嶺らがいる。		

84　名称	蓬莱山図（ほうらいさんず）	品　質	絹本著色
作 者 等	中島来章筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	106.3×42.2cm
作品概要	中島来章（1796～1871）は近江の人。渡辺南岳、のち円山応瑞の門に入る。幕末の円山派の大家として重きをなし、横山清暉・岸連山・塩川文麟とともに平安四名家と称された。門下に幸野楳嶺らがいる。呉春の作にならう旨を記す。		

85　名称	牛図（うしず）	品　質	紙本著色
作 者 等	野澤如洋筆	員　数	1幅
時　代	大正13年（1924）	寸 法 等	138.4×33.1cm
作品概要	野沢如洋（1865～1937）は弘前の人。京都で今尾景年に学び、日本美術協会展などに入賞。文展審査員に任命されたが辞退し、生涯反官展主義を貫いた。山水、馬などの水墨画を描き、「馬の如洋」と呼ばれた。大正13年12月に岡岩太郎が表装した際の須羽氏宛領収書が付属しているので、須羽家からの依頼による制作だったと見られる。		

86　名称	烏図（からすず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	野澤如洋筆	員　数	1幅
時　代	明治30年（1897）	寸 法 等	132.0×66.4cm
作品概要	野沢如洋（1865～1937）は弘前の人。京都で今尾景年に学び、日本美術協会展などに入賞。文展審査員に任命されたが辞退し、生涯反官展主義に立つ。水墨画を専らとした。款記から、細辻家のために制作したものとわかる。		

87　名称	鯉登瀑布図（りとうばくふず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	長谷川玉峰筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	137.7×56.2cm
作品概要	長谷川玉峰（1822～1879）は京都の人。四条派の松村景文に学び、花鳥画を得意とした。本作は鯉を描く際に水流を巧みに塗り残すことで、流れ落ちる水の中を泳ぐさまを表現している。これは応挙が得意とした表現手法で、当館にも応挙による類作があり、円山派における図様の継承を示すことができる点でも意義深い。		

88　名称	士農工商図（しのうこうしょうず）	品　質	絹本墨画淡彩
作 者 等	長谷川玉峰筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	99.0×26.9cm
作品概要	士農工商を主題とする絵画は、浮世絵を含め少なくない作例が知られており、本作もその流れを汲むものと言える。本作は、愛らしいユニークな人物描写がとりわけ印象深い魅力的である。		

89　名称	蝦蟇鉄拐図（がまてっかいず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在中筆	員　数	2幅
時　代	江戸時代（18～19世紀）	寸 法 等	各155.5×78.7cm
作品概要	原在中（1750～1837）は京都の人。鶴澤派の石田幽汀、のち円山応挙に学び、原派の祖となった。本作は、顔輝筆「蝦蟇鉄拐図」（知恩寺蔵）を写したもの。背景描写も含め細部まで丹念に写し取りつつ、独立した作品として確固たる表現を作り上げている。		

90　名称	寒山拾得図（かんざんじっとくず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	原在中筆	員　数	2幅
時　代	天明6年（1786）	寸 法 等	各120.6×40.8cm
作品概要	原在中（1750～1837）は京都の人。鶴澤派の石田幽汀、のち円山応挙に学び、原派の祖となった。37歳の作。		

91　名称	鶺鴒図小襖（せきれいずこぶすま）	品　質	紙本金地墨画
作 者 等	原在中筆	員　数	2面
時　代	江戸時代（18～19世紀）	寸 法 等	各65.6×64.3cm
作品概要	原在中（1750～1837）は京都の人。鶴澤派の石田幽汀、のち円山応挙に学び、原派の祖となった。檀紙に箔を貼って水墨で描いた作。		

92　名称	高砂浦相生松真図（たかさごうらあいおいまずしんず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	原在中筆	員　数	1幅
時　代	天保2年（1831）	寸 法 等	113.8×57.3cm
作品概要	高砂の相生の松を描いた在中の画に、明治3年（1870）になって歌人の平忠秋（1811～81）が和歌賛を記している。忠秋の款記によれば、この和歌は伊勢の五十鈴川の水を使って書いたという。桂園派歌人としても知られる永楽屋細辻家8代の昌雄は、明治14年に忠秋の歌集を出版しているので、その筋からの繋がりで賛が書かれた可能性が考えられる。		

93 名称	関羽図（かんうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在照筆	員　数	1幅
時　代	文久元年（1861）	寸 法 等	108.8×41.8cm
作品概要	原在照（1813～71）は江戸後期～明治時代の画家。原在明（在中次男、原派2代目）の娘婿。画法を養父に学び、原派3代を継いだ。安政の内裏造営のとき障壁画を描いた。款記から、何らかの古図を写したものとわかる。		

94 名称	瀑布図　ばくふず）	品　質	絹本墨画淡彩
作 者 等	原在泉筆	員　数	1幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	112.1×41.2cm
作品概要	原在泉（1849～1916）は京都の人。原在照の養嗣子で、原派4代目。明治13年京都府画学校教授。有職故実に通じ、作品に「明治天皇御大喪絵巻」や仁和寺宸殿の障壁画などがある。箱書きによれば、明治33年（1900）に「関長利」なる人物の遺品として、遠藤家が入手したという。		

95 名称	八幡公凱旋図（はちまんこうがいせんず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在泉筆	員　数	1幅
時　代	明治44年（1911）	寸 法 等	109.6×42.2cm
作品概要	共箱。原在泉（1849～1916）は京都の人。原在照の養嗣子で、原派4代目。明治13年京都府画学校教授。有職故実に通じ、作品に「明治天皇御大喪絵巻」や仁和寺宸殿の障壁画などがある。		

96 名称	春駒・桃花牛図（はるこま・とうかうしず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在泉筆	員　数	2幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	各129.4×50.9cm
作品概要	周の武王が殷の紂王を滅ぼしたのち、軍用の馬を華山に、牛を桃林に放ったという『書経』「武成篇」に見える故事に基づく作品と考えられる。付属の書付によれば、十二支を主題とする作品のうち二、三月に相当するといい、もとは12幅セットの作品だったらしい。子の在寛による箱書きがある。		

97 名称	蓬莱仙境図（ほうらいせんきょうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在泉筆	員　数	1幅
時　代	大正2年（1913）	寸 法 等	113.0×41.0cm
作品概要	款記から、遠藤氏の婚礼祝いとして制作されたものとわかる。		

98 名称	白菊睡猫図（しらぎくすいびょうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在寛筆	員　数	1幅
時　代	大正2年（1913）	寸 法 等	108.9×42.1cm
作品概要	原在寛（1884～1957）は原在泉の次男、応挙の弟子在中に始まる原派の5代目。京都市美術工芸学校（現在の京都市芸大）図案科卒業。明治末に父在泉が依頼を受けた仁和寺宸殿の障壁画製作には助手として協力した。菊の下で眠る猫を描いた作。箱書きによれば、大正2年（1913）に原在寛が結婚した際、答礼として本作が描かれたという。		

99 名称	富士山図（ふじさんず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在寛筆	員　数	1幅
時　代	大正11年（1922）	寸 法 等	40.0×50.1cm
作品概要	共箱。遠藤氏の富士登山を記念して制作されたことがわかる。またその際、「金明水」つまり富士山頂に湧く水を使用したことが明記されている。金明水を使って墨をするなどして富士山を描くのは、江戸時代後期から主に文人画家を中心に流行した手法。それが近代の原派においても継承されている点は興味深い。		

100 名称	吹飯浦鶴図（ふけいのうらつるず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在寛筆	員　数	1幅
時　代	昭和7年（1932）	寸 法 等	115.6×42.8cm
作品概要	共箱。吹飯浦とは、大阪府泉南郡岬町深日の海岸。古くから景勝地として知られた歌枕で、鶴の名所だった。付属する在寛自身の書付から、藤原清正「天つ風ふけいのうらにゐるつるのなどか雲井に帰らざるべき」（『新古今和歌集』）に基づく絵画表現とわかる。		

101 名称	山水図（さんすいず）	品　質	絹本墨画淡彩
作 者 等	日根対山筆	員　数	1幅
時　代	文久3年（1863）	寸 法 等	129.1×41.2cm
作品概要	日根対山（1813～1869）は江戸時代後期～幕末の画家。大坂和泉の人。京都の貫名海屋に学問と書画の指導をうけ、文人画山水を得意とした。款記に「仿梅道人画法」とあり、元末四大家のひとり呉鎮の画法にならった旨を記す。		

102 名称	山水図押絵貼屏風（さんすいずおしえばりびょうぶ）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	日根対山筆	員　数	8曲1隻
時　代	慶応2年（1866）	寸 法 等	各図136.3×26.6cm
作品概要	各図には四字題が付されており、明末の画家王建章の「桐城十景図」にちなむ主題であることがわかる。桐城は安徽省に位置する都市で、古城で知られる。その景観を描く王建章の「桐城十景」は、奥原清湖が模本をつくるなど、幕末の文人画家には知られていたものだったらしい。本作は8図なので十景すべてが網羅されているわけではないが、中国の名勝を主題とする大作として貴重である。		

103 名称	桃源図（とうげんず）	品　質	紙本著色
作 者 等	本田蔭軒筆	員　数	1幅
時　代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	27.8×37.0cm
作品概要	本田蔭軒（1881～1945）は中国哲学者・漢学者・書画家。岐阜県生。青木正児・小島祐馬と共に支那学舎を結成し、同人誌「支那学」を創刊した。画を富岡鉄斎に師事し、南宗派を能くした。		

104 名称	群鴨図（ぐんおうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	前川文嶺筆	員　数	1幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	111.1×42.0cm
作品概要	前川文嶺（1837～1917)は京都の人。松村景文門下の四条派画家、前川五嶺の子として生まれる。開校時の京都府画学校に出仕し、京都私立日本青年絵画共進会では審査員を務めるなど、明治初期における京都画壇の中堅作家として活躍した。内国絵画共進会・内国勧業博覧会・日本絵画協会・日本美術院連合絵画共進会・日本南画協会展などに出品している。		

105 名称	恵比寿図（えびすず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	松村景文筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	110.3×28.2cm
作品概要	松村景文（1779～1843）は江戸時代後期の画家。京都の人。呉春の異母弟。優麗な花鳥画を得意とした。呉春亡きあと四条派の中心となる。		

106 名称	大黒天図（だいこくてんず）	品　質	絖本墨画
作 者 等	松村景文、中島来章筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	36.3×41.9cm
作品概要	本作は、絖本に景文が宝珠を、来章が金泥で大黒を描いたおめでたい作。		

107 名称	月兎図（げっとず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	村瀬双石筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	115.3×29.8cm
作品概要	村瀬雙石（1822～77）は京都の人。松村景文に画を学んだ四条派の画家。月に兎が棲むという言説は、紀元前4～3世紀、中国戦国時代に遡るとされ、釈迦の本生譚や神仙思想などが入り混じり、兎が月で仙薬をつく図像が生まれた。これが、日本において餅をつくとされるようになった事情は必ずしも明らかではないが、満月を意味する「望月」からの連想であるとも言われる。		

108 名称	鶏・牛図（とり・うしず）	品　質	絹本著色
作 者 等	村瀬双石筆	員　数	1幅
時　代	慶応3年（1867）	寸 法 等	各105.2×35.9cm
作品概要	村瀬雙石（1822～77）は京都の人。松村景文に画を学んだ四条派の画家。慶応3年（1867）11月の作。十二支のうちの二図であった可能性もある。		

109 名称	若王夏瀑・保津渓雪図 （にゃくおうかばく・ほずけいせつず）	品　質	絹本著色
作 者 等	望月玉泉筆	員　数	2幅
時　代	明治24年（1891）	寸 法 等	各112.2×41.5cm
作品概要	望月玉泉（1834～1913）は幕末～明治期の画家。京都の人。江戸時代中期から続く望月派の画家玉川の子で望月派4代目。幸野楳嶺らと京都府画学校の創設を建議し、明治13年の開校に際しては東宗（大和絵）担当の教員となっている。明治37年には帝室技芸員となった。京都の名勝百景を選んで百図を制作したうちの2幅。これまで所在が知られていなかった新発見作としてたいへん貴重である。		

110 名称	太秦春趣・桂川斜照図 （うずまさしゅんしゅ・かつらがわしゃしょうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	望月玉泉筆	員　数	2幅
時　代	明治24年（1891）	寸 法 等	各113.2×41.7cm
作品概要	望月玉泉（1834～1913）は幕末～明治期の画家。京都の人。江戸時代中期から続く望月派の画家玉川の子で望月派4代目。幸野楳嶺らと京都府画学校の創設を建議し、明治13年の開校に際しては東宗（大和絵）担当の教員となっている。明治37年には帝室技芸員となった。京都の名勝百景を選んで百図を制作したうちの2幅。これまで所在が知られていなかった新発見作としてたいへん貴重である。		

111 名称	芦雁図（ろがんず）	品　質	絹本著色
作 者 等	望月玉泉筆	員　数	2幅
時　代	明治39年（1906）	寸 法 等	各110.4×50.4cm
作品概要	泉屋博古館分館に明治40年作の類品がある。芦雁図を得意とした玉泉の優品。		

112 名称	僊山迎春図（せんざんげいしゅんず）	品　質	絹本墨画
作 者 等	望月玉川筆	員　数	1幅
時　代	嘉永4年（1851）	寸 法 等	107.5×44.0cm
作品概要	望月玉川（1794～1852）京都の人。望月派の画家2代玉仙（初代玉蟾の子）の子で、望月派の3代目。幼時に父を失い、村上東洲・岸駒に学んだ。のち四条派の松村月渓の画風を学び、一家をなした。本作は富士山を写実的に描いたもので、描表装には雲鶴文があしらわれた吉祥性の強い作品となっている。八双裏に玉川自身による識語があり、嘉永４年（1851）に須羽氏のために制作した旨が記されている。		

113 名称	花鳥・山水図（かちょう・さんすいず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	山本梅逸、中林竹洞筆	員　数	2幅
時　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	梅逸：133.5×28.9cm　竹洞：138.2×29.4cm
作品概要	尾張の南画家による対幅。他の作品と若干毛色が異なり、市場流通品を購入したものである可能性が高い。		

114 名称	悠紀田之秋（ゆきでんのあき）	品　質	絹本著色
作 者 等	渡辺公観筆	員　数	1幅
時　代	昭和3年（1928）	寸 法 等	45.0×50.3cm
作品概要	渡辺公観（1878～1938）は大津の人。明治27年京都美術工芸学校に入り、翌年退学、森川曽文に師事する。文展にたびたび出品、大正8年井口華秋、広田百豊と共に日本自由画壇を創立し、毎年同展に出品した。箱書きから、昭和3年（1928）に野洲市御上神社のそばにあった昭和天皇大嘗祭の悠紀田を描いたものとわかる。		

115 名称	柳蔭漁艇図（りゅういんぎょていず）	品　質	絹本墨画
作 者 等	江上瓊山筆	員　数	1幅
時　代	明治43年（1910）	寸 法 等	138.0×42.0cm
作品概要	江上瓊山（1862～1924）は明治期の長崎を代表する南画家、書家。幕末三筆のひとり鉄翁の流れを汲む守山湘颺に南画を、岡田篁所に書を学んだ。明治38年に京都師範学校教師として招聘される。京都では、亡命清人である羅振玉や富岡鉄齋・桑名鐵城・犬養毅などとの交流の中で風雅を極めた。		

116 名称	臨孟覲乙江南碩果図（りんもうきんいつこうなんせきかず）	品　質	紙本著色
作 者 等	江上瓊山筆	員　数	1幅
時　代	明治35年（1902）	寸 法 等	109.5×37.4cm
作品概要	江上瓊山（1862～1924）は明治期の長崎を代表する南画家、書家。幕末三筆のひとり鉄翁の流れを汲む守山湘颺に南画を、岡田篁所に書を学んだ。明治38年に京都師範学校教師として招聘される。京都では、亡命清人である羅振玉や富岡鉄齋・桑名鐵城・犬養毅などとの交流の中で風雅を極めた。		

117 名称	忠臣蔵図扇面貼交屏風 （ちゅうしんぐらずせんめんはりまぜびょうぶ）	品　質	絹本著色
作 者 等	北野恒富ほか筆	員　数	1幅
時　代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	各図17.0×54.2cm
作品概要	北野恒富（1880～1947）は明治～昭和戦前期を中心に活躍した画家。石川県の出身。稲野年恒に師事。明治43年文展で「すだく虫」が初入選。大正3年からは院展に出品。6年日本美術院同人。また大正美術会、大阪美術会を結成。大阪を拠点に独特の美人画を描いた。本作は、「仮名手本忠臣蔵」から15の名場面を恒富ら12名の画家が描いた扇面を貼り交ぜた屏風。		

118 名称	瀬戸之石図（せとのいしず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	趙陶斎筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	62.0×26.3cm
作品概要	趙陶斎（1713～86）は江戸時代中期の書家。長崎の人。清の商人の子という。竺庵浄印に師事、のち還俗して大坂の深見氏の家に住む。書をもって諸国を遊歴し、晩年は堺で森田士徳らの後援を受けた。撰者未詳の賛によれば、宝暦13年（1763）に瀬戸で手に入れた石を描いたという。文人たちの石の愛好を背景として、この種の作品が多く制作された。ただし、本作は写しの可能性もあるか。		

119 名称	宝珠図（ほうじゅず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	鶴澤探山筆	員　数	1幅
時　代	正徳2年（1712）	寸 法 等	31.3×53.9cm
作品概要	鶴澤探山（1655～1729）は江戸時代前期～中期の画家。鶴沢家の祖。元禄のころ狩野探幽門下から選抜され、禁裏御用絵師となる。宝永期の内裏造営、享保期の東宮御殿建造に際し障壁画を描いた。正月に描いたもの。		

120 名称	立葵図扇面（たちあおいずせんめん）	品　質	紙本著色
作 者 等	中村芳中筆	員　数	1枚
時　代	江戸時代　18～19世紀	寸 法 等	縦21.3cm　横55.5cm
作品概要	京都に生まれ、大坂に移り住んで活動した中村芳中（？～1819）の扇面で、もとは屏風貼交だったうちの1枚。これまで、当館の館蔵品には芳中の作が1点もなく、寄贈によってその欠が補われることは喜ばしい。		

121 名称	富士山図扇面（ふじさんずせんめん）	品　質	紙本著色
作 者 等	中村芳中筆	員　数	1枚
時　代	江戸時代　18～19世紀	寸 法 等	縦21.3cm　横55.3cm
作品概要	京都に生まれ、大坂に移り住んで活動した中村芳中（？～1819）の扇面で、もとは屏風貼交だったうちの1枚。これまで、当館の館蔵品には芳中の作が1点もなく、寄贈によってその欠が補われることは喜ばしい。		

＜書跡＞（108件）

1　名称	題伊藤紫虹画展　一九五六年（いとうしこうがてんにだいす）	品　質	紙本墨書
作 者 等	張大千筆	員　数	1幅
時　代	中国　近代	寸 法 等	26.5×56.1cm
作品概要	張大千(1899-1983)が東京で開催された伊藤紫虹氏の初の個展に贈った題辞。張大千の友人である溥儒の弟子となった伊藤氏の才能を讃えるもので、近現代の中国を代表する二大家と、日本人画家の直接の交流が記録されている点でも貴重な書幅。		

2　名称	行書陋室銘（ぎょうしょろうしつめい）	品　　質	紙本墨書
作 者 等	金権郁筆	員　　数	1幅
時　　代	1913年	寸 法 等	131.0×37.3cm
作品概要	中唐の劉禹錫「陋室銘」を書したもの。陋室とは狭くて粗末な部屋のことどんなに狭くて粗末な部屋に住んでいても、自身の品徳を高尚に保っていれば何ら恥じることはないことを詠う。書写した金権郁については未詳。富岡鉄斎旧蔵品。		

3　名称	隷書五言詩聯　拓本（れいしょごごんしれん　たくほん）	品　　質	紙本墨拓
作 者 等	金農筆	員　　数	1対
時　　代	中国　清時代	寸 法 等	各92.2×19.4cm
作品概要	唐の温庭筠「秘書劉尚書晩歌詞二首」の詩句「王筆活鸞鳳、謝詩生芙蓉」（王羲之の書法は鸞鳳を活かし、謝霊運の詩は芙蓉を生じる）を、揚州八怪のひとりにあげられる、清の金農があらわした漆書の拓本。本作はその拓本を額に貼り、対聯に仕立てている。富岡鉄斎の旧蔵品。		

4　名称	行書潤格　拓本（ぎょうしょじゅんかく　たくほん）	品　　質	紙本墨拓
作 者 等	鄭燮筆	員　　数	1面
時　　代	中国　清時代	寸 法 等	27.2×93.2cm（最長）
作品概要	揚州八怪のひとりにあげられる、清の鄭燮（鄭板橋）が記した潤格（値段表）の拓本を額装したもの。官途から外れ、揚州市中で書画を売って生活することとなった鄭燮が、「大幅は六両、中幅は四両、小幅は二両。書條、対聯は一両。扇子、斗方は五銭」とみずから値段を決めて掲げたもの。伝統的文人像と一線を画した、近代作家の新しい生き方を示す記念的な内容で、日本の作家にも好まれた。富岡鉄斎の旧蔵品。		

5～106 名称	漢詩色紙（かんししきし）など	品　　質	紙本墨書など
作 者 等	伝後伏見天皇筆	員　　数	102件
作品概要	金石文や書道史の研究者で、書家としても活躍した須羽源一（水雅、1910～74）の旧蔵品である。大きく1和歌懐紙を中心とする和様の書、2貫名海屋をはじめとする唐様の書、3拓本類に分けられ、3の多くは書を学んだ山本竟山（1863～1934）の没後、行われた蔵品の売り立てにて落掌した。これらは、縁故をたどって直接、あるいは間接に入手したものが大半を占めると考えられる。長尾雨山や呉昌碩など、近現代を代表する著名な書家の作品を含んでいる点に加え、これらを群として検討することで、源一が自身の書風を形成するにあたり何を手本としたかが判明する点が重要といえる。細目は以下の通り。 5　漢詩色紙　伝後伏見天皇筆　1幅　　6　墨蹟　高泉性潡筆　1幅　　7　行書陶淵明五言古詩　貫名海屋筆　1幅 8　楷書五律一首　翁同龢筆　1幅　　9　篆書「万歳万歳万々歳」　呉昌碩筆　1幅　　10　臨洛神賦　貫名海屋筆　1冊 11　摹秦嶧山碑　貫名海屋筆　1冊　　12　尺牘　翁同龢筆　1冊　　13　唐顔真卿争坐位文稿 西安本　明拓　1冊 14　隋蘇孝慈墓誌拓本　張榮升跋本　1冊　　15　始興忠武王碑拓本　1冊　　16　漢史晨前後碑拓本　秋字已損　2冊 17　筠清館帖　存四冊　４冊　　18　潘存臨北魏高貞碑　他二種　1冊　　19　張大千題何紹基臨漢石門頌井土霊山双鉤　1冊 20　停雲館法帖　十二巻本　12冊　　21　和歌懐紙（新年詠新年松応制歌）　有栖川宮威仁親王筆　1幅 22　詠草（わが宿の）　京極宮家仁親王筆　1幅　　23　和歌懐紙（寄松祝）　五辻豊仲筆　1幅 24　和歌懐紙（花似雲）　岡本保考筆　1幅　　25　和歌懐紙（夏日詠故郷郭公）　香川景樹筆　1幅 26　和歌懐紙（友なる季延）　香川景恒筆　1幅　　27　和歌色紙（竹契遐年）　梶井宮承真法親王筆　1幅 28　和歌懐紙（十五夜月）　賀茂季鷹筆　1幅　　29　和歌懐紙（歳のくれに）　賀茂季鷹筆　1幅 30　和歌懐紙（春日同詠歓無極歌）　賀陽宮邦憲王筆　1幅　　31　和歌懐紙（治世文事興）　清水谷公正筆　1幅 32　和歌懐紙（不尽）　千種有功筆　1幅　　33　和歌懐紙（常磐木雪）　日野資枝筆　1幅 34　和歌短冊（もみちのみしよみける中に）　山中信天翁筆　1幅　　35　和歌懐紙（月契久秋といや心を）　冷泉為則筆　1幅 36　和歌懐紙（寄世述懐のこゝろを）　冷泉為理筆　1幅　　37　五絶一首（為原田西疇作）　江馬天江筆　1幅 38　尺牘（西頻先生宛）　河井荃廬筆　1幅　　39　八秩自寿詩コロタイプ　日下部鳴鶴筆　1幅 40　行書移居詩　小林卓斎筆　1幅　　41　行書詩文　杉溪言長（六橋）筆　1枚　　42　臨蘭亭序　須羽水雅筆　1幅 43　篆書「和而敬」　園田湖城筆　1幅　　44　篆書「敬徳」　園田湖城筆　1枚　　45　篆書「苦瓢連根苦」　園田湖城筆　1幅 46　篆書「万歳」書　富岡鉄斎筆　1幅　　47　草書茉莉花五律　長尾雨山筆　1幅　　48　額字「百禄是遒」　山本竟山筆　1幅 49　額字「柳條」　山本竟山筆　1幀　　50　真書六言対聯　山本竟山筆　2幅　　51　臨蘭亭序　山本竟山・須羽水雅筆　3巻 52　乙丑詩書　王一亭筆　1幅　　53　額字「心与水月涼」　陳曼寿筆　1幀　　54　行書唐詩　鉄保筆　1幅 55　金秋史墨寶　金正喜筆　1冊　　56　宝賢堂集古帖　零本　1冊　　57　停雲館法帖　零本　1冊 58　清歎閣蔵帖　存五冊　5冊　　59　海山仙館蔵真　存十六冊　16冊　　60　滋蕙堂帖　存三冊　3冊 61　墨妙軒法帖　零本　1冊　　62　式古堂法帖　存三冊　3冊　　63　唐孫過庭法帖　（揚雄蜀都賦）　1冊 64　魏鍾繇宣示表　他　1点　　65　唐孫過庭書譜安岐刻本　1冊　　66　楽毅論　1冊 67　王献之洛神賦十三行　林佶跋　1冊　　68　王献之洛神賦　貫名海屋旧蔵　1冊　　69　集帖　趙模千字文　零本　1冊 70　響琴斎晋帖　零本　1冊　　71　垂裕閣法帖　和刻本　零本　1冊　　72　玉虹鑑真帖　零本　1冊 73　墨池堂帖　零本　1冊　　74　唐孫過庭書譜　和刻本　1冊　　75　唐懐素千金帖　和刻本　1冊　　76　唐懐素法帖　1冊 77　緑天庵瑞石帖　存四冊　４冊　　78　蘭亭序　米芾跋　1冊　　79　渤海李思訓真帖　存六冊　６冊 80　東魏隻脩羅碑拓本　1冊　　81　隋斐鏡民碑拓本　1冊　　82　唐孫過庭書譜　宋寧宗臨本　1冊 83　渤海蔵真帖　零本　1冊　　84　隋信州舎利塔銘拓本　1冊　　85　北魏高貞碑拓本　1冊 86　北魏張猛龍碑　1冊　　87　北魏李璧墓誌拓本　1冊　　88　唐伊闕仏龕碑拓本　1冊　　89　唐温彦博碑拓本　1冊 90　唐皇甫誕碑拓本　1冊　　91　唐李思訓碑拓本　1冊　　92　唐昭仁寺碑拓本　1冊　　93　前秦広武将軍碑拓本　1冊 94　劉宋爨龍顔碑拓本　1冊　　95　唐周孝侯之碑拓本　1冊　　96　唐雁塔聖教序拓本　1冊 97　漢司隷校尉楊孟文石門頌拓本　1冊　　98　漢封龍山碑拓本　1冊　　99　漢孔宙碑拓本　1冊　　100 漢衡方碑拓本　1冊 101 唐李思訓碑拓本（重刻）　1冊　　102 北魏石門銘拓本　1冊　　103 唐晋祠銘題名記拓本　1冊 104 北魏雲峯山（天柱山）全套　12冊　　105 梅所臨薛紹彭書譜　1巻　　106 清人詩集　1冊

107 名称	東福寺即宗院（薩摩島津氏菩提寺）関係文書 （とうふくじそくしゅういん（さつましまづしぼだいじ）かんけいもんじょ）	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	88通
時　　代	桃山～江戸時代（16～19世紀）	寸 法 等	第1通 伊勢貞昌書状（折紙、35.4×49.7cm）　第2通 伊勢貞昌書状（折紙、37.6×52.9cm）　ほか
作品概要	薩摩島津氏の菩提寺である東福寺即宗院に伝来した文書群。同院は、島津氏久の菩提を弔うため、剛中玄柔（東福寺54世、1318～88）を開基として嘉慶2年（1388）に創建されたと伝え、永禄12年（1569）には火災により焼失するが、島津家久（忠恒、1576～1638）の尽力により、慶長末年に再興を果たした。これらは、天正8年（1580）と考えられる「北郷時久書状」を上限とし、嘉永4年（1851）の「島津斉彬入部参詣入用帳」を下限とする88通からなり、伊勢貞昌をはじめ、薩摩藩の家老が発給した書状が中心をなす。再興に関連する文書を多く含み、加えて、表装がなされておらず、ほぼオリジナルの状態を保っているため、内容および形態の面で重要な情報を提供してくれる。		

108 名称	木戸孝允書状（四月廿五日付） （きどたかよししょじょう （しがつにじゅうごにちづけ））	品　質	紙本墨書
作者等		員　数	1幅
時　代	江戸時代　慶応4年（1868）	寸法等	第1段 18.7×40.1cm　第2段 18.7×40.1cm　第3段 18.7×40.1cm　第4段 18.7×40.4cm　第5段 18.7×40.8cm
作品概要	木戸孝允（桂小五郎、1833～77）が後藤象二郎にあてた書状。もとは数枚の紙を貼り継いだ切続紙であったが、現状はほぼ等間隔で切断のうえ、軸装へと改められている。署名に「準一郎」を用いることから、33～36歳ごろのものであり、文中に「御一新」の表記がみえ、さらに、明治天皇が大坂に巡幸中と分かるため、慶応4年と判明する。大隈重信・三条実美・伊達宗城らとともに、天皇の御前にて、肥前国彼杵郡浦上村における潜伏キリシタンの処分（浦上四番崩れ）について相談したことが本文の中心をなし、明治新政府のみならず、木戸本人のキリスト教にたいする強硬な姿勢が表れており興味ぶかい。		

＜金工＞（3件）

1　名称	七宝蓮華形香炉（しっぽうれんげがたこうろ）	品　質	銅製　鋳造　鍛造　象嵌七宝　鍍金
作者等		員　数	1口
時　代	江戸時代　17～18世紀	寸法等	口径27.3cm　胴径36.5cm　高12.2cm
作品概要	蓮華の花を模した大型の香炉。胴の側面に大ぶりの蓮弁を象嵌七宝であらわし、脚部を荷葉形とする。七宝の色調を赤から白へと無段階に変化させたグラデーションで連弁を彩り、鍍金部分と対比させることで一層の華やかさを演出している。近世の象嵌七宝の作品としてはかなりの大型作品である点も貴重である。		

2　名称	刀　銘肥前国住近江大掾藤原忠廣 （かたな　めい ひぜんのくにじゅうおうみだいじょうふじわらのただひろ）	品　質	鉄製　鍛造
作者等	近江大掾忠廣（二代）	員　数	1口
時　代	江戸時代　17世紀	寸法等	刃長71.4cm　反り2.1cm
作品概要	肥前国の刀工・初代忠吉の子である近江大掾忠廣の手による打刀。近江大掾忠廣は新刀期を代表する名工の一人で、半世紀以上にわたる作刀活動から現存作品は極めて多い。その中でも本品は忠廣の常の作風とはやや異なる互の目を主体とした非常に華やかな出来であり、長寸で身幅が広く、重も厚く、彼の現存作例の中でも抜きん出た名品である。		

3　名称	刀　銘備州長船祐光 （かたな　めい びしゅうおさふねすけみつ）	品　質	鉄製　鍛造
作者等	長船祐光	員　数	1口
時　代	室町時代　15～16世紀	寸法等	刃長64.4cm　反り2.0cm
作品概要	備前国長船派の刀工である祐光は永享頃の初代から17世紀末まで続いた名跡。本品は「片手打」と呼ばれる軽快な取り回しに主眼を置いた打刀の一種で、戦場の主力が騎馬武者による弓射戦から徒歩武者による打物戦に移行した時期に出現した。この打ち刀は先反りのついた短めの刀身と、拳一つ分しかない短小な茎仕立てが典型的な片手打の体配を示しており、室町時代の武装の変化を知る上で重要である。		

＜漆工＞（3件）

1　名称	江上瓊山所用 古竹払子 （えがみけいざんしょよう　こちくほっす）	品　質	竹　絹
作者等	不詳	員　数	1本
時　代	江戸～明治時代　19世紀	寸法等	長47.5cm　径3.2cm
作品概要	竹製の柄の先端に竹の小枝の束を取りつけ、絹組紐を編んで枝の根元を覆った小型の払子。毛先を獣毛でなく竹の枝で作るのは珍しい。附属の白絹包裂に、髙野清雄（1862-1921）による明治42年（1909）の本品を譲り受けた旨の由緒書きと、師である江上瓊山(1862-1924)による大正11年（1922）の竹図および墨書がある。瓊山が清雄に与えた本品だったが、先に没した清雄を偲んで瓊山が包裂に画と銘文を寄せたものらしい。		

2　名称	玳瑁塗輪花天目台（たいまいぬりりんかてんもくだい）	品　質	木製　箔押　漆塗　漆絵
作者等		員　数	1口
時　代	室町～桃山時代　16世紀	寸法等	最大径16.5cm　高9.5cm
作品概要	禅宗寺院で献茶などで用いる天目碗用の台。鍔を六弁花形に作り、表面は、漆塗りの上に金箔を押し、その上から漆を塗り、ところどころ濃い飴色の漆で雲や七宝文様を描いている。この手法は見た目が鼈甲に似た仕上がりになるということで、玳瑁塗と呼ばれている。本品は木地が薄く、鍔の裏まで花弁が立体的に彫り出されており、類品のなかでも古様を見せる。		

3　名称	朱漆塗および玳瑁塗輪花天目台　伝即宗院伝来 （しゅうるしぬり および たいまいぬりりんかてんもくだい でんそくしゅういんでんらい）	品　質	木製　箔押　漆塗　漆絵
作者等		員　数	3口
時　代	桃山～江戸時代　17-19世紀	寸法等	1.最大径16.2cm　高9.5cm、 2.最大径16.3cm　高10.2cm、 3.最大径16.0cm　高8.7cm
作品概要	上記と同様の天目台。東福寺の塔頭のひとつ、即宗院に関わる文書（書跡分野で受贈）とともに伝わった。3口のうち２口は、錫箔の上に梨地漆をかけた玳瑁塗りとし、縁金具をつけ、高台内にそれぞれ「東福寺」「竜吟」（塔頭、竜吟院を示す）の銘があり、東福寺伝来の天目台と同形、同装飾であることから、一連の品と思われ、実際に即宗院に伝来した可能性が高い。残りの1口は時代が下がり、総体朱漆塗である。		

＜陶磁＞（1件）

1　名称	褐釉有蓋壺（かつゆうゆうがいこ）	品　質	施釉陶器
作者等		員　数	1口
時　代	唐時代（８～９世紀）	寸法等	総高17.6cm　高14.5cm　口径5.2cm　胴幅13.5cm　底部6.6～6.5cm
作品概要	蓋のついた小振りの壺である。蓋裏、身の底部周辺以外には褐色の釉が掛けられている。胎土は白色、形状としては万年壺と呼ばれるものに近いが、やや細身であることと口づくりの立ち上がるの様子などはそれらと異なっている。		

＜染織＞（1件）

1　名称	第五回内国勧業博覧会紀念　染織鑑 （だいごかいないこくかんぎょうはくらんかいきねん　せんしょくかがみ）	品　　質	
作 者 等		員　　数	1冊（見本裂貼付台紙　253枚）
時　　代	明治時代　明治37年（1904）発行	寸 法 等	見本裂台紙：縦26cm　横19cm
作品概要	明治36年（1903）、大阪今宮で開催された第五回内国勧業博覧会の後に、染織品出品者および関係者の有志の発意により、実用社から発刊された見本裂付きの記念誌。裂貼の帙に冊子一冊と見本裂を貼付した台紙253枚が納められる。見本裂は、厚紙の台紙１枚に上下２枚が貼り付けられる。台紙には、生地の産地、織の丈幅、量目、価格、備考が記載されており、この時代の日本における染織技術の水準を知ることができる。		

＜歴史資料＞（2件）

1　名称	獅鈕石印（ししちゅうせきいん）	品　　質	石製
作 者 等	池大雅刻	員　　数	2顆
時　　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	角印：高6.9cm　楕円印：高7.0cm
作品概要	池大雅が刻したとされる石印。大雅自身の用印ではないようだが、「無名」「三岳逸史」の刻銘がある。		

2　名称	劉冷窓所用印（りゅうれいそうしょよういん）	品　　質	木製
作 者 等	山本竹雲刻	員　　数	2顆
時　　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	大：6.4×6.6×6.4cm
作品概要	山本竹雲（1826～94）は幕末～明治時代の篆刻家。細川林谷に師事。篠崎小竹に漢学を学ぶ。煎茶道でも名を知られ、茶器の鑑定には定評があった。刻銘から、劉冷窓のために刻した印であることがわかる。劉冷窓（1825～70）は江戸後期～明治時代の儒者。劉石秋の子。広瀬淡窓に学ぶ。父に従って丹波園部藩に仕え、藩校教先館で教えた。漢詩、書に優れた。		

【奈良国立博物館】　（計17件）

（１）購入（12件）

＜彫刻＞（3件）

1　名称	木造普賢菩薩坐像（もくぞうふげんぼさつざぞう）	品　　質	木造（ヒノキ材か）　彩色
作 者 等		員　　数	一軀
時　　代	平安時代（11世紀）	寸 法 等	像高46.2cm　髪際高34.5cm
作品概要	ヒノキと推定される一材から彫り出された坐像。手先や天衣まで同材から作り出す構造は古様で、表情や四角張った輪郭は10世紀の特徴を示すが、厚みを減じた体軀や浅い脚部衣文の様子から、11世紀初め頃の制作と推定される。頭部の宝冠には孔があり、小さい五仏を取り付けていた可能性がある。近年の当館職員の調査により、かつて吉野山に伝来したが、明治時代初めに個人に譲渡された像であることが判明した。		

2　名称	木造不動明王および二童子立像（もくぞうふどうみょうおうおよびにどうじりゅうぞう）	品　　質	［不動明王］木造（ヒノキ材か）　彩色・截金　［矜羯羅童子・制吒迦童子］木造（ヒノキ材か）　古色塗り
作 者 等		員　　数	三軀
時　　代	不動明王：平安時代（12世紀）　矜羯羅童子・制吒迦童子：江戸時代	寸 法 等	像高　不動明王96.3cm　矜羯羅童子52.0cm　制吒迦童子51.3cm 髪際高　不動明王90.5cm　矜羯羅童子48.9cm　制吒迦童子49.6cm
作品概要	不動明王に矜羯羅・制吒迦の二童子が従う三尊像。不動明王像は、誇張の少ない憤怒相や柔らかな質感の着衣表現、彩色と截金を交えた華麗な文様など、平安時代後期彫刻の魅力が凝縮されており、明王像の優品である。ただし二童子像は江戸時代の補作のため、当初から三尊型式であったかは不明である。近年の当館職員の調査により、かつて吉野山に伝来したが、明治時代初めに個人に譲渡された像であることが判明した。		

3　名称	木造天部立像（もくぞうてんぶりゅうぞう）	品　　質	木造（ヒノキ材か）　彩色
作 者 等		員　　数	一軀
時　　代	平安時代（11世紀）	寸 法 等	総高116.5cm　像高103.4cm　兜際高84.8cm
作品概要	兜を被り、両袖を翻して邪鬼の上に立つ天部立像。邪鬼を含め全体を一材から彫り出している。両目を大きく開いたいかめしい顔つきは平安時代前期の特色だが、厚みを減じた体、手足が細く軽快な身振りなどは平安後期へとつながる要素であることから、11世紀初め頃の制作と推定される。近年の当館職員の調査により、かつて吉野山に伝来したが、明治時代初めに個人に譲渡された像であることが判明した。		

＜絵画＞（1件）

4　名称	春日吒枳尼天曼荼羅（かすがだきにてんまんだら）	品　　質	絹本著色　掛幅装
作 者 等		員　　数	一幅
時　　代	室町時代16世紀	寸 法 等	本紙：縦94.5cm　横38.6cm（表具：縦166.2cm　横53.3cm）
作品概要	社殿は表されないものの。一之鳥居と御蓋山・春日奥山の存在によって春日大社の神域を描く画像と理解される。山の上空には3つの円相が描かれ、中央の白色大円相は伊勢外宮の豊受大神を象徴する可能性が高く、向かって左小円相内には北斗七星第一星の貪狼星の擬人像、右の小円相内には虚空蔵菩薩が表される。さらに一之鳥居上には白狐に乗る吒枳尼天と勢至菩薩が描かれる。春日曼荼羅としては極めて特殊な構図であり、伊勢神道と春日信仰が重層的に結びつく複雑な信仰背景があったと推定される。		

＜書跡＞（1件）

5　名称	三品弟子経（中聖武）（さんぼんでしきょう（ちゅうじょうむ））	品　　質	紙本墨書　巻子装
作 者 等		員　　数	一巻
時　　代	奈良時代（8世紀）	寸 法 等	縦27.8cm　長141.3cm
作品概要	原料である植物の甘皮の細かい粒を漉き込んだ料紙、茶毘紙を用いた奈良時代の写経。茶毘紙とは釈迦の骨粉を混ぜ込んだ紙に見立てられた呼称で、茶毘紙を用いた写経としては、大字で書写された奈良時代の『賢愚経』、いわゆる「大聖武」が有名である。これは特徴的な料紙と堂々とした文字ぶりから、古筆鑑定の世界で書き手を聖武天皇と伝承してきたことによる呼称である。 本品は茶毘紙を用いながら、一般的な写経と同様に1行17文字で書写されており、こうした特徴を持つ奈良時代の写経は「大聖武」にならい「中聖武」と呼ばれてきた。本品は3紙からなるが、欠落や裁断もなく、本紙は完存している。赤密陀を塗ったと思われる撥型軸は、制作当初より本品に付いていたかは不明であるが、奈良時代のものである。		

＜金工＞（2件）

6　名称	六器（ろっき）	品　　質	銅製鋳造　鍍金
作 者 等		員　　数	一口
時　　代	鎌倉時代（13～14世紀）	寸 法 等	口径7.9cm　高3.1cm　高台径4.0cm
作品概要	鋺外面に八葉蓮華を表す六器で、この型式は「蓮弁飾六器」「慈覚大師請来形六器」と通称される。附属の台座にも同型式の文様を表しているが、作風に若干の違いが見られる。		

7　名称	金銅火焔宝珠形舎利容器（こんどうかえんほうじゅがたしゃりようき）	品　　質	宝珠形容器は水晶製　その他は銅製、鋳造、鍛造、彫金、鍍金
作 者 等		員　　数	一基
時　　代	鎌倉時代(13～14世紀)	寸 法 等	総高15.3cm　最大幅（下框）7.7cm　宝珠形容器高3.8cm　同径3.0cm
作品概要	多層からなる蓮華座に火焔宝珠をいただいた舎利容器。真言密教では舎利と宝珠を同体とみなす説があり、火焔宝珠形舎利容器はこうした説に則って作られるようになったと考えられる。本品は、小型ではあるが、細部の造形に高水準の金工技術を示す優品である。		

＜漆工＞（1件）

8　名称	綾張竹華籠（あやばりたけけこ）	品　　質	竹製　綾貼り　銅製鍍金
作 者 等		員　　数	一枚
時　　代	平安時代(12世紀)	寸 法 等	径27.5cm　深4.4cm
作品概要	華籠は仏教の法会において散華を盛るための容器。本品は薄く削った竹を編み込んで皿状に作り、綾裂を貼っている。竹編部分は二重構造になっており、複雑な編み目文様を作っている。下面の三箇所には組紐が結びつけられており、手に持ったときに垂飾のような装飾効果を発揮したと考えられる。重要文化財に指定されている藤田美術館蔵品の華籠と本来一具であった優品である。		

＜染織＞（3件）

9　名称	白地唐花文氈断片（しろじからはなもんせんだんぺん）	品　　質	獣毛（羊か）製　染色
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	唐または奈良時代(8世紀)	寸 法 等	縦26.5cm　横24.0cm　厚0.4cm
作品概要	各色に染めた獣毛を、地となる獣毛に重ねて圧縮させた、いわゆる花氈の断片。法隆寺献納宝物（東京国立博物館蔵）の中にある「白地花文氈」の１つと同一の素材・技法・文様構成をとることから、法隆寺伝来品であったことがわかる。花氈は、法隆寺献納宝物中に2点ある他は正倉院宝物にしか存在せず、極めて貴重な遺例である。		

10　名称	経帙（きょうちつ）	品　　質	竹製　雲母引　縁は絹製　錦織　金具は銅製鍍金　木牌は木製
作 者 等		員　　数	一枚
時　　代	平安時代（12世紀）	寸 法 等	縦31.2cm　横46.0cm
作品概要	京都・神護寺において一切経を包んでいた「神護寺経帙」と通称される経帙の遺品。和紙を芯とし、細い竹籤を密に並べ色糸を用いて飾り編みする。表面は錦で縁取りし、裏面は綾が張られ、中央に「神護寺」の朱印が捺される。外帯には金銅製蝶形金具が取り付けられる。		

11　名称	刺繍阿弥陀三尊来迎図（ししゅうあみださんぞんらいごうず）	品　　質	絹製、平絹地に刺繍　種子、讃文、仏・菩薩の頭髪、阿弥陀如来における袈裟の縁・堅条・横堤、菩薩の裙裾には髪繍を施す　軸装　軸端は銅製透彫
作 者 等		員　　数	一幅
時　　代	鎌倉～南北朝時代(13～14世紀)	寸 法 等	本紙：縦69.3cm　横30.1cm
作品概要	中央の阿弥陀如来と下方左右に観音・勢至菩薩を刺繍で表した三尊像。鎌倉～南北朝時代に制作された刺繍の来迎図として、代表的な型式を備えている。特徴的な点としては、表具を表した部分に種子で釈迦三尊を刺繍している点、阿弥陀如来が正面向きである点が挙げられる。当初の型式を比較的よく保存した中世の作品として重要である。		

＜考古＞（1件）

12　名称	蓮華文方形軒瓦（伝南滋賀廃寺出土）（れんげもんほうけいのきがわら（でんみなみしがはいじしゅつど））	品　　質	瓦製
作 者 等		員　　数	一点
時　　代	飛鳥時代（7世紀）	寸 法 等	瓦当横幅23.0cm　瓦当縦幅21.5cm　筒部残存長10.3cm
作品概要	蓮華文方形軒瓦は、飛鳥時代後期（7世紀後半）に出現し、琵琶湖岸のごく限られた地域の寺院で使用された特異な軒瓦である。本品は南滋賀廃寺出土と伝わり、実際に当遺跡の出土品には同笵・同技法による資料が確認できる。南滋賀廃寺は大津宮と深く関わりを持つ寺院であった。		

（２）寄贈（5件）

＜彫刻＞（2件）

1　名称	木造菩薩立像（もくぞうぼさつりゅうぞう）	品　質	木造（ヒノキ材か）　彩色　漆箔
作者等		員　数	一軀
時　代	平安時代　12世紀	寸法等	総高50.0cm　像高39.9cm　髪際高34.1cm
作品概要	一般に「興福寺千体仏」と称される仏像群のひとつ。明治5年（1872）に興福寺が廃寺処分となり、同15年に再興された際の記録に、北円堂に数百体の像があったと記されており、千体仏はこれにあたると考えられている。藤田美術館などにまとまった数が所蔵されているほか、巷間に少なからず伝わっているが、全容は把握されていない。本品は伏し目の表情、なだらかな面、緩やかな曲線の体つきや着衣など、平安時代後期の典型を示している。また類品のなかでも比較的整った像容をしている。		

2　名称	木造阿弥陀如来立像（もくぞうあみだにょらいりゅうぞう）	品　質	木造（ヒノキ材か）漆箔　金泥塗り　彩色
作者等		員　数	一軀
時　代	鎌倉時代　13世紀	寸法等	像高82.9cm　髪際高78.1cm
作品概要	来迎印を結ぶ阿弥陀如来像で、やや小ぶりであるが、髪際で二尺五寸（周三寸）を測るいわゆる三尺阿弥陀像。三尺阿弥陀は鎌倉時代において阿弥陀如来への信仰の高まりとともに盛んに造られたが、特に快慶が多くの作品を残している。全体に鎌倉時代の作風を示すが、快慶の作風とは別系統の作とみられる。鎌倉時代に一般的な諸型式を用いて制作された三尺阿弥陀の佳作と評価できる。		

＜漆工＞（1件）

3　名称	百万塔（付属　陀羅尼経）（ひゃくまんとう　（ふぞく　だらにきょう））	品　質	本体：木製　轆轤挽　白土塗　陀羅尼経：紙本　印刷
作者等		員　数	一基（付属一巻）
時　代	奈良時代　8世紀	寸法等	相輪部：縦8.5cm　幅3.3cm　塔身部：13.4cm　幅10.1cm　陀羅尼経：縦5.5cm　横19.3cm
作品概要	天平宝字8年（764）の恵美押勝（藤原仲麻呂）の乱の後、称徳天皇の勅願により作られた百万個の木製小塔のうちの一つ。無垢浄光陀羅尼経の陀羅尼を印刷したものが中に収められるが、これは陀羅尼を写し塔に安置し供養すれば、延命、罪障の消滅、如来の擁護が受けられることなどを説く同経の教えを実践したものである。塔身底部には工房や工人を示す墨書が残る。百万塔は当初南都十大寺に納められたが、現代にまでこれを伝えたのは法隆寺のみで、本品も法隆寺伝来と考えられる。		

＜染織＞（1件）

4　名称	花氈　模造（文様再現見本）（かせん　もぞう（もんようさいげんみほん））	品　質	羊毛製
作者等		員　数	四枚
時　代	令和2年（2020）	寸法等	幅110cm　長さ115.5cm
作品概要	正倉院宝物の花氈（北倉150）を部分的に模造したもの。製作目的は、主に花氈の文様表現技法を再現することにあった。正倉院事務所の近年の調査により、花氈の素材や製作技法が明らかにされており、調査成果を踏まえ、実製作を通じて素材の特性や縮絨の関係を検証するために本品が作られた。本品に含まれる同模様の大中小3枚は、それぞれ縮絨率の異なるサンプルであり、縮絨率と文様の現れ方をわかりやすく示している。宝物模造品の中でも高い学術的意義を有する品である。		

＜考古＞（1件）

5　名称	施釉均整唐草文軒平瓦（東大寺出土）（せゆうきんせいからくさもんのきひらがわら（とうだいじしゅつど））	品　質	瓦製　施釉
作者等		員　数	一点
時　代	奈良時代　8世紀	寸法等	瓦当厚5.2cm　瓦当残存幅11.5cm　平瓦部残存長7.4cm
作品概要	平城京内で供給された型の軒平瓦で、同型は法華寺旧境内に隣接する地点や東大寺二月堂仏餉屋下層遺構などでも出土している。本品は当初東大寺大仏殿北西で拾得されたもので、かつて石田茂作（昭和35～40年に当館館長）により紹介された。当時、東大寺境内では施釉瓦は知られておらず、本品が初の発見品であった。これら学史的意義に加え、現時点でも緑釉ないし三彩瓦の発見は僅かであるため、東大寺における「瑠璃堂」探求の貴重な資料と見なされる。		

【九州国立博物館】（計92件）

（１）購入（35件）

＜絵画＞（2件）

1　名称	宝冠阿弥陀如来像（ほうかんあみだにょらいぞう）	品　質	絹本着色
作者等		員　数	1幅
時　代	中国・南宋時代 13世紀	寸法等	本紙：縦108.8　横49.2、表装：縦163.0　横69.2　軸長74.6
作品概要	宝冠を着けて定印を結ぶ、特徴ある阿弥陀如来を細緻な筆致で描く。中国・南宋時代の正統的な本尊画像で、東京・静嘉堂文庫美術館の「釈迦如来像」や蘭渓道隆（1213-78）請来と伝わる神奈川・建長寺の「釈迦三尊像」（重要文化財）と共通する表現描写が見いだせる。これら３作品は同一の環境で制作された可能性が考えられ、南宋における仏画制作を考える上でも意義深い。鎌倉時代にもたらされ、それ以降の日本中世の絵画・彫刻の規範となり、多大な影響を及ぼしたであろう宋代絵画の一例として、また入念に描かれた佳品としてその価値はきわめて高い。		

2　名称	竹図屏風（たけずびょうぶ）	品　質	紙本金地着色
作者等		員　数	1隻
時　代	江戸時代 17世紀	寸法等	本紙　縦153.3、横350.2　（折畳時　縦170.5、横63.0、厚11.0）
作品概要	筍が伸びた夏の竹、赤い蔦の絡まる秋の竹、雪を冠った冬の竹を描く6曲1隻の屏風。画面構成は、日本の伝統的な景物画と中国絵画の四季墨竹図の構成が混淆した室町時代のやまと絵屏風である四季竹図屏風（メトロポリタン美術館蔵）左隻のそれに酷似する。しかし、枯淡な作風をもつMET本に対して、本作品は基底材を金箔地に変更して装飾性を高めており、近世初期の翻案的作例と考えるべきである。また、明時代の元・李衎『竹譜詳録』の影響も指摘されている。室町時代のやまと絵屏風は、中国、朝鮮などへの朝貢品、贈答品であったが、同時代の作例は現存数が大変少なく、本作品はそのような中世着色屏風を想起させる希少な作例である。		

＜陶磁＞（2件）

3　名称	肩衝茶入　銘　富士（かたつきちゃいれ　めい　ふじ）	品　質	陶器
作 者 等	高取　白旗山窯(1630-65)	員　数	1口
時　代	江戸時代 17世紀中葉	寸 法 等	口径3.2　底径3.0　高7.3
作品概要	高取焼の肩衝茶入。二代福岡藩主の黒田忠之(1602-54)は、江戸幕府の茶の湯指南役であった小堀遠州(1579-1647)と交流があった。高取焼は、寛永年間(1624-44)には遠州の指導を受けて、洗練された作風の茶陶を生産するようになった。本作品は、端正な作りで、透明感のある釉薬が際立つ。安土桃山時代の豪放な様式は影をひそめ、江戸時代初期の新しい様式を示す作品である。胴部に巡らした糸目の刻文も繊細で、内面の丁寧な仕上げや、底部が右糸切であることなどから、白旗山窯の製品と考えられる。「富士」の銘に相応しく、重ねられた釉薬は美しい山景色を成す。仕覆が3袋付き、それぞれの中込に、「伊予殿好此方二而/高取白薬/しゅす地銀入ノ紋」、「高取白薬/毛う留」、「高取白薬/博多織」と墨書され、さらに牙蓋も5枚付属し、その包紙にも、「伊予殿好/此方より/長左衛門挽」「此方二而」「宗玄好」の記載がある。		

4　名称	半筒茶碗　銘　村雨（はんづつちゃわん　めい　むらさめ）	品　質	陶器
作 者 等	高取　白旗山窯(1630-65)	員　数	1口
時　代	江戸時代 17世紀中葉	寸 法 等	口径11.0　底径5.2　高7.5
作品概要	端正な作りの高取焼の半筒茶碗で、鉄釉と藁灰釉を内外に掛け分け、その絶妙な混ざり合いが簾のような美しい景色を成しており、「村雨」の銘に相応しい。透明感のある釉調は洗練された印象を与える。安土桃山時代の豪放な様式は影をひそめ、江戸時代初期の新しい様式を示す作品のため、高取焼が小堀遠州(1579-1647)の指導を受けて洗練された作品を生産するようになった、白旗山窯の製品と考えられる。本作品は、益田鈍翁(1848-1938)旧蔵品で、風呂敷と内箱蓋裏に鈍翁の蔵印がある。また内箱蓋表の銀字について、遠州筆であるとの小堀宗慶(1923-)による極書が付属する。		

＜考古＞（28件）

5　名称	石刀（せきとう）	品　質	石製
作 者 等	青森県むつ市川内町下戸ヶ渕出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	長92.6　直径13.0
作品概要	大型の石刀で、刃部は柄部寄りに部分的に作り出され、その周辺は手擦様の摩耗が見られる。類品は、縄文時代中期の東北地方北部から出土する。全体形状は同時期の東日本で盛行する大型の石棒に類似しており、その一類型と考えられることもある。縄文文化が最盛期を迎えた縄文時代中期の祭祀具の地域性を知る上で貴重である。		

6　名称	石棒（せきぼう）	品　質	石製
作 者 等	千葉県印西市木下出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	長80.0 直径18.0
作品概要	石棒は男性を象徴する祭祀具で、子孫繁栄や豊穣などを祈ったと考えられている。本品のような大型の石棒は、縄文文化が最盛期を迎えた縄文時代中期の東日本から出土するもので、最盛期の縄文文化の祭祀を知る上で貴重である。なお、本品は千葉県成田市の考古資料収集家、大野市平の旧蔵品であり、付属資料として大野雲外による本品等を描いた図や江見水蔭による書簡類がある。		

7　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高85.7　最大径47.0　底径16.0
作品概要	口縁部に４つの突起を持つ大形円筒形の土器で、胴部は羽状文と呼ばれる鳥の羽根状の縄目文を地文とし、その上に細い粘土紐を貼り付け幾何学文様を施す。類品は、縄文時代中期の東北地方北部から北海道南西部にかけて出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		

8　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　質	土製
作 者 等	伝神奈川県出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高65.0　最大径48.0
作品概要	大形のバケツ形の土器で、口縁部には1個の眼鏡状の突起が付き、胴部には粘土紐貼り付けによる楕円形文が廻る。類品は縄文時代中期の関東地方西部から中部地方にかけて出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		

9　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　質	土製
作 者 等	伝長野県山形村三夜塚出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高60.0　最大径44.0
作品概要	大形のバケツ形の土器で、粘土紐の貼り付けによる連続する楕円形文やヘビなどの動物風の文様を持つ。類品は、縄文時代中期の関東地方西部から中部地方にかけて出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		

10　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　質	土製
作 者 等	伝長野県山形村三夜塚出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高53.0　最大径38.0
作品概要	口縁部に人面装飾のある突起を持つ大形の土器である。土器を人体に見立てたものであろう。類品は縄文時代中期の関東地方西部から中部地方にかけて出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		

11　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　質	土製
作 者 等		員　数	1口
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高51.0　最大径37.0
作品概要	口縁部に立体的な透かしを有する四つの突起を持ち、胴部に唐草文風の文様が施された土器である。類品は縄文時代中期の東北地方南部で出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		

12　名称	石皿（いしざら）	品　質	石製
作 者 等	青森県むつ市田名部二又・松山町出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 5,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦54.5　横34.5　高10.0
作品概要	石皿は磨石とセットで用いられ、食料となるドングリやクルミなどの堅果類を磨り潰すための道具と考えられている。縄文時代の食料加工技術を知る上で貴重な資料である。本品のような水滴形をした有脚の石皿は、縄文時代中後期の東北地方で出土するものである。		

13　名称	石皿（いしざら）	品　質	石製
作 者 等	青森県むつ市田名部斗南丘出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 5,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦69.0　横33.5　高12.5
作品概要	石皿は磨石とセットで用いられ、食料となるドングリやクルミなどの堅果類を磨り潰すための道具と考えられている。縄文時代の食料加工技術を知る上で貴重な資料である。本品のような方形の有脚の石皿は、縄文時代中後期の東北地方で出土する。		

14　名称	耳飾（みみかざり）	品　質	土製
作 者 等	(1)・(3)-(11)青森県東半出土　(2)青森県五戸町出土　(12)-(14)青森県むつ市大畑二枚橋出土	員　数	14個
時　代	縄文時代 (1)-(5)5,000年前-4,000年前　(6)4,000年前-3,000年前　(7)-(11)5,000年前-2,300年前　(12)-(14)3,000年前-2,300年前	寸 法 等	(1)最大径4.9　厚1.6　(2)最大径4.3　厚3.0　(3)最大径3.3　厚2.4　(4)最大径3.0　厚2.2　(5)最大径2.5　厚1.9　(6)最大径1.7　厚1.0　(7)最大径2.5　厚1.7　(8)最大径2.0　厚2.5　(9)最大径1.9　厚1.7　(10)最大径1.6　厚1.5　(11)最大径1.3　厚1.7　(12)最大径2.1　厚1.2　(13)最大径2.0　厚1.2　(14)最大径1.9　厚1.9
作品概要	縄文時代中期から晩期の東北地方で出土する耳飾である。大型で刺突文を持つものや小型で赤彩の施されたもの等がある。縄文時代の装身具を知る上で貴重である。		

15　名称	手形付土製品（てがたつきどせいひん）	品　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦13.2　横9.5　厚2.2
作品概要	縄文時代後期の東北地方から北海道にかけて出土する手形の付いた土製品である。手形は、その大きさから幼児のものと推定される。何らかの祭祀具と考えられるが、具体的な用途は不明である。		

16　名称	石皿（いしざら）	品　質	石製
作 者 等	青森市玉清水遺跡出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦25.0　横16.5　高10.5
作品概要	縄文時代晩期の東北地方北部で出土する突出した磨面を持つ有脚の石皿である。石皿は磨石とセットで用いられ、ドングリやクルミなどの堅果類を磨り潰したと考えられており、縄文時代の食料加工技術を知る上で貴重である。		

17　名称	岩版（がんばん）	品　質	石製（白色凝灰岩製）。
作 者 等	秋田県能代市二ツ井町麻生上ノ山出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦13.6　横9.5　厚2.2
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から出土する岩版である。台形に成形した白色凝灰岩に、遮光器土偶の眼部、正中線、全面にS字・逆S字状文などを線刻して赤彩を施している。数ある岩版の中で最も優れた作例の一つである。明治時代に出土し、学会で紹介された後、永らく民間で所蔵されてきた。		

18　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　質	土製
作 者 等	千葉県成田市荒海貝塚出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	高9.5　最大径12.0
作品概要	縄文時代晩期の関東地方から出土する土器である。羽釜のような形で、欠失した注口部の上方には、この時期の土偶の特徴であるミミズク風の顔面装飾が付く。千葉県成田市の考古資料収集家、大野市平の旧蔵品で、付属資料として江見水蔭、水谷幻花、坪井正五郎等の明治期の考古資料収集家や人類学者からの書簡類がある。		

19　名称	土偶（どぐう）	品　質	土製
作 者 等	岩手県岩手町高梨遺跡出土	員　数	1軀
時　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	高18.8　幅10.2　厚5.4
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から出土する亀ヶ岡文化の土偶である。中空の作りで、眼部は雪眼鏡（遮光器）風に表現され、全身に雲形文や赤彩が施されている。縄文時代に肩部で割れた後、下半身が火を受け黄土色に変色している。		

20　名称	広口壺（ひろくちつぼ）	品　質	土製
作 者 等	河内地域・伝船橋遺跡出土	員　数	1口
時　代	弥生時代　前1世紀	寸 法 等	口径19.0　底径5.8　胴部最大径23.0　器高32.5
作品概要	下膨れの胴部とやや強めにすぼまる頸部、外反する口縁部を持つ平底の壺で、河内地域第Ⅳ様式（弥生時代中期後半）の広口壺の典型例である。頸部・同部に一部修理痕跡があるがほぼ完形品である。口縁端部、頸部と胴上位は、いわゆる簾状文により飾られる。のちの修理によりふさがれているが、胴中位に焼成後穿孔が施されており、おそらく祭祀などに用いられ完全な形のまま廃棄されたものであろう。		

21　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝北海道江別市対雁坊主山出土	員　　数	1口
時　　代	続縄文時代 3-4世紀	寸 法 等	高16.2　最大径19.4
作品概要	北海道から出土する続縄文時代後半期の土器である。縞状の縄文、連続する刺突文、微隆起線により幾何学文が施されている。縄文時代の末期には朝鮮半島から北部九州に稲作が伝播し、弥生時代が開始した。稲作は一気に日本海沿岸部を北上し東北まで伝わったが、北海道では寒冷気候のため稲作が定着せず、狩猟、採集、漁労を生業とする縄文的な文化が続いた。北海道ではこの時代を続縄文時代と呼ぶ。本品は、日本列島に育まれた文化の多様性を知る上で貴重な資料である。		

22　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝北海道江別市対雁坊主山出土	員　　数	1口
時　　代	続縄文時代 3-4世紀	寸 法 等	高16.8　最大径16.0
作品概要	北海道から出土する続縄文時代後半期の土器である。縞状の縄文、連続する刺突文により幾何学文が施されている。縄文時代の末期には朝鮮半島から北部九州に稲作が伝播し、弥生時代が開始した。稲作は一気に日本海沿岸部を北上し東北まで伝わったが、北海道では寒冷気候のため稲作が定着せず、狩猟、採集、漁労を生業とする縄文的な文化が続いた。北海道ではこの時代を続縄文時代と呼ぶ。本品は、日本列島に育まれた文化の多様性を知る上で貴重な資料である。		

23　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝北海道江別市対雁坊主山出土	員　　数	1口
時　　代	続縄文時代 3-4世紀	寸 法 等	高15.2　最大径19.8
作品概要	北海道から出土する続縄文時代後半期の土器である。縞状の縄文、連続する刺突文、微隆起線により幾何学文が施されている。縄文時代の末期には朝鮮半島から北部九州に稲作が伝播し、弥生時代が開始した。稲作は一気に日本海沿岸部を北上し東北まで伝わったが、北海道では寒冷気候のため稲作が定着せず、狩猟、採集、漁労を生業とする縄文的な文化が続いた。北海道ではこの時代を続縄文時代と呼ぶ。本品は、日本列島に育まれた文化の多様性を知る上で貴重な資料である。		

24　名称	重要文化財　山口県竹島古墳出土品（やまぐちけんたけしまこふんしゅつどひん）	品　　質	(1)-(4)青銅製　(5)-(8)鉄製
作 者 等	山口県周南市竹島御家老屋敷古墳	員　　数	一括
時　　代	古墳時代	寸 法 等	(1)直径22.8　(2)直径22.3　(3)最大径17.7　(4)残存長2.1～5.8　厚2.2　(5)残存長3.7　(6)長さ36、37、41程度　(7)長さ27.1程度　(8)残存長8.8
作品概要	山口県周南市に所在する全長約56mの規模を持つ古墳時代前期の前方後円墳である竹島御家老屋敷古墳より明治21年に出土した一括品である。昭和63年6月6日付で、（1）・（2）三角縁神獣鏡2面、（3）神人車馬画像鏡1面、（4）銅鏃26本、（5）鉄鏃1本、（6）鉄剣3振、（7）素環頭大刀1振、（8）鉄斧1本が一括で「山口県竹島古墳出土品」として国の重要文化財に指定されている。中でも三角縁神獣鏡のうち1面は、群馬県蟹沢古墳出土例、兵庫県森尾古墳出土例と同型鏡で「正始元年」の年号を持つ記銘鏡であることが知られる。またもう1面の三角縁神獣鏡も、京都府椿井大塚山古墳、福岡県神蔵古墳、神奈川県加瀬白山古墳出土品に同笵鏡が知られる古式の三角縁神獣鏡である。古墳時代前期前半の地域首長墓におさめられた副葬品セットの典型例を示す点でも非常に価値が高い資料群である。		

25　名称	二重口縁壺（にじゅうこうえんつぼ）	品　　質	土製
作 者 等	関東地域	員　　数	1口
時　　代	古墳時代 4世紀	寸 法 等	口縁部径20.2、底部径9.5、胴部最大径31.0、器高34.5
作品概要	やや下膨れの胴部と小さな平底、強く締まる短い頸部と大きく開く二重口縁を持つ、関東地方古墳時代前期頃の二重口縁壺である。胴部上半と口縁部に、櫛状工具による密な平行沈線を交差させるように斜めに施し、細かい斜格子文状の文様帯を形成している。この文様帯と底部を除く胴部外面のほぼ全体に赤色顔料を塗布し、細かい磨きによって仕上げる、赤彩土器のひとつである。		

26　名称	青磁博山炉（せいじはくさんろ）	品　　質	青磁
作 者 等	中国	員　　数	1合
時　　代	中国・南北朝時代 5-6世紀	寸 法 等	口径5.9　盤径9.3　総高12.7
作品概要	承盤と一体化した炉身と蓋からなる。蓋は全体が円錐形で、神々や仙人のすまう空想上の「博山」を象る。蓋には２カ所に煙出しの小さな円孔を設ける。承盤の底部には裾の緩やかに広がる中実の脚台がつく。淡緑色の青磁釉がほぼ全体に薄くかかるが、炉身と蓋のわずかに張り出す口縁部にはかからない。 漢時代の中国に東南アジアや西アジアから龍脳樹など樹脂性の香料が伝わるようになると、それらを焚くのにより適した深手の博山炉が登場した。南北朝時代になると、博山炉は漢時代の基本的な形態を継承しつつ、材質の面では青銅製や緑釉陶に代わり青磁の作例が主流となった。小型の本作は墓に副葬するための非実用品ながら、異国産の香料を嗜む六朝貴族の優雅な暮らしの一端を今に伝えている。		

27　名称	重要文化財　埴輪　鹿（はにわ　しか）	品　　質	土製
作 者 等	伝群馬県伊勢崎市（旧佐波郡境町）大字境上武士　天神山古墳出土	員　　数	1個
時　　代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	長48.5　幅29.5　高52.7
作品概要	古墳に立て並べられた動物埴輪で、指定名称は「埴輪　犬」だが、形態上の特徴から鹿を表したものである。頭頂部を除きほぼ欠損が認められない完形品で、後補部が見分けの付かないよう丁寧な修復が施されている。焼成は良好で赤褐色を呈し、全体にハケ調整が施されている。頭部周辺は特に仕上げが丁寧で、ナデやケズリを多用して仕上げられている。鹿の子模様などが表されているかは不明である。目は楕円形で、鼻は2つの円孔で表現する。口は大きく開き、両端は線刻される。耳はピンと立ち、横向きである。胴及び頭部は中空で、尻尾は下方にまっすぐに伸びる。尻尾の下には透かし孔を1つ開けている。長い四脚を持ち、各脚端の踵に当たる部分は、斜めに切り落とされる。		

28　名称	埴輪　猪（はにわ　いのしし）	品　　質	土製
作 者 等	茨城県旧真壁郡内出土	員　　数	1個
時　　代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	長60.5　幅24.5　高50.8
作品概要	古墳に立て並べられた動物埴輪で、鼻筋が短く鼻孔が正面を向く特徴やたてがみが表されている。色調は淡赤褐色である。胴体から後脚にかけて欠損が認められるが、完形に復元されている。胴および頭・脚部は中空である。目は杏仁形に開けられた切れ目状で、口は中央を大きく開き、両端は線刻で表現する。耳はピンと立って横向きである。背はたてがみを板状に表現する。尻尾は短くやや上方に直立する。尻尾の下部に透かし孔を1孔開ける。脚はまっすぐに延び、蹄の表現は認められない。たてがみから胴部にかけて両面に線刻がある。東京国立博物館の重要文化財「埴輪　猪」（群馬県上武士天神山古墳出土）は本品とも造形的に近く、数少ない優品の一つと見ることができる。		

29　名称	埴輪　壺を持つ女子（はにわ　つぼをもつじょし）	品　質	土製
作 者 等	群馬県前橋市（旧荒砥村）出土	員　数	1軀
時　代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	幅40.5　奥行18.5　高さ55.0
作品概要	古墳に立て並べられた人物埴輪で、右手を腰帯に当て、左手で小壺を持つ上半身の女性像である。島田髷を結い入墨を刺し、両肩に襷をかけて舞う巫女を表現している。基台の最下部や左腕の一部などに欠損が認められるが、その他の部分は残存し、完形に復元されている。縦方向のハケ目で調整される。頭部には島田髷（潰し島田）を結い、前額には突起と線刻で前から竪櫛を挿している。両眼は切れ目状に透かしを入れ、眉と鼻は粘土を軽く隆起させて表現する。口は右口角を少し上がり気味に表し、耳には耳環を装着する。首飾りや着衣の表現が無く、胸は粘土を貼り付けて乳房を表す。襷をかけただけの裸身の可能性もある。腰には腰帯を表現し中央で留め、右手を帯に添える。左手は横に伸ばし、掌に小壺をつかむ。		

30　名称	埴輪　女子（はにわ　じょし）	品　質	土製
作 者 等	伝群馬県伊勢崎市（旧佐波郡境町）大字境上武士　天神山古墳出土	員　数	1軀
時　代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	幅36.5　奥行25.0　高92.5
作品概要	乳房を表現した女性の上半身象である。基台の上部に透かし孔を対向方向に２ヶ所開け、最下部には一条の低位置突帯をめぐらせる。胴体部の大半は欠損しており後補であるが、それ以外の顔などについては残存している。表面には縦方向のハケ調整が顕著に遺存し、ていねいに仕上げられたことが分かる。髪型は頭部よりも大きな島田髷（潰し島田）で、前額部に竪櫛を隆起した形で表す。目は切れ目状に透かし孔を設け、眉と鼻はT字形に一連で表現される。目から下方にかけて縦方向の黒色顔料の塗布が確認されるため、入墨を表現した可能性がある。口は小さな一文字状であり、耳には小玉を連ねた飾りを着用し、その下に耳環を垂らす。首には首飾りを着け、手首にも腕飾りを表現する。		

31　名称	埴輪　農夫（はにわ　のうふ）	品　質	土製
作 者 等	伝群馬県伊勢崎市（旧佐波郡境町）大字境上武士　天神山古墳出土	員　数	1軀
時　代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	幅36.5　奥行22.5　高114.5
作品概要	笠をかぶり、右肩に農具をかけた男子（農夫）を表現する。背から腹にかけて大きな欠損が認められ、後補部分が多いが、顔並びに基台についてはほぼ完存する。基台に透かし孔を対向する方向に2つあける。 笠は先端が尖る円錐形のもので、菅笠や網代笠のような編笠の一種と判断される。目は杏仁形に透かし孔をあけ、眉と鼻は連接して粘土を隆起させて作り出している。口は横一文字に透かし孔で表現する。耳は大きな耳環を着装し、その上から耳の脇で束ねた髪を折り返してまとめた「上げ美豆良」を結う。右肩にかけたものは、農具と判断されるが鍬か鎌かは判然としない。また、両手は農具を握らずに胸に当てている。		

32　名称	埴輪　盛装男子（はにわ　せいそうだんし）	品　質	土製
作 者 等		員　数	1軀
時　代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	幅36.5　奥行22.5　高114.5
作品概要	下げ美豆良を結い、頭には頭巾をかぶった男性の全身像である。首飾りを付けて大刀を佩き、籠手をはめ着衣を着て盛装する。右胸、左足などの部分に多く欠損があり、後補となっている。基台は楕円形で対向する方向に2つの透かし孔を設け、最下段突帯を有する。 頭部は頭巾をかぶり、その上から鉢巻を結う。目は杏仁形に透かし孔で表現し、眉と鼻は隆起させて作り出す。耳には耳環を着け、その上から下げ美豆良を結う。首には首飾りを着ける。腰に手を当てて肘には籠手を着装する。腰には粘土紐を隆起させて腰帯を表し、腰前に大刀、腰左側に靫を表現する。靫は、弓を射る際に弦が左手に当たらないように守る革製の防具である。両脚は膝の部分に脚結い紐を表現する。先端が尖った履をはいている。		

＜歴史資料＞（3件）

33　名称	豊臣秀次朱印状（とよとみひでつぐしゅいんじょう）	品　質	紙本墨書
作 者 等		員　数	1幅
時　代	安土桃山時代 文禄2年(1593)	寸 法 等	本紙：縦21.9　横59.9　表装：縦105.5　横62.5　軸長67.5
作品概要	文禄2年(1593)5月26日付、宗義智宛に発給された豊臣秀次の朱印状である。朝鮮半島に在陣する義智への在陣見舞状である。豊臣秀吉が名護屋に在陣する一方で、秀次は京都に残り、5月26日付あるいはその前後の日付で、朝鮮半島在陣中の諸将に、本品と同内容の在陣見舞の朱印状を発給している。日本側と明側で講和交渉が行われ、明から秀吉のもとに偽装した「勅使」が派遣されることになったことを受け、秀吉は5月1日付で、朝鮮半島に在陣する諸将に見舞いの朱印状を発給している。秀次の見舞いの朱印状発給も、この秀吉の動きに合わせたものと位置付けられる。 本品はおそらくもと折紙であったが、江戸時代に対馬藩で巻子に改装された。明治維新後、藩主が東京に移るに伴い、この巻子も明治11年(1878)に対馬から東京に移送された。大正15年(1926)に宗伯爵家は「宗家文書」の一部を朝鮮総督府朝鮮史編修会に売却した。朝鮮半島に渡っていた「宗家文書」は、戦後に日本に戻り、掛幅装などに改装されて、美術品市場に出回った。本品も同様の経緯を辿ったものである。 本品は「文禄の役」時に朝鮮半島に在陣していた大名にのみ発給された朱印状で、豊臣秀吉と秀次の二重の政治構造を垣間見せる一次史料として重要である。		

34　名称	安南国清王鄭棡令旨（あんなんこくせいおうちんちゃんりょうじ）	品　質	紙本墨書
作 者 等		員　数	1幅
時　代	ベトナム・黎朝時代 徳隆6年(1634)	寸 法 等	(本紙)縦37.7　横50.2　(表装)縦126.2　横62.3　軸張67.9
作品概要	安南国の清王鄭棡(チン・チャン、在位1623-57)が日本人商人「喜左衛門」に宛てた指令書。先年「義子啓明」と「宗右」に与えた答礼品について、啓明を通じて宗右の父母親戚に受領させるよう、帰国する喜左衛門に令達する。鄭棡は黎朝皇帝のもとでベトナム北部を支配した鄭氏の当主。喜左衛門・啓明・宗右は鄭棡のもとに来航した日本人である。本令旨の2年前に鄭棡が発した「安南国答賜物目録」（重文、個人蔵）との関係から、3人の日本人は朱印船貿易を営んだ豪商末　家の関係者と想定される。本令旨は16-17世紀のベトナムの人々が日本人に宛てた安南文書（安南日越外交文書）の新出史料の原文書であり、日越外交史やアジアの古文書学上、大変貴重な資料である。		

35　名称	眼科新書(五巻､付録)（がんかしんしょ　ごかん、ふろく）	品　質	紙本墨刷
作 者 等	巻一～巻五：杉田立卿訳、石川大浪画、プレンク（プレンキ）著、付録：杉田立卿検閲、松田芹斎編、平安書肆廣文堂	員　数	6冊
時　代	江戸時代 巻一～巻五：文化12年(1815)、付録：文化13年(1816)	寸 法 等	各　横17.7　縦25.1
作品概要	ランダ・ロッテルダムのプロイス(Martinus Pruys, 1752-1830)が、オーストリア・ウィーンの医師ヨゼフ・プレンク(Joseph Jacob Plenck, 1735-1807)の"Doctrina de Morbis Oculorum"（1777年初版、ラテン語版）を、蘭語訳した"Verhandeling over de Oogziekten"（1778年初版）を、さらに重訳した和訳本である。本書は、杉田立卿(1786-1846)が翻訳した巻一から巻五と、その門人である松田芹斎が編集した付録からなる。全体で118の病例を解説したもので、巻一には石川大浪(1765-1817)の描いた眼球略図（全11図）や、巻五巻末には大槻玄沢(1757-1827)の跋が収められる。		

（１）寄贈（56件）

＜金工＞（1件）

1　名称	雲版（うんぱん）	品　　質	銅
作 者 等	肥前か	員　　数	1面
時　　代	南北朝時代 正平24年(1369)	寸 法 等	縦52.0　横48.5
作品概要	銅製鋳造の雲版。頭部は頸上に幅広く開いた花先形で、懸垂孔は間隔をやや広くあけて2つ設け、それぞれの孔の周囲に圏線一条を鋳出す。身部は頸の外曲線に従って内側へ巻き込み、両肩を蕨手状につくる。裾近くに八花形の蓮肉に鎬を立てた間弁付八葉蓮華座を巡らした撞座を設ける。吊手頂部と撞座の長軸線上には「筑後州三池之郡圓通寺常住」、腰には右に「荘厳律寺」、左に「皇帝萬歳」をそれぞれ刻す。また、裏面は鋳放し状態で、下辺に一文字湯口を残す。長軸上に「正平二十〈二／二〉年巳（己ヵ）酉四月五」、この銘文右側に「于時永正十年癸酉二月吉日／願主／敬白」、更に右腰から「淳公／肇公／長公／芳公／冨公／圀公」を横一列に刻む。九州ゆかりの在銘雲版としては2番目に古い貴重な作例である。		

＜刀剣＞（31件）

2　名称	太刀　銘貞綱（たち　めいさだつな）	品　　質	鉄
作 者 等	貞綱 伯耆国	員　　数	1口
時　　代	平安時代 12世紀	寸 法 等	刃長70.0　反2.6
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。腰反高く踏ん張りつく。表裏ともに棒樋を掻き流す。鍛は板目に杢目、大肌交じり、小沸微塵によくつく。刃文は直刃に小丁子交じり、匂口うるみごころ、刃中に金筋著しく入る。帽子は湾れて沸崩れ、掃きかける。茎は磨上、先切、鑢目大筋違、目釘孔4つ開く。佩表の茎尻付近に二字銘を刻む。平安時代後期から鎌倉時代初期にかけて伯耆国で活動した刀工たちを古伯耆と総称し、日本刀成立期の刀工として知られる安綱をはじめ、真守、守綱、真綱、有綱が比較的知られているが、貞綱の在銘作としては本品以外では京都国立博物館所蔵品（E甲461）が知られる程度である。現存作の少ない古伯耆の貴重な作例であるばかりでなく、室町時代後期の刀剣書『往昔抄』に本品の茎姿が収載されている点も注目される。		

3　名称	太刀　銘友成（たち　めいともなり）	品　　質	鉄
作 者 等	友成 備前国	員　　数	1口
時　　代	平安時代 12世紀	寸 法 等	刃長72.2　反3.0
作品概要	鎬造、庵棟、小鋒。腰反強く踏ん張りあり。鍛は板目流れごころにやや肌立ち、地沸よくつく。刃文は小乱で、刃中に砂流し・金筋入る。帽子はやや乱れた焼詰風となる。茎は生で先刃上がりの栗尻、鑢目勝手下がり、目釘孔1つ開く。本品の作者である友成は、正恒と双璧と謳われる古備前の名工として知られる。友成の太刀銘には長銘のものと、二字銘・三字銘のものがある。前者のほうがやや時代が上がるとされるが、細身で腰反り深いその体配から本品もまた平安時代末期から鎌倉時代初頭に収まるものとみてよい。古備前を代表する刀工の制作当初の姿をとどめた健全な一振である。		

4　名称	太刀　銘正恒（たち　めいまさつね）	品　　質	鉄
作 者 等	正恒 備前国	員　　数	1口
時　　代	平安時代 12世紀	寸 法 等	刃長74.8　反2.7
作品概要	鎬造、小鋒。腰反強く踏ん張りあり。鍛よく約み、刃文は直刃調に小乱となり、深く沸つき、刃中に砂流しかかる。帽子は焼き細く焼詰める。佩表の腰元に倶利伽羅龍を刻む。佩裏にも彫物の痕跡が認められるが、研磨による摩耗のため意匠不明。茎は生で先浅い栗尻、鑢目勝手下り、目釘孔3つ開く。正恒は、友成と並ぶ古備前を代表する刀工で、古備前の中では比較的多く現存する。その作風や銘ぶりにはやや相違がみられるため、同名の刀工が複数いたと考えられる。なお、隣国の備中青江派にも同名工がおり、作風は近似する。全体的に友成と比べて身幅広く鍛よく約むと言われるが、本品もまさにそうした特徴を示しており、正恒の典型作と言いうる作品である。		

5　名称	太刀　銘豊後国定秀作（たち　めいぶんごこくさだひでさく）	品　　質	鉄
作 者 等	定秀 豊後国	員　　数	1口
時　　代	平安時代 12世紀	寸 法 等	刃長74.6　反2.7
作品概要	鎬造、小鋒。腰反強く踏ん張りあり。鍛は小板目流れて柾交じり、地沸細かにつく。刃文は小沸出来で細直刃、物打やや上で焼き深く小乱となり沸強くなる。帽子は浅く湾れて小丸に浅く返る。佩表の腰元に梵字を刻む。茎は生で目釘孔1つ開く。定秀は豊後最古の在銘刀工で、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて作刀を行い、名工として名高い行平の師としても知られる。定秀は、中近世の刀剣書や銘尽などでは「彦山三千坊の学頭」として評され、豊前豊後の両国にまたがってそびえる霊峰英彦山（彦山）ともゆかりが深い。行平は鎚元を焼き落としとする作例が多いなか、本品の場合は焼出しが区際となるのがやや異例である。また、物打付近に矢や刀を受けた際についたと思われる誉疵がある点が珍しく貴重である。		

6　名称	太刀　銘宗依（たち　めいむねより）	品　　質	鉄
作 者 等	宗依 備前国	員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長73.8　反2.6
作品概要	鎬造、中鋒。腰反で反り高く身幅広い。鍛は板目肌立ちごころに地沸つく。刃文は小沸出来の直刃調に小乱刃を交え、砂流し・金筋入る。帽子は先焼詰となる。茎はわずかに磨上げ、先切。鑢目浅い筋違。目釘孔2つ開く。また、拵は毛抜形太刀拵で、鞘に沢瀉紋をあらわす。備前国は平安時代後期から鎌倉時代にかけて数多くの刀工を輩出したが、そのなかで、鎌倉時代初期までの刀工並びにその作刀を古備前と総称する。本品の作者である宗依もその一人とみられるが、在銘作が極めて少なく、管見では東京国立博物館所蔵品（F-172）があるのみであり、貴重である。		

7　名称	太刀　無銘（たち　むめい）	品　　質	鉄
作 者 等	千手院派　大和国	員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長94.7　反3.1
作品概要	鎬造、中鋒。身幅やや広く鎬高い。腰反高く踏ん張りあり。鍛は板目に杢目や流れ肌交じりで総じて肌立つ。刃文は直刃を基調に小乱れ交じり、匂深く小沸厚くつき、刃縁ほつれて二重刃・三重刃・湯走りを交える。刃中には砂流し・金筋盛んにかかる。帽子は掃きかけて小丸風に返るが、佩表は沸崩れる。茎は朽ち込み激しいながらほぼ生で、先刃上がり栗尻、鑢目ごく浅い勝手下り、目釘孔2つ開く。大和国は古来数多くの刀工がいたが、なかでも千手院は平安時代末期にはじまり、当国で最も古くから作刀を行っていた一派である。古朴な直刃調で全体にやや地味なものが多いことで知られ、本品はまさしくそうした千手院派の特徴をよく示すものである。		

8　名称	太刀　銘恒次（たち　めいつねつぐ）	品　質	鉄
作 者 等	恒次 備中国	員　数	1口
時　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長75.6　反3.0
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。長寸で中反強くつく。鍛は小板目よく約み、杢を交えてやや肌立つ。刃文は直刃で匂やや深く刃縁締まる。帽子は表裏ともに丸く返る。茎は生で、尻刃上り栗尻、鑢目大筋違。目釘孔2つ開く。備中国は、備前国と並ぶ良質な砂鉄の産地であり、数多くの刀工を輩出した。なかでも著名なのが、平安時代末期の安次を祖とする青江系と備前物にやや作風が似る正恒系の刀工で、このうち青江は「次」を通字としていることが大きな特徴である。恒次は、中青江から末青江にまたがる時期の刀工で、同銘工が複数いるとも言われる。銘を太刀銘に切り、しかも中央ではなくやや棟寄りに位置し、かつ鑢目を大筋違とする点などは、鎌倉時代後期以降の青江派に共通する特徴であり、本品もその典型作と言える。		

9　名称	太刀　銘吉次（たち　めいよしつぐ）	品　質	鉄
作 者 等	吉次 備中国	員　数	1口
時　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長80.8　反2.9
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。細身で反高い。鍛は板目肌立ち地沸つく。刃文は直刃に湾れ交じり、匂口締まりごころに小沸つく。帽子は小丸に返る。茎はやや長く刃側に肉のついた生茎で、先は細って先浅い栗尻となる。鑢目大筋違、目釘孔2つ開く。銘は佩裏に「吉次」を刻む。備中国は、備前国と並ぶ良質な砂鉄の産地であり、数多くの刀工を輩出した。なかでも著名なのが、平安時代末期の安次を祖とする青江系と備前物にやや作風が似る正恒系の刀工で、このうち青江は「次」を通字としていることが大きな特徴である。このうち吉次は、中青江を代表する刀工の一人である。		

10　名称	太刀　銘国行（たち　めいくにゆき）	品　質	鉄
作 者 等	国行 山城国	員　数	1口
時　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長87.6　反2.2
作品概要	鎬造、庵棟。細身で中反り深く、鋒はやや詰まって小鋒となる。鍛は小板目でよく約み、柾が交じる。刃文は丁子交じりで小沸出来の焼き幅広い直刃で、砂流し・金筋かかる。帽子は先小丸に返る。茎は先鑓形となる。佩表に銘「国行」を刻む。鑢目勝手下がり、目釘孔2つ開く。山城国の来派は、鎌倉時代中期から南北朝時代にかけて活躍した山城鍛冶を代表する刀工集団で、室町時代に書写された『観智院本銘尽』に「先祖の鍛冶高麗より来たるあいだ来国と号す」とあり、その来歴は数多の刀工集団のなかでもひと際特異である。本品の作者である国行は、来派の実質的な祖とされ、「来太郎」の通称とともに知られる。その作風には重ね厚く猪首鋒となった豪壮なものと、細身の造込みのものがあり、本品は後者にあたる。		

11　名称	太刀　無銘（たち　むめい）	品　質	鉄
作 者 等	尻懸派 大和国	員　数	1口
時　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長72.2　反1.8
作品概要	鎬造、中鋒。反やや浅い。鍛は板目肌流れて肌立つ。刃文は匂出来でほつれ交じりの直刃調に頭の揃った互の目が交じる。帽子は掃きかけ焼き詰め風に尖る。茎は大磨上、先浅い栗尻、鑢目浅い勝手下り、目釘孔3つ開く。指表中程に金粉銘がごくわずかに残る。大和国（現奈良県）は、古来数多くの刀工がおり、なかでも尻懸派は現在の天理市岸田町尻懸町を拠点としたと伝わり、則長を事実上の祖とする。直刃調に互の目が目立つところに尻懸派の特徴があらわれており、大磨上無銘の本品もこの通則に従う。明治から昭和にかけて著名な刀剣研師であった本阿弥光遜（1879-1955）によって則長と鑑せられたものである。鞘書にある1981年段階では指表に残っていた金粉銘は、現状ほぼ消えているが、その作行から尻懸派の作とみることは妥当である。		

12　名称	刀　無銘（かたな　むめい）	品　質	鉄
作 者 等	長船派もしくは畠田派 備前国	員　数	1口
時　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長65.2　反1.4
作品概要	鎬造、庵棟、小鋒。身幅狭く反浅い。鍛は板目に地沸つき、淡く映り立つ。刃文は丁子に小丁子が交じり、中程で蛙子丁子を交えて華やかに乱れる。帽子はやや尖ってすぐ小丸に返る。茎は大磨上で先切、鑢目切、目釘孔2つ開く。長船派あるいは備前の長船に隣接して作刀を行った畠田派の作とみられる。畠田派は守家に始まり二代ほど続き、真守、守重、守俊といった刀工を輩出したが、のち長船に移住して吸収されたとみられる。本品は畠田派の名工畠田真守の作とも伝わるが、もとより同派は、時代・作風とも長船派と近似しているため区別がつき辛く、さらに無銘であれば刀工まで特定することは極めて困難である。ただし、その造り込みや刃文の特徴から鎌倉時代の備前物であることは明らかである。		

13　名称	短刀　銘国光（たんとう　めいくにみつ）	品　質	鉄
作 者 等	国光 相模国	員　数	1口
時　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長22.3　反なし
作品概要	冠落造、三ツ棟。杢目肌よく約み、地沸つく。刃文は沸出来の直刃で刃縁締まる。刃中に金筋かかる。茎は先栗尻の生で、鑢目ごく薄く勝手下り。指表に銘「国光」を刻み、目釘孔1つ開ける。作者の新藤五国光は、相州鍛冶の実質的な祖と言われる刀工で、古来短刀の名手として京の藤四郎吉光と双璧と称される。その作風は直刃を基調とし、全体的に京の粟田口派に近似するが、新藤五肌とも称されるよく約んだ杢目肌に地沸が豊かにつくのが特徴である。八寸前後の平造のものが多いが、本品のように冠落造にしたものも少なからずある。冠落造は、棟の上半分をそぎ落とす点に特色があり、鎌倉時代後期から登場する造込みとして知られる。		

14　名称	太刀　無銘（たち　むめい）	品　質	鉄
作 者 等	兼光か 備前国	員　数	1口
時　代	南北朝時代 14世紀	寸 法 等	刃長69.3　反1.4
作品概要	鎬造、大鋒。身幅広く元先の幅差少なく、重ね厚い。表裏ともに棒樋を掻き流す。鍛は板目に杢目を交えて映りが立つ。刃文は角張る片落ち互の目を基調として腰の開いた互の目を交え、小沸つく。帽子は乱れ込んで尖って返る。茎は大磨上無銘、先刃上がり栗尻、鑢目筋違、目釘孔3つでうち2つ埋める。本品は大磨上無銘だが、その作行から兼光の作と目される。兼光は『観智院本銘尽』に「長船流景光子」とあり、光忠、長光、景光と続く長船派正系の刀工である。太刀、短刀ともに比較的現存作例は多く、確認されている作刀時期は少なくとも元徳（1329-32）から貞治（1362-68）までの約40年間に及ぶ。このうち、観応（1350-52）あたりを境として作風が大きく変化するが、本品の場合はやや鋒は大振りではあるものの、刃文のさまや体配から前半期のものとみられる。		

15　名称	短刀　銘備中国住大隈権介平貞次／正平十二年八月日作（たんとう　めいびっちゅうこくじゅうおおすみごんのすけたいらのさだつぐ／しょうへいじゅうにねんはちがつひさく）	品　　質	鉄
作 者 等	貞次 備中国	員　　数	1口
時　　代	南北朝時代 正平12年（1357）	寸 法 等	刃長25.0　反0.2
作品概要	平造、三ツ棟。反浅くつく。鍛は板目に杢交じりで総体に肌立ち、地沸つく。淡く乱れて映りが立つ。刃文は匂い口締まりよく沸つき、広直刃でわずかに小丁子が交じり、区際を焼き落とす。帽子は先尖りごころ、返りは沸崩れて下半まで長く焼き下げる。茎は生で先刃上がり栗尻、鑢目大筋違、目釘孔1つ開く。指表に刀工名、指裏に南朝年紀銘を切る。付属の拵は籐巻柄に九曜紋の目貫金物を打ち、地板を胡麻竹にした小柄を伴う隈府拵で、刀子には銘「勢陽御瀧門来国光」を刻む。貞次は後鳥羽院の御番鍛冶をつとめたとされる著名な古青江の刀工である。同銘の刀工が複数代に及ぶと考えられるが、本品には年紀を伴い、貞次の基準作のひとつとして貴重である。		

16　名称	刀　銘備州長船秀光／応安五年二月（かたな　めいびしゅうおさふねひでみつ／おうあんごねんにがつ）	品　　質	鉄
作 者 等	秀光 備前国	員　　数	1口
時　　代	南北朝時代 応安5年（1372）	寸 法 等	刃長75.0　反2.7
作品概要	鎬造、大鋒。反やや浅い。表に棒樋と護摩箸、裏に棒樋と倶利伽羅を彫る。鍛は小板目肌よく約み、地沸つく。棒映りが立つ。刃文は小互の目に小丁子や小乱を交え、匂口締まる。帽子は乱れ込んで先尖りごころに返る。茎はわずかに磨上、先切、鑢目勝手下り、目釘孔3つ開く。表に「備州長船秀光」、裏に「応安五年二月」の北朝年紀銘を切る。南北朝時代の備前刀工のなかで、総体に細身で小模様の互の目乱れを焼く刀工群を小反物と呼ぶが、そのなかでも秀光は技量に優れ、恒弘や師光と並ぶ代表的な刀工として知られる。また、作刀数が比較的多く、在銘作も時代幅が広いことから、南北朝時代から室町時代後期にかけて同名工が数代続いていたと考えられる。本品は磨上体配でありながらも年紀が伴っており貴重である。		

17　名称	太刀　銘備州長船政光／応永五年二月日（たち　めいびしゅうおさふねまさみつ／おうえいごねんにがつひ）	品　　質	鉄
作 者 等	政光 備前国	員　　数	1口
時　　代	室町時代 応永5年（1398）	寸 法 等	刃長67.0　反2.3
作品概要	鎬造、小鋒。腰反り強く元先の幅差あり。鍛は板目に杢交じりとなり、流れて総体肌立つ。地沸細かについて映り立つ。刃文は互の目乱れで2つずつ互の目連れとなり、刃中に細かな砂流しかかる。帽子は浅く湾れて丸く返り、先やや掃きかけとなる。茎は生で先栗尻、鑢目勝手下り、目釘孔2つ開く。佩表に六字銘「備州長船政光」、佩裏に年紀「應永五年二月日」を切る。政光は備前刀工の一人で、相伝備前を代表する刀工、兼光の作風に似る。康安元年（1361）銘作（重要文化財、個人蔵）を制作の上限として室町時代初期の応永までの約40年間に渡って在銘作が残っており、そのなかで本品は、政光の末期作に位置づけられる。政光の生茎在銘の作は非常に貴重であり、その作風を知る上で重要な作品である。		

18　名称	短刀　無銘（たんとう　むめい）	品　　質	鉄
作 者 等	宇多派 越中国	員　　数	1口
時　　代	室町時代 15世紀	寸 法 等	刃長24.9　反なし
作品概要	平造、庵棟。鍛は板目に柾がかる。刃文は細直刃、沸つく。帽子は尖って小丸に返る。茎は磨上、先栗尻、鑢目浅い勝手下り。目釘孔3つ開く。本品は無銘だが、宇多派の作とみられる。宇多派は、鎌倉時代末期に大和国宇多（宇陀）郡から移住してきた国光を祖とし、南北朝時代から室町時代にかけて越中国で作刀を行った一派である。現存作例は、おおむね室町時代中・後期のものが大半を占める。大和刀工及びその影響の北陸への広がりを示す作例である。		

19　名称	太刀　銘久盛（たち　めいひさもり）	品　　質	鉄
作 者 等	久盛 豊後国	員　　数	1口
時　　代	室町時代 16世紀	寸 法 等	刃長68.8　反3.2
作品概要	鎬造、庵棟、やや詰まった中鋒。中反強い。表裏ともに棒樋を角留めし、裏は区下より添樋を彫る。鍛は板目に柾がかる。刃文は互の目に飛焼交じる。帽子は丸く返るが判然としない。茎は磨上で、先切、鑢目大筋違。目釘孔3つ開く。指表に刀工銘「久盛」を刻む豊後国は南北朝時代の友行を祖として江戸時代に至るまで数多くの刀工を輩出した。なかでも、室町時代には大友氏の庇護のもと、高田庄（現大分県大分市鶴崎）で盛んに作刀が行なわれ、同時代の美濃や備前と比肩しうるほどの生産量を誇ったとされる。特に、応永年間から天正年間ころまでは平姓を冠した刀工（平高田）が多く、安土桃山時代以降には藤原姓を名乗った刀工（藤原高田）が増加する。本品の作者である久盛は平高田に属する刀工であるが、在銘作は少ない。		

20　名称	脇差　無銘（わきざし　むめい）	品　　質	鉄
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	室町時代 16世紀	寸 法 等	刃長55.7　反1.1
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。鍛は板目に杢交じり肌立つ。刃文は湾れに小互の目交じる。刃中に砂流し・金筋かかる。帽子は表裏ともに掃きかける。茎は大磨上無銘、先切で鑢目ごく浅い切。目釘孔2つ開く。拵は鐺に鍬形の大尻金具を伴う突兵拵で、小柄と割笄を伴う。大磨上のため無銘だが、もとは室町時代頃の備前刀とみられる。また、この刀身を収める突兵拵は、幕末に盛んだった洋式訓練に合わせて登場した拵で、洋装のバンドにも挟みやすいように鞘尻を細く尖らせて仕上げた点に特徴がある。もとは兜鉢の頂部が尖った変わり兜のことを突盔形と称し、突は突出、盔は冑を表わす言葉であるためその音が兵に通じ、転じて先がなめらかに細く尖るさまを突兵と呼ぶ。近世末期に兵装が西洋化したことを示す好個の作例である。		

21　名称	脇差　銘村正（わきざし　めいむらまさ）	品　　質	鉄
作 者 等	村正 伊勢国	員　　数	1口
時　　代	室町時代 16世紀	寸 法 等	刃長34.6　反0.6
作品概要	平造、三ツ棟。鍛は板目約み、乱れ映り立つ。刃文は腰刃に焼き出して湾れ、小互の目交じる。帽子は表裏ともに大丸に返る。茎はたなご腹となり先刃上り栗尻、鑢目浅い筋違、棟寄りに銘「村正」と切り、銘上に目釘孔1つ開く。拵は鮫革柄に阿形の獅子目貫を打った梨地蒔絵合口拵で、小柄を伴う。村正は、伊勢国桑名の刀工で、同銘のものが年紀入りの古作例では文亀元年（1501）、永正10年（1513）などがあり、以下大永・天文・元亀・天正までの年紀が認められることから、その活動時期は室町時代後期・16世紀と判じられる。古来、その切れ味が称賛され、実戦刀として用いられた。本品は、重ねやや薄めで湾れの刃文などに村正の特徴が看取される一方、たなご腹をなす茎の刃側角度がやや急で目釘孔が銘上に開く点は異例である。		

22　名称	刀　銘備州長船勝光／永正二年八月日（かたな　めいびしゅうおさふねかつみつ／えいしょうにねんはちがつひ）	品　　質	鉄
作 者 等	勝光 備前国	員　　数	1口
時　　代	室町時代 永正2年（1505）	寸 法 等	刃長60.6　反2.0
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。鍛は板目に柾がかる。刃は小互の目を主体に片落互の目が交じる。帽子は表崩れて返り、裏湾れ込んで返る。茎は区を送り、先刃上り栗尻、鑢目浅い勝手下り。目釘孔2つ開く。指表に刀工銘「備州長舩勝光」、指裏に年紀「永正二年八月日」を刻む。勝光は、室町時代中期から末期にかけて作刀を行った、「末備前」と総称される刀工のひとり。同時代の備前刀工のなかでも中心的な立場にあったらしく、京都・相国寺の塔頭、鹿苑院の歴代蔭涼軒主が記した日記『蔭涼軒日録』には、長享2年（1488）8月22日条また同九月廿一日条に勝光が備前から刀工たちを多数引き連れて、六角氏征伐のため近江出陣中であった室町幕府九代将軍の足利義尚（1465-1489）のために作刀を行ったことが記されている。		

23　名称	刀　銘備州長船源兵衛尉祐定作／天正五年八月日（かたなめいびしゅうおさふねげんべえじょうすけさださく／てんしょうごねんはちがつひ）	品　　質	鉄
作 者 等	祐定 備前国	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代 天正5年（1577）	寸 法 等	刃長65.6　反2.5
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒やや伸びる。刀身の表に「八幡大菩薩」、裏に阿弥陀如来・不動明王・大日如来と思われる梵字を刻む。鍛は板目に柾がかる。刃文は小互の目、沸つく。帽子は表焼詰め、裏尖り気味に湾れ込んで小丸に返る。目釘孔3つ開け、うち2つを鉛で埋める。指表に「備州長舩源兵衛尉祐定作」の刀工銘、指裏に「天正伍年八月日」の年紀銘をそれぞれ切る。祐定は、室町時代中期から末期にかけて作刀を行った、「末備前」と総称される刀工のひとり。祐定の在銘作をみると同銘の刀工が複数存在したらしく、本品にある「源兵衛尉」のほか「与左衛門尉」「彦兵衛尉」「彦左衛門尉」「十郎左衛門尉」などの通称が知られる。		

24　名称	刀　銘肥前国住人忠吉作（かたな　めいひぜんこくじゅうにんただよしさく）	品　　質	鉄
作 者 等	忠吉　肥前国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	刃長76.3　反1.8
作品概要	鎬造、庵棟、やや猪首風の中鋒。重厚く身幅広い。鍛は小板目よく約み小糠肌となり、一部に地景入る。刃文は広直刃で刃縁沸つき、物打付近に二重刃あらわれる。帽子は表裏とも小丸に返る。茎は生で先刃上り栗尻、鑢目切、目釘孔3つ開く。指裏に太刀銘「肥前國住人忠吉作」を切る。新刀期を代表する刀工として知られる忠吉は、もと肥前の大名龍造寺家の家臣であったが、幼少の頃に祖父・父の相次ぐ死去に伴う家禄断絶を受けて刀鍛冶の修行に入った。慶長元年（1596）に上京、埋忠明寿の門に入り鍛刀を学んで3年後に帰国し、佐賀藩お抱え工として活躍した。初代忠吉の銘は当初「肥前国忠吉」と五字銘に切ったが、慶長末期頃から元和十年の武蔵大掾受領までは本品のように「肥前国住人忠吉作」（住人銘）と切ることが知られている。従って、本品も概ねこの頃の作とみてよい。		

25　名称	刀　銘肥前国住近江大掾藤原忠広（かたな　めいひぜんこくじゅうおうみだいじょうふじわらのただひろ）	品　　質	鉄
作 者 等	忠広 肥前国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	刃長74.4　反1.8
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。身幅広く元先の幅差つき、重厚めで反深くつく。鍛は小板目肌よく約み、小沸厚く付いて米糠肌状となる。刃文は中直刃にところどころ小互の目がまじり、匂口冴える。帽子は小丸にやや深く入る。茎は生で、先入山形、鑢目はごく浅い勝手上がり。目釘孔1つ開く。指裏に刀工名を切る。忠広は、初代忠吉の子で寛永18年（1641）に近江大掾を受領した。受領前の銘はすべて「肥前国住藤原輝広」と刻むが、受領後は刀に「肥前國住近江大掾藤原忠広」、脇差に「近江大掾藤原忠広」とそれぞれ刻むのを通例としている。長命したこともあり、作刀数も多いことで知られるが、本品については姿・鍛ともに作行がよい。		

26　名称	脇差　銘下坂忠親（わきざし　めいしもさかただちか）	品　　質	鉄
作 者 等	下坂忠親 筑後国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	刃長39.4　反1.5
作品概要	菖蒲造、庵棟。先反強い。鍛は平地小板目よく約み、鎬地柾目肌。刃文は直刃、帽子は表掃きかけて返り、裏尖って深く返る。茎は生で先栗尻、鑢目切、目釘孔1つ開く。指表に「下坂忠親」の刀工銘を切る。下坂忠親は、寛文年間を中心に筑後柳川で作刀を行った下坂派の刀工。下坂派は近江国坂田郡下坂村（現長浜市）を本拠とした下坂鍛冶にはじまり、16世紀頃には特に槍の生産で知られた。慶長5年（1600）の関ヶ原の合戦以後、下坂鍛冶は近江国ゆかりの大名家に招かれ、全国各地へ広まった。このうち、筑後柳川には下坂八郎左衛門が湖北出身の田中吉政に召し抱えられて入国し、筑後下坂派の祖となった。本品の作者である忠親は、同派の代表的な刀工として知られ、江戸時代に盛名のあった古今の刀工780余名を国別に図入りで紹介した『続新刀銘尽』には、筑後下坂派から唯一選ばれてその作行が評価されている。		

27　名称	脇差　銘長曽祢興里入道虎徹（わきざし　めいながそねおきさとにゅうどうこてつ）	品　　質	鉄
作 者 等	虎徹 武蔵国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	刃長51.2　反1.1
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。鍛は小板目よく約み、地沸一面につく。刃文は焼き出し直刃、のち湾れる。帽子は表乱れ込み、裏掃きかけて返る。茎は生で先栗尻、鑢目筋違、鎬上に銘「長曽祢興里入道虎徹」を切り、初字にかかるようにして目釘孔を1つ開ける。虎徹は、当初「長曽祢興里」と称したが、のちに入道し、それとともに虎徹を名乗った。また、制作期によって「虎」の書体を変えており、最初は「古」、その後「虎」（＝通称「箱虎」）、さらに「虎」の最終画を上に大きく跳ね上げている（＝通称「跳虎」）。これに当てはめれば、本品は箱虎銘ということになる。但し、虎徹はその名声ゆえに江戸時代から贋作も非常に多いことで知られており、注意を要する。新刀期の作風を理解するための資料としたい。		

28　名称	刀　銘和泉守藤原国虎／元禄十一年戊寅八月日（かたな　めいいずみのかみふじわらのくにとら／げんろくじゅういちねんつちのえとらはちがつひ）	品　　質	鉄
作 者 等	藤原国虎 陸奥国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 元禄11年（1698）	寸 法 等	刃長63.4　反1.4
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。鍛は小板目約み、刃文は沸の強い直刃調で、刃中に長く砂流しが入る。帽子は表裏とも小丸に返る。茎は先刃上がりの生茎で、鑢目は化粧鑢、目釘孔2つ開く。茎表には十六弁菊花紋を刻み、その下に「和泉守藤原國虎」、茎裏には「元禄十一年戊寅八月日」の年紀銘を切る。国虎（1658-1713）は、大坂の井上真改あるいは京都の伊賀守金道の門人とされる。19歳で奥州磐城平藩3代藩主の内藤義概（1619-1685）に召し抱えられ、貞享元年（1684)に和泉守を受領、あわせて菊紋を拝領した。現存作の極めて少ない国虎の在銘作として貴重である。		

29　名称	短刀　無銘（たんとう　むめい）	品　　質	鉄
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	江戸時代 19世紀	寸 法 等	刃長17.9　反0.6
作品概要	おそらく造。表裏ともに掻き流しの腰樋と添樋。鍛は板目やや流れ、刃文は互の目に小沸つき、匂口ややうるむ。茎は栗尻、化粧鑢仕立ての生茎で、鎬上に目釘孔1つ開く。付属の拵には「和泉守兼重」の銘を切った小柄を伴う。本品の本歌は、室町時代後期・16世紀に駿河島田派の刀工助宗が打った「短刀　銘助宗（おそらく助宗）」（個人蔵）で、刀身に「おそらく」の字句が刻まれていることからこの名がある。横手筋が刀身の中程まで下がり刀身の半分以上が鋒となる反り深い体配が極めて特徴的で、安土桃山時代から江戸時代前期にかけて活躍した京都の刀工・白銀師の埋忠重長（寿斎）が自家に来た刀剣を絵図にまとめた『埋忠銘鑑』に収載され、のちにそれが数多く筆写されたことで衆目を集め、各地の刀工がその写しを制作した。本品はその一例である。		

30　名称	短刀　銘武州住正義（たんとう　めいぶしゅうじゅうまさよし）	品　　質	鉄
作 者 等	正義 武蔵国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 19世紀	寸 法 等	刃長17.7　内反あり
作品概要	平造、庵棟。内反りあり。鍛は小板目よく約む。刃文は互の目を匂出来に焼く。帽子は表裏とも少し湾れて小丸に返る。茎は生で先刃上がり栗尻、化粧鑢を施す。指表に銘「武州住正義」を刻み、「武」「州」の間に目釘孔1つ開く。正義は、水心子正秀の門人で、はじめ正方、守秀と称し、のち正義に名を改めた。正秀が提唱した復古刀の実践者であり、その作風は大板目肌の鍛に大乱刃で砂流しのかかる相州伝と一文字風の重花丁子を焼いた備前伝の2種に大別され、本品は前者にあたる。江戸で活躍し、後に美作津山藩のお抱え工となった。		

31　名称	太刀　銘小烏丸模／天保十四年氷心子秀世（たち　めいこがらすまるもす／てんぽうじゅうよねんひょうしんしひでよ）	品　　質	鉄
作 者 等	水心子秀世 武蔵国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 天保14年（1843）	寸 法 等	刃長63.2　反1.7
作品概要	小烏丸造、丸棟。表裏ともに薙刀樋に長い添樋を掻き流す。鍛は柾がかり、刃文は直刃、匂出来。茎は生で先栗尻、鑢目は化粧に仕上げ、目釘孔1つ開く。茎表に「小烏丸模」、茎裏に「天保十四年　氷心子秀世」の年紀と刀工銘を刻む。氷心子秀世は、新々刀の祖と言われる江戸時代後期の刀工、水心子正秀（天秀、1750-1825）に師事した。門弟百人と称された数多の正秀の弟子中にあって、師に作行がとりわけ近く、正秀の晩年には数多くの代作を行ったと言われる。本品の本歌は古来天国作とされる平安時代の無銘太刀で、平貞盛が藤原純友征討の功で賜り、その後平家の重宝として伝来したと言われる。江戸時代には有職故実の伊勢家が所持し、明治時代に対馬宗家が求めて明治天皇に献上し、御物として今に伝わる。		

32　名称	鉄道院短剣（てつどういんたんけん）	品　　質	鉄
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	明治時代～大正時代 20世紀	寸 法 等	刃長22.4　反なし
作品概要	平造、庵棟。鍛は大板目流れ、刃文は浅く湾れて刃中に砂流しや金筋入る。茎は生で栗尻、鑢目は粗い勝手下り、目釘孔1つ開く。拵は、黒鮫革を3本の金線で斜めに絞り込んだ柄と茶地研出鮫革巻の鞘からなる短剣拵で、目貫金具は五七桐紋をかたどり、兜金・口金物・鐺にはそれぞれ桐唐草文を大ぶりに刻む。鞘口左右に佩緒2つを設ける。本品は、鉄道院（のち鉄道省）で用いられた礼装用短剣で、明治42年（1909）の「鉄道院職員服装規則」に基づき、翌43年(1910)から大正8年（1919）に廃止されるまで用いられた。鉄道院では総裁以下、判任官までの官吏がこの規則の対象となり、職階によってその服制に細則が設けられていた。本品の拵は、柄に黒鮫革を用い、目貫金具に五七桐紋をあらわすことから、判任官の佩用短剣であることがわかる。廃刀令以後も明治時代まで伝統的な刀剣制作の技法が引き継がれていたことを如実に示す作品である。		

＜染織＞（14件）

33-45　名称	対獣文様錦対獣文様錦裂（たいじゅうもんようにしきぎれ）など	品　　質	絹（錦）　など
作 者 等	中国　など	員　　数	13件
時　　代	中国　後漢-北魏時代 3-5世紀　など	寸 法 等	
作品概要	3世紀から16世紀ごろにかけての東アジアから西アジアにかけて出土した計13件の古裂類。うち9件は契丹人の建国した遼の墳墓から出土した古裂が占める。遼の染織品は、我が国の平安時代の染織品との共通点が見られることから、東アジアにおける9-12世紀の染織品の体系化や流通経路の解明に寄与することが期待される貴重な作例である。 1　対獣文様錦裂（たいじゅうもんようにしきぎれ）　2枚 2　小円文様錦裂（しょうえんもんようにしきぎれ）　1枚 3　双孔雀文様錦幞頭裂（そうくじゃくもんようにしきぼくとうぎれ）　1枚 4　鳳凰花文様錦裂（ほうおうはなもんようにしきぎれ）　1枚 5　鸚哥花文様錦袋（いんこはなもんようにしきぶくろ）　1口 6　牡丹唐草鳥円文様錦裂（ぼたんからくさちょうえんもんようにしきぎれ）　2枚 7　双鳥文様錦裂（そうちょうもんようにしきぎれ）　1枚 8　樹下双鹿文様錦裂（じゅかそうろくもんようにしきぎれ）　1枚 9　獅子文様錦裂（ししもんようにしきぎれ）　1枚 10 錦裂（蝶鳥菱文様錦・花鳥円文様錦）《にしきぎれ（ちょうとりひしもんようにしき・かちょうえんもんようにしき）》　1枚 11 七宝繋文様錦裂（しっぽうつなぎもんようにしきぎれ）　1枚 12 鳳凰文様金銀糸刺繍裂（ほうおうもんようきんぎんししゅうぎれ）　5枚 13 唐草文様刺繍裂（からくさもんようししゅうぎれ）　1枚		

46　名称	久留米絣着物「紫陽花」（くるめがすりきもの　あじさい）	品　　質	
作 者 等	松枝哲哉	員　　数	1領
時　　代	平成13年（2001）	寸 法 等	丈169.0　裄69.7
作品概要	久留米絣の代表的作家の松枝哲哉（1955-2020）による作品。松枝は　重要無形文化財工芸技術保持団体の久留米絣技術保持者会長を務め、藍染、手織、絣手括の技術保持者認定を受けた。本作は平成13年(2001)に日本伝統工芸展に出品し、入選を果たした原作品である。本作のような幾何学文以外を織り表した絵絣は、久留米絣の特徴のひとつである。ここに用いられた交錯する曲線の表現や、ごく小さな丸い点は、絣の表現の中でもとりわけ難しい文様である。また、色の掛け合わせによる表現の他に、糸を複雑に染め分けることで細かな縞や格子を作り上げ、更に文様に奥行きを出す工夫を施している。本作は光の表現を追求した哲哉の代表作のひとつと言える。		

＜考古＞（10件）

47　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　質	土製
作 者 等	岩手県葛巻町江刈五日市出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 前1,000年-前300年	寸 法 等	長径14.5　短径8.5　高6.0
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。楕円形の体部で、注口部と口縁部を欠失する。同地域から出土した3年度購入の3点及び4年度寄贈の6点は昭和9年に出土し、旧蔵者宅に一括して保管されていたものである。		

48　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　質	土製
作 者 等	岩手県葛巻町江刈五日市出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 前1,000年-前300年	寸 法 等	直径20.0　高12.5
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。胎土はやや粗い。同地域から出土した3年度購入の3点及び4年度寄贈の6点は昭和9年に出土し、旧蔵者宅に一括して保管されていたものである。		

49　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　質	土製
作 者 等	岩手県葛巻町江刈五日市出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 前1,000年-前300年	寸 法 等	直径13.5　高7.0
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。胎土はやや粗く、注口部と口縁部を欠失する。注口部の破断面には、器を作った後に注口を取り付けた痕跡や粘土紐を貼り付けて文様を施した痕跡などの土器製作痕が確認できる。同地域から出土した3年度購入の3点及び4年度寄贈の6点は昭和9年に出土し、旧蔵者宅に一括して保管されていたものである。		

50　名称	壺形土器（つぼがたどき）	品　質	土製
作 者 等	岩手県葛巻町江刈五日市出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 前1,000年-前300年	寸 法 等	直径16.3　高15.0
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。口縁部を欠失する。同地域から出土した3年度購入の3点及び4年度寄贈の6点は昭和9年に出土し、旧蔵者宅に一括して保管されていたものである。		

51　名称	動物形土製品（どうぶつがたどせいひん）	品　質	土製
作 者 等	岩手県葛巻町江刈五日市出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 前1,000年-前300年	寸 法 等	縦8.0　横7.4　厚2.8
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土製品である。隆線による正中線と脚部（乳房？）様の突起、側縁部の刺突が特徴的である。動物形土製品は中空に作られるものが多いが、本品は中実で作られている。同地域から出土した3年度購入の3点及び4年度寄贈の6点は、昭和9年に出土し旧蔵者宅に一括して保管されていたものである。		

52　名称	鉢形土器（はちがたどき）	品　質	土製
作 者 等	岩手県葛巻町江刈五日市出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 前1,000年-前300年	寸 法 等	直径11.0、高6.8
作品概要	縄文時代晩期の主に東北から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。底部には網籠や籃胎漆器を模したような小さな脚を持つ。同地域から出土した3年度購入の3点及び4年度寄贈の6点は、昭和9年に出土し旧蔵者宅に一括して保管されていたものである。		

53　名称	壺（つぼ）	品　質	土製
作 者 等	伝福岡県行橋市竹並遺跡	員　数	1口
時　代	古墳時代 6-7世紀	寸 法 等	高12.5　胴部径16.0
作品概要	球状の胴部が残存し、頸部から口縁部を欠く須恵器の壺である。本来は高さのある口縁部を有する長頸壺の形状を呈していた。頸部がきれいに打ち欠かれたようになっているため、埋葬時などに故意に欠失した可能性も考えられる。胴部には中央に刺突文による文様帯が一条巡る。その上下には、カキメによる丁寧な調整がなされる。カキメ調整は金属器の壺を模倣したために用いられた技法と考えられる。そのことからも、古墳時代終末期頃まで下るものである。豊前を代表する古墳時代の横穴墓・古墳群である竹並遺跡の出土と伝えられるものである。竹並遺跡は福岡県行橋市南泉に所在する遺跡で、国内最大級の横穴墓群を有する遺跡でもある。また、5世紀代にさかのぼる最古級の横穴墓や墳丘を持つ横穴墓が初めて見つかった遺跡としても全国的にも知られている。		

54　名称	蓋坏（ふたつき）	品　質	土製
作 者 等	伝福岡県行橋市竹並遺跡	員　数	1合
時　代	古墳時代 7世紀	寸 法 等	身：径12.5　高3.5、蓋：径12.5　高2.5、総高5.5
作品概要	口縁部に、身の口縁部を受けるための返りを有する蓋と、高台を持たない身がセットとなる須恵器の坏である。蓋はつまみを持たないが、天井部まで丁寧にヘラケズリで調整する。一方、身はヘラケズリは底部までは達せず、底部は粗くナデつけている。豊前を代表する古墳時代の横穴墓・古墳群である竹並遺跡の出土と伝えられるものである。竹並遺跡は福岡県行橋市南泉に所在する遺跡で、国内最大級の横穴墓群を有する遺跡でもある。また、5世紀代にさかのぼる最古級の横穴墓や墳丘を持つ横穴墓が初めて見つかった遺跡としても全国的にも知られている。		

55　名称	平瓶（ひらべ）	品　質	土製
作 者 等	伝福岡県行橋市竹並遺跡	員　数	1口
時　代	古墳時代 6-7世紀	寸 法 等	高19.0　胴部径19.0
作品概要	口縁部をわずかに欠失するが、ほぼ完存する須恵器の平瓶である。大ぶりで、扁平な球状の胴部に注口部が取り付けられる。体部外面は、底部までヘラケズリで丁寧に調整され、平瓶の初現である６世紀末頃（小田編年Ⅵ期）の形態を表している。口縁部はやや歪んでおり、底部には焼き台の痕跡が残る。豊前を代表する古墳時代の横穴墓・古墳群である竹並遺跡の出土と伝えられるものである。竹並遺跡は福岡県行橋市南泉に所在する遺跡で、国内最大級の横穴墓群を有する遺跡でもある。また、5世紀代にさかのぼる最古級の横穴墓や墳丘を持つ横穴墓が初めて見つかった遺跡としても全国的にも知られている。		

56　名称	舎利容器（しゃりようき）	品　　質	
作 者 等	中国	員　　数	1合
時　　代	中国　遼時代 11世紀	寸 法 等	蓋径2.5　蓋高1.8　身径4.2　身高4.0
作品概要	水晶による小壺。内部には砂が敷かれ、ガラスビーズ（鉛ガラス）による舎利が2粒収められる。ことから、舎利容器として用いられていたことがわかる。蓋の鈕には蓮の花托に見立てた丸文、身には蓮弁が彫り表される。さらに蓮弁には葉脈が線刻される。小ぶりながらも細かな彫刻が見事な優品である。本品の詳細な出土地域は不明であるが、水晶による舎利容器の類例が中国・遼代の遺跡から出土していること、また蓮花を模したガラスの舎利容器の破片が大量に宇治・平等院の本尊台座より発見されていることから、11世紀の遼の遺跡から出土したものと推測される。		

（１）編入（1件）

＜歴史資料＞（1件）

1　名称	官板実測日本地図（畿内・東海・東山・北陸）（かんばんじっそくにほんちず（きない・とうかい・とうざん・ほくりく））	品　　質	紙本墨書淡彩
作 者 等	大学南校刊行	員　　数	1舗
時　　代	明治時代　明治3年(1870)	寸 法 等	縦230.4　横158.0
作品概要	「官板実測日本地図」は、伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」の小図3舗をもとに、江戸幕府の洋学教育機関である開成所が慶応元年(1865)から慶応3年の間に刊行した日本図であり、「大日本沿海輿地全図」の唯一の刊行図である。「官板実測日本地図」は木版で3色に多色摺したもので、「北蝦夷」（樺太）・「蝦夷諸島」（北海道）・「畿内・東海・東山・北陸」（本州東半部）・「山陰、山陽、南海、西海」（本州西半部・四国・九州・琉球諸島）の4枚組からなる。 樺太、北海道内陸部の詳細、小笠原諸島、琉球諸島については、「大日本沿海輿地全図」に収載されていない。「官板実測日本地図」は「大日本沿海輿地全図」をそのまま板刻したわけではなく、江戸幕府が統治領域の範囲を示そうとした意図が見て取れる。実際、江戸幕府はこうした意図をもって、1867年のパリ万博開催にあわせて「官板実測日本地図」を刊行したことが知られる。 本図は、慶応3年に刊行した時と同じ版木を用いて、明治3年(1870)に大学南校が刊行した再版図である。地図行政は民部省地理司が掌ることになったが、近代的測量法に基づく「輯製二十万分一図」の製作開始は明治17年まで待たなければならなかった。維新後、明治政府は対内的・対外的に国土基本図たる地図が必要であるものの、「伊能図」の水準を超える地図製作は困難な状況であり、再版したと推測される。 「官板実測日本地図」は「大日本沿海輿地全図」の唯一の刊行図としてだけでなく、幕末維新期の幕府・明治政府の国土観、明治初期の地図行政のあり方を示す地図として重要である。		

1-(1)-①-5　有形文化財に関する取組状況（文化財購入費）

令和5年3月31日

	令和4年度 合計金額（千円）	総件数	内訳					
			運営費交付金（千円）	件数	寄附金（千円）	件数	目的積立金（千円）	件数
国立文化財機構	839,906	56	699,466	54	140,440	1	0	0
東京国立博物館	88,000	1	83,060	1	4,940	(1)※	0	0
京都国立博物館	74,000	8	71,000	7	3,000	1	0	0
奈良国立博物館	190,500	12	168,000	12	22,500	(1)※	0	0
九州国立博物館	487,406	35	377,406	34	110,000	2(1)※	0	0

※()の数値は、運営費交付金と寄附金を合算し購入した件数。

1-(1)-①-6 寄託品一覧表

（単位：件）　令和5年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	12,592	199	1,204	2,668	54	260	6,587	89	619	1,937	54	311	1,400	2	14
絵画	3,768	57	418	393	12	62	2,332	29	247	554	16	106	489	0	3
書跡	1,666	69	277	388	10	36	869	42	200	364	16	37	45	1	4
彫刻	865	9	192	148	2	40	262	1	63	427	6	87	28	0	2
建築	5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
金工	997	15	88	126	5	17	577	3	39	200	7	30	94	0	2
刀剣	274	8	57	240	8	48				16	0	9	18	0	0
陶磁	1,482	1	7	100	0	2	1,017	1	4	8	0	0	357	0	1
漆工	760	15	57	75	6	14	545	4	16	116	5	26	24	0	1
染織	669	7	37	68	2	4	525	3	30	48	2	3	28	0	0
考古	970	13	35	170	4	13	420	6	10	202	2	11	178	1	1
民族資料	115	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	110	0	0
歴史資料	68	0	12	2	0	0	37	0	10	2	0	2	27	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	156	2	14	156	2	14									
東洋 書跡	48	2	8	48	2	8									
東洋 彫刻	17	0	0	17	0	0									
東洋 金工	2	0	1	2	0	1									
東洋 陶磁	191	1	0	191	1	0									
東洋 漆工	28	0	1	28	0	1									
東洋 染織	8	0	0	8	0	0									
東洋 考古	487	0	0	487	0	0									
東洋 民族	3	0	0	3	0	0									
黒田記念館収蔵品	13	0	0	13	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-①-7 寄託品増減表

（単位：件）　令和5年3月31日現在

	国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
	3年度	4年度			3年度	4年度			3年度	4年度			3年度	4年度			3年度	4年度		
	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計	12,513	197	118	12,592	2,651	42	25	2,668	6,562	74	49	6,587	1,956	4	23	1,937	1,344	77	21	1,400
絵画	3,757	35	24	3,768	394	0	1	393	2,314	35	17	2,332	555	0	1	554	494	0	5	489
書跡	1,666	4	4	1,666	389	1	2	388	870	1	2	869	364	0	0	364	43	2	0	45
彫刻	867	6	8	865	150	0	2	148	261	2	1	262	428	4	5	427	28	0	0	28
建築	5	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2
金工	991	7	1	997	126	0	0	126	571	7	1	577	200	0	0	200	94	0	0	94
刀剣	273	1	0	274	240	0	0	240					16	0	0	16	17	1	0	18
陶磁	1,443	63	24	1,482	108	0	8	100	1,021	12	16	1,017	8	0	0	8	306	51	0	357
漆工	746	16	2	760	76	0	1	75	529	16	0	545	117	0	1	116	24	0	0	24
染織	693	0	24	669	68	0	0	68	535	0	10	525	49	0	1	48	41	0	13	28
考古	957	34	21	970	161	10	1	170	421	1	2	420	217	0	15	202	158	23	3	178
民族資料	115	0	0	115	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	110	0	0	110
歴史資料	68	0	0	68	2	0	0	2	37	0	0	37	2	0	0	2	27	0	0	27
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	158	0	2	156	158	0	2	156												
東洋 書跡	51	0	3	48	51	0	3	48												
東洋 彫刻	12	5	0	17	12	5	0	17												
東洋 金工	2	0	0	2	2	0	0	2												
東洋 陶磁	169	26	4	191	169	26	4	191												
東洋 漆工	28	0	0	28	28	0	0	28												
東洋 染織	9	0	1	8	9	0	1	8												
東洋 考古	487	0	0	487	487	0	0	487												
東洋 民族	3	0	0	3	3	0	0	3												
黒田記念館収蔵品	13	0	0	13	13	0	0	13												

1-(1)-①-8 登録美術品一覧表

（単位：件）　令和5年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	10	0	3	8	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画	5	0	3	5	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 陶磁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(1)-②　有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-②-1 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
本館	展覧会場	09：00～17：00	13～29℃	22～87%
	収蔵庫	09：30～17：00	16～27℃	29～75%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	18～29℃	31～69%
	収蔵庫	09：30～17：00	21～24℃	46～58%
東洋館	展覧会場	09：30～17：00	15～29℃	25～69%
	収蔵庫	09：30～17：00	13～28℃	38～65%
法隆寺宝物館	展覧会場	24時間運転	21～25℃	50～58%
	収蔵庫	24時間運転	21～23℃	50～60%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	16～23℃	33～78%
	収蔵庫	24時間運転	20～23℃	48～58%
管理棟	収蔵庫	24時間運転	21～23℃	52～59%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
明治古都館	展覧会場（閉室中）	休止中		
	収蔵庫	2年12月より休止中		
平成知新館	展覧会場	8：40～17：20	19～25℃	50～60%
	収蔵庫	8：40～17：20	19～24℃	55～60%（金工収蔵庫のみ45～55%
北収蔵庫		9：00～17：30	19～24℃	50～60%
東収蔵庫		9：00～17：30	19～24℃	50～60%
文化財保存修理所		8：30～17：30	20～25℃	50～65%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）			湿度（年間）
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±4%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±4%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	8:00～19:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:40～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(1)-②-2 収蔵品に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

令和5年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館
画像	55件	画像	3,326件	画像	3,012件	（完了）
和古書・漢籍	11,055件			文字	4,054件	
洋古書	0件					

1-(1)-②-3 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】　令和5年3月31日現在

合計			
計		本格修理調査時	応急修理時
		65	392
絵画		7	135
書跡		0	4
彫刻		0	0
建築		0	0
金工		0	2
刀剣		1	6
陶磁		0	5
漆工		0	2
染織		1	1
考古		6	2
歴史資料		0	29
民族資料		0	16
和書		41	7
写真資料		0	123
東洋	絵画	2	13
	書跡	1	12
	彫刻	0	0
	金工	0	0
	陶磁	0	1
	漆工	0	0
	染織	0	21
	考古	6	0
	民族	0	1
法隆寺献納宝物		0	1
その他（黒田含）		0	11

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	123	136	86
絵画	37	48	6
書跡	12	28	1
彫刻	11	10	1
建築	0	0	0
金工	16	17	0
刀剣		2	1
陶磁	19	0	1
漆工	6	7	2
染織	1	4	1
考古	18	14	6
民族資料	0	0	2
歴史資料	3	0	5
和書	0	0	0
写真資料	0	6	0
その他	0	0	60

1-(1)-②-4 本格修理件数

令和5年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		127	94	7	6	20
絵　画		17	8	3	3	3
書　跡		2	0	0	1	1
彫　刻		2	0	1	1	0
建　築		0	0	0	0	0
金　工		3	0	3	0	0
刀　剣		2	1		0	1
陶　磁		1	0	0	0	1
漆　工		0	0	0	0	0
染　織		28	27	0	0	1
考　古		14	7	0	1	6
民族資料		2	0	0	0	2
歴史資料		5	0	0	0	5
和　書		42	42	0	0	0
写真資料		0	0	0	0	0
東洋	絵　画	2	2			
	書　跡	1	1			
	彫　刻	0	0			
	金　工	0	0			
	陶　磁	0	0			
	漆　工	0	0			
	染　織	0	0			
	考　古	6	6			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		0	0			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		0	0			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、内数。

1-(1)-②-5 修理概況

【東京国立博物館】（計 94件）

＜絵画＞（8件）

1 列品番号	A-11131	品　質	紙本淡彩
名　称	六遠山水図　澹遠	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦135.7 横57.8
年代世紀	明和3年(1766)	施工会社	㈱光影堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④欠損部に補紙を施す。 ⑤新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑥新規裏打ちを重ね、補彩をする。 ⑦表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、桐製印籠箱（6幅共用箱、旧蓋板等収納）、包裂、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中まで実施）		

2 列品番号	A-11132	品　質	紙本淡彩
名　称	六遠山水図　幽遠	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦135.7 横57.8
年代世紀	明和3年(1766)	施工会社	㈱光影堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④欠損部に補紙を施す。 ⑤新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑥新規裏打ちを重ね、補彩をする。 ⑦表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、桐製印籠箱（6幅共用箱、旧蓋板等収納）、包裂、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中まで実施）		

3 列品番号	A-11133	品　質	紙本淡彩
名　称	六遠山水図　迷遠	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦135.7 横57.8
年代世紀	明和3年(1766)	施工会社	㈱光影堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④欠損部に補紙を施す。 ⑤新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑥新規裏打ちを重ね、補彩をする。 ⑦表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、桐製印籠箱（6幅共用箱、旧蓋板等収納）、包裂、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中まで実施）		

4 列品番号	A-11134	品　質	紙本淡彩
名　称	六遠山水図　平遠	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦135.7 横57.8
年代世紀	明和3年(1766)	施工会社	㈱光影堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④欠損部に補紙を施す。 ⑤新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑥新規裏打ちを重ね、補彩をする。 ⑦表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、桐製印籠箱（6幅共用箱、旧蓋板等収納）、包裂、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中まで実施）		

5 列品番号	A-11135	品　質	紙本淡彩
名　称	六遠山水図　深淵	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦135.7 横57.8
年代世紀	明和3年(1766)	施工会社	㈱光影堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④欠損部に補紙を施す。 ⑤新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑥新規裏打ちを重ね、補彩をする。 ⑦表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、桐製印籠箱（6幅共用箱、旧蓋板等収納）、包裂、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中まで実施）		

6 列品番号	A-11136	品　質	紙本淡彩
名　称	六遠山水図　高遠	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦135.7 横57.8
年代世紀	明和3年(1766)	施工会社	㈱光影堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④欠損部に補紙を施す。 ⑤新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑥新規裏打ちを重ね、補彩をする。 ⑦表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、桐製印籠箱（6幅共用箱、旧蓋板等収納）、包裂、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中まで実施）		

7 列品番号	A-12486	品　質	紙本着色
名　称	泰西騎士像	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦85.1 横38.5
年代世紀	17世紀	施工会社	㈱半田九清堂
補足事項	①仮張りから本紙を外す。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 ⑤本紙、表装裂を切り継ぐ。 ⑥新規裏打ちを行なう。 ⑦表装裂、発装、軸首、金具、紐を新調し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、包裂、桐製二重箱、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は⑤まで実施）		

8 列品番号	A-1155	品　質	紙本墨画着色
名　称	扇面雑画	員　数	60面のうち15面
時　代	江戸時代	寸 法 等	36.5×63.8
年代世紀	18～19世紀	施工会社	㈱半田九清堂
補足事項	①本紙を取り外す。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③本紙裏面に付着した銀箔紙を除去し、増裏打ち紙を除去する。 ④新規裏打ちを行う。 ⑤中性紙ボードで落とし込みのマットを作製し、保管する。		

＜刀剣＞（1件）

1 列品番号	F-4-2	品　質	木製漆塗など
名　称	沃懸地鳳凰蒔絵小脇指	員　数	1口
時　代	江戸時代	寸 法 等	総長47.9 柄長12.2 鞘長35.5
年代世紀	19世紀	施工会社	
補足事項	①鐺を取り外す。鞘と強固に接着されている場合は、鐺の形に沿って鞘を切断する。 ②指裏の鐺から0.7センチ程続く亀裂に対して充填強化する。 ③鞘内部の木質を掘削して金属物を除去する。 ④金属物の除去によって鞘の木質が可動し、刃方に広がる23センチ程の亀裂が塞がる場合は、亀裂を圧着する。 金属物を除去しても鞘の木質が既に硬化して可動しない場合は、亀裂は現状のままとし、充填強化する。 ⑤工程①において鐺を取り外した場合は、鞘の先端に新たに凸型を作って鐺を装着する。 工程①において鐺に沿って鞘を切断した場合は、切断分を含めて鞘の一部を新補して鐺を装着する。 （令和4年度は④の途中までを実施）		

＜染織＞（27件）

1　列品番号	I-3947	品　　質	
名　　称	小袖白地片身替格子縞段縅	員　　数	1領
時　　代	安土桃山時代	寸 法 等	丈126 裄57 袖巾22 袖丈48
年代世紀	16世紀	施工会社	㈱松鶴堂
補足事項	①処置範囲になじみ、損傷部に負荷の少ない絹製補修糸を用意する。 ②表地と裏地の解体は行なわず、必要に応じて織糸と中綿を整え、皺伸ばしを行なう。 ③脆弱な箇所には、生地の裂け部分から中綿や補修裂を挿入する。 ④必要に応じ、生地端を補修糸で縫いかける。 ⑤作品をたたまず平置きできる収納台と保存箱を作製する。この収納台については展示にも対応可能な仕様とする。 （4年度は②の途中まで実施）		

2　列品番号	I-721	品　　質	絹
名　　称	小袖白綾地秋草模様	員　　数	1領
時　　代	江戸時代	寸 法 等	身丈147.2 裄65.1
年代世紀	18世紀	施工会社	㈱松鶴堂
補足事項	①解体する ②補強、補修を行なう ③旧修理を除去する ④表地に補修裂を綴じ付ける ⑤裏地を新調する ⑥仕立て　左右の袖を入れ替える（現状変更） ⑦収納		

3　列品番号	I-337-6	品　　質	絹製、纐纈・平絹
名　　称	緑地目結文纐纈平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦21.9 横28.7
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-6とI-337-7の2点を１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

4　列品番号	I-337-7	品　　質	絹製、纐纈・平絹
名　　称	緑地目結文纐纈平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦20.4 横28.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-6とI-337-7の2点を１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

5　列品番号	I-337-48	品　　質	絹製、蘰纈・平絹
名　　称	茶地霞襷鳥文蘰纈平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦13 横15.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.中性紙のウィンドウマット装にする。		

6　列品番号	I-337-49	品　　質	絹製、蘰纈・平絹
名　　称	緑地霞襷鳥文蘰纈平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦18.5 横9.1
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

7　列品番号	I-337-50	品　　質	絹製、蘰纈・平絹
名　　称	紫地海賦文蘰纈平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦9.7 横4.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.中性紙のウィンドウマット装にする。		

8　列品番号	I-337-54	品　　質	絹製、蘰纈・平絹
名　　称	緑地草花文蘰纈平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦29.2 横23.2
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

9　列品番号	I-337-57	品　　質	絹製、蘰纈・平絹
名　　称	淡青地草花文臈纈平絹腰裄残欠	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦23.4 横14.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

10　列品番号	I-337-89	品　　質	絹製、夾纈・平絹
名　　称	淡茶地集花文夾纈平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦27.0 横40.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

11　列品番号	I-337-90	品　　質	絹製、夾纈・平絹
名　　称	淡茶地集花文夾纈平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦26.6 横40.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

12　列品番号	I-337-109	品　　質	絹製、夾纈・羅
名　　称	茶地花葉文夾纈羅	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦40.0 横25.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

13　列品番号	I-337-134	品　　質	絹製、綾
名　　称	紫地飛仙文綾天蓋垂飾残欠	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦33.7 横27.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

14　列品番号	I-337-135	品　　質	絹製、綾
名　　称	紫地雲鳳文綾天蓋垂飾残欠	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦39.8 横26.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

15　列品番号	I-337-136	品　　質	絹製、綾
名　　称	黄地花唐草文綾	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	16.1 横24.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

16　列品番号	I-337-137	品　　質	絹製、綾
名　　称	紫地花唐草文綾幡足残欠	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦24.4 横15.9
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.中性紙のウィンドウマット装にする。		

17　列品番号	I-337-171	品　　質	絹製、錦
名　　称	紫地唐花文錦	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦25.2 横27.1
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.中性紙のウィンドウマット装にする。		

18　列品番号	I-337-173	品　　質	絹製、錦
名　　称	黄地唐花文錦	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦17.8 横17.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.縁の処理を行う。 4.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

19　列品番号	I-337-176	品　　質	絹製、錦
名　　称	長斑花鳥文錦	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦16.0 横17.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.縁の処理を行う。 4.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

20　列品番号	I-337-196	品　　質	絹製、錦
名　　称	黄地連珠入亀甲繋花文錦幡足垂端飾	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦12.3 横11.5
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-196とI-337-197の2点を並列し、１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

21　列品番号	I-337-197	品　　質	絹製、錦
名　　称	黄地花文錦幡足垂端飾	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦13.0 横11.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-196とI-337-197の2点を並列し、１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

22　列品番号	I-337-198	品　　質	絹製、錦
名　　称	赤地唐花文錦幡足垂端飾	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦13.1 横11.7
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-198とI-337-199の2点を並列し、１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

23　列品番号	I-337-199	品　　質	絹製、錦
名　　称	白茶地花文錦幡足垂端飾	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦13.5 横11.7
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-198とI-337-199の2点を並列し、１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

24　列品番号	I-337-200	品　　質	絹製、錦
名　　称	赤地唐花文錦幡足垂端飾	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦12.4 横11.6
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-200とI-337-201の2点を並列し、１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

25　列品番号	I-337-201	品　　質	絹製、錦
名　　称	緑地唐花文錦幡足垂端飾	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦12.9 横12.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-200とI-337-201の2点を並列し、１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

26　列品番号	I-337-233	品　　質	絹製、錦
名　　称	淡縹地唐花文錦	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦34.8 横9.2
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-233とI-337-234の2点を１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

27　列品番号	I-337-234	品　　質	絹製、平絹・纐纈
名　　称	黄緑地目結文纐纈平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦34.8 横8.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-233とI-337-234の2点を１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

＜考古＞（7件）

1　列品番号	J-6195	品　　質	土師器
名　　称	広口壺	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高33.3　口径22.5
年代世紀	3～4世紀	施工会社	㈲武蔵野文化財修復研究所
補足事項	①解体し、旧復元石膏部を除去する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。（4年度は①②を実施）		

2　列品番号	J-11982	品　　質	土師器
名　　称	甑	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高27.0　復原口径26.0
年代世紀	6世紀	施工会社	㈲武蔵野文化財修復研究所
補足事項	①解体し、旧復元石膏部を除去する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。（4年度は①②を実施）		

3　列品番号	J-1474	品　　質	石製（溶結凝灰岩）
名　　称	石棒	員　　数	1個
時　　代	縄文時代(中期)	寸 法 等	長101.0 最大径13.0 ； 頭部 最大径8.6 ； くびれ部 径6.3
年代世紀	前3000～前2000年	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
補足事項	①クリーニングする。 ②表面および破断面を強化する。 ③接合する。		

4　列品番号	J-22408	品　　質	土製
名　　称	壺形土器	員　　数	1個
時　　代	オホーツク文化期	寸 法 等	口径28.0 最大径28.4 底径13.5
年代世紀	5～6世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
補足事項	①クリーニングする。 ②強化し、接合する。 ③欠失部分を補填、復元する。 ④補填部に補彩する。 （4年度は②を実施）		

5　列品番号	J-21428	品　　質	土製
名　　称	埴輪　踊る人々	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高57cm 幅14cm 重量3.4kg
年代世紀	6世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
補足事項	①解体し、旧修理による石膏部分を除去する。 ②クリーニングする。 ③破断面を中心に強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填箇所に補彩を施す。 ⑥専用展示台を作成する。		

6　列品番号	J-21429	品　　質	土製
名　　称	埴輪　踊る人々	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高64cm 幅17cm 重量3.5kg
年代世紀	6世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
補足事項	①解体し、旧修理による石膏部分を除去する。 ②クリーニングする。 ③破断面を中心に強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填箇所に補彩を施す。 ⑥専用展示台を作成する。		

7　列品番号	J-7822	品　　質	土製
名　　称	埴輪　馬	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高78.9cm 長77.2cm
年代世紀	6世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①解体し、石膏部分を除去する。 ②クリーニングする。 ③破断、亀裂箇所を重点的に強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填箇所に補彩を施す。 ⑥取り外し可能な支持具付きの展示台を作製し、頭部にかかる重心を分散し安定した展示を可能にする。		

＜和書＞（42件）

1　列品番号	QA-3623-2	品　　質	紙本墨書
名　　称	《岩手県宝物目録；社寺及人民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	28.3×20.3
年代世紀	19世紀	施工会社	㈳国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。（4年度は①まで。一部については②の途中までを実施）		

2　列品番号	QA-3624-1	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《岩手県宝物精細簿；単》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈳国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。（4年度は①まで。一部については②の途中までを実施）		

3　列品番号	QA-3624-2	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《東京府宝物精細簿；甲；公爵徳川家達・侯爵徳川義礼》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈳国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。（4年度は①まで。一部については②の途中までを実施）		

4　列品番号	QA-3624-3	品　　質	紙本墨書
名　　称	《東京府宝物精細簿；乙》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈳国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。（4年度は①まで。一部については②の途中までを実施）		

5　列品番号	QA-3624-4	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《東京府宝物精細簿；甲；公爵徳川家達・侯爵徳川義礼》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈳国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。（4年度は①まで。一部については②の途中までを実施）		

6　列品番号	QA-3624-5	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《東京府宝物精細簿；乙》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

7　列品番号	QA-3624-6	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《徳川公爵宝物精細簿》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

8　列品番号	QA-3624-7	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《前田公爵宝物精細簿》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

9　列品番号	QA-3624-8	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《東京府宝物参攷簿；単》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

10　列品番号	QA-3624-9	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《東京府仮定精細簿》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

11　列品番号	QA-3624-10	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《神奈川県宝物精細簿；単》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

12　列品番号	QA-3624-11	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《神奈川県宝物参攷簿；単》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

13　列品番号	QA-3624-12	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《愛知県宝物精細簿；各社寺人民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

14　列品番号	QA-3624-13	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《愛知県宝物精細簿；単；社寺士民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

15　列品番号	QA-3624-14	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《徳川侯爵宝物精細簿；2；附成瀬子爵刀剣之部》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

16　列品番号	QA-3624-15	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物精細簿；天；滋賀郡延暦寺・園城寺・安楽律院》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

17　列品番号	QA-3624-16	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物精細簿；地；滋賀郡・栗太郡・野洲郡・甲賀郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

18　列品番号	QA-3624-17	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物精細簿；人；神崎郡・蒲生郡・愛知郡・犬上郡・坂田郡・東浅井郡・西浅井郡・伊香郡・高島郡・附士民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

19　列品番号	QA-3624-18	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物精細簿；甲；滋賀郡・栗太郡・野洲郡・甲賀郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

20　列品番号	QA-3624-19	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物精細簿；乙；蒲生郡・神崎郡・愛知郡・犬上郡・坂田郡・東浅井郡・伊香郡・高島郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

21　列品番号	QA-3624-20	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物参攷簿；天；滋賀郡・栗太郡・野洲郡・甲賀郡・蒲生郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

22　列品番号	QA-3624-21	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物参攷簿；地；神崎郡・愛知郡・犬上郡・坂田郡・東浅井郡・西浅井郡・伊香郡・高島郡・附士民之部》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

23　列品番号	QA-3624-22	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物参攷簿；天》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

24　列品番号	QA-3624-23	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物参攷簿；地》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

25　列品番号	QA-3624-24	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県史料参攷簿；単；社寺及士民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

26　列品番号	QA-3624-25	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都市宝物精細簿；1；上京区》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

27　列品番号	QA-3624-26	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都市宝物精細簿；2；下京区；甲》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

28　列品番号	QA-3624-27	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都市下京区精細簿；3；下京区；乙》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

29　列品番号	QA-3624-28	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；4；愛宕郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

30　列品番号	QA-3624-29	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；5；葛野郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

31　列品番号	QA-3624-30	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；6；乙訓郡・紀伊郡・宇治郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

32　列品番号	QA-3624-31	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；7；久世郡・相楽郡・綴喜郡・南桑田郡・北桑田郡・船井郡・天田郡・何鹿郡・加佐郡・与謝郡・中郡・竹野郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

33　列品番号	QA-3624-32	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都市宝物精細簿；8；上京区士民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

34　列品番号	QA-3624-33	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；9；下京区士民・附各郡士民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

35　列品番号	QA-3624-34	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都市下京区宝物精細簿；1》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

36　列品番号	QA-3624-35	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；2；愛宕郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

37　列品番号	QA-3624-36	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；3；葛野郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

38　列品番号	QA-3624-37	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；4；乙訓郡・紀伊郡・宇治郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

39　列品番号	QA-3624-38	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；5；久世郡・相楽郡・綴喜郡・南桑田郡・北桑田郡・船井郡・天田郡・何鹿郡・加佐郡・与謝郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

40　列品番号	QA-3624-39	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都市宝物精細簿；6；上京区・下京区・士民・附各郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

41　列品番号	QA-3624-40	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府史要参攷簿》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

42　列品番号	QB-30	品　　質	紙本墨摺
名　　称	大三川志	員　　数	109冊
時　　代	江戸時代	寸 法 等	各冊とも、縦26.4×横18.1
年代世紀	宝暦13年(1763)	施工会社	㈲東京修復保存センター
補足事項	リーフキャスティング（漉き嵌め）法による修理とする。 ①修理前調査を行なう。 ②解体する。 ③リーフキャスティング前処置（本紙整形、虫糞等除去、脆弱部分を和紙と生麩糊で固定）をする。 ④リーフキャスティング（本紙に適した楮・三椏の混合液を原料として、作業後は十分な乾燥期間をおく） ⑤断裁作業（周囲を本紙保護に適した余白を残して裁断する） ⑥表紙を補修する。 ⑦元の冊子装に製本する。 （3～4年度は②～⑦を実施）		

＜東洋絵画＞（2件）

1　列品番号	TA-339	品　　質	絹本墨画
名　　称	山水図軸	員　　数	1幅
時　　代	南宋時代	寸 法 等	22.5×25.4
年代世紀	13世紀	施工会社	㈱文化財保存
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 ④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑤新規補絹部分には補彩を施す。 ⑥表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。掛風帯金具は新調する。 ⑦桐製太巻、桐製印籠箱、桐製外箱（新旧箱を同梱）を新調する。 (4年度は③の途中までを実施)		

2　列品番号	TA-693-72	品　　質	紙本に水彩、金彩
名　　称	カシミール様式写本	員　　数	1冊
時　　代		寸 法 等	10.5×16.5 (252葉)
年代世紀	19世紀前半	施工会社	㈱Conservation for Identity
補足事項	①ドライクリーニング後、支持体を表紙から解体し、花布は残し、背貼りや背固めを除去する。 ②本紙の繕いや補強を行う。花布には必要な際には補強を行う。 ③表紙ボードのゆがみを補正する。 ④表装布の前小口の欠損箇所等への処置はめくれの再接着に留める。 ⑤背貼り、ヒンジ、クータを取り付け、背表紙と本紙を再固定する。		

＜東洋書跡＞（1件）

1　列品番号	TB-1438	品　　質	紙本墨書
名　　称	傑山偈	員　　数	1幅
時　　代	元時代	寸 法 等	縦34.3 横64.2
年代世紀	泰定3年(1326)	施工会社	㈱松鶴堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 ④新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 ⑤新規補紙部分に補彩を施す。 ⑥表装裂、軸首は再使用して、掛幅装に仕立てる。 ⑦桐製太巻、包裂、桐製印籠箱、漆塗り差込外箱、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中までを実施）		

＜東洋考古＞（6件）

1　列品番号	TJ-2977	品　　質	土製
名　　称	灰陶壺	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高19.0　口径10.5
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①クリーニングする。 ②強化し、接合する。 ③欠失部を補填し、復元する。 ④補填部に補彩を施す。		

2　列品番号	TJ-2983	品　　質	土製
名　　称	灰陶倉	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高20.1　口径14.8
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①解体し、旧復元石膏部を除去する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。 ※TJ-3004 灰陶倉（屋根）と一具のため併せて実施する。 （4年度は③の途中までを実施）		

3　列品番号	TJ-2984	品　　質	土製
名　　称	灰陶倉	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高22.0　口径15.2
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①解体し、旧復元石膏部を除去する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。 ※TJ-3005 灰陶倉（屋根）と一具のため併せて実施する。（4年度は③の途中までを実施）		

4　列品番号	TJ-2985	品　　質	土製
名　　称	灰陶井戸	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高18.0　口径16.0
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①解体する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。 （令和４年度は③の途中までを実施）		

5　列品番号	TJ-3004	品　　質	土製
名　　称	灰陶倉（屋根）	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高5.2　口径17.3
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①解体し、別材を除去する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。 ※TJ-2983 灰陶倉と一具のため併せて実施する。（4年度は③の途中までを実施）		

6　列品番号	TJ-3005	品　　質	土製
名　　称	灰陶倉（屋根）	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高6.5　口径20.1
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①解体する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。 ※TJ-2984 灰陶倉と一具のため併せて実施する。（4年度は③の途中までを実施）		

【京都国立博物館】（計7件）

＜絵画＞（3件）

1　名　　称	雪舟筆達磨図模本 （せっしゅうひつだるまずもほん）	員　　数	1幅
時　　代		寸 法 等	縦39.3cm×横40.0cm
品　　質	紙本墨画	施工会社	株式会社修美
補足事項	①調査及び記録を行う。 ②表装裂地を取り外す。 ③剥落止めを行い、絵具層を強化する。 ④浄化水を用いて本紙の汚れを除去する。 ⑤本紙の肌裏紙を除去する。 ⑥本紙欠損箇所に裏面より補紙を行う。 ⑦各種裏打を施し、折れ伏せを入れる。 ⑧総裏打ののち仮張りし、充分に乾燥させる。 ⑨新たな補紙の箇所に補彩を行う。 ⑩掛幅装に仕立てる。表装裂、軸首等は全て新調する。 ⑪桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、納入する。 ⑫修理後の記録をとり、報告書を作成する。		
指　　定			

2　名　　称	梅樹小禽図（ばいじゅしょうきんず）	員　　数	1幅
時　　代		寸 法 等	縦86.6cm、横38.8cm
品　　質	紙本著色	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①調査及び記録を行う。 ②掛軸装を解体し、表装裂地及び一部の裏打紙を取り外す。 ③あらかじめ危険個所の剥落止めを行った上、本紙の汚れを除去する。 ④改めて剥落止めを行う。 ⑤本紙の肌裏紙を除去する。 ⑥本紙の欠損部に補修紙を入れる。 ⑦各種の裏打を新たに施し、折れ伏せを入れて補強する。 ⑧補修紙に補彩を施す。 ⑨掛軸装に仕立てる。 ⑩桐太巻添軸及び箱を新調し、収納する。 ⑪修理後の記録をとり、報告書を作成する。		
指　　定			

3 名　称	布袋図（善阿印） 附. 探幽筆 紙本墨画 布袋図 （ほていず（ぜんあいん）つけたり. たんゆうひつしほんぼくが　ほていず）	員　数	2幅
時　代		寸 法 等	縦77.1cm×横30.9cm、附 縦98.0cm×横34.7cm
品　質	紙本墨画	施工会社	株式会社光影堂
補足事項	①調査・写真撮影等を行い、修理前の状況を記録する。 ②掛軸装を解体し、表装裂地を取り外す。 ③剥落止めを行い、墨層を強化する。 ④濾過水を用いて、本紙のクリーニングを行う。 ⑤本紙の肌裏紙を除去する。 ⑥本紙の欠失箇所に補紙を施す。 ⑦各種裏打を施し、折れ伏せを施す。 ⑧掛幅装に仕立てる。【紙本墨画 布袋図（眠り布袋）伝牧谿筆】の表装裂地等は全て元のものを修理し再使用する。 ⑨桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、納入する。 ⑩修理後の記録をとり、修理報告書を作成する。		
指　定			

＜彫刻＞（1件）

4 名　称	木造神像のうち　猿田比古神立像 （さるたひこしんりゅうぞう）	員　数	1躯
時　代	江戸時代　１７～１８世紀	寸 法 等	像高122.0cm
品　質	木造彩色	施工会社	公益財団法人美術院
補足事項	①付着する塵埃を払い、汚れをできるだけ除去する。 ②表面の後補彩色は、下層に当初彩色の残る箇所は除去する。 ③当初彩色層の浮き上がりは、膠・樹脂等で剥落止めを行う。また、後補彩色除去後に木地が露出する箇所は、周囲に合わせて古色で繕いを行う。 ④矧ぎ目が離れる箇所は一旦取り離し、矧ぎ面に付着する劣化した膠等を除去し、目違いを修整して組み付ける。矧ぎ目が離れず緩み・隙間がみられる箇所は、　隙間に膠や薄板を差し入れ、矧ぎ目を木屎漆で整形し補修する。 ⑤後補の顎襞は一旦取り離して形状の修整を行い、取り付ける。また、各所の後世修理箇所の変色は除去し、除去後の表面層は補修する。 ⑥脱落する右蟻先は膠で接着し、接合部を木屎漆で整形し補修する。 ⑦取り付けが緩む平緒は一旦取り離し、強固に取り付ける。 ⑧像底の亡失する枘は新補し、新補の台座に安定して立てる。 ⑨台座は桧材黒色摺漆仕上げの方座を新補し、安定をはかる。		
指　定			

＜金工＞（3件）

5 名　称	縹糸威胴丸 兜・大袖付 附旗一旒 （はなだいとおどしどうまる　かぶと・おおそでつき　つけたりはた１りょう）	員　数	1領
時　代	室町時代・16世紀	寸 法 等	胴高29.0cm　兜鉢高14.0cm
品　質	鉄製　革製　漆塗　絹　韋	施工会社	西岡甲房
補足事項	①漆の亀裂ヶ所に接着用の漆を充填し、固定する。 ②塗膜の欠落ヶ所に上塗りを行う。 ③札の欠失個所を漆で補填する。欠損している部位には新たな札を補う。 ④威毛や耳糸のうち、十分な支持力を有さない部分については紐の交換を行う。 ⑤断裂箇所についてはこれを再接合させる。 ⑥胴の綴じ紐についてはこれを補う。 ⑦絵韋の剥落止めを行う。 ⑧内張については断裂箇所に補修を行う。 ⑨CTによる構造解析の後、可能であれば障子板の付け直しを行う。 ⑩金具の再固定、及び欠失している部位には新たな金具を補う。 ⑪鎧架を新調する。 ⑫外箱を新調する。 ⑬綻びを留める。		
指　定	重要文化財		

6 名　称	刀　銘兼明／濃州関住兼知作（かたな　めいかねあき／のうしゅうせきじゅうかねともさく）	員　数	1口
時　代	兼明・兼知　室町時代・16世紀	寸 法 等	拵長97.0cm、刃長65.2cm
品　質	鉄製　鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
補足事項	①金剛砥・備水砥・改正砥を用いて成形し、下地研磨を行う。 ②中名倉砥・細名倉砥を用いて地鉄を整える。 ③内曇砥を用いて刃と地を研磨する。 ④刃艶と地艶を用い、古式研磨法である差込研を行う。 ⑤鋒部分の鉄子を磨き、ナルメを行う。 ⑥鎺を純銀で新規製作する。 ⑦白鞘を朴材で新規製作する。 ⑧報告書を作成する。		
指　定			

7 名　称	短刀　銘日州住信濃守国廣作／天正十九年二月吉日 （たんとう　めいにっしゅうじゅうしなののかみくにひろさく／てんしょうじゅうきゅうねんにがつきちじつ）	員　数	1口
時　代	堀川国広　桃山時代・天正十九年	寸 法 等	全長45.66、刃長34.1
品　質	鉄製　鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
補足事項	①金剛砥・備水砥・改正砥を用いて成形し、下地研磨を行う。 ②中名倉砥・細名倉砥を用いて地鉄を整える。 ③内曇砥を用いて刃と地を研磨する。 ④刃艶と地艶を用い、古式研磨法である差込研を行う。 ⑤鋒部分の鉄子を磨き、ナルメを行う。 ⑥鎺を清掃し、調整を行う。 ⑦白鞘を清掃し、内部の錆の付着を除去する。 ⑧報告書を作成する。		
指　定			

【奈良国立博物館】（計6件）

＜絵画＞（3件）

1 名　称	仏涅槃図	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代	寸 法 等	縦128.6cm 横57.3cm（表装：縦200.7cm 横78.6cm）
品　質	絹本著色	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	修理前調査、剝落止め、解体、クリーニング、剥落止め、損傷地図作り、表補絹、表打ち、旧補絹除去、補絹。2か年修理1年目。		

2 名　称	絹本著色十二天像	員　数	12幅
時　代	鎌倉～南北朝時代	寸 法 等	各紙、本紙：縦122.7cm 横41.8cm、表装：縦199.7cm　横57.4cm
品　質	絹本著色	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	修理前調査、剝落止め、解体、クリーニング、裏打ち除去、補絹、裏打ち、補彩、表装、箱新調。2年より継続修理。		

3 名　称	五大明王像	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代	寸 法 等	縦125.5cm　横86.7cm
品　質	絹本著色	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	修理前調査、剝落止め、解体、クリーニング、剥落止め、損傷地図作り、表補絹、表打ち、旧補絹除去、補絹。2か年修理1年目。		

＜書跡＞（1件）

4 名　称	南都寺社古文書・古記録等	員　数	22通
時　代	8世紀～15世紀	寸 法 等	縦25.6～32.3cm 横16.4～53cm
品　質	紙本墨書	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	修理前調査、ドライクリーニング、剝落止め、解体、クリーニング、プレス乾燥、補修紙作成、補修、畳紙、保存箱製作。		

＜彫刻＞（1件）

4 名　称	蔵王権現立像	員　数	1躯
時　代	平安時代	寸 法 等	総高48.0cm
品　質	木彫	施工会社	公益財団法人美術院国宝修理所
補足事項	修理前調査、クリーニング、剝落止め、再接着、形状整形、補修、虫損部安定化、部材取り付け。		

＜考古＞（1件）

5 名　称	金銅宝塔形経筒	員　数	1合
時　代	平安時代　永久4年	寸 法 等	総高45.6cm 底径15.1cm
品　質	銅製、鋳造、鍍金	施工会社	公益財団法人元興寺文化財研究所
補足事項	修理前調査、クリーニング、補強、洗浄、防錆処理、樹脂含浸、欠失部品製作。		

【九州国立博物館】（計20件）

＜絵画＞（3件）

1 名　称	釈教三十六歌仙絵断簡　満誓	員　数	1幅
時　代	南北朝時代・14世紀	寸 法 等	本紙：縦28.3　横19.3　表具：縦132.0　横38.0　軸長42.6
品　質	紙本墨画淡彩	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.表装を解体する。 2.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3.旧肌裏紙を除去する。 4.本紙裏面より損傷箇所の補修を行う。 5.新糊を用いて肌裏打ちを行う。 6.古糊を用いて増裏打ちを行う。 7.折れ伏せを施し、肌裏打ちと増裏打ちを行う。 8.本紙、台紙と表装裂地をもとの表装形態に付け廻す。 9.宇陀紙と古糊を用いて総裏打ちを行い、乾燥させる。 10.補修箇所に補彩を施す。 11.上下軸木・吊鐶・啄木等を新調して掛軸装に仕立てる。 12.桐太巻添軸、桐印籠箱を新調する。		

2 名　称	列祖図冊	員　数	1帖
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦54.2　横40.1　表装：縦62.0　横45.7
品　質	紙本著色	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.装訂を解体する。 2.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3.汚れを除去する。 4.布海苔で表打ちを行う。 5.旧肌裏紙を除去する。 6.本紙裏面より補修を行う。 7.薄美濃紙と新糊を用いて肌裏打ちを行う。 8.美濃紙と新糊を用いて2回目の裏打ちを行う。 9.補修箇所に補彩を施す。 10.台紙を作製し、表面に雲母引きを行って繋ぎ合わせる。 11.表紙裂は復元新調し、見返しと縁裂は新調し、美濃紙にて肌裏打ちを行う。 12.表紙裂と見返しを台紙に取り付けて画帖に仕立てる。 13.下足板付桐被箱を新調する。 （4～6年度　3か年継続事業、4年度は工程3まで実施）		

3 名　称	椿白鷹図	員　数	1幅
時　代	琉球　第二尚氏時代・康熙55年(1716)	寸 法 等	本紙：縦91.7　横37.3　表装：縦172.5　横48.0　軸長54.0
品　質	絹本著色	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2.表装を解体する。 3.汚れを除去する。 4.絵具層の剥落止めを行う。 5.旧肌裏紙を除去する。 6.薄美濃紙と新糊を用いて肌裏打ちを行う。 7.本紙表面より欠失箇所の補修を行う。 8.美栖紙と古糊を用いて増裏打ちを行う。 9.折れ伏せを施し、肌裏打ちと増裏打ちを行う。 10.本紙と表装裂地を付け廻す。 11.美栖紙と古糊を用いて中裏打ちを行い、仮張りする。 12.宇陀紙と古糊を用いて総裏打ちを行い、仮張りし乾燥させる。 13.本紙欠失箇所に補修を施す。 14.軸首は再使用し、上下軸木・吊鐶・啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。 15.桐太巻添軸、桐印籠箱を新調する。 （4～5年度　2か年継続事業、4年度は工程6まで実施）		

＜書跡＞（1件）

4 名　称	法華経	員　数	8巻
時　代	南北朝時代・14世紀	寸 法 等	各縦24.4
品　質	紙本墨刷	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.巻子装を解体する。 2.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3.汚れを除去する。 4.旧裏打紙及び旧補修紙を除去する。 5.本紙欠失箇所の補修を行う。 6.折れ、亀裂箇所に補強を施す。 7.表紙と見返しに肌裏打ちを行い、本紙に継ぎ合わせる。 8.軸首は再使用し、八双竹・巻緒・軸木を新調し、巻子装に仕立てる。 9.桐太巻添軸を新調し、桐製貪箱に納入する。 10.蒔絵経箱の修理は、大西漆芸修復スタジオへ委託する。クリーニング、金具の調整と接着、構造安定処置、漆塗膜接着、漆固め、脚の復元、刻苧充填、下地付け、仕上げを行う。 （4～5年度　2か年継続事業、4年度は工程1～5の50%及び工程10の50%を施工）		

＜刀剣＞（1件）

5 名　称	〔刀　銘藤原鎮清の付属品〕革包黒漆塗打刀拵	員　数	1口
時　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	全長101.3
品　質	木製、黒漆塗	施工会社	合同会社大西漆芸修復スタジオ
補足事項	1.修理前写真の撮影とX線CT撮影調査、記録を行う。 2.柔らかい木綿布に極少量の水分を与えたもので少しずつ汚れを拭きとる。 3.亀裂箇所に溶剤で希釈した充填接着用の麦漆を含浸し、構造安定処置を行う。 4.塗膜接着用の麦漆で塗膜を接着安定させる。 5.亀裂部と欠損部に刻苧を充填して形態を復元する。 6.刻苧箇所に錆漆下地を付けて表面肌を整える。 7.漆固めによる強化を行う。		

＜陶磁＞（1件）

6 名　称	〔文琳茶入　銘　薩摩文琳　薩摩の付属品〕仕覆「よきや純子（道元緞子）」	員　数	1袋
時　代	明時代・14-15世紀	寸 法 等	直径7.5、高さ8.5
品　質	絹	施工会社	株式会社松鶴堂
補足事項	1.修理前写真の撮影と調査、記録を行う。 2.生地の継ぎ、表裏の縫い合わせを解き、表地と裏地に解体する。 3.旧補修裂を可能な範囲で外す。 4.表地と裏地を、楮紙と小麦澱粉糊を用いて裏打ちする。 5.裏打ちした本体生地を納める中性紙マット、アーカイバルボード製保存箱を作製する。		

＜染織＞（1件）

7 名　称	白地鶴菖蒲丸文霞に牡丹枝垂れ桜文紅型衣裳	員　数	1領
時　代	琉球　第二尚氏時代・19世紀	寸 法 等	丈121.0、裄61.0、袖丈34.0、衿長100.0、袖幅13.5
品　質	苧麻	施工会社	株式会社松鶴堂
補足事項	1.修理前写真の撮影と調査、記録を行う。 2.経緯の織り目を整え、欠失端口などの形状を織り目に沿った形状にする。きつい皺には、間接的に湿り気を与える等の方法で緩める。 3.収納用の中性紙台紙とアーカイバルボード製保存箱を作成する。		

＜考古＞（6件）

8 名　称	鳥付き柄杓	員　数	1個
時　代	タイ　青銅器-鉄器時代・紀元前300年-後200年	寸 法 等	高34.5　幅9.6
品　質	青銅鋳造	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	1.修理前作品の撮影とX線透過写真の撮影、記録を行う。 2.綿棒やブラシ等を用いて汚れを除去する。 3.純水に漬け、定期的に交換しながら脱塩を行う。 4.ベンゾトリアゾール（アルコール溶液）を含浸して防錆処理を行い、乾燥させる。 5.アクリル樹脂を含浸して強化し、乾燥させる。 6.各破片をアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン30%溶液）もしくはエポキシ樹脂で接合する。目地にはエポキシ樹脂（アラルダイド　主剤：XNR-6504　硬化剤：XNH-6504）を充填、もしくはアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）とマイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。接合に強度が足りない場合には、内側などの目立たない部分に和紙による裏打ち補強を行う。 7.樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。		

9 名　称	鉄刀剣	員　数	2振残欠共10点
時　代	古墳時代・6-7世紀	寸 法 等	鉄刀残欠 (1)縦76.0 横2.9 厚0.6 (2)縦22.2　横3.1 厚0.8 金銅三輪玉 (1)縦2.5 横2.1 高0.8 (2)縦2.1 横2.1 高0.8 (3)縦1.9　横2.1 高0.7 (4)縦1.9　横2.1 高1.1 (5)縦1.5 横1.9 高1.0 金銅楕円形飾金具 (1)縦1.5 横1.4 高0.6 (2)縦2.2 横1.5 高0.5 (3)縦2.1 横1.5 高0.5 (4)縦2.2 横1.5 高0.5 (5)縦2.2 横1.5 高0.6
品　質	鉄、金銅	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	1.修理前写真の撮影と透過X線撮影調査、記録を行う。 2.綿棒やブラシ等を用いて汚れを除去する。 3.亀裂部分や脆弱な部分にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン5%溶液）を塗布して養生を行う。 4.純水に漬け、定期的に交換しながら脱塩を行う。 5.アクリル樹脂を含浸させて強化し、乾燥させる。 6.アクリル樹脂（パラロイドB72アセトン30%溶液)もしくはエポキシ樹脂系接着材を用いて、破片をできる限り接合する。 7.欠失部分や接合部分の隙間に、エポキシ樹脂（アラルダイド　主剤：XNR-6504　硬化剤：XNH-6504）もしくはアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）とマイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。 8.樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。 9.台座を作製する。 （4～5年度　2か年継続事業、4年度は工程6まで実施）		

10 名　称	広形銅矛	員　数	1振
時　代	弥生時代・2-3世紀	寸 法 等	長83.4　幅13.7　厚5.0
品　質	青銅鋳造	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	1.修理前写真の撮影と透過X線撮影調査、記録を行う。 2.綿棒やブラシ等を用いてクリーニングを行う。 3.亀裂部分や脆弱な部分にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン5%溶液）を塗布して強化、養生を行う。 4.純水に漬け、定期的に交換しながら脱塩を行う。 5.ベンゾトリアゾール（アルコール溶液）を含浸して防錆処理を行い、乾燥させる。 6.再度、クリーニングを行う。 7.アクリル樹脂を含浸させて強化し、乾燥させる。 8.亀裂箇所や破断面にアクリル樹脂を塗布して養生する。亀裂の隙間や欠損部分にエポキシ樹脂（アラルダイド 主剤：XNR-6504　硬化剤：XNH-6504）もしくはアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）とマイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。 9.樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。 10.台座を作製する。		

11 名　称	吸角器	員　数	1個
時　代	アッバース朝・10世紀	寸 法 等	口径7.5　底径3.5　高8.5　総幅13.5
品　質	ガラス	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	1.修理前写真の撮影と調査、記録を行う。 2.綿棒やブラシ等を用いてクリーニングを行い、溶剤等を用いて解体する。 3.破断面にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン5%溶液）を塗布して養生を行う。 4.アクリル樹脂（パラロイドB72アセトン30%溶液）で破片を接合し、欠失部や目地を充填した後、ガラスの刀で磨き仕上げを行う。		

12 名　称	岩偶	員　数	1軀
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦9.8　横12.0　厚4.0
品　質	石製	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	1.修理前写真の撮影と調査、記録を行う。 2.綿棒やブラシ等を用いてクリーニングを行い、溶剤等を用いて解体する。 3.破断面にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン5%溶液）を塗布して養生を行う。 4.エポキシ樹脂（アラルダイド　主剤：XNR-6504　硬化剤：XNH-6504）で破片を接合した後、目地にエポキシ樹脂（同左）もしくはアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）とマイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。 5.樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。		

13 名　称	ガラス勾玉・ガラス管玉	員　数	2点・66点
時　代	弥生時代中期・前1世紀	寸 法 等	【勾玉】（各）全長21～22mm、太さ4.0～8.5mm、孔径3.0mm 【管玉】（各）長さ約10mm～13mm、太さ3.2～5.5mm、孔径1.4～2.4mm
品　質	ガラス	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	1.修理前写真の撮影と調査、記録を行う。 2.綿棒やブラシ等を用いてクリーニングを行う。 3.表面にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン5%溶液）を塗布して強化する。 4.管玉の破片はエポキシ樹脂（アラルダイド　主剤：XNR-6504　硬化剤：XNH-6504）等を用いて管状に復元する。 5.樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。 6.台座を作製する。		

＜民族資料＞（2件）

14 名　称	浮彫十二支像（善徳女王陵）拓本	員　数	11枚
時　代	現代 20世紀(原品:大韓民国　統一新羅時代 8世紀)	寸 法 等	各 縦141.0 横74.0
品　質	紙本墨拓	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2.額装の解体を行う。 3.汚れの除去を行う。 4.旧肌裏紙の除去を行う。 5.本紙周囲に補修を行う。 6.新たに裏打ちを行う。 7.折れ伏せを施す。 8.表装裂地を新調し、丸表装の形に仕立てる。 9.表装裂地を新調し、裏打ちを行う。 10.本紙と表装裂地を付け廻し、丸表装の形に仕立てる。 11.軸首、上下軸木、吊鐶、啄木等を新調し、掛幅装に仕立てる。 12.桐製太巻添軸、桐製印籠箱2合を新調する。 （3～4年度 2か年継続事業。4年度は工程10以降を施工）		

15 名　称	浮彫十二支像（金庾信墓）拓本	員　数	11枚
時　代	現代 20世紀(原品:大韓民国　統一新羅時代 8世紀)	寸 法 等	各 縦141.0 横74.0
品　質	紙本墨拓	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2.額装の解体を行う。 3.汚れの除去を行う。 4.再度、剥落止めを行う。 5.旧肌裏紙の除去を行う。 6.本紙周囲に補修を行う。 7.新たに裏打ちを行う。 8.折れ伏せを施す。 9.表装裂地を新調し、裏打ちを行う。 10.本紙と表装裂地を付け廻し、丸表装の形に仕立てる。 11.軸首、上下軸木、吊鐶、啄木等を新調し、掛幅装に仕立てる。 12.桐製太巻添軸、桐製印籠箱2合を新調する。 （3～4年度 2か年継続事業。4年度は工程10以降を施工）		

＜歴史資料＞（5件）

16 名　称	対馬宗家関係資料　20箱 巻7～9巻	員　数	3巻
時　代	江戸時代 18世紀	寸 法 等	巻7：本紙縦23.4 本紙全長3965.0 巻8：本紙縦23.1 本紙全長2887.1 巻9：本紙縦24.2 本紙全長343.3
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.巻子装を解体する。 2.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3.汚れを除去する。 4.旧肌裏紙及び旧補修を除去する。 5.本紙の欠失箇所に補修を行う。 6.新たに裏打ちを行う。 7.折れ伏せを施す。 8.補修した表紙裂地と見返しを貼り合わせ、総裏打ちを行う。 9.表紙を本紙に継ぎ合わせる。 10.軸首、軸木、八双、紐を再使用して巻子装に仕立てる。 11.桐製太巻添軸を新調する。		

17 名　称	対馬宗家関係資料　箱55　文書記録類	員　数	7通2巻2点
時　代	江戸時代・元禄8-9年(1695-1696)	寸 法 等	P13436：縦34.0　横52.3　P13437：縦33.9　横51.6 P13438：縦37.4　横58.1　P13439：縦26.8　横142.3（巻子装） P13440：縦34.1　横52.1　P13441：縦33.8　横52.2 P13442：縦37.2　横57.9　P13443：縦26.7　横146.3（巻子装） P13444：縦36.8　横42.8　P14698：縦17.2　横3.1（断簡） P14699：縦23.6　横17.8（断簡）
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.汚れを除去する。 2.巻子装を解体し、本紙を一紙ずつの状態にする。 3.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 4.汚れを除去する。 5.旧裏打紙及び旧補修紙を除去する。 6.新糊を用いて本紙欠失箇所の補修を行う。 7.薄美濃紙と新糊を用いて肌裏打ちを施す。 8.折れ伏せを施す。 9.旧裏打紙（総裏紙）を再使用し、新糊と布海苔の混合糊で総裏打ちを行って乾燥させる。 10.表紙・見返し・軸巻紙・軸首は再使用し、八双竹・紐・軸木を新調してもとの巻子装に仕立てる。 11.桐太巻添軸・桐印籠箱を新調する。		

18 名　称	宗義真書「龍虎梅竹、花鳥風月」	員　数	1幅
時　代	江戸時代・慶安4年(1651)	寸 法 等	本紙：縦29.6　横43.0　表装：縦116.6　横55.7　軸長60.2
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.表装の解体を行う。 2.汚れを除去する。 3.墨の剥落止めを行う。 4.旧肌裏紙を除去する。 5.薄美濃紙と新糊を用いて肌裏打ちを行う。 6.美栖紙と古糊を用いて増裏打ちを行う。 7.折れ伏せを施す。 8.一文字・風帯・中縁裂は再使用し、上下裂は新調して肌裏打ちと増裏打ちを行う。 9.本紙と表装裂地とをもとの表装形態に付け廻しする。 10.宇陀紙にて古糊を用いて総裏打ちを行い、乾燥させる。 11.軸首は再使用し、上下軸木・吊鐶・啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。 12.桐太巻添軸、桐印籠箱を新調する。		

19 名　　称	花鳥図	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・17-18世紀	寸 法 等	本紙：縦52.8　横42.1　表装：縦144.2　横55.0　軸張59.5
品　　質	絹本着色	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2.表装の解体を行う。 3.汚れを除去する。 4.再度絵具層の剥落止めを行う。 5.旧肌裏紙を除去する。 6.新糊を用いて肌裏打ちを行う。 7.美栖紙と古糊を用いて増裏打ちを行う。 8.折れ伏せを施す。 9.表装裂地は再使用し、肌裏打ちと増裏打ちを行う。 10.本紙と表装裂地をもとの表装形態に付け廻す。 11.宇陀紙と古糊を用いて総裏打ちを行い、乾燥させる。 12.軸首は再使用し、上下軸木・吊鐶・啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。 13.桐太巻添軸、桐印籠箱を新調する。		

20 名　　称	宗義章十三歳書「天保無為徳」	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・天保元年(1830)	寸 法 等	本紙：縦124.5　横27.8、表装：縦196.5　横36.0　軸張40.2
品　　質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.表装の解体を行う。 2.汚れを除去する。 3.剥落止めを行う。 4.旧肌裏紙を除去する。 5.新糊を用いて肌裏打ちを行う。 6.美栖紙と古糊を用いて増裏打ちを行う。 7.折れ伏せを施す。 8.一文字裂は再使用し、総縁裂は新調して肌裏打ちと増裏打ちを行う。 9.本紙と表装裂地をもとの表装形態に付け廻しする。 10.宇陀紙と古糊を用いて総裏打ちを行い、乾燥させる。 11.軸首・上下軸木・吊鐶・啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。 12.桐太巻添軸、桐印籠箱を新調する。		

1-(1)-②-6 文化財修理データのデータベース化件数

令和5年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		237	24	160 (5,577)	53 (1,198)
絵　画		105	3	86 (2,314)	16 (426)
書　跡		37	2	26 (1,254)	9 (229)
彫　刻		47	0	28 (1,432)	19 (344)
建　築		0	0	0 (15)	0 (1)
金　工		1	0	0 (2)	1 (5)
刀　剣		0	0	0 (0)	0 (0)
陶　磁		0	0	0 (1)	0 (0)
漆　工		6	0	0 (40)	6 (131)
染　織		7	1	4 (198)	2 (27)
考　古		7	7	0 (18)	0 (0)
民族資料		1	0	1 (6)	0 (2)
歴史資料		10	0	10 (242)	0 (31)
和　書		0	0	0 (0)	0 (0)
写真資料		0	0	0 (0)	0 (0)
その他		7	2	5 (55)	0 (2)
東洋	絵　画	2	2		
	書　跡	0	0		
	彫　刻	0	0		
	金　工	0	0		
	陶　磁	1	1		
	漆　工	1	1		
	染　織	5	5		
	考　古	0	0		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		0	0		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		0	0		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（　）内は当年度までの新規入力件数の累計。

1-(2) 展覧事業
1-(2)-① 平常展
1-(2)-② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移（入館料別）(過去５か年 （後述の資料に記載）◎共通資料a-①

1-(2)-①・②-2 来館者数推移（展覧会別）(過去５か年 （後述の資料に記載）◎共通資料a-②

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e
1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-3バリアフリー施設・設備の設置状況

令和5年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
トイレ(多目的トイレ、車いす対応)	18か所 （本館6、平成館3、東洋館2、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、正門プラザ2、庭園1）	9か所 （平成知新館5、明治古都館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1）	3か所 （東新館1、地下回廊2）	10か所 （本体建物7、屋外3）
エレベータ(手すり、押しボタン、車いす対応)	10基 （本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1）	5基 （平成知新館4,東収蔵庫1） 昇降装置1基 （旧管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	7基 （本体建物）
スロープ	5か所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館）	4か所 （平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	4か所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1、庭園1）	1か所 （通用口）
ハンディキャップ優先駐車	2台	3台	4台	23台
車椅子	27台 （正門・正門プラザ5、本館5、東洋館3、平成館11、法隆寺宝物館2、黒田記念館1）	14台 (検札2、平成知新館7、倉庫保管5)	14台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー 3台 ○ベビーシート 16か所 ○ベビーチェア 13か所 ○授乳室 1か所	○ベビーカー 8台 ○ベビーシート 12か所 ○ベビーチェア 11か所 ○授乳室 2か所	○ベビーシート 2か所 ○ベビーチェア 1か所 ○おむつ交換台 1か所	○ベビーカー 10台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 6か所 ○幼児用補助便座 6か所 ○授乳室 1か所
自動扉	61台(多目的トイレ含む)	33台(多目的トイレ含む)	13台	19台(多目的トイレ含む)
4年度整備事項	平成館2階トイレブース改修工事で一般便所ブース内に手すりを設置した。		イラストやピクトグラムを利用して、外国人来館者や障がい者にもわかりやすい内容となるよう、館内看板などを新たに作成、更新等を行った。また、館内看板などの4言語（日・英・中・韓）による表記を進めた。	

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況

令和5年3月31日現在

東京国立博物館	
4年度計（台）：	134,076台
・特別展「ポンペイ」（日）	3,705台
・特別展「空也上人と六波羅蜜寺」（日）	20,566台
・沖縄復帰50年記念　特別展「琉球」（日）	15,936台
・東京国立博物館創立150年記念特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」（日）	87,766台
・特別展「東福寺」（日）	6,103台
（参考） 4年度ダウンロード件数	18,685件
・「トーハクなび」（リニューアル版）	
Android版	5,770件
iOS版	12,915件
	貸出終了
アプリ端末貸出（日英）	貸出終了
音声ガイド貸出（中韓）	公開終了
「法隆寺宝物館30分ナビ」iOSアプリ	

京都国立博物館	
4年度計（台）：	27,951台
・伝教大師1200年大遠忌記念特別展　「最澄と天台宗のすべて」（日、英）	7,069台
うち日本語版	7,047台
うち英語版	22台
・「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」（4言語　日・英・中・韓）	2,477台
うち日本語版	2,345台
うち英語版	62台
うち中国語版	61台
うち韓国語版	9台
・特別展「京（みやこ）に生きる文化　茶の湯」（日、英）	15,217台
うち日本語版	14,878台
うち英語版	339台
名品ギャラリー（平常展）	3,188台
うち日本語版・一般向け	2,352台
うち日本語版・ジュニア版	78台
うち英語版・一般向け	310台
うち英語版・ジュニア版	9台
うち中国語版・一般向け	295台
うち中国語版・ジュニア版	13台
うち韓国語版・一般向け	124台
うち韓国語版・ジュニア版	7台

奈良国立博物館	
4年度計（台）：	30,204台
・特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」	4,196台
うち日本語版	4,196台
うち英語版	―
うち中国語版	―
うち韓国語版	―
・貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」	2,045台
うち日本語版	2,045台
うち英語版	―
うち中国語版	―
うち韓国語版	―
・「第74回正倉院展」	21,731台
うち日本語版	21,731台
うち英語版	―
うち中国語版	―
うち韓国語版	―
・なら仏像館名品展	2,232台
うち日本語版	1,970台
うち英語版	121台
うち中国語版	107台
うち韓国語版	34台

※式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」は音声ガイドなし

九州国立博物館	
4年度計（台）：	29,074台
・特別展「北斎」	13,172台
うち日本語版	13,172台
うち英語版	―
うち中国語版	―
うち韓国語版	―
・沖縄復帰50年記念　特別展「琉球」	4,511台
うち日本語版	4,511台
うち英語版	―
うち中国語版	―
うち韓国語版	―
・特別展「ポンペイ」	11,391台
うち日本語版	11,391台
うち英語版	―
うち中国語版	―
うち韓国語版	―
（参考） ・文化交流展 端末貸出数※2	2,519台

※1　特別展「加耶」は音声ガイドの実施なし。
※2　4年度より、文化交流展の音声ガイドはスマートフォンアプリ（ナビレンス）に切り替えたため、利用者数の集計はできない。上記は、スマートフォンを持っていない来館者への代替機器貸出数。合計値には含まない。

1-(3) 教育・普及活動等

1-(3)-① 教育活動の充実

1-(3)-①-1 学習機会の提供（過去5か年）

令和5年3月31日現在

	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等　実施回数	93回	97回	19回	39回	32回
講演会等　参加者数	12,206人	11,691人	52,032人	34,403人	42,910人
①講演会	23回	20回	10回	14回	15回
	6,249人	6,051人	29,875人	10,199人	3,291人
アンケート結果（満足度）	86.16%	84.89%	―	84.85%	84.87%
（内訳）					
・月例講演会等	12回	10回	8回	12回	12回
	2,822人	2,630人	24,923人	8,777人	2,570人
アンケート結果（満足度）	89.57%	84.75%	―	86.74%	83.39%
・記念講演会	7回	7回	0回	1回	3回
	2,189人	2,591人	0	135人	721人
アンケート結果（満足度）	85.24%	84.19%	―	67.80%	82.99%
・シンポジウム	1回	2回	2回	1回	0回
	250人	575人	4,952人	1,287人	人
アンケート結果（満足度）	―	―	―	―	―
・テーマ別講演会	3回	1回	0回	0回	0回
	988人	255人	0人	0人	0人
アンケート結果（満足度）	84.20%	93.46%	―	―	―
・その他講演会	0回	0回	0回	0回	0回
	0人	0人	0人	0人	0人
アンケート結果（満足度）	―	―	―	―	―
②列品解説（ギャラリートーク等）	64回	71回	9回	23回	15回
	5,108人	4,791人	22,157人	23,701人	38,415人
③連続講座	1回（2日）	1回（2日）	0回	1回	1回
	728人	645人	0人	276人	317人
アンケート結果（満足度）	88.50%	92.93%	―	94.50%	91.20%
④公開講座	5回	5回	0回	1回	1回
	121人	204人	0人	227人	887人
アンケート結果（満足度）	100.00%	100.00%	―	―	―
京都国立博物館					
講演会等　実施回数	37回	28回	23回	31回	34回
講演会等　参加者数	4,357人	3,285人	1,435人	3,164人	3,488人
①土曜講座	19回	13回	7回	12回	13回
	1,969人	1211人	572人	583人	835人
アンケート結果（満足度）	80%	85%	84%	82%	83%
②記念講演会	12回	9回	12回	14回	17回
	1,884人	1,465人	1,227人	1,106人	2,207人
アンケート結果（満足度）	80%	81%	83%	81%	83%
③夏期講座	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）
	198人	201人	60人	73人	84人
アンケート結果（満足度）	90%	78%	94%	96%	88%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	0回	1回	1回
	39人	50人	0人	34人	34人
⑤ギャラリートーク・シンポジウム等	4回	3回	3回	3回	2回
	267人	358人	248人	1,368人	328人
奈良国立博物館					
講演会等　実施回数	27回	25回	12回	27回	26回
講演会等　参加者数	3,569人	3,261人	847人	1,865人	1856人
①特別展等講座	14回	13回	5回	15回	10回
	1,853人	1,838人	353人	1,060人	716人
アンケート結果（満足度）	88.0%	91.7%	91.0%	93.0%	89.3%
②夏季講座	1回（3日）	1回（3日）	0回	0回	4回
	478人	386人	―	―	270人
アンケート結果（満足度）	95%	94%	―	―	87.6%
③サンデートーク	12回	11回	7回	12回	12回
	1, 238人	1,037人	494人	805人	870人
アンケート結果（満足度）	88%	91.7%	90%	90%	87.5%
九州国立博物館					
講演会等　実施回数	80回	69回	13回	50回	53回
講演会等　参加者数	4,491人	4,862人	308人	2,229人	3,237人
①特別展記念講演会	2回	6回	0回	3回	4回
	150人	1,336人	0人	385人	662人
アンケート結果（満足度）	―	―	―	92.9%	94.4%
②講演及びシンポジウム	16回	16回	0回	20回	24回
	2,166人	2,033人	0人	1,395人	1,881人
アンケート結果（満足度）		―	―	91.7%	95.0%
③ミュージアムトーク	62回	47回	13回	27回	25回
	2,175人	1,493人	308人	449人	694人
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	56校	60校	61校	59校	61校
京都国立博物館	32校	32校	33校	32校	34校
奈良国立博物館	28校	27校	28校	26校	27校
九州国立博物館	23校	23校	21校	22校	22校

1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数※1	**回数計**	**32回**	**回数計**	**34回**	**回数計**	**26回**	**回数計**	**53回**
	参加者計	**42,910人**	**参加者計**	**3,488人**	**参加者計**	**1,856人**	**参加者計**	**3,237人**
	講演会	15回 3,291人	土曜講座	13回 835人	特別展等講座	10回 716人	特別展記念講演会	4回 662人
	列品解説（ギャラリートーク等）	15回 38,415人	記念講演会	17回 2,207人	夏季講座	4回 270人	講演及びシンポジウム	24回 1,881人
	連続講座（2日間）	1回 317人	夏期講座（2日間）	1回 84人	サンデートーク	12回 870人	ミュージアムトーク	25回 694人
	公開講座	1回 887人	社会科教員のための向上講座	1回 34人				
			セミナー・シンポジウム等	2回 328人				
	その他展示に関連するイベント	23回 5,162人	その他展示に関連するイベント	— —	その他展示に関連するイベント	20回 47,676人	その他展示に関連するイベント	19回 1,674人

※1実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1) 講演会　　15回　　3,291人

①月例講演会

12回　　2,570人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	″良い″の割合
※1～4は新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮し、定員を通常の半数以下の180名とした上で、大講堂で実施した。					
1	4月9日	東京国立博物館の150年ー作品からたどる美の軌跡ー	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	156人	75.83%
2	5月21日	文化財を科学する	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	140人	93.04%
3	6月4日	踊る埴輪の修理プロジェクト	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	156人	86.07%
4	7月16日	時代を語る洋画たち ー東京国立博物館の隠れた洋画コレクションー	列品管理課長　沖松健次郎 東京文化財研究所 文化財情報資料部長　塩谷純 東京文化財研究所 文化財情報資料部研究員　吉田暁子	142人	62.50%
※5～12は新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮し、定員をほぼ通常通りの350名に緩和した上で、大講堂で実施した。					
5	8月6日	楽浪文化の諸相	列品管理課平常展調整室長　市元塁	196人	83.09%
6	9月10日	東博150年の歴史と模写・模造	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕 列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一 百五十年史編纂室長　恵美千鶴子 企画課特別展室長　猪熊兼樹 特別展室研究員　福島修 学習院大学文学部教授　皿井舞	300人	88.99%
7	10月1日	つたえる、つなぐ—博物館広報のあゆみー	広報室長　鬼頭智美	157人	92.79%
8	11月12日	法隆寺・染織品修理50年の軌跡	客員研究員　沢田むつ代	241人	84.77%
9	12月10日	石の文化史	文化財活用センター企画担当研究員　飯田茂雄	238人	81.46%
10	5年1月14日	一遍聖絵と中世律宗絵画	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛	270人	88.73%
11	5年2月25日	王羲之と蘭亭序	副館長　富田淳 台東区立書道博物館主任研究員　鍋島稲子 調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希 調査研究課東洋室研究員　六人部克典	294人	87.91%
12	5年3月25日	伝説の絵仏師・明兆の画力	企画課特別展室研究員　高橋 真作	280人	91.58%

②記念講演会

3回　　721人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	″良い″の割合
新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮し、定員をほぼ通常通りの350人に緩和した上で、大講堂で実施した。 ※1は特別展「空也上人と六波羅蜜寺」の共催者である朝日新聞社が実施した。					
1	4月2日	空也上人と六波羅蜜寺	六波羅蜜寺山主　川崎純性	119人	-
2	11月24日	特別展『国宝　東京国立博物館のすべて』見どころ解説	副館長　富田淳 列品管理課登録室長　佐藤寛介 列品管理課長　沖松健次郎 百五十年史編纂室長　恵美千鶴子 列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	300人	82.99%
3	5年2月16日	大安寺の歴史と仏像	大安寺貫主　河野良文 列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	302人	88.36%

③シンポジウム

0回　　0人

④テーマ別講演会

0回　　0人

⑤その他講演会

0回　　0人

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　15回　　38,415人

①ギャラリートーク

12回　　38,229人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数
※1～12は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンラインギャラリートークとして実施した（事前収録・YouTube配信）。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。				
1	5月12日	東京国立博物館の近世仏画―伝統と変奏―	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	3,309人
2	5月25日	親と子のギャラリー　翼と羽	博物館教育課教育講座室研究員　横山梓	2,100人
3	7月7日	創立150年記念特集　時代を語る洋画たち－東京国立博物館の隠れた洋画コレクション	列品管理課長　沖松健次郎	2,577人
4	8月1日	武士の芸術―甲冑―	列品管理課登録室長　佐藤寛介	6,734人
5	8月31日	知られざるチベット仏教の美術	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　西木政統	5,315人
6	10月6日	博物館でアジアの旅　アジア大発見！	企画課長　原田あゆみ	2,925人
7	11月15日	創立150年記念特集　再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり 列品管理課登録室アソシエイトフェロー　廣谷妃夏	2,404人
8	12月15日	描かれた『源氏物語』－近世の絵巻と色紙」	博物館教育課ボランティア室長　金井裕子	3,528人
9	5年1月18日	創立150年記念特集　根付　郷コレクション	企画課特別展室研究員　福島修	2,618人
10	5年1月26日	特集　博物館に初もうで　兎にも角にもうさぎ年	清水 健（調査研究課工芸室 主任研究員）	1,710人
11	5年3月22日	創立150年記念特集　王羲之 と蘭亭序	六人部 克典（調査研究課東洋室 研究員）	4,415人
12	5年3月31日	創立150年記念特集　コレクションの探求　はにわ展から50年	河野 正訓（企画課特別展室 主任研究員）	594人

②特別展関連ギャラリートーク

0回　　0人

③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

3回　　186人

	実施日	回数	テーマ	氏名	参加者
新型コロナウイルスの影響を勘案し、ガイダンス・検討会・リハーサル・ギャラリートーク等すべてをオンラインで実施。トーク対象は、当館ボランティア。					
1	12月15日、5年1月16日、5年1月17日	3回	「技法と姿勢から読み解く『菩薩立像』」	出口武頼	186人

3)　連続講座　　2日間（計1回）　　1回　　317人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	″良い″の割合
1	6月10日～6月11日	未来へつなぐ琉球・沖縄文化 ごあいさつ　三笠景子（企画課出版企画室主任研究員） 趣旨説明 第1講　「国宝に指定された尚家継承資料」 講師：外間政明（那覇市文化財課担当副参事） 第2講　「東京国立博物館の琉球コレクション」 明治17、18年購入の東博琉球コレクション 講師：品川欣也（博物館教育課教育普及室長） 市河米庵コレクションの琉球関係資料 講師：六人部克典（調査研究課東洋室研究員） 第3講　「沖縄県立博物館・美術館のコレクションと復元事業」 講師：與那嶺一子（沖縄県立博物館・美術館主任学芸員） 未来へつなぐ琉球・沖縄文化 基調講演　「首里城のこれから」 講師：高良倉吉（琉球大学名誉教授） 第4講　「琉球・沖縄、最新研究」 海東諸国紀と朝鮮国書―15世紀の琉球・朝鮮・日本― 講師：一瀬智（九州国立博物館展示課主任研究員） 琉球の宮廷文化 講師：猪熊兼樹（企画課特別展室長） 琉球の染織 講師：小山弓弦葉（調査研究課工芸室長） 第5講　パネルディスカッション「首里城をめぐる歴史と文化の継承」 司会：原田あゆみ（企画課長）	317人	91.20%

4) 公開講座　　1回　　887人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	会場
※2は新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮した上で、オンラインによる講演会を実施した（事前収録・YouTube配信）。				
1	実施せず	教育連携事業「博物館学講座」	0人	平成館小講堂、本館地下みどりのライオン（教育普及スペース）他
2	9月14日～5年1月31日(公開日)	教育連携事業「博物館セミナー」 第1講　博物館の運営 　講師：　総務課長　竹之内勝典 第2講　総合文化展の仕組み 　講師：　列品管理課平常展調整室長　市元 塁 第3講　特別展の仕組み 　講師：　企画課特別展室研究員　熊谷美和 第4講　博物館の教育普及活動 　講師：　博物館教育課長　鈴木みどり	887人	事前収録のうえYouTube配信

5) その他展示に関連する事業　　23回　　5,162人

	実施日	内容	会場	参加者数	備考
1	3月14日～4月10日	博物館でお花見を2022　東博句会「花見で一句」	館内、オンライン	94人	小学生以下5句、一般89句
2	5月15日	国際博物館の日記念「上野の山で動物めぐり　動物の「翼」と「羽」」	恩賜上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館	129人	数値は端末アクセス数、人数の合計は不明
3	9月21日～10月16日	「博物館でアジアの旅 調査ノート」5,000部配布	東洋館	—	
4	10月12日	博物館でアジアの旅2022「気軽に椅子ヨガin東洋館」（同日3回）	東洋館1室	40人	同日3回実施
5～10	10月4日、11月15日、12月13日、1月24日、2月21日、3月30日	オンラインギャラリートーク上映会	東洋館ミュージアムシアター 平成館大講堂(3/30)	648人	(同日2回、3/30は1回)
11～19	11月8日～11月17日	「みんなでつくる記念チケット」配布	正門プラザ	—	150年記念事業
20	11月6日～	トーハク劇場へようこそ「博物館の誕生編」YouTube配信	オンライン	4,224人	150年記念事業 数値はアクセス数
21	12月13日～	トーハク劇場へようこそ「博物館の誕生編」上映	平成館ラウンジ	—	150年記念事業
22	5年1月2日～	2023トーハクめでたいカルタ作り	オンライン	—	ウェブサイトでダウンロード
23	5年3月29日	博物館でお花見を2023「お花見ヨガin法隆寺宝物館」	法隆寺宝物館	27人	同日2回実施

【京都国立博物館】

1) 土曜講座　　13回　　835人

特別展覧会関連などの講座

	開催日	テーマ	講師	参加者数
1	6月18日	日本古代の遷都事情 ―飛鳥から藤原京、藤原京から平城京へ―	学芸部長　尾野善裕	80人
2	6月25日	御室焼と彩色材料 ―色絵釘隠の事例―	学芸部保存科学室長　降幡順子	37人
3	7月2日	文化財の防災・減災 ―大地震から文化財を守る―	学芸部保存科学室アソシエイトフェロー　中屋菜緒	30人
4	7月9日	新出の与謝蕪村筆「奥の細道図巻」について	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也	100人
5	7月16日	熊本・宮崎の古墳文化 ―九州の石の“埴輪”と貝の道―	学芸部考古室研究員　古谷毅	50人
6	7月23日	観心寺と金剛寺での京博社寺調査　漆工編	学芸部教育室長　永島明子	40人
7	5年1月14日	美しい卯づくし ―兎のかたちをめぐって―	学芸部教育室主任研究員　水谷亜希	83人
8	5年1月21日	考古学からみた月のウサギ ―月兎二千年史―	学芸部特任研究員　宮川禎一	75人
9	5年1月28日	古墳時代の文字資料 ―熊本県古城横穴墓群出土「火守」銘の位置―	学芸部研究員　古谷毅	48人
10	5年2月11日	定朝様と京都の仏像	学芸部上席研究員　淺湫毅	80人
11	5年2月18日	涅槃図をなるべく楽しく見るために	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊	96人
12	5年2月25日	屋根を飾る鴟尾	学芸部考古室長　石田由紀子	50人
13	5年3月4日	唐代文化の受容と展開 ―飛鳥時代から平安時代まで―	館長　松本伸之	66人

2)　記念講演会　　17回　　2,207人

	実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	4月16日	【対談】伝教大師最澄を語る 【落語】仏教落語	天台宗宗務総長　阿部昌宏 落語家（兼天台宗道心寺住職）　露の団姫	74人
2	4月23日	日吉大社山王祭と神輿	日吉大社禰宜　須原紀彦 学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦	66人
3	5月7日	天台宗の信仰と仏画	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊	61人
4	5月14日	天台のみほとけたち	学芸部上席研究員　淺湫毅	80人
5	7月30日	観心寺・金剛寺と南北朝動乱	元河内長野市教育委員会　尾谷雅彦	100人
6	8月20日	観心寺・金剛寺の歴史と文化財調査	学芸部企画室研究員　井並林太郎	100人
7	8月27日	観心寺・金剛寺の金属工芸	学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦	100人
8	9月3日	観心寺・金剛寺の聖教	学芸部調査・国際連携室研究員　上杉智英	83人
9	9月10日	真言密教のみほとけたち ―観心寺・金剛寺を中心に―	学芸部上席研究員　淺湫毅	100人
10	10月15日	利休の懐石	京都府立大学客員教授（兼茶道資料館顧問） 筒井紘一	200人
11	10月22日	京に生きる文化 茶の湯 ―歴史とその背景―	学芸部調査・国際連携室長　降矢哲男	158人
12	10月29日	日本の茶文化における中国絵画受容	学芸部調査・国際連携室研究員　森橋なつみ	85人
13	11月5日	京都における数寄者と茶の湯	野村美術館館長　谷晃	200人
14	11月12日	天下人と茶の湯	國學院大學兼任講師　竹本千鶴	200人
15	11月19日	京都における公家と茶の湯 ―そのはじまりと展開―	湯木美術館理事　谷端昭夫	200人
16	12月3日	中世の文書と典籍にみる「茶」	学芸部列品管理室長兼美術室長　羽田聡	200人
17	5年3月25日	親鸞聖人の生涯	大谷大学名誉教授　草野顕之	200人

3)　夏期講座　　1回　　84人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	8月5日	第1講 初期水墨画と中世海道	学芸部列品管理室研究員　森道彦	84人
		第2講 絵図で読み解くモンゴル時代の東西交流	京都大学文学部文学研究科助教　宮紀子	
		第3講 中世武家の一揆	国立歴史民俗博物館准教授　田中大喜	
	8月6日	第1講 交錯するヨーロッパの宮廷美術―フランス王朝から見た14世紀―	大妻女子大学比較文化学部准教授　岩谷秋美	
		第2講 乱世の七朝帝師―夢窓疎石の頂相と袈裟―	学芸部工芸室兼企画室長　山川曉	
		第3講 亡国と美術―宋遺民の絵画をめぐって	学芸部調査・国際連携室研究員　森橋なつみ	

4)　社会科教員のための向上講座　　1回　　34人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	9月2日	講義「特別展＜河内長野の聖地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―＞鑑賞ポイント」	学芸部企画室研究員　井並林太郎	34人

5)　ギャラリーツアー・シンポジウム等　2回　　328人

	開講日	テーマ・講師		参加者数(人)
1	4月29日	研究発表と座談会　中世天台戒家の思想と文化	金城学院大学文学部教授　舩田淳一 大津市歴史博物館　鯨井清隆 愛媛県鬼北町教育委員会　幡上敬一 保存修理指導室長　大原嘉豊	70人
2	5年2月4日	国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま― 国立博物館の事例から―」	教育室主任研究員 水谷亜希	258人

※キャンパスメンバーズ限定講演会については1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業　に記載。

【奈良国立博物館】

1) 特別展等講座

10回　716人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月29日	「大安寺伽藍縁起并流記資財帳の考古学」	京都大学名誉教授　上原眞人	76人
2	5月21日	「大安寺の祈りと営みー出土品を中心にー」	学芸部企画室長　中川あや	65人
3	6月11日	「大安寺の仏像」	京都大学教授　稲本泰生	71人
4	8月6日	「貞享本當麻曼荼羅とその周辺」	学芸部主任研究員　北澤菜月	66人
5	8月20日	「中将姫説話の展開」	文教大学文学部日本語日本文学科准教授 日沖敦子	60人
6	8月21日	親子講座「なぜなぜ？はっけん！ほとけさまのかたち」	学芸部研究員　翁みほり	90人
7	10月29日	「正倉院宝物の保存―宝物を覆う―」	宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員　髙畑誠	71人
8	11月12日	「正倉院の仏具―奈良時代の寺院と法会の世界―」	学芸部研究員　三本周作	65人
9	5年1月7日	「王朝文化が蘇る　春日若宮古神宝とその復元」	春日大社国宝殿主任学芸員　松村和歌子	77人
10	5年2月4日	「参籠した時の醍醐味とは」	東大寺長老・東大寺総合文化センター総長 狭川普文	75人

2) 夏季講座

4回　270人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	7月16日	第1回 如来「東アジア世界のブッダの姿」	学芸部美術室長　岩井共二	70人
2	7月23日	第2回 菩薩「菩薩像のかたちと信仰 一観音菩薩を中心に」	学芸部研究員　内藤航	67人
3	7月30日	第3回 明王「図像から彫像へ 一不動明王像の魅力」	学芸部主任研究員　山口隆介	66人
4	8月27日	第4回 天部「天部のかたち 一毘沙門天を中心に」	奈良女子大学文学部准教授　佐藤有希子	67人

3) サンデートーク

12回　870人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	4月17日	「薬師如来像をめぐって」	学芸部アソシエイトフェロー　伊藤旭人	76人
2	5月15日	「文化財を加害するムシの話」	学芸部アソシエイトフェロー　小峰幸夫	71人
3	6月19日	「文化財の健康診断―X線CT調査でみる文化財―」	学芸部アソシエイトフェロー　安藤真理子	75人
4	7月17日	「平安貴族と装飾写経」	学芸部列品室長　斎木涼子	71人
5	8月7日	「仏教美術以前の日本美術」	館長　井上洋一	70人
6	9月18日	「明恵上人をめぐる仏教絵画」	学芸部教育室長　谷口耕生	66人
7	10月16日	「古代の戸籍と正倉院文書について」	学芸部資料室長　野尻忠	74人
8	11月20日	「古写真と仏像研究」	学芸部主任研究員　山口隆介	73人
9	12月18日	「如来像の着衣について」	学芸部美術室長　岩井共二	72人
10	5年1月15日	「仏像の模刻をめぐって」	学芸部研究員　内藤航	77人
11	5年2月19日	「奈良の仏像版画をめぐって　Nara's Buddhist Prints」	学芸部アソシエイトフェロー　Mary Lewine	68人
12	5年3月19日	「ステラレネーゼ達の“断捨離”」	学芸部保存修理指導室長　荒木臣紀	77人

4) その他展示に関連するイベント

20回　　47,676人

	実施日	内容	会場	参加者
1	4月23日	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「らくご男子落語会 恋バナ編」	講堂	75人
2	4月30日	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「重文で朝ヨガ・呼吸法体験！～ならはくでととのいませんか？～」	仏教美術資料研究センター	27人
3	5月5日	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連　親子向けワークショップ「小花もようのかざりタイルをつくろう！」	地下回廊	24人
4	5月8日	奈良国立博物館「大安寺のすべて ―天平のみほとけと祈り―」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	23,417人
5	5月28日	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「重文で朝ヨガ・呼吸法体験！～ならはくでととのいませんか？～」	仏教美術資料研究センター	26人
6	5月28日	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　大安寺展編」	講堂	58人
7	7月22日、7月23日	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」研究員レクチャー付き夜間特別鑑賞	講堂	108人
8	7月25日～	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」関連ワークショップ「なりきり！ほとけさまのかたち」	YouTube	2,000人
9	7月31日	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」関連イベント「蓮糸織り体験」	地下回廊	25人
10	8月11日	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　中将姫展編」	講堂	45人
11	8月11日	奈良国立博物館「中将姫と當麻曼荼羅 ―祈りが紡ぐ物語―」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	20,831人
12	10月30日	「第74回正倉院展」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　正倉院展編」	講堂	41人
13	11月14日	「第74回正倉院展」研究員レクチャー付き鑑賞会	講堂	176人
14	11月19日	近代化遺産全国一斉公開	仏教美術資料研究センター	633人
15	11月26日	留学生の日関連イベント「書画作品に挑戦しよう！」	展示室	15人
16	12月16日	奈良国立博物館「春日大社 若宮国宝展 ―祈りの王朝文化―」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	15,774人
17	5年1月12日	文化財保存修理所公開	文化財保存修理所	50人
18	5年1月21日	式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展 ―祈りの王朝文化―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　春日大社若宮国宝展編」	講堂	43人
19	5年2月5日	特別陳列「お水取り」関連イベント「お水取り　「講話」と「現地解説」の会　2023年」	講堂	38人
20	5年3月14日	特別陳列「お水取り」関連イベント「お水取り　特別上映会」	講堂	44人

【九州国立博物館】

1)特別展記念講演会　　4回　　662人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月16日	特別展「北斎」記念講演会 「老境の北斎とその画業－浮世絵風景画史の観点から－」	国立歴史民俗博物館教授　大久保純一	140人
2	7月16日	特別展「琉球」記念講演会 「万国津梁の鐘と尚泰久」	沖縄県立博物館・美術館　館長　田名真之	95人
3	10月15日	特別展「ポンペイ」記念講演会 「ポンペイに魅せられた50年」	東京大学名誉教授　青柳正規	203人
4	5年1月29日	特別展「加耶」記念講演会 「五世紀・倭の技術革新と加耶」	海の道むなかた館館長・九州大学名誉教授 西谷正	224人

2)講演及びシンポジウム等　　24回　　1,881人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月30日	きゅーはく☆とっておき講座 かわいい考古学って何？	学芸部企画課主任研究員　西島亜木子 交流課主任研究員　今井涼子 九州歴史資料館　岸本圭 九州歴史資料館　小嶋篤 むぎばんだ女子考古部 きゅーはく女子考古部　中村麻衣子・丸山新奈	80人
2	5月7日	特別展「北斎」担当研究員による展示レクチャー	学芸部文化財課主任研究員　畑靖紀	96人
3	5月21日	特別展「北斎」記念トークショー 「おしえて、しりあがりサン-北斎のすごさとは-」	漫画家　しりあがり寿 学芸部文化財課主任研究員　畑靖紀	97人
4	6月12日	囲碁の歴史と本因坊家のあゆみ	学芸部企画課研究員　大澤信	80人
5	8月6日	全国高等学校歴史学フォーラム2022 「江戸時代の農村地帯における庚申信仰の広がりについて」 「『鉢之記』にせまる！」 「ダークツーリズムとしての熊谷空襲」 「石錘FISHING!?～弥生のおもりで魚釣り～」 「『甘木絞』の魅力　～失われかけた地域文化の再生に向けて～」 「九州北部の『道』の歴史推移について」 「栃木県におけるサメ食文化に関する一考察」	群馬県立高崎北高等学校 九州産業大学付属九州産業高等学校 史跡探索研究部 埼玉県立熊谷西高等学校 福岡県立糸島高等学校 歴史部 福岡県立朝倉高等学校 史学部 福岡県立八幡高等学校 栃木県立矢板東高等学校 リベラルアーツ同好会	21人 （参加校関係者数）
6	8月7日	特別展「琉球」講演会「琉球の美術と文化を深める」	沖縄美ら島財団　上江洲安亨 東京国立博物館　原田あゆみ	78人
7	8月13日	特別展「琉球」リレー講座「琉球展ちゃんぷる一講座」①歴史編	展示課主任研究員　一瀬智 学芸部文化財課研究員　松浦晃佑	44人
8	8月20日	特別展「琉球」リレー講座「琉球展ちゃんぷる一講座」②工芸編	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子 学芸部企画課主任研究員　望月規史 学芸部企画課研究員　桑原有寿子	51人
9	9月3日	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・特別史跡「大野城跡」史跡指定90年記念シンポジウム「大宰府四王院」	国立歴史民俗博物館教授 三上喜孝 九州歴史資料館 松川博一 元亀岡市文化資料館 近藤謙 展示課主任研究員 岡寺良	105人
10	9月4日	きゅーはく☆とっておき講座 弥生王墓の実像を探る一三雲南小路遺跡発見200年	展示課主任研究員　小澤佳憲	74人
11	10月1日	日本遺産「西の都」古代史講座	太宰府天満宮顧問、太宰府天満宮文化研究所主管学芸員 味酒安則氏	35人
12	10月8日	日本遺産「西の都」古代史講座	太宰府天満宮顧問、太宰府天満宮文化研究所主管学芸員 味酒安則氏	70人
13	10月8日	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群　世界遺産登録５周年記念展覧会「沖ノ島祭祀を担った奉斎者たち」開催記念講演会「沖ノ島祭祀と渡来系遺物の流入 － 海の民ムナカタの役割 － 」	岡山理科大学名誉教授　亀田修一	86人
14	10月16日	講演会＆トークセッション 「宮廷文化と御所の器」	衣紋道山科流若宗家　山科言親 同志社大学歴史資料館准教授　浜中邦弘 同志社大学非常勤講師　橋爪伸子 学芸部企画課研究員　酒井田千明 学芸部文化財課研究員　松浦晃佑	83人

15	10月24日	日米文化教育交流会議(カルコン)シンポジウム	ペンシルベニア大学准教授 ジョイリン・トーマス 津田塾大学学長 高橋裕子 スタンフォード大学教授 筒井清輝 CFRシニア・フェロー シーラ・スミス 防衛大学校長 久保文明 福岡ソフトバンクホークス会長 王貞治 当館館長 島谷弘幸 元駐米大使 加藤良三 ライス大学教授 清水さゆり	80人
16	10月29日	特別展「ポンペイ」リレー講座① 「ポンペイがやってきた！-見どころ紹介-」	展示課長　齋部麻矢	62人
17	10月30日	おおむたPRキャンペーン 「三池の刀が切り開く 大牟田の未来」 公開講座「刀匠と語る三池刀の魅力」	大牟田市世界遺産文化財室長 山田 元樹 國天刀匠 坂口優美	100人
18	11月5日	きゅーはく☆とっておき講座 御所の器の魅力	学芸部企画課研究員　酒井田千明	80人
19	11月6日	特別展「ポンペイ」リレー講座② 「ポンペイとインド」 「ポンペイの黒い鏡」 「ポンペイの絵画とそのひみつ」	副館長　小泉惠英 学芸部文化財課長　白井克也 学芸部文化財課アソシエイトフェロー　折山桂子	53人
20	12月10日	きゅーはく☆とっておき講座 長崎警備と白帆注進 -近世日本の沿岸警備-	展示課主任研究員　岡寺良	32人
21	12月18日	きゅーはく☆とっておき講座 たねがしま入門	上野原縄文の森園長　堂込秀人 交流課主任研究員　今井涼子	74人
22	5年1月7日	きゅーはく☆とっておき講座 徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子	80人
23	5年2月4日	特別展「加耶」リレー講座①	学芸部文化財課長　白井克也 展示課長　齋部麻矢 学芸部企画課研究員　大澤信	154人
24	5年2月11日	特別展「加耶」リレー講座②	展示課主任研究員　大高広和 展示課主任研究員　岡寺良 九州歴史資料館学芸員　小嶋篤	166人

3)　ミュージアムトーク　　25回 参加者総数　　694人

・担当研究員数　　延べ 20人　　※うち夜間開催分は 0人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。

（原則として第1、3、5火曜日の15時より15～30分間、夜のミュージアムトークは原則として第2、4土曜日の18時より15～30分間）

	開催日	テーマ	解説者	参加者数（人）
1	4月12日	影絵人形ワヤン・クリでみるラーマーヤナ物語	学芸部文化財課課長（兼）資料管理室長 白井克也	13人
2	4月26日	名所を旅する　浮世絵編	学芸部企画課文化交流展室アソシエイトフェロー 杉田真菜	17人
3	5月17日	囲碁の歴史と本因坊家のあゆみ	学芸部企画課特別展室研究員　大澤 信	23人
4	5月31日	約２千年前のアジアの青銅器	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	38人
5	6月14日	日蘭貿易の舞台　平戸と出島	交流課主任研究員　今井涼子	21人
6	6月28日	観音さま	学芸部文化財課資料登録室長　森實久美子	19人
7	7月12日	古代瓦の文様あれこれ	展示課長　齋部麻矢	23人
8	7月26日	イメージするための絵画	学芸部文化財課アソシエイトフェロー 折山桂子	18人
9	8月2日	沖ノ島ってどんなところ？	展示課主任研究員　大高広和	37人
10	8月16日	覗いてみよう　洛中洛外図の世界	学芸部企画課文化交流展室アソシエイトフェロー 杉田真菜	35人
11	8月27日	鬼瓦のヒミツ	展示課長　齋部麻矢	50人
12	8月30日	等覚寺の山岳信仰	展示課主任研究員　岡寺良	31人
13	9月27日	墨蹟がつなぐ交流	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 瓜生翠	20人
14	10月12日	日本の埴輪と中国の陶俑	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	20人
15	10月25日	古代の沖ノ島と宗像氏	展示課主任研究員　大高広和	32人
16	11月1日	「海の彼方のあの世～古墳時代の海上他界観をめぐって～」	学芸部長　河野一隆	29人
17	11月15日	中国・遼代の染織品	学芸部企画課特別展室研究員　桑原有寿子	25人
18	11月29日	長崎港を警備せよ!! －長崎警備と白帆注進－	展示課主任研究員　岡寺良	35人
19	12月13日	文化財を守るお仕事　－博物館の環境管理－	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 和泉田絢子	19人
20	5年1月17日	梵鐘について－観世音寺の国宝鐘を中心に－	学芸部企画課長　伊藤信二	29人
21	5年1月31日	博物館におけるX線CT調査について	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	35人
22	5年2月14日	灰汁の科学　～災害で水濡れし、くっついて読めない古文書を開く～	学芸部博物館科学課長　環境保全室長 木川りか	36人
23	5年2月28日	異国憧憬―江戸時代の文化交流―	学芸部博物館科学課主任研究員　文化財防災センター　鷲頭桂	28人
24	5年3月14日	むしが出る―啓蟄恒例・はらのむし―	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 瓜生 翠	36人
25	5年3月28日	博物館で文化財を守り、育てる	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	25人

4)　その他展示に関連するイベント

19回　　1,674人

	実施日	内容	会場	参加者数	備考
1	4月15日	特別展「北斎」沖ノ島解説パネル展示	エントランス	—	
2	4月30日	特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ かわいい考古学のススメ」展関連イベント　古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール	200人	
3	6月25日	百済の国のお宝拝見！ － 韓国国宝・百済金銅大香炉紹介講座 －	ミュージアムホール／研修室	18人	
4	7月18日	復帰50年記念 特別展「琉球」 関連イベント 琉球の宝 ウチナーの心	ミュージアムホール／研修室／和室	140人	
5	7月20日	復帰50年記念 特別展「琉球」関連パネル展示	エントランス	—	
6	7月30日	特別展「琉球」×『刀剣乱舞-ＯＮＬＩＮＥ-』おっきい こんのすけ撮影会	ミュージアムホール／研修室	—	
7	8月11日	甕棺墓埋葬体験ワークショップ「弥生時代の棺　甕棺に入ろう」	ミュージアムホール	25人	
8	8月27日	きゅーはくミュージアムコンサート 沖縄復帰50年記念 特別展「琉球」関連イベント「古謝美佐子 沖縄のこころのうた」	ミュージアムホール	540人	
9	8月28日	甕棺墓埋葬体験ワークショップ「弥生時代の棺　伊都国王のお葬式」	ミュージアムホール	20人	
10	11月4日	特別展「ポンペイ」関連パン販売	エントランス／和室	—	
11	11月5日、12日	ワークショップぺたぺたデコレーション ～貼花に挑戦！～	研修室	19人	
12	11月10日	特別展「ポンペイ」関連イベント 視覚障害者とつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー 第1回 バックヤードツアー	ミュージアムホール／館内バックヤード	6人	
13	11月11日	特別展「ポンペイ」関連イベント 視覚障害者とつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー 第2回 ポンペイ展	和室／3階特別展示室	6人	
14	11月19日、20日	特別展「ポンペイ」 子ども向けワークショップ～天然大理石のモザイクコースター～	研修室	195人	
15	11月27日	みんなdeきゅーはくを楽しもう‼　視覚障がい者向けバックヤードツアー」	研修室他	25人	（同伴者を含む）
16	12月3日	特別展「ポンペイ」関連パン販売	エントランス／和室	—	
17	5年1月24日～2月12日	特別展「加耶」関連パネル展示「日韓の懸け橋～朝鮮通信使 誠信の足跡」	エントランス	—	
18	5年2月25日	特別展「加耶」関連　HOT KOREA, HOT KYUHAKU ホットコリア,ホットきゅーはくフェア	屋外広場	—	
19	5年3月4日	特別展「加耶」関連　きゅーはくミュージアムコンサート 「アン・サリー 幻の王国“加耶”に思いを馳せて」	ミュージアムホール	480人	

1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1 ※2	**回数計**	**1,319回**	**回数計**	**21回**	**回数計**	**917回**	**回数計**	**409回**
	参加者計	**33,888人**	**参加者計**	**21,169人**	**参加者計**	**48,491人**	**参加者計**	**7,281人**
	体験型プログラム等	1,168回 24,072人	体験型プログラム等	2回 20,043人	体験型プログラム等	863回 45,514人	体験型プログラム等	328回 1,781人
	学校との連携事業	151回 9,816人	学校との連携事業	19回 1,126人	学校との連携事業	54回 2,977人	学校との連携事業	81回 5,500人
	児童生徒を対象とした刊行物	9件 136,228部	児童生徒を対象とした刊行物	8件 238,320部	児童生徒を対象とした刊行物	4件 101,318部	児童生徒を対象とした刊行物	1件 2,500部
	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 107台	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —

※1ー定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする

※2実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1)体験型プログラム等　1,168回　24,072人

①ハンズオン展示等

790回　5,126人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	東洋館オアシス6室「アジアの占い体験」	東洋館6室	159回		9月21日（水）から再開（3/31現在159日間開室）参加者のカウントなし。
2	通年	本館19室みどりのライオン体験コーナー	本館19室	308回		4月5日（火）から再開（3/31現在308日間開室）参加者のカウントなし。工程見本展示は「紅型のできるまで」
3	通年	日本文化のひろば	本館特別4室	311回		3/31現在311日開室。参加者のカウントなし。
4	4月24日、5月22日、6月26日、7月24日、8月28日、9月25日、10月23日、11月27日、12月25日、1月22日、2月26日、3月26日	キッズスペース	本館地下教育普及スペース	12回	5,126人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベントとして実施。（4月276人、5月248人、6月333人、7月738人、8月300人、9月468人、10月481人、11月541人、12月254人、1月454人、2月563人、3月470人

②ワークショップ

233回　6,289人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～7月25日	みんなでつくる記念チケット	本館内ポストほか	116回	680人	150周年記念事業。回数は実施日数。
2	4月24日、5月22日、6月26日、7月24日	みんなでつくる記念チケット・お絵描きコーナー	本館2階ラウンジ、本館19室	4回	469人	150周年記念事業。月イチ！トーハクキッズデーにあわせ、お絵描きコーナーの実施。（4月88人、5月67人、6月101人、7月213人）
3	4月24日	読み聞かせ「牛若丸」	本館18室	4回	86人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント、1日4回公演
4	4月24日、5月22日、6月26日、2月26日	よろいのひみつ（Zoom生配信）、ハンズオン	—	8回	371人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント、1日2回実施。人数はzoom配信及び現地視聴数（4月41人、5月89人、6月95人、2月146人）
5	5月22日、6月26日、8月28日、9月25日、10月23日、1月22日	アートスタジオ「勾玉づくり」	本館地下教育普及スペース	7回	54人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント（5月6人、6月6人、8月5人、9月5人、10月5人、1月8人、2月19人）
6	6月18日～6月19日	オンラインワークショップ「びょうぶをつくる」	本館地下教育普及スペース+zoom	4回	64人	zoomにてオンライン開催
7	6月26日、7月24日	紙芝居「ぶんぶくちゃがま」	本館4室	8回	496人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（1日4回公演。6月183人、7月313人）
8	7月24日、11月27日、12月25日	さわってみよう！考古ハンズオン	平成館考古展示室前	3回	—	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（参加者のカウントなし）
9	7月24日、12月25日	コロタイプ印刷ワークショップ	本館1階ラウンジ	2回	313人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（4月196人、12月117人）

10	7月24日	アートスタジオ「親子で勾玉づくり」	本館地下教育普及スペース	2回	18人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント（1日2回実施）
11	7月24日、9月25日、10月23日、11月27日、12月25日、1月22日、2月26日、3月26日	こどもたてものさんぽツアー　～たんけんマップをもって～	構内	16回	439人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント（1日2回実施。7月63人、9月152人、10月80人、11月144人、12月50人、1月141人、2月77人）
12	8月28日、9月25日、3月26日	紙芝居「かぐや姫」	本館18室	12回	435人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（1日4回公演、8月118人、9月161人、3月156人）
13	8月28日、1月22日	ひいながたぬりえ	本館19室	1回	385人	150周年記念事業。月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（8月137人、1月248人）
14	9月25日、10月23日、11月27日	手遊び&ユリノキのガイド『大きなユリノキの下で』	構内	3回	71人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント（9月10人、10月23人、11月38人）
15	10月1日～10月2日	きて・みて・さわって！高校生のための学芸員体験	応挙館、本館	1回	9人	150周年記念事業として実施。2日間のプログラム
16	10月9日、10日、23日、11月3日	ファミリーツアー 「トーハク劇場へようこそ！～博物館の誕生編～」	本館展示室	8回	132人	150周年記念事業として実施。1日2回実施10月23日は月イチ！トーハクキッズデー関連イベントとして実施
17	10月23日	紙芝居「じごくのそうべえ」	本館18室	4回	228人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（1日4回公演）
18	10月23日,11月27日	ぶつぞう調査隊	本館11室	8回	587人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（1日4回実施、10月313人、11月274人） 実施：文化財活用センター
19	9月25日、10月23日、11月27日	手遊び&ユリノキのガイド『大きなユリノキの下で』	構内	3回	71人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント（9月10人、10月23人、11月38人）
20	11月27日、2月26日	アジアの占い体験	東洋館6室オアシス	2回	―	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント
21	11月27日、2月26日	はじめてのお茶室たんけん	九条館	6回	386人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（1日3回実施）11月181人、2月205人
22	12月25日、3月26日	アートスタジオ「親子で楽しむ根付づくり」	本館地下教育普及スペース	2回	21人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント(12月12人、3月9人)
23	12月25日、1月22日、2月26日、3月26日	手遊び&散策『ユリノキのからたんけん！』	構内	4回	115人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント(12月22人、1月40人、2月32人、3月21人)
24	12月25日、1月22日、2月26日、3月26日	東洋館でさがしてみよう	東洋館	4回	489人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント12月102人、1月141人、2月142人、3月104人、）
25	3月26日	さくらぬりえ	本館19室	1回	370人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント

③その他の体験型プログラム　　27回　　4,120人

1	4月24日、5月22日、6月26日、7月24日、8月28日、9月25日、10月23日、1月22日、2月26日、3月26日	うるし体験ペーパークラフトサービス	本館特別4室	10回	2,328人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント(4月187人、5月120人、6月196人、7月368人、8月156人、9月282人、10月170人、1月259人、2月289人、3月301人)
2	6月26日、7月24日	学校版トーハクなび貸出サービス	本館2階便殿前	2回	236人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント(6月47人、7月121人、8月68人)
3	7月24日	初めてのお茶入れ体験	平成館ラウンジ	1回	112人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント　実施：(株) 伊藤園
4	7月24日	トーハクくん、ユリノキちゃん登場	本館、平成館ほか	4回	―	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント参加者のカウントなし
5	7月24日、8月28日	「150年後の国宝展」みんなの国宝大募集！	平成館ラウンジ	2回	―	150周年記念事業 月イチ！トーハクキッズデーで紹介コーナーの設置
6	1月22日	恐竜をつくって知ろう！プラノサウルス組立体験会	平成館ガイダンスルーム	1回	1,444人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント　主催：BANDAI SPIRITS
7	1月22日	恐竜稼働イベント	平成館、構内	3回	―	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント　主催：ON-ART、参加者のカウントなし
8	1月22日	恐竜バルーンアート	本館前	1回	―	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント　主催：BANDAI　SPIRITS、参加者のカウントなし
9	2月26日	トーハクくん、トラりん登場！	平成館ラウンジ、本館前、東洋館前	3回	―	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント参加者のカウントなし

④児童生徒を対象とした展示

79回　　― 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月26日～5月29日	「親と子のギャラリー　翼と羽」	平成館企画展示室	30回	―	東京都恩賜上野公園、国立科学博物館、東京国立博物館連携企画「上野の山で動物めぐり」。回数は開催日数。
2	7月20日～8月28日	「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方Ⅴ」	本館特別2室	36回	―	回数は開催日数。参加者のカウントなし。
3	10月23日～11月6日	「きて・みて・さわって！高校生のための学芸員体験　高校生の学芸員のおすすめポイント」	本館7室	13回	―	150周年記念事業。月イチ！トーハクキッズデーにあわせて実施。回数は開催日数。参加者のカウントなし。

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

39回　　8,537人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月24日、5月22日、6月26日、7月24日、8月28日、9月25日、10月23日、11月27日、12月25日、1月22日、2月26日、3月26日	おうちでギャラリートーク「こどものためのギャラリートーク」	本館地下みどりのライオンほか	12回	3,571人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベントとして、動画を公開。上映のほか、QRコードでアクセスが可能。参加者数はアクセス数(4テーマそれぞれ805件,908件,664件,1194件）の合計値
2	4月24日、5月22日、6月26日、7月24日、9月25日、11月27日、3月26日	トーハク笑楽座公演	平成館大講堂、東洋館ラウンジ	14回	2,445人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント、1日2回公演(4月:186人、5月:199人、6月:270人、7月:538人、9月:377人、11月:450人、3月:425人）
3	8月28日、10月23日、12月25日、1月22日、2月26日	笑おう！楽しもう！こども落語	平成館大講堂	10回	1,483人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント、1日2回公演（8月:174人、10月:227人、12月:271人、1月:352人、2月:459人）
4	7月24日、8月28日、1月22日	トーハクファミリーコンサート	平成館ラウンジ	3回	1,038人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（7月ピアノ:540人、8月チェロ:277人、1月バイオリン:221人）

2)学校との連携事業　　151回　　9,816人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

137回　　9,748人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	スクールプログラム	―	132回	9,712人	
2	通年	盲学校のためのスクールプログラム	本館地下教育普及スペース、本館展示室	5回	36人	

②出前授業等　　― 回　　― 人

③職場体験

11回　　31人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	職場体験の受け入れ	本館及び東洋館展示室など	11回	31人	11校、のべ21日

④教員を対象とした研修　　2回　　29人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	1月18日	文京区美術科教員研修「はじめての日本美術」	本館地下教育普及スペース	1回	6人	
2	2月17日	教員研修「発掘品から見る縄文時代のくらし」	オンライン	1回	23人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

1回　　8人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	10月13日	上野ナイトパークコンソーシアム	本館地下みどりのライオン	1回	8人	ポッドキャスト「10代、ミュージアムのよるラジオ」におけるスクールプログラム「はじめてのトーハク」レクチャー。人数は出演者及びスタッフ

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　9件　　136,228部 ＊トーハク記念アルバムとコレクションカードの合計含む

	名　称	発行部数	備　考
1	「日本文化のひろば」ワークシート	20,000部	
2	「紅型のできるまで」	2,000部	本館19室みどりのライオン体験コーナー工程見本展示
3	「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方Ⅴ」ワークシート	10,000部	
4	ジュニアガイド「沖縄復帰50年記念特別展　琉球」	68,266部	琉球展関連
5	ジュニアガイド「トーハクものがたり」	31,530部	東京国立博物館創立150年記念特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」関連

6	トーハク記念アルバム	1,745部	月イチ！トーハクキッズデーにて限定配布　(4月:134冊、5月:106冊、6月:129冊、7月:221冊、8月:95冊、9月:190冊、10月:170冊、11月:154冊、12月:70冊、1月:196冊、2月:154冊、3月:126冊)
7	トーハクコレクションカード	2,447部	月イチ！トーハクキッズデーにて限定配布　(4月:137枚、5月:134枚、6月:188枚、7月:250枚、8月:167枚、9月:250枚、10月:242枚、11月:250枚、12月:137枚、1月:250枚、2月:240枚、3月:202枚)
8	「博物館に初もうで」ワークシート「トーハクめでたいカルタづくり」	240部	月イチ！トーハクキッズデーにて限定配布。ウェブサイトでPDF版も公開。
9	「東福寺展」ジュニアガイド	―	東福寺展関連

②音声ガイド　― 件　― 台

③その他メディア　― 件　― 台

【京都国立博物館】

1)体験型プログラム等　2回　20,043人

①ハンズオン展示等

― 回　― 人

②ワークショップ

― 回　― 人

③その他の体験型プログラム

― 回　― 人

④児童生徒を対象とした展示

1回　19,983人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5年1月2日～1月29日	新春特集展示「卯づくし―干支を愛でる―」	京都国立博物館　平成知新館	1回	19,983人	参加者は当該期間の入館者数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回　60人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月3日	記者体験in京都国立博物館	京都国立博物館　平成知新館	1回	60人	京都市立中学校の生徒（美術部員）を招き、特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」を鑑賞し、感想等を記事にまとめる「記者体験」を行った。今年度は特別展と関連させ、河内長野市教育委員会、大阪府立長野高等学校の協力のもと実施した。 講師：京都国立博物館　文化財ソムリエ2名・大阪府立長野高校の生徒10名（河内長野歴史遺産PR大使） 主催：京都市教育委員会・京都市中学校美術科教育研究会・京都国立博物館 協力：河内長野市教育委員会・大阪府立長野高等学校

2)学校との連携事業　19回　1,126人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

7回　89人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月6日、11月18日	京都府立嵯峨野高等学校　2年生	京都府立嵯峨野高等学校	2回	15人	「京の文化財」をテーマとした探求活動への協力 講義・助言：水谷亜希（主任研究員）
2	6月10日	大津市立真野中学校　2年生	京都国立博物館	1回	4人	建築に関する調べ学習への協力 解説：大西征爾（環境整備係長）
3	8月30日	京都市立銅駝美術工芸高等学校　3年生	京都市立銅駝美術工芸高等学校	1回	29人	「文化財修理に関する授業」への協力 講義：大原嘉豊（保存修理指導室長）・森道彦（研究員）
4	9月26日	開智日本橋学園中学校　3年生	京都国立博物館	1回	5人	「京都の観光・文化と博物館」をテーマとした探求活動への協力 質問対応：水谷亜希（主任研究員）
5	11月17日	京都市立藤森中学校　2、3年生（育成学級）	京都国立博物館	1回	7人	特別展「京に生きる文化　茶の湯」見学にかかる基礎的な解説 解説：水谷亜希（主任研究員）
6	11月26日	京都市崇仁児童館 児童・保護者・引率	京都国立博物館	1回	29人	特別展「京に生きる文化　茶の湯」見学にかかる基礎的な解説 解説：水谷亜希（主任研究員）

②出前授業等

7回　501人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月14日	文化財に親しむ授業 京都市立広沢小学校　6年生	京都市立広沢小学校	1回	60人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
2	7月11日	文化財に親しむ授業 京都市立太秦中学校　2年生	京都市立太秦中学校	1回	202人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ

3	9月16日	文化財に親しむ授業 京都市立向島東中学校　1、2年生（育成学級）	京都市立向島東中学校	1回	2人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
4	10月7日	文化財に親しむ授業 京都市立修学院第二小学校　6年生	京都市立修学院第二小学校	1回	75人	教材：雪舟筆「天橋立図」（複製）、講師：文化財ソムリエ
5	10月28日	文化財に親しむ授業 京都市立松ヶ崎小学校　4年生	京都市立松ヶ崎小学校	1回	62人	教材：雪舟筆「天橋立図」（複製）、講師：文化財ソムリエ
6	11月14日	文化財に親しむ授業 京都市立松原中学校　2年生	京都市立松原中学校	1回	80人	教材：尾形光琳筆「八橋図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
7	12月15日	文化財に親しむ授業 京都市立向島藤の木小学校　6年生	京都市立向島藤の木小学校	1回	20人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ

③職場体験

1回　　2人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	11月9日、11日	京都市立西陵中学校 生き方探求・チャレンジ体験	京都国立博物館	1回	2人	

④教員を対象とした研修

1回　　34人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	9月2日	社会科教員のための向上講座（（小・総）社会科授業実践力向上講座、（中・高・総）社会科教員指導力向上講座）	京都国立博物館	1回	34人	講義「特別展＜河内長野の聖地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―＞鑑賞ポイント」井並林太郎（研究員） 主催：京都市教育委員会、京都国立博物館、京都市小学校社会科教育研究会、京都市立中学校教育研究会社会科部会、京都市立高等学校社会科研究会

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

3回　　500人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月21日	京都市立二条中学校　2年生 鑑賞の授業	京都市立二条中学校	1回	121人	複製（俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」）を活用した授業への助言・当日の補助を行った
2	10月26日	京都市立洛水中学校　1年生 鑑賞の授業	京都市立洛水中学校	1回	85人	複製（俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」）を活用した授業への助言・当日の補助を行った
3	12月12日、13日	京都市立洛北中学校　2年生 鑑賞の授業	京都市立洛北中学校	1回	294人	複製（俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」）を活用した授業への助言・当日の補助を行った

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

8件　　238,320部

	名　　称	発行部数	備　　考
1	特別展「最澄と天台宗のすべて」関連鑑賞ガイド「最澄さんと天台宗」	（日）24,000部 （英）1,820部 （中）800部 （韓）600部	4月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。
2	特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺–真言密教と南朝の遺産–」関連鑑賞ガイド「歴史の舞台！観心寺と金剛寺」	（日）27,000部 （英）1,800部 （中）500部 （韓）500部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。 河内長野市教育委員会を通じて、河内長野市の小学校・中学校の全生徒に配付。
3	特別展「京に生きる文化　茶の湯」関連鑑賞ガイド「茶の湯のイロハ」	（日）70,700部 （英）7,200部 （中）2,500部 （韓）1,500部	9月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。
4	博物館Dictionary No.134,168,208,227,228	10,000部	6月、5年1月、2月発行。観覧者（子ども～大人）対象。No.134,168,208は過去に発行した号を増刷。 ウェブサイトにも掲載。
5	子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」	10,000部	11月増刷。観覧者（子ども～大人）対象。
6	新春特集展示「卯づくし―干支を愛でる―」ワークシート　うさぎうさぎ、なにといっしょ？	（日・英）11,000部 （中・韓）3,000部	5年1月発行。観覧者（6歳以上～）対象。
7	特別展「親鸞聖人生誕850年特別展　親鸞–生涯と名宝」関連鑑賞ガイド「親鸞さんと浄土真宗」	（日）55,000部 （英）6,700部 （中）1,700部 （韓）1,000部	3月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。
8	「授業で使える！日本の絵画 鑑賞のヒント」	1,000部	3月発行。小中学校の教員向け。

②音声ガイド　　1件　　107台

	名　　称	台数	備　　考
1	名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド（日本語・英語・中国語・韓国語）	107台	各言語につき、作品解説など22本作成。利用台数107台。

③その他メディア　　4件

	名　　称	発行部数	備　　考
1	虎BLOG	—	公式キャラクター「トラりん」のブログを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
2	トラりんツイッター	—	公式キャラクター「トラりん」のTwitterを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
3	トラりんFacebook	—	公式キャラクター「トラりん」のFacebookを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
4	トラりんYouTube	—	公式キャラクター「トラりん」のYouTubeを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。

【奈良国立博物館】

1)体験型プログラム等　　863回　　45,514人

①ハンズオン展示等　　51回　　786人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月16日～8月28日	「阿弥陀如来立像（裸形）」のレプリカのハンズオン展示	東新館	39回	502人	※回数：会期中の開館日数 ※参加者数：着つけ体験参加者数
2	11月5日、11月10日、11月11日、11月12日、12月9日、12月16日、12月17日、1月21日、1月26日、1月27日、2月15日、3月11日	「阿弥陀如来立像（裸形）」のレプリカのハンズオン展示	地下回廊	12回	284人	※回数：展示日数 ※参加者数：着つけ体験参加者数

②ワークショップ　　136回　　7,935人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	見学・参加者数（人）	備　考
1	5月5日	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連　親子向けワークショップ「小花もようのかざりタイルをつくろう！」	地下回廊	3回	24人	
2	7月16日～8月28日	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」関連ワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」	東新館	78回	見学者数：2,709人 着つけ体験参加者数：502人	※会期中の開館日毎日2回実施
3	7月16日～8月28日	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」関連ワークショップ　仏像スケッチ	東新館	39回	1,371人	※回数：会期中の開館日数 ※参加者数：おえかきギャラリーに掲示されたおえかきシートの枚数より算出
4	7月25日～	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」関連ワークショップ　「なりきり！ほとけさまのかたち」	YouTube	4回	2,000人	YouTube奈良博公式チャンネル「ならはくチャンネル」にて配信
5	11月5日、11月10日、11月11日、11月12日、12月9日、12月16日、12月17日、1月21日、1月26日、1月27日、2月15日、3月11日	ワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」	地下回廊	12回	見学者数：1,045人 着つけ体験参加者数：284人	※回数：実施日数

③その他の体験型プログラム　　— 回　　— 人

④児童生徒を対象とした展示　　673回　　36,653人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～	地下回廊の仏像模型コーナーの子ども向け題箋の設置	地下回廊	317回	-人	地下回廊にある仏像模型コーナーに、子ども向け題箋2点を設置 ※回数：展示日数
2	4月1日～	なら仏像館の子ども向け題箋の設置	なら仏像館	317回	-人	なら仏像館に子ども向け題箋10点を設置 ※回数：展示日数
3	7月16日～8月28日	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」	東新館	39回	36,653人	※回数：会期中の開館日数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　　3回　　140人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月28日・7月29日	夏休み親子講座「親子で学ぼう 奈良の仏像」	講堂・東新館	2回	110人	奈良市教育委員会共催事業
2	8月5日	夏休みファミリー新聞教室 in 奈良	講堂・東新館	1回	30人	読売新聞共催、わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」の関連事業

2)学校との連携事業　　54回　　2,977人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

54回　　2,977人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
学校プログラム「ならはく『世界遺産学習』」の実施校						
1	5月25日	北九州市立向洋中学校3年生	地下回廊・なら仏像館	1回	54人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
2	6月10日	奈良市立富雄南小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	119人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
3	6月17日	堺市立竹城台小学校6年生	地下回廊・なら仏像館	1回	41人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
4	6月21日	奈良市立東市小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	25人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
5	7月1日	奈良市立朱雀小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	46人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
6	9月22日	奈良市立富雄第三小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	59人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
7	9月27日	奈良市立帯解小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	19人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
8	9月30日	奈良市立あやめ池小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	93人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
9	10月7日	奈良市立柳生小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	10人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
10	10月7日	奈良市立興東小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回		
11	10月7日	奈良市立済美小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	61人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
12	10月21日	西宮市立鳴尾北小学校6年生	地下回廊・なら仏像館	1回	150人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
13	10月26日	近畿大学付属中学校2年生	地下回廊・なら仏像館	2回	266人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
14	10月27日	中央大学附属中学校2年生	地下回廊・なら仏像館	1回	169人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
15	10月28日	百合学院高等学校2年生	地下回廊・なら仏像館	1回	76人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
16	11月15日	奈良市立大宮小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	84人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
17	11月18日	奈良市立伏見小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	133人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
18	11月22日	奈良市立椿井小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	29人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
19	11月22日	奈良市立明治小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	62人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
20	11月22日	奈良市立三碓小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	96人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
21	11月24日	奈良市立ならやま小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	78人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
22	11月25日	奈良市立二名小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	83人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
23	11月25日	奈良市立左京小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	49人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
24	11月29日	奈良市立都跡小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	86人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
25	11月29日	奈良市立富雄北小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	100人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
26	12月9日	宮若市立宮若東中学校2年生のうち2組・3組	地下回廊・なら仏像館	1回	64人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
27	1月26日	奈良市立佐保小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	56人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
28	1月27日	奈良市立登美ヶ丘小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	88人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
29	1月27日	奈良市立鶴舞小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	56人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
30	2月15日	静岡市立城内中学校2年生のうち2組・3組	地下回廊・なら仏像館	2回	66人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館

学校団体を対象にしたオンライン中継プログラムの実施						
31	10月11日	ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム（対象：奈良市立伏見南小学校5年生）	奈良市立伏見南小学校・なら仏像館	2回	74人	奈良市教育委員会との連携事業
32	10月17日	ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム（対象：奈良市立平城西小学校5年生）	奈良市立平城西小学校・なら仏像館	2回	62人	奈良市教育委員会との連携事業
33	11月28日・12月5日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム（対象：大分市立西中学校1年生）	大分市立西中学校・なら仏像館	5回	140人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
34	12月12日	ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム（対象：奈良市立大安寺西小学校5年生）	奈良市立大安寺西小学校・なら仏像館	3回	80人	奈良市教育委員会との連携事業
35	1月16日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム（対象：大分市立戸次小学校6年生）	大分市立戸次小学校・なら仏像館	2回	66人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
36	1月23日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム（対象：平松学園向陽中学校3年生）	平松学園向陽中学校・なら仏像館	1回	38人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
37	1月23日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム（対象：由布市立東庄内小学校6年生）	由布市立東庄内小学校・なら仏像館	1回	32人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
38	1月30日	遠隔操作ロボットとウェブ会議システムを活用したオンライン交流学習（対象：奈良市立鼓阪北小学校5年生と大分県国東市立国見小学校5年生）	奈良市立鼓阪北小学校・大分県国東市立国見小学校・なら仏像館	2回	43人	奈良市教育委員会ならびに大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
39	2月6日	ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム（対象：奈良市立飛鳥小学校5年生）	奈良市立飛鳥小学校・なら仏像館	2回	82人	奈良市教育委員会との連携事業
学校のフィールドワークの受け入れ						
40	10月5日	奈良教育大学附属中学校のフィールドワーク授業「ならめぐり」の受け入れ	講堂・なら仏像館	2回	42人	奈良教育大学附属中学校との連携事業

②出前授業等　　— 回　　— 人

③職場体験　　— 回　　— 人

④教員を対象とした研修　　— 回　　— 人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業
— 回　　— 人

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　4件　　101,318部

	名　称	発行部数	備　考
1	特別展「大安寺のすべて」の鑑賞ガイド「大安寺のひみつーオニやんの展覧会レポートー」	14,000部	4月発行。観覧者（子ども～大人）対象。特別展会場にて配布。また、PDFデータを特別展特設ウェブサイトや当館ウェブサイト内にある教育普及ウェブサイト「ならはく教育普及室」にて公開した。
2	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」のワークシート「クイズではっけん！ほとけさまのハテナ」	25,000部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。特別展会場にて配布。また、PDFデータを当館ウェブサイト内にある教育普及ウェブサイト「ならはく教育普及室」にて公開した。
3	仏像をもっと楽しむ鑑賞ガイド「かたちで見分ける！仏像4つのグループ」	60,000部	12月発行。観覧者（子ども～大人）対象。なら仏像館にて配布。また、PDFデータを当館ウェブサイト内にある教育普及ウェブサイト「ならはく教育普及室」にて公開した。
4	なら仏像館クイズ＆ミッションシート、解答解説シート	2,318部	学校プログラム ならはく「世界遺産学習」の現地学習の際に配布する教材。

②音声ガイド　　0件　　0台

③その他メディア　　3件

	名　称	件数	備　考
1	動画「ならはく世界遺産学習」	1件	学校プログラム ならはく世界遺産学習の事前学習教材として、当館の案内動画をYouTube上で公開した
2	学校プログラムの事前学習シート「仏像ちょこっとクイズ」	1件	PDFにし、学校プログラムで来館する各学校に提供した。
3	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」の会場内公開動画「おしえて！仏像ハカセ」	1件	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」の会期中に、会場無内に設置した液晶モニターにて、動画をループ再生、公開した。

【九州国立博物館】

1)体験型プログラム等　　328回　　1,781人

①ハンズオン展示（あじっぱ・あじ庵・あじぎゃら）等
310回

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～3月31日	おうちdeあじっぱ	あじっぱ	310回	—	展示日数

②ワークショップ　　6回　　459人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月30日	特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ かわいい考古学のススメ」展関連イベント　古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール	1回	200人	
2	8月11日	甕棺墓埋葬体験ワークショップ「弥生時代の棺 甕棺に入ろう」	ミュージアムホール	1回	25人	
3	8月28日	甕棺墓埋葬体験ワークショップ「弥生時代の棺 伊都国王のお葬式」	ミュージアムホール	1回	20人	
4	11月5日	ワークショップぺたぺたデコレーション ～貼花に挑戦！～	研修室	1回	10人	
5	11月12日	ワークショップ ぺたぺたデコレーション ～貼花に挑戦	研修室	1回	9人	
6	11月19日	特別展「ポンペイ」 子ども向けワークショップ～天然大理石のモザイクコースター～	研修室	1回	195人	

③その他の体験型プログラム　　12回　　1,322人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	8月1日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	福岡県庁	1回	60人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
2	9月21日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器・玩具体験、レプリカ触察体験）	春日市立日の出小学校	1回	60人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
3	10月3日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器・玩具体験、レプリカ触察体験）	大野城市立大野小学校放課後児童クラブ	1回	60人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
4	10月16日	きゅーはくきゃらばん（工作体験、民族楽器体験、レプリカ触察体験）	イオンモール筑紫野	1回	150人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
5	10月27日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器・玩具体験、レプリカ触察体験）	福岡市立百道小学校	1回	95人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
6	11月23日	暮らしをかえる「め」の機器展（レプリカ及び九博建築模型を触るプログラム）	福岡市市民福祉プラザ	1回	200人	
7	11月27日	みんなdeきゅーはくを楽しもう‼　視覚障がい者向けバックヤードツアー	研修室他	1回	25人	（同伴者を含む）
8	1月14日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器・玩具体験、レプリカ触察体験）	ソラリアプラザ	1回	450人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
9	2月27日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	筑紫野市立筑紫東小学校	1回	83人	
10	3月7日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	うきは市立千年小学校	1回	40人	
11	3月11日	外国人のための やさしい日本語で「 博物館の見学」	研修室他	1回	15人	
12	3月14日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	太宰府市立太宰府南小学校	1回	84人	

④児童生徒を対象とした展示　　0回　　0人

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　　0回　　0人

2)学校との連携事業　　81回　　5,500人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

35回　　1,862人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月18日	みやま市立東山中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード	1回	43人	
2	5月20日	久留米市立安武小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード（外回り）	1回	73人	
3	5月24日	太宰府市立太宰府中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード（外回り）	1回	130人	
4	5月31日	小郡市立小郡小学校	ミュージアムホール/特別展示室/	1回	126人	
5	6月3日	筑紫野市立天拝小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	55人	
6	6月16日	宗像市立玄海小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	20人	
7	6月17日	久留米市立青峰小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	12人	
8	6月22日	上毛町立西吉富小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	29人	
9	6月24日	大任町立今任小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室	1回	20人	
10	6月28日	大川市立川口小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード	1回	53人	

11	6月30日	添田町立添田小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード	1回	50人	
12	7月1日	福津市立福間中学校	研修室/文化交流展示室/和室/バックヤード	1回	6人	
13	7月12日	久留米市立櫛原中学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	67人	
14	9月1日	久留米市立西牟田小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	74人	
15	9月2日	大任町立大任小学校	研修室/文化交流展示室/バックヤード	1回	34人	
16	9月7日	柳川市立柳南中学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	64人	
17	9月8日	みやま市立山川中学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	49人	
18	9月15日	赤村立赤小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	42人	
19	9月16日	田川市立大藪小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	72人	
20	10月5日	赤村立赤中学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室	1回	34人	
21	10月12日	鞍手町立古月小学校	第１会議室/バックヤード/文化交流展示室	1回	19人	
22	10月14日	飯塚市立庄内中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード（外回り）	1回	101人	
23	11月1日	小郡市立立石小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室	1回	20人	
24	11月8日	広川町立広川中学校	研修室/文化交流展示室/和室/バックヤード	1回	21人	
25	11月17日	行橋市立中京中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード（外回り）	1回	99人	
26	11月18日	うきは市立吉井小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	48人	
27	11月22日	久留米市立柴刈小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室	1回	13人	
28	11月25日	久留米市立御井小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	77人	
29	11月30日	久留米市立長門石小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室	1回	93人	
30	12月1日	古賀市立古賀西小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/あじっぱ	1回	109人	
31	12月7日	大任町立大任中学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	54人	
32	1月20日	岡垣町立内浦小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	13人	
33	1月24日	久留米市立荘島小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	34人	
34	2月1日	久留米市三潴小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	75人	
35	2月28日	大刀洗町立大刀洗小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	33人	

②出前授業等

13回　　779人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月13日	ふくおか県政出前講座	福岡建設専門学校	1回	200人	
2	7月18日	福岡県手話通訳問題研究会研修会	クローバープラザ	1回	80人	
3	9月18日	出前講座「九州国立博物館の魅力とは」	ゆめさが大学唐津校	1回	47人	
4	11月17日	出前講座「九州国立博物館の魅力とは」	ゆめさが大学鳥栖校	1回	49人	
5	12月6日	出前講座「九州国立博物館の魅力とは」	ゆめさが大学佐賀校	1回	80人	
6	12月19日	文化交流展示室よりリモート授業	別府市立東山小学校 姫島存立姫島小学校	1回	20人	バックヤード、文化交流展示室よりリモート授業
7	1月10日	出前講座「九州国立博物館の魅力とは」	ゆめさが大学佐賀校	1回	80人	
8	1月17日	出前講座「九州国立博物館の魅力とは」	ゆめさが大学唐津校	1回	50人	
9	1月23日	文化交流展示室よりリモート授業	南種子町立南種子中学校	1回	40人	文化交流展示室よりリモート授業

10	1月26日	総合的な学習の時間「キャリア教育について」	太宰府市立太宰府東中学校	1回	40人	
11	1月30日	文化交流展示室よりリモート授業	西之表市立上西小学校	1回	7人	文化交流展示室よりリモート授業
12	2月6日	文化交流展示室よりリモート授業	中種子町立南界小学校	1回	11人	文化交流展示室よりリモート授業
13	3月17日	出前講座「九州国立博物館の魅力とは」	直方市立植木中学校	1回	75人	

③職場体験

0回　　0人

④教員を対象とした研修

2回　　97人

	開催日		開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月29日	福岡市教職員互助会	研修室	1回	66人	
2	8月23日	福岡市中学校社会科研究会	研修室	1回	31人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

31回　　2,762人

	開催日		開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～5年3月31日	学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し	―	30回	2,741人	計31パック
2	8月6日	全国高等学校歴史学フォーラム2022	研修室 ミュージアムホール	1回	21人	

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

1件　　2,500部

	名　　称	冊数	備　　考
1	まるわかりきゅーはく	2,500部	スクールプログラムでの来館学校団体及び出前授業の実施校

②音声ガイド　　―件　　―台

③その他メディア　　―件　　―回

1-(3)-①-4　大学生・大学院生を対象とした教育事業

令和5年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	インターンシップ	0 人	インターンシップ	3 人	インターンシップ	0 人	インターンシップ	0 人
	大学との連携講座	1 件 887 人	大学との連携講座	1 件 19 人	大学との連携講座	2 件 4 人	大学との連携講座	1 件 19 人
	見学対応	3 回 10 人	見学対応	3 回 31 人	見学対応	0 回 0 人	見学対応	1 回 13 人
	その他	0 回 0 人	その他	23 回 184 人	その他	3 回 138 人	その他	4 回 117 人

【東京国立博物館】

1)　インターンシップ　　0 人

受入期間			
受入部署			
参加者数	0 人	学校数	0 大学／　0 専門学校
担当研究員数	0 人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、インターンシップ受け入れは中止した。		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　887 人

期　　間	9月14日		
回　　数	1回		
開催場所	動画配信方式によるオンライン		
参加者数	887 人	学校数	61
担当研究員数	4 人		
事業内容	参加者希望者増加のため、キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館セミナー」は大講堂での対面から、動画配信に変更した。		

3)　見学対応　　3 回　　10 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	30 人	学校数	2 大学／　1 専門学校
担当研究員数	3人		
事業内容	対面及びオンラインでプログラムを実施し、参加学生は当日及び後日に自由見学した。		

4)　その他　　0 回　　0 人

【京都国立博物館】

1)　インターンシップ　　3 人

受入期間	8月8日～9月16日		
受入部署			
参加者数	3 人	学校数	3 大学／　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装潢師連盟の協力を得て、文化財修復に関わる加盟大学院生3名のインターンを文化財保存修理所にて受け入れた。12月3日にオンラインにて3名による報告会を行った。（出席者40名）		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　19 人

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館
受入人数	19 人
担当研究員数	5 人

3)　見学対応　　3 回　　31 人

期　　間	年間		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	31 人	学校数	3 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	・大阪大谷大学（5人）「歴史観光フィールドワーク」への協力 活動紹介：水谷亜希（主任研究員）口 ・鳥取大学大学院（3人）「博物館と社会の繋がり」をテーマとしたフィールドワークへの協力 質問対応：上杉智英（研究員）・水谷亜希（主任研究員） ・立命館大学（23人）名品ギャラリー展示に関する解説・見学 作品解説：永島明子・井並林太郎		

4)　その他　　23 回　　184 人

期　　間	5月18日、5月25日、6月1日、6月8日、6月29日、7月6日、7月20日、7月27日、8月31日、9月7日、9月21日、9月28日、10月5日、10月12日、10月19日、11月2日、11月9日、11月30日、12月7日、5年1月11日、1月25日		
回　　数	21 回		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	21 人	学校数	13 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	「文化財ソムリエに向けたスクーリング」 京都市内の小中学校で文化財の高精細複製品を用いた訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内及びその周辺の大学で日本文化等を専門に学ぶ大学生、大学院生。スクーリングでは、教材となる文化財の取り扱い方法や作品の専門的な知識について当館の研究員が解説をした。また、授業案の作成では文化財ソムリエ同士の主体的な議論を促し、必要に応じて助言をした。		

期　　間	5月7日、8月9日		
回　　数	2 回		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	163 人	学校数	34 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	京都国立博物館キャンパスメンバーズ会員校の学生・教職員を対象とした特別展「最澄と天台宗のすべて」、特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺」にかかる講演会を実施した。		

【奈良国立博物館】

1)　インターンシップ　　0 人

2)　大学等との連携講座　　2 件　　4 人

内　　容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施日	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
受入人数	2 人　（前期2人、後期0人）
担当研究員数	1 人

内　　容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座
実施日	通年
開催場所	奈良国立博物館
受入人数	2 人
担当研究員数	2 人

3)　見学対応　　0 回　　0 人

4) その他　　3 回　　138 人

期　　間	4月28日、7月28日、12月22日		
回　　数	3 回		
開催場所	奈良国立博物館		
参加者数	138 人	学校数	12 大学／　　1 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生・教職員を対象とした講演会を、特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」、「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」、「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」において実施した。		

【九州国立博物館】

1) インターンシップ　　0 人

2) 大学等との連携講座　　1 件　　19 人

内　　容	放送大学の面接授業
実施日	11月24日、25日
開催場所	九州国立博物館研修室
受入人数	19人
担当研究員数	8人

3) 見学対応　　1 回　　13 人

期　　間	6月5日		
開催場所	九州国立博物館		
参加者数	13 人	学校数	大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	「博物館実習」学外見学実習		

4) その他　　4 回　　117 人

期　　間	8月16日、17日、18日、19日、21日、22日（6日間）		
回　　数	1回		
開催場所	全館		
参加者数	14 人	学校数	10 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	博物館実習		

期　　間	11月15日～11月20日		
回　　数	1回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス		
参加者数	－人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	九州産業大学「撮る博物館」展示		

期　　間	5年2月14日～2月19日		
回　　数	1回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス		
参加者数	－人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	－人		
事業内容	九州女子大学　第55回卒業書作展		

期　　間	7月8日		
回　　数	1回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	103 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	－　　人		
事業内容	カフェコンサート		

1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ

令和5年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
61校	34校（※）	27校（※）	22校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入23校

【東京国立博物館】

① 加入校数（61校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	11,148人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,195人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学、 文化学園大学短期大学部、文化ファッション大学院大学、文化服装学院、文化外国語専門学校）	8,668人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	5,990人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,832人	20年4月1日	
6	東京大学	35,085人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,329人	20年4月1日	
8	大正大学	5,322人	20年4月1日	
9	東海大学	30,970人	20年4月1日	
10	青山学院大学・青山学院女子短期大学	21,447人	20年4月1日	
11	メイ・ウシヤマ学園（ハリウッド大学院大学、ハリウッド美容専門学校）	575人	20年4月1日	
12	多摩美術大学	5,500人	20年4月1日	
13	立教大学	22,815人	20年4月1日	
14	東京都立大学	9,708人	20年4月1日	
15	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,973人	20年4月1日	
16	東京造形大学	1,988人	20年4月1日	
17	法政大学	38,379人	20年4月1日	
18	筑波大学	20,104人	20年4月1日	
19	昭和女子大学	6,595人	20年4月1日	
20	実践女子大学・実践女子短期大学	4,860人	20年5月1日	
21	東洋大学	33,274人	20年6月1日	
22	東洋美術学校	1,246人	20年6月1日	
23	日本大学（芸術学部・芸術学研究科）	4,700人	20年6月1日	
24	文教大学	9,054人	20年7月1日	
25	上智学院（上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校）	15,869人	20年10月1日	
26	国際基督教大学	3,428人	21年4月1日	
27	学習院女子大学	1,800人	21年11月1日	
28	獨協大学	8405人	22年4月1日	
29	学習院大学	10,320人	22年4月1日	
30	東京工業大学	12,514人	22年7月1日	
31	日本女子大学	8,396人	23年4月1日	
32	二松学舎大学	3,384人	23年5月1日	
33	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	7,594人	23年6月1日	
34	神奈川大学	19,336人	24年6月1日	
35	日本工業大学	4,517人	24年7月1日	
36	東京女子大学	4,299人	24年8月1日	
37	中央大学（文学部・文学研究科）	4,208人	25年6月1日	
38	麗澤大学	2,779人	25年6月1日	
39	慶応義塾大学	45,059人	25年8月1日	
40	共立女子大学・共立女子短期大学	6,310人	26年4月1日	
41	成城大学（文芸学部・文学研究科）	1,730人	26年4月1日	
42	日本文化大學	1,058人	27年4月1日	
43	鶴見大学（文学部・文学研究科）	1,429人	27年5月1日	
44	十文字学園女子大学	4,282人	27年6月1日	
45	早稲田大学	51,347人	27年6月1日	
46	横浜国立大学	10,185人	28年4月1日	
47	國學院大學・國學院大學北海道短期大学部	11,657人	28年4月1日	
48	聖心女子大学	2,810人	28年5月1日	
49	津田塾大学	3,813人	29年8月1日	
50	清泉女子大学	2,141人	29年10月1日	
51	立正大学（文学部）	2,237人	30年4月1日	
52	東京国際大学・東京国際大学付属日本語学校	6,737人	30年4月1日	
53	明治大学（文学部・文学研究科）	36,123人	30年5月1日	
54	大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部	8,313人	31年4月1日	
55	宝塚大学	1,155人	元年5月29日	
56	東京理科大学	20,918人	2年4月1日	
57	駒澤大学	15,348人	2年8月1日	
58	中央学院大学	3,424人	3年4月1日	
59	東京家政学院大学	1,730人	4年7月25日	
60	日本体育大学	7,947人	4年8月1日	
61	東京女子医科大学	3,461人	4年11月1日	

※キャンパスメンバーズ対象人数が学生＋教職員数のため、学生数には教職員の人数も含む。

【京都国立博物館】

①　加入校数（34校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	学校法人　瓜生山学園	16,513人	18年6月1日	京博のみ	
2	帝塚山大学	3,645人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
3	奈良女子大学	2,674人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
4	嵯峨美術大学、嵯峨美術短期大学	1,118人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
5	学校法人　京都女子学園	6,821人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
6	京都精華大学	3,803人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
7	京都橘大学	6,779人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
8	龍谷大学	20,263人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
9	成安造形大学	931人	18年8月1日	京博のみ	
10	京都大学	23,099人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
11	近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科	2,165人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
12	花園大学	1,682人	18年11月1日	京博のみ	
13	大谷大学	3,344人	18年12月1日	京博のみ	
14	佛教大学	13,853人	19年4月1日	奈良博との共通加入	
15	京都工芸繊維大学	3,959人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
16	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	37,978人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
17	奈良大学	4,113人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
18	奈良先端科学技術大学院大学	1,127人	19年12月1日	奈良博との共通加入	
19	就実大学 人文科学部	984人	20年4月1日	奈良博との共通加入	
20	京都市立芸術大学	1,106人	20年8月1日	京博のみ	
21	大阪大学、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	25,496人	20年12月1日	奈良博との共通加入	
22	京都外国語大学　京都外国語大学短期大学	6,195 人	21 年 8 月 1 日	奈良博との共通加入	
23	学校法人　関西大学（関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部）	32,488人	23年6月1日	奈良博との共通加入	
24	京都府立大学	2,202人	23年7月1日	京博のみ	
25	学校法人　京都産業大学	16,218人	24年8月1日	京博のみ	
26	学校法人　立命館	36,979人	26年4月1日	奈良博との共通加入	
27	学校法人　二本松学院	3,354人	29年4月1日	京博のみ	
28	四天王寺大学 人文社会学部	2,827人	29年5月1日	奈良博との共通加入	
29	学校法人　関西学院	27,214人	30年4月1日	奈良博との共通加入	
30	大手前大学	3,728人	30年6月1日	京博のみ	
31	大阪大谷大学	2,930人	30年11月1日	奈良博との共通加入	
32	滋賀大学	3,722人	2年4月1日	京博のみ	
33	追手門学院大学　文学部・国際教養学部	3,812人	4年6月1日	奈良博との共通加入	
34	京都先端科学大学　人文学部・人間文化研究科	701人	4年6月1日	京博のみ	

【奈良国立博物館】

①加入校数（27校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良教育大学	1,255人	18年4月4日	奈良博のみ	
2	帝塚山大学	3,645人	18 年 5 月 8 日	京博との2館併用	
3	奈良女子大学	2,674人	18年5月15日	京博との 2 館併用	
4	嵯峨美術大学、嵯峨美術短期大学	1,118人	18年6月9日	京博との 2 館併用	
5	京都精華大学	3,803人	18年6月28日	京博との 2 館併用	
6	京都橘大学	6,779人	18年6月30日	京博との 2 館併用	
7	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	20,662人	18年6月30日	京博との 2 館併用	
8	京都大学	23,099人	18年8月22日	京博との 2 館併用	
9	近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科	2,165人	18年8月24日	京博との 2 館併用	
10	佛教大学	13,853人	19年4月1日	京博との 2 館併用	
11	奈良大学	4,113人	19 年 5 月 2 日	京博との 2 館併用	
12	京都工芸繊維大学	3,959人	19年6月1日	京博との 2 館併用	
13	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	37,978人	19年6月1日	京博との 2 館併用	
14	奈良先端科学技術大学院大学	1,127人	19年11月7日	京博との 2 館併用	
15	就実大学　人文科学部	984人	20年4月1日	京博との 2 館併用	
16	天理大学	3,013人	20 年 7 月 1 日	奈良博のみ	
17	大阪大学、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	25,496人	20年12月1日	京博との 2 館併用	
18	京都外国語大学、京都外国語短期大学	6,195人	21年8月1日	京博との 2 館併用	
19	学校法人　関西大学（関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部）	32,488人	23年6月1日	京博との 2 館併用	
20	奈良工業高等専門学校	1,111人	23年7月1日	奈良博のみ	
21	学校法人　立命館	36,979人	26年4月1日	京博との 2 館併用	
22	京都女子大学	6,821人	29年4月1日	京博との 2 館併用	
23	四天王寺大学　人文・社会学部	2,827人	29年5月1日	京博との 2 館併用	
24	学校法人　関西学院	27,214人	30年4月1日	京博との 2 館併用	
25	大阪大谷大学	2,930人	30年11月1日	京博との 2 館併用	
26	奈良県立大学	634人	2年6月1日	奈良博のみ	
27	追手門学院大学　文学部・国際教養学部	1,268人	4年6月1日	京博との 2 館併用	

【九州国立博物館】

① 加入校数（22校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	10,634人	19年4月1日	
2	久留米大学	7,219人	19年4月1日	
3	筑紫女学園大学	2,850人	19年4月1日	
4	福岡教育大学	2,826人	19年4月1日	
5	福岡大学	20,119人	19年4月1日	
6	九州産業大学造形短期大学部	308人	19年4月1日	
7	福岡女子短期大学	332人	19年4月1日	
8	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	129人	19年4月1日	
9	久留米大学附設高等学校	621人	19年4月1日	
10	筑紫女学園高等学校	1,254人	19年4月1日	
11	筑紫台高等学校	1,407人	19年4月1日	
12	福岡大学附属大濠高等学校	1,918人	19年4月1日	
13	福岡大学附属若葉高等学校	888人	19年4月1日	
14	放送大学福岡学習センター	2,624人	19年5月1日	
15	九州大学	18,973人	20年5月1日	
16	九州情報大学	490人	21年4月1日	
17	日本経済大学（福岡キャンパス）	2,421人	21年5月1日	
18	第一薬科大学	1,017人	27年4月1日	
19	福岡工業大学	4,452人	2年10月1日	
20	福岡工業大学短期大学部	374人	2年10月1日	
21	福岡工業大学附属城東高等学校	1,992人	2年10月1日	
22	福岡女子大学	1,096人	24年4月1日	30年一時退会、3年4月再入会

1-(3)-①-6 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 10 月 1 日（土）	○来館者数　2,223 人 　留学生　　59 人《0 人（中止）》 ・寄席イベント「トーハク笑楽座」を実施 ・博物館内のアジアに関わる樹木を紹介する樹木ツアー	・留学生アンケートは未実施
京都国立博物館 1 月 9 日(月・祝) 9：30～17：00	○来館者数　1,222 人《569 人》 　留学生　　78 人《45 人》 ・名品ギャラリー（平常展示）観覧料無料 ・同日開催の新春イベント「芸舞妓　春の舞」の優先予約	・留学生アンケート回答者数 6 人 （回収率 8%） ・来館頻度：来たことがある 33% ・「留学生の日」参加：初めて 100% ・認知経路：ポスター・チラシを見て 17%、HP を見て 50%、チラシをもらって 0%、友人・教師 0%　他 33% ・展示内容:とても良かった 50%、良かった 50%、普通以下 0% ・出身国：日本 17%、中国 50%、アメリカ 17%
奈良国立博物館 11 月 26 日(土) 9：30～17:00	○来館者数　　375 人《530 人》 （なら仏像館 360 人＋イベント 15 人） 　留学生　　25 人《31 人》 （なら仏像館 12 人＋イベント 13 人） ・「名品展」の無料観覧 ・留学生の日関連イベント「書画作品に挑戦しよう！」を実施	・関連イベント留学生アンケート回答者数 13 人（回収率 100%） ・来館頻度：来たことがある 33% ・認知経路：チラシ 15%、友人・教師 15%、大学からの紹介 46%、その他 24% ・出身国：中国 4、マレーシア 3、台湾、バングラディシュ、ベトナム、イギリス、ドイツ、チェコ各 1
九州国立博物館 11 月 3 日(木・祝) 9：30～17：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　3,190 人《1,284 人》 令和 4 年度留学生イベント 「茶道体験×バックヤードツアー」 参加者 20 人 ※同伴者のカウントはなし ※特別展「ポンペイ」観覧者は含まない ・文化交流展（平常展）のみ無料観覧	・留学生アンケート回答者数 22 人 ・出身国：アメリカ 9 人、中国 7 人、ドイツ 2 人、台湾 1 人、韓国 1 人、イギリス 1 人、シリア 1 人 ・来館回数：1 回 9 人、2 回 7 人、3 回 3 人、4 回 2 人、5 回以上 1 人 ・認知経路（複数回答）：ポスター・チラシ 7 人、学校（教師）から 2 人、友人から 10 人、ホームページ 3 人、観光ガイドブック 4 人、留学生イベントをきっかけに知った 8 人、テレビ・雑誌 4 人、観光ガイド・案内所 6 人、SNS 等 4 人、その他 3 人 ※アンケートは、留学生イベント参加者（20 人）と交流展来館者（2 人）から回収。

＊来館者数、参加者数等：《　　》内は令和 3 年度

1-(3)-①-7　ボランティア受入実績　　（後述の資料に記載）◎共通資料b

1-(3)-①-8 友の会・メンバーズパス等

1) 会員数

友の会　　令和5年3月31日現在

区分 / 館名	友の会会員数	(参考) 年会費
東京国立博物館	9,335 人	7,000 円
九州国立博物館	68 人	7,500 円

メンバーズプレミアムパス　　令和5年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	会員数	一般 (3,800 円)	一般 (3,500 円)	学生 (2,500 円)
奈良国立博物館 (奈良博プレミアムカード)	2,013 人	−	2,013 人	−
九州国立博物館	3,943 人	2,247 人	−	1,696 人

国立博物館メンバーズパス（4館共通）　　令和5年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	会員数	一般 (2,500 円)	学生 (1,200 円)
東京国立博物館	4,618 人	4,361 人	257 人
京都国立博物館	339 人	329 人	10 人
奈良国立博物館	63 人	55 人	8 人
九州国立博物館	25 人	23 人	2 人

2)各種会員を対象とした事業

友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

特別展無料観覧券3枚贈呈、ミュージアムシアター無料観覧券1枚贈呈、当館ミュージアムショップ・レストラン・カフェでの割引。

【九州国立博物館】

当館特別展観覧券6枚贈呈、季刊情報誌「アジアージュ」、特別展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

メンバーズプレミアムパスを対象とした事業

【奈良国立博物館】（奈良博プレミアムカード）

①当館特別展の無料観覧（計4回まで、うち同一展は2回まで）
②当館名品展（平常展）の無料観覧
③機構内他館特別展の団体料金観覧
④機構内他館平常展の無料観覧
⑤『奈良国立博物館だより』（年4回）の送付
⑥『奈良国立博物館展示案内』（年1回）の送付
⑦当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑧当館レストランでの飲食料金の割引
⑨近隣他館の入館料金割引または無料
⑩当館研究員による解説付きの別鑑賞会を実施

・5月11日（水）　特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」
　特別鑑賞会　参加人数　75人
・7月29日（金）　貞享本當麻曼荼羅修理完成記念特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」
　特別鑑賞会　参加人数　79人
・11月4日（金）　特別展「第74回正倉院展」
　特別鑑賞会　参加人数　88人
・12月21日（水）　式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」
　特別鑑賞会　参加人数84人

【九州国立博物館】

①当館特別展の無料観覧（計4回まで、うち同一展は2回まで）
②当館平常展の無料観覧

1-(3)-①-9 賛助会

1) 会員数

令和5年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館	九州国立博物館
		（一般社団法人 清風会）	（ﾐｭｰｼﾞｱﾑ・ﾊﾟｰﾄﾅｰ）		
件数	608件	510件	6件	127件	55件
内訳	ﾌﾟﾗﾁﾅ会員（個人）:9人 ｺﾞｰﾙﾄﾞ会員（個人）:53人 ｼﾙﾊﾞｰ会員（個人）:481人 ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（団体）:1団体 特別会員（団体）:19団体 維持会員（団体）:45団体	賛助会員（団体）:28団体 特別会員（団体）:25団体 特別会員（個人）:40人 普通会員（団体）:21団体 普通会員（個人）:396人	団体会員:5 件 個人会員:1 件	特別支援会員:2団体 特別会員:7団体 一般会員（団体）:15団体 一般会員（個人）:103人	特別会員（個人）:5人 維持会員（個人）:29人 ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（団体）:1団体 特別会員（団体）:2団体 維持会員（団体）:18団体

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

①当館総合文化展、特別展（シルバー会員以外）の無料観覧
②各特別展開会式・内覧会へのご招待
③賛助会感謝デーへのご招待
④『東京国立博物館ニュース』（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】

①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

①当館名品展（平常展）、特別展の無料観覧
②各特別展開会式（内覧会）へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④『奈良国立博物館だより』（年4回）の送付
⑤当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑥当館レストランでの飲食料金の割引
⑦当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
・5月10日（火）　特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」
特別鑑賞会　参加人数　40人
・8月3日（水）　貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」
特別鑑賞会　参加人数　39人
・11月4日（金）　特別展「第74回正倉院展」
特別鑑賞会　参加人数　72人
・12月16日（金）　式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」
特別鑑賞会　参加人数　36人

【九州国立博物館】

①当館文化交流展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待（3年度は新型コロナウイルスの影響により特別鑑賞会中止。代わりに日時指定のない招待券を送付）
④特別展図録の贈呈
⑤季刊情報誌『アジアージュ』（年4回）の配布
⑥当館駐車場無料利用
⑦当館施設利用料割引
⑧当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

1-(3)-①-10 渉外活動

令和 5 年 3 月 31 日現在

【東京国立博物館】

1) 会場提供　3 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
1	10 月 2～5 日	展示会	台東区主催によるイベント（伝統工芸職人展）	平成館ラウンジ	1,826	
2	11 月 26 日	イベント	ミミ・ゲイツ氏記念講演会	平成館大講堂	380	主催：齋藤財団
3	3 月 24 日～4 月 9 日	イベント	Daiwa Sakura Aid 写真展	平成館ラウンジ	―	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業

2) 館主催・協力イベント　37 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
1	4 月 7 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2022「東博でバッハ vol.57」小暮浩史	法隆寺宝物館	71	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
2	4 月 14 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2022「東博でバッハ vol.58」三浦謙司	平成館ラウンジ	134	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
3	4 月 24 日	イベント	キッズデー「トーハク笑楽座」	平成館大講堂	186	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
4	5 月 22 日	イベント	キッズデー「トーハク笑楽座」	東洋館	199	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
5	6 月 26 日	イベント	キッズデー「トーハク笑楽座」	平成館大講堂	270	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
6	7 月 9 日	音楽会	東京国立博物館　初夏のコンサート	平成館ラウンジ	110	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
7	7 月 20～22 日	イベント	無料観覧日 落語会「トーハク笑楽座」	平成館大講堂	1,005	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
8	7 月 23 日	イベント	無料観覧日「笑おう！楽しもう！こども落語体験」	平成館大講堂	234	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
9	7 月 24 日	イベント	キッズデー「トーハク笑楽座」、「ファミリーコンサート」、「初めてのお茶体験」	平成館大講堂 平成館ラウンジ	1,190	主催：東京国立博物館、落語芸術協会、伊藤園
10	8 月 28 日	イベント	キッズデー「笑おう！楽しもう！こども落語体験」	平成館大講堂	174	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
11	9 月 25 日	イベント	キッズデー「トーハク笑楽座」、「ファミリーコンサート」	平成館大講堂	654	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
12	9 月 28 日	音楽会	Music Program TOKYO まちなかコンサート	本館大階段	425	主催：東京文化会館 共催：東京国立博物館
13	10 月 1 日	イベント	留学生の日「トーハク笑楽座」	みどりのライオン	182	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
14	10 月 8 日	音楽会	東京国立博物館　秋のコンサート	平成館ラウンジ	115	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
15	10 月 22 日	講演会	「味わう国宝　和菓子」	平成館大講堂	259	主催：株式会社虎屋 協力：東京国立博物館
16	10 月 23 日	イベント	キッズデー「笑おう！楽しもう！こども落語体験」	平成館大講堂	227	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
17	11 月 2～5 日	イベント	創エネ・あかりパーク 2022 に伴うライトアップ	本館前庭	―	主催：「創エネ・あかりパーク 2022」実行委員会 協力：東京国立博物館
18	11 月 5～6 日	音楽会	Daiwa Sakura Aid コンサート	本館前特設ステージ	933	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業
19	11 月 8 日	イベント	バンク・オブ・アメリカ「文化財保護プロジェクト」に係る内覧会	平成館	200	主催：ＢＯＡ 協力：東京国立博物館
20	11 月 20 日	イベント	特別企画「漫才の DENDO 」	平成館大講堂	254	主催：吉本興業株式会社 協力：東京国立博物館
21	11 月 20 日	イベント	特別企画「よしもと放課後クラブ漫才ワークショップ」	平成館大講堂	18	主催：吉本興業株式会社 協力：東京国立博物館
22	11 月 23 日	イベント	ミニチュアポニー 馬事イベントデー～お馬さんとのふれあい体験～	本館前庭	―	主催：JRA 協力：東京国立博物館
23	11 月 27 日	イベント	キッズデー「トーハク笑楽座」	平成館大講堂	450	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
24	12 月 17 日	音楽会	東京国立博物館　クリスマスコンサート	平成館ラウンジ	111	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
25	12 月 25 日	イベント	キッズデー「笑おう！楽しもう！こども落語体験」	平成館大講堂	271	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
26	1 月 3 日	イベント	トーハクで初笑い！笑おう！楽しもう！初春こども落語体験＆落語会	平成館大講堂	284	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
27	1 月 9 日	イベント	新春東博寄席 2023	平成館大講堂	192	主催：東京国立博物館
28	1 月 12 日	イベント	トーハク 150 周年 × au Design project20 周年記念トークイベント「150 年後のデザイン」	応挙館	35	主催：KDDI 株式会社 協力：東京国立博物館
29	1 月 13 日	講演会	しょうゆ再発見 意外と知らないしょうゆの話	平成館大講堂	72	主催：キッコーマン国際食文化研究センター 協力：東京国立博物館
30	1 月 21、22、28、29 日	イベント	『恐竜をつくって知ろう！プラノサウルス組立体験会』	平成館ラウンジ	4,192	主催：株式会社 BANDAI SPIRITS 協力：東京国立博物館
31	1 月 22 日	イベント	キッズデー「笑おう！楽しもう！こども落語体験」	平成館大講堂	352	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
32	2 月 5 日	イベント	笑おう！楽しもう！こども落語体験＆落語会	平成館大講堂	177	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
33	2 月 12 日	イベント	笑おう！楽しもう！こども落語体験＆落語会	平成館大講堂	250	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
34	2 月 26 日	イベント	キッズデー「笑おう！楽しもう！こども落語体験」	平成館大講堂	459	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
35	3 月 22 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2023「東博でバッハ vol.59」周防亮介	法隆寺宝物館	104	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
36	3 月 23 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2023「東博でバッハ vol.60」周防亮介	法隆寺宝物館	98	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
37	3 月 29 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2023「東博でバッハ vol.61」徳永真一朗	法隆寺宝物館	108	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館

【京都国立博物館】

1）会場提供　　72 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 4 日	研修会	会場運営スタッフ「最澄と天台宗のすべて」展研修	会議室１・研修室	40	
2	4 月 15 日	研修会	国宝修理装潢師連盟　修理技術者資格制度　新任者研修会	研修室・会議室１	13	
3	4 月 16 日	茶席	茶道教室	茶室	3	
4	4 月 17 日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	100	
5	4 月 18 日	講演会	鑑賞会「最澄と天台宗のすべて」	講堂	100	
6	4 月 29 日	講演会	仏教美術研究上野記念財団研究発表と座談会	講堂	100	
7	4 月 30 日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	100	
8	5 月 7 日	茶席	茶会	茶室	15	
9	5 月 9 日	鑑賞会	休館日特別内覧会	平成知新館展示室、講堂、接客室１	100	
10	5 月 13 日	研修会	国宝修理装潢師連盟　修理技術者資格制度　登録審査	研修室・会議室１・会議室２	10	
11	5 月 21 日	茶席	茶道教室	茶室	3	
12	5 月 21 日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	100	
13	5 月 29 日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	100	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
14	5月29日	茶席	お茶会	茶室	40	
15	6月25日	茶席	茶道教室	茶室	3	
16	6月27日	講演会	第６０回定時総会並びに鑑賞会	講堂	100	
17	7月11日～7月18日	イベント	Gucci High Jewelry & High Watch Making Event	明治古都館、技術資料参考館、敷地	129	
18	7月16日	茶席	茶道教室	茶室	4	
19	7月22日	研修会	講習会	会議室１	22	
20	7月26日	茶席	茶道のお稽古	茶室	20	
21	7月31日～8月5日	研修会	指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー	会議室１	20	
22	8月8日	講演会	鑑賞会　特別展「観心寺と金剛寺」	講堂	100	
23	8月20日	茶席	茶道教室	茶室	4	
24	9月5日	研修会	修理技術者資格制度　第２回試験準備委員会	会議室１	9	
25	9月13日～19日	イベント	海外ブランド展示会（ラルフ･ローレン）	明治古都館、技術資料参考館	569	
26	9月14日	研修会	DACグループ上級管理職研修会	講堂	100	
27	9月17日	茶席	茶道教室	茶室	4	
28	9月25日	茶席	茶道体験	茶室	45	
29	9月26日	研修会	「茶の湯展」看視スタッフ研修	会議室１	30	
30	10月1日	茶席	茶道教室	茶室	4	
31	10月3日	研修会	「茶の湯展」集札スタッフ研修	研修室	10	
32	10月5日	茶席	座談会	茶室	15	
33	10月11日	鑑賞会	休館日特別内覧会	平成知新館展示室、接客室１	100	
34	10月16日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	80	
35	10月16日	茶席	茶道練習会	茶室	10	
36	10月17日	講演会	鑑賞会　特別展「茶の湯」	講堂	100	
37	10月17日	鑑賞会	休館日特別内覧会	平成知新館展示室、講堂、接客室１	100	
38	10月21日	研修会	修理技術者資格制度　主任技師／技師長第１次試験	会議室１・会議室２・研修室	24	
39	10月29日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	100	
40	10月30日	研修会	お点前見学と和室の作法体験（授業）	茶室	10	
41	10月31日	鑑賞会	休館日特別内覧会	平成知新館展示室、接客室１	1000	
42	11月3日	茶席	茶会の開催	茶室	100	
43	11月5日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	80	
44	11月21日	イベント	学生に向けた落語会の開催	講堂	100	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
45	11 月 23 日	講演会	日本と世界の五穀豊穣をお祝いする講演会	講堂	100	
46	11 月 24 日	研修会	研修として聴講及び展覧会の観覧	講堂	50	
47	11 月 25 日～11 月 26 日	研修会	修理技術者資格制度　初級講習会	会議室１・会議室２	18	
48	11 月 26 日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	80	
49	11 月 30 日	研修会	修理技術者資格制度　主任技師／技師長第２次試験	会議室１・会議室２・研修室	24	
50	12 月 10 日	茶席	脳波茶会	茶室	13	
51	12 月 17 日	茶席	茶道教室	茶室	4	
52	12 月 22 日	茶席	訪日旅行者（アメリカ）のお茶席体験	茶室	7	
53	12 月 23 日	研修会	社内研修	研修室	15	
54	12 月 24 日	演奏会	ピアノ発表会	講堂（講堂控室含む）	100	
55	12 月 24 日	茶席	茶会	茶室	20	
56	12 月 25 日	茶席	茶道練習会	茶室	10	
57	12 月 5 日～12 月 26 日	イベント	ひかりと食のアンサンブル	明治古都館前広場・噴水広場、表門前広場	50000	
58	1 月 2 日	講演会	小学館『若冲の声を聴け　狩野博幸美術論集成』発刊記念文化講演会	講堂（講堂控室含む）	210	
59	1 月 11 日	茶席	茶道教室	茶室	4	
60	2 月 6 日、2 月 13 日、2 月 20 日、2 月 21 日、2 月 22 日	演奏会	京都女子大学大学院発達教育学研究科表現文化専攻令和 4 年修士研究発表会のため	講堂（講堂控室含む）	60	
61	2 月 18 日	茶席	茶道教室	茶室	4	
62	3 月 5 日	コンサート	第 2 回恵の会　コンサート	講堂（講堂控室含む）	120	
63	3 月 7 日	会議	「調査研究事業案」と「研究給付金応募者選考」等の審議のため	研修室	9	
64	3 月 13 日	研修会	親鸞展研修	講堂（講堂控室含む）	30	
65	3 月 18 日	茶席	茶道の会	茶室	4	
66	3 月 20 日	研修会	親鸞展研修	講堂（講堂控室含む）	15	
67	3 月 23 日	理事会	財団「第２回理事会」及び「第２回評議員会」開催	講堂（講堂控室含む）	13	
68	3 月 23 日	理事会	財団評議員ウェブ会議のため	講堂（講堂控室含む）	1	
69	3 月 25 日	茶席	お茶会	茶室	10	
70	3 月 23 日	理事会	財団評議員ウェブ会議のため	講堂（講堂控室含む）	1	
71	3 月 25 日	茶席	お茶会	茶室	10	
72	3 月 27 日	鑑賞会	休館日の浄土真宗ご門徒向け観覧ならびに主催者会員向け内覧のため	平成知新館展示室、接客室 2	300	

2) 館主催・協力イベント　15 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 17 日	コンサート	コンサート	講堂・接客室 1	96	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
2	5 月 7 日	講演会	特別展「最澄と天台宗のすべて」キャンパスメンバーズ講演会	講堂	82	主催：京都国立博物館
3	5 月 20 日	イベント	京都・らくご博物館【春】～新緑寄席～ Vol.62	講堂	75	主催：京都国立博物館 製作協力：米朝事務所
4	8 月 9 日	講演会	特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺」キャンパスメンバーズ講演会	講堂	102	主催：京都国立博物館
5	8 月 21 日	コンサート	コンサート	講堂・接客室 1	96	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
6	8 月 26 日	イベント	京都・らくご博物館【夏】～納涼寄席～ Vol.63	講堂	61	主催：京都国立博物館 製作協力：米朝事務所
7	9 月 10 日、11 日	イベント	夏の一絃琴演奏会	茶室	39	主催：京都国立博物館
8	11 月 5 日、6 日	イベント	秋の京博茶会	茶室	120	主催：京都国立博物館
9	11 月 18 日	イベント	京都・らくご博物館【秋】～錦秋寄席～ Vol.64	講堂	83	主催：京都国立博物館 製作協力：米朝事務所
10	12 月 4 日	コンサート	コンサート	講堂・接客室 1	96	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
11	1 月 9 日	イベント	芸舞妓　春の舞	講堂	280	主催：京都国立博物館
12	1 月 15 日	イベント	八坂神社　祇園獅子舞	講堂	259	主催：京都国立博物館
13	1 月 9 日	イベント	留学生の日	講堂	78	主催：京都国立博物館
14	2 月 10 日	イベント	京都・らくご博物館【冬】～早春寄席～ Vol.65	講堂	47	主催：京都国立博物館 製作協力：米朝事務所
15	2 月 26 日	コンサート	春のクラシックコンサート	講堂	242	主催：京都国立博物館 協力：京都市立芸術大学

【奈良国立博物館】

1) 会場提供　55 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 2 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）トライアングル
2	4 月 5 日	撮影	ウェディングフォト	茶室・庭園	－	（株）スタジオゼロ
3	4 月 6 日	撮影	ウェディングフォト	茶室・庭園	－	（株）スタジオゼロ
4	4 月 6 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）トライアングル
5	4 月 10 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）トライアングル
6	4 月 15 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
7	4 月 28 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）トライアングル
8	5 月 19 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
9	5 月 26 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
10	6 月 6 日	撮影	ウェディングフォト	仏教美術資料研究センター	－	（株）スタジオゼロ
11	6 月 12 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
12	6 月 19 日	展示会	ロールス・ロイス　ツーリングイベント	敷地内	－	（株）ツーアンドフォー
13	6 月 27 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオ TVB

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
14	7月18日	講演会	「中将姫物語」を聞く会	講堂	－	（一社）なら文化交流機構
15	8月5日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
16	8月11日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	オーシャンフロント
17	8月12日、13日	コンサート	音燈華コンサート	庭園	448	寧屋舎中合同会社
18	9月17日、18日	コンサート	春日野音楽祭	敷地内	－	春日野音楽祭実行委員会
19	9月22日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオTVB
20	10月1日	祭礼	氷室神社渡御	敷地内	－	氷室神社
21	10月20日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）トライアングル
22	11月4日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	ジャパンクリエイト（株）
23	11月7日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	JWマリオットホテル奈良
24	11月13日	講演会	「スペインの魅力発信講演会」	講堂	70	奈良市
25	11月15日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオTVB
26	11月15日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオTVB
27	11月17日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオTVB
28	11月20日	講演会	行基記念シンポジウム	仏教美術資料研究センター	150	（株）リード
29	11月20日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
30	11月23日	講演会	ミミ・ガートナー・ゲイツ博士来日記念講演	講堂	80	米国斎藤財団
31	11月24日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオTVB
32	11月26日	撮影	ウェディングフォト	茶室・庭園	－	（株）スタジオゼロ
33	11月27日	コンサート	大地の響きコンサート	仏教美術資料研究センター	130	ピアノで奈良を奏でる会
34	11月27日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
35	12月4日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
36	12月11日	イベント	奈良マラソン	敷地内	－	奈良マラソン実行委員会
37	12月12日	撮影	ウェディングフォト	茶室・庭園	－	（株）スタジオゼロ
38	12月17日	祭礼	春日若宮おん祭	敷地内	－	春日大社
39	12月19日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	ブライダルソラ
40	12月24日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	個人
41	1月26日	シンポジウム	文化財防災ゼミナール	講堂	88	奈良市消防局
42	2月1日	茶会	学茶会	茶室・庭園	20	奈良市生涯学習財団自主クラブ
43	2月2日	シンポジウム	持続可能なまちづくりと無形文化遺産文化遺産第一回国際シンポジウム	講堂	25	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
44	2月2日、6日、7日、13日	セミナー	キャリアコンサルティングセミナー	応接室	9	（株）文化財保存
45	2月5日、6日	茶会	珠光茶会	茶室・庭園	60	珠光茶会実行委員会
46	2月10日、11日	イベント	奈良博寄席	講堂・会議室	98	(公社)落語芸術協会
47	2月18日	イベント	こども撮影会	関野ホール	－	シャーロットの部屋
48	2月25日	イベント	Lamborghini Giro Japan 2023	敷地内	－	（株）ツーアンドフォー

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
49	3 月 11 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオ TVB
50	3 月 13 日	イベント	小浜市お水取り親善使節団	講堂	10	奈良市
51	3 月 23 日	撮影	卒業記念撮影	敷地内	－	個人
52	3 月 26 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
53	3 月 26 日	イベント	見学会	講堂・茶室・庭園	－	（公社）日本建築家協会
54	3 月 29 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオ TVB
55	3 月 31 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ

2）館主催・協力イベント　　23 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 23 日	イベント	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「らくご男子落語会　恋バナ編」	講堂	75	
2	4 月 30 日	イベント	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「重文で朝ヨガ・呼吸法体験！～ならはくでととのいませんか？～」	仏教美術資料研究センター	27	
3	5 月 5 日	イベント	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連　親子向けワークショップ「小花もようのかざりタイルをつくろう！」	地下回廊	24	
4	5 月 8 日	鑑賞会	奈良国立博物館「大安寺のすべて ―天平のみほとけと祈り―」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	23,417	
5	5 月 11 日	法要	春期仏像供養	展示室	－	
6	5 月 28 日	イベント	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「重文で朝ヨガ・呼吸法体験！～ならはくでととのいませんか？～」	仏教美術資料研究センター	26	
7	5 月 28 日	イベント	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　大安寺展編」	講堂	58	
8	7 月 20 日	法要	夏期仏像供養	展示室	－	
9	7 月 25 日～	ワークショップ	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」関連ワークショップ「なりきり！ほとけさまのかたち」	YouTube	2,000	
10	7 月 31 日	イベント	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」関連イベント「蓮糸織り体験」	地下回廊	25	
11	8 月 11 日	イベント	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部 中将姫展編」	講堂	45	
12	8 月 11 日	鑑賞会	奈良国立博物館「中将姫と當麻曼荼羅 ―祈りが紡ぐ物語―」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	20,831	
13	9 月 28 日	法要	秋期仏像供養	展示室	－	
14	9 月 30 日～10 月 2 日	イベント	クラウドファンディング寄付者対象　庭園御披露目式	庭園・茶室	236	
15	10 月 30 日	イベント	「第 74 回正倉院展」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　正倉院展編」	講堂	41	
16	11 月 19 日	イベント	近代化遺産全国一斉公開	仏教美術資料研究センター	633	
17	11 月 26 日	イベント	留学生の日関連イベント「書画作品に挑戦しよう！」	展示室	15	
18	12 月 16 日	鑑賞会	奈良国立博物館「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	15,774	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
19	1月12日	イベント	文化財保存修理所公開	文化財保存修理所	50	
20	1月19日	法要	冬期仏像供養	展示室	－	
21	1月21日	イベント	式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　春日大社若宮国宝展編」	講堂	43	
22	2月5日	イベント	特別陳列「お水取り」関連イベント「お水取り　「講話」と「現地解説」の会　2023年」	講堂	38	
23	3月14日	イベント	特別陳列「お水取り」関連イベント「お水取り　特別上映会」	講堂	44	

【九州国立博物館】

1）会場提供　0件（イベント、講演会等）
2）館主催・協力イベント　105件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月15日	展示	特別展「北斎」　沖ノ島解説パネル展示	エントランス	―	主催：福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本、九州国立博物館
2	4月23日	イベント	ボランティア発足式	ミュージアムホール	140	主催：九州国立博物館
3	4月24日	イベント	第八十八回はじめての茶道体験	茶室	13	主催：九州国立博物館
4	4月26日	展示	きゅーはく夢ひろば　つくし郷土かるた展	エントランス	―	主催：九州国立博物館
5	4月30日	ワークショップ	古代体験イベント きゅーはく女子考古部presents 古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール／研修室	200	主催：九州国立博物館
6	4月30日	講座･セミナー	きゅーはく☆とっておき講座 「かわいい考古学って何？」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
7	5月4日	イベント	きゅーはく夢ひろば　筑紫地区マスコット大集合！	屋外（カフェ前広場）／太宰府天満宮（遊園地前広場）／エントランス／研修室	―	主催：九州国立博物館
8	5月5日	イベント	きゅーはく夢ひろば　ケッチのフィジカルコメディショー	ミュージアムホール	288	主催：九州国立博物館
9	5月7日	講座･セミナー	特別展「北斎」　担当研究員による展示レクチャー	ミュージアムホール	96	主催：福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本、TVQ九州放送、九州国立博物館
10	5月22日	イベント	第九十四回親子で茶道体験	茶室	21	主催：九州国立博物館
11	5月28日	イベント	お茶会	屋外（レストラン棟）	26	主催：茶時遊空間、九州国立博物館
12	6月3日～5日	展示	第50回福岡ブロック大会つくし大会「感じてつくし幸せ体験」	エントランス	―	主催：つくしJC、九州国立博物館
13	6月4日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート　「タンゴ3姉妹＋ 」	ミュージアムホール	288	主催：九州国立博物館
14	6月8日	展示	UBEビエンナーレPR事業	エントランス		主催：山口県宇部市、九州国立博物館
15	6月10日	イベント	第 77 期本因坊戦決定戦七番勝負第 4 局開幕式	ミュージアムホール	―	主催：毎日新聞社、日本棋院、関西棋院、九州国立博物館
16	6月11日	イベント	第77期本因坊戦決定戦七番勝負第4局	茶室	―	主催：毎日新聞社、日本棋院、関西棋院、九州国立博物館
17	6月12日	イベント	第77期本因坊戦決定戦七番勝負第4局 ・大盤解説会 ・展示解説「囲碁の歴史と本因坊家のあゆみ」 ・囲碁入門教室	ミュージアムホール／ミュージアムホール入口付近／研修室	80	主催：毎日新聞社、日本棋院、関西棋院、九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
18	6月18日	イベント	第八十九回はじめての茶道体験	茶室	20	主催：九州国立博物館
19	6月25日	講座･セミナー	百済の国のお宝拝見！ － 韓国国宝・百済金銅大香炉紹介講座 －	ミュージアムホール	18	主催：九州国立博物館
20	7月8日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	103	主催：九州国立博物館
21	7月18日	イベント	復帰50年記念 特別展「琉球」 関連イベント琉球の宝 ウチナーの心	ミュージアムホール	140	主催：福岡県、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁、九州国立博物館
22	7月20日～9月4日	展示	復帰50年記念 特別展「琉球」 関連パネル展示	エントランス	―	主催：福岡県、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁、九州国立博物館
23	7月23日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「夏を彩るメロディ」	ミュージアムホール	210	主催：九州国立博物館
24	7月24日	イベント	第九十五回親子で茶道体験	茶室	9	主催：九州国立博物館
25	7月30日	イベント	特別展「琉球」×『刀剣乱舞-ＯＮＬＩＮＥ-』おっきい こんのすけ撮影会	ミュージアムホール	―	主催：福岡県、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁、九州国立博物館
26	8月6日	講演･シンポジウム	全国高等学校歴史学フォーラム2022	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
27	8月6日	イベント	第九十六回親子で茶道体験	茶室	15	主催：九州国立博物館
28	8月11日	ワークショップ	甕棺墓 埋葬体験 ワークショップ「弥生時代の棺　甕棺に入ろう」	ミュージアムホール	25	主催：九州国立博物館
29	8月13日	講座･セミナー	復帰50年記念 特別展「琉球」リレー講座「琉球展ちゃんぷる一講座　①歴史編」	ミュージアムホール	44	主催：福岡県、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁、九州国立博物館
30	8月20日	講座･セミナー	復帰50年記念 特別展「琉球」リレー講座「琉球展ちゃんぷる一講座　②工芸編」	ミュージアムホール	51	主催：福岡県、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁、九州国立博物館
31	8月23日～28日	展示	伊都国ウィーク in 九州国立博物館 伊都国の王墓に関するパネル展示	エントランス	―	主催：糸島市文化課、糸島市立伊都国歴史博物館、九州国立博物館
32	8月27日	ワークショップ	伊都国ウィーク in 九州国立博物館 鋳造体験	研修室	61	主催：糸島市文化課、糸島市立伊都国歴史博物館、九州国立博物館
33	8月25日	イベント	山笠御神入れ	エントランス	―	主催：博多祇園山笠振興会天神一丁目、九州国立博物館
34	8月27日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 沖縄復帰50年記念 特別展「琉球」関連イベント「古謝美佐子 沖縄のこころのうた」	ミュージアムホール	540	主催：九州国立博物館
35	8月28日	ワークショップ	甕棺墓 埋葬体験 ワークショップ「伊都国王のお葬式」	ミュージアムホール	20	主催：九州国立博物館
36	9月3日	講座･セミナー	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・特別史跡「大野城跡」史跡指定90年記念シンポジウム大宰府四王院- 「西の都」に築かれた鎮護国家思想の寺 －	ミュージアムホール	105	主催：福岡県立美術館、九州国立博物館
37	9月3日	ワークショップ	対話型鑑賞ワークショップ「見えると見えない～対話で楽しむ博物館～」	研修室／和室／４階文化交流展室	12	主催：九州国立博物館
38	9月4日	講座･セミナー	きゅーはく☆とっておき講座「弥生王墓の実像を探る一三雲南小路遺跡発見200年」	ミュージアムホール	74	主催：九州国立博物館
39	9月11日	イベント	第九十回　はじめての茶道体験	茶室	18	主催：九州国立博物館
40	9月13日～25日	展示	「第73回太宰府天満宮七夕揮毫大会」優秀作品展示	エントランス	―	主催：公益財団法人 太宰府顕彰会、九州国立博物館
41	9月23日	イベント	九博能	ミュージアムホール	270	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
42	10月1日	講座・セミナー	日本遺産「西の都」古代史講座	研修室	35	主催：九州国立博物館
43	10月6日	展示	久山町立久原小学校ポスター展示・プレゼン	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
44	10月8日	講座・セミナー	日本遺産「西の都」古代史講座	研修室	70	主催：九州国立博物館
45	10月8日	講座・セミナー	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群世界遺産登録５周年記念展覧会「沖ノ島祭祀を担った奉斎者たち」開催記念講演会「沖ノ島祭祀と渡来系遺物の流入 － 海の民ムナカタの役割 － 」	ミュージアムホール	86	主催：宗像市教育委員会、福岡県、九州国立博物館
46	10月9日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート「福岡ジュニアオーケストラ」	エントランス	200	主催：九州国立博物館
47	10月11日～12月4日	展示	特別展「ポンペイ」　関連パネル展示	エントランス	―	主催：福岡県、ナポリ国立考古学博物館、朝日新聞社、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、九州国立博物館
48	10月16日	講座・セミナー	特集展示「御所の器 ―公家山科家伝来の古伊万里」 講演会＆トークセッション「宮廷文化と御所の器」	ミュージアムホール	83	主催：九州国立博物館
49	10月16日	イベント	第九十七回親子で茶道体験	茶室	26	主催：九州国立博物館
50	10月24日	イベント	日米文化教育交流会議（カルコン）シンポジウム	エントランス／ミュージアムホール	80	主催：国際交流基金カルコン事務局、九州国立博物館
51	10月25日～30日	展示	おおむたPRキャンペーン「三池の刀が切り開く 大牟田の未来」 三池の刀剣パネル展示	エントランス	―	主催：大牟田市、九州国立博物館
52	10月29日	講座・セミナー	特別展「ポンペイ」　リレー講座 【第1回】「ポンペイがやってきた！～見どころ紹介～」	ミュージアムホール	62	主催：福岡県、ナポリ国立考古学博物館、朝日新聞社、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、九州国立博物館
53	10月30日	講座・セミナー	おおむたPRキャンペーン「三池の刀が切り開く 大牟田の未来」　公開講座「刀匠と語る三池刀の魅力」	ミュージアムホール	100	主催：大牟田市、九州国立博物館
54	11月2日	講演・シンポジウム	アジア代表日本2022　トークショー	ミュージアムホール	270	主催：「アジア代表2022」実行委員会、九州国立博物館
55	11月3日	イベント	令和4年度留学生イベント「茶道体験×バックヤードツアー」	トラックヤード／4階バックヤード／茶室／研修室	20	主催：九州国立博物館
56	11月4日	イベント	特別展「ポンペイ」関連パン販売	エントランス	―	主催：九州国立博物館
57	11月5日	講座・セミナー	きゅーはく☆とっておき講座「御所の器の魅力」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
58	11月5日	ワークショップ	ワークショップぺたぺたデコレーション～貼花に挑戦！～	研修室	10	主催：九州国立博物館
59	11月6日	講座・セミナー	特別展「ポンペイ」　リレー講座【第2回】「ポンペイとインド」「ポンペイの黒い鏡」「ポンペイの絵画とそのひみつ」	ミュージアムホール	53	主催：福岡県、ナポリ国立考古学博物館、朝日新聞社、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、九州国立博物館
60	11月8日～13日	展示	ワンヘルスに関するパネル展示	エントランス	―	主催：福岡県、九州国立博物館
61	11月10日	イベント	第21回FAVA（アジア獣医師連合会）大会エクスカーション	研修室	―	主催：福岡県、九州国立博物館
62	11月10日	イベント	特別展「ポンペイ」関連イベント視覚障害者とつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー第1回 バックヤードツアー	ミュージアムホール／館内バックヤード	6	主催：九州国立博物館
63	11月11日	イベント	特別展「ポンペイ」関連イベント視覚障害者とつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー　第2回	和室／３階特別展示室	6	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
64	11月12日	ワークショップ	ワークショップ ぺたぺたデコレーション ～貼花に挑戦！	研修室	9	主催：九州国立博物館
65	11月15日	講座･セミナー	IPMセミナー	ミュージアムホール	132	主催：九州国立博物館
66	11月15日～20日	展示	九州国立博物館×九州産業大学 「撮る博物館」	エントランス	―	主催：九州国立博物館
67	11月19日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「南欧 音楽の旅」	ミュージアムホール	360	主催：九州国立博物館
68	11月19日	ワークショップ	特別展「ポンペイ」 子ども向けワークショップ～天然大理石のモザイクコースター～	研修室	195	主催：九州国立博物館
69	11月20日	ワークショップ	みんなdeきゅーはくを楽しもう！！ A. 模型de博物館たんけん隊	４階文化交流展示室	36	主催：九州国立博物館
70	11月22日～27日	展示	第25回日中青少年書画交流大会	エントランス	―	主催：九州日中文化協会、九州国立博物館
71	11月23日	イベント	第25回日中青少年書画交流大会　表彰式	ミュージアムホール、研修室、和室	150	主催：九州日中文化協会、九州国立博物館
72	11月27日	ワークショップ	みんなdeきゅーはくを楽しもう！！ B. バックヤードツアー C. レプリカ&楽器体験	ミュージアムホール、研修室、和室／トラックヤード／２階バックヤード／免震層	B.25 C.16	主催：九州国立博物館
73	11月27日	イベント	第九十一回はじめての茶道体験	茶室	27	主催：九州国立博物館
74	11月29日～ 12月11日	展示	アジア代表日本 2022　ワークショップ作品の展示	エントランス	―	主催：「アジア代表２０２２」実行委員会、九州国立博物館
75	12月3日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「ビロードのような歌声が奏でるイタリアの世界」	ミュージアムホール	200	主催：九州国立博物館
76	12月3日	イベント	特別展「ポンペイ」関連パン販売	エントランス／和室	―	主催：九州国立博物館
77	12月3日	ワークショップ	ワークショップ 「九博の杜」のブローチ作り体験	研修室	20	主催：九州国立博物館
78	12月4日	ワークショップ	きゅーはくで楽しく！わく☆わくワークショップ ・はらのむしご祝儀袋を作ろう！ ・水引アレンジでお正月飾りを作ろう！	研修室	10	主催：九州国立博物館
79	12月6日～23日	展示	宮地嶽第55回光の道全国競書大会	エントランス	―	主催:宮地嶽光の道全国競書実行委員会、九州国立博物館
80	12月10日	講座･セミナー	きゅーはく☆とっておき講座 「長崎警備と白帆注進　-近世日本の沿岸警備-」	ミュージアムホール	32	主催：九州国立博物館
81	12月11日	ワークショップ	九州国立博物館杯 葛飾北斎「日新除魔図さいふごま」製作記念第18回さいふごま大会	ミュージアムホール	40	主催：九州国立博物館
82	12月13日～12月16日	展示	九博でバードウォッチング！ ～九博が所蔵する46羽の野鳥のはく製を一挙公開！～	ミュージアムホール	793	主催：九州国立博物館
83	12月13日～17日	展示	筑紫地区中学校美術展	エントランス	―	主催:筑紫地区中学校美術教育研究会、九州国立博物館
84	12月18日	講座･セミナー	きゅーはく☆とっておき講座 「たねがしま入門」	ミュージアムホール	74	主催：九州国立博物館
85	1月3日	イベント	九州国立博物館 新春イベント 「きゅーはくニューイヤーコンサート ～幸福を呼ぶカルテット～」	ミュージアムホール	390	主催：九州国立博物館
86	1月3日	イベント	九州国立博物館 新春イベント 「きゅーはくで書き初め」	エントランス	443	主催：九州国立博物館
87	1月5日	イベント	新春は九博で博物館浴しよう！ －展示鑑賞と科学的データの測定－	研修室	37	主催：九州産業大学
88	1月7日	講演及びシンポジウム等	きゅーはく☆とっておき講座 「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
89	1月11日	イベント	第6回MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館	エントランス	1,068	「第6回MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
90	1月15日	イベント	第6回MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館　表彰式	ミュージアムホール	290	「第6回 MOA 美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会
91	1月15日～1月22日	イベント	種子島関連パネル展示	エントランス	―	主催：九州国立博物館
92	1月28日	イベント	特集展示「種子島 ― 風と波が育んだ歴史 ―」関連イベント 歴史と宇宙への入口「種子島」	ミュージアムホール	140	主催：九州国立博物館
93	2月11日	その他展示に関連するイベント	種子島観光物産展	エントランス	―	主催：九州国立博物館
94	2月14日～2月19日	イベント	九州女子大学　第55回卒業書作展	エントランス	―	主催：九州国立博物館
95	2月11日	イベント	令和4年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～見てみんね。中世の筑紫～」	エントランス	―	主催：九州国立博物館
96	2月18日	イベント	第8回みゅーじあむ寄席　人間国宝がやってきた	ミュージアムホール	268	主催：九州女子大学
97	2月25日、26日	イベント	大分県 耶馬渓の魅力をきゅーはくで発信！日本遺産「やばけい遊覧」PR	エントランス／研修室	―	主催:筑紫地区社会教育振興協議会
98	3月4日	イベント	手話通訳付きオンラインバックヤードツアー	バックヤード	18組	主催：九州国立博物館
99	3月4日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「アン・サリー 幻の王国“加耶”に思いを馳せて」	ミュージアムホール	480	主催：九州国立博物館
100	3月11日	イベント	外国人のための　やさしい日本語で　「博物館の見学」	研修室	15	主催:中津玖珠日本遺産推進協議会
101	3月12日	講演及びシンポジウム等	世界遺産沖ノ島講演会	ミュージアムホール	160	主催：九州国立博物館
102	3月17日、18日	イベント	京都国立博物館公式キャラクター 「トラりん」がきゅーはくにやってくる！	エントランス	―	主催：九州国立博物館
103	3月25日	イベント	きゅーはくさくらまつり ・さくらヨガ ・橘家文太 落語car ・NHK福岡児童合唱団 MIRAI ・太宰府天満宮巫女　扇の舞 ・さくら茶会	屋外／ミュージアムホール／エントランス／茶室	―	主催：九州国立博物館
104	3月26日	イベント	九博デー「九博さくら祭りもちつき大会・桜の講演会」	屋外／ミュージアムホール	―	主催：NPO法人九州国立博物館を愛する会
105	3月26日	イベント	西の都こども学校院「西の都」ってなに？	研修室	31	主催：福岡県教育委員会

1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

（前述の資料に記載）1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）

令和5年3月31日現在

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		4年度新規	総数	4年度新規	総数	4年度新規	総数	4年度新規	総数
写真原板(フィルム)		44件	324,035件	0件	257,681件	0件	361,503件	0件	23,622件
デジタル撮影		19,829件	155,705件	6,645件	(*)66,229件	2,067件	64,596件	4,361件	37,039件
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	計	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
図書	和書	3,877冊	224,164冊	1,209冊	156,280冊	1,929冊	96,807冊	3,633冊	206,430冊
	漢書	266冊	41,840冊	86冊	22,541冊	17冊	5,385冊	0冊	0冊
	洋書	215冊	15,286冊	10冊	4,801冊	24冊	2,113冊	49冊	3,087冊
	計	4,358冊	281,290冊	1,305冊	183,622冊	1,970冊	104,305冊	3,682冊	209,517冊
映画フィルム		0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻
スライド		0本	0本	0本	26本	0本	21本	0本	0本
		0コマ	0コマ	0コマ	2,779コマ	0コマ	2,192コマ	0コマ	12コマ
マイクロフィルム		0巻	3,601巻	0巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻

(*)令和3年度以前のデジタル撮影にて新たに追加されたデータ(1,987件)を加えた。

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
開館日数	229日	204日	177日	122日	173日
利用者数	4,616人	4,080人	1,219人	1,103人	2,172人
閉架図書（閲覧）	5,314件	4,649件	4,151件	3,112件	3,680件
マイクロフィルム（閲覧）	456件	398件	507件	189件	372件
レファレンスサービス	5,113件	5,152件	1,954件	1,934件	2,413件
コピーサービス	33,832枚	27,286枚	23,331枚	19,540枚	23,754枚

※新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言発出に伴い元年度は2月7日～3月31日、2年度は4月1日～6月1日、3年度は4月25日～5月31日に臨時休館した。開館時間も前後1時間短縮し、10:30～16:00開館とした。

また、同じく感染拡大防止のため、2年度6月2日から予約制・人数制限の下で再開、2月15日からは開館日を週3日に減らして開館し、3年度も週3日開館を継続した。4年度は10月18日から週5日開館とし、1月4日から予約制を撤廃、開館時間も9:30～17:00に戻した。

1-(3)-②-3 特別観覧件数

申請件数

令和5年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	312	5	307	101	3	98	70	2	68	76	0	76	65	0	65
写真撮影	88	1	87	1	0	1	22	1	21	33	0	33	32	0	32
映画撮影	5	3	2	3	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0		0	2	0	0	0
ビデオ撮影							0	0	0				0	0	0
模写	6	0	6	2	0	2	0	0	0	4	0	4	0	0	0
模造							0	0	0				0	0	0
熟覧	213	1	212	95	0	95	48	1	47	37	0	37	33	0	33

点数

令和5年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	1,685	13	1,672	553	9	544	226	4	222	638	0	638	268	0	268
写真撮影	540	2	538	4	0	4	81	2	79	322	0	322	133	0	133
映画撮影	11	9	2	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0	2	0	2	0	0	0
ビデオ撮影							0	0	0				0	0	0
模写	8	0	8	2	0	2	2	0	2	4	0	4	0	0	0
模造							0	0	0				0	0	0
熟覧	1,126	2	1,124	538	0	538	143	2	141	310	0	310	135	0	135

1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

令和5年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	1,077	732	345				685	544	141	299	153	146	12	4	8
		カラー													81	31	50
	プリントでの提供	モノクロ	51	45	6				51	45	6	0	0	0			
		カラー	1	0	1				0	0	0	1	0	1			
画像再利用			140	107	33							130	101	29	10	6	4

点数

令和5年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	5,125	1,843	3,282				2,275	1,423	852	1,385	289	1,096	108	4	104
		カラー													1,357	127	1,230
	プリントでの提供	モノクロ	110	81	29				110	81	29	0	0	0			
		カラー	1	0	1				0	0	0	1	0	1			
画像再利用			342	217	125							310	189	121	32	28	4

1-(3)-②-5 広報実績一覧
【本部文化財活用センター】

・東京国立博物館創立150年記念 踊る埴輪＆見返り美人 修理プロジェクト

会期	4月1日（金）～5年3月31日
ターゲット	一般の美術愛好者、若年層
重点項目	ライトユーザー
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布、ポスター掲示
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計10回、ぶんかつブログでの紹介計1回、東博Twitterの情報発信計14回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞計2回
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	LINE NEWS、livedoor、@nifty ニュース　ほか計55媒体
その他	―

・文化財活用センターが 『 あつまれ どうぶつの森 』 で 「ぶんかつ島」の夢番地を公開

会期	8月18日（木）～
ターゲット	ゲーム愛好者、子ども、一般の美術愛好者
重点項目	ゲーム愛好者、ライトユーザー
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram/YouTube)計8回、ぶんかつブログでの紹介計3回
その他	アットPressによるプレスリリース配信、広報用動画計3本制作
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	ファミ通.com 、ロイター.co.jp 、電ファミニコゲーマーほか、計110媒体
その他	―

・「初音ミク」とのコラボレーショングッズを販売

会期	6月24日（金）～
ターゲット	一般の美術愛好者、若年層
重点項目	ライトユーザー
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―

「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計6回、ぶんかつブログでの紹介計1回、東博Twitterの情報発信計2回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	Yahoo! ニュース、美術手帖、ニコニコニュース　ほか計74媒体
その他	―

・ひかり拓本プロジェクト

会期	10月5日（水）～12月2日（金）
ターゲット	美術・歴史・考古系愛好者・文化財防災関係者
重点項目	コアユーザー
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内（東京国立博物館、平城宮跡資料館、飛鳥資料館）配布、奈文研メーリングリスト1020件、寄附実績者への案内46件
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページ、奈文研ウェブサイトイベントページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計17回、ぶんかつブログでの紹介計1回、奈文研、飛鳥資料館Facebookでの情報発信計5回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞（全国版、奈良版）、毎日新聞（奈良版）、朝日新聞（奈良版）、産経新聞（奈良版）ほか計7媒体
テレビ、ラジオ	NHK、NHK関西、NHKならナビ、J-WAVE「JAM THE PLANET」
雑誌	―
インターネットメディア	NHK NEWS WEB、京都新聞、奈良新聞デジタル、ドワンゴ「ニコニコ美術館」 ほか134媒体
その他	クラウドファンディングサービス「READYFOR」の情報発信2回

・東京国立博物館創立150年記念 特別企画「未来の博物館」

会期	10月18日（火） ～ 12月11日（日）
ターゲット	若年層、美術愛好者
重点項目	ライトユーザー、映像技術系媒体
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布、ポスター掲示
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	9-11月号に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計14回、ぶんかつブログでの紹介計3回、共催・協賛会社によるSNS/YouTube動画の情報発信
その他	アットPressによるプレスリリース配信、報道・関係者内覧会の実施、SNS（Twitter／Instagram）広告出稿、広報用動画（約3分／約1分）制作
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、電化新聞ほか
テレビ、ラジオ	NHK特番・開幕生中継、NHK World Japan、NHK「チコちゃんに叱られる！」、日本博広報番組、TBSラジオ「アフター6ジャンクション」ほか
雑誌	日経デザイン、月刊ニューメディア、サイン&ディスプレイほか　計4件

インターネットメディア	LINEニュース、Yahoo! ニュース ・読売新聞オンライン、ニコニコニュース ほか計90媒体
その他	―

・デジタル法隆寺宝物館

会期	5年1月31日（火） ～　以降は通年展示
ターゲット	一般の美術愛好者、外国人、国内外観光旅行者
重点項目	外国人日本美術愛好者、国内外観光客
特記事項	令和4年度「日本博」イノベーション型プロジェクト採択事業
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布、ポスター掲示
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	12-2月号に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブ展示イベントページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)、ぶんかつブログでの紹介計3回
その他	日本博公式ウェブサイトでの紹介、アットPressによるプレスリリース配信、報道・関係者内覧会の実施、SNS（Twitter／Instagram）広告出稿、広報用動画8種（約4分／約1分）制作
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	世界日報、朝日中高生新聞、下野新聞
テレビ、ラジオ	NHK「ゆう5時」
雑誌	新美術新聞、美術の窓、芸術新潮
インターネットメディア	livedoor ニュース、ニコニコニュース、NHKオンライン、美術展ナビ、Tokyo Weekender、新華網NEWS、NHK WORLD JAPAN、産経ニュース、All About Japan、JAPAN TODAY、ACCESSIBLE JAPAN、ほか計130媒体
その他	「旅をテーマとする日本博リーフレット」、ぶんかる、OAG（ドイツ東洋文化研究協会機関紙）

・東京国立博物館バーチャル展示「エウレカトーハク！◉８９」

会期	1月17日（火） ～ 3月31日（金）
ターゲット	ライトユーザー、一般の美術愛好者
重点項目	ライトユーザー、インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	読売新聞オンライン、@nifty ニュース、livedoorほか計52媒体
その他	―

・4年度国立博物館収蔵品貸与促進事業実施について

会期	4月23日（土）～12月4日（日）（全国6施設にて開催）
ターゲット	各開催会場来場者、古美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業全体の活動周知を目的とする広報
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	開催会場に貸与促進事業の説明及び年間の事業実施会場について掲載したパネルを掲出

交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信、ぶんかつブログでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・4年度貸与促進事業　鹿児島県歴史・美術センター黎明館　「茶の湯と薩摩」

会期	9月22日（木） ～ 11月6日（日）
ターゲット	古美術愛好者、近代美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体、一般の美術愛好者向け雑誌媒体
特記事項	（※）は、文化財活用センターから支出された広報費による掲出
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	ポスター・チラシ（※）、屋外看板（※）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	南日本新聞社
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)5回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	MBC南日本放送スマホアプリトップスライダー広告（※）
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	南日本新聞社
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・令和6(2024)年度 国立博物館収蔵品貸与促進事業　実施対象館募集開始

会期	5年4月3日（月）～6月30日（金）
ターゲット	全国の博物館・美術館、各都道府県教育委員会・政令指定都市教育委員会
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業募集開始の周知を目的とする広報
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ及び申請要項の送付169件(公開承認施設、各都道府県教育委員会・政令指定都市教育委員会)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	

雑誌	
インターネットメディア	朝日新聞デジタルマガジン&、読売新聞オンライン ほか計40媒体
その他	

・令和5(2023)年度 国立博物館収蔵品貸与促進事業　実施対象館が決定

会期	5年4月1日（土）～6年4月7日（日）（全国7施設にて開催）
ターゲット	各開催会場来場者、古美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業全体の活動周知を目的とする広報
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	
雑誌	
インターネットメディア	
その他	

【東京国立博物館】
(1) 総合文化展（平常展）

・「博物館でお花見を」

会期	3月15日（火）～4月10日（日）（25日間）
ターゲット	比較的外出する傾向にあり、SNSを多用している日本20代前半から30代前半。一般の美術愛好家
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	新型コロナウイルス感染拡大による運営方法変更等に備え、広報ビジュアルデータを制作しデジタルメディアの広報をメインとしたため、館内掲示用のポスターのみ作成。
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信。
その他	SNS広告（Twitter、Instagram、Facebook）、アットプレスによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	東京新聞、新美術新聞ほか
テレビ、ラジオ	J:COM11チャンネル台東区広報番組「ニュースたいとう」
雑誌	―
インターネットメディア	LINEニュース、SankeiBiz、FASCHON PRESS、ロイター、朝日新聞デジタルマガジン& など
その他	

・「博物館でアジアの旅」

会期	9月21日（水）～10月16日（日）　(23日間)
ターゲット	一般の東洋美術愛好家、小学生などの子どもとその親、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	

種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内掲示用にポスターのみ作成
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事3回、メールマガジン・SNSでの情報配信など。
その他	SNS広告（Twitter、Instagram、Facebook、TikTok）、アットプレスによるリリース発信、PR用ステッカー配架
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	船橋よみうり新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	美術展ナビ、朝日新聞デジタルマガジン、ファッションプレス、レッツエンジョイ東京、ORICON NEWS、ロイター.co.jp、月刊うえのWEB版 ほか
その他	―

・「博物館に初もうで」

会期	5年1月2日（月・休）～1月29日（日）（25日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、小学生などの子どもとその親、若年層（学生など）、在日外国人
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内掲示用にポスターのみ作成
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信など
その他	SNS広告（Twitter、Instagram、Facebook、TikTok）、アットプレスによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	共同通信、読売こども新聞、しんぶん赤旗
テレビ、ラジオ	台東区ケーブルテレビ、J-WAVE
雑誌	ハルメク、男の隠れ家
インターネットメディア	ぶんかる、TimeOut、美術手帖WEB、美術展ナビ、婦人画報WEB、月刊うえのWEB版ほか
その他	―

・特別企画「大安寺の仏像」

会期	5年1月2日（月・休）～3月19日（日）（66日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、仏像ファン、古美術ファン
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	B2…30部、A4…1万部（当館分）　※DMは実施なし
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）、JR東京駅丸の内地下通路
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジン・SNSでの情報配信など
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等

新聞	読売新聞「シティライフ」、毎日新聞・博物館ガイド、朝日新聞、東京新聞「メトロポリタン＋」、産経新聞「東京PLUS」、船橋よみうり新聞　など
テレビ、ラジオ	J-WAVE（TDK VOICES FROM NIHONMONO）
雑誌	遠州流茶道月刊誌月刊茶道誌「遠州」（3月号）『大人のおしゃれ手帖』（宝島社）、『ARIFT』2月10日号、『一個人』『月刊江戸楽』2月号、「きょうの歳時記・美術館」アートの旅　2023冬号（㈱エイブル）、
インターネットメディア	和楽WEB（小学館）、「美術展ナビ」（読売新聞社）、「ファッションプレス」、 WEB版『美術手帖』、「インターネットミュージアム」、「月刊うえの」、「スフマート」、産経リビング東京Web、月刊うえの、レッツエンジョイ東京、「ここより」、「アートアジェンダ」　など
その他	―

(2) 特別展、共催展等

・特別展「空也上人と六波羅蜜寺」

会期	3月1日（火）～5月8日（日）（62日間）
ターゲット	日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,000件(美術館・博物館、古美術骨董、各種教室等)に送付、館内配布
交通広告	JR山手線ボード8駅9面
新聞・雑誌広告	朝日新聞イベントガイド
テレビ広告	テレビ朝日CM
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、当館メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者(朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック・ツイッター、当館ツイッター・フェイスブックでの情報発信　ほか
その他	SNS広告実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日小学生新聞、朝日新聞、毎日小学生新聞、宗教新聞　ほか
テレビ、ラジオ	NHK「日曜美術館アートシーン」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」、テレビ朝日「じゅん散歩」、テレビ朝日「中居正広のニュースな会」、テレビ東京「出没！アド街ック天国」、TBS「東大王」
雑誌	生活の友社「美術の窓2021年12月号」、新潮社「芸術新潮2021年12月号」、生活の友社「美術の窓3月号」、日経BPマーケティング「日経おとなのOFF別冊 2022年絶対見逃せない美術展」、JR東日本「大人の休日倶楽部」、時空旅人「大人が観たい美術展2022」、メディカルクオール「月刊メディカルクオール4月号」ほか
インターネットメディア	美術展ナビ、和楽WEB、シネフィル、寺社オンライン　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	3年11月3日（平成館大講堂）
人数等	35名出席
④報道内覧会	
実施日	2月28日（月）
人数等	185名出席

・沖縄復帰50年記念　特別展「琉球」

会期	5月3日（火・祝）～6月26日(日)（48日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、沖縄文化愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,000件（美術館・博物館・マスコミ等)に送付、館内配布
交通広告	東京メトロ電飾看板（メトロコンコースビジョン）上野・池袋・明治神宮前駅、JR電飾看板（J-ADビジョン）上野駅・丸の内各所連絡通路、京王線・京成線・京急線（川崎・鶴見ほか）沿線駅にてポスター駅貼り（B1）、アトレ上野店・サクラテラス柱巻き　ほか
新聞・雑誌広告	読売新聞（全国版）朝刊にて特集（4月20日）、社会面面突き出し広告（5月15日・22日）、朝日新聞朝刊（東京版）テレビ欄広告（5月15日）ほか
テレビ広告	NHK展覧会紹介　スポット放映（5月中）　ほか
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事8回、メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者(読売新聞社、NHKG)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式Twitter、当館Twitter・Facebook・Instagramでの情報発信

その他	・読売本社１階マルチビジョン　スポット放映 ・有楽町Bic Vision（有楽町ビックカメラ外壁）スポット放映　　ほか
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、公明新聞　ほか
テレビ、ラジオ	NHK日曜美術館（5/15放送）、NHKニュース（5/15）、日本テレビニュース(5/15)、台東ケーブルテレビ　ほか
雑誌	芸術新潮（新潮社、11月号）、女性のひろば（日本共産党中央委員会、3月号）、 和楽（小学館6・7月号）、サライ（小学館 4/10発売）、時空旅人（株式会社プラネットライツ、3/26発売）、美術の窓（生活の友社、5月号）、美しいキモノ（ハースト婦人画報社、5/20発売）ほか
インターネットメディア	ドワンゴ「ニコニコ美術館」（5/31生放送）、アートアジェンダ、ファッションプレス、WEB版『美術手帖』、「インターネットミュージアム」、スフマート、和楽web、共同通信　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	3年11月26日（平成館大講堂）
人数等	33媒体　45名出席
④報道内覧会	
実施日	5月2日
人数等	124媒体　162名出席

・日中国交正常化50周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」

会期	7月26日（火）～9月19日（月・祝）（56日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、フェイスブック、ブログ関連記事3回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞
テレビ、ラジオ	ゴーちゃんLAB（テレ朝）
雑誌	―
インターネットメディア	インターネットミュージアム、美術展ナビ、朝日マリオン・コム、うえの、ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	7月25日（月）
人数等	30人

・東京国立博物館創立150年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」

会期	10月18日（火）～12月18日（日）（55日間）※12月5日臨時開館、12月13～18日会期延長
ターゲット	日本文化・美術愛好家全般、刀剣ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	事前予約制による入場者数制限に対する多数の観覧希望を受けて会期延長
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約8,400件（美術館・博物館・マスコミ等)に送付、館内配布
交通広告	東京メトロ電飾ボード3駅（上野・渋谷・飯田橋）、JR駅NTボード24駅25面（上野・東京・品川・新宿・池袋・新横浜・大宮等）、アトレ上野（柱巻・コンコースフラッグ・パークアベニューフラッグ）、京王線沿線駅貼りポスター、上野商店街フラッグ　ほか

新聞・雑誌広告	毎日新聞朝刊にて開催社告（9月19日）、同社朝刊・夕刊にて1面題字下広告・記事下広告など9月以降随時掲載　ほか
テレビ広告	TBS・BS-TBS毎日新聞スポット枠にて放映、NHKスポット放映 ほか
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事9回、メールマガジンでの情報配信、公式サイトでの紹介 SNS:公式Twitter・Facebook・Instagram、当館Twitter・Facebook・Instagramでの情報発信
その他	・渋谷DHCチャンネル、新宿フラッグスビジョン、TBSラジオ（10月1日～）でのスポット放映 ・国宝カード22万部作成・配付（上野商業施設とのコラボ企画の一環及び10月中の来場者特典として） ・SNS広告配信（Twitter、Facebook） ・Yahoo!・Google広告出稿　　ほか
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、毎日小学生新聞、読売新聞、読売KODOMO新聞、朝日新聞、産経新聞　ほか
テレビ、ラジオ	NHK BS「生中継！8K特別内覧会」（10/16生中継）、NHK Eテレ「日曜美術館」（10/23）、NHK総合「チコちゃんに叱られる！」（10/28）、NHK総合「東京国立博物館150年 “推し”の国宝 大公開!」（11/3）、日本テレビ「1億3000万人のSHOWチャンネル」（11/12）、NHK総合「有吉のお金発見　突撃!カネオくん」（11/26）、BS日テレ「ぶらぶら美術館・博物館」（11/29）ほか
雑誌	「芸術新潮」（3年12月号）、「美術の窓」（3年12月号・4年10月号）、日経BP社「おとなのOFF美術展2022」、「ノジュール」（5月号・9月号）、「サライ」11月号別冊付録（10/9発売）、「ひととき」（9月号）、「和樂」（10・11月号）、「東京人」（11月号）、「文藝春秋」（12月号）、2022年版「刀剣画報・かたな旅」ほか
インターネットメディア	美術展ナビ、毎日新聞英文ニュースサイト「The Mainichi」、美術手帖オンライン、Businness Insider、Casa BRUTUSオンライン、インターネットミュージアム ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	5月20日（金）（平成館大講堂）　※後日、録画映像を期間限定でオンライン配信
人数等	会場出席者：75名、オンライン配信視聴申込：58名
④報道内覧会	
実施日	10月17日（月）
人数等	260名出席

【京都国立博物館】
(1)名品ギャラリー（平常展）

・特集展示「新発見！蕪村の「奥の細道図巻」」

会期	6月14日（火）～7月18日（月・祝）（31日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古典文学ファン、与謝蕪村ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館Twitter、トラりんTwitter・Facebookでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、京都新聞、共同通信
テレビ、ラジオ	―
雑誌	きょうの歳時記
インターネットメディア	婦人画報デジタル（アシェット婦人画報社）、沿線おでかけ情報（阪急電鉄）　ほか計6件
その他	―

・新春特集展示「卯づくし―干支を愛でる―」

会期	5年1月2日（月・休）～1月29日（日）（25日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、年末年始の観光客
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	

種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,590件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	京都駅地下東口サイネージ、京都駅地下街サイネージ、駅貼り広告(京阪電車：京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	産経新聞（北摂版、大阪市内版12/31全5段）
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館Twitter、トラりんTwitter・Facebookでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	リビング京都、朝日新聞、読売新聞、しんぶん赤旗、産経新聞
テレビ、ラジオ	KBS京都ラジオ
雑誌	ひととき（ウェッジ）、目の眼（目の眼）、男の隠れ家（三栄）、サライ（小学館）、きょうの歳時記（エイブル）　ほか計3件
インターネットメディア	京都観光Navi（京都市）、DigiStyle京都（大平印刷）、京都で遊ぼうART（エグザム）　ほか計11件
その他	―

・特集展示「雛まつりと人形」

会期	5年2月4日（土）～3月5日（日）（26日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、人形ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	京都駅地下街サイネージ
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館Twitter、トラりんTwitter・Facebookでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	Leaf（Leafパブリケーションズ）、機関紙編集者クラブ・編集室・編集サービス（くとうてん）
インターネットメディア	京都観光Navi（京都市）、婦人画報web、京都で遊ぼうART（エグザム）　ほか計2件
その他	―

(2)特別展覧会、共催展等

・伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」

会期	4月12日（火）～5月22日（日）（36日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、仏像ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,800件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	車内吊り広告(JR京都線、京阪本線)、私鉄主要駅サイネージ（京阪、阪急）
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	読売テレビスポットCM
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回、メールマガジン、展覧会公式ウェブサイトでの情報配信 SNS:当館Twitter、トラりんFacebook・Twitter、展覧会公式Twitterでの情報発信
その他	
②メディア掲載等	

種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞　ほか計33件
テレビ、ラジオ	NHK京都、KBS京都、テレビ大阪　ほか4件
雑誌	美術展完全ガイド2022、美術の窓、大人が見たい美術展2022　ほか73件
インターネットメディア	ニコニコ美術館（ドワンゴ）、美術手帖Web版（BTCompany）、美術展ナビ（読売新聞社）　ほか計108件
その他	―
③報道発表会	
実施日	4年1月17日（月）
人数等	28媒体、38人出席
④報道内覧会	
実施日	4月11日（月）
人数等	42媒体、82人出席

・特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」

会期	7月30日（土）～9月11日（日）（38日間）
ターゲット	仏教美術ファン、歴史ファン、日本美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,550件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	JR京都駅地下街・阪急地下街サイネージ、駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋)
新聞・雑誌広告	京都新聞、産経新聞
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回、メールマガジン SNS:当館Twitter、トラりんFacebook・Twitterでの情報発信
その他	ニコニコ美術館（ドワンゴ）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、京都新聞
テレビ、ラジオ	アートシーン（NHK）
雑誌	週刊文春（文藝春秋）、サライ（小学館）　ほか計17件
インターネットメディア	美術展ナビ（読売新聞社）、Yahoo！ニュース　ほか計12件
その他	チューオーツーリスト
④報道内覧会	
実施日	7月29日（金）
人数等	25媒体、31人出席

・特別展「京（みやこ）に生きる文化　茶の湯」

会期	10月8日（土）～12月4日（日）（50日間）
ターゲット	日本美術ファン、古美術ファン、中国絵画ファン、茶道を嗜む人
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,800件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	車内吊り広告(JR京都線、京阪本線)、JR大阪駅構内ビールオフ広告、私鉄主要駅サイネージ（京阪、阪急）
新聞・雑誌広告	読売新聞社
テレビ広告	読売テレビ
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回、メールマガジン、展覧会公式ウェブサイトでの情報配信 SNS:当館Twitter、トラりんFacebook・Twitter、展覧会公式Twitterでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、京都新聞　ほか計103件

テレビ、ラジオ	京いちにち（NHK）、NEWSZERO（読売テレビ）、さらピン！キョウト（KBS京都ラジオ）　ほか計5件
雑誌	芸術新潮（新潮社）、和楽（小学館）、茶道雑誌（河原書店）　ほか計88件
インターネットメディア	ファッションプレス（カーリン）、京都で遊ぼうART（エグザム）　ほか計39件
その他	クラブツーリズム、ホテルオークラ京都　ほか計3件
③報道発表会	
実施日	7月11日（月）
人数等	24媒体、29人出席
④報道内覧会	
実施日	10月7日（金）
人数等	66媒体、76人出席

・親鸞聖人生誕850年 特別展「親鸞-生涯と名宝」

会期	5年3月25日（土）～5月21日（日）（50日間）
ターゲット	歴史ファン、仏教美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,000件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	車内吊り広告(京阪、阪急、市バス)、JR京都駅地下街、大阪駅・阪急梅田駅構内、京都市営地下鉄四条駅構内サイネージ
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	NHKスポット放映
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回、メールマガジン、展覧会公式ウェブサイトでの情報配信 SNS:当館Twitter、トラりんFacebook・Twitterでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、京都新聞
テレビ、ラジオ	NHK京コトはじめ、NHKぐるっと関西おひるまえ
雑誌	美術展ぴあ（ぴあ）、てんとう虫（UCカード）、日経おとなのOFF（日経BP社）、別冊太陽別冊「親鸞」（平凡社）、時空旅人（三栄）　ほか計44件
インターネットメディア	そうだ京都、行こう（JR東海）、じゃらんnet　ほか計18件
その他	つばさ交通
③報道発表会	
実施日	9月7日（水）
人数等	16媒体、28人出席
④報道内覧会	
実施日	3月24日（金）
人数等	39媒体、58人出席

【奈良国立博物館】

(1)名品展(平常展)

・名品展　「珠玉の仏たち」

会期	4月5日（火）～常時開催
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド（英・中・韓）、日本語音声ガイドは29年10月28日から導入
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、Twitter
その他	小西通り商店街アナウンス

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	ウォーカープラス、じゃらんnet、るるぶ&more、奈良県公式なら旅ネット、奈良市観光協会公式サイト、関西文化.com、JAFなび、えらべる倶楽部、ベネフィット・ステーション、イオンカード公式サイト、近畿日本鉄道公式サイト　等
その他	―

・名品展　「中国古代青銅器」

会期	4月5日（火）～常時開催
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、青銅器ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、青銅器ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド（英・中・韓）、日本語音声ガイドは29年10月28日から導入
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	ウォーカープラス、じゃらんnet、るるぶ&more、奈良県公式なら旅ネット、奈良市観光協会公式サイト、関西文化.com、JAFなび、えらべる倶楽部、ベネフィット・ステーション、イオンカード公式サイト、近畿日本鉄道公式サイト　等
その他	中国青銅器入門

・名品展　「珠玉の仏教美術」

会期	4年12月10日（土）～5年1月22日（日）、5年2月4日（土）～3月19日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・名品展　特別公開「金峯山寺仁王門　金剛力士立像」

会期	3年2月23日（火・祝）～10年度予定
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生

重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、Twitter
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	TBSテレビ「がっちりマンデー!□」
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	広報紙『あんしんlife』（一般社団法人あんしん財団）

・名品展　特別公開「奈良・不退寺本尊聖観音菩薩立像」

会期	5年3月21日（火）～5月14日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	『歴史の旅人』、『784 ならどっと FMpress 春夏号』

・特別陳列「お水取り」

会期	5年2月4日（土）～3月19日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、「お水取り」（お松明）を見に来る観光客。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	京都新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『関西ウォーカー2023春』
インターネットメディア	『神戸観光コンシェルジュ』、『アートアジェンダ』、『太平洋DCフォルテ』、『ウォーカープラス』、『JR西日本』、『じゃらんnet』　ほか
その他	『アートの旅　2023冬号』、『yomiっこ』2月号、『近鉄ニュース』2月号、『日経REVIVE』２月号、『電車＆ウォーク』12月号　ほか

・特集展示「新たに修理された文化財」

会期	5年2月21日（火）～3月19日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン、写真ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	『神戸観光コンシェルジュ』
その他	―

(2)特別展、共催展等

特別展　大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―

会期	4月23日(土)～6月19日(日)（51日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件　博物館、美術館、学校（幼・小・中・高・大）、ギャラリー、社寺、図書館、近隣商店街、文化施設、ホテル・旅館、報道・出版、旅行会社
交通広告	近鉄、Osaka Metro、奈良交通、阪急、JR
新聞・雑誌広告	読売テレビCM、NHKTVスポット
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、Twitter
その他	展覧会公式Twitter、奈良県サイネージ、奈良市サイネージ、MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	中外日報、朝日新聞、大阪民主新報
テレビ、ラジオ	NHK奈良「ならナビ」（4/16）、日曜美術館アートシーン（5/25）
雑誌	春ウォーカー、サライ4月号、歴史の旅人、yomiっこ、近鉄ニュース、月刊大和路ならら、旅の手帖、アゴラ、ノジュール、アートの旅、エクラ、週間文春、芸術新潮　ほか
インターネットメディア	じゃらんnet、アートアジェンダ、ウォーカープラス、美術展ナビ、gooニュース、インターネットミュージアム、なら旅ネット、神戸観光コンシェルジュ、SPICE、Fashion Press　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	リリース資料配信のみ（2月17日）
人数等	―

④報道内覧会	
実施日	4月22日
人数等	31媒体、48人出席

貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」

会期	7月16日（土）～8月28日（月）（39日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,750件　博物館、美術館、学校（幼・小・中・高・大）、ギャラリー、関連社寺、関連施設、図書館、近隣商店街、文化施設、ホテル・旅館、報道・出版、旅行会社
交通広告	近鉄、奈良交通
新聞・雑誌広告	読売新聞広告
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、Twitter
その他	展覧会公式Twitter、奈良県サイネージ、奈良市サイネージ、MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、浄土宗新聞、奈良新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	ゆうドキ！（5/11）、ならナビ（7/22）、日曜美術館アートシーン（8/7）、NHK、奈良テレビ放送　ほか
雑誌	ノジュール、月刊アゴラ、歴史人、関西夏ウォーカー、歴史の旅人、美術の窓、yomiっこ、月刊大和路ならら、月刊奈良、そらみつやまと　ほか
インターネットメディア	アートアジェンダ、ウォーカープラス、インターネットミュージアム、神戸観光コンシェルジュ、ぱーぷる、NARABURA、JR西日本おでかけネット、美術展ナビ、ならナビ
その他	―
③報道発表会	
実施日	第1弾：2月21日（リリース資料配信のみ）、第2弾：5月11日
人数等	14媒体、16名出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	7月15日
人数等	24媒体、34人出席

特別展「第74回正倉院展」

会期	10月29日（土）～11月14日（月）（17日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客向けにテレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件　博物館、美術館、学校（幼・小・中・高・大）、ギャラリー、社寺、図書館、近隣商店街、文化施設、ホテル・旅館、報道・出版、旅行会社
交通広告	近鉄、JR、Osaka Metro、奈良交通、東京メトロ
新聞・雑誌広告	読売新聞広告
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、Twitter
その他	公式サイト、公式Twitter、奈良県サイネージ、奈良市サイネージ、MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、奈良新聞、報知新聞、京都新聞　ほか
テレビ、ラジオ	ゆうドキ！（8/24）、ならナビ（8/9）、日曜美術館（11/6）、報道ランナー（10/28）、かんさい情報ネットten.　ほか
雑誌	月刊大和路ならら、歴史の旅人、月刊「潮」、刀剣界、アートコレクターズ、関西ウォーカー2023、月刊旅行読売、典藏古美術（台湾）　ほか
インターネットメディア	アートアジェンダ、美術展ナビ、日本の旅、Fashion Press、奈良市観光協会ウェブサイト、MIRAI、婦人画報JP、ええ古都なら、美術展ナビ、voice、ならめがね、ウェブ版「美術手帖」　ほか
その他	奈良まほろば館　パネル展示、講演会チラシ・ポスター（帝塚山大学担当）
③報道発表会	

実施日	リリース資料配信のみ（8月9日）
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	10月28日
人数等	28媒体、77人出席

式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」

会期	12月10日（金）～5年1月22日（日）（34日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件　博物館、美術館、学校（幼・小・中・高・大）、ギャラリー、関連社寺、関連施設、図書館、近隣商店街、文化施設、ホテル・旅館、報道・出版、旅行会社
交通広告	近鉄、Osaka Metro、阪急、阪神、JR
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回、紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、Twitter
その他	JR西日本「ちょこっと関西歴史たび」、奈良県サイネージ、奈良市サイネージ、MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	京都新聞、朝日新聞、読売新聞、産経新聞　ほか
テレビ、ラジオ	やさしいニュース（9/30）、NHKニュース（12/7）、ぐるっと関西おひるまえ（12/14）、abcニュース（12/25）　ほか
雑誌	『日経おとなのOFF』、月刊『目の眼』、『月刊大和路ならら』、月刊『潮』、『墨』、『美術展ぴあ』　ほか
インターネットメディア	『グノシー』、『美術展ナビ』、『アートアジェンダ』、『ニコニコニュース』、『朝日新聞デジタル』、『Yahoo!ニュース』、『神戸観光コンシェルジュ』　ほか
その他	『ザ・淀川』、『西Navi』、『アートの旅』、『リビング新聞』　ほか
③報道発表会	
実施日	9月30日
人数等	14媒体、18名出席（場所：春日大社）
④報道内覧会	
実施日	12月9日
人数等	30媒体、40人出席

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

・きゅーはく女子考古部プレゼンツ　かわいい考古学のススメ

会期	4月19日（火）～7月24日（日）（85日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ・バス停）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	NHK福岡「はっけんTV」、ケーブルステーション福岡、LOVE FM、RKBラジオ

雑誌	九州王国、月刊はかた
インターネットメディア	Walkerplus、西日本新聞me、イベントバンク、よかとこパスポート、福岡おでかけナビ、ARTNE、ファンファン福岡
その他	

・新収品展

会期	5月31日（火）～7月18日（月・祝）（43日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、佐賀新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「ふくサテ」
雑誌	―
インターネットメディア	西日本新聞me、ARTNE、ファンファン福岡
その他	

・ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2022～

会期	7月20日（水）～10月10日（月・祝）（70日間）※9月6日、18日、19日は台風の影響により臨時休館
ターゲット	一般の歴史ファン、文化財に関心のある一般市民、視覚に障がいのある人等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ）
新聞・雑誌広告	CROSSFM「わくわく課外授業」
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、WEBプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	ARTNE、西日本新聞me、イベントバンク、福岡おでかけナビ、よかとこパスポート、ファンファン福岡
その他	―

・沖ノ島祭祀を担った奉斎者たち

会期	9月21日（水）～12月4日（日）（66日間）※11月28日は臨時開館
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―

交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、Twitterでの情報発信
その他	WEBプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	RKB毎日放送「よんなび」
雑誌	―
インターネットメディア	Walkerplus、西日本新聞me
その他	―

・御所の器―公家山科家伝来の古伊万里―

会期	9月27日（火）～11月20日（日）（48日間）
ターゲット	一般の歴史・美術ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ・バス停）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	佐賀新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「太宰府・九博　散歩道」
雑誌	九州王国、月刊はかた、ぐらんざ、広報だざいふ、陶説
インターネットメディア	ARTNE、西日本新聞me、イベントバンク、福岡おでかけナビ、よかとこパスポート、Walkerplus、ファンファン福岡
その他	―

・いつもそばにいた　人と動物のアジア

会期	10月25日（火）～12月11日（日）（43日間）※11月28日は臨時開館
ターゲット	一般の歴史ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―

インターネットメディア	―
その他	―

・種子島―風と波が育んだ歴史―

会期	12月13日（火）～2月12日（日）（48日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ・バス停）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「太宰府・九博　散歩道」
雑誌	古代文化、九州王国、ぐらんざ、広報だざいふ、エスプレッソ
インターネットメディア	インフォメーションテクノロジー関西、イベントバンク、福岡おでかけナビ、ココシル福岡、ファンファン福岡
その他	―

・新春特別公開　徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度

会期	令和5年1月1日（日・祝）～1月29日（日）（26日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、漆工芸品ファン、太宰府天満宮参拝客等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ・バス停）、JR博多駅中央改札口マルチビジョン
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「太宰府・九博　散歩道」
雑誌	九州王国、ぐらんざ、美術の窓、美術館ぴあ
インターネットメディア	ファンファン福岡
その他	サンデン旅行

(2)特別展、共催展等

・北斎

会期	4月16日（土）～6月12日（日）（51日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、北斎ファン、日本美術ファン
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等

ポスター・チラシ・DM送付	約1,170件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等） 西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ）
新聞・雑誌広告	西日本新聞
テレビ広告	TVQ九州放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、美術新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送、TNCテレビ西日本、NHK、ケーブルステーション福岡、ニュースウォーカー、RKBラジオ、FM福岡
雑誌	九州王国、サンデー北九州、ぐらんざ、ミニコミまいんず、東経リビング、アートコレクターズ、美術の窓、99VIEW、クルメスタイル、muto、ゆうゆう、和楽、小さな蕾、地元新聞、ながさきプレス、日経トレンディ、芸術新潮、美術展ぴあ、ソラタネ、VOGUE JAPAN、muto、シティ情報ふくおか、FREE、月刊ぷらざほか
インターネットメディア	Walkerplus、ささっとー、JAFナビ、イベントバンク、よかとこパスポート、福岡おでかけナビ、even-f、W LIFE、ウェブ版美術手帖、VOGUE、紡ぐプロジェクト、アートニューズ、ARTNE、福岡観光連盟WEBサイト、美術展ナビ、アジアンビート、インフォメーションテクノロジー関西、シニアコム、ふくおかサポートネット　ほか
その他	大隅旅行、ナカノ商会
③報道発表会	
実施日	2月21日（月）
人数等	11媒体20名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	4月15日（金）
人数等	14媒体23名（場所：特別展示室）

・沖縄復帰50年記念　琉球

会期	7月16日（土）～9月4日（日）（45日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、沖縄ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,130件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等） 西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ）
新聞・雑誌広告	読売新聞、西日本新聞
テレビ広告	NHK
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出、WEBプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、西日本新聞、朝日新聞、琉球新報、沖縄タイムス、美術新聞、新婦人しんぶん
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送、NHK、ケーブルステーション福岡、NHKラジオ第一、RKBラジオ、FM福岡
雑誌	ホットペッパー、九州じゃらん、九州王国、ぐらんざ、東経リビング、ミニコミまいんず、七緒、月刊はかた、SKYWARD、off time、99VIEW、地元新聞、HOT PEPPER、遊人、刀剣春秋、小さな蕾、典蔵古美術、ファミ通、MOE、美術展ぴあ、日経トレンディ　ほか
インターネットメディア	ARTNE、アートアジェンダ、インターネットミュージアム、FASHION PRESS、JAFナビ、Walkerplus、九州サイト、ふくおかサポートねっと、インフォメーションテクノロジー関西、リロクラブ、西日本新聞me、にしてつnews、東京アートニュース、ウェブ版美術手帖、イベントバンク、よかとこパスポート、典蔵古美術、アートニューズ
その他	ナカノ商会
③報道発表会	
実施日	5月18日（水）
人数等	7媒体15名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	7月15日（金）
人数等	13媒体22名（場所：特別展示室）

・ポンペイ

会期	10月12日（水）～12月4日（日）（48日間)※11月28日は臨時開館
ターゲット	歴史及び美術ファン、考古学ファン、ポンペイファン
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,150件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等） 西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ）
新聞・雑誌広告	朝日新聞、西日本新聞
テレビ広告	NHK
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出、WEBプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞、中外日報
テレビ、ラジオ	NHK、ケーブルステーション福岡、TVQ九州放送「太宰府・九博　散歩道」、NHKラジオ第一、RKBラジオ
雑誌	遊人、九州じゃらん、muto、九州王国、月刊はかた、FREE、ミニコミまいんず、ぐらんざ、クルム、地元新聞、ライフさせぼ、クルメスタイル、美術展ぴあ、日経トレンディ
インターネットメディア	アートアジェンダ、インフォメーションテクノロジー関西、Walkerplus、クロスロードふくおか、九州サイト、ふくおかサポートねっと、ARTNE、イベントバンク、よかとこパスポート、福岡おでかけナビ、週刊じゃらん、コミュニティ八女、太宰府市HP、アートニューズ
その他	ナカノ商会、第一観光
③報道発表会	
実施日	9月1日（木）
人数等	4媒体9名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	10月11日（火）
人数等	11媒体19名（場所：特別展示室）

・加耶

会期	5年1月24日（火）～3月19日（日）（48日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、韓国ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,160件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等） 西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ）、JR博多駅中央改札口マルチビジョン
新聞・雑誌広告	西日本新聞
テレビ広告	TVQ九州放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、読売新聞、芸術新聞社
テレビ、ラジオ	ケーブルステーション福岡、TVQ九州放送「太宰府・九博　散歩道」
雑誌	muto、off time、クルメスタイル、ぐらんざ、地元新聞、エスプレッソ、歴史人、月刊はかた、ライフさせぼ、ながさきプレス、アートコレクターズ、FREE、東経リビング
インターネットメディア	アートアジェンダ、FASHION PRESS、コミュニティ八女、インフォメーションテクノロジー関西
その他	サンデン旅行
③報道発表会	
実施日	10月25日（火）
人数等	9媒体15名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	5年1月23日（月）

人数等	12媒体27名（場所：特別展示室）

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

会期	4月1日（木）～5年3月31日（木）（310日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、産経新聞、毎日新聞、朝日新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	NHK
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展等

・平城宮跡資料館 令和4年度 春期特別展
平城宮跡史跡指定100周年・奈良文化財研究所70周年記念 「未来につなぐ平城宮跡 －保存運動のあけぼの－」

会期	4月29日（金・祝）～ 6月12日（日）（40日間）※5月2日は臨時開館
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	627件(博物館・研究機関・教育委員会・神社、寺・大学・旅行会社・観光、報道関係等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、産経新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	NHK、奈良テレビ
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	4月28日
人数等	6媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・平城宮跡資料館 令和4年度 夏期企画展 「大地鳴動 -大地の知らせる危機と私たちの生活-」

会期	7月16日（土）～8月28日（日）（38日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	379件(博物館・研究機関・教育委員会・神社、寺・大学・旅行会社・観光、報道関係等)ポスターのみ送付
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、奈良新聞、朝日新聞、読売新聞、ならリビング
テレビ、ラジオ	NHK、奈良テレビ
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	7月15日
人数等	2媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・2022年度　秋期特別展 奈良文化財研究所70周年記念・平城宮跡史跡指定100周年記念
「地下の正倉院展 －平城木簡年代記〔クロニクル〕－」

会期	10月15日（土）～11月13日（日）（26日間）
ターゲット	木簡ファン、正倉院展愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	640件(博物館・研究機関・教育委員会・神社、寺・大学・旅行会社・観光、報道関係等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、奈良新聞、日本経済新聞、産経新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	NHK、奈良テレビ
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	10月4日
人数等	4媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・奈良文化財研究所70周年・平城宮跡史跡指定100周年記念特別展
「のこった奇跡　のこした軌跡－未来につなぐ平城宮跡－」

会期	10月29日(土) ～ 12月11日(日)（43日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	640件(博物館・研究機関・教育委員会・神社、寺・大学・旅行会社・観光、報道関係等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞、朝日新聞、産経新聞
テレビ、ラジオ	NHK、奈良テレビ
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	10月28日
人数等	3媒体（場所：平城宮跡歴史公園平城宮いざない館企画展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

会期	4月1日（金）～5年3月31日（金）（356日間）
ターゲット	特別史跡藤原宮跡等見学者、香具山等周辺遺跡への訪問者
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	新聞・インターネットメディア等で展示紹介記事掲載
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	旅行ガイドブック、奈良県ポータルサイト等に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	―
その他	橿原市観光案内所等にリーフレット配置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・速報展

①石神遺跡南北溝SD1347･SD1476出土土器（石神遺跡第8次・第9次）石神遺跡出土土器66点
②藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第205次）大極殿院出土瓦17点
③石神遺跡南北溝SD1347A出土土器（石神遺跡第14次・第15次）石神遺跡出土土器41点
④藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第208次）大極殿院出土凝灰岩1点・瓦15点

【飛鳥資料館】

(1)平常展

会期	4月1日（木）～5年3月31日（木）（307日間）
ターゲット	飛鳥を訪れる観光客、歴史・考古学の愛好家など
重点項目	広く一般のマスコミ、SNS、ウェブを通じた情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	るるぶ奈良、奈良散策情報、DOkka!おでかけ探検隊、まっぷる情報、おしごとはくぶつかん情報館、東海歴史散歩、ミュージアムカフェ　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、日本政府観光局グローバルサイト、るるぶウェブサイト、奈良のミュージアム
その他	―

(2)特別展等

・ミニ展示「飛鳥資料館に寄贈された瓦－瓦の花咲く飛鳥資料館－」

会期	4月22日（金）～5月22日（土）（28日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	広く一般のマスコミ、SNS、ウェブを通じた情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	
交通広告	
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	広報あすか
インターネットメディア	
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス　橿原
③報道発表会	
実施日	
人数等	
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・夏期企画展「第13回 写真コンテスト作品展「高松塚古墳」」

会期	7月15日（金）～9月11日（日）（51日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家、写真愛好家、飛鳥を散策したい観光客、
重点項目	写真投稿サイト、写真雑誌、地域の写真サークル、高校・大学の写真部などへの情報提供
特記事項	高松塚古墳壁画発見50周年記念
①広告・広報	

種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,026件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校(県内)・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、奈良新聞、毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	広報あすか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、チラシミュージアム、Dokka!おでかけ探検隊ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・秋期特別展「飛鳥美人　高松塚古墳の魅力」

会期	10月21日（金）～12月18日（日）（51日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	広く一般のマスコミ、SNS、ウェブを通じた情報提供
特記事項	高松塚古墳壁画発見50周年記念、奈良文化財研究所創立70周年
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,441件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校(県内)・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、奈良新聞、産経新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、チラシミュージアム、Dokka!おでかけ探検隊ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス　橿原
③報道発表会	
実施日	10月19日
人数等	7媒体（場所：飛鳥資料館特別展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・冬期企画展 「飛鳥の考古学2022」

会期	5年1月20日（金）～3月12日（日）（45日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	広く一般のマスコミ、SNS、ウェブを通じた情報提供
特記事項	奈良県立橿原考古学研究所、明日香村と共催
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,374件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校(県内)・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)

交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、奈良新聞、産経新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	NHK
雑誌	広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、チラシミュージアム、Dokka!おでかけ探検隊ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス　橿原
③報道発表会	
実施日	1月19日
人数等	7媒体（場所：飛鳥資料館特別展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

1-(3)-②-6 広報刊行物一覧

【本部】

刊行物名	発行部数	配布先
文化財活用センター事業報告書2021年度	200部	・視察者、関係施設等に配布 ・関係省庁等に配布
2021年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書	300部	・文化庁、首都圏小中学校、都道府県教育委員会、都道府県教育センター、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
2024年度　国立博物館収蔵品貸与促進事業実施対象館募集　チラシ	2,000部	・地方公共団体、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
デジタル法隆寺宝物館リーフレット（日英中韓）	日本語25,000部／英語3,000部 中国語1,500部／韓国語1,000部	・館内で来館者に無償配布
2023年度ぶんかつアウトリーチプログラム募集　パンフレット	3,000部	・首都圏小中学校、都道府県教育委員会、都道府県の教育センター、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
2023年度なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム募集　チラシ	1,000部	・近畿小中学校、都道府県教育委員会、都道府県の教育センター、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
あなたのもとに国宝が!?ぶんかつ文化財複製のお貸出し　チラシ	1,000部	・一般向け（機構内施設での配架分含む）に配布
2021年度公開シンポジウム「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」報告書	2,000部	・全国のミュージアム（（公財）日本博物館協会発行の『博物館研究』への同封、同協会主催の全国博物館大会での配布）、関係各施設に配布
文化財防災センターパンフレット2022年版（4月改訂）	2,200部	・国内の関係機関等に配布 ・奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」を通じて、WEB上にて公開
文化財防災センターパンフレット英語版	500部	・文化財防災センターWEBサイトにて公開
文化財防災救援基金リーフレット	1,000部	・マスコミ媒体に配布

【東京国立博物館】

刊行物名	発行部数		配布先
東京国立博物館ニュース	6・7・8月号	60,000部	来館者、マスコミ媒体（新聞・雑誌・放送局各社）、定期郵送希望者、友の会・賛助会等会員、キャンパスメンバーズ会員校、国内外の美術館・博物館・大学・研究所等に送付
	9・10・11月号	60,000部	
	12月・5年1・2月号	60,000部	
	5年3・4・5月号	60,000部	
東京国立博物館総合案内パンフレット 5年3月改訂	日本語	50,000部	館内で来館者に無償配布、ウェブサイトにPDFを掲出
	英語	20,000部	
	中国語（簡体字）	6,000部	
	中国語（繁体字）	4,000部	
	韓国語	4,000部	
	フランス語	2,000部	
	スペイン語	2,000部	
	ドイツ語	2,000部	

【京都国立博物館】

刊行物名	発行部数		配布先
京都国立博物館だより	214号（4・5・6月）	12,000部	館内で来館者に無償配布 新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
	215号（7・8・9月）	10,000部	
	216号（10・11・12月）	10,000部　増刷10,000部	
	217号（5年1・2・3月）	10,000部	
Kyoto National Museum Newsletter	Vol.153（4・5・6月）	3,000部	館内で来館者に無償配布
	Vol.154（7・8・9月）	3,000部	
	Vol.155（10・11・12月）	3,000部	
	Vol.156（5年1・2・3月）	3,000部	
2023年度年間スケジュール		15,000部	館内で来館者に無償配布 新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
京都国立博物館パンフレット2022		5,000部	来訪者に無償配布

【奈良国立博物館】

刊行物名	発行部数		配布先
奈良国立博物館だより （年4回）	春号	20,000部	美術館・博物館・学校・研究所・寄託者・寄贈者・郵送希望者等　約1,500件に発送
	夏号	20,000部	
	秋号	20,000部	
	冬号	20,000部	

刊　行　物　名	発 行 部 数	配　　布　　先
奈良国立博物館展示案内	20,000部 内容一部変更　15,100部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館リーフレット	3年度の残部を使用し新規印刷は無し	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　26,000部 中国語版（簡体字）　2,000部 中国語版（繁体字）　1,000部 韓国語版　2,000部 英語版　4,000部 ドイツ語版　1,000部 フランス語版　1,000部 スペイン語版　1,000部 合計　38,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、視察者等へ配布
文化交流展示室案内マップ	日本語版　5,117部 合計　5,117部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、視察者等へ配布
九州国立博物館概要	日本語版　1,800部 中国語版　200部 韓国語版　200部 英語版　300部 合計　2,500部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(64)号　50,000部 夏(65)号　45,000部 秋(66)号　45,000部 冬(67)号　45,000部 合計　185,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行　各号16,000部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館　2021年間スケジュール	10,000部	・館内で来館者に配布 ・近隣駅、観光案内所等で配布
学校利用ガイド	1,500部	・館内で来館した学校に配布 ・アウトリーチ活動（きゅーはくきゃらばん）で出向いた学校・イベント先で配布

1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数　　（後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(5) 国内外の博物館活動への寄与

1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与

1-(5)-①-1国内外の博物館等への収蔵品貸与件数

令和5年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		236	232	4	116	112	4	70	70	0	26	26	0	24	24	0
合　　計		1,579	1,560	19	1,075	1,056	19	263	263	0	113	113	0	128	128	0
絵画		417	417	0	253	253	0	103	103	0	31	31	0	30	30	0
書跡		122	122	0	50	50	0	38	38	0	13	13	0	21	21	0
彫刻		127	122	5	105	100	5	14	14	0	8	8	0	0	0	0
建築		7	7	0	4	4	0	0	0	0	2	2	0	1	1	0
金工		69	69	0	43	43	0	18	18	0	7	7	0	1	1	0
刀剣		13	13	0	8	8	0				5	5	0	0	0	0
陶磁		91	91	0	57	57	0	29	29	0	0	0	0	5	5	0
漆工		131	131	0	104	104	0	12	12	0	12	12	0	3	3	0
染織		42	42	0	9	9	0	21	21	0	6	6	0	6	6	0
考古		341	331	10	248	238	10	25	25	0	29	29	0	39	39	0
民族資料		45	45	0	38	38	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0
歴史資料		17	17	0	6	6	0	3	3	0	0	0	0	8	8	0
和書		37	37	0	30	30	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0
写真資料		11	11	0	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	9	9	0	9	9	0									
	書跡	9	9	0	9	9	0									
	彫刻	2	0	2	2	0	2									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	30	28	2	30	28	2									
	漆工	2	2	0	2	2	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	38	38	0	38	38	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品		11	11	0	11	11	0									
その他		8	8	0	8	8	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
貸与先件数		321	246	204	236	236
合　　計		1,858	1,488	1,235	1,688	1,579
絵画		586	416	278	405	417
書跡		83	46	67	74	122
彫刻		192	205	124	163	127
建築		13	13	16	9	7
金工		83	90	89	96	69
刀剣		97	35	26	30	13
陶磁		77	91	58	63	91
漆工		58	66	135	143	131
染織		89	66	105	142	42
考古		214	243	164	231	341
民族資料		36	0	0	60	45
歴史資料		26	39	33	24	17
和書		30	21	8	9	37
写真資料		0	28	0	0	11
東洋	絵画	20	20	30	23	9
	書跡	28	5	8	13	9
	彫刻	12	1	19	6	2
	金工	48	4	0	0	0
	陶磁	44	29	5	45	30
	漆工	2	2	2	4	2
	染織	3	0	0	0	0
	考古	94	28	22	55	38
	民族	10	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		11	0	43	47	0
黒田記念館収蔵品		2	40	3	18	11
その他		0	0	0	0	8

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品貸与先別件数

○所蔵品

令和5年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	191	1,309	111	1,011	38	123	19	76	23	99
国内	187	1,290	107	992	38	123	19	76	23	99
国・国立	39	299	27	244	8	39	2	4	2	12
地方・公立	107	808	56	608	20	54	13	64	18	82
私立団体	41	183	24	140	10	30	4	8	3	5
海外	4	19	4	19	0	0	0	0	0	0

○寄託品

令和5年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	73	270	19	64	32	140	11	37	11	29
国内	73	270	19	64	32	140	11	37	11	29
国・国立	15	99	7	41	3	47	2	4	3	7
地方・公立	38	92	7	8	17	32	7	31	7	21
私立団体	20	79	5	15	12	61	2	2	1	1
海外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(5)-①-3 海外への列品貸与

令和5年3月31日現在

【東京国立博物館】　海外貸与先　4件　　海外貸与文化財19件[うち寄託品0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
1	常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市)】	平成 14 年 1 月 1 日～4 年 12 月 31 日	2 件 東洋彫刻 2
2	常設展示「日本 仏教彫刻の世界」（長期貸与）	国立中央博物館（大韓民国ソウル市）	4 年 3 月 13 日～6 年 10 月 29 日	5 件 彫刻 5
3	「東方吉金―中韓日古代青銅器展」	中国国家博物館（中華人民共和国北京市）	4 年 7 月 27 日～10 月 30 日	10 件 考古 10
4	「朝鮮白磁大展」	リウム美術館（大韓民国ソウル市）	5 年 2 月 8 日～6 月 16 日	2 件 東洋陶磁 2

【京都国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【奈良国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【九州国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績

【京都国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	宮崎県立西都原考古博物館	6 月 7 日～5 年 3 月 31 日	2（186 点）	15
2	熊本県教育委員会	6 月 14 日～5 年 3 月 31 日	7（19 点）	11
3	京都大学総合博物館	6 月 10 日～5 年 3 月 31 日	6（10 点）	1

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等

1-(5)-②-1 国内外の博物館への援助・助言等に関する取組状況
（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

【東京国立博物館】122件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	公益財団法人三重県文化振興事業団	第72回みえ県展審査員	4月8日～6月15日	副館長　富田淳
2	福岡県立美術館	第77回福岡県美術展覧会審査員	8月1日～8月2日	副館長　富田淳
3	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	評議員	4月26日～5年3月31日	副館長　富田淳
4	公益財団法人日展	書部門審査員	10月13日～11月3日	副館長　富田淳
5	文化庁	第12回詩亭文化財企画・展示セミナー講師	6月6日	副館長　富田淳
6	公益財団法人日本博物館協会	棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員	7月20日	副館長　富田淳
7	文化庁	美術品補償制度部会専門調査会　委員	4月1日～5年3月31日	広報室長　鬼頭智美
8	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	新博物館の展示照明に関する指導監修	6月1日～10月30日	上席研究員　木下史青
9	宗教法人 平等院	平等院鳳凰堂のライトアップ器具の改修に関る対応・助言	9月1日～11月30日	上席研究員　木下史青
10	松戸市立博物館	改修工事設計･照明仕様に関わる助言	11月1日～5年3月31日	上席研究員　木下史青
11	一般社団法人アートパワーズジャパン	「“ACTIVATE” KOGEI(工芸)＋ART」展の企画に関わる助言	4月1日～11月30日	上席研究員　木下史青
12	一般社団法人 照明学会	2022年 照明デザイン賞 審査委員	4年1月1日～12月31日	上席研究員　木下史青
13	美術解剖学会	美術解剖学会 第28回美術解剖学会大会　大会実行委員長	7月16日	上席研究員　木下史青
14	大分県立歴史博物館	大分県立歴史博物館協議会委員	令和3年9月11日～令和5年9月10日	企画課長　原田あゆみ
15	茨城県立歴史館	茨城県立歴史館協議会委員	2022年4月1日～3月31日	企画課特別展室研究員　高橋真作
16	永青文庫	「永青文庫漆芸コレクション」展にかかる漆器の調査	2022年1月31日、2月18日、4月11日	企画課特別展室研究員　福島修
17	高梨学術奨励基金	定時理事会出席	5年3月16日	企画課特別展室研究員　福島修
18	大阪市美術館	展示改修に関する助言	8月2日	企画課デザイン室長　矢野賀一
19	札幌市役所	展示改修に関する助言	11月8日	企画課デザイン室長　矢野賀一
20	町田市国際工芸美術館	展示改修に関する助言	5年1月5日	企画課デザイン室長　矢野賀一
21	三の丸尚蔵館	展示改修に関する助言	5年1月30日	企画課デザイン室長　矢野賀一
22	モンゴル科学アカデミー	展示改修に関する助言	5年2月28日	企画課デザイン室長　矢野賀一
23	国際中央アジア研究所	展示改修に関する助言	5年1月24日	企画課デザイン室長　矢野賀一
24	公益財団法人大倉文化財団	講演「唐三彩の魅力と鑑賞の歴史について」 （企画展「合縁奇縁　大倉集古館の多彩な工芸品」にかかる講演会）	8月27日	企画課出版企画室主任研究員　三笠景子
25	文化庁	文化遺産オンライン多言語化推進事業審査委員会委員	9月2日～9月9日	企画課国際交流室長　楊鋭
26	東京都立上野高校	学校運営連絡協議会委員	4月1日～5年3月31日	博物館教育課長　鈴木みどり
27	SOMPO美術館	ボランティア運営、非来館者対応についての助言	6月2日	博物館教育課長　鈴木みどり
28	独立行政法人国立美術館	センサリーマップ制作の助言	10月26日	博物館教育課長　鈴木みどり、博物館教育課教育普及室アソシエイトフェロー増田万里奈
29	国立公文書館	博物館教育事業の運営について	5年3月13日	博物館教育課長　鈴木みどり
30	文化庁	国宝奈良県藤ノ木古墳出土品保存修理事業協力者会議にて助言・協力	委嘱した日から令和5年3月31日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
31	国立アイヌ民族博物館	国立アイヌ博物館運営会議内ワーキング会議構成員として助言・協力	委嘱した日から令和5年3月31日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
32	NHK	「ものすごい図鑑 文化財編」のうち「遮光器土偶」の監修	5月12日～	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
33	文化庁ほか	百田紙・杉原紙にかかる調査協力	9月5日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
34	筑前町議会議員	筑前町埋蔵文化財センター設置に伴う助言	9月22日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
35	沖縄県立博物館美術館	シンポジウム「守り継がれてきた琉球の文化」のパネリストとして協力	10月22日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
36	北谷町議会議員	「北谷町立博物館（仮称）」設置に伴う助言	11月7日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
37	明治大学博物館	考古資料の保存・収納にかかる助言	12月14日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
38	秋田県立近代美術館	「縄文　小川忠博写真展」の展示(展示具)にかかる助言	5年2月15日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
39	国立新美術館	特別展の運営に関する助言	5年2月27日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
40	阿寒アイヌコンサルン	アイヌ資料の展示や取り扱いに関する助言	5年3月11日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也

41	大阪市博物館機構	トーハクなびの開発、運用管理	5月20日	博物館教育課教育普及室アソシエイトフェロー　増田万里奈
42	小平市役所	小平市文化財保護審議会委員	3年4月1日～5年3月31日	上席研究員　勝木言一郎
43	情報科学技術協会	ISO/TC46/SC4 国内委員会	3年7月20日～6年3月31日	博物館情報課長　村田良二
44	文化庁	第12回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー講師	6月6日、8月1日	博物館情報課長　村田良二
45	国立美術館	国立新美術館HPリニューアル業務企画競争審査委員会委員	4月19日	博物館情報課長　村田良二
46	文化庁	美術館・博物館DX事業について	6月21日	博物館情報課長　村田良二
47	韓国国立古宮博物館	所蔵品データベースについて	11月28日	博物館情報課長　村田良二
48	玉川大学教育博物館	博物館のDXについて	5年2月14日	博物館情報課長　村田良二
49	一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会	アーバンデータチャレンジ実行委員	4年7月1日～5年3月末	博物館情報課情報管理室長阿児雄之
50	文化庁	令和4年度博物館等の国際交流の促進事業選定委員会委員	4年4月12日～5年3月31日	博物館情報課情報管理室長阿児雄之
51	文化庁	美術館DXによる管理適正化・市場活性化事業審査員	4年10月11日～5年3月31日	博物館情報課情報管理室長阿児雄之
52	泉大津市立図書館	図書館協議会委員	4年3月1日～6年2月29日	博物館情報課情報管理室長阿児雄之
53	東京大学史料編纂所	共同研究員	4月1日～5年3月31日	博物館情報課情報資料室主任研究員　遠藤楽子
54	図書館等公衆送信サービスに関する関係者協議会（文化庁、国立国会図書館、専門図書館協議会）	著作権法改正を受けて図書館資料の公衆送信サービスに関する実務者協議・調整（オブザーバー参加）	10月15日～	博物館情報課情報資料室長山﨑美和
55	公益財団法人日本博物館協会	著作権法改正による公衆送信サービスの導入に向けたアンケートについて	5年12月1日～12月8日	博物館情報課情報資料室長山﨑美和
56	愛知県教育委員会	愛知県文化財保護審議会委員	4月1日～5年3月31日	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子
57	埼玉県歴史と民俗の博物館	埼玉県資料評価委員	4月1日～5年3月31日	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子
58	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会第六専門調査会）	4月1日～5年3月31日	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子
59	文化庁	文化財買取評価員	11月25日、5年1月12日	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子
60	文部科学省	教科用図書検定調査審議会臨時委員	4月1日～5年3月31日	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子
61	新宿区	新宿区文化財保護審議会委員	3年12月1日～5年11月30日	特任研究員　田沢裕賀
62	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月15日～5年3月31日	特任研究員　田沢裕賀
63	宮内庁三の丸尚蔵館	作品修理指導	6月30・7月1日、5年1月31日・2月1日	特任研究員　田沢裕賀
64	千葉市	千葉市美術品等収集審査会委員	3年1月7日～7年1月6日	特任研究員　田沢裕賀
65	東京都江戸東京博物館	資料収蔵委員会委員	3年9月1日～5年8月31日	特任研究員　田沢裕賀
66	名古屋市	金シャチ横丁博物館構想　有識者	4年3月22日～5年3月31日	特任研究員　田沢裕賀
67	文京区立森鷗外記念館	運営協議会委員	4月～5年3月	特任研究員　田良島哲
68	町田市立博物館	運営委員	～5年6月30日	特任研究員　今井敦
69	白鶴美術館	磁州窯のやきもの	5月5日	特任研究員　今井敦
70	石川県九谷焼美術館	日本陶磁のオリジナリティー―中国陶磁と比較して	11月19日	特任研究員　今井敦
71	国宝修理装潢師連盟	資格試験委員	3年4月1日～5年3月31日	列品管理課長　沖松健次郎
72	筑波大学	集中講座講師	9月1日～10月31日	列品管理課長　沖松健次郎
73	経団連	文化講座講師	5年1月18日	列品管理課長　沖松健次郎
74	刈谷市歴史博物館	文化財調査（甲冑）	7月11日	列品管理課登録室長　佐藤寛介
75	岡山県教育委員会	岡山県文化財保護審議会	10月6日、12月8日、5年2月1日	列品管理課登録室長　佐藤寛介
76	岡山城	文化財調査（刀剣）	1月27日	列品管理課登録室長　佐藤寛介
77	津山市教育委員会	文化財講座	2月25日	列品管理課登録室長　佐藤寛介
78	村上海賊ミュージアム	文化財講習（刀剣と甲冑）	5年3月9日～10日	列品管理課登録室長　佐藤寛介
79	JICA、パレスチナ観光遺跡庁	文化遺産と保全および観光利用に関する助言	7月28日	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造
80	石山寺	所蔵絵画作品調査	12月25日	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一
81	文化庁	重要文化財紙本著色歓喜天霊験記（伝天神縁起）保存修理事業における審査委員	4月1日～5年3月31日	調査研究課絵画・彫刻室長土屋貴裕
82	福岡市美術館	「国宝鳥獣戯画と愛らしき日本の美術」展にかかる展示指導	8月30日、9月12日	調査研究課絵画・彫刻室長土屋貴裕
83	さいたま市岩槻人形博物館	展示指導	11月7日	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希
84	さいたま市岩槻人形博物館	展示指導	9月21日	調査研究課絵画・彫刻室研究員 大橋美織

85	茨城県立博物館	特別展「華麗なる明治―宮廷文化のエッセンス―」にかかる展示指導	4月12日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
86	文化庁	文化審議会専門委員（文化財部会）	4年4月15日～5年3月31日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
87	静岡県庁	静岡県文化財保護審議委員	4年1月1日～5年12月31日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
88	長岡造形大学	令和4年度大学院修士課程特別研究審査委員会委員	6月22日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
89	公益財団法人　日本工芸会	第69回日本伝統工芸展第一次鑑査委員	7月26日、27日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
90	文化庁	無形文化財工芸技術資料買取評価委員	8月23日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
91	佐賀県立名護屋城博物館	「黄金の茶室」復元記念特別企画展「肥前名護屋の桃山文化－はじまりの地、名護屋－」展にかかる展示指導	10月11日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
92	飯能・長念寺	寺宝染織（袈裟・打敷）の調査およびその保管に関する助言	5年2月7日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
93	国立歴史民俗博物館	展示プロジェクト委員	4月1日～5年3月31日	調査研究課工芸室主任研究員　清水健
94	五條市	五條市史編集委員会専門部会員（美術工芸部会）	3年11月～5年3月	調査研究課工芸室主任研究員　清水健
95	公益財団法人大倉文化財団	「信仰の美展　みどころトーク～国宝〈普賢菩薩騎象像〉を中心に～」	12月23日	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統
96	沖縄県立博物館・美術館	民俗資料の修理に関する助言	11月2日	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄
97	明治大学博物館	文化財の輸送・展示に関する助言	10月25日	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄
98	東久留米市文化財保護審議委員	文化財の指定、助言	委嘱した日から、令和5年8月1日	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄
99	東久留米市埋蔵文化財調査団	市内の発掘調査に関する指導・助言	4月1日～5年3月31日	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄
100	文化庁	文化財買取にかかる文化財評価委員	12月14日	調査研究課東洋室主任研究員　児島大輔
101	足利市立美術館	特別展「「あしかがの歴史と文化再発見！－文化の力よ、つづけ、これからも－」開催にかかる作品撤収・梱包作業の立会・助言	10月12日	調査研究課東洋室主任研究員　児島大輔
102	サントリー美術館	特別展「美をつくし―大阪市立美術館コレクション」開催にかかる助言および図録執筆	9月14日～11月13日	調査研究課東洋室主任研究員　児島大輔
103	文化庁	文化財買取評価員	11月25日	調査研究課東洋室研究員　六人部克典
104	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会保存環境ワーキンググループ専門委員	4月1日～5年3月31日	保存修復課長　和田浩
105	国立民族学博物館	共同研究員(研究課題「博物館における持続可能な資料管理および環境整備--保存科学の視点から」)	4月1日～5年3月31日	保存修復課長　和田浩
106	日本包装学会	学会誌の査読	11月8日～11月17日	保存修復課長　和田浩
107	長崎歴史文化博物館	キリシタン関係遺品の修理および保管環境に関する協議	5年1月18日、5年3月17日	保存修復課長　和田浩
108	島根県教育委員会	世界遺産室客員研究員	3年5月6日～6年3月31日	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
109	国立民族学博物館	国立民族学博物館共同研究員	4月1日～5年3月31日	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
110	法隆寺	「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画ワーキング･グループ(材料調査班)専門委員	4月1日～5年3月31日	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
111	国立アイヌ民族博物館	列品等修理請負候補者選定委員会委員	5年3月2日～5年3月10日	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
112	鎌倉市教育委員会	鎌倉市文化財専門委員会	2年6月1日～7年5月31日	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
113	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会・壁画ワーキンググループ・美術史班	4月1日～5年3月31日	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
114	日本学術会議	連携会員	2年10月1日～7年9月30日	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
115	鎌倉国宝館	鎌倉国宝館協議会委員	3年11月15日～5年11月14日	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
116	郡山市文化スポーツ部文化振興課	地域文化財の修理に関する相談	6月13日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
117	NPO文化財保存支援機構	水損した複合材料資料（民俗）の安定化処置に関する相談	7月14～22日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
118	東京芸術大学大学院　文化財保存学専攻保存修復工芸研究室	保存修復分野のキャリアパスに関する講義	11月24日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
119	Museum of Fine Arts, Boston /Abby Hykin	日本彫刻修理に使用する材料や道具に関する意見交換	11月28日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
120	長崎歴史文化博物館	キリシタン関係遺品の修理および輸送に関する協議	5年1月18日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
121	公益財団法人大倉文化財団	大倉集古館所蔵品（中国染織）に関する調査	5月17日	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり
122	佐賀県立名護屋城博物館	展示指導	11月9日	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり

【京都国立博物館】131件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	京都国立近代美術館	評議員	4月～5年3月	館長　松本伸之
2	公益社団法人日本工芸会	運営委員	4月～5年3月	館長　松本伸之
3	公益社団法人日本工芸会	顧問	4月～5年3月	館長　松本伸之
4	奈良国立博物館	評議員	4月～5年3月	館長　松本伸之
5	日本イタリア会館	顧問	4月～5年3月	館長　松本伸之

6	公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー　古典の日推進委員会	特別委員	4月～5年3月	館長　松本伸之
7	国立大学法人奈良国立大学機構	経営協議会委員	4月～5年3月	館長　松本伸之
8	奈良県	文化財保護体系推進会議委員	4月～5年3月	館長　松本伸之
9	京都美術工芸大学	外部評価委員	令和4年10月18日	館長　松本伸之
10	花園大学	非常勤講師	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
11	ICOM日本委員会	ICOM日本委員会理事就任	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
12	田川市教育委員会	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
13	国際基督教大学	非常勤講師	9月～11月	副館長　栗原祐司
14	日本博物館協会	理事	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
15	大阪市経済戦略局	大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会委員	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
16	人権ネットを活用した地域活性化事業実行委員会	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会実行委員	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
17	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員会委員	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
18	文化庁	文化財修理センター(仮称)の在り方に関する検討会委員	7月11日～5年3月	副館長　栗原祐司
19	独立行政法人国際協力機構理事	エジプト国「大エジプト博物館開館支援合同保存修復プロジェクト」にかかる国内支援委員会委員	5年1月～5年3月	副館長　栗原祐司
20	日本公開天文台協会	日本公開天文台協会　第16回全国大会パネラー	令和4年6月28日	副館長　栗原祐司
21	文化庁文化財第一課	第12回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー講師	令和4年8月1日	副館長　栗原祐司 学芸部保存科学室長　降幡順子
22	文化庁文化財第一課	文化財修理センター（仮称）の検討に関する協力者会合（第2回）出席	令和4年8月24日	副館長　栗原祐司 学芸部長　尾野善裕
23	文化庁文化財第一課	文化財修理センター（仮称）の検討に関する協力者会合（第3回）出席	令和4年9月14日	副館長　栗原祐司 学芸部長　尾野善裕
24	文化庁文化財第一課	文化財修理センター（仮称）の検討に関する協力者会合（第4回）出席	令和4年11月22日	副館長　栗原祐司 学芸部長　尾野善裕
25	岡山県博物館協議会	令和4年度岡山県博物館協議会第2回研修会講師	5年3月10日	副館長　栗原祐司
26	野崎家塩業歴史館	評議員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
27	公益財団法人大和文華館	公益財団法人大和文華館評議員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
28	公益財団法人樂美術館	公益財団法人樂美術館作品購入委員会委員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
29	西尾市教育委員会	西尾市史特別執筆員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
30	大阪市教育委員会	大阪市文化財保護審議会委員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
31	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
32	九州国立博物館	九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
33	岐阜市	史跡岐阜城跡整備委員会委員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
34	京都大学大学院人間・環境学研究科	客員教授・客員准教授	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕 学芸部上席研究員　淺湫毅 学芸部企画室長　山川曉 学芸部教育室長　永島明子 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
35	文化庁文化財第一課	文化財修理センター（仮称）の検討に関する協力者打合せ出席	5年3月13日	学芸部長　尾野善裕
36	京都美術工芸大学	非常勤講師	10月～5年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅
37	日本学術振興会	特別研究員等審査会専門委員 国際事業委員会書面審査員・書面評価委員	4月～6月	学芸部上席研究員　淺湫毅
38	静岡市教育委員会	静岡市文化財保護審議会委員	4月～5年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅
39	公益財団法人祇園祭山鉾連合会	「祇園祭山鉾装飾品等専門委員」	4月～5年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅 学芸部企画室長　山川曉
40	三十三間堂本坊妙法院門跡	講演講師	令和4年10月16日	学芸部上席研究員　淺湫毅
41	智山専修学院	智山専修学院特別講義	令和4年7月15日	学芸部上席研究員　淺湫毅
42	静岡市	令和4年度第3回静岡市文化財保護審議会出席	5年3月24日	学芸部上席研究員　淺湫毅
43	京都府教育委員会	京都府文化財保護審議会委員	4月～5年3月	学芸部企画室長兼工芸室長 山川曉
44	滋賀県	滋賀県文化財保護審議会委員	4月～5年3月	学芸部企画室長兼工芸室長 山川曉
45	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月～5年3月	学芸部企画室長兼工芸室長 山川曉
46	文化庁	「重要文化財　能装束　繍箔葭水禽文復元模造事業」における審査委員	7月～5年3月	学芸部企画室長兼工芸室長 山川曉
47	日本染織作家協会	第46回日本染織作家展審査委員	平成17年3月8日	学芸部企画室長兼工芸室長 山川曉
48	高向区長	御頭神事地域伝統行事等のための伝承事業への指導等	令和4年6月16日	学芸部企画室長　山川曉

49	刈谷市歴史博物館	「鉄錆地塗紺糸縅塗込仏胴具足・尉頭形兜　調査報告書」にかかる調査	令和4年7月15日	学芸部企画室長　山川曉
50	三重県伊勢市高向区	第2回御頭神事用具類製作指導委員会出席	5年1月13日	学芸部企画室長兼工芸室長 山川曉
51	園城寺	国宝智証大師関係文書典籍保存活用専門委員会委員	4月～5年3月	学芸部列品管理室長兼美術室長　羽田聡
52	真宗大谷派	宗宝宗史蹟保存会委員	4月～6月	学芸部列品管理室長兼美術室長　羽田聡
53	近畿大学	非常勤講師	4月～5年3月	学芸部列品管理室長兼美術室長　羽田聡
54	文化庁	福井崇蘭館本医学書43新編証類図註本草22冊及び121経史証類備急本草6冊保存修理事業における審査委員	4月～5年3月	学芸部列品管理室長兼美術室長　羽田聡
55	公益財団法人石水博物館	展覧会記念シンポジウム　講師	令和4年10月30日	学芸部列品管理室長兼美術室長　羽田聡
56	三重県教育委員会	三重県文化財保護審議会委員	4月～5年3月	学芸部教育室長　永島明子
57	同志社大学	嘱託講師	4月～9月	学芸部教育室長　永島明子
58	三十三間堂本坊妙法院門跡	講演講師	令和4年11月27日	学芸部教育室長兼工芸室 永島明子
59	国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館	特別展「日本のうるし工芸」関連公開講座講師	5年1月28日	学芸部教育室長兼工芸室 永島明子
60	公益財団法人秋水美術館	評価選定委員	10月～5年3月	学芸部調査・国際連携室長 降矢哲男
61	三十三間堂本坊妙法院門跡	講演講師	平成17年3月19日	学芸部調査・国際連携室長 降矢哲男
62	公益財団法人歴史のみえるまちづくり協会	福井市愛宕坂茶道美術館講演講師	令和4年4月17日	学芸部調査・国際連携室長 降矢哲男
63	宗教法人護国院	紀三井寺地蔵菩薩立像修理委員会委員	4月～9月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
64	宗教法人四天王寺	国宝扇面法華経冊子保存修理委員会専門委員	4月～5年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
65	佛教大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
66	文化庁	「延暦寺所有重要文化財　絹本著色山王本地仏像一幅復元模写模造事業」審査委員	8月～5年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
67	阿波市教育委員会	聖幢寺所蔵仏画調査	8月2日～3日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
68	三十三間堂本坊妙法院門跡	講演講師	令和4年9月18日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
69	「西田天香・杉本哲郎顕彰事業」実行委員会	講演講師	令和4年11月19日	学芸部保存修理指導室長 大原義豊
70	智山専修学院	智山専修学院特別講義	令和5年8月14日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
71	浄土宗芸術家協会京都支部	浄土宗芸術家協会京都支部研修会講師	令和4年7月26日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
72	京都市立銅駝美術工芸高等学校	「文化財修理の最先端」出張講義	令和4年8月30日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊 学芸部列品管理室研究員 森道彦
73	越前市教育委員会	令和4年度第1回越前市文化財保護委員会出席	令和4年11月17日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
74	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ専門委員	令和4年12月14日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
75	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ専門委員調査派遣	5年1月25日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
76	越前市教育委員会	令和4年度第2回越前市文化財保護委員会出席	5年3月13日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
77	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」ワーキンググループ全体会合専門委員の会議参加	5年3月18日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
78	鳥取県地域づくり推進部	とっとり弥生の王国調査整備活用委員会委員	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
79	同志社女子大学	嘱託講師	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
80	公益財団法人長浜曳山文化協会	月宮殿見送幕飾房および鳳凰山見送幕飾房修理委員	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
81	浄土宗総本山知恩院	浄土宗総本山「知恩院文化財保存委員」	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
82	丸亀市教育委員会	丸亀市史跡快天山古墳保存整備委員会委員	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
83	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキンググループ（材料調査班）専門委員	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
84	日本文化財科学会	日本文化財科学会評議員	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
85	日本文化財科学会	日本文化財科学会会計監査	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
86	神戸大学	非常勤講師	8月	学芸部保存科学室長　降幡順子
87	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	上庄田瓦窯出土鴟尾の胎土分析	8月3日	学芸部保存科学室長　降幡順子
88	立命館大学歴史都市防災研究所	立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修講師	9月22日	学芸部保存科学室長　降幡順子
89	鳥取県立青谷高等学校	ガラスづくり体験　講師	11月17日	学芸部保存科学室長　降幡順子
90	兵庫県立人と自然の博物館	兵庫県立人と自然の博物館協議会委員	4月～5年3月	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
91	大阪成蹊大学	非常勤教員	4月～9月	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
92	京都工芸繊維大学	非常勤講師	9月～5年3月	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希

93	大阪府教育委員会	大阪府文化財保護審議委員会委員	4月～7月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
94	四万十市教育委員会	四万十市指定文化財七星剣調査委員会委員	11月～5年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
95	読売・日本テレビ文化センター	講義講演	4月～5年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
96	京田辺市史編さん委員会	京田辺市史編さん専門部会会員	4月～5年3月	学芸部美術室主任研究員 福士雄也
97	京都橘大学	非常勤講師	9月～5年3月	学芸部美術室主任研究員 福士雄也
98	京都芸術大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部美術室主任研究員 福士雄也
99	彦根市	旧井伊神社修復検討委員会委員	11月～5年3月	学芸部美術室主任研究員 福士雄也
100	文化庁	重文紙本著色歓喜天霊験記（伝天神縁起）保存修理事業審査委員	4月～5年3月	学芸部企画室研究員　井並林太郎
101	鳥取市教育委員会	大雲院資料調査委員会委員	4月～5年3月	学芸部美術室研究員　上杉智英
102	佛教大学	非常勤講師	4月～5年3月	学芸部調査・国際連携室研究員　上杉智英
103	龍谷大学世界仏教文化研究センター	2022年度客員研究員	4月～5年3月	学芸部調査・国際連携室研究員　上杉智英
104	京都美術工芸大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部美術室研究員　森道彦
105	京都大学大学院	非常勤講師	10月～5年3月	特任研究員　宮川禎一
106	國學院大學	客員教授	4月～5年3月	研究員　古谷毅
107	國學院大學	非常勤講師	4月～5年3月	研究員　古谷毅
108	聖心女子大学	非常勤講師	4月～5年3月	研究員　古谷毅
109	野田市	野田市史編さん委員会専門委員	4月～5年3月	研究員　古谷毅
110	和歌山県教育委員会	和歌山県教育委員会書簡公募型プロポーザル方式等事業者選定委員会委員	9月～5年3月	研究員　古谷毅
111	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」アーカイブワーキンググループ専門委員	4月～5年3月	学芸部列品管理室専門職員 岡田愛
112	京都市立芸術大学	非常勤講師	9月～5年3月	学芸部調査・国際連携室主任専門職　リンネ マリサ
113	京都アメリカ大学コンソーシアム	非常勤講師	5年1月～3月	学芸部調査・国際連携室主任専門職　リンネ マリサ
114	奈良大学	科学研究費研究補助業務	4月～5年3月	学芸部企画室アソシエイトフェロー　青木麻佑花
115	大阪読売サービス株式会社	講演講師	5月22日、6月26日	学芸部企画室研究員　井並林太郎
116	大阪読売サービス株式会社 大阪よみうり文化センター	講演講師	10月26日	学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦
117	読売・日本テレビ文化センター	講演講師	12月14日	学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦
118	株式会社クリエイティブネクサス	番組出演	2月18日	学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦
119	公益財団法人永青文庫	令和4年度永青文庫早春展講演会講師	2月18日	学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦
120	後鳥羽院顕彰事業実行委員会	講演講師	3月12日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
121	姫路市立美術館	令和4年度第1回姫路市立美術館美術品評価委員会出席	8月23日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
122	文化庁文化財第一課	国宝・重要文化財の写真撮影	10月31日	学芸部列品管理室専門職員 岡田愛
123	京都女子大学	講義「教養科目C（英語で京都を学ぶ）」講師	11月10日	学芸部調査・国際連携室主任専門職　リンネ マリサ
124	京都府立嵯峨野高等学校	令和4年度京都府立嵯峨野高等学校課題研究発表に係る指導助言	11月18日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
125	文化庁	文化財の買取評価員	12月2日	学芸部列品管理室研究員 森道彦
126	京都大学	日本文化研修「京都国立博物館見学」講師	5年1月11日	特任研究員　宮川禎一 研究員　古谷毅
127	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館総合評価審査委員会書面審査	5年2月上旬～中旬	総務課長　阿部勝
128	姫路市立美術館	令和4年度第2回姫路市立美術館美術品評価委員会出席	5年2月27日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
129	兵庫県立人と自然の博物館	令和4年度兵庫県立人と自然の博物館協議会出席	5年2月28日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
130	滋賀県立美術館	「滋賀県立美術館学芸課向上プログラム」講師	5年3月7日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
131	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」ワーキンググループ全体会合専門委員の会議参加	5年3月18日	学芸部列品管理室専門職員 岡田愛

【奈良国立博物館】67件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	奈良県文化・教育・くらし創造部	なら歴史芸術文化村コミッション委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
2	文部科学省日本ユネスコ国内委員会	ユネスコ国内委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
3	ICOM日本委員会	ICOM日本委員会理事	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一

4	一般財団法人仏教美術協会	評議員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
5	奈良県	奈良県文化振興戦略懇話会委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
6	公益財団法人松伯美術館	理事	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
7	公益財団法人大和文華館	理事	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
8	公益財団法人仏教美術研究上野記念財団	評議員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
9	公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館	理事	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
10	公益財団法人日本博物館協会	参与	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
11	京都国立博物館	評議員会評議員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
12	宮内庁	正倉院懇談会会員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
13	島根県教育委員会	島根県文化財保護審議会委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
14	奈良県立橿原考古学研究所	共同研究員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
15	一般財団法人東京国立博物館協力会	非常勤評議員	6月21日～5年3月31日	館長　井上洋一
16	公益社団法人新宿未来創造財団	講師	10月1日	館長　井上洋一
17	公益社団法人日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
18	文部科学省	「世界の記憶」国内案件に関する審査委員会審査委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
19	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
20	公益社団法人日本工芸会	顧問	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
21	文部科学省	文化審議会委員　文化功労者選考分科会	9月2日～5年3月31日	館長　井上洋一
22	國學院大學	非常勤講師	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
23	奈良県	奈良公園観光地域活性化総合特区　地域協議会	4月1日～5年3月31日	副館長　園邊邦輝
24	奈良県文化・教育・くらし創造部	なら歴史芸術文化村修復工房使用者等選定委員会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部長　吉澤悟
25	公益財団法人大和文華館	評議員	4月1日～5年3月31日	学芸部長　吉澤悟
26	京都国立博物館	文化財保存修理所運営委員会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部長　吉澤悟
27	九州国立博物館	文化財保存修復施設運営委員会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部長　吉澤悟
28	鳥取県	鳥取県文化財保護審議会委員	4月1日～5年3月31日	企画室長　中川あや
29	橋本市教育委員会	隅田八幡神社経塚遺跡出土品（銅鏡）の検討、発掘調査報告書作成に関する助言	9月1日、9月4日、12月1日	企画室長　中川あや
30	大分県教育委員会	文化財保護審議会臨時委員	11月7日、12月27日	企画室長　中川あや
31	松本市美術館	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」展示・撤収作業に関する指導助言	4月16日～4月18日、6月13日～6月15日、6月20日～6月21日	企画室長　中川あや、研究員　三本周作
32	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会　アーカイブ・ワーキンググループ専門委員	4月1日～5年3月31日	情報サービス室長　宮崎幹子
33	京都府立大学	非常勤講師	10月1日～5年3月31日	情報サービス室長　宮崎幹子
34	天理市教育委員会	天理市文化財保護審議会委員	4月1日～5年3月31日	教育室長　谷口耕生
35	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会　壁画ワーキング・グループ（美術史班）専門委員	4月1日～5年3月31日	教育室長　谷口耕生
36	神戸大学	国立大学法人神戸大学大学院人文学研究科　教授	4月1日～5年3月31日	教育室長　谷口耕生
37	愛知県立芸術大学	非常勤講師	4月1日～5年3月31日	教育室長　谷口耕生
38	三重県	文化財保護審議会委員	9月24日～5年3月31日	教育室長　谷口耕生
39	東北歴史博物館	東日本大震災復興祈念　特別展「悠久の絆　奈良・東北のみほとけ展」開催にかかる指導助言	4月1日～5年3月31日	教育室長　谷口耕生、美術室長　岩井共二、資料室長　野尻忠
40	園城寺	国宝智証大師関係文書典籍保存活用専門委員会	4月1日～5年3月31日	資料室長　野尻忠
41	奈良女子大学	奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科客員教授	4月1日～5年3月31日	資料室長　野尻忠
42	国立大学法人　東京大学	東京大学史料編纂所特定共同研究研究員	4月1日～5年3月31日	資料室長　野尻忠
43	東京国立博物館	共同研究（特別調査会「書跡」）	11月1日～11月2日	資料室長　野尻忠、列品室長　斎木涼子
44	文化庁	仁和寺聖教調査	7月26日、7月28日、7月29日	資料室長　野尻忠、列品室長　斎木涼子
45	仁和寺	所蔵史料確認調査への協力	5年3月27日、3月28日	資料室長　野尻忠、列品室長　斎木涼子
46	富山市郷土博物館	収蔵予定資料の価格評価	6月7日～6月30日	列品室長　斎木涼子
47	山口市教育委員会	山口市文化財審議会委員	4月1日～5年3月31日	美術室長　岩井共二

48	神戸大学	国立大学法人神戸大学大学院人文学研究科　教授	4月1日～5年3月31日	美術室長　岩井共二
49	国立大学法人奈良女子大学	非常勤講師	4月1日～5年3月31日	美術室長　岩井共二
50	渋谷区立松濤美術館	特別展「SHIBUYAで仏教美術―奈良国立博物館コレクションより」彫刻作品の展示指導	4月6日、5月30日	美術室長　岩井共二
51	渋谷区立松濤美術館	特別展「SHIBUYAで仏教美術―奈良国立博物館コレクションより」記念講演会講師	4月24日	美術室長　岩井共二
52	北海道立近代美術館	「聖徳太子1400年御遠忌記念　国宝・法隆寺展」輸送・展示作業に関する指導助言	8月28日～9月4日、10月2日～10月4日、10月30日～11月3日、11月28日	美術室長　岩井共二、教育室長　谷口耕生、主任研究員　三田覚之
53	奈良大学	博物館実習講演会講師	6月11日	保存修理指導室長　荒木臣紀
54	特定非営利活動法人　文化財保存支援機構	会員	4月25日～5年3月31日	保存修理指導室長　荒木臣紀
55	国立大学法人奈良女子大学	非常勤講師	4月1日～5年3月31日	主任研究員　北澤菜月
56	文化庁	審査委員	8月31日～5年3月31日	主任研究員　北澤菜月
57	国立大学法人奈良女子大学	非常勤講師	4月1日～9月30日	主任研究員　山口隆介
58	高野山大学	非常勤講師	4月1日～5年3月31日	主任研究員　山口隆介
59	三重県総合博物館	第32回企画展「三重の円空」出品文化財の借用及び返却にかかる指導	9月28日、12月9日	主任研究員　山口隆介
60	東京国立博物館	寄贈品に関する調査研究	6月15日	主任研究員　三田覚之
61	奈良県立橿原考古学研究所	藤ノ木古墳出土品検討会	5年3月8日	主任研究員　三田覚之
62	東京国立博物館	修理監督	5年3月30日	主任研究員　三田覚之
63	栃木県立博物館	特別企画展にかかる展示撤収作業への助言・指導	9月12日～9月13日、10月30日～11月1日	教育室長　谷口耕生、研究員　内藤航
64	群馬県立歴史博物館	第107回企画展で展示する資料の展示・撤収指導	10月3日、11月28日	研究員　三本周作
65	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会　アーカイブ・ワーキンググループ専門委員	4月1日～5年3月31日	資料室員　西川夏永
66	宗教法人宝泰寺	講師	5月21日	アソシエイトフェロー　伊藤旭人
67	SBS学苑	講師	5月21日	アソシエイトフェロー　伊藤旭人

【九州国立博物館】97件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	公益財団法人陽明文庫	理事	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
2	西南学院大学博物館	協議会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
3	九州ベトナム友好協会	特別顧問	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
4	公益社団法人日本伝統工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
5	外務省	日米文化教育交流会議(カルコン)パネル委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
6	一般財団法人　公園財団	研究顧問	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
7	学校法人九州学園	理事・評議員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
8	文化庁	文化庁「日本博」企画委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
9	福岡市博物館	協議会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
10	公益財団法人土佐山内記念財団	高知城歴史博物館　研究顧問	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
11	光村図書出版	高校教科用図書「書道」編集委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
12	独立行政法人日本芸術文化振興会	独立行政法人日本芸術文化振興会・日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業に関する審査・評価委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
13	福岡文化財団	評議員選定委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
14	福岡県	福岡県文化芸術振興審議会委員	4月1日～7月30日	館長　島谷弘幸
15	ICOM日本委員会	理事	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
16	文化庁	文化観光拠点を中核とした地域における文化観光推進事業に係る協力者会議委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
17	文化庁	文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に係る計画認定委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
18	文化庁	文化庁「日本博」公募助成型事業の審査・評価委員会委員(文化資源活用推進事業及び国際的文化フェスティバル展開推進事業(長期開催型))	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
19	文化庁	文化審議会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
20	公益社団法人日展	日展諮問委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸

21	徳島県立文学書道館	書道資料収集委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
22	独立行政法人国立美術館	運営委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
23	公益財団法人日本博物館協会	評議員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
24	福岡県	古代日本の「西の都」文化観光推進協議会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
25	文部科学省	「世界の記憶」国内案件に関する審査委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
26	独立行政法人国立美術館	独立行政法人国立美術館における館長選考に係る選考委員	4月1日～4月30日	館長　島谷弘幸
27	独立行政法人日本芸術文化振興会	日本博を契機とする文化資源コンテンツ創生事業に関する審査・評価委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
28	文部科学省	ユネスコ「世界の記憶」に関する国内推進体制の構築事業（情報発信事業）審査委員会委員	6月23日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
29	一般財団法人言語教育振興財団	理事	6月14日～6月30日	館長　島谷弘幸
30	九州日中文化協会	第25回日中青少年書画音楽交流大会・審査委員会審査委員長	9月21日～11月23日	館長　島谷弘幸
31	福岡県	福岡県総合計画審議会委員	11月9日～11月8日	館長　島谷弘幸
32	NPO法人福岡城市民の会	講師	7月19日	学芸部企画課文化交流展室 研究員 桑原有寿子
33	NPO法人福岡城市民の会	講師	10月24日	学芸部長 河野一隆
34	NPO法人福岡城市民の会	講師	10月31日	学芸部文化財課資料登録室 長 森實久美子
35	アート・ドキュメンテーション学会	役員（幹事）	4月1日～5年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課資料管理室　専門職 竹内俊貴
36	天野山金剛寺	講師	11月3日	学芸部文化財課資料登録室 長 森實久美子
37	宇佐市教育委員会	宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
38	菊池川流域古代文化研究会	講師	9月25日	学芸部長 河野一隆
39	九州歴史資料館	九州歴史資料館協議会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
40	熊本県立図書館	令和5年度（2023年度）開催展示会に係るくまもと文学・歴史館の視察及び展示等指導	7月23日	学芸部長 河野一隆
41	熊本市教育委員会	熊本博物館協議会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
42	公益財団法人文化財虫菌害研究所	文化財IPMコーディネータ委員会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
43	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合的防除対策検討委員会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
44	公益社団法人鹿児島県建築士会	講師	10月29日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
45	公益社団法人日本工芸会	委員	8月2日	学芸部企画課長 伊藤信二
46	考古学研究会	考古学研究会常任委員会委員	4月1日～8月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課資料管理室　専門職 竹内俊貴
47	考古学研究会	考古学研究会第68回総会・研究集会実行委員	4月1日～4月24日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課資料管理室　専門職 竹内俊貴
48	神戸市	講師	10月23日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
49	公立大学　静岡文化芸術大学	ゲスト講師	7月8日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課資料管理室　専門職 竹内俊貴
50	西南学院大学	非常勤講師	4月1日～7月30日	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員 鷲頭桂
51	西南学院大学	非常勤講師	4月1日～7月30日	学芸部企画課特別展室長 川村佳男
52	西南学院大学	非常勤講師	4月1日～7月30日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
53	西南学院大学	非常勤講師	4月1日～7月30日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
54	西南学院大学	非常勤講師	4月1日～9月30日	学芸部文化財課資料登録室 長 森實久美子
55	西南学院大学	非常勤講師	9月1日～5年2月28日	学芸部文化財課資料登録室 研究員 松浦晃佑
56	西南学院大学	講師	12月2日	学芸部企画課特別展室主任研究員 西島亜木子
57	第46回福岡県伝統的工芸品展振興協議会	審査委員	10月14日～12月9日	学芸部企画課長 伊藤信二
58	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	展示プロジェクト委員	4月1日～10月4日	学芸部文化財課長 白井克也
59	田川市教育委員会	講師	9月25日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
60	武雄市教育委員会	武雄鍋島家洋学関係資料保存活用策定委員会委員	4月1日～10月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
61	日田市教育委員会	講師	9月14日	学芸部長 河野一隆

62	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県銃砲等剣類登録審査会補助員	4月1日～5年3月31日	学芸部企画課特別展室主任研究員 望月規史
63	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県装飾古墳総合調査指導員会委員	7月13日～5年3月31日	学芸部長 河野一隆
64	福岡県豊前神楽保存連合会	豊前神楽民俗文化財伝承・活用等事業に係る委員	7月4日～5年3月31日	学芸部企画課特別展室研究員 桑原有寿子
65	福岡県立美術館	福岡県立美術館協議会委員	9月7日～5年3月31日	副館長 小泉惠英
66	福岡市美術館	福岡市美術館美術資料収集審査員	10月27日～5年3月31日	学芸部企画課文化交流展室長 川村佳男
67	文化庁	文化審議会専門委員（文化財部会）	4月15日～5年3月31日	学芸部企画課長 伊藤信二
68	文化庁	重要文化財紙本著色歓喜天霊記（伝天神縁起）保存修理事業における審査委員	5月13日～5年3月31日	学芸部文化財課資料登録室長 森實　久美子
69	文化庁	「水中遺跡調査検討委員会」委員	6月30日～5年3月31日	学芸部文化財課長 白井克也
70	文化庁	文化財修理センター（仮称）の在り方に関する実務者会議	7月6日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
71	文化庁	「延暦寺所有重要文化財　絹本著色山王本地仏像一幅復元模写模造事業」における審査委員	8月31日～5年3月31日	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
72	文化庁	審査委員	10月4日～5年3月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
73	文化庁	買取評価員	12月2日	学芸部文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀
74	別府市教育委員会	講師	9月8日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
75	放送大学福岡学習センター	非常勤講師（面接授業担当）	10月1日～5年3月31日	学芸部長 河野一隆
76	放送大学福岡学習センター	非常勤講師（面接授業担当）	10月1日～5年3月31日	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子
77	放送大学福岡学習センター	非常勤講師（面接授業担当）	10月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
78	放送大学福岡学習センター	非常勤講師（面接授業担当）	10月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
79	放送大学福岡学習センター	非常勤講師（面接授業担当）	10月1日～5年3月31日	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子
80	放送大学福岡学習センター	非常勤講師（面接授業担当）	10月1日～5年3月31日	学芸部文化財課資料登録室長　森實久美子
81	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」保存環境ワーキング・グループ専門委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
82	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」 壁画ワーキング・グループ美術史班専門委員	4月1日～5年3月31日	学芸部文化財課資料登録室長　森實久美子
83	宮崎県都城市教育委員会都城島津邸	パネリスト	8月20日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
84	宗像大社	国宝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品ならびに国宝伝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品保存活用計画策定委員会委員	5月27日～5年3月31日	学芸部長 河野一隆
85	一般社団法人文化財保存修復学会	理事	4月1日～6月17日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
86	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	令和３年度国立民族学博物館共同研究員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
87	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	国立民族学博物館運営委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
88	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館運営会議委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
89	長崎県松浦市教育委員会	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会委員	4月1日～5年3月31日	副館長 小泉惠英
90	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会専門委員	4月1日～5年3月31日	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子
91	比較文明学会九州支部	講師	12月17日	学芸部企画課文化交流展室研究員　酒井田千明
92	鹿児島県立埋蔵文化財センター	講師	5年1月19日	副館長 小泉惠英
93	文化庁	令和４年度「重要文化財（美術工芸品）文化財修理の伝統技術等継承事業」（紙資料調査）における審査委員	5年1月11日～1月18日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
94	公益社団法人福岡県建築士会	講師	5年1月21日	学芸部博物館科学課（兼）環境保全室長 木川りか
95	文化庁	文化財調査	5年2月9日～10日	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑
96	宮崎県	文化財調査	5年3月4日～6日	学芸部企画課特別展室研究員　大澤信
97	宮崎県	文化財調査	5年3月5日～6日	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子

1-(6) 文化財の積極的な活用による文化財の継承につながる新たな取組
1-(6)-① 文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進
（レプリカや，VR・AR、8K映像など企画コンテンツの開発数）

【本部文化財活用センター】

令和5年3月31日現在

コンテンツ開発及び展開数　36件（うちコンテンツ開発数　29件）

	事業名称	内　容	期　間	担　当　者
1	コンテンツ開発	「車争図屏風」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	4月1日～10月28日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
2	コンテンツ開発	「焔」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	4月1日～5年9月28日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
3	コンテンツ開発	国宝「納涼図屏風」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	12月8日～5年9月29日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
4	コンテンツ開発	国宝「観楓図屏風」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	12月8日～5年9月29日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
5	コンテンツ開発	国宝「花下遊楽図屏風」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	11月25日～5年9月29日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
6	コンテンツ開発	重要文化財「風神雷神/夏秋草図屏風」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	5年1月25日～6年3月29日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
7	コンテンツ開発	重要文化財「遮光器土偶」のハンズオンレプリカ制作	4月1日～12月20日	文化財活用センター企画担当 研究員 飯田茂雄・小島有紀子
8	コンテンツ開発	国宝「袈裟襷文銅鐸（外縁付鈕２式銅鐸）」の複製追加加工	契約日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 飯田茂雄
9	コンテンツ開発	国宝「埴輪 挂甲の武人」の複製制作	契約日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 飯田茂雄・小島有紀子
10	コンテンツ開発	重要文化財「みみずく土偶（土製）」の複製制作	契約日～6年2月28日	文化財活用センター企画担当 研究員 飯田茂雄・小島有紀子
11	コンテンツ開発	「自在蛇置物」のハンズオンレプリカ（プロトタイプ）制作	4月1日～5年2月16日	文化財活用センター企画担当 専門職 松沼穂積
12	コンテンツ開発	「ウンスンカルタ」の複製制作（九州国立博物館と共同）	8月12日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 西木政統、九州国立博物館 松浦晃佑
13	コンテンツ開発	「四区袈裟襷文銅鐸」の複製制作（九州国立博物館と共同）	8月15日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 西木政統、九州国立博物館　小澤佳憲
14	コンテンツ開発	国宝「地獄草紙」の複製制作（奈良国立博物館との共同）	3年12月～6月1日	文化財活用センター企画担当 研究員 西木政統、奈良国立博物館 翁みほり
15	コンテンツ開発	国宝「辟邪絵」の複製制作（奈良国立博物館との共同）	3年12月～6月1日	文化財活用センター企画担当 研究員 西木政統、奈良国立博物館 翁みほり
16	コンテンツ開発	国宝「薬師如来坐像」のハンズオンレプリカ制作（奈良国立博物館との共同）	契約日～6年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 西木政統、奈良国立博物館 翁みほり
17	コンテンツ開発	国宝「救世観音像」（法隆寺）の映像および8K文化財コンテンツの制作	4月1日～10月1日	文化財活用センター企画担当 室長 髙橋 美奈子、企画担当 研究員 飯田茂雄
18	コンテンツ開発	国宝「救世観音像」（法隆寺）の映像　手話CGの制作（実証実験）	10月21日～11月28日	文化財活用センター企画担当 室長 髙橋 美奈子、企画担当 研究員　飯田茂雄
19	コンテンツ開発	国宝「洛中洛外図屏風（舟木本）」の映像コンテンツの制作	4月1日～10月1日	文化財活用センター企画担当 室長 髙橋 美奈子、企画担当 研究員　飯田茂雄
20	コンテンツ開発	重要文化財「遮光器土偶」、重要文化財「樫鳥糸肩赤威胴丸」、重要文化財「能面　小面」の体験型コンテンツの制作	4月1日～10月1日	文化財活用センター企画担当 室長 髙橋 美奈子、企画担当 研究員　飯田茂雄
21	コンテンツ開発	国宝「納涼図屏風」の高精細複製とプロジェクションマッピングによる体験型コンテンツの制作	4月1日～9月23日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
22	コンテンツ開発	国宝「観楓図屏風」の高精細複製とプロジェクションマッピングによる体験型コンテンツの制作	4月1日～9月23日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
23	コンテンツ開発	懐中電灯型デバイスと8Kモニターを活用した体験型コンテンツ「8Kで文化財 みほとけ調査」の改良	4月1日～10月1日	企画担当研究員 西木政統、企画担当専門職 松沼穂積
24	コンテンツ開発	Nintendo Switch『あつまれ どうぶつの森』における「ぶんかつ島」夢番地の制作	8月18日～5年3月31日	文化財活用センターデジタル資源担当　有期雇用職員　川合加容子
25	コンテンツ開発	「なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム」としてキットを活用した教育プログラムの開発	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子、奈良文化財研究所　髙橋 知奈津、小田 裕樹

26	コンテンツ開発	Nintendo Switch『あつまれ どうぶつの森』における「ぶんかつ島」関連動画の制作（4件）	8月18日～5年3月31日	文化財活用センターデジタル資源担当　有期雇用職員　川合加容子、企画担当専門職　高木結美、松沼穂積、アソシエイトフェロー　加納彩子
27	コンテンツ開発	東京国立博物館創立150年記念特別企画「未来の博物館」関連動画の制作（3件）	8月1日～11月9日	文化財活用センター企画担当専門職 高木結美、アソシエイトフェロー　加納彩子
28	コンテンツ開発	複製・デジタルコンテンツを活用した常設の展示スペース「デジタル法隆寺宝物館」関連動画の制作（11件）	10月1日～5年1月27日	文化財活用センター企画担当室長 高橋美奈子、企画担当研究員 西木政統、企画担当専門職 高木結美、アソシエイトフェロー 加納彩子
29	コンテンツ開発	「ぶんかつアウトリーチプログラム」関連動画の制作（2件）	4月1日～5年2月13日	文化財活用センター研究員 小島有紀子、企画担当専門職 松沼穂積
30	コンテンツ展開	茶碗型ハンズオンコントローラーと8Kモニターを活用した体験型コンテンツ「8Kで文化財　ふれる・まわせる名茶碗」展開（愛知県陶磁美術館・東京国立博物館で公開）（文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託により制作）	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当専門職 松沼穂積
31	コンテンツ展開	複製・映像を使用した常設の体験型展示スペース「日本美術のとびら」でのコンテンツ展開（日本文化紹介映像、非接触体験展示「日本美術のデジタル年表」、高精細複製品を東京国立博物館で公開）	4月1日～5年3月31日（9月1日～12月26日、3月13日～26日は閉室）	文化財活用センター企画担当研究員 小島有紀子
32	コンテンツ展開	複製・映像を使用した常設の体験型展示スペース「日本美術のとびら　四季」でのコンテンツ展開（高精細複製屏風へのプロジェクションマッピングを東京国立博物館で公開）	5年1月2日～5年3月12日	文化財活用センター企画担当研究員 小島有紀子
33	コンテンツ展開	Nintendo Switch『あつまれ どうぶつの森』における「ぶんかつ島」夢番地のコンテンツ展開	8月18日～5年3月31日	文化財活用センターデジタル資源担当　有期雇用職員　川合加容子、企画担当専門職　高木結美、松沼穂積、アソシエイトフェロー　加納彩子
34	コンテンツ展開	複製・デジタルコンテンツを活用した常設の展示スペース「デジタル法隆寺宝物館」でのコンテンツ展開（東京国立博物館で公開）	1月31日～5年3月31日（以降も継続）	文化財活用センター企画担当室長 高橋美奈子、企画担当研究員 西木政統、企画担当専門職 高木結美、アソシエイトフェロー 加納彩子
35	コンテンツ展開	複製品・デジタルコンテンツの貸与（11件）	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター研究員 西木政統、小島有紀子
36	コンテンツ展開	「ぶんかつアウトリーチプログラム」として複製品を活用した教育プログラムの提供（25件）	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター研究員 小島有紀子、企画担当研究員 西木政統、企画担当研究員 飯田茂雄、企画担当専門職 松沼穂積

1-(6)-② 国立博物館収蔵品貸与促進事業

【本部文化財活用センター】　6件

令和5年3月31日現在

	貸与先名	展覧会名称	期間	収蔵館・貸与件数（件）
1	刈谷市歴史博物館	伊勢物語とかきつばた	4月23日～6月5日	東京国立博物館：2件 京都国立博物館：1件
2	島根県立古代出雲歴史博物館	ハニワの世界へようこそ	7月1日～8月28日	東京国立博物館：9件
3	足利市立美術館	あしかがの歴史と文化再発見！―鎌倉殿の義弟　足利義兼の祈り　大日如来坐像	7月30日～10月10日	東京国立博物館：16件
4	鹿児島県歴史・美術センター黎明館	茶の湯と薩摩	9月22日～11月6日	東京国立博物館：23件 九州国立博物館：7件
5	滋賀県立安土城考古博物館	里帰り！日本最大の銅鐸―太古の響きを安土の地で―	10月8日～11月20日	東京国立博物館：6件
6	沖縄県立博物館・美術館	復帰50年展　琉球―美とその背景―	10月14日～12月4日	東京国立博物館：28件 九州国立博物館：21件

1-(6)-③ 文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信（後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(6)-④-1 文化財の保存等の相談・助言・支援に関わる取組状況（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

【本部文化財活用センター】　191件

令和5年3月31日現在

※令和3年度まで2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況へ掲載していた実績を、令和4年度より本表に集約する。

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	学校法人学習院大学　学習院女子大学	非常勤講師	4月1日～9月18日	文化財活用センター企画担当室長　高橋美奈子
2	静岡県掛川市	三熊野神社大祭祢里行事民俗文化財調査 調査員	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当専門職　高木結美
3	学校法人武蔵学園　武蔵大学	武蔵学園所蔵「朝田家染色関係資料」調査 調査員	8月1日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当専門職　高木結美

4	沖縄県立博物館・美術館	令和4年度琉球王国文化遺産集積・再興事業による模造・模写復元資料の活用にかかる先行事例研究及び意見交換会　講師	令和5年2月3日	文化財活用センター企画担当専門職　髙木結美
5	沖縄県立博物館・美術館	民俗資料の修理に関する助言	11月2日	文化財活用センター・飯田茂雄
6	明治大学博物館	文化財の輸送・展示に関する助言	10月25日	文化財活用センター・飯田茂雄
7	東久留米市文化財保護審議委員	文化財の指定、助言	令和3年8月1日～令和5年8月1日	文化財活用センター・飯田茂雄
8	東久留米市埋蔵文化財調査団	市内の発掘調査に関する指導・助言	令和4年4月1日～令和5年3月31日	文化財活用センター・飯田茂雄
9	内閣府	デジタルアーカイブジャパン実務者検討委員会　構成員	4月1日～5年3月31日	文化財活用センターデジタル資源担当課長　村田良二、同室長　阿児雄之
10	内閣府	ジャパンサーチ公式YouTube　活用動画への協力	7月19日	文化財活用センターデジタル資源担当室長　阿児雄之
11	内閣府	デジタルアーカイブアセスメントツール解説書に係る助言・支援	10月14日	文化財活用センターデジタル資源担当課長　村田良二、同室長　阿児雄之
12	東京都生活文化スポーツ局文化振興部企画調整課	東京空襲関連資料のデジタル化に係る助言	12月13日	文化財活用センターデジタル資源担当課長　村田良二
13	内閣府	ジャパンサーチ公式YouTube　インタビュー動画への協力	2月17日	文化財活用センターデジタル資源担当室長　阿児雄之
14	学校法人大妻学院	大妻女子大学非常勤講師	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
15	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月1日～6月19日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
16	奈良県	なら歴史芸術文化村修復工房使用者等選定委員会委員	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
17	文部科学省	文化審議会専門委員	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
18	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合調整委員会委員	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
19	一般社団法人文化財保存修復学会	学会誌投稿論文査読	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
20	青山学院大学	非常勤講師	9月～令和5年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
21	文化庁	第12回企画展示セミナー　講師	6月10日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
22	文化庁	令和4年度公開承認施設担当者会議　講師	6月15日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
23	（独）人間文化研究機構　国文学研究資料館	2022年度アーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会）　講師	9月6日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
24	三重県総合博物館	三重県総合博物館研究協力者	4月～令和5年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
25	（一社）文化財保存修復学会	理事	6月～令和6年6月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
26	（一社）文化財保存修復学会	公開シンポジウム実行委員会　委員	8月～令和5年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
27	（一社）文化財保存修復学会	第45回大会実行委員会　委員	10月～令和6年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
28	（一社）文化財保存修復学会	第45回大会プログラム作成委員会　委員長	11月～令和5年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
29	（公財）文化財虫菌害研究所	第42回文化財防虫防菌処理実務講習会　講師	10月3日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
30	（公財）文化財虫菌害研究所	第11回文化財IPMコーディネータ資格取得のための講習会　講師	12月12日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
31	東京文化財研究所	保存科学誌第62号編集委員会　委員	12月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
32	文化財防災センター	令和4年度文化財防災センター研修　講師	12月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
33	高松市歴史資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
34	板橋区立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
35	早稲田大学會津八一記念博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
36	あいち朝日遺跡ミュージアム	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
37	鎌倉国宝館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
38	埼玉県立嵐山史跡の博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～7月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
39	熊本博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
40	京都国立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
41	国立アイヌ民族博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
42	北海道立釧路芸術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～7月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創

43	泉屋博古館東京	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
44	中津市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
45	秋田県立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
46	京都市京セラ美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
47	姫路市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
48	兵庫陶芸美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
49	福島県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
50	久留米市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
51	三重県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
52	高知県立高知城歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～7月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
53	渋谷区立松涛美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
54	北海道立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
55	京都産業大学ギャラリー	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
56	益田市立雪舟の郷記念館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
57	春日大社	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
58	茨城県近代美術館天心記念五浦分館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～9月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
59	鎌倉国宝館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
60	竹田市歴史文化館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
61	対馬博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
62	大阪歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
63	大分県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～10月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
64	長崎歴史文化博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～9月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
65	石巻市博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
66	高志の国文学館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～10月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
67	桑名市博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
68	福知山市佐藤太清記念美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	9月～11月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
69	郡山市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～10月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
70	独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
71	大阪中之島美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	11月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
72	明石市立文化博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	11月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
73	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～2月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
74	くまもと文学・歴史館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
75	府中市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
76	岐阜県美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
77	国立工芸館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
78	岐阜関ケ原古戦場記念館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月～3月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
79	秋田県立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
80	あいち朝日遺跡ミュージアム	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
81	静岡市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
82	なら歴史芸術文化村	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創

83	すみだ北斎美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
84	岡山県立博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	4月～10月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
85	石川県立歴史博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
86	山口県立山口博物館	5年度貸与促進事業内定施設への環境調査、改善協力	11月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
87	糸島市立伊都国歴史博物館	5年度貸与促進事業内定施設への環境調査、改善協力	11月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
88	広島県立歴史民俗資料館	5年度貸与促進事業内定施設への環境調査、改善協力	11月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
89	市立岡谷美術考古館	5年度貸与促進事業内定施設への環境調査、改善協力	11月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
90	福岡市美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	4月～7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
91	刈谷市歴史博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
92	丸紅サービス株式会社	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	4月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
93	野洲市歴史民俗博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	4月～9月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
94	藤井達吉現代美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
95	国立西洋美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
96	千葉市立郷土博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
97	綾川町立生涯学習センター	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
98	軽井沢町歴史民俗資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
99	公益財団法人 大川美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
100	佐野美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
101	宮城県美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
102	土浦市立博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
103	株式会社 YAMAGIWA	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
104	中津市歴史博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
105	大阪歴史博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
106	群馬県立歴史博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月～11月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
107	福山城博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月～7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
108	国立ハンセン病資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
109	長浜市長浜城歴史博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
110	豊橋市美術博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
111	静岡県立美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創

112	岩宿博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月～10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
113	藤田美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月～7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
114	対馬博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
115	大成建設株式会社	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
116	埼玉県立歴史と民俗の博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
117	塩野香料株式会社	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月～9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
118	アーティゾン美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
119	国立民族学博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
120	十条ステン工業株式会社	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月～継続中	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
121	伊方町教育委員会事務局 町見郷土館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
122	北九州市立美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
123	伊賀市上野図書館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
124	茶道資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
125	徳川美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月～11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
126	東芝未来科学館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
127	松阪市産業文化部文化課	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
128	大府市歴史民俗資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
129	秋田市立千秋美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月～11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
130	国立西洋美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
131	三重県総合博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
132	宮島歴史民俗資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
133	貨幣博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
134	三重県総合博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
135	国立西洋美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	9月～10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
136	青森県立郷土館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
137	大山祇神社 宝物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
138	株式会社 クマヒラ	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創

139	茨城県立歴史館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
140	島根県海士町役場	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
141	環境文化創造研究所	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
142	しもだて美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
143	横浜美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
144	彦根城博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
145	富里市立図書館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月～11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
146	丹青社	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
147	宇佐神宮	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月～11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
148	貨幣博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
149	早稲田大学會津八一記念博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
150	松本市立博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
151	島根県立石見美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
152	名古屋刀剣ワールド	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
153	熊本県立美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
154	沖縄県立博物館・美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
155	鳥取市歴史博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月～12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
156	藤田美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
157	広島県立美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
158	光明理化学工業	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
159	府中市美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
160	鎌倉彫資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
161	鳥取県立美術館整備局	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	1月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
162	愛知県美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	1月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
163	琵琶湖博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	1月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
164	横浜美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	1月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
165	新潟市美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創

166	埼玉県立歴史と民俗の博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
167	株式会社クマヒラ	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
168	国立西洋美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
169	刀剣博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
170	滋賀大学部経済学部付属史料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
171	安土城考古博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
172	桶川市歴史民俗資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	3月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
173	一関市教育委員会	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	3月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
174	株式会社クマヒラ	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	3月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
175	愛媛県美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	3月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
176	岡崎市美術博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	3月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
177	町田市立国際工芸美術館（仮称）	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	4月～継続中	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
178	滋賀県立琵琶湖文化館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	5月～7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
179	松戸市立博物館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	5月～継続中	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
180	阪急コンストラクション・マネジメント	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	7月～8月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
181	青谷かみじち史跡公園展示ガイダンス施設	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
182	東京家政大学博物館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	7月～10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
183	株式会社日本設計	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	8月～10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
184	秋田市立佐竹史料館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	8月～9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
185	高知県立歴史民俗資料館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	8月～12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
186	特別史跡加曽利貝塚新博物館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
187	吉野石膏美術振興財団	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	9月～10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
188	専修寺宝物館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	10月～11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
189	岩国徴古館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
190	宇和島市立伊達博物館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	11月～12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
191	和歌山県立紀伊風土記の丘	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創

2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働

2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況
（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）

【東京文化財研究所】2件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日）	回数（回）	満足度（%）	備考
1	国際研修『紙の保存と修復』評価セミナー	9月5日～7日、12日	過去の研修修了者及び講師	4	1	-	
2	メキシコ国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」	11月9日～22日	保存修復担当者（アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、スペイン、メキシコ、ペルー、ウルグアイ）	10	1	-	

【奈良文化財研究所】2件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数	回数	満足度（%）	備考
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2021（個別テーマ研修）「考古遺跡における三次元記録法」	11月10日～11月25日	ベトナムの専門家	16	1	―	
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（カザフスタン）	10月17日～10月28日	カザフスタンの専門家	12	1	―	

2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

【東京文化財研究所】4件

	名称	機関名	備考
1	アンコール遺跡群の保存に関する共同協力事業に関する覚書	アンコール・シェムリアップ地域保存整備機構（APSARA）・東京文化財研究所・奈良文化財研究所	
2	伝統民家を含むブータンの歴史的建造物の共同調査研究に関する覚書	ブータン王国内務文化省文化局・東京文化財研究所	
3	アラビア湾岸考古学と文化遺産のためのバーレーンセンターに関する覚書	バーレーン文化古物局・東京文化財研究所・金沢大学古代文明文化資源学研究所	
4	ウルビーノ・カルロボー大学基礎応用科学部との協力合意書	ウルビーノ・カルロボー大学基礎応用科学部・東京文化財研究所	

【奈良文化財研究所】　1件

	名称	機関名	備考
1	学術交流及び協力に関する覚書	奈良文化財研究所、マルグラン考古学研究所（カザフスタン共和国）	

2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（刊行物件数）

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】7件

令和5年3月31日現在

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日間）	回数（回）	摘要
1	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国（SIDS）を中心に」事業 オンラインワークショップ（オンライン）	8月10日	ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、モンゴルの専門家、研究者	1日	1	文化庁受託経費
2	「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究」事業 地域ワークショップ（オンライン）	8月5日 9月7日	インドネシア、日本、バヌアツ、バングラディシュ、フィジー、フィリピン、ベトナム、モンゴルの専門家、研究者	2日	1	文化庁受託経費
3	第11回IRCI運営理事会　（オンライン）	10月28日	IRCI運営理事	1日	1	文化庁受託経費
4	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のためのオンラインセミナー（第1回） Community Involvement in ICH Research（オンライン）	12月13日	無形文化遺産の研究者及び一般	1日	1	文化庁受託経費
5	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国（SIDS）を中心に」事業 ワーキングセッション（オンライン）	5年2月21日	バヌアツ、パプアニューギニア、パラオ、東ティモール、フィジー、モルディブの専門家、研究者	1日	1	文化庁受託経費
6	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のためのオンラインセミナー（第2回） ICH in a Climate of Emergency（オンライン）	5年3月17日	無形文化遺産の研究者及び一般	1日	1	文化庁受託経費
7	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のためのオンラインセミナー（第3回） Learning from the initiatives of good safeguarding practices　in the 2003 Convention（オンライン）	5年3月23日	無形文化遺産の研究者及び一般	1日	1	文化庁受託経費

2-(3)-②-3　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載） ◎共通資料c-①

2-(3)-②-4　調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載） ◎共通資料c-②

2-(3)-②-5　学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載） ◎共通資料c-③

2-(3)-②-6　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載） ◎共通資料c-④

2-(3)-②-7　論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑤

2-(3)-②-8　調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-9　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載） ◎共通資料d

2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況

令和5年3月31日

		東京文化財研究所			奈良文化財研究所		
資料閲覧室・図書資料室の開室日数（日）		129日			240日		
資料閲覧室・図書資料室の利用者数（人）		877人			254人		
		令和3年度末	4年度追加	4年度末	令和3年度末	4年度追加	4年度末
文化財に関する資料・図書の受入件総数（件）	図書	126,401件	1,143件	127,544件	392,820件	5,344件	398,164件
	雑誌	170,527件	2,903件	173,430件	109,068件	2,531件	111,599件
	その他（図録・報告書等）	48,544件	1,909件	50,453件	208,509件	571件	209,080件 *
	計	345,472件	5,955件	351,427件	501,888件	7,875件	509,763件

＊奈良文化財研究所においては、その他（図録・報告書等）は図書に含む。

2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況

令和5年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
文化財に関するデータベースの公開件数（件）	37件	35件
データベースのデータ件数（件）	1,801,110件	2,292,801件
データベース等へのアクセス件数（件）	2,486,307件	9,955,544件
（ホームページへのアクセス件数（件））	3,457,717件	1,065,119件

2-(4)-② 調査研究成果の発信

2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績

【東京文化財研究所】　2件　142人　令和5年3月31日

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	第56回オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」	11月8日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	美術史研究の成果を一般に公表する講座を開催した。	50人	
2	第 17 回 無形民俗文化財研究協議会「文化財としての食文化―無形民俗文化財の新たな広がり」	5年2月1日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	ユネスコ無形文化遺産に関する研究協議会を開催した。	92人	

【奈良文化財研究所】　3件　1,766人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第210次)現地見学会	8月6日	橿原市醍醐町	奈良文化財研究所	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第210次)現地見学会を開催した。	468人	
2	興福寺東金堂院の回廊の発掘調査(平城第649次調査)現地見学会	10月15日	奈良市登大路町	奈良文化財研究所	興福寺東金堂院の回廊の発掘調査(平城第649次調査)現地見学会を開催した。	1,120人	
3	第14回東京講演会	10月22日	有楽町朝日ホール	奈良文化財研究所	テーマ「高松塚古墳壁画を伝える－発見から石室解体、修理を経て」について、5人による講演び総合討論を開催した。	178人	

2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

令和5年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数（件）	4,006件	7,577件

2-(4)-③ 展示公開施設の充実

2-(4)-③-1 来館者数推移（入館料別）（過去５か年）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(4)-③-2 来館者数推移（展覧会別）（過去５か年）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展

（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績

【東京文化財研究所】　1件　受講者 19人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月4日～8日	5	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	19人	100%	94%	

【奈良文化財研究所】　14件　受講者 312人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象※	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	文化財担当者専門研修「建造物保存活用計画策定課程」	7月4日～8日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財建造物の保存活用計画策定に関わる自治体担当者を対象に、法制度、保存管理、環境保全、活用等について、講義、実地研修及び演習を通じて、計画策定に必要な知識の習得を目指す。	15人	100%	91%	
2	文化財担当者専門研修「文化財デジタルアーカイブ課程」	7月25日～29日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	デジタル技術を用いて、調査記録類（画像含む）及び報告書のデジタル化や文化財コンテンツの公開活用を行うための必要な知識やスキルを習得するための研修。コンテンツのデータベース公開、オープンデータ化、著作権などの知的財産権も扱う。	68人	100%	88%	対面18人 オンライン50人（Zoom）
3	文化財担当者専門研修「遺跡調査技術課程」	9月12日～16日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	知っていれば発掘調査現場や調査成果の活用に役に立つ、実践的な知識と技術の習得や、調査に求められる多分野協業の視点について実習を交えながら学ぶ。	33人	100%	73%	
4	文化財担当者専門研修「層序学・堆積学・土壌学基礎課程」	9月26日～30日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査に必要となる層序学・堆積学・土壌学の基礎的知識の習得を目指す研修。	23人	100%	95%	
5	文化財担当者専門研修「保存科学（材質・構造調査）課程」	10月11日～14日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	無機質遺物の保存処理の際に実施する、主に非破壊的手法による材質・構造調査についての基礎的な研修。主にX線透過撮影による構造調査や蛍光X線分析による材質調査についての講義・実習を行う。	7人	100%	100%	
6	文化財担当者専門研修「保存科学（遺構・石造文化財）課程」	10月17日～21日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	本課程は土壌や石で構成される遺構を対象として、石の強化・撥水処理方法の実習を行うとともに、環境制御による遺構の保存法を習得することを目的として、遺構の劣化要因及び劣化の進行に対して環境が及ぼす影響について、環境調査の実習などを交えて学ぶ。	8人	100%	100%	
7	文化財担当者専門研修「中・近世瓦調査課程」	11月9日～11日	3	地方公共団体の文化財担当職員※	全国各地で実施されている中・近世の瓦研究の現状と最新成果を提供する。講義では実物を見ながらの講義を盛り込み、受講者の理解度を高めるよう努める。現代の瓦工房を見学し瓦の製作工程を理解してもらう。	19人	100%	86%	

8	文化財担当者専門研修「文化財写真課程」	11月21日 ～12月2日	9	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財の記録保存と活用において中心的な役割を持つ写真記録について、必要不可欠な写真技術の基礎知識と、デジタル写真を中心とした実習による実技を習得する研修。	10人	100%	100%	
9	文化財担当者専門研修「報告書編集基礎課程」	12月5日 ～9日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財調査記録に必要不可欠な報告書出版について、記述内容の意義や記述記録の基礎知識を習得する研修。	14人	100%	86%	
10	文化財担当者専門研修「報告書デジタル作成課程」	12月12日 ～16日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	報告書出版に必要な編集知識や図版制作について、デジタル技術を活用しながら出版物作成を行う実践的な技術を習得する研修。	10人	100%	100%	
11	文化財担当者専門研修「史跡等保存活用計画策定課程」	1月17日 ～23日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	史跡の保存活用計画書の策定演習を通して、計画書の事務局案作成を行う。ただし、目次建てのうち、「現状と課題」までは研修の事前課題として提出することを前提とする。	12人	100%	91%	
12	文化財担当者専門研修「文化的景観調査計画課程」	1月30日 ～2月3日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化的景観の保護にこれから取り組む担当者を対象に、文化的景観の概念、保護制度、調査手法及び保存計画立案等についての基礎知識を習得することを目的とする研修。	3人	100%	67%	
13	文化財担当者専門研修「文化財三次元計測入門課程」	1月17日 ～23日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財の3次元計測の基礎と実技を習得する。具体的には主にフォトグラメトリを用いた3次元計測方法を知り、発掘調査現場や出土遺物の記録に応用できるようにする。また、開講地域が抱える3次元計測関係の課題があれば、これについて解決に向けた方法を検討する。	20人	100%	78%	
14	文化財担当者専門研修「（特別研修）文化財多言語化課程」	3月10日	1	地方公共団体の文化財担当職員※	英・中・韓を中心とした文化財多言語化の基本的な考え方や作業手順などについて学ぶオンライン研修	70人	－	－	オンライン 70人 （Zoom）

※地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者

2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等

2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況
（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

令和5年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
488件	261件	227件

【東京文化財研究所】　261件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保管に関する指導助言	38件
2	無形文化遺産に関する助言	35件
3	文化財の虫菌害に関する調査・助言	47件
4	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	64件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	36件
6	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	41件

【奈良文化財研究所】　227件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	187件
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	13件
3	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	24件
4	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	3件

※文化財活用センターの実績は、
令和4年度より1-(6)-④-1 文化財の保存等の相談・助言・支援に関わる取組状況へ集約する。

2-(5)-③　平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

2-(5)-③-1　ボランティア受入実績　（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(5)-⑤　文化財等の防災・救援等への寄与

2-(5)-⑤-1　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-①1）・3）

2-(5)-⑤-2　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(5)-⑤-3　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(6) 文化財防災に関する取組

2-(6)-① 地域防災体制の構築

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(6)-①-1 防災・救援のための連携・協力体制構築への取組状況（都道府県内各種会議等参加数）

【本部文化財防災センター】53件

令和5年3月31日現在

	機関	内容	期間	担当者	備考
1	東松島市教育委員会	東松島市文化財保護審議会委員	4月1日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
2	東京大学大気海洋研究所	客員准教授	4月1日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
3	東北大学東北アジア研究センター	客員教授	4月1日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
4	東北工業大学	非常勤講師	4月1日～9月16日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
5	八戸市教育委員会	八戸地方えんぶり調査委員会委員	4月28日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
6	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	人間文化研究機構基幹研究プロジェクト連携研究員（プロジェクト名:「横断的･融合的地域文化研究の領域展開:新たな社会の創発を目指して　国立民族学博物館ユニット」）	4月1日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
7	放送大学	「博物館資料保存論」教材作成協力	5年2月1日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
8	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	人間文化研究機構基幹研究プロジェクト連携研究員、国立歴史民俗博物館共同研究員（研究課題：ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」（代表者：三上喜孝））	6月1日～5年3月31日	文化財防災センター研究員　黄川田翔	
9	埼玉県教育局市町村支援部文化資源課	埼玉県立博物館等施設における収蔵資料防災マニュアル策定に係る指導	6月10日～5年3月31日	文化財防災センター研究員　黄川田翔	
10	山形県観光文化スポーツ部文化財活用課	文化財日常管理・防災ハンドブック（美術工芸品編）作成プロジェクトチーム	9月15日～5年3月31日	文化財防災センター研究員　後藤知美	
11	九州・山口ミュージアム連携事業	地域防災計画における文化財の位置づけに関する特徴と課題（佐賀県、熊本県）	6月1日	九州国立博物館学芸部文化財課長　白井克也、同学芸部博物館科学課研究員　渡邊祐基、文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	
12	京都文化財防災対策等連絡会（京都府内12機関）	京都文化財防災対策等連絡会出席	6月14日、11月15日、5年3月16日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　中島志保、京都国立博物館学芸部長　尾野善裕、同学芸部保存科学室長　降幡順子	
13	文化庁	「文化庁記念物保護行政担当者会議」講師	6月14日	文化財防災センター研究員　中島志保	
14	一般社団法人文化財保存修復学会	公開シンポジウム「これからの文化財防災を考える―熊本地震と令和2年7月豪雨の経験から」事例報告	6月17日	文化財防災センター長　高妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
15	天理大学	専門教育科目「民俗学と現代社会」講師	7月14日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
16	文化庁	文化財修理センター（仮称）の在り方に関する実務者会議	7月22日	文化財防災センター長　高妻洋成	
17	福島県教育庁文化財課	令和4年度「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議	7月26日	文化財防災センター研究員　後藤	
18	福岡県建築士会	歴史的建造物の被害調査に関するヒアリング	8月16日	文化財防災センター長　高妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　中島志保、同主任研究員　鷲頭桂、九州国立博物館副館長　小泉惠英、同学芸部博物館科学課長　木川りか	
19	立命館大学歴史都市防災研究所	立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修講師	9月19日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
20	九州・山口ミュージアム連携事業	地域防災計画における文化財の位置づけに関する特徴と課題（大分県、宮崎県）	9月29日	九州国立博物館学芸部長　河野一隆、同博物館科学課長　木川りか、文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	

21	山形県観光文化スポーツ部文化財活用課	文化財日常管理・防災ハンドブック（美術工芸品編）作成プロジェクトチーム第1回編集会議	9月30日	文化財防災センター研究員 後藤知美	
22	文化庁	文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会	10月17日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同アソシエイトフェロー　山野善紀	
23	福岡市美術館	被災美術工芸品の初期処置および災害発生時の被災情報収集についてのヒアリング	10月27日	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	
24	文化庁	文化財行政講座講師	11月10日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
25	埼玉県教育局文化資源課	非常災害に備えた県ならびに県内文化財防災体制の強化に向けた助言	11月24日	文化財防災センター研究員 黄川田翔	
26	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所	文化遺産に関わる国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題（Ⅱ）―災害後の復旧・復興の事例と課題―」	12月21日、22日	文化財防災センター長　高妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員 中島志保	
27	文化庁	「令和4年度AIを利用した文化財建造物の見守りシステムの調査研究」委託に係る技術審査専門員	書面開催	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
28	鹿児島県立埋蔵文化財センター	埋蔵文化財技術研修講座講師	5年1月19日	文化財防災センター長　高妻洋成、同研究員　中島志保、九州国立博物館副館長　小泉惠英	
29	奈良市消防局	「第22回文化財防災ゼミナール」講師	5年1月27日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
30	岩手県立博物館	「文化遺産防災マップ運用講習会」講師	5年1月27日	文化財防災センター研究員 中島志保	
31	九州・山口ミュージアム連携事業	九州・山口ミュージアム連携事業第27回課長会議	5年1月31日	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	
32	東南アジア教育大臣機構・考古学・美術センター	研修「第3回ワークショップ：東南アジア諸国における災害リスクと文化遺産への影響に関する意識向上」講師	5年2月20日～2月24日	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	
33	岩手県立博物館、陸前高田市教育委員会	岩手県指定文化財「旧吉田家住宅」再建事業に係る指導、助言	5年2月8日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
34	東北大学災害科学国際研究所	緊急時の文化遺産のファーストエイド日本語版発表記念シンポジウム「文化遺産とレジリエンス 災害後の文化遺産保全活動の世界的動向から学ぶ」コメンテーター	5年2月12日	文化財防災センター長　高妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
35	福岡市文化財活用課	文化財防災マニュアル策定にかかる助言	5年3月1日～3月31日	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	
36	山形県観光文化スポーツ部文化財活用課	文化財日常管理・防災ハンドブック（美術工芸品編）作成プロジェクトチーム第2回編集会議	5年3月15日	文化財防災センター研究員 後藤知美	
37	群馬県文化財保護課	群馬県文化財防災ネットワーク連携協議会設立に係る打合せ会議	5年3月17日	文化財防災センター研究員 黄川田翔	
38	徳島県文化資源活用課	「令和4年度第2回埋蔵文化財担当専門職員等研修会」講師	5年3月24日	文化財防災センター研究員 中島志保	web開催
39	岡山史料ネット	「岡山史料ネットNewsletter Vol.9」への寄稿	5年3月31日	文化財防災センター研究員 中島志保	
40	新潟県佐渡市	被災文化財現地調査・助言(3年11月火災)	6月14日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、文化財防災センター研究員 黄川田翔	
41	福島県南相馬市	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	4月6日	文化財防災センター長　高妻洋成、同副センター長　建石徹、同研究員　後藤知美	
		被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	7月22日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　後藤知美	
42	福島県相馬市	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	4月6日、4月7日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　水谷悦子	

43	福島県伊達市	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	4月13日	文化財防災センター長　高妻洋成、同副センター長　建石徹、同研究員　後藤知美	
		被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	7月28日	文化財防災センター長　高妻洋成、同副センター長　建石徹、同研究員　後藤知美、東京文化財研究所保存科学研究センター収集福技術研究室研究員　芳賀文絵	
		被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	10月24日	文化財防災センター長　高妻洋成、同副センター長　建石徹	
		被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	5年2月13日	文化財防災センター研究員後藤知美、奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　脇谷草一郎	
44	福島県西白河郡矢吹町	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	9月7日	文化財防災センター副センター長　建石徹、同研究員水谷悦子	
45	宮城県角田市	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	5月14日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　後藤知美	
46	岩手県奥州市	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	6月11日、12日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
47	宮城県伊具郡丸森町	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	6月21日	文化財防災センター長　高妻洋成、同研究員　水谷悦子	
48	石川県珠洲市・鳳珠郡能登町	被災文化財現地調査・助言（4年6月19日発生能登半島を震源とする地震）	6月21日、22日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　中屋菜緒	
49	石川県珠洲市	被災文化財現地調査・助言（4年6月19日発生能登半島を震源とする地震）	9月6日	文化財防災センター研究員後藤知美	
50	群馬県みどり市	博物館収蔵庫設備事故現地調査	6月28日	文化財防災センター副センター長　建石徹、同研究員黄川田翔、文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	
51	新潟県東蒲原郡阿賀町	被災文化財現地調査・助言（8月大雨）	8月30日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
52	香川県坂出市	被災文化財現地調査・助言（9月火災）	9月28日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
53	東京都青梅市	焼損資料処置（3年2月火災）	10月15日、16日	文化財防災センター研究員上椙 英之	

2-(6)-③ レスキュー及び収蔵・展示における技術開発

2-(6)-③-1 文化財防災に関する技術開発への取組状況（論文等数、報告書等の刊行数）

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤,⑥

2-(6)-④ 文化財防災を促進するための普及啓発

2-(6)-④-1 文化財防災に関するシンポジウムの開催件数

（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(6)-④-2 文化財防災に関する講演会・研修会等の開催件数

【文化財防災センター】3件

令和5年3月31日現在

	開催日	事業名称	開催場所	参加者数	備考
1	11月2日	研修「水損書画の初期処置ワークショップ」	奈良文化財研究所　研修用実験室	6人	
2	12月16日	研修「一時保管場所におけるゾーニングワークショップ」	東京文化財研究所　地下会議室	12人	共催：東京文化財研究所
3	5年1月19日	文化財防火デーイベント「京都における文化財防災ネットワークの構築を目指して」	京都国立博物館　講堂	（会場）40名 （YouTubeアーカイブ配信視聴数）298回	主催：文化財防災センター、京都国立博物館、京都府教育委員会、京都市

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務改善の取組

1-(5)一般管理費の削減

1-(5)-① 施設の有効利用件数

令和5年3月31日現在

○件数

（単位：件）

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館※1	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	1,147	836	591	172	54	19	311	196	115
	うち有償	786	765	589	150	22	4	21	1	20
	うち無償	361	71	2	22	32	15	290	195	95
茶室	総件数	66	66	35	24	5	2			
	うち有償	65	65	35	24	4	2			
	うち無償	1	1	0	0	1	0			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	415	116	71	33	11	1	299	195	104
	うち有償	111	97	69	18	9	1	14	0	14
	うち無償	304	19	2	15	2	0	285	195	90
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	66	54	28	15	11	0	12	1	11
	うち有償	52	45	28	11	6	0	7	1	6
	うち無償	14	9	0	4	5	0	5	0	5
撮影利用	総件数	600	600	457	100	27	16	0	0	0
	うち有償	558	558	457	97	3	1	0	0	0
	うち無償	42	42	0	3	24	15	0	0	0

※1 東博の貸出し件数については3年度以前は施設ごと、利用日ごとにカウントしていたが、4年度より申込件数にカウント方法を変更した。

○有償利用の利用金額

（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	149,404	145,937	118,089	26,594	1,212	42	3,467	3,047	420
茶室	5,227	5,227	4,150	1,056	12	9			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	11,979	11,725	10,249	1,107	342	27	254	0	254
その他（左記以外の建物、敷地）	95,417	92,204	69,517	21,935	752	0	3,213	3,047	166
撮影利用	36,781	36,781	34,173	2,496	106	6	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料
a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）（過去5か年）

令和5年3月31日現在

年度				30	元	2	3	4
国立文化財機構	総来館者数			3,977,125	4,358,044	858,177	1,483,715	2,367,419
	平常展	計		1,706,401	1,753,198	344,392	432,362	1,084,003
		有料	一般	747,422	713,037	132,915	148,848	421,461
			大学生	73,196	66,176	14,005	19,183	50,978
			小・中・高生	0	0	0	0	0
			友の会	192,482	189,313	53,579	59,980	105,391
		無料	一般(黒田含む)	116,321	78,584	33,306	36,650	61,944
			小・中・高・大生	204,691	193,984	24,623	43,070	153,707
		招待者等		372,289	512,104	85,964	124,631	290,522
	特別展	計		2,270,724	2,604,846	513,785	1,051,353	1,283,416
		有料	一般	1,510,156	1,721,359	362,251	744,781	883,370
			高・大生	112,381	91,077	25,289	69,675	78,434
			小・中生	22,558	26,793	2,715	7,641	15,348
			友の会	22,245	20,405	4,834	13,341	17,731
		無料	小・中生・一般	91,328	94,201	32,499	37,937	47,965
		招待者等		512,056	651,011	86,197	177,978	240,568
東京国立博物館	総来館者数			2,142,960	2,588,632	375,575	836,720	1,247,750
	平常展	計		989,508	1,030,652	166,639	211,052	625,235
		有料	一般	478,770	435,389	65,236	79,707	284,486
			大学生	43,486	37,542	7,137	10,788	35,338
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	172,646	170,236	46,389	50,122	91,518
		無料	高校生	27,701	21,911	3,183	5,627	27,055
			小・中生	66,933	62,703	8,519	10,336	44,843
		招待者等		145,696	258,794	22,290	35,990	107,072
		黒田記念館(無料)		54,276	44,077	13,885	18,482	34,923
	特別展	計		1,153,452	1,557,980	208,936	625,668	622,515
		有料	一般	764,691	1,038,356	158,484	471,946	454,781
			高・大生	54,270	51,783	11,591	45,712	41,527
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	1,988	1,642	760	949	1,073
		無料	小・中生	37,968	37,024	5,244	18,264	18,822
		招待者等		294,535	429,175	32,857	88,797	106,312
京都国立博物館	総来館者数			477,884	376,061	170,494	132,793	245,489
	平常展	計		146,314	158,664	18,941	35,440	56,369
		有料	一般	87,013	95,014	8,525	17,911	32,398
			大学生	13,028	12,370	779	1,965	3,463
			友の会	7,058	6,552	1,562	2,268	2,187
		無料	小・中・高生	14,608	14,943	862	2,548	3,630
		招待者等		24,607	29,785	7,213	10,748	14,691
	庭園開放	計		11,168	13,908	9,932	5,851	12,081
		有料	一般	6,114	7,688	5,383	2,468	5,952
			大学生	—	—	572	357	934
			友の会	196	256	505	73	126
		無料	大学生	362	689	—	—	—
			小・中・高生	1,638	1,815	588	624	1,663
		招待者等		2,858	3,460	2,884	2,329	3,406
	特別展	計		320,402	203,489	141,621	91,502	177,039
		有料	一般	227,508	130,145	105,811	59,367	119,115
			高・大生	29,472	10,227	7,327	7,530	12,107
			友の会	3,166	3,291	1,175	372	1,796
		無料	小・中生	10,023	6,240	1,547	2,517	5,469
		招待者等		50,233	53,586	25,761	21,716	38,552
奈良国立博物館	総来館者数			527,786	612,755	122,452	253,196	279,613
	平常展	計		140,829	160,869	43,262	52,178	116,116
		有料	一般	63,675	75,109	17,695	18,185	46,685
			大学生	6,534	7,981	1,251	1,213	3,824
			小・中・高生	0	0	0	0	0
			友の会	3,196	3,414	3,062	4,258	6,262
		無料	小・中・高生	28,492	34,407	5,876	11,722	29,321
		招待者等		38,932	39,958	15,378	16,800	30,024
	特別展	計		386,957	451,886	79,190	201,018	163,497
		有料	一般	284,723	342,015	57,939	143,001	115,389
			高・大生	15,684	14,385	4,199	11,537	9,261
			小・中生	13,443	11,045	1,497	4,718	4,404
			友の会	3,901	2,970	1,278	6,245	5,454
		無料	小・中生	269	0	595	762	0
		招待者等		68,937	81,471	13,682	34,755	28,989
九州国立博物館	総来館者数			700,391	674,277	131,662	213,153	523,200
	平常展	計		349,114	348,563	81,230	104,898	239,282
		有料	一般	109,272	97,786	33,727	28,407	48,537
			大学生	9,950	8,068	4,181	4,761	7,092
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	9,386	8,855	2,061	3,259	5,298
		無料	高校生	28,868	24,056	1,441	5,416	20,998
			小・中生	34,730	32,905	3,537	6,187	24,912
		招待者等		156,908	176,893	36,283	56,868	132,445
	特別展	計		351,277	325,714	50,432	108,255	283,918
		有料	一般	226,615	205,067	35,721	66,458	187,329
			高・大生	12,369	14,180	1,883	4,596	15,040
			小・中生	9,115	15,748	1,218	2,923	10,944
			友の会	13,190	12,502	1,621	5,775	9,408
		招待者等		89,988	78,217	9,989	28,503	61,197
平城宮跡資料館	総来館者数			90,558	71,408	37,913	25,264	39,515
	平常展	無料	一般	53,775	26,562	15,004	12,942	19,888
	特別展	無料	一般	36,783	44,846	22,909	12,322	19,627
藤原宮跡資料館	総来館者数			8,270	7,945	4,417	5,226	7,133
	平常展	無料	一般	8,270	7,945	4,417	5,226	7,133
飛鳥資料館	総来館者数			29,276	26,966	15,664	17,363	24,719
	平常展	計		7,423	6,035	4,967	4,775	7,899
		有料	一般	2,578	2,051	2,349	2,170	3,403
			大学生	198	215	85	99	327
		無料	小・中・高生	1,359	555	617	610	1,285
		招待者等		3,288	3,214	1,916	1,896	2,884
	特別展	計		21,853	20,931	10,697	12,588	16,820
		有料	一般	6,619	5,776	4,296	4,009	6,756
			大学生	586	502	289	300	499
		無料	小・中・高生	6,285	6,091	2,204	4,072	4,047
		招待者等		8,363	8,562	3,908	4,207	5,518

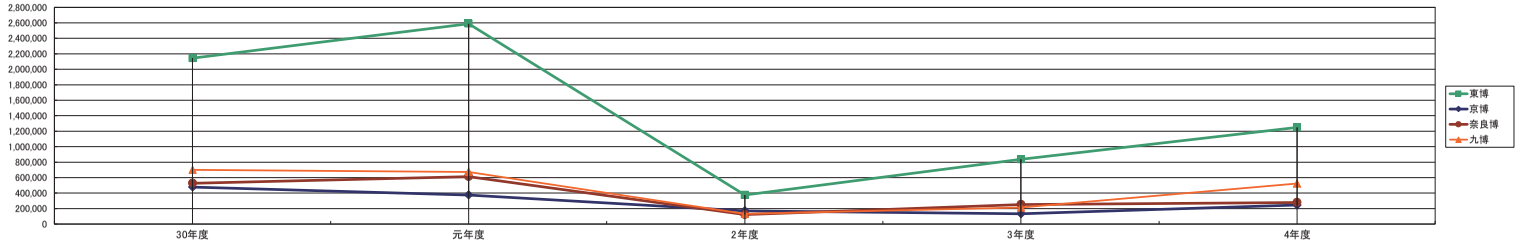
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、ｷﾄﾗ公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。
※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。
※京都国立博物館における庭園開放は、平常展に含む。

来館者数推移(展覧会別)(過去5か年)

国立文化財機構　合計

	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度	
合計	総　　計	3,977,125	総　　計	4,358,044	総　　計	658,177	総　　計	1,483,715	総　　計	2,367,419
	平常展のみの来館者	1,706,401	平常展のみの来館者	1,753,198	平常展のみの来館者	344,392	平常展のみの来館者	432,362	平常展のみの来館者	1,084,003
	特別(共催)展計	2,270,724	特別(共催)展計	2,604,846	特別(共催)展計	513,765	特別(共催)展計	1,051,353	特別(共催)展計	1,283,416

1) 国立博物館

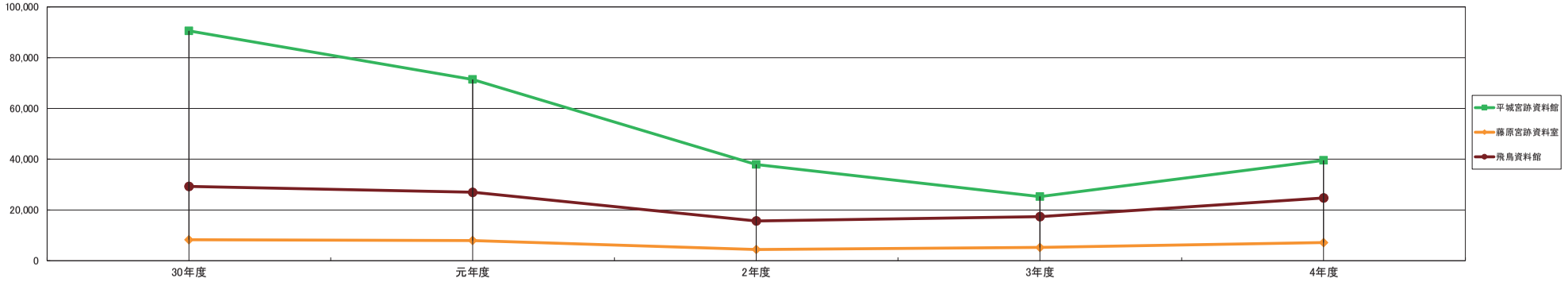


	30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
計	総　　計	3,849,021	総　　計	4,251,725	総　　計	800,183	総　　計	1,435,882	総　　計	2,296,052
	平常展のみの来館者	1,636,933	平常展のみの来館者	1,712,856	平常展のみの来館者	320,004	平常展のみの来館者	409,419	平常展のみの来館者	1,040,083
	特別（共催）展計	2,212,088	特別（共催）展計	2,539,069	特別（共催）展計	480,179	特別（共催）展計	1,026,443	特別（共催）展計	1,255,969
東博	総計(黒田記念館含む)	2,142,960	総計(黒田記念館含む)	2,588,632	総計(黒田記念館含む)	375,575	総計(黒田記念館含む)	836,720	総計(黒田記念館含む)	1,247,750
	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	989,508	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	1,030,652	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	166,639	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	211,052	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	625,235
	特別（共催）展計	1,153,452	特別（共催）展計	1,557,980	特別（共催）展計	208,936	特別（共催）展計	625,668	特別（共催）展計	622,515
	「アラビアの道―サウジアラビア王国の至宝」	67,263	特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流―日本美を伝える―」	74,424	ユネスコ無形文化遺産「体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	中止	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	129,349	特別展「ポンペイ」	13,581
	創刊記念『国華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生―つながる日本美術」	173,995	特別展「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅」	430,511	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」	中止	特別展「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	59,125	特別展「空也上人と六波羅蜜寺」	100,493
	特別展「縄文―1万年の美の鼓動」	354,259	特別展「美を紡ぐ　日本美術の名品－雪舟、永徳から光琳、北斎まで－」	106,593	特別展「きもの　KIMONO」	91,830	東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念特別展「スポーツ in Japan」	※1(22,735)	沖縄復帰50年記念特別展「琉球」	90,395
	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	197,004	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」	※1(330,598)	特別展「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	延期	日中韓国立博物館共同企画特別展「東アジアのうるし世界」	中止	日中国交正常化50周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」	27,839
	東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」	80,191	日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」	337,639	東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念特別展「スポーツ in Japan」	延期	マレーシア・イスラーム美術館精選「イスラーム王朝とムスリムの世界」	※1(125,463)	東京国立博物館創立150年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」	351,153
	日中平和友好条約締結40周年記念特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」	※1(62,405)	住友財団修復助成30周年記念「文化財よ、永遠に」	※1(138,502)	日中韓国立博物館共同企画特別展「東アジアのうるし世界」	延期	聖徳太子１４００年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」	69,640	東京国立博物館創立150年記念　特別企画「未来の博物館」	※1(150,296)
	顔真卿　王羲之を超えた名筆	198,920	御即位記念特別展「正倉院の世界－皇室がまもり伝えた美－」	362,076	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	延期	「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46」	58,461	特別企画「大安寺の仏像」	※1(177,515)
	特別展　御即位30年記念　両陛下と文化交流　―日本美を伝える―」	48,340	特別展「人、神、自然―アール・ザーニ コレクションの名品が語る古代世界―」	※1(139,737)	特別展「工藝2020―日本の工藝と自然―」	13,851	伝教大師１２００年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」	63,977	「150年後の国宝展―ワタシの宝物、ミライの宝物」	※1(178,525)
	特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」	33,480	特別公開「高御座と御帳台」	110,484 ※2(204,801)	特別展「桃山―天下人の100年」	82,808	特別展「ポンペイ」	184,119	特別展「東福寺」	39,054
			日本書紀成立1300年　特別展「出雲と大和」	136,054	特別展「日本のたてもの―自然素材を伝統技術に活かす知恵」	20,447	ユネスコ無形文化遺産「体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	15,405		
			特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」	199 （報道内覧会のみ）	特別展「ジパング　世界と出会った日本の美」	中止	特別企画「手わざ―琉球王国の文化」	※1(27,440)		
			ユネスコ無形文化遺産　特別展「体感！ 日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	中止	日本美術の魅力（在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展）	延期	特別展「空也上人と六波羅蜜寺」	45,592		
京博	総　　計	477,884	総　　計	376,061	総　　計	170,494	総　　計	132,793	総　　計	245,489
	平常展のみの来館者	146,314	平常展のみの来館者	158,664	平常展のみの来館者	18,941	平常展のみの来館者	35,440	平常展のみの来館者	56,369
	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,168	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	13,908	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	9,932	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	5,851	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	12,081
	平常展のみ+庭園のみ	157,482	平常展のみ+庭園のみ	172,572	平常展のみ+庭園のみ	28,873	平常展のみ+庭園のみ	41,291	平常展のみ+庭園のみ	68,450
	特別（共催）展計	320,402	特別（共催）展計	203,489	特別（共催）展計	141,621	特別（共催）展計	91,502	特別（共催）展計	177,039
	特別展「池大雅―天衣無縫の旅の画家―」	67,399	特別展　時宗二祖上人七百年御遠忌記念「国宝－遍聖絵と時宗の名宝」	66,678	西国三十三所 草創1300年記念 特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」（※今夏に延期）	52,164	凝然国師没後七百年特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」	14,655	伝教大師1200年大遠忌記念特別展「最澄と天台宗のすべて」	43,235
	特別展「京のかたな―匠のわざと雅のこころ―」	253,003	特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」	136,811	御即位記念　特別展「皇室の名宝」	85,315	特別展「京（みやこ）の国宝―守り伝える日本のたから―」	37,065	特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」	28,211
					凝然国師没後七百年特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」	4,142	特別展「畠山記念館の名品－能楽から茶の湯、そして琳派－」	39,782	特別展「京（みやこ）に生きる文化　茶の湯」	91,675
									親鸞聖人生誕850年 特別展「親鸞　生涯と名宝」	13,918
奈良博	総　　計	527,786	総　　計	612,755	総　　計	122,452	総　　計	253,196	総　　計	279,613
	平常展のみの来館者	140,829	平常展のみの来館者	160,869	平常展のみの来館者	43,262	平常展のみの来館者	52,178	平常展のみの来館者	116,116
	特別（共催）展計	386,957	特別（共催）展計	451,886	特別（共催）展計	79,190	特別（共催）展計	201,018	特別（共催）展計	163,497
	創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」	95,950	国宝の殿堂　藤田美術館展	158,078	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」（※今夏に延期）	42,846	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」	44,233	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」	32,971
	修理完成記念特別展「糸のみほとけ　―国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏」	45,175	特別展　御即位記念　第71回正倉院展	277,133	仏教美術名品展	延期	特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」	34,659	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」	19,966
	特別展 第70回正倉院展	245,832	特別展　毘沙門天―北方鎮護のカミ―	16,675	特別展 第72回正倉院展	36,344	特別展 第73回正倉院展	73,968	第74回正倉院展	87,672
					特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	延期	特別展「名画の殿堂　藤田美術館展」	13,773	式年造替記念特別展「春日大社　若宮国宝展－祈りの王朝文化－」	22,888
							特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	34,385		
九博	総　　計	700,391	総　　計	674,277	総　　計	131,662	総　　計	213,153	総　　計	523,200
	平常展のみの来館者	349,114	平常展のみの来館者	348,563	平常展のみの来館者	81,230	平常展のみの来館者	104,898	平常展のみの来館者	239,282
	特別（共催）展計	351,277	特別（共催）展計	325,714	特別（共催）展計	50,432	特別（共催）展計	108,255	特別（共催）展計	283,918
	特別展「王羲之と日本の書」	14,971	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	53,524	特別展「ライデン国立古代博物館所蔵　古代エジプト展」	中止	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」	18,157	特別展「北斎」	135,955
	特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」	198,489	特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代」	86,399	開館15周年記念特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景―」	延期	特別展「皇室の名宝―皇室と九州をむすぶ美―」	43,197	特別展「琉球」	41,054
	明治150年記念　特別展「オークラコレクション」	63,069	特別展「三国志」	140,155	開館15周年記念特別展「加耶」	中止	開館15周年記念特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景―」	17,383	特別展「ポンペイ」	79,919
	特別展「京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―」	74,748	特別展「ルネ・ユイのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」	45,636	特別展「奈良・中宮寺の国宝」	50,432	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」	29,518	特別展「加耶」	26,990

※1　この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上
※2　()内の数値は、総合文化展や同時期開催の特別展チケットによる来場者を含んだ数値。

来館者数推移(展覧会別)(過去5か年)

2) 研究成果公開施設



	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度	
計	**総　合　計**	**128,104**	**総　合　計**	**106,319**	**総　合　計**	**57,994**	**総　合　計**	**47,853**	**総　合　計**	**71,367**
	平常展のみの来館者	**69,468**	**平常展のみの来館者**	**40,542**	**平常展のみの来館者**	**24,388**	**平常展のみの来館者**	**22,943**	**平常展のみの来館者**	**34,920**
	特別（共催）展計	**58,636**	**特別（共催）展計**	**65,777**	**特別（共催）展計**	**33,606**	**特別（共催）展計**	**24,910**	**特別（共催）展計**	**36,447**
平城宮跡資料館	総　計	90,558	総　計	71,408	総　計	37,913	総　計	25,264	総　計	39,515
	平常展のみの来館者	53,775	平常展のみの来館者	26,562	平常展のみの来館者	15,004	平常展のみの来館者	12,942	平常展のみの来館者	19,888
	特別（共催）展計	36,783	特別（共催）展計	44,846	特別（共催）展計	22,909	特別（共催）展計	12,322	特別（共催）展計	19,627
	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	春期特別企画展　平城宮跡史跡指定100周年記念・奈良文化財研究所70周年記念「未来につなぐ平城宮跡－保存運動のあけぼの－」	7,893
	夏のこども展示　「たいけん！なぶんけん —平城宮の考古学—」	9,205	平城宮跡資料館2019年度特別展「高御座」	14,456	ミニ展示「古代のいのり—疫病退散！」	2,846	春期特別企画展「平城宮跡保存運動のさきがけ -大極殿標木建設式一二〇周年-」/「大地鳴動 －大地の知らせる危機と私たちの生活－」展	688	夏期企画展「大地鳴動－大地の知らせる危機と私たちの生活－」展	4,106
	秋期特別展「地下の正倉院展－荷札木簡をひもとく－」	15,853	夏のこども展示「ならのみやこのしょくぶつえん」	9,162	夏期企画展「奈良の都の考古学—発掘された平城2019」「古代のいのり—疫病退散！」	3,968	夏期企画展「奈良を測る　—森羅の庭園研究と作庭—」	1,157	秋期特別展①奈良文化財研究所70周年 平城宮跡史跡指定100周年記念 平城宮跡資料館 令和4年度 秋期特別展「地下の正倉院展－平城木簡年代記〔クロニクル〕－」	7,628
	平城宮跡資料館　冬季企画展「発掘された平城2017・2018」	11,725	秋期特別展「地下の正倉院展-年号と木簡-」	13,257	秋季特別展「地下の正倉院展」	14,670	秋季特別展「地下の正倉院展」	6,310	秋期特別展②奈良文化財研究所70周年 平城宮跡史跡指定100周年記念　特別展「のこった奇跡 のこした軌跡－未来につなぐ平城宮跡－」	※2 (36,339)
			平城宮跡資料館新春ミニ展示「平城京の子」	4,456	平城宮跡資料館新春ミニ展示「平城宮の丑」	1,425	企画展「発掘された平城2020・2021」	4,167		
			平城宮跡資料館「発掘された平常2019」	3,515	平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復元整備工事記念特別展「鬼神乱舞-護る・祓う・鬼瓦の世界-」	※2 31,530				
藤原宮跡資料室	総　計	8,270	総　計	7,945	総　計	4,417	総　計	5,226	総　計	7,133
	平常展のみの来館者	8,270	平常展のみの来館者	7,945	平常展のみの来館者	4,417	平常展のみの来館者	5,226	平常展のみの来館者	7,133
	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0
飛鳥資料館	総　計	29,276	総　計	26,966	総　計	15,664	総　計	17,363	総　計	24,719
	平常展のみの来館者	7,423	平常展のみの来館者	6,035	平常展のみの来館者	4,967	平常展のみの来館者	4,775	平常展のみの来館者	7,899
	特別（共催）展計	21,853	特別（共催）展計	20,931	特別（共催）展計	10,697	特別（共催）展計	12,588	特別（共催）展計	16,820
	春期特別展「あすかの原風景」	8,816	春期特別展「骨ものがたり—環境考古学研究室のお仕事」	10,024	奈良国立博物館・奈良文化財研究所 合同企画 夏期特別展「日本人と古代仏教—仏教徒文字文化の考古学」	中止	ミニ展示「新収蔵品紹介－呉と書かれた瓦－」	535	ミニ展示「飛鳥資料館に寄贈された瓦－瓦の花咲く飛鳥資料館－」	3,268
	夏期企画展　飛鳥資料館第9回写真コンテスト作品展「飛鳥のいきもの」	2,428	夏期企画展飛鳥資料館第10回写真コンテスト作品展「飛鳥の古墳」	3,070	特別展「飛鳥の石造文化と石工」	3,212	夏期企画展　飛鳥資料館第12回写真コンテスト「飛鳥の木」	2,112	夏期企画展　飛鳥資料館第13回写真コンテスト「高松塚古墳」	2,912
	秋期特別展「よみがえる飛鳥の工房－日韓の技術交流を探る」	7,492	秋期特別展「飛鳥－自然と人と－」	6,506	秋期企画展　飛鳥資料館第11回写真コンテスト作品展「飛鳥の祭」	5,114	秋期特別展「「屋根を彩る草花　－飛鳥の軒瓦とその文様」	7,353	秋期特別展「飛鳥美人　高松塚古墳の魅力 」	7,280
	冬期企画展「飛鳥の考古学2018」	3,117	冬期企画展「飛鳥の考古学2019」	1,331	冬期企画展「飛鳥の考古学2020」	2,371	冬期企画展「飛鳥の考古学2021」	2,588	冬期企画展「飛鳥の考古学２０２２」	3,360

※1　平常展の一部として実施
※2　平城宮跡資料館ではなく、平城宮跡内のいざない館にて開催のため、合計の数値には含まない。(参考値として記載。)

a-③ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

①開館日数　314 日間
②会　　場
(1)本　館　1階、2階
(2)東洋館　1階、2階、3階、4階、5階
(3)法隆寺宝物館　1階、2階
(4)平成館　1階
(5)黒田記念館
③展示総件数　10,032件（うち国宝170件、重要文化財878件）
(1)本館・平成館企画展示室　4,631件（うち国宝19件、重要文化財360件）
(2)東洋館　2,880件（うち国宝0件、重要文化財70件）
(3)法隆寺宝物館　329件（うち国宝 8件、重要文化財228件）
(4)平成館考古展示室　2,089件（うち国宝 143件、重要文化財220件）
(5)黒田記念館　103件（うち国宝　0件、重要文化財0件）
④展示替件数　6,272 件　・　展示替回数　延べ 412 回
⑤入場料金
黒田記念館以外　　一般1,000円、大学生410円
黒田記念館　無料
⑥特集　全26件（●国宝、◎重要文化財、〇重要美術品）

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	3月23日 ～ 4月17日	12件（重文2件）
＜主な作品＞ 雛雀図、雛雀図、鋏、河口慧海請来風俗資料			
当館が手がける保存と修理の成果を分かりやすく紹介するため、近年に修理を終えた絵画、考古、染織、陶磁など様々な分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げた。また、作品とともに修理過程で得られた情報もパネルなどを用いて公開し、博物館が担う文化財修理の役割を広く紹介した。			
本館 14 室	東南アジアのやきもの―収集と研究の軌跡―	3 月 23 日 ～ 6 月 20 日	26 件（重美 1 件）
＜主な作品＞ 紅安南唐草文茶碗、褐釉双耳瓶、緑釉青海波文鉢、白磁刻花蓮花文鉢、青磁皿、粉彩人物文碗（ベンチャロン）			
東京国立博物館が収蔵する東南アジア陶磁のうち、明治から大正、昭和のはじめにかけて収蔵された作品に注目し、近代日本における陶磁器研究の歴史をたどりながら、その稀少な価値と造形的魅力を展観した。とくに、吉田作弥、岡野繁蔵、横河民輔といった収蔵にかかわった人物にも光をあて、作品と結びつけて紹介した。また、展示の機会が少ないベンチャロン（タイ向けの中国輸出陶磁）もまとめて出品した。			
本館 特別 1・2 室	東京国立博物館の近世仏画―伝統と変奏―	4 月 5 日 ～ 5 月 29 日	22 件
＜主な作品＞ 不動明王二童子像、当麻曼荼羅図、　　五百羅漢図			
本特集では当館所蔵の江戸時代に制作された仏画を展示した。当館には、木村徳応や神田宗庭といった江戸時代を代表する絵仏師の作品、従来知られている狩野一信筆「五百羅漢図」、さらには大津絵も所蔵される。普段まとまって紹介する機会が少ないそれらの江戸時代の仏画を選りすぐり、「絵仏師・画僧の仏画」「幕末の絵師・狩野一信筆「五百羅漢図」」「大津絵」をテーマに紹介した。			
本館 2 室	創立 150 年記念特集未来の国宝―東京国立博物館書画の逸品―	4 月 12 日 ～ 5 年 4 月 9 日	24 件
＜主な作品＞ 見返り美人図、焔、春日宮曼荼羅、金胎仏画帖、玄圃瑤華のうち未草・鶏頭、平家納経 厳王品 第二十七（模本）			
当館 150 年の歴史の中で収集された作品のなかには、国指定の国宝や重要文化財となっていなくとも素晴らしい作品が数多く収蔵されている。本特集では、創立 150 周年を記念し、当館の研究員が選び抜いた一押しの作品を「未来の国宝」と銘打って、年間を通じて紹介した。			
平成館 企画展示室	特集親と子のギャラリー　翼と羽	4 月 26 日 ～ 5 月 29 日	39 件
＜主な作品＞ 鷹に雁鷺図、自在鷹置物、刺繍孔雀図屏風			
東京恩賜上野動物園と国立科学博物館との三館園連携企画を受けて企画された特集陳列であり、今回が 15 回目となる。4 年度は動物の「翼と羽」をテーマとし、主に鳥類を中心としつつ、鳥類以外の羽をもつ動物や翼をもつ神、架空動物、羽をモチーフにした作品、羽そのものを素材とした作品などに着目し、人間に備わっていない翼や羽を、人間がどのように理解し、扱い、表現したか、わかりやすく紹介した。新型コロナウイルスの影響を勘案し、3 年度に引き続き、4 年度もオンラインで 3 館園の研究員によるウェビナーを開催した。			
本館 14 室	創立 150 年記念特集　収蔵品でたどる日本仏像史	5月17日 ～ 7月10日	16件（重文4件）
＜主な作品＞ ◎摩耶夫人および天人像、◎日光菩薩坐像、◎阿弥陀如来坐像（阿弥陀如来坐像及び両脇侍立像のうち）、如来立像			
創立 150 年を迎えた当館には、古代から近代までさまざまな仏像が所蔵・寄託されており、本特集では、そのうち飛鳥時代から近代にいたる各時代の典型的な作品を展示し、日本の仏像を通史的に紹介した。また作品にみられる時代ごとの造形的な特徴を示し、材質や制作技法を含めてその変遷をたどることで、日本の仏像の入門的な見方を提示した。			

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
平成館 企画展示室	創立 150 年記念特集　時代を語る洋画たち―東京国立博物館の隠れた洋画コレクション	6 月 7 日 ～ 7 月 18 日	22 件
＜主な作品＞ 夕日の港、スコットランド高地に潜むチャールズ・エドワード王子、富士山腹帰樵、二人の踊り、画室、世界大戦写生図、画家とその妻			
当館は、日本や東洋の古美術だけでなく、明治から昭和初期において制作とほぼ同時期に収蔵された洋画も多く収蔵する。本特集では、創立 150 年の機会に、現在の展示の枠組みの中では公開の機会がほとんどないそうした洋画コレクションの作品を展示し、それらを通して収蔵当時の時代背景や博物館活動における意義について紹介した。			
本館 14 室	創立 150 年記念特集　東博のガラスコレクション―明治期ガラス工芸の諸相	7 月 12 日 ～ 9 月 4 日	23 件
＜主な作品＞ ガラス七宝脚付杯、切子銅赤色被せガラス鉢、切子ガラス器、白色ガラス蛙蜻蛉刻文瓶			
当館が収蔵するガラス作品のなかから、主に明治期前後につくられ、博物館草創期にコレクションに加わったものを紹介した。江戸時代末からつくられ始めた切子ガラス、内国勧業博覧会に出品された品川硝子製造所のガラス製品、珍しい舶来のガラスなどを展示し、創立150年を迎えた当館ならではの、多様な来歴で、かつ貴重な国内外のガラスコレクションを紹介した。			
本館 特別2室	親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　Ⅴ	7月20日 ～ 8月28日	13件
＜主な作品＞ 近江八景蒔絵料紙硯箱、小袖茶平絹地椿枝垂柳掛軸模様、色絵三壺文皿			
美術作品や制作技法に興味を持ってもらうことを目的とした、子どもから大人までを対象とする教育普及的展示である。漆工（蒔絵）、陶磁（色鍋島）、染織（友禅染）の3つのジャンルを取り上げ、文化財とともに専門家の制作した伝統的技法の工程見本を展示し、歴史の中で培われてきた日本美術の技術と美しさを伝えた。また画像やイラストを盛り込んだわかりやすい解説パネル類を掲示した。			
平成館 企画展示室	創立 150 年記念特集　チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―	7 月 26 日 ～ 9 月 19 日	63 件
＜主な作品＞ 『秘密集会』阿閦金剛三十二尊曼荼羅（『ヴァジュラーヴァリー』曼荼羅集のうち 2 番）、ツォンカパ伝、シャンバラ王ラウドラ・チャクリン像、無量寿仏坐像、除蓋障菩薩坐像（八大菩薩のうち）、九鈷鈴、盤 白色如意宝珠マハーカーラ、チベット式仏塔、チャクラサンヴァラ父母仏立像、般若経、河口慧海請来風俗資料			
明治時代に日本人として初めてチベットを訪れた僧河口慧海の旅行記を契機に、日本でチベット仏教が注目されるようになり、当館でも創立以降さまざまな機会にチベット関連資料を収集してきた。本特集では、なかでも絵画・彫刻・工芸・書跡の各分野を代表する優品を、慧海のご遺族からの寄贈品の一部とともに紹介した。			
本館 特別 1 室	令和 3 年度新収品	8 月 2 日 ～ 8 月 26 日	22 件（重美 1 件）
＜主な作品＞ 〇道済集巻十九断簡（紙撚切）、鳥獣戯画（模本）、山水蒔絵硯箱、如来坐像、内裏雛、鞆形埴輪残欠、猿猴図軸			
3年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、寄贈分、購入分より主だった作品を公開した。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を紹介した。			
本館館 特別 1・2 室	創立 150 年記念特集　東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―	9 月 6 日 ～ 10 月 30 日	96 件
＜主な作品＞ 普賢延命像（模本）、鳥毛篆書屏風（模造）、吉祥天立像（模造）、物具着用図（藤原時代風俗画のうち）			
当館の草創期、展示品の足りない分野を補うため、また研究のため、多くの模写・模造が作られた。外部の専門家に制作を依頼し、館内で専属の職員を雇用したほか、積極的に購入を行っている。この時期に行なわれた模写・模造事業は、東京国立博物館の歩みを示すのみならず、近代日本における博物館行政や文化財保護理念の一端を知る手がかりとなる。本特集は、明治５年（1872）の博物館の創立以降、明治 22 年（1889）の帝国博物館設置、明治 33 年（1900）の帝室博物館設置を経て、昭和 22 年(1947)に国立博物館となるまでに制作された模写・模造作品を精選して展観した。創立 150 年を迎える年にあたり、草創期の博物館の活動の一端を紹介する機会とした。			
本館 11・14 室	創立 150 年記念特集　未来の国宝―東京国立博物館彫刻、工芸、考古の逸品―	9 月 6 日 ～ 12 月 25 日	3 件（重文 1 件）
＜主な作品＞ ◎白瑠璃埦、吉野宮蒔絵書棚、青磁盤			
創立 150 年の歴史のなかで収集された当館の文化財には、未来に受け継いでいきたい国民共通の宝というべき、多くの素晴らしい作品が含まれている。本特集は、そうした宝の中から選りすぐりの「逸品」を「未来の国宝」として展示するとともに、その魅力や作品に込められた物語を紹介した。			
東洋 8 室	日中国交正常化 50 周年　東京国立博物館 150 周年 中国書画精華―宋代書画とその広がり―	9 月 21 日 ～ 11 月 13 日	66 件(重文 21 件、重美 2 件)
＜主な作品＞ ◎寒江独釣図軸、◎洞山渡水図軸、◎竹虫図軸、行書三帖巻、行書王史二氏墓誌銘稿巻、行書遊天池詩巻			
開館 150 周年にあたる本年は、当館所蔵・寄託の中国書画コレクションの白眉といえる宋時代の作品に注目し、その重要性を物語る後世の関連作品とともに紹介した。現在日本に所蔵される宋代書画は、伝来が室町時代に遡る「古渡」と、清朝崩壊前後の近代に流入した「新渡」が混在する。日本における宋代書画の受容の変遷、価値の再発見にも配慮した展示を心がけた。			
東洋館 5 室	創立 150 年記念特集　再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅	9 月 21 日～12 月 4 日	25 件
＜主な作品＞ 赤地渦輪違文入鳥獣人物文綾、赤茶地幾何花文錦、紺地菩薩立像描絵平絹、刺繍如来立像・唐草文断片			

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
当館所蔵、大谷探検隊招来の出土染織資料は、多くがガラス挟みで保管され、展示の機会も極めて少なかった。しかし作品の題記には、現在の中国甘粛省敦煌や新疆ウイグル自治区吐魯番などの出土地が記されており、中古中国・オアシス都市の染織文化をうかがい知れる貴重な資料群といえる。これらの資料は大谷探検隊の収集品を中心とする。本展示では、コレクションの意義を踏まえ、その魅力と価値を紹介した。			
平成館 企画展示室	創立 150 年記念特集　つたえる、つなぐ―博物館広報のあゆみ―	9 月 27 日 ～ 11 月 6 日	列品：3 件
＜主な作品＞ 博覧会図式、明治五年湯島聖堂博覧会広告、明治五年湯島聖堂博覧会観覧券			
当館がこれまで制作してきた広報用制作物の中から、展覧会のポスターや館案内パンフレット、 東京国立博物館ニュース、WEB サイトなどを紹介、広報用制作物をとおして、当館の博物館活動の歴史を紹介した。展示室にはフォトスポットを設置、来館者による SNS への投稿を促すとともに、出口に博物館ニュース配布ラックと公式 SNS の QR コードを告知し、当館のコンテンツへと誘導することで、当館と来館者をつなぐスペースとした。なお展示品のうち、列品登録されている作品は 3 件のみである。			
東洋館 5 室	創立 150 年記念特集　東京国立博物館のイスラーム陶器	10 月 4 日～ 5 年 1 月 22 日	47 件（重文 2 件、重美 1 件）
＜主な作品＞ ◎白磁鳳首瓶、◎三彩貼花龍耳瓶、ラスター彩動物文鉢、白釉色絵草花文皿、青緑釉ランプ			
イスラーム陶器とは、ここではおよそ９世紀から 17 世紀にかけて、現在のイラン、イラク、シリアを中心とした地域で焼かれたやきものを指す。日本では 1920～30 年代頃より収集がはじまり、当館にはその草創期を支えた作品をはじめ、貴重なコレクションが収蔵されている。本展はイスラーム陶器をまとめて展観する初めての試みで、その収蔵経緯とともにコレクションの意義を紹介した。			
法隆寺宝物館 6 室	特集古代染織の保存と修理―50 年にわたる取り組み―	10 月 18 日～ 12 月 11 日	13 件（重文 4 件）
＜主な作品＞ ◎蜀江錦綾幡、広東綾大幡、羅道場幡、古裂帖、淡縹地大唐花文錦			
2022 年は 1972 年に法隆寺献納宝物の染織品修理がはじまって 50 年の節目にあたる。これを記念して、過去の修理と現在の取り組みをご紹介する特集展示を企画した。本展では法隆寺における江戸時代の染織品保存にはじまり、博物館において戦後本格化した修理事業の変遷をたどった。			
本館 12 室	創立 150 念特集　根付　郷コレクション―	11 月 2 日～ 5 年 1 月 22 日	274 件
＜主な作品＞ 燭陰木彫根付、龍仙人木彫彩色根付、鬼鐘馗木彫彩色根付、蛤牙彫根付			
昭和 17 年（1942）11 月 20 日、帝室博物館に実業家・郷誠之助氏から根付を中心とするコレクションが一括寄贈された。同コレクションは江戸～明治期の有名根付師の作品をはじめとする優れた質を誇り、国内外の根付愛好者の間で評価が高い。日本の根付文化を学問的視点で保存した随一の個人コレクションと言える。本展は「郷コレクション」寄贈 80 周年を記念し、根付コレクションを一括公開した。			
平成館 企画展示室	創立 150 年記念特集　高円宮殿下二十年式年祭記念　根付　高円宮コレクション	11 月 15 日～12 月 25 日	500 件
＜主な作品＞ 九尾之狐、達磨、ほおずき、寒雀、うさぎ、花魁、幽霊、馬			
高円宮コレクションは、憲仁親王殿下が久子妃殿下とのご婚約以来約 18 年にわたって収集された、現代根付を中心とするコレクションである。殿下の収集品のうち、260 件が平成 27 年度までに当館に寄贈され、令和２年度から新たに 240 件が出品・寄贈され、計 500 件におよぶ根付コレクションが展示出来ることになった。本展は令和４年が殿下の二十年式年祭にあたることを記念し、現代根付の保存と公開を企図された殿下のご意思を顕彰するとともに「高円宮コレクション」の全てをご覧いただく機会とした。			
平成館 企画展示室	博物館に初もうで　兎にも角にもうさぎ年	5 年 1 月 2 日～1 月 29 日	44 件（重美 4 件）
＜主な作品＞ 博物館獣譜、染付水葵に兎図大皿、火事装束 紺麻地波兎雨龍模様、月宮八稜鏡、豆兎蒔絵螺鈿硯箱			
お正月の恒例展示。令和５年（2023）の干支「癸卯」の卯年（うどし）にちなみ、「兎」を主題とした特集展示を行った。５つのテーマ「兎に角うさぎ」「月のうさぎ」「波に乗るうさぎ」「うさぎはどこだ」「うさぎと人と」で構成し、兎を表す当館所蔵の美術工芸品、歴史資料、考古資料を展示した。			
本館館 14 室	創立 150 年記念特集　近世能狂言面名品選 ―「天下一」号を授かった面打―	5 年 1 月 2 日～2 月 26 日	25 件（重文 6 件）
＜主な作品＞ 能面 小面、狂言面 武悪、能面 平太、能面 増女、能面 景清			
能が大成した室町時代には新しい能面が創作された。安土桃山時代、江戸時代と次第に能面作家である面打も世襲されるようになり、名物面を写すことが盛んに行われる写しの時代となった。本展のテーマ「天下一」号は、文禄 2 年（1593）に豊臣秀吉が写しの名手として角坊に授けたのが最初である。本展では「天下一」の称号を授けられた近世の写しの名手 7 人の作品を展示し、名物面の写しが主になった時期にもそれぞれの個性がうかがえることを示した。			
本館 7 室	創立 150 年記念特集　戦後初のコレクション　国宝「松林図屏風」	5 年 1 月 2 日～1 月 15 日	1 件（国宝 1 件）
＜主な作品＞ ●松林図屏風			
当館が昭和 22 年に皇室から国に移管され、国立博物館として国民の博物館となったときに、戦後初の購入作品の一つとなったのが「松林図屏風」であった。昭和 27 年 11 月 22 日に国宝に指定されてから今日まで、正しく国民の「国宝」として広く知られるこの作品を、1 点展示して当館創立 150 周年を寿ぐことを意図した。			
平成館 企画展示室	創立 150 年記念特集　コレクションの探求　はにわ展から 50 年	5 年 2 月 28 日～4 月 9 日	26 件（国宝 2 件、重文 6 件）
＜主な作品＞ ◎猪形埴輪、◎家形埴輪、◎埴輪 短甲の武人、◎船形埴輪			

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
当館で開催された特別展観「はにわ」（昭和48年２月13日から３月18日）の50周年を記念して本特集を開催した。この50年間で進んだ研究成果を踏まえ、特別展観「はにわ」で陳列した埴輪を中心に紹介した。あわせて、この50年間で当館にて行われた修理事業、ＣＴや三次元計測による最新研究、美術史的な観点での埴輪の再評価、国宝・重要文化財に指定された作品など、多角的な展示を試みた。			
本館 14室	おひなさまと日本の人形	5年2月22日～3月21日	49件
＜主な作品＞ 古今雛、立雛（次郎左衛門頭）、御所人形、牙首雛、紫宸殿（雛用御殿）			
3月3日の桃の節供、雛祭にちなんで行った恒例企画。今回は三谷家伝来の牙首雛や山本家伝来の古今雛といった江戸の地における雛飾りの名品とともに、東博が所蔵する御所人形の代表作を一堂に展示した。一方、初期の雛人形もあわせて展示し、雛人形の成立から発展までも見通せるようにした。展示にあたっては、人形の名品を通じ、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を、楽しく伝えることを心がけた。			
本館 14室	ニール号引き揚げ品- ウィーン万博をめぐる日欧の工芸文化交流-	5年3月21日～5月14日	21件
＜主な作品＞ 色絵金彩婦人図皿、鼈甲製鳥籠、錆絵葡萄図角皿、色絵花虫図陶板（タイル）			
ウィーン万国博覧会開催150年の節目として開催するもので、今に伝わるニール号引揚品の一部や博覧会開催のために全国から集められた工芸品、またこのニール号の事故を受けてあらためて海外から寄贈された作品などを通して、初期の博物館の海外交流の様子を紹介した。			

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展「空也上人と六波羅蜜寺」
会　　期	3月1日（火）～5月8日(日)
会　　場	東京国立博物館　本館特別5室
主　　催	東京国立博物館、六波羅蜜寺、朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日
協　　賛	DNP大日本印刷、小学館
作品件数	17件（うち、重文10件）
来館者数	146,085人(目標50,000人、達成率292.2%)
入場料金	一般 1,600円、大学生 900円、高校生 600円、中学生以下無料
アンケート結果　満足度	86.4%
担当研究員数	2人
展覧会の内容	空也上人は、平安前期に阿弥陀信仰をいち早くひろめた僧侶であり、市井の人々に救いの道を示したので、市の聖、阿弥陀聖と呼ばれた。空也上人が、京都東山に創建した六波羅蜜寺には、上人の像が伝わる。本年は空也上人没後1050年にあたり、空也上人立像を公開するほか、空也上人のもとで造られた四天王立像、定朝作とされる地蔵菩薩立像、運慶作の地蔵菩薩坐像など、平安から鎌倉時代の彫刻の名品を展示し、六波羅蜜寺の歴史と美術を通して、信仰の厚みにも思いをはせる機会とした。
講演会等	記念講演会を4月2日に開催した。

展覧会名	沖縄復帰50年記念特別展「琉球」
会　　期	5月3日(火・祝)～6月26日(日)
会　　場	東京国立博物館　平成館特別展会場
主　　催	東京国立博物館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、読売新聞社、文化庁
共　　催	沖縄県立博物館・美術館
特別協賛	キヤノン、大和証券グループ、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	ＪＲ東日本、清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
協　　力	ＤＮＰ大日本印刷
輸送協力	日本航空
作品件数	289件（国宝60件、重文17件、県指定文化財25件、市指定文化財6件）
来館者数	90,395人(目標50,000人、達成率180.8%)
入場料金	一般2,100円、大学生1,300円、高校生900円、中学生以下無料
アンケート結果　満足度	85.3%
担当研究員数	4人
展覧会の内容	令和4年(2022)は沖縄県の復帰50年という節目の年に当たるため、これを記念して、強く輝き続ける琉球の歴史と文化を過去最大規模の展覧会を通じて紹介する。本展は、アジアにおける琉球王国の成立、および文化の形成と継承の意義について、第1章「万国津梁　アジアの架け橋」、第2章「王権の誇り　外交と文化」、第3章「琉球列島の先史文化」、第4章「しまの人びとと祈り」、第5章「未来へ」という構成で文化財を通じて紹介した。
講演会等	連続講座を6月10～11日までの2日間、開催した。

展覧会名	日中国交正常化50周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」
会　　期	7月26日(火)～9月19日(月祝)
会　　場	東京国立博物館　平成館特別展会場（1～2室）
主　　催	東京国立博物館、故宮博物院、凸版印刷
特別協力	朝日新聞社
後　　援	日本アジア共同体文化協力機構
作品件数	23件（重文1件）

来館者数	27,839人(目標30,000人、達成率92.8%)
入場料金	一般 1,500円、大学生 900円、TNM&TOPPANミュージアムシアターセット券　1,800円
アンケート結果　満足度	63.7%
担当研究員数	3人
展覧会の内容	本年（2022年）が日中国交正常化50周年の節目に当たるのを記念して、故宮博物院と当館、そして両者と長年にわたり共同研究を行ってきた凸版印刷が共同で、紫禁城をテーマにした特別デジタル展を開催する。第1章は「デジタル故宮博物院」として、清時代の紫禁城の一部をデジタル空間で再現し、故宮が収蔵する名品をデジタルデータで紹介する。第2章は「紫禁城の書画工芸」として、当館が管理する清朝皇帝の愛蔵品や紫禁城で鑑賞され用いられていた書画工芸を紹介した。
講演会等	会期中にTNM & TOPPAN ミュージアムシアターにおいて「故宮VR 紫禁城・天子の宮殿」を上演した。

展覧会名	**東京国立博物館創立150年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」**
会　　期	10月18日(火)～12月11日(日)
会　　場	東京国立博物館　平成館特別展会場
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
協　　賛	JR東日本、大伸社、大和ハウス工業、三井住友銀行、横河電機、横河ブリッジホールディングス
作品件数	150件（うち国宝89件、重要文化財27件）
来館者数	351,153人（目標80,000人、達成率：438.9%）
入場料金	一般：2,000円、大学生：1,200円、高校生：900円
アンケート結果　満足度	91.9%
担当研究員数	4人
展覧会の内容	東京国立博物館は日本で最も長い歴史をもつ博物館である。令和4年（2022）は東京国立博物館の創立150年の節目に当たる年であり、これを記念して、約12万件という膨大な所蔵品の中から国宝89件すべてを含む名品と、東博の歴史を物語る関連資料を紹介する展覧会を開催する。展覧会は2部から構成され、第1部「東京国立博物館の国宝」では東博が所蔵するすべての国宝を公開し、第2部「東京国立博物館の150年」では明治から令和にいたる博物館150年の歩みを3期に分けて紹介した。
講演会等	記念講演会を11月24日に開催した。

展覧会名	**東京国立博物館創立150年記念　特別企画「未来の博物館」**
会　　期	10月18日(火)～12月11日(日)
会　　場	東京国立博物館　本館特別3室、本館特別5室、東洋館エントランス
主　　催	東京国立博物館、文化財活用センター、NHK
協　　賛	キヤノン株式会社、シャープ株式会社
作品件数	原品の展示なし。コンテンツ件数：6件
来館者数	150,296人
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
アンケート結果　満足度	体験が楽しかった：97.5%　　日本美術作品への興味が高まった：95.0%
担当研究員数	5人
展覧会の内容	東京国立博物館の創立150年を記念し開催する特別企画。高精細複製品や8K映像、プロジェクションマッピングなどの最先端のデジタル技術と日本美術のコラボレーションによる体験型展示を行い、これまでの東京国立博物館の展示室では不可能だった鑑賞体験が実現した。
講演会等	10月23日、11月27日に子どもを対象としたガイドツアー「ぶつぞう調査隊」を計8回行った。

展覧会名	**特別企画「大安寺の仏像」**
会　　期	5年1月2日（月・祝）～3月19日（日）
会　　場	東京国立博物館　本館11室
主　　催	東京国立博物館、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
作品件数	15件（うち重要文化財7件）
来館者数	177,515人 ※本企画のみの入館者数は計測していないため、本企画期間の本館の入館者数を採用した。
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
アンケート結果　満足度	―
担当研究員数	3人
展覧会の内容	奈良市にある大安寺は日本最初の国立寺院であり、国際色豊かな環境で多くの優秀な僧侶たちを育てた仏教研究の中心拠点として栄えた。大安寺に伝わる木彫の仏像群は、いずれも一木造で優れた身体表現や細やかな彫りに奈良時代の木彫像の特色が表われている。本展では、大安寺に伝わる仏像のほか、大安寺出土の瓦などもあわせて展示し、日本仏教の源流ともいうべき大安寺の歴史を紹介した。
講演会等	

展覧会名	**「150年後の国宝展―ワタシの宝物、ミライの宝物」**
会　　期	11月2日(水)～5年1月29日(日)(72日間)
会　　場	表慶館
主　　催	東京国立博物館
作品件数	一般公募67件、出展協力企業展示31件

来館者数	178,525人
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
アンケート結果　満足度	満足度92.1%
担当研究員数	1人
展覧会の内容	今から150年後の西暦2172年に伝え残していきたい国宝候補を、その背景のストーリーと共に展示するものである。一般部門及び企業部門から構成される。一般部門は「ワタシの宝物、ミライの宝物」というテーマで一般公募を行い、その中から当館が選んだものを展示。企業部門については、展覧会に出展協力いただいた企業と、当館にてどのような国宝候補が適当かを協議の上、展示を行った。
講演会等	11月20日、吉本興業(株)と大講堂にて漫才に関するワークショップを実施。5年1月13日、大講堂にてキッコーマン(株)と醤油に関する講演会を実施。（株）BANDAI SPIRITSと5年1月21、22、28、29日、平成館ラウンジ等にて廃材を利用した環境に配慮したプラモデル製品に関するワークショップを実施した。

【京都国立博物館】

(1)平常展(名品ギャラリー)

①開館日数　213日(名品ギャラリー開館日数：129日、庭園のみ開館日数：84日)
②展示総件数　680件
③展示替件数　680件
④入場料金　一般700円、大学生350円　※庭園のみ開館時は一般300円
⑤特集展示等　全3件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特集展示	新発見！蕪村の「奥の細道図巻」	6月14日～7月18日	3件(重要文化財1件)
新春特集展示	卯づくし―干支を愛でる―	5年1月2日～2月29日	26件(重要文化財1件、重要美術品1件)
特集展示	雛まつりと人形	5年2月4日～3月5日	58件

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	伝教大師1200年大遠忌記念　特別展「最澄と天台宗のすべて」
会　　期	4月12日(火)～5月22日(日)（36日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、天台宗、比叡山延暦寺、読売新聞社、読売テレビ、文化庁
特別協力	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、 三菱商事
作品件数	130件(国宝23件、重要文化財72件)
来館者数	43,235人（目標来館者数50,000人、達成率：86.5%）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果　満足度	75.8%
講演会等	・記念講演会（4回） 4月16日【対談】「伝教大師最澄を語る」登壇者：阿部 昌宏 氏（天台宗 宗務総長）、露の団姫氏（落語家、天台宗道心寺 住職）　【落語】「仏教落語」出演者：露の団姫 氏 4月23日【対談】「日吉大社山王祭と神輿」登壇者：須原 紀彦 氏（日吉大社 禰宜）、末兼 俊彦（当館 主任研究員） 5月7日「天台宗の信仰と仏画」講師：大原嘉豊（当館 保存修理指導室長） 5月14日「天台のみほとけたち」講師：淺湫毅（当館 上席研究員）

展覧会名	特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」
会　　期	7月30日（土）～9月11日（日）（38日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館
特別協力	―
協　　賛	―
作品件数	130件（国宝4件、重要文化財31件、重要美術品3件）
来館者数	28,211人（目標来館者数30,000人、達成率：94.0%）
入場料金	一般1,200円、大学生600円、高校生300円
アンケート結果　満足度	83.9%
講演会等	・関連土曜講座（プレ講座）（1回） 7月23日（土）「観心寺と金剛寺での京博社寺調査　漆工編」講師：永島 明子（当館 教育室長） ・記念講演会（5回） 7月30日（土）「観心寺・金剛寺と南北朝動乱」講師：尾谷 雅彦 氏（元河内長野市教育委員会） 8月20日（土）「観心寺・金剛寺の歴史と文化財調査」講師：井並 林太郎（当館 研究員） 8月27日（土）「観心寺・金剛寺の金属工芸」講師：末兼 俊彦（当館 主任研究員） 9月3日（土）「観心寺・金剛寺の聖教」講師：上杉 智英（当館 研究員） 9月10日（土）「真言密教のみほとけたち―観心寺・金剛寺を中心に―」講師：淺湫 毅（当館 上席研究員）

展覧会名	特別展「京（みやこ）に生きる文化　茶の湯」
会　　期	10月8日（土）～12月4日（日）（50日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、読売新聞社、文化庁

特別協力	キヤノン、大和証券グループ、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	JR東日本、清水建設、高島屋、竹中工務店、三井住友銀行、 三菱商事
作品件数	245件（国宝27件、重要文化財74件）
来館者数	91,675人（目標来館者数50,000人、達成率：183.4%）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果　満足度	72.1%
講演会等	・記念講演会（7回） 10月15日（土）　「利休の懐石」講師：筒井 紘一 氏（京都府立大学 客員教授、茶道資料館 顧問） 10月22日（土）　「京に生きる文化 茶の湯―歴史とその背景―」講師：降矢 哲男（当館 調査・国際連携室長） 10月29日（土）　「日本の茶文化における中国絵画受容」講師：森橋 なつみ（当館 研究員） 11月5日（土）　「京都における数寄者と茶の湯」講師：谷 晃 氏（野村美術館 館長） 11月12日（土）　「天下人と茶の湯」講師：竹本 千鶴 氏（國學院大學 兼任講師） 11月19日（土）　「京都における公家と茶の湯―そのはじまりと展開―」講師：谷端 昭夫 氏（湯木美術館 理事） 12月3日（土）　「中世の文書と典籍にみる「茶」」講師：羽田 聡（当館 列品管理室長兼美術室長）

展覧会名	親鸞聖人生誕850年特別展「親鸞―生涯と名宝」
会　　期	5年3月25日（土）～5月21日（日）（58日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、朝日新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿
特別協力	真宗教団連合
協　　賛	DNP大日本印刷、京都女子大学
作品件数	181件（国宝11件、重要文化財75件）
来館者数	13,918人（3月31日現在、目標来館者数50,000人）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
講演会等	・記念講演会（1回） 3月25日（土）「親鸞聖人の生涯」講師：草野 顕之 氏（大谷大学 名誉教授）

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：318日(名品展のみの開館日数：177日)
②展示総件数：393件
③展示替件数：188件
④入場料金：一般　700円　大学生　350円
⑤特別陳列等：全96件
名品展
　珠玉の仏たち（なら仏像館）135件
　珠玉の仏教美術（西新館）129件
　特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）5件
　中国古代青銅器（青銅器館）124件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	わくわくびじゅつギャラリー はっけん！ほとけさまのかたち	7月16日～8月28日	31件（うち重文16件）
特別陳列	お水取り	5年2月4日～3月19日	65件（うち重文19件）

(2)特別展、共催展等

展覧会名	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」
会　　期	4月23日(土)～6月19日(日)（51日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、日本経済新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
後　　援	―
特別協力	大安寺
協　　賛	―
協　　力	中川政七商店、奈良 蔦屋書店、日本香堂、仏教美術協会
作品件数	124件（うち国宝10件、重文50件）
来館者数	32,971人(目標来館者数 50,000人・達成率 65.9%)
入場料金	一般1,800円、高校・大学生1,500円、小・中学生800円
アンケート結果　満足度	96.4%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	南都七大寺の1つとして数えられた大安寺の歴史を、寺宝、関連作品、発掘調査成果など様々な角度から紹介した。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計 212人 4月29日（金・祝）「大安寺伽藍縁起幷流記資財帳の考古学」上原眞人（京都大学名誉教授）/ 参加者数 76人 5月21日(土)「大安寺の祈りと営み－出土品を中心に－」中川あや（学芸部企画室長）/ 参加者数　65人 6月11日(土)「大安寺の仏像」稲本泰生（京都大学教授）/ 参加者数　71人

展覧会名	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅　―祈りが紡ぐ物語―」
会　　期	7月16日(土)～8月28日(日)（39日間）
会　　場	奈良国立博物館　西新館
主　　催	奈良国立博物館、當麻寺、読売新聞社、NHK奈良放送局
後　　援	―
特別協賛	―
協　　賛	清水建設、大和ハウス工業
協　　力	日本香堂、仏教美術協会
作品件数	77件（うち国宝5件、重文13件）
来館者数	19,966人(目標来館者数 38,000人・達成率 52.5%)
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	96.1%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	貞享本當麻曼荼羅の修理過程で確認された資料を紹介しながら貞享本製作プロジェクトの全貌を示すとともに、周辺の當麻曼荼羅信仰や、連動する中将姫信仰についても紹介した。
講演会等	○公開講座 2回　参加者数合計 126人 8月6日(土)「貞享本當麻曼荼羅とその周辺」北澤菜月（学芸部主任研究員）/ 参加者数 66人 8月20日(土)「中将姫説話の展開」日沖敦子（文教大学文学部日本語日本文学科准教授）/ 参加者数 60人

展覧会名	第74回正倉院展
会　　期	10月29日（土）～11月14日（月）（17日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
特別協賛	―
協　　賛	岩谷産業、SGC、NTT西日本、関西電気保安協会、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、シオノギヘルスケア、ダイキン工業、ダイセル、大和ハウス工業、中西金属工業、丸一鋼管、大和農園
特別協力	読売新聞社
協　　力	NHK奈良放送局、Osaka Metro、奈良交通、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、読売テレビ
作品件数	59件
来館者数	87,672人(目標来館者数60,000人・達成率 146.1%)
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,500円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	83.9%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	8世紀の東アジア文化の至宝である正倉院宝物59件を公開した。
講演会等	○公開講座 2回　参加者数合計 136人 10月29日(土)「正倉院宝物の保存―宝物を覆う―」髙畑誠（宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員）/参加者数 71人 11月12日(土)「正倉院の仏具―奈良時代の寺院と法会の世界―」三本周作（学芸部研究員）/ 参加者数 65人

展覧会名	式年造替記念特別展「春日大社　若宮国宝展―祈りの王朝文化―」
会　　期	12月10日(土)～5年1月22日(日)（34日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、春日大社、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
後　　援	―
特別協力	―
特別協賛	―
協　　賛	尾田組、天理時報社
協　　力	日本香堂、仏教美術協会
作品件数	89件（うち国宝25件、重文10件）
来館者数	22,888人
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,400円、小・中学生700円
アンケート結果　満足度	94.1%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	藤原摂関家をはじめ平安貴族が若宮神に奉納した、当時最高峰の技術を集めた工芸品を展示するとともに、古来の祭礼や神事芸能、現在の御造替にかかわる器物や歴史資料を通して支えた人々の熱意と努力の軌跡を紹介した。
講演会等	○公開講座 1回　参加者数合計 77人 5年1月7日(土)「王朝文化が蘇る　春日若宮古神宝とその復元」松村和歌子（春日大社国宝殿主任学芸員）/参加者数77人

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数 307 日(うち平常展のみ開館日数 115 日)＊台風の影響により臨時休館(9 月 6、18、19 日)

②展示総件数：2,187 件（うち国宝 74 件、重要文化財 191 件）
③展示替件数：1,961件
④入場料金：一般 700 円、大学生 350 円
⑤特集展示・特別公開等：全 6 件

展示名称	特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ　かわいい考古学のススメ」				
開催期間	4 月 19 日(火)～ 7 月 24 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 3 室	陳列件数（うち指定品件数）	14 件
内容	「かわいい」という観点から女子考古部を中心に選んだ当館所蔵品の考古資料を公開した。				
展示名称	ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2022～				
開催期間	7 月 20 日(水)～ 10 月 10 日(月・祝)	開催場所	文化交流展示室 第 7 室	陳列件数（うち指定品件数）	22 件（うち重文 1 件）
内容	ユニバーサル・ミュージアムへの取り組みの一環として、実物展示に加えてレプリカや再現文化財を公開した。				
展示名称	特別公開「沖ノ島祭祀を担った奉斎者たち」				
開催期間	9 月 21 日(水)～ 12 月 4 日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室 2 テーマ	陳列件数（うち指定品件数）	25 件
内容	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録 5 周年を記念し、沖ノ島祭祀を担った奉斎者たちにまつわる出土資料約 40 点を公開した。				
展示名称	特集展示「御所の器　公家山科家伝来の古伊万里」				
開催期間	9 月 27 日（火）～ 11 月 20 日（日）	開催場所	文化交流展示室 第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	61 件
内容	山科家に伝来した貴重な禁裏御用品と、それにまつわる歴史資料装束も併せて公開した。				
展示名称	特集展示「種子島　風と波が育んだ歴史」				
開催期間	12 月 13 日(火)～ 2 月 12 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 3 室	陳列件数（うち指定品件数）	53 件（うち重文 3 件）
内容	発掘調査で出土した資料や島の内外に伝わる文化財を通じて、種子島の知られざる交流の歴史を公開した。				
展示名称	新春特別公開　徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度				
開催期間	5 年 1 月 1 日(日・祝)～ 29 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 9 室	陳列件数（うち指定品件数）	26 件（うち国宝 3 件）
内容	徳川美術館に所蔵される国宝「初音の調度」のうち、机、長文箱、色紙箱の 3 件と、大揃いの南部家婚礼調度も併せて公開した。				

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	**特別展「北斎」**
会　　期	4 月 16 日(土)～6 月 12 日(日)（51 日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNC テレビ西日本、TVQ 九州放送
作品件数	130 件（うち国宝 0 件、重要文化財 2 件）
来館者数	135,955 人(目標来館者数 40,000 人・達成率 339.9%)
入場料金	一般 1,800 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円
アンケート結果　満足度	88.4%
講演会等	・記念講演会「北斎とその画業 ―浮世絵風景画史の観点から―」大久保純一（本展監修者・国立歴史民俗博物館教授）/参加者140人 ・記念トークショー「おしえて、しりあがりサン！ ―北斎のすごさとは―」しりあがり寿（漫画家）・畑靖紀（学芸部文化財課主任研究員）/参加者97人 ・担当研究員による展示レクチャー　畑靖紀（学芸部文化財課主任研究員）/参加者96人

展覧会名	**沖縄復帰50年記念 特別展「琉球」**
会　　期	7 月 16 日(土)～9 月 4 日(日)（45 日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁
作品件数	242 件（うち国宝 46 件、重要文化財 13 件）
来館者数	41,054 人(目標来館者数 30,000 人・達成率 136.8%)
入場料金	一般 1,900 円、高大生 1,200 円、小中生 800 円
アンケート結果　満足度	90.8%
講演会等	・記念講演会「万国津梁鐘と尚泰久」田名真之（沖縄県立博物館・美術館長）/参加者95人 ・講演会「琉球の美術と文化を深める」上江洲安亨（〈一財〉沖縄美ら島財団）・原田あゆみ（東京国立博物館企画課長）/参加者78人 ・リレー講座「琉球展ちゃんぷる一講座」 　歴史編：一瀬智（展示課主任研究員）、松浦晃佑（学芸部文化財課研究員）/参加者44人 　工芸編：川畑憲子（学芸部企画課特別展室長）、望月規史（学芸部企画課主任研究員）、桑原有寿子（学芸部企画課研究員）/参加者51人

展覧会名	**特別展「ポンペイ」**
会　　期	10 月 12 日(水)～12 月 4 日(日)（48 日間）※11 月 28 日は臨時開館
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、ナポリ国立考古学博物館、朝日新聞社、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス
作品件数	125 件（うち国宝 0 件、重要文化財 0 件）
来館者数	79,919 人(目標来館者数 40,000 人・達成率 199.8%)
入場料金	一般 1,900 円、高大生 1,200 円、小中生 800 円

アンケート結果　満足度	90.8%
講演会等	・記念講演会「ポンペイに魅せられた50年」青柳正規（東京大学名誉教授）/参加者203人 ・リレー講座 齋部麻矢（展示課長）/参加者62人 小泉惠英（副館長）・白井克也（学芸部文化財課長）・折山桂子（学芸部文化財課アソシエイトフェロー）/参加者53人

展覧会名	特別展「加耶」
会　　期	5年1月24日(火)～3月19日(日)（48日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、韓国国立中央博物館、国立歴史民俗博物館、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、TVQ九州放送
作品件数	273件（うち国宝0件、重要文化財11件）
来館者数	26,990人(目標来館者数20,000人・達成率135%)
入場料金	一般1,700円、高大生1,000円、小中生600円
アンケート結果　満足度	86.0%
講演会等	・記念講演会「五世紀・倭の技術革新と加耶」西谷正（海の道むなかた館館長・九州大学名誉教授/参加者224人 ・リレー講座　白井克也（学芸部文化財課長）、齋部麻矢（展示課長）、大澤信（学芸部企画課研究員）/参加者154人、岡寺良（展示課主任研究員）、大高広和（展示課研究員）、小嶋篤（九州歴史資料館学芸員）/参加者166人

【奈良文化財研究所】

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

①開館日数：310日（平常展のみの開館日数：206日）
②展示総件数：561件
③展示替回数：0回
④入場料金：無料
⑤平常展のみの来館者数：19,888人

(2)特別展、企画展等：4件

展覧会名	平城宮跡資料館 令和4年度 春期特別展 平城宮跡史跡指定100周年・奈良文化財研究所70周年記念 「未来につなぐ平城宮跡 ー保存運動のあけぼのー」		
会　　期	4月29日（金・祝）～ 6月12日（日）（40日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	55件（0件）
来館者数	7,893人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	平城宮跡資料館 令和4年度 夏期企画展 「大地鳴動 -大地の知らせる危機と私たちの生活-」		
会　　期	7月16日（土）～8月28日（日）（38日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	14件（0件）
来館者数	4,106人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	2022年度　秋期特別展 奈良文化財研究所70周年記念・平城宮跡史跡指定100周年記念 「地下の正倉院展 ー平城木簡年代記〔クロニクル〕ー」		
会　　期	10月15日（土）～11月13日（日）（26日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	56件（重要文化財6件、国宝8件）
来館者数	7,628人	入場料金	無料
講演会等	なし		

（参考：平城宮跡資料館の入館者数には含まない）

展覧会名	奈良文化財研究所70周年・平城宮跡史跡指定100周年記念特別展 「のこった奇跡　のこした軌跡ー未来につなぐ平城宮跡ー」		
会　　期	10月29日(土) ～ 12月11日(日)（43日間）	会　場	平城宮跡歴史公園平城宮いざない館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	約158件（0件）
来館者数	36,339人	入場料金	無料
講演会等	なし		

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：357日
②展示総件数：534件
③展示替回数：1回
④入場料金：無料
⑤特集陳列等　：4件

⑥平常展来館者数　：7,133人

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】 石神遺跡南北溝SD1347･AD1476出土土器（石神遺跡第8次・第9次）	4月1日～10月31日	石神遺跡出土土器66点
藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第205次）	4月1日～10月31日	大極殿院出土瓦17点
石神遺跡南北溝SD1347A出土土器（石神遺跡第14次・第15次）	11月1日～3月31日	石神遺跡出土土器41点
藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第208次）	11月1日～3月31日	大極殿院出土凝灰岩1点・瓦15点

【飛鳥資料館】

(1)平常展

①開館日数：307日（平常展のみの開館日数：132日）
②展示総件数：143件
③展示替回数：0回
④入場料金：一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料
⑤平常展のみの来館者数：7,899人

(2)特別展、企画展等：4件

展覧会名	ミニ展示「飛鳥資料館に寄贈された瓦ー瓦の咲く飛鳥資料館ー」		
会　　期	4月22日（金）～5月22日（土）(28日間)	会　場	飛鳥資料館　閲覧室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	9点（0件）
来館者数	3,268人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	ー		

展覧会名	夏期企画展「第13回写真コンテスト作品展「高松塚古墳」		
会　　期	7月15日（金）～9月11日（日）(51日間)	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	76点（0件）
来館者数	2,912人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	ー		

展覧会名	秋期特別展「飛鳥美人　高松塚古墳の魅力」		
会　　期	10月21日（金）～12月18日（日）(51日間)	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	105点（0件）
来館者数	7,280人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	ー		

展覧会名	冬期企画展「飛鳥の考古学2022」		
会　　期	5年1月20日（金）～3月12日（日）（45日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	82点（0件）
来館者数	3,360人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会等	2月11日(土)・3月4日(土)ギャラリートーク		

b ボランティア受入実績

1 受入人数

令和5年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
699人	150人	40人	145人	243人	121人

2 活動内容

【東京国立博物館】 計150人

種別 （登録人数）	概　要
生涯学習ボランティア （149人）	**1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る** 【教育普及事業の補助】 ・ワークショップの補助（6回）（キッズデーを除く） ・講演会のサポート（12回） ・本館特別4室「日本文化のひろば」対応（通年） ・東洋館6室オアシス「アジアの占い体験」実施（通年） ・本館19室みどりのライオン体験コーナー対応（通年） 【館内案内】 ・本館1階エントランス・2階1室前・17室での来館者対応（通年） 【資料印刷・作成】 ・点字パンフレットの印刷（16冊） ・WEB版たんけんマップの作成（2回） ・自主企画グループのウェブ新聞作成（1回） 【職場体験実施活動補助】 ・受入数：11校（中学校7校、高校4校）、生徒数31人（中学23人、高校8人） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（46人） ・盲学校のためのスクールプログラムの実施（5回） ・バリアフリー班研修および受け入れ前打合せ（8回） 【各種連携事業】 ・「留学生の日」（10/1）内プログラム 英語ガイド（2回22人） ・「博物館でアジアの旅」（9/21-10/16）内プログラム 樹木ツアー（1回13人）、東洋館ツアー（ボランティア対象スライドトーク1回39人） ・「博物館でお花見を」 たてもの散歩ツアー（1回、20人） 樹木ツアー（1回、41人） 英語ガイド（1回、25人） 庭園茶室ツアー（1回、8人） 応挙館茶会（2回、23人） ・「トーハク月イチ！キッズデー」（12回実施） ワークショップ補助（129人） 4月10人、5月8人、6月10人、7月19人、8月9人、9月6人、10月10人、11月15人、12月12人 1月9人、2月11人、3月10人 イベントサポート（12回、計52人） キッズスペース運営サポート（12回、計41人） ボランティア企画子ども向けガイドツアー・イベント ・「アートスタジオ」（11回、90人） ・「こどもたてものさんぽツアー〜たんけんマップをもって〜」（16回、787人） ・「手遊び&ユリノキガイド」（7回、186人） ・「東洋館で探してみよう」（4回、489人） 【ボランティアデー開催】（12/3・4実施） ・ボランティア募集説明会（4回150人） ・ボランティアによる活動紹介ツアー（4回121人） ・たてもの散歩ツアー（2回88人） ・樹木ツアー（2回62人） ・応挙館茶会（2回30人） ・庭園茶室ツアー（2回23人） ・英語ガイド（2回47人） ・アートスタジオ（1回9人） ・自主企画グループのうち屋内ガイドツアーよるスライドトーク（各1回） 考古展示室ガイド（78人） 彫刻ガイド（89人） 陶磁ガイド（61人） 浮世絵ガイド（68人） 法隆寺宝物館ガイド（48人） 本館ハイライトツアー（95人）

種別 （登録人数）	概　　要
	近代の美術ガイド（58人） 東洋館ツアー（65人） 刀剣・武士の装いツアー（47人） **2)来館者向けガイドツアー** 新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止していた屋外ガイドツアーとワークショップを再開。屋内ガイドツアーは、本館地下みどりのライオン教育普及スペースを使ってのスライドトークとして実施すべく、前段階としてボランティア向けの練習会兼研修を重ね、12月のボランティアデーと3月にはお客様向けスライドトークを実施。また、各自主企画グループの勉強会を実施した。 ＊数値は「留学生の日」「博物館でアジアの旅」「トーハク月イチ！キッズデー」「博物館でお花見を」を含む。 【ボランティア向けガイドツアー】4回のべ12人 ・庭園茶室ツアー（3回、9人） ・英語ガイド（1回、3人） 【ボランティア向けスライドトーク】38回のべ978人 ・考古展示室ガイド（2回、44人） ・彫刻ガイド（3回、72人） ・陶磁ガイド（4回、115人） ・浮世絵ガイド（6回、162人） ・法隆寺宝物館ガイド（3回、53人） ・本館ハイライトツアー（6回、158人） ・近代の美術ガイド（3回、89人） ・東洋館ツアー（8回、211人） ・刀剣・武士の装いツアー（3回、74人） 【来館者向けツアー】42回、793人 ・たてもの散歩ツアー（21回、532人） ・樹木ツアー（18回、390人） ・応挙館茶室（18回、169人） ・庭園茶室ツアー（11回、123人） ・英語ガイド（6回、27人） ・「アートスタジオ」（11回、90人） ・「こどもたてものさんぽツアー～たんけんマップをもって～」（16回、787人） ・「手遊び&ユリノキガイド」（7回、186人） ・「東洋館で探してみよう」（4回、489人） ・「近代の美術」（1回、45人） ・「浮世絵ガイド」（1回、63人） ・「彫刻ガイド」（1回、38人） 自主企画グループ勉強会（135回）
東京藝術大学大学院インターンシップ（1人）	新型コロナウイルスの影響を勘案し、事前練習などはオンラインで実施。また展示室でのトークを避け、本館地下教育普及スペースでのスライドトークとして実施した。 ・「技法と姿勢から読み解く『菩薩立像』」（3回186人） ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「1(3)① 3」大学との連携事業等の実施」の事業である。詳細は処理番号1313Aを参照。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】　計57回
- 基本活動関連研修　6回（ボランティアデー活動紹介ツアー研修を含む）
- イベント班研修　2回
- バリアフリー班研修　8回
- ワークショップ班研修　3回
- スライドトーク研修　38回

【京都国立博物館】　　計40人

種　別 （登録人数）	概　　要
京博ナビゲーター（0人）	新型コロナウイルスの影響により活動を中止している。
調査・研究支援ボランティア(11人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(21人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、当館研究員によるスクーリング（21回）を受けたのち、下記の活動で講師を務めた。 ・文化財に親しむ授業　7回・501人 ・記者体験in京都国立博物館　1回・60人
京都・らくご博物館学生ボランティア(8人)	当館主催で定期的に開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】　計145人

種　別　(登録人数)	概　　要
ならはくボランティア（145人）	【オンライン活動説明会の実施】 ・ボランティアを対象に活動説明会の実施　1回　※ウェブ会議アプリを利用しての実施 【学校プログラム「ならはく『世界遺産学習』」の活動】 ・奈良市世界遺産学習で来館する奈良市立小学校5年生の受け入れ　22校、1,432人 ・奈良市立小学校5年生以外の小・中学校・高校の受け入れ　8校、886人 【学校オンライン中継授業の実施】 ・奈良市世界遺産学習 小学校オンライン中継授業の実施　9回、298人 ・大分県連携事業 アバター（遠隔操作ロボット）を活用した中学校オンライン中継授業の実施　9回、276人 【オンライン交流学習の実施】 ・奈良市と大分県との連携事業　奈良市鼓阪北小学校5年生と大分県国東市立国見小学校5年生のオンライン交流学習の実施　2回、43人 【奈良市教育委員会共催事業　夏休み親子講座の活動】 ・夏休み親子講座「親子で学ぼう　奈良の仏像」　2回、110人 【わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」のワークショップ等の活動】 ・ワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」　78回、見学者数：2,709人、着つけ体験参加者数：502人 ・仏像をスケッチするワークショップ　おえかきギャラリーに掲示された絵の枚数：1,371枚 ・ワークシートの配布　39日、25,000部発行 ・ワークシートのクイズ答え合わせ対応　39日 【地下回廊ワークショップスペースにおける活動】 ・ワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」　12回、見学者数：1,045人、着つけ体験参加者数：284人 【庭園・茶室のガイド活動】 ・庭園改修お披露目式　6回、庭園入場者数：236人 ・11月定点ガイド　8回、庭園入場者数：2,111人 ・12月定点ガイド　4回、庭園入場者数：314人 ・3月定点ガイド　4回、庭園入場者数：637人 【講座のサポート活動】 ・サンデートーク　10回 ・公開講座　6回 ・夏季連続講座　4回 ・親子講座　2回 【その他サポート活動】 ・ワークショップの備品制作　1回 【各種練習の実施】 ・学校オンライン中継授業実施準備のための練習　9回 ・奈良市教育委員会共催事業　夏休み親子講座「親子で学ぼう　奈良の仏像」の練習　2回 ・わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」のワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」の練習　15回 ・庭園・茶室のガイド活動の練習　2回

【ボランティアに対する研修の実施】計30回
- ・活動に関する研修（Web会議アプリ利用形式・動画配信形式の2種の形式にて実施）計4回
- ・特別展等の研修（動画配信形式にて実施）計26回

【九州国立博物館】　計243人

種　別　(登録人数)	概　　要
展示解説ボランティア(54人)	文化交流展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア(30人)	体験型展示室「あじっぱ」で来館者への対応。参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内日本語ボランティア(30人)	館内の施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 予約団体(一般・学校)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーは毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
館内案内外国語ボランティア(44人)	英語・韓国語・中国語での施設案内(ガイド)及びバックヤードツアーの案内。
環境ボランティア(27人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
資料整理ボランティア(8人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 体験型展示室「あじっぱ」内での郷土人形の展示。
イベント・サポートボランティア(7人)	ボランティア主催イベントや他館ボランティアとの交流の企画・立案・実施。 ボランティア広報紙の作成（年4回）。
学生ボランティア(6人)	高校生・大学生による子供向けイベントの企画・実施。 他館学生ボランティアとの連携。

種　別　（登録人数）	概　　要
フィールドボランティア（14人）	博物館周辺の自然環境（山林及び水辺、遊歩道）の保全。
手話ボランティアグループ（23人）	地域のボランティアグループにより構成。聴覚障がいのある来館者の対応。

【ボランティアに対する研修の実施】　計40回
- ・新規ボランティア研修　8回
- ・施設案内研修　15回
- ・展示案内研修　15回
- ・教育普及研修　2回

・この他博物館周辺の環境整備グループとして35人が活動（NPO法人「九州国立博物館を愛する会」所属のためボランティアには含まない）。

【奈良文化財研究所】　計121人

種　別　（登録人数）	概　　要
解説ボランティア（121人）	平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
平城宮跡資料館企画展・特別展の展示研修　5回
解説ボランティア向け現地説明会　0回
解説ボランティア勉強会　1回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

令和5年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
31 人	7 人	0 人	0 人	2 人	5 人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	20 人	10 人		10 人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	4 人	0 人		0 人	

【本部文化財活用センター】　0人

【本部文化財防災センター】　0人

【東京国立博物館】　0人

【京都国立博物館】　0人

【奈良国立博物館】　2人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	咸 舜燮	韓国	国立慶州博物館館長	第74回正倉院展視察並びに当館職員との意見交換のため	10月27日～10月29日
2	李 知原	韓国	国立慶州博物館学芸研究士	同上	同上

【九州国立博物館】　5人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	コ・ヨンミン	韓国	国立中央博物館　学芸研究士	特別展「加耶」に係る展示作業のため	5年1月16日～1月20日
2	李 秀美	韓国	国立中央博物館　学芸研究室長	特別展「加耶」に係る意見交換及び内覧会出席のため	5年1月23日
3	梁 成赫	韓国	国立中央博物館　学芸研究官	同上	同上
4	金 兌映	韓国	国立中央博物館　学芸研究士	特別展「加耶」に係る撤収作業及び輸送のため	5年3月19日～23日
5	金 鍾佑	韓国	国立中央博物館　学芸研究士	同上	同上

【東京文化財研究所】10人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	ウィリアム・メガリー	アイルランド	クィーンズ大学ベルファスト校・准教授	文化遺産国際協力コンソーシアム令和4年度シンポジウムの講演者・パネリストとして	10月21日～10月27日
2	サルマン・アル・マハリ	バーレーン	バーレーン国立博物館・館長	国際シンポジウム「考古学と国際貢献」および「バーレーン考古学をめぐって」の講演者として	12月9日～12月16日
3	ステファン・タップ・ラウルセン	デンマーク	モースゴー博物館・学芸員	同上	同上
4	ティモシー・インソール	英国	エクスター大学・教授	同上	同上
5	ピエール・ロンバル	フランス	バーレーン文化古物局・アドバイザー	同上	同上
6	ローラ・ヴィゴ	カナダ	モントリオール美術館東洋美術学芸員	在外日本古美術品保存修復協力事業による作品修理実施状況確認のため	5年1月24日～1月29日
7	崔淑慶	大韓民国	国立無形遺産院・学芸研究士	国立無形遺産院との研究交流事業に係る受入	11月24日～12月12日
8	レミー・ドレフュス＝デュセーニュ	フランス	紙本修復家/ワークショップ講師	「文化財修復処置に関するワークショップ -ナノセルロースの利用について-」での講師	10月3日～10月11日
9	プラヴァチラダムメディ・テッペンボディラック	タイ	ワット・ラーチャプラディットサティマハシマラム副住職	タイ所在日本製漆工品に関する調査研究	11月10日
10	富井玲子	米国	ポンジャ現懇主宰	アーカイブズの研究活用、情報発信に関する研究会	5年3月15日～3月16日

【奈良文化財研究所】10人

※部分について…各国の個人情報保護に関する法律等により氏名は非公開とする。

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	方国花	大韓民国	慶北大学校人文学術院・HK研究教授	日韓木簡共同研究のため	5月23日～5月24日
2	DEEPIKA PANDEY	インド	独立研究者	共同研究協議・共同分析実験	6月27日～7月12日
3	※	米国	カルフォルニア大学大学院生	研究協力の一環として、資料整理、現地調査及び研究会参加	7月11日～7月25日
4	※	英国	ケンブリッジ大学 4名	長期人間文化・生物動態の計算解析の研究のため	4月12日～5月18日
5	※	英国	ケンブリッジ大学	長期人間文化・生物動態の計算解析の研究のため	4月26日～5月27日
6	※	英国	セインズベリー日本藝術研究所	共同研究継続の打ち合わせ	7月25日
7	※	カザフスタン	IICAS	文化遺産国際協力拠点交流事業『ウズベキスタンにおける考古遺産の科学的調査に関する技術移転を目的とした拠点交流事業』第1回招へい研修	5年1月12日～24日
8	※	ウズベキスタン	国立サマルカンド考古学研究所　4名	令和4年度文化遺産国際協力拠点事業　考古遺物の科学的調査に関するセミナーに参加するため	5年1月18日～26日
9	※	英国	York大学　ほか1名	ENCOUNTERプロジェクトのため	5年3月26日～4月4日
10	※	英国	York大学	ENCOUNTERプロジェクトのため	5年3月26日～4月11日

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　4人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Im Sokrithy	カンボジア	Director, Department of Research Training and Communication, APSARA National Authority (ANA)	SDGs事業専門家会議、及び国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究 -持続可能なまちづくりと無形文化遺産」への出席	5年1月29日～2月5日
2	Ming Chee Ang	マレーシア	General Manager, George Town World Heritage Incorporated (GTWHI)	SDGs事業専門家会議、及び国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究 -持続可能なまちづくりと無形文化遺産」への出席	5年1月29日～2月5日
3	Meredith Wilson	オーストラリア	Heritage consultant	国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究 -持続可能なまちづくりと無形文化遺産」への出席	5年1月31日～2月6日
4	Dilshod Rahimi	タジキスタン	Head, the ICH Center, he Research Institute of Culture and Information of the Ministry of Culture (RICI)	国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究 -持続可能なまちづくりと無形文化遺産」への出席	5年1月30日～2月4日

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費助成事業の研究分担者等として参画（延べ人数）

令和5年3月31日現在

<table>
<tr><th rowspan="2">国立文化財機構合計</th><th>博物館計</th><th>東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th></tr>
<tr><td>80 人</td><td>32人</td><td>17人</td><td>16人</td><td>15人</td></tr>
<tr><td rowspan="3">176人</td><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>95 人</td><td colspan="2">38人</td><td colspan="2">57人</td></tr>
<tr><td colspan="5">アジア太平洋無形文化遺産研究センター
1 人</td></tr>
</table>

【東京国立博物館】延べ　32人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大阪大学	光学的科学調査を軸とした初期洋風画とアジア太平洋海域美術交通に関する基盤的研究	教授　岡田 裕成	企画課特別展室研究員　福島　修
2	九州国立博物館	東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究（基盤研究B）	副館長　小泉 惠英	企画課長　原田あゆみ
3	九州国立博物館	公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究	主任研究員　畑靖紀	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一
4	九州国立博物館	人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用にむけた研究基盤の確立	学芸部長　河野一隆	調査研究課考古室研究員　山本亮
5	京都国立博物館	博物館史資料アーカイブズを活用したメタ文化財情報構築の検討	学芸部列品管理室長　羽田聡	特任研究員　田良島哲
6	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	列品管理課長　沖松健次郎
7	公益財団法人古代学協会	弥生時代高地性集落の列島的再検証	客員研究員　森岡秀人	調査研究課考古室研究員　山本亮
8	国立歴史民俗博物館	歴博共同研究「秦漢時期の文字使用をめぐる学際的研究」	東京学芸大学准教授　下田誠	客員研究員　谷豊信
9	筑波大学	「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化	助教　水野裕史	上席研究員　勝木言一郎
10	筑波大学	「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化	助教　水野裕史	列品管理課長　沖松健次郎
11	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	教授　松井敏也	保存修復課長　和田浩
12	天理大学	後期青銅器時代における地中海東岸地域の都市国家と地域社会の考古学的研究	教授　桑原久男	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造
13	天理大学	地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討	教授　桑原久男	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造
14	東京藝術大学	基盤研究(C)美術解剖学教育の交流と展開 ―独、UK、USA、NZの教育・研究の比較を通して	助教 宮永美知代	上席研究員　木下史青
15	東京大学史料編纂所	基盤研究（A）「コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究」	教授　山家浩樹	博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
16	東京大学史料編纂所	東博所蔵写真史料（高精細データ）の解析	教授　箱石大	博物館情報課情報資料室主任研究員　遠藤楽子
17	東京文化財研究所	基盤研究（Ａ）アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	文化財情報資料部広領域研究室長・小林公治	企画課特別展室長・猪熊兼樹
18	名古屋大学	中世拠点寺院の蔵書と美術に基づく人と知のネットワーク解明	教授　近本謙介	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
19	奈良国立博物館	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	情報サービス室長　宮崎幹子	特任研究員　田良島哲
20	奈良文化財研究所	埴輪の生産・流通体制の総合的検証にもとづく王権中枢部巨大古墳群造営過程の解明	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	調査研究課考古室研究員　山本亮
21	奈良文化財研究所	南都の未整理文書聖教にもとづく寺社とその周辺社会の調査研究	歴史研究室長　吉川聡	調査研究課東洋室主任研究員　児島大輔
22	南山大学	芸術との対話を経た公共圏の形成過程に関する実証研究	講師　佐々木陽子	博物館教育課教育講座室研究員 山本　桃子
23	新潟国際情報大学	須恵器3D-RGBデータの深層学習クラスター解析による型式・年代分類基準の検証	教授　藤田晴啓	調査研究課考古室研究員　山本亮
24	慶應義塾大学	美術品輸送梱包試験への超軽量無線センサ適用の可能性検	教授　三次仁	保存修復課長　和田浩

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
		討		
25	国立歴史民俗博物館	研究プロジェクト日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」	准教授　後藤真	博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
26	成城大学	東アジア及び東南アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	教授　岩佐光晴	貸与特別観覧室研究員　西木政統
27	中央大学	高精度年代体系による東アジア新石器文化過程－地域文化の成立と相互関係－	教授　小林謙一	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
28	中央大学	高精度年代体系による東アジア新石器文化過程－地域文化の成立と相互関係－	教授　小林謙一	保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛
29	東京外国語大学	東南アジア「古代史」の下限としての14・15世紀に関する地域・分野横断的研究（基盤研究A）	副学長　青山 亨	企画課長　原田あゆみ
30	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	文化財情報資料部特任研究員 小林公治	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
31	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	保存修復課長　和田浩
32	Hebrew University of Jerusalem	An Egyptian Outpost at Tel Zeror?	Professor　Naama Yahalom-Mack	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造

【京都国立博物館】延べ　17人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復元的研究-作品伝来情報の検討から-	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	学芸部企画室研究員　井並林太郎
2	奈良文化財研究所	古代都城から出土する製塩土器の生産地推定	都城発掘調査部室長　神野恵	学芸部長　尾野善裕
3	奈良文化財研究所	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による大和の古代寺院・宮都出土瓦の生産・供給体制の研究	都城発掘調査部副部長 清野孝之	学芸部保存科学室長　降幡順子
4	国際仏教学大学院大学	「奈良朝勅定一切経」の総合的研究ー漢文仏教テクストの資料的基盤の再構築に向けて	仏教学研究科教授　落合俊典	学芸部美術室研究員　上杉智英
5	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	研究員　小林公治	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
6	国際仏教学大学院大学	日本現存宋版大蔵経の基礎的研究とその受容・展開に関する総合的な研究	日本古写経研究所研究員 牧野和夫	学芸部美術室研究員　上杉智英
7	東北学院大学	平泉仏教文化の諸相とその社会的基盤に関する資料学的研究	文学部教授　七海雅人	学芸部美術室研究員　上杉智英
8	国文学研究資料館	金剛寺摩尼院聖教の調査を基盤とした日本中世の宗教的知の流通と蔵書形成に関する研究	研究部教授　海野圭介	学芸部美術室研究員　上杉智英
9	東京文化財研究所	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	保存科学研究センター室長 犬塚将英	学芸部保存科学室長　降幡順子
10	京都大学	五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及	人文科学研究所教授 稲本泰生	学芸部保存修理指導室長 大原　嘉豊
11	同上	同上	同上	学芸部企画室研究員　井並林太郎
12	奈良県立橿原考古学研究所	三次元デジタル・アーカイブを活用した青銅器製作技術解明の総合的研究	企画部資料課課長　水野敏典	研究員　古谷毅
13	東京国立博物館	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	学芸企画部企画課特別展室 研究員　高橋真作	学芸部美術室研究員　森道彦
14	山形大学	壬辰戦争期、豊臣秀吉＝日本国王冊封のために贈られた明朝箚付・冠服類の総合的研究	人文社会科学部教授　新宮学	学芸部企画室長　山川曉
15	三重大学	日本古代の都市造営をめぐる土木技術史的研究	人文学部教授　小澤毅	学芸部考古室長 石田由紀子
16	東京大学	中世絵師組織の社会的活動基盤と様式系統の相関―十四世紀の縁起・絵伝を結節点として	大学院人文社会系研究科教授 高岸輝	学芸部企画室研究員　井並林太郎
17	富山大学	承久の乱を中心とした史料原本の基礎研究による中世前期公武関係論の基盤構築	学術研究部人文科学系講師 長村祥知	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦

【奈良国立博物館】延べ　16人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画－半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究－	教授　井手誠之輔	教育室長　谷口耕生
2	同上	同上	同上	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
3	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築-物質文化史の視点から-	研究員　小林公治	保存修理指導室　アソシエイトフェロー　安藤真理子
4	島根大学	器物の「伝世・長期保有」・「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持	准教授　岩本崇	学芸部長　吉澤　悟

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
5	北九州市立自然史・歴史博物館	藕糸織の基礎的研究－非破壊調査による藕糸織の再検討を中心に－	学芸員　富岡優子	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
6	京都大学	五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及	教授　稲本泰生	教育室長　谷口　耕生
7	多摩美術大学	在米の仏像と仏具およびアーカイブ調査―寺宝流出と古美術商、収集家の関係とその実態	教授　木下京子	企画室主任研究員　山口隆介
8	同上	同上	同上	工芸考古室研究員　三本周作
9	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	列品室長　斎木　涼子
10	東京国立博物館	大谷探検隊将来品を中心とした西域美術の再評価に関する研究	学芸研究部上席研究員 勝木言一郎	保存修理指導室長　荒木臣紀
11	東京国立博物館	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器鋳造技術の比較研究	客員研究員　高浜秀	保存修理指導室長　荒木臣紀
12	東京国立博物館	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	学芸企画部企画課特別展室 研究員　高橋真作	保存修理指導室長　荒木臣紀
13	東京国立博物館	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	学芸企画部長　浅見龍介	工芸考古室主任研究員　三田　覚之
14	東京国立博物館	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器鋳造技術の比較研究	研究員　高浜秀	保存修理指導室長　荒木　臣紀
15	京都府立大学	古墳・副葬品の多角的検討にもとづく日本列島初期仏教受容史の再構築	准教授　諫早直人	工芸考古室主任研究員 三田　覚之
16	東京文化財研究所	シミ科未記載種の国内分布の実態調査と生態学的特徴に基づく防除方法の検討	保存科学研究センター　アソシエイトフェロー　島田潤	保存修理指導室　アソシエイトフェロー　小峰　幸夫

【九州国立博物館】　延べ　15人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	副館長　小泉惠英
2	同上	同上	同上	学芸部企画課長　伊藤信二
3	国立民族学博物館	博物館における持続可能な資料管理および環境整備－保存科学の視点から	人類基礎理論研究部教授 園田直子	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
4	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画―半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究―	人文科学研究院教授 井手誠之輔	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
5	同上	同上	同上	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
6	大阪大学	地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究	文学研究科招へい研究員 中山一麿	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
7	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復原的研究－作品伝来情報の検討から－	学芸研究部調査研究課 絵画・彫刻室長　土屋貴裕	学芸部博物館科学課保存修復室 主任研究員　鷲頭桂
8	筑波大学	「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化	芸術系助教　水野裕史	学芸部博物館科学課保存修復室 主任研究員　鷲頭桂
9	大阪大学	光学的科学調査を軸とした初期洋風画とアジア太平洋海域美術交通に関する基礎的研究	文学研究科教授　岡田裕成	学芸部博物館科学課保存修復室 主任研究員　鷲頭桂
10	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
11	同上	同上	同上	学芸部企画課文化交流展室アソシエイトフェロー　杉田真菜
12	奈良県立橿原考古学研究所	日本における初期王陵の実態解明－「国産化という産業革命」の視点から－	副所長　岡林孝作	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
12	奈良大学	黄銅（鍮石・真鍮）の歴史とその伝来の道「Brass Road」の研究	名誉教授　西山要一	学芸部企画課特別展室主任研究員　望月規史
14	東京文化財研究所	シミ科未記載種の国内分布の実態調査と生態学的特徴に基づく防除方法の検討	保存科学研究センター　アソシエイトフェロー　島田潤	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
15	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　渡辺祐基

【東京文化財研究所】延べ　38人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	奈良大学	黄銅（鍮石・真鍮）の歴史とその伝来の道「Brass Road」の研究	名誉教授　西山　要一	副所長　早川　泰弘
2	京都国立博物館	備前児島の野崎家に伝わる文化財の総合調査：塩田王の美術コレクション	学芸部教育室長　永島　明子	文化財情報資料部　室長　安永　拓世
3	九州国立博物館	在外日本美術の保存修復技法の比較調査と国際的な保存活用に向けて	館長　島谷　弘幸	保存科学研究センター　室長　早川典子
4	九州国立博物館	在外日本美術の保存修復技法の比較調査と国際的な保存活用に向けて	館長　島谷　弘幸	文化財情報資料部　室長　安永　拓世

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
5	九州国立博物館	在外日本美術の保存修復技法の比較調査と国際的な保存活用に向けて	館長　島谷　弘幸	保存科学研究センター　研究員　倉島　玲央
6	東京外国語大学	「コロナ状況」下で育まれる芸能―危機への応答・身体性をめぐる交渉・社会との関係	アジア・アフリカ言語文化研究所　准教授　吉田 ゆか子	無形文化遺産部　室長　前原　恵美
7	九州大学	中世の気候異常期におけるエルニーニョとリモートオセアニアへの人類拡散	理学研究院　助教　山崎　敦子	無形文化遺産部　室長　石村　智
8	龍谷大学	文化財建造物の伝統的塗装彩色材料・技術の系譜解明と修理施工・資料活用に関する研究	文学部　教授　北野　信彦	保存科学研究センター　保存環境研究室付　吉田　直人
9	和光大学	デジタルアーカイブ時代における１９６０ー７０年代の芸術表現の拡張に関する研究	表現学部　教授　松枝　到	文化財情報資料部　室長　橘川　英規
10	和光大学	デジタルアーカイブ時代における１９６０ー７０年代の芸術表現の拡張に関する研究	表現学部　教授　松枝　到	文化財情報資料部　客員研究員　三上　豊
11	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復原的研究―作品伝来情報の検討から―	学芸研究部調査研究課　室長　土屋　貴裕	文化財情報資料部　室長　安永　拓世
12	天理大学	後期青銅器時代における地中海東岸地域の都市国家と地域社会の考古学的研究	文学部　教授　桑原　久男	文化遺産国際協力センター　客員研究員　間舎　裕生
13	東北芸術工科大学	三内丸山遺跡の土遺構の保存に関する総合的研究	文化財保存修復研究センター　研究員　石崎　武志	保存科学研究センター　室長　佐藤　嘉則
14	大阪大学	美術市場とその国際化に関する制度論的、交流史的研究。西洋から日本・アジアへの展開	文学研究科　教授　圀府寺　司	文化財情報資料部　室長　安永　拓世
15	公益財団法人元興寺文化財研究所	地球温暖化による劇的環境変動に適応した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究	所長　田邉　征夫	保存科学研究センター　室長　朽津　信明
16	奈良県立橿原考古学研究所	文化遺産を構成する煉瓦の微生物による劣化機構に関する研究	企画学芸部資料課　主任研究員　河﨑　衣美	保存科学研究センター　客員研究員　片山　葉子
17	東海大学	「模する」技術の発展と伝統的習俗の変容についての学際的研究	工学部　助教　野口　直人	無形文化遺産部　主任研究員　今石　みぎわ
18	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部　元教授　北田　克己	保存科学研究センター　室長　早川　典子
19	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部　元教授　北田　克己	保存科学研究センター　客員研究員　宇高　健太郎
20	金沢大学	中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究	古代文明・文化資源学研究センター　特任教授　藤井 純夫	文化遺産国際協力センター　主任研究員　安倍　雅史
21	岡山大学	心・身体・社会をつなぐアート/技術	文明動態学研究所　教授　松本　直子	無形文化遺産部　室長　石村　智
22	早稲田大学	ネクロポリス・テーベにおける岩窟墓のライフ・ヒストリー	文学学術院　教授　近藤　二郎	文化遺産国際協力センター　主任研究員　前川　佳文
23	東海大学	天文学との連携にもとづく考古学・古代史学研究法の構築	文学部　教授　北條 芳隆	無形文化遺産部　室長　石村　智
24	京都大学	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	工学研究科　教授　小椋　大輔	保存科学研究センター　研究員　水谷　悦子
25	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン・カルドゥン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究	社会学部　教授　松川　節	文化財情報資料部　室長　二神　葉子
26	学習院大学	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	文学部　皿井　舞	文化財情報資料部　専門職員　城野　誠治
27	沖縄国際大学	葬墓制資料に基づく近世琉球社会史の学際的研究	総合文化学部　准教授　宮城 弘樹	文化遺産国際協力センター　主任研究員　前川　佳文
28	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　センター長　建石　徹
29	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　客員研究員　片山　葉子
30	筑波大学	アンコール遺跡群における石材烈火の新展開とその集学的研究	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　客員研究員　片山　葉子
31	東京学芸大学	デジタル・アーカイブの拡充と発展的活用に向けた最盛期義太夫節浄瑠璃作品の研究	教育学部　教授　黒石　陽子	無形文化遺産部　特任研究員　飯島　満
32	天理大学	地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討	文学部　教授　桑原　久男	文化遺産国際協力センター　客員研究員　間舎　裕生
33	東京藝術大学	絹本著色絵画の技法史的展開に関する研究	社会連携センター　専門研究員　京都　絵美	保存科学研究センター　室長　早川　典子
34	東京国立博物館	高精細Ｘ線ＣＴスキャナ活用を中心とする古代中国の封泥の作成方法に関する総合的研究	学芸研究部　客員研究員　谷　豊信	保存科学研究センター　室長　犬塚　将英
35	宮城学院女子大学	木質材料の循環による文化財保存環境システム構築	学芸学部　非常勤講師　及川　規	保存科学研究センター　研究員　芳賀　文絵
36	総合地球環境学研究所	オマーン南部海港都市の脆弱な社会環境下にあるリビングヘリテージの復興と継承	経営推進部　准教授　近藤　康久	無形文化遺産部　室長　石村　智

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
37	東京国立博物館	古代壁画物理モデル構築に向けての探索的研究	学芸研究部保存修復課　課長 和田　浩	保存科学研究センター　研究員　水谷　悦子
38	愛媛大学	セルロースナノファイバーを活用した放射線防護材料の開発	紙産業イノベーションセンター 教授　薮谷 智規	保存科学研究センター　アソシエイトフェロー　西田　典由

【奈良文化財研究所】延べ　57人

○科学研究費補助金　延べ　45人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	帝京大学	シルクロードの国際交易都市スイヤブの成立と変遷－農耕都市空間と遊牧民世界の共存－	教授　山内　和也	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 主任研究員 山藤　正敏
2	東京大学	統合史資料画像データの生成と駆動方式の確立による人文科学研究基盤の創出	准教授　山田　太造	都城発掘調査部（平城地区）史料 研究室長 馬場　基
3	東京大学	デジタル技術による金石文史料の研究資源化と学融合的歴史叙述への応用研究	准教授　菊地　大樹	埋蔵文化財センター 研究員 上椙　英之
4	国際仏教学大学院大学	「奈良朝勅定一切経」の総合的研究ー漢文仏教テクストの資料的基盤の再構築に向けて	教授　落合　俊典	都城発掘調査部（平城地区）客員 研究員 杉本　一樹
5	東京大学	コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究	教授　山家　浩樹	都城発掘調査部（平城地区）史料 研究室長 馬場　基
6	東北大学	石材構築文化財の保全のための３次元デジタルアーカイブの標準化の研究	教授　藤澤　敦	埋蔵文化財センター長 金田　明大
7	東京大学	筆跡・花押情報の高度利活用研究―収集スキームの錬成と関連歴史情報との統合による―	教授　末柄　豊	都城発掘調査部（平城地区）主任 研究員 桑田　訓也
8	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授　三舟　隆之	都城発掘調査部（平城地区）史料 研究室長 馬場　基
9	同上	同上	同上	都城発掘調査部（平城地区）主任 研究員 小田　裕樹
10	同上	同上	同上	埋蔵文化財センター 環境考古学 研究室長 山崎　健
11	同上	同上	同上	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 考古第二研究室長 森川　実
12	同上	同上	同上	企画調整部 国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
13	近畿大学	東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究	教授　網　伸也	都城発掘調査部（平城地区）主任 研究員 小田　裕樹
14	筑波大学	クメール王朝の都市構造と社会基盤の解明－高精度地形情報を利用した実査より	准教授　下田　一太	企画調整部 主任専門職 佐藤　由似
15	鹿児島大学	「ボカシの文化」にメスを入れる	教授　高宮 広土	企画調整部 国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
16	立命館大学	実世界大規模構造物の形状理解のための，３次元計測ビッグデータの超高精細可視化	教授　田中　覚	埋蔵文化財センター 研究員 山口　欧志
17	埼玉大学	草原地帯における輸送動物出現とモニュメント築造からみた社会複雑化研究	准教授　中村　大介	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 主任研究員 田村　朋美
18	東京大学	荘園絵図調査・解析方法に関する総括的研究と汎用的な歴史地理情報への応用研究	准教授　井上　聡	企画調整部 主任研究員 高田　祐一
19	立命館大学	簡牘の形態に関する新研究：三次元形態解析による古文書学・考古学・年輪年代学の融合	教授　鷹取　祐司	埋蔵文化財センター 研究員 山口　欧志
20	同上	同上	同上	埋蔵文化財センター 年代学研究 室長 星野　安治
21	同上	同上	同上	都城発掘調査部（平城地区）研究 員 浦　蓉子
22	公益財団法人元興寺文化財研究所	地球温暖化による劇的環境変動に適応した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究	所長　田邉　征夫	埋蔵文化財センター長 金田　明大
23	沖縄国際大学	小規模島嶼群における文化適応と潜在性の考古学的研究	准教授　新里　貴之	企画調整部 国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
24	島根大学	器物の「伝世・長期保有」・「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持	准教授　岩本　崇	都城発掘調査部(平城地区)　主任 研究員 川畑　純
25	三重大学	日本古代の都市造営をめぐる土木技術史的研究	教授　小澤　毅	都城発掘調査部（平城地区）考古 第三研究室長 今井　晃樹
26	京都橘大学	日本古代土器の複眼的編年検証に基づく通時代的特質の解明	准教授　中久保　辰夫	都城発掘調査部（平城地区）主任 研究員 小田　裕樹
27	東北大学	新たな長期年輪幅標準年輪曲線ネットワークの構築とそのオープンアクセス化	助教　大山　幹成	埋蔵文化財センター 年代学研究 室長 星野　安治
28	東京文化財研究所	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	分析科学研究室長 犬塚　将英	副所長 高妻　洋成
29	東北大学	中世禅院を拠点に流通した建築の形態・空間・技法に関する学際的・対外交渉史的研究	准教授　野村　俊一	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 主任研究員 鈴木　智大
30	明治大学	璽印・ガラス・鉄器からみた西暦１～３世紀日本列島～東アジアの広域交流の重層性	専任教授　石川　日出志	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 主任研究員 田村　朋美
31	同上	同上	同上	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 研究員 谷澤　亜里

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
32	早稲田大学	出土陶磁器と交易関連文書に基づく前近代日本＝カンボジア間交易・交流史の復元研究	教授　田畑　幸嗣	企画調整部 主任専門職 佐藤　由似
33	奈良県立橿原考古学研究所	古墳時代における甲冑製作および生産組織の実態解明	主査　吉村　和昭	企画調整部 客員研究員 小林　謙一
34	名古屋大学	三関周辺における古墳時代から古代の地域動態に関する総合的研究	教授　梶原　義実	都城発掘調査部（平城地区） 史料研究室長 馬場　基
35	京都大学	ＡＩ（人工知能）による縄文土器型式の識別システムの構築と未知の縄文土器系統の創造	准教授　千葉　豊	埋蔵文化財センター 客員研究員 髙野　紗奈江
36	京都府立大学	古墳・副葬品の多角的検討にもとづく日本列島初期仏教受容史の再構築	准教授　諫早　直人	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 考古第一研究室長 廣瀬　覚
37	同上	同上	同上	飛鳥資料館 学芸室長 石橋　茂登
38	帝京大学	牛馬文化の系譜と変容 - 動物遺体分析の限界を克服する複合的アプローチ -	准教授　植月　学	企画調整部 国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
39	北陸学院大学	和食の成立過程の解明:　湯取り法炊飯からウルチ米蒸しへの転換過程	教授　小林　正史	都城発掘調査部（平城地区） 主任研究員 小田　裕樹
40	立命館大学	初期国家形成期における山城地域の地域開発と地方政体の成長に関する包括的研究	教授　長友　朋子 （中村　朋子）	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 考古第一研究室長 廣瀬　覚
41	同上	同上	同上	都城発掘調査部（平城地区） 主任研究員　川畑　純
42	国立歴史民俗博物館	航路・寄港地から見た倭と古代朝鮮の交渉史に関する日韓共同研究	教授　高田　貫太	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 考古第一研究室長 廣瀬　覚
43	東北大学	古代の出土文化財が教えてくれる1000年超の腐食寿命予測モデル	教授　渡辺　豊	埋蔵文化財センター 研究員 柳田　明進
44	金沢大学	中国文明起源解明の新・考古学イニシアティブ	教授　中村　慎一	企画調整部 国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
45	南山大学	三次元データベースと数理解析・モデル構築による分野統合的研究の促進	准教授　中尾　央	埋蔵文化財センター長 金田　明大

○学術研究助成基金助成金　延べ　12人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	大阪大学	東部モンゴル新発見の突厥・ウイグル期の定住遺跡に関する歴史・考古学的調査研究	教授　大澤　孝	埋蔵文化財センター 研究員 山口　欧志
2	奈良大学	3Dデータを利用した東アジアにおける文化遺産の保存と活用	教授　今津　節生	副所長 高妻　洋成
3	島根大学	弥生・古墳時代併行期における日韓年代論の再構築と対外交渉の実証的研究	准教授　平郡達哉	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 研究員 松永　悦枝
4	同上	同上	同上	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 研究員 谷澤　亜里
5	鹿児島国際大学	超・高密度三次元発掘記録法（悉皆的3D発掘）の開拓と展開を目指す実践的研究	教授　中園　聡	埋蔵文化財センター 客員研究員 平川　ひろみ
6	京都国立博物館	御室仁清窯跡出土陶片の科学的特徴－野々村仁清が受容した生産技術と陶工必用－	学芸部保存科学室長 降幡　順子	文化遺産部 歴史研究室長 吉川　聡
7	身延山大学	旧石器時代の食料資源究明に関する基礎研究	講師　　保坂 康夫	企画調整部 国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
8	早稲田大学	衛星画像のGIS分析に基づく唐代都城中枢部の構造比較と設計原理の考古学的研究	教授　城倉　正祥	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 主任研究員 山藤　正敏
9	近畿大学	X線CTを用いた多孔質材料内部の歪の分布測定と熱＆水分移動・応力・歪連成解析	准教授　安福　勝	埋蔵文化財センター 保存修復科学研究室長 脇谷　草一郎
10	大阪市立自然史博物館	自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか？次世代ネットワーク管理の模索	課長代理　佐久間　大輔	埋蔵文化財センター 客員研究員 松崎　哲也
11	埼玉大学	深層学習を用いた画像診断による玉類の産地同定の簡易化研究	准教授　中村　大介	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 主任研究員 田村　朋美
12	東京国立博物館	古代壁画物理モデル構築に向けての探索的研究	学芸研究部保存修復課長 和田　浩	埋蔵文化財センター 保存修復科学研究室長 脇谷　草一郎

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　1人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	放送大学	人工的環境の構築と時空間認知の発達	准教授　鶴見　英成	研究担当室長　野嶋洋子

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

令和5年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
123人	25 人	7人	0人	6人	12人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	81 人	48人		33人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	13 人	0 人		4 人	

【本部文化財活用センター】延べ　0人

【本部文化財防災センター】延べ　4 人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	髙妻　洋成	チェコ	8月19日～8月25日	ICOMプラハ大会出席、Committees Meetings「DRMC Museum Techniques and Risk management」での発表	運営費交付金	
2	小谷　竜介	チェコ	8月19日～8月25日	ICOMプラハ大会出席、Committees Meetings「DRMC Museum Techniques and Risk management」での発表	運営費交付金	
3	建石　徹	韓国	11月10日～11月11日	韓国文化財保存科学会での発表、韓国国立現代美術館における文化財防災、保存修復研究等に関する視察	運営費交付金	
4	鷲頭　桂	タイ	5年2月20日～2月25日	東南アジア教育大臣機構・考古学・美術センターにおける「第3回ワークショップ：東南アジア諸国における災害リスクと文化遺産への影響に関する意識向上」での研修講師	先方負担	

【東京国立博物館】延べ　7人（科学研究費助成事業を除く）

（参考：科学研究費助成事業を含む合計人数は16人）

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	酒井　晶	チェコ	8月19日～8月30日	ICOMプラハ大会参加	文化庁補助金	
2	山本　亮	メキシコ	10月18日～10月27日	特別展「古代メキシコ」作品調査	先方負担	
3	小野塚　拓造	アメリカ	5年1月26日～1月30日	「ラムセス2世展」の視察及び打合せ	先方負担	
4	猪熊　兼樹	韓国	5年2月5日～2月11日	東洋民族に関する調査研究	自己収入 科学研究費	
5	原田　あゆみ	ギリシャ	5年2月19日～2月24日	海外展ギリシャ「日本の美の原点」にかかる事前調査及び打ち合わせ	寄附金	
6	品川　欣也	ギリシャ	5年2月19日～2月24日	海外展ギリシャ「日本の美の原点」にかかる事前調査及び打ち合わせ	寄附金	
7	矢野　賀一	ギリシャ	5年2月19日～2月24日	海外展ギリシャ「日本の美の原点」にかかる事前調査及び打ち合わせ	寄附金	

○科学研究費助成事業：延べ9人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	小野塚　拓造	イスラエル トルコ ヨルダン	5月23日～5年2月5日 5年3月12日～3月31日	オルブライト考古学研究所での共同研究	科学研究費	
2	原田　あゆみ	タイ	7月27日～8月4日	科学研究費に係る調査協力	先方負担	
3	原田　あゆみ	カンボジア	8月18日～8月29日	科学研究費に係る調査・研究	科学研究費	
4	山本　亮	フランス	8月11日～8月20日	ラスコー国際先史絵画センターでの調査	科学研究費	
5	菊池　望	韓国	10月16日～10月22日	科学研究費に係る朝鮮半島出土の青銅器・銅鏡の調査及び研究会発表における研究情報の交換	先方負担	
6	山本　桃子	フィンランド フランス	10月17日～11月1日	現地ミュージアムの教育展示のフィールドワーク、学芸員へのインタビュー調査のため	科学研究費	
7	原田　あゆみ	タイ	12月12日～12月18日	科学研究費に係る調査協力	先方負担	
8	猪熊　兼樹	台湾	5年1月19日～1月22日	科学研究費に係る調査・研究	科学研究費	
9	原田　あゆみ	イギリス	5年2月15日～2月18日	科学研究費に係る調査・研究	科学研究費	

【京都国立博物館】延べ　0人

【奈良国立博物館】延べ　6人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	北澤　菜月	アメリカ	5年1月30日～3月8日	令和４年度ミュージアム専門職員等在外派遣	補助金 運営費交付金	
2	北澤　菜月	アメリカ	5年3月14日～3月21日	研究会への参加（ハーバード大学）	運営費交付金	
3	山口　隆介	アメリカ	5年2月21日～2月28日	在外仏像およびアーカイブに関する調査研究	科研費補助金	
4	三本　周作	アメリカ	5年2月21日～2月28日	在外仏像およびアーカイブに関する調査研究	科研費補助金	
5	宮崎　幹子	アメリカ	5年2月21日～2月28日	在外仏像およびアーカイブに関する調査研究	科研費補助金	
6	谷口　耕生	フランス イギリス	5年3月4日～3月13日	科研「五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及」に伴う視察・文化財調査	科研費補助金	

【九州国立博物館】延べ　12人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	小泉　惠英	タイ	7月26日～8月10日	「東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究」に係る調査	科学研究費	
2	河野　一隆	フランス	8月10日～8月21日	「人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用にむけた研究基盤の確立」に係るフランス先史壁画調査、国際ワークショップ参加	科学研究費	
3	折山　桂子	ドイツ	8月23日～8月30日	二国間交流事業セミナー「美術史学・考古学から見た伝統東アジアにおける「見えない」ものの変容」における研究交流及び研究発表及びケルン東洋美術館における施設の視察及び文化調査	先方負担	
4	西島　亜木子	シンガポール	10月13日～10月20日	教育普及プログラム及びアクセシビリティに関する調査	運営費交付金	
5	小泉　惠英	タイ	12月12日～12月18日	「東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究」に係る調査	科学研究費	
6	島谷　弘幸	韓国	5年2月8日～2月11日	国立公州博物館及び韓国文化財関係機関との学術交流のための意見交換	運営費交付金	
7	大澤　信	韓国	5年2月8日～2月11日	国立公州博物館及び韓国文化財関係機関との学術交流のための意見交換	運営費交付金	
8	小泉　惠英	イギリス	5年2月15日～2月21日	「東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究」に係る調査	科学研究費	
9	鷲頭　桂	タイ	5年3月17日～3月18日	「儒教美術史構築のための発展的研究－東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化」にかかる調査及び研究会出席	科学研究費	
10	川畑　憲子	アメリカ	5年3月21日	文化財調査	運営費交付金	
11	川畑　憲子	アメリカ	5年3月22日～3月28日	鹿島美術財団助成「対馬宗家文書に見る漆器」に係る調査	鹿島美術財団助成	
12	白井　克也	韓国	5年3月24日～3月29日	特別展「加耶」韓国側展示品の輸送	運営費交付金	

【東京文化財研究所】延べ　　48人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	早川　典子	アメリカ	5月4日～5月10日	国際シンポジウムにおける発表のため	先方負担（Bard Graduate Center）	
2	前川　佳文	トルコ共和国	6月26日～7月14日	トルコ共和国における壁画の保存修復に係る共同研究打合せ及び関連調査のため	運営費交付金	
3	ヴァル　エリフ　ベルナ	トルコ共和国	6月26日～7月14日	トルコ共和国における壁画の保存修復に係る共同研究打合せ及び関連調査のため	運営費交付金	
4	安倍　雅史	サウジアラビア	5月24日～6月13日	サウジアラビア王国先史遺跡の考古学調査	科学研究費	
5	友田　正彦	カンボジア	6月14日～6月25日	タネイ寺院遺跡における考古調査	運営費交付金	
6	淺田　なつみ	カンボジア	6月12日～7月3日	タネイ寺院遺跡における考古調査	運営費交付金	
7	間舎　裕生	カンボジア	6月12日～6月24日	タネイ寺院遺跡における考古調査	運営費交付金	
8	友田　正彦	バハレーン	7月21日～7月26日	協力事業開始に向けた現地関係者との打合せ等	運営費交付金	
9	金井　健	バハレーン	7月21日～7月26日	協力事業開始に向けた現地関係者との打合せ等	運営費交付金	
10	安倍　雅史	バハレーン	7月21日～7月26日	協力事業開始に向けた現地関係者との打合せ等	運営費交付金	
11	間舎　裕生	イスラエル	8月13日～9月2日	科学研究費による調査	先方負担 科学研究費	
12	久保田　裕道	ネパール	8月27日～9月2日	コカナ集落への民俗誌贈呈及び無形文化遺産保護に関する助言	運営費交付金	
13	淺田　なつみ	ネパール イラン	8月22日～9月28日	ネパール、パタン旧市街における科研調査協力およびコカナでの式典運営、イランでの科研調査	運営費交付金 科学研究費	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
14	金井　健	ノルウェー	9月17日～9月25日	World Heritage Leadership Forum 2022 への出席、ノルウェーにおける近現代建造物の保存実態に関する調査	先方負担 科学研究費	
15	前川　佳文	イタリア	9月12日～9月23日	壁画の保存修復に係る研究	科学研究費	
16	邱　君妮	チェコ共和国	8月19日～8月28日	ICOMプラハ大会参加・登壇のため	先方負担（助成金）	
17	友田　正彦	ベトナム	9月6日～9月10日	「タンロン・ハノイ皇城世界遺産研究・保存・活用の20年」国際シンポジウムに出席	先方負担 運営費交付金	
18	島田　潤	カンボジア	10月9日～10月19日	遺跡石材表面の生物学的調査	科学研究費	
19	宇高　健太郎	アメリカ	10月16日～10月22日	膠関連研究成果に関する講演、発表	科学研究費	
20	安倍　雅史	イラン	9月26日～10月11日	カレ・クブ遺跡出土石器の整理・分析	科学研究費	
21	加藤　雅人	メキシコ	11月7日～11月16日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営費交付金	
22	大川　柚佳	メキシコ	11月7日～11月16日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営費交付金	
23	鎌田　紗弓	韓国	10月20日～10月24日	国際音楽学会東アジア協議会での発表	科学研究費	
24	小野　真由美	韓国	10月18日～10月20日	『美術研究』海外編集委員との面談・打ち合わせ	運営費交付金	
25	小林　公治	韓国	10月18日～10月21日	『美術研究』海外編集委員との面談・打ち合わせ 韓国所在螺鈿関係調査	運営費交付金 科学研究費	
26	山田　綾乃	カンボジア	11月1日～11月19日	タネイ寺院遺跡の発掘及び建築調査	運営費交付金	
27	友田　正彦	カンボジア ブータン	11月2日～11月19日	ブータンにおける民家保存活用調査 タネイ寺院遺跡の発掘及び建築調査	運営費交付金	
28	金井　健	カンボジア ブータン	11月4日～11月19日	ブータンにおける民家保存活用調査 タネイ寺院遺跡の発掘及び建築調査	運営費交付金	
29	淺田　なつみ	カンボジア ブータン	11月4日～11月19日	ブータンにおける民家保存活用調査 タネイ寺院遺跡の発掘及び建築調査	運営費交付金	
30	前田　康記	ベルギー エストニア ラトビア	11月13日～11月26日	欧州国際協力調査	受託費	
31	小林　公治	台湾	11月9日～11月13日	『美術研究』海外編集委員との面談・螺鈿漆器調査	運営費交付金 科学研究費	
32	小野　真由美	台湾	11月9日～11月10日	『美術研究』海外編集委員との面談	運営費交付金	
33	安倍　雅史	フランス	11月14日～11月19日	国際シンポジウム「バハレーンとその近隣」の講演のため	科学研究費	
34	建石　徹	韓国	11月10日～11月12日	韓国文化財保存科学会発表	先方負担	
35	千葉　毅	韓国	11月10日～11月13日	韓国文化財保存科学会発表	運営費交付金	
36	芳賀　文絵	韓国	11月10日～11月13日	韓国文化財保存科学会発表	科学研究費	
37	二神　葉子	モンゴル	11月23日～11月28日	日本モンゴル文化フォーラムへの参加	科学研究費	
38	小林　公治	ポルトガル	11月22日～12月2日	国際会議出席及び調査協議・作品調査	科学研究費	
39	前川　佳文	エジプト	12月12日～12月24日	壁画及び考古遺物の保存修復に係る調査	運営費交付金 科学研究費	
40	友田　正彦	カンボジア タイ	12月12日～12月18日	アンコール・タネイ寺院の調査及び世界登録30周年式典出席他	運営費交付金	
41	間舎　裕生	イスラエル	12月28日～5年1月9日	テル・レヘシュ遺跡出土遺物の整理・調査	科学研究費	
42	鎌田　紗弓	イギリス	5年1月9日～1月16日	「雅楽演奏における相互作用と同調」プロジェクト打合せ	先方負担（グレートブリテン・ササカワ財団研究助成金）	
43	水谷　悦子	トルコ共和国	12月25日～12月30日	Ayasofya Camiiにおける調査他	科学研究費	
44	山田　綾乃	エジプト バーレーン	5年1月13日～2月18日	エジプトの遺物記録、ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査等	先方負担 科学研究費	
45	安倍　雅史	バーレーン	5年1月6日～2月18日	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査、水中考古学調査等	科学研究費 運営費交付金	
46	長尾　琢磨	バーレーン	5年1月26日～2月8日	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査等	科学研究費 運営費交付金	
47	小林　公治	ポルトガル スペイン	5年1月22日～2月1日	南蛮漆器の作品調査ほか	科学研究費	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
48	片山　葉子	カンボジア	5年2月7日～2月15日	科学研究費による調査（打合せ・調査区域事前検分・石材着生微生物の調査）	科学研究費	

【奈良文化財研究所】延べ　33人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	庄田　慎矢	ウズベキスタン	5月10日～5月20日	文化庁からの受託による拠点交流事業	受託研究費	
2	扈　素妍	大韓民国	6月16日～6月24日	科研費による研究のため、資料調査及び収集	科学研究費	
3	庄田　慎矢	フランス イタリア	6月12日～6月21日	Centre national de la recherche scientifiqueによるワークショップ招へい、トリノ大学における研究打合せ	先方負担	
4	柳田　明進	フィンランド	9月3日～9月9日	ICOM-CC Metal２０２２ における学術発表および情報交換	運営費交付金	
5	山藤　正敏	キルギス	8月13日～8月26日	キルギス共和国チュー渓谷東部における考古学調査	科学研究費	
6	山藤　正敏	キルギス	9月8日～9月27日	キルギス共和国チュー渓谷東部における考古学調査	科学研究費	
7	西原　和代	カザフスタン	8月9日～8月17日	ナザルバエフ大学にて遺跡出土資料の考古学調査	科学研究費	
8	小田　裕樹	大韓民国	10月27日～10月29日	第18回新羅学国際学術大会での研究発表のため	先方負担	
9	庄田　慎矢	ウズベキスタン	9月22日～9月30日	現地研修の実施及び次回研修用の情報収集	受託研究費	
10	村上　夏希	ウズベキスタン	9月22日～9月30日	現地研修の実施及び次回研修用の情報収集	受託研究費	
11	西原　和代	ウズベキスタン	9月22日～9月30日	現地研修の実施予備次回研修用の情報収集	受託研究費	
12	庄田　慎矢	カザフスタン	10月9日～10月19日	①Eurasian steppe ciilization:;human and historical and cultural environment学会参加 ②マルクグラン考古学研究所でAkhan Ongaruly氏と打ち合わせ、試料調査	科学研究費	
13	庄田　慎矢	イギリス	11月6日～11月11日	大英博物館（ロンドン）にてEarly Pottery のワークショップ参加、ヨーク大学（ヨーク）にて研究打ち合わせ	先方負担 科学研究費	
14	村上　夏希	イギリス	11月5日～11月11日	大英博物館（ロンドン）にてEarly Pottery のワークショップ参加、ヨーク大学（ヨーク）にて研究打ち合わせ	科学研究費	
15	高妻　洋成	大韓民国	11月10日～11月13日	韓国文化財保存科学会出席と研究発表	科学研究費	
16	高田　祐一	イタリア	12月12日～12月18日	ARIADNE plusの総会出席	運営費交付金	
17	ヤナセ・ペーテル	イタリア	12月12日～12月18日	ARIADNE plusの総会出席	運営費交付金	
18	田村　朋美	タイ	10月31日～11月10日	東南アジア大陸部東西回廊の現地調査及び国際会議IPPAに出席し研究発表を行う	科学研究費	
19	福嶋　啓人	ブータン王国	11月4日～11月16日	文化遺産国際協力事業に伴う現地建造物調査	先方負担	
20	扈　素妍	大韓民国	12月9日～12月19日	科学研究費による研究のため、資料調査及び収集、学会参加	科学研究費	
21	加藤　真二	カンボジア	12月12日～12月17日	西トップ遺跡視察並びに各種会議・式典への参加	運営費交付金	
22	西原　和代	カンボジア	5年2月13日～2月25日	シェムリアップ周辺での民俗植物学的調査	科学研究費	
23	庄田　慎矢	ヴェトナム カンボジア	5年2月19日～2月24日	ヴェトナム考古学研究所での打合せ シェムリアップ周辺での民俗植物学的調査	科学研究費	
24	庄田　慎矢	ウズベキスタン	12月4日～12月9日	文化庁拠点交流事業　ウズベキスタン ①第２回現地研修「文化財の状態調査と環境調査の実施 ②招聘研修の打ち合わせ	受託研究費	
25	村上　夏希	ウズベキスタン	12月4日～12月9日	文化庁拠点交流事業　ウズベキスタン ①第２回現地研修「文化財の状態調査と環境調査の実施 ②招聘研修の打ち合わせ	受託研究費	
26	加藤　真二	フランス	5年2月15日～2月23日	人類・古生物研究所（IPH)ほかにおける出現期細石刃に関する調査	科学研究費	
27	山崎　有生	カンボジア	5年2月19日～2月24日	西トップ遺跡及びアンコール地域内遺跡の建築調査	科学研究費	
28	大林　潤	カンボジア	5年2月19日～2月24日	西トップ遺跡及びアンコール地域内遺跡の建築調査	科学研究費	
29	中村　一郎	ポルトガル共和国	5年1月22日～1月28日	南蛮漆器類の共同調査	先方負担	
30	庄田　慎矢	バーレーン	5年1月28日～2月3日	ワーディー・アッ＝サイルの発掘調査および出土遺物の調査研究	先方負担	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
31	馬場　基	大韓民国	5年1月29日～1月31日	国際学会参加	先方負担・ 一部科学研究費	
32	庄田　慎矢	カザフスタン	5年3月14日～3月22日	科研費　学術変革領域研究（A） ①　SEMワークショップの開催 ②　現地での民族調査、資料調査	科学研究費	
33	村上　夏希	カザフスタン	5年3月14日～3月22日	科研費　学術変革領域研究（A） ①　SEMワークショップの開催 ②　現地での民族調査、資料調査	科学研究費	

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　13人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	岩本　渉	フランス	7月4日～7月10日	無形文化遺産条約締約国総会、C2C Annual meeting参加	文化庁受託	
2	野嶋　洋子	フランス	7月4日～7月10日	無形文化遺産条約締約国総会、C2C Annual meeting参加	文化庁受託	
3	岩本　渉	バングラデシュ カンボジア	11月13日～11月19日	新型コロナウイルスの無形文化遺産への影響、及び無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査	文化財保存活用基金	
4	野嶋　洋子	バングラデシュ カンボジア	11月13日～11月19日	新型コロナウイルスの無形文化遺産への影響、及び無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査	文化財保存活用基金	
5	野嶋　洋子	モロッコ	11月25日～12月5日	無形文化遺産保護条約政府間委員会(17.COM)への参加	文化庁受託	
6	井上　愛奈	モロッコ	11月25日～12月5日	無形文化遺産保護条約政府間委員会(17.COM)への参加	文化庁受託	
7	岡部　政美	インドネシア	5年1月4日～1月17日	「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究」現地視察、および事業協力者訪問	文化庁受託	
8	野嶋　洋子	バヌアツ	5年1月7日～1月29日	科研費(新学術分担)によるバヌアツ、ウレパラパラ島調査、およびDRM事業におけるバヌアツ現地調査	科学研究費補助金、 文化庁受託	
9	野嶋　洋子	アメリカ合衆国	5年2月28日～3月5日	科研費、新学術領域研究の国際会議出席、資料調査	科学研究費補助金	
10	岩本　渉	モルディブ	5年3月6日～3月11日	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国(SIDS)を中心に」事業における現地情報収集	文化庁受託	
11	佐々木　一恵	モルディブ	5年3月6日～3月12日	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国(SIDS)を中心に」事業における現地情報収集	文化庁受託	
12	井上　愛奈	ウズベキスタン カザフスタン	5年3月12日～3月18日	事業協力機関、ユネスコ地域事務所、ユネスコ国内員会等訪問、事業についての意見交換および各国のICH研究の情報収集等	文化庁受託	
13	Dudko Anastasiia	ウズベキスタン カザフスタン	5年3月12日～3月18日	事業協力機関、ユネスコ地域事務所、ユネスコ国内員会等訪問、事業についての意見交換および各国のICH研究の情報収集等	文化庁受託	

c-② 調査研究テーマ一覧

令和5年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
147 件	72 件	32 件	16 件	14 件	10 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	72 件	22 件		50 件	
	本部文化財活用センター		アジア太平洋無形文化遺産研究センター		
	2 件		1 件		

【本部文化財活用センター】　2件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	文化財活用センター	企画担当課長　藤田千織

○その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	文化財活用センター	保存担当課長　吉田直人

【東京国立博物館】　32件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　29件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	a. 特別調査「法隆寺献納宝物」（第42次）	学芸研究部	列品管理課長　沖松健次郎 調査研究課長　松嶋雅人
2	b. 特別調査「書跡」（第18回）	学芸研究部	書跡・歴史室長　恵美千鶴子
3	d. 特別調査「絵画」第7回	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕
4	収蔵品等の有形文化財に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員（兼東洋室）　植松瑞希
5	美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	学芸研究部	列品管理課長　沖松健次郎
6	東洋民族に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室長　猪熊兼樹
7	特集「東京国立博物館の近世仏画－伝統と変奏－」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一
8	創立150年記念特集「収蔵品でたどる日本仏像史」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室研究員 増田政史
9	創立150年記念特集「チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課主任研究員　西木政統
10	創立150年記念特集「東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕
11	創立150年記念特集「再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅」に関連する調査研究	学芸研究部	保存修復課保存修復室研究員 沼沢ゆかり
12	創立150年記念特集「東京国立博物館のイスラーム陶器」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課出版企画室　三笠景子
13	創立150年記念特集「王羲之と蘭亭序」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員　六人部克典
14	創立150年記念特集「コレクションの探求　はにわ展から50年」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室　河野正訓
15	館蔵の埴輪等資料に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課考古室長　井出浩正
16	特別展「空也上人と六波羅蜜寺」に関連する調査研究	学芸企画部	学芸企画部長　浅見龍介
17	沖縄復帰50年記念特別展「琉球」に関する調査研究	学芸企画部	企画課出版企画室　三笠景子
18	日中国交正常化50周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」に関連する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室長　猪熊兼樹
19	東京国立博物館創立150年記念 特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」に関連する調査研究	学芸企画部	列品管理課登録室長　佐藤寛介
20	特別企画「大安寺の仏像」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室　増田政史
21	特別展「東福寺」に関連する調査研究	学芸企画部	特別展室研究員　高橋真作
22	浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念　特別展「京都・南山城の仏像」に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻研究員 丸山士郎
23	特別展「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕
24	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　矢野賀一
25	博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　鈴木みどり
26	凸版印刷及び文化財活用センターと共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長　村田良二
27	ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　鈴木みどり
28	レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	学芸研究部	調査研究課長　松嶋雅人
29	博物館広報・国際交流活動に関する調査研究	学芸企画部	上席研究員（兼）広報室長　鬼頭智美 国際交流室長　楊鋭

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長　和田浩
2	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長　村田良二
3	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸企画部	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子

【京都国立博物館】 16件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　12件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	学芸部	調査・国際連携室長　降矢哲男
2	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	美術室研究員　上杉智英
3	旧家伝来品・収蔵品などの有形文化財に関する調査研究	学芸部	工芸室長　山川曉
4	京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究	学芸部	特任研究員　宮川禎一 研究員　古谷毅
5	特集展示・特別企画に関連する調査研究	学芸部	学芸部長　尾野善裕
6	日本近代における中国書画の受容に関する調査研究	学芸部	美術室研究員　森橋なつみ
7	書跡及び絵画の伝来と散逸に関する調査研究	学芸部	美術室長　羽田聡
8	特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺－真言密教と南朝の遺産－」に関する調査研究	学芸部	企画室研究員　井並林太郎
9	特別展「京に生きる文化－茶の湯－」に関する調査研究	学芸部	調査・国際連携室長　降矢哲男
10	特別展「親鸞　生涯と名宝」に関する調査研究	学芸部	美術室研究員　上杉智英
11	特別展「東福寺」に関する調査研究	学芸部	列品管理室研究員　森道彦
12	博物館教育及びボランティアに関する調査研究	学芸部	教育室主任研究員　水谷亜希

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
2	文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究	学芸部	保存科学室長　降幡順子
3	社寺等における保存環境に関する調査研究	学芸部	保存科学室長　降幡順子
4	データベースやアーカイブズ等、収蔵品等情報の整理・活用に関する調査研究	学芸部	列品管理室長　羽田聡

【奈良国立博物館】 14件

○有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究　11件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
2	古代・中世の写経と聖教に関する基礎的研究	学芸部	資料室長　野尻忠
3	仏教工芸・上代工芸の総合的調査	学芸部	研究員　三本周作
4	寺院出土品の調査研究	学芸部	企画室長　中川あや
5	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	学芸部	美術室長　岩井共二
6	東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
7	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅　―祈りが紡ぐ物語―」に関する調査研究	学芸部	主任研究員　北澤菜月
8	特別展「第74回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	研究員　三本周作
9	式年造替記念特別展「春日大社　若宮国宝展―祈りの王朝文化―」	学芸部	学芸部長　吉澤悟
10	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
11	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」における教育普及プログラムの実践	学芸部	研究員　翁みほり

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　荒木臣紀
2	文化財修理の観点からの収蔵品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　荒木臣紀
3	保存科学の観点からの収蔵品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　荒木臣紀

【九州国立博物館】10件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　6件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	X線CTスキャナ等による文化財の構造や製作技法に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
2	特集展示「御所の器ー公家山科家伝来の古伊万里」に関する調査研究	学芸部企画課	研究員　酒井田千明
3	水中遺跡の保存活用に関する調査研究	学芸部	部長　河野　一隆
4	特別展「加耶」に関連する調査研究	学芸部文化財課	文化財課長　白井克也
5	展示のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、 観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	主任研究員　西島亜希子
6	文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに 関する調査研究	展示課 学芸部企画課 交流課	課長　齋部麻矢 主任研究員　加藤小夜子 主任研究員　西島亜木子 主任研究員　今井涼子

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部博物館科学課	研究員　渡辺祐基
2	博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究	学芸部博物館科学課	保存修復室長　志賀智史
3	博物館危機管理としての持続的IPMシステムの研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
4	展示収蔵環境の空気質に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか

【東京文化財研究所】　22件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　7件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関する調査研究成果及び研究情報の共有に関する総合的研究	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　橘川英規
2	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部	日本東洋美術史研究室長　小野真由美
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部	近・現代視覚芸術研究室長　江村知子
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部	広領域研究室長　安永拓世

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部	無形文化財研究室長　前原恵美
2	重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等	無形文化遺産部	無形民俗文化財研究室長　久保田裕道
3	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等	無形文化遺産部	音声映像記録研究室長　石村智

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　7件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	保存科学研究センター	生物科学研究室長　佐藤嘉則
2	文化財の保存環境にかかる調査研究	保存科学研究センター	保存環境研究室長　秋山純子
3	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター	分析科学研究室長　犬塚将英
4	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	保存科学研究センター	修復計画研究室長　朽津信明
5	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター	修復材料研究室長　早川典子
6	多様な文化財の修復技術に関する調査	保存科学研究センター	修復技術研究室長　建石徹
7	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長　建石徹

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　金井健

2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦
3	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
4	国際研修	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
5	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子
2	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長 橘川英規

【奈良文化財研究所】　50件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　17件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長　大林　潤
2	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　15件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
2	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
3	特別史跡平城宮跡の発掘調査(第648・652次)	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
4	西大寺旧境内の発掘調査（第655次）	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
5	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
6	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
7	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
8	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
9	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
10	中国・韓国との共同研究	都城発掘調査部	都城発掘調査部長　箱崎和久
11	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長　中島義晴
12	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
13	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行	都城発掘調査部	都城発掘調査部長　箱崎和久
14	古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行	都城発掘調査部	都城発掘調査部長　箱崎和久
15	水中文化遺産に関する調査研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　11件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長　星野安治
3	動植物遺存体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長　山崎健
4	文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのICTを用いた普及・啓発手法の開発	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
5	物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究	埋蔵文化財センター	主任研究員　村田泰輔

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　6件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎
2	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎
3	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎

4	高松塚古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
5	キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
6	遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うための劣化状態調査、適切な石室内の熱水分環境に関する検討	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　4件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信（ユネスコ等）	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
2	文化遺産に関する研究交流（イギリス等）	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
3	アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
4	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　6件

○文化財情報基盤の整備・充実　　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部	文化財情報研究室長　高妻洋成
2	文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究	企画調整部	文化財情報研究室長　高妻洋成
3	図書の収集・整理・公開・提供	研究支援推進部	連携推進課長　井関信雄

○調査研究成果の発信　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	研究支援推進部	連携推進課長　井関信雄

○展示公開施設の充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	企画調整部	企画調整部長　加藤　真二、 展示企画室長　岩戸　晶子、 飛鳥資料館学芸室長　石橋　茂登
2	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	研究支援推進部	連携推進課長　井関信雄

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　12件

○文化財に関する研修の実施　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財担当者研修	企画調整部 研究支援推進部	企画調整部長　加藤真二

○文化財に関する協力・助言等　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
3	地方公共団体等が行う文化財及びその保存・活用に関する技術的助言	奈良文化財研究所	所長　本中眞
4	他機関等との共同研究及び受託研究	奈良文化財研究所	所長　本中眞
5	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大

○平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	研究支援推進部	研究支援課長　不藤忠義
2	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原・整備・活用等への協力	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
3	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	企画調整部	展示企画室長　岩戸晶子
4	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
5	NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	研究支援推進部	連携推進課長　井関信雄

○連携大学院との連携教育等の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進及び奈良大学への教育協力	奈良文化財研究所	所長　本中眞

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

（参考）受託研究一覧

合計	本部文化財防災センター	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
41 件	2 件	6 件	31 件	2 件

【本部文化財防災センター】　2件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	被災美術工芸資料等安定化処理及び修理業務	文化財防災センター
2	令和4年度文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務	文化財防災センター

【東京文化財研究所】　6件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	保存科学研究センター
2	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	保存科学研究センター
3	美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業	保存科学研究センター
4	エアロゾル消火薬剤が文化財に与える影響	保存科学研究センター
5	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化遺産国際協力センター
6	令和3年度文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】　31件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	高野山地区建造物調査業務	文化遺産部
2	佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務(令和3年度契約)	文化遺産部
3	佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務委託(令和4年度契約)	文化遺産部
4	生駒市内歴史的建造物詳細調査業務	文化遺産部
5	松江市美保関伝統的建造物群保存対策調査業務委託	文化遺産部
6	平城京跡左京一条二坊十坪の発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
7	興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
8	歴史体験学習館整備に係る埋蔵文化財発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
9	名勝法華寺庭園保存整備事業に伴う発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
10	法華寺旧境内の発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
11	西大寺旧境内住宅新築に伴う発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
12	特別史跡藤原宮跡(高殿町個人住宅建築)発掘調査	都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター
13	生駒市内須恵器窯跡の調査業務	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター
14	和束の茶業景観における報告書作成業務	文化遺産部
15	史跡断夫山古墳地中レーダー探査業務	埋蔵文化財センター
16	土器(ハソウ)内部の構造解析	埋蔵文化財センター
17	高知県定福寺所蔵仏像群の年輪年代調査	埋蔵文化財センター
18	森川如春庵田舎家構成部材の年輪年代調査	埋蔵文化財センター
19	輪王寺護法天堂及び二荒山神社神輿舎の年輪年代測定	埋蔵文化財センター
20	伊川津貝塚出土資料分析業務	埋蔵文化財センター
21	出土鉄製文化財から探る埋蔵環境が超長期腐食機構に及ぼす影響	埋蔵文化財センター
22	令和4年度　国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務	都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター

23	令和4年度史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査周防鋳銭司跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	埋蔵文化財センター
24	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	文化遺産部 都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター 企画調整部・飛鳥資料館
25	特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務	文化遺産部 都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター 企画調整部・飛鳥資料館
26	令和4年度文化遺産国際協力拠点交流事業(ウズベキスタンにおける考古遺産の科学的調査に関する技術移転を目的とした拠点交流事業)	企画調整部
27	明日香村西橘遺跡出土木製品の保存処理等を経ての総合的研究	都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区) 埋蔵文化財センター
28	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開並びにその地質考古学的解析	埋蔵文化財センター
29	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部(平城地区)
30	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務及び解説案内等業務	企画調整部
31	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	研究支援推進部

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　2件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	令和4年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
2	令和4(2022)年度　ユネスコ未来共創プラットフォーム事業(海外展開を行う草の根のユネスコ活動)「持続可能なまちづくりにおける無形文化遺産の役割に関する国際交流事業」事業	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

令和5年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
439件	231件	91件	66件	53件	21件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	167件	78件		89件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	2件	10件		29件	

【本部文化財活用センター】　10件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「こどもと大人のためのミュージアム思考のススメ」	文化財活用センター企画担当課長　藤田　千織	5月5日	東京都美術館×東京藝術大学とびらプロジェクト オープンレクチャーvol.12
2	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「文化財に親しむ ツールとしてのデジタルコンテンツ」	文化財活用センター企画担当課長　藤田　千織	9月28日	オンラインミュージアムプラットフォーム「MU」オンラインセッションvol.2

○その他有形文化財に関連する調査研究　8件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	保存・展示環境の科学	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	6月10日	文化庁 第12回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー
2	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	公開承認施設における保存環境の把握と対策	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	6月15日	文化庁　公開承認施設会議
3	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	博物館等における新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談窓口の開設からこれまで	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創　他8名	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
4	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	新型コロナ感染症対策に用いられる消毒剤が文化財へ与える影響についての調査事例	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創、同保存担当課長　吉田直人	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
5	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	保存科学　環境制御（保存環境管理）	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	9月6日	国文学研究資料館令和4年度アーカイブズ・カレッジ長期コース
6	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	博物館等における空気環境への対策とモニタリング	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	10月3日～10月24日（オンライン配信）	文化財虫菌害研究所　第42回文化財防虫防菌処理実務講習会
7	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	IPM からみた博物館等の施設管理	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	12月12日～5年1月22日（オンライン配信）	文化財虫菌害研究所　第11回文化財IPM コーディネータ資格取得のための講習会
8	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	平時の博物館におけるゾーニングと浮遊菌・付着菌	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	12月16日	文化財防災センター　令和4年度国立文化財機構　文化財防災センター研修

【本部文化財防災センター】29件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財等の防災・救援等への寄与	大規模災害と文化財保存	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	6月4日	西南学院大学博物館資料保存論（非常勤講師）
2	同上	文化財防災に関わる地域の連携体制構築	文化財防災センター研究員　中島志保	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
3	同上	シミュレーションを利用した立体文化財の転倒防止に関する研究－法蔵禅寺観音立像を例に－	京都国立博物館学芸部保存科学室長　降幡順子、文化財防災センターアソシエイトフェロー　中屋菜緒	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
4	同上	Commitments of the Cultural Heritage Risk Management Center to protect Intangible Cultural Heritage form Disaster	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	8月5日	アジア太平洋地域無形文化遺産研究センター国際ワークショップ

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
5	同上	被災した史跡の復旧に関しての課題	文化財防災センター長 高妻洋成	8月22日	ICOM(国際博物館会議)プラハ大会 Committees Meetings「DRMC Museum Techniques and Risk management」
6	同上	地震時における室内空間の機能維持のための研究 その 13 博物館・美術館の展示空間における設備什器類と展示物の被害	文化財防災センター研究員　黄川田翔	9月7日	2022年度日本建築学会大会（北海道）学術講演会
7	同上	文化財防災センター発足後の取り組み	文化財防災センター長 高妻洋成、同副センター長　建石徹、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介、	9月11日	日本文化財科学会
8	同上	地震波を受けた博物館用独立展示ケースの振動解析	文化財防災センター研究員　黄川田翔	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
9	同上	滋賀・浄土寺所蔵天部形立像の転倒防止に関する研究ーシミュレーション解析を利用してー	京都国立博物館学芸部保存科学室長　降幡順子、文化財防災センターアソシエイトフェロー　中屋菜緒	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
10	同上	Cultural Heritage Disaster Risk Management System and Response in the Event of a Disaster in Japan	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	9月12日	INTERNATIONAL TRAINING COURSE (ITC) on DISASTER RISK MANAGEMENT of CULTURAL HERITAGE 2022, 16th year
11	同上	Air quality in the prefabricated temporary storage for the rescued cultural properties	文化財防災センター研究員　水谷悦子、東京文化財研究所　　保存環境研究室長　秋山純子	9月15日	5th International Conference Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments
12	同上	DRM system in Kyoto National Museum	京都国立博物館学芸部保存科学室長　降幡順子	9月22日	INTERNATIONAL TRAINING COURSE (ITC) on DISASTER RISK MANAGEMENT of CULTURAL HERITAGE　2022, 16th year
13	同上	文化財防災センターの活動	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	10月2日	日本建築学会文化財建造物防災体制検討特別委員会
14	同上	無形民俗文化財の災害リスクの可視化と防災―防災対策と災害対応の標準化に向けて―	文化財防災センター研究員　後藤知美	10月2日	日本災害復興学会大会
15	同上	美術品、動産文化財の調査とレスキュー	九州国立博物館学芸部博物館科学課長　木川りか、文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	10月29日	鹿児島県建築士会主催ヘリテージマネージャースキルアップ講習会
16	同上	Current Status of tha Cultural Heritage Disaster Risk Management Center establishment and activities in Japan	文化財防災センター長 高妻洋成、同副センター長　建石徹、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介	11月11日	韓国文化財保存科学会
17	同上	文化財防災センターについて	文化財防災センター　研究員水谷悦子	11月11日	令和4年度文化財行政講座
18	同上	地域社会の災害復興と民俗芸能	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	11月12日	奈良県地域伝統文化保存協議会
19	同上	地域文化を災害から守るー文化財防災センターの役割	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	12月16日	国立民族学博物館、桃園市立大渓木藝生態博物館主催　国際シンポジウム「地域文化と博物館」
20	同上	平成28年熊本地震における文化財レスキュー	九州国立博物館副館長 小泉惠英	5年1月19日	鹿児島県立埋蔵文化財センター、文化財防災センター共催研修『文化財を災害から守るー現状と課題―』
21	同上	美術工芸品をはじめとする動産文化財の調査とレスキュー	九州国立博物館学芸部博物館科学課長　木川りか、文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	5年1月21日	福岡県建築士会主催ヘリテージマネージャー講習会
22	同上	文化財の防災を考える	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	5年1月27日	第22回文化財防火ゼミナール
23	同上	コメント「地域コミュニティと災害復興」	文化財防災センター長 高妻洋成	5年2月12日	「緊急時の文化遺産のファーストエイド」日本語版発表記念シンポジウム『文化遺産とレジリエンス -災害後の文化遺産保全活動の世界的動向から学ぶ-』

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
24	同上	コメント「無形文化遺産防災に対する文化財防災センターの取り組み」	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	5年2月12日	「緊急時の文化遺産のファーストエイド」日本語版発表記念シンポジウム『文化遺産とレジリエンス -災害後の文化遺産保全活動の世界的動向から学ぶ-』
25	同上	Salvaging Cultural Properties and Risk Mitigation at CH-DRMC Japan	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	5年2月20日	The 3rd Training Workshop on Disaster Risk Management for Southeast Asian Cultural Heritage: Building Resilience for Urban Heritage in Time of Changes), SEAMEO SPAFA
26	同上	地域防災計画における文化財に関わる記述の変化	文化財防災センター研究員　中島志保	5年3月13日	令和4年度中国・四国地方の文化財防災に関わる研究協議会
27	同上	国立文化財機構文化財防災センターの活動	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	5年3月20日	全国美術館会議研修会
28	同上	美術品・動産文化財の調査と救援活動	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	5年3月25日	大阪府ヘリテージマネージャー協議会フォローアップ研修会
29	同上	東京都における文化財防災体制の現状と課題	文化財防災センター研究員　黄川田翔	5年3月26日	2022年度歴史文化資料保全首都圏大学協議会

【東京国立博物館】　91件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　73件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	美の宝庫からの発信―書画に託された思い―	副館長　富田淳	4月27日	日本書芸院
2	同上	平治物語絵巻と合戦絵の系譜	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	4月29日	遠山記念館「源頼朝の時代「平治物語と源平合戦」展」特別講座
3	同上	北海道常呂郡置戸町置戸山2遺跡の第6次発掘調査報告	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄	5月29日	第88回日本考古学協会
4	同上	踊る埴輪の修理プロジェクト	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	6月4日	東京国立博物館月例講演会
5	同上	令和3年度の主要な成果	客員研究員　谷豊信	6月11日、6月23日、6月25日	封泥科研研究会（基盤研究Ｃ「高精細Ｘ線ＣＴスキャナの活用を中心とする古代中国の封泥の作成方法に関する総合的研究」）
6	同上	聖衆来迎寺所蔵「鋳銅三具足」の再現模造に向けた制作技法に関する研究	調査研究課工芸室主任研究員　清水 健、保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	6月18日	第44回文化財保存修復学会ポスターセッション
7	同上	滋賀県甲賀市藤栄神社所蔵十字形洋剣(水口レイピア)のＣＴ調査と３Ｄプリンタによる造形について	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	6月18日	第44回文化財保存修復学会
8	同上	アイヌ民族の飾り矢筒における装飾金属の構成調査	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	6月18日	第44回文化財保存修復学会
9	同上	磁器・ガラスに使用される光学用エポキシ樹脂の剥離に関する実験	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	6月18日、6月19日	第44回文化財保存修復学会
10	同上	南レヴァントにおける青銅器・鉄器時代移行期の様相	列品管理課平常点調整室主任研究員　小野塚拓造	6月19日	アコリス考古学プロジェクト2022公開シンポジウム
11	同上	Classification of Sue ware types and dating by 3D-2D-CNN models	調査研究課考古室研究員　山本亮	6月30日	SEAA Conference 2022
12	同上	ハニワの世界へようこそ 関東の埴輪を中心に	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	7月2日	古代出雲歴史博物館 特別展 ハニワの世界へようこそ関連講座
13	同上	東京国立博物館の旧植松家コレクション	調査研究課絵画・彫刻室研究員 大橋美織	8月11日	静岡県・沼津市教育委員会主催「東海道・原の文化誌」
14	同上	スコータイ刻文と仏塔建立：仏舎利安置と蓮蕾形仏塔	企画課長　原田あゆみ	8月24日	東南アジア古代史研究会
15	同上	模写から読み解けること―桜井香雲模「阿弥陀鉤召図」をめぐって―	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	9月10日	月例講演会「東博150年の歴史と模写・模造」
16	同上	古代エジプト新王国時代におけるガラスの白濁技法の変遷の解明	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造	9月10日、９月11日	日本文化財科学会第39回大会
17	同上	東京国立博物館所蔵の古銀貨に関する調査	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行、東京国立博物館客員研究員　西脇康、調査研究課考古室長　井出浩正、調査研究課工芸室　清水健	9月11日	日本文化財科学会第３９回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
18	同上	土器の圧痕および混入繊維の観察におけるX線CT画像の有効性	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行、保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
19	同上	土器圧痕同定のためのX線CT画像を用いた現生種実の形態把握	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行、保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
20	同上	布留遺跡に集まった人びと―外来系土器からみた地域間交流―	調査研究課考古室研究員 山本亮	9月17日	ここまで判った布留遺跡―物部氏以前とその後―
21	同上	博物館の仏像の展示照明における質感の再現	上席研究員　木下史青	9月22日	照明学会 視覚・色・光環境分科会、照明デザイン分科会 シンポジウム「照明デザインと質感の関わり」
22	同上	東京国立博物館が所蔵する古丁銀類の蛍光Ｘ線分析について	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	10月7日	島根県石見銀山遺跡科学調査指導会
23	同上	東京国立博物館が所蔵する古丁銀類の蛍光Ｘ線分析について	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	10月8日	島根県石見銀山遺跡客員研究員検討会
24	同上	第69回日本伝統工芸展染織解説	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	10月18日	三越日本橋店・第69回日本伝統工芸展会場
25	同上	特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」に見る日本の工芸	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	10月18日	三越日本橋店・第69回日本伝統工芸展会場
26	同上	東京国立博物館 ―価値観・世界観を照明で見せる	上席研究員　木下史青	10月21日	照明学会東海支部 あかりの日記念講演 2022
27	同上	日本文化遗产的X射线CT系统的介绍和使用	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	10月28日	International Symposium on the Application of X-ray Imaging Technology for Cultural Relics（上海博物館）
28	同上	東京国立博物館におけるX線CT装置の導入と活用	保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛	10月28日	2022日韓学術人的交流事業「日韓博物館における保存科学設備の活用及び展望」
29	同上	多様な文化財の診断および修理検討のためのCT活用事例	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	10月28日	2022日韓学術人的交流事業「日韓博物館における保存科学装備の活用及び展望」
30	同上	佐渡奉行所跡の発掘で見つかった炉跡の被熱温度推定	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	11月12日	日本鉱業史研究会佐渡金銀山現地研究発表会
31	同上	国立博物館における科学調査	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	11月3日	第7回文理融合シンポジウム(高エネルギー加速器研究機構)
32	同上	日本陶磁における金銀彩とその意義について	企画課出版企画室主任研究員　三笠景子	11月26日	美術史学会東支部例会
33	同上	インド更紗の製作地と絵画様式の関連性―人物文様を中心に―	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	11月26日	美術史学会東支部例会
34	同上	赤堀茶臼山古墳の埴輪ー東京国立博物館所蔵品の発掘から研究ー	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	11月27日	「企画展 赤堀茶臼山古墳ー東国屈指のハニワたちー」関連講座
35	同上	「古九谷様式」再考	特任研究員　今井敦	12月17日	東洋陶磁学会令和4年度第3回研究会
36	同上	醍醐寺の中世仏画	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	5年1月7日	科研費「公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究」研究会
37	同上	多文化共生における博物館教育の役割	博物館教育課教育講座室アソシエイトフェロー 山本桃子	5年1月19日	カシオ計算機株式会社・武蔵野美術大学産学連携研究会
38	同上	きものの意匠にみる日本の伝統色・文様とその変遷	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	5年2月12日	シルク博物館
39	同上	東京国立博物館が所蔵する古丁銀類の蛍光Ｘ線分析について	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	5年2月20日	日本銀行貨幣博物館勉強会
40	同上	Bronze Industry Remains at Tel Zeror, Israel Revisited	列品管理課平常点調整室主任研究員　小野塚拓造	5年2月28日	ISF-JSPS Joint Program "Urbanism and Technological Innovation in the Ancient Israel" The 2nd Workshop
41	同上	三次元データを活用した機械学習による土器分類の展望	調査研究課考古室研究員 山本亮	5年3月5日	2022 年度学変A「土器を掘る」研究成果報告会
42	同上	古丁銀類の科学調査と展望	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	5年3月16日	島根県石見銀山遺跡客員研究員検討会
43	同上	須恵器スキャンデータの3D-RGBA 1283解像度Voxelデータによる教師付き分類の試行	調査研究課考古室研究員 山本亮	5年3月25日	日本情報考古学会第47回大会
44	同上	東京国立博物館と飯岡車塚古墳出土品	調査研究課考古室研究室 山本亮	5年3月26日	綴喜古墳群国指定史跡記念シンポジウム
45	収蔵品等の有形文化財に関する調査研究	「木挽町狩野家伝来資料の課題と展望」	博物館教育課ボランティア室長　金井裕子	4月3日	美術史学会東支部大会シンポジウム
46	同上	伊万里焼吸坂手についての一考察 ： 東京国立博物館所蔵の作例を中心に	博物館教育課教育講座室研究員　横山梓	6月25日	東洋陶磁学会2022年度 第1回研究会 於青山学院大学

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
47	同上	髙木聖鶴の書とコレクション	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	6月25日	岡山県立美術館開催「生誕100年記念髙木聖鶴展」
48	同上	信州・佐久の縄文文化を考える	調査研究課考古室長　井出浩正	7月10日	佐久教育振興会講演会
49	同上	五馬図巻の研究史と修理報告	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	7月18日	中国美術研究会（京都大学人文科学研究所）
50	同上	明代蘇州における王維憧憬	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	12月3日	「輞川図と蘭亭曲水図」展記念シンポジウム「輞川図と蘭亭曲水図をめぐる諸問題」（静岡県立美術館）
51	同上	「『大小暦類聚』とデータベース公開の経緯」	特任研究員　田沢裕賀	5年1月21日	国際浮世絵学会　第123回研究会
52	創立150年記念特集「王羲之と蘭亭序」に関連する調査研究	王羲之書法と蘭亭序	学芸研究部調査研究課東洋室研究員・六人部克典	5年2月25日	東京国立博物館連携講演会「王羲之と蘭亭序」
53	沖縄復帰50年記念特別展「琉球」に関する調査研究	明治17、18年購入の東博琉球コレクション	博物館教育課教育普及室長　品川欣也	6月10日	東京国立博物館連続講座「未来へつなぐ琉球・沖縄文化」
54	同上	市河米庵コレクションの琉球関係資料	学芸研究部調査研究課東洋室研究員 六人部克典	6月10日	東京国立博物館連続講座「未来へつなぐ琉球・沖縄文化」
55	同上	琉球の染織	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	6月11日	東京国立博物館連続講座「未来へつなぐ琉球・沖縄文化」
56	同上	琉球・沖縄文化へのまなざし -沖縄学をめぐる人びと-	企画課長　原田あゆみ	8月7日	九州国立博物館 講座 「琉球の美術と文化を深める」
57	同上	九州国立博物館の琉球コレクション　-九博の取り組み-	企画課長　原田あゆみ	10月22日	復帰50年展「琉球―美とその背景―」シンポジウム 「守り継がれてきた琉球の文化～琉球コレクションの成り立ちと意義について」
58	同上	東京国立博物館の琉球コレクション	博物館教育課教育普及室長　品川欣也	10月22日	沖縄県立博物館美術館「シンポジウム 守り継がれてきた琉球の文化」
59	同上	CT調査による御供飯の特徴の検討	保存修復課調査分析室長鳥越俊行、保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛	10月25日	琉球漆器「御供飯」共同調査検討会
60	東京国立博物館創立150年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」に関する調査研究	東京国立博物館の150年	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	10月21日	特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」見どころを探る（於：江東区古石場文化センター）
61	同上	東京国立博物館創立150年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	10月28日	学校法人聖心女子学院 生涯学習センター
62	同上	特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」見どころを探る 東京国立博物館の国宝②	列品管理課長　沖松健次郎	11月3日	江東区古石場文化センター講座
63	同上	東京国立博物館の国宝と150年	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	11月9日	東海東京証券株式会社 オルクドールコンシェルジュ部 アートセミナー
64	同上	特別展『国宝　東京国立博物館のすべて』見どころ解説	副館長　富田淳、列品管理課登録室長　佐藤寛介、列品管理課長　沖松健次郎、百五十年史編纂室長　恵美千鶴子、列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	11月24日	東京国立博物館　記念講演会
65	特別企画「大安寺の仏像」に関する調査研究	大安寺の仏像の魅力	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	5年2月10日	東京国立博物館特別企画「大安寺の仏像」展開催記念 『大安寺特別講演』
66	同上	大安寺の歴史と仏像	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	5年2月16日	東京国立博物館　記念講演会
67	特別展「東福寺」に関する調査研究	東福寺の歴史と寺宝	企画課特別展室研究員 高橋真作	5年3月9日	鎌倉禅研究会
68	同上	特別展「東福寺」鑑賞の手引き	企画課特別展室研究員 高橋真作	5年3月19日	NHK文化講演会（新宿歴史博物館）
69	同上	伝説の絵仏師・明兆の画力	企画課特別展室研究員 高橋真作	5年3月25日	東京国立博物館月例講演会
70	博物館環境デザインに関する調査研究	東京帝室博物館 奉献美術館（表慶館）造営の石材調達の概要	企画課デザイン室長　矢野賀一	9月7日	日本建築学会
71	博物館教育に関する調査研究	上野の森で動物めぐり「翼と羽」	博物館教育課教育講座室研究員　横山梓	5月15日	上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館　三館園合同事業 オンライン講座
72	同上	教育普及の諸事例～東京国立博物館を例に	博物館教育課長　鈴木みどり	6月8日	第12回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー
73	同上	情報保障から新たな鑑賞体験のデザインへ（博物館での取り組み～東京国立博物館の事例）	博物館教育課長　鈴木みどり	7月4日	国際カンファレンスだれもが文化でつながる国際会議：Creative Well-being Tokyo 2022

○その他有形文化財に関連する調査研究　18件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館の環境保存に関する調査研究	ハンドリフトを用いた文化財の施設内輸送時に生じる振動の原因と対策に関する研究	保存修復課長　和田浩	6月18日	文化財保存修復学会44回大会
2	同上	2022年度災害対策調査部会の活動報告	保存修復課長　和田浩	6月18日	文化財保存修復学会44回大会
3	同上	展示室における換気対策が与えるエネルギー消費への影響と持続可能な博物館環境の維持に関する考察	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　相川悠、保存修復課長　和田浩	6月19日	文化財保存修復学会44回大会
4	同上	展示室における換気対策が与えるエネルギー消費への影響と持続可能な博物館環境の維持に関する考察	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　相川悠、保存修復課長　和田浩	6月19日	文化財保存修復学会44回大会
5	同上	災害情報の統合と都市と文化財のデジタル化と防災	保存修復課長　和田浩	7月3日	震災遺構資料科研中四国九州保存修復研究会合同研究会
6	同上	綿の衝撃試験についての基礎的研究	保存修復課長　和田浩	7月20日	日本包装学会第31回年次大会
7	同上	博物館の隠れた地震対策～東京国立博物館の事例を中心に～	保存修復課研究員　黄川田翔	8月30日	東京消防庁主催「地震から身を守る室内安全セミナー」
8	同上	美術品輸送包装の課題と研究開発	保存修復課長　和田浩	9月1日	総務省電波資源拡大のための研究開発「同期・多数接続信号処理を可能とするバックスキャッタ通信技術の研究開発」令和4年度 第1回実利用推進検討会
9	同上	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究 -2021年限定公開における収蔵庫内環境測定値の検討-	保存修復課長　和田浩	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
10	同上	東京国立博物館資料館のカビ被害と対策事例報告	博物館情報課情報資料室長　山﨑美和	10月6日	日本図書館協会　全国図書館大会　第11分科会（資料保存）
11	同上	未来へつなぐ、保存と修理の現場	保存修復課長　和田浩	11月8日	令和４年度小金井市公民館東分館市民講座
12	同上	東京国立博物館資料館の現状と書架スペース問題　増架無しの中規模図書移動事例報告	博物館情報課情報資料室長　山﨑美和	11月17日	図書館総合展フォーラム
13	同上	博物館施設内輸送における振動計測	保存修復課長　和田浩	11月18日	第60回全日本包装技術研究大会
14	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	つなぎ役としてのColBase	博物館情報管理室長　阿児雄之	10月12日	第4回情報知識学オンラインセミナー
15	同上	東京国立博物館のアーカイブズとデジタルアーカイブ	特任研究員　田良島哲	10月25日	韓国国立中央博物館　博物館アーカイブシンポジウム
16	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	東京国立博物館百五十年史編纂に関わる資料の整理と活用	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子	7月20日	専門図書館協議会全国研究集会「“活用”を通して組織アーカイブの価値を探る」
17	同上	蜷川式胤の眼	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子	11月19日	明治美術学会特別研究会「なぜ明治・美術・学会なのか」（於：郡山市立美術館）
18	同上	東京国立博物館の150年	副館長　富田淳	11月25日	第351回毎日メトロポリタンアカデミー

【京都国立博物館】66件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　22件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	乱世の七朝帝師　夢窓疎石の頂相と袈裟	学芸部企画室長・工芸室長　山川　曉	8月6日	京都国立博物館　夏期講座
2	同上	The Role of Buddhist Surplices Kāṣāya in Rituals: with a focus on the Suiriku-e Rite	学芸部企画室長・工芸室長　山川　曉	8月22日	ICOM PRAGUE 2022
3	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	祇園祭芦刈山 神体着用小袖の復元をめぐる諸問題	学芸部企画室長・工芸室長　山川　曉	6月18日	服飾美学会令和4年度大会 通算第105回研究発表会
4	同上	琉球王家と明清朝の下賜衣料	学芸部企画室長・工芸室長　山川　曉	7月31日	第Ⅱ期明服・笥付科研　第3回研究会
5	同上	人形玩具の今と未来～たもち、ならべる博物館～シンポジウム　パネルディスカッション　京都国立博物館事例報告	学芸部企画室長・工芸室長　山川　曉	10月22日	人形玩具学会 第34回研究発表大会
6	同上	書跡史から見た津八幡宮所蔵 三十六歌仙扁額について	学芸部列品管理室長　羽田聡	10月30日	石水博物館特別展「津八幡宮の名宝」記念シンポジウム「津のたからもの 三十六歌仙扁額の魅力にせまる」（三重県立美術館）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
7	同上	耳福 美麗なる中国陶磁－京都国立博物館松井コレクションより－	学芸部調査・国際連携室長 降矢哲男	4月17日	愛宕坂茶道美術館 特別展 眼福 美麗なる中国陶磁 講演会（アオッサ）
8	同上	屏風絵を楽しむために	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也	7月21日	くろちく百千足館
9	同上	画家たちの桃山時代	同上	11月13日	たつの市役所多目的ホール
10	同上	釈迦堂縁起絵巻（清涼寺蔵）の修理報告と研究	学芸部企画室研究員　井並林太郎	5年3月19日	「五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及」第3回ワークショップ
11	同上	初期水墨画と中世海道	学芸部列品管理室研究員 森道彦	8月5日	京都国立博物館　夏期講座
12	同上	文化財修理と伝統材料	同上	10月30日	明日の京都フォーラム 第12回「日本の文化は自然の恵みから ～伝統材料・道具とそれを支える人々の未来～」
13	同上	亡国と美術―宋遺民の絵画をめぐって	学芸部調査・国際連携室研究員　森橋 なつみ	8月6日	京都国立博物館　夏期講座
14	特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」に関する調査研究	展覧会見どころ・作品紹介	学芸部企画室研究員　井並林太郎	7月18日	京都新聞ニュースカフェ（京都新聞文化ホール）
15	同上	河内長野の霊地　観心寺と金剛寺	同上	8月6日	歴史・文化セミナー（近鉄文化サロン阿倍野）
16	同上	展覧会紹介	同上	9月4日	仏教芸術学会第3回研究発表会（オンライン開催）
17	特別展「京に生きる文化　茶の湯」に関する調査研究	茶の湯と京都 ～特別展 『京に生きる文化 茶の湯』の見どころ～	学芸部調査・国際連携室長　降矢哲男	10月10日	NHK文化センター京都講座
18	同上	京に生きる文化 茶の湯－歴史とその背景－	同上	10月22日	特別展 京に生きる文化 茶の湯 記念講演会（京都国立博物館）
19	特別公開「熊本・宮崎の古墳文化 -石人と貝輪-」に関する調査研究	古墳時代の人物像 - 石の“埴輪”と土の埴輪	学芸部研究員　古谷毅	5年1月19日	清水寺 北法相宗 仏教文化講座
20	教育活動に関する調査研究	文化財の複製・模写・模造とその活用	学芸部企画室研究員　井並林太郎	5月22日	大阪よみうり文化センター（メルパルク京都カルチャールーム）
21	同上	博物館と人を繋ぐ―文化財ソムリエと京博ナビゲーター	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希	5年2月4日	京都国立博物館国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま―国立博物館の事例から―」
22	同上	多様な人々に向けて開かれる博物館活動について	同上	5年3月7日	滋賀県立美術館学芸課向上プログラム

○その他有形文化財に関連する調査研究　44件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	国内外の博物館等への援助・助言等	シミュレーションを利用した立体文化財の転倒防止に関する研究－法蔵禅寺観音立像を例に -	学芸部保存科学室長　降幡順子、中屋菜緒（文化財防災センターアソシエイトフェロー）	6月11日	文化財保存修復学会第44回大会
2	同上	滋賀・浄土寺所蔵天部形立像の転倒防止に関する研究－シミュレーション解析を利用して－	同上	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
3	同上	The Kyoto National Museum’s Facilities and Disaster Risk Countermeasures for Movable Cultural Properties	学芸部保存科学室長　降幡順子	9月22日	UNESCOチェアITC-DRMCH
4	博物館情報、文化財情報に関する調査研究	京都国立博物館における記録資料の整理と課題　メタ文化財情報アーカイブズ構築に向けて	学芸部列品管理室　研究補佐員　西村　由希子、同室長　羽田　聡、同研究員　近藤　無滴、学芸部　三島　貴雄、国立歴史民俗博物館　後藤　真	11月12日	デジタルアーカイブ学会　第7回研究大会一般研究発表（オンライン）
5	文化財の製作技法・材料等に関する調査研究	重要文化財「色絵釘隠（伝野々村仁清）の胎土・彩色材料に関する研究	学芸部保存科学室長　降幡順子	6月11日	文化財保存修復学会第44回大会
6	同上	若狭国鎮守神人絵系図の彩色材料調査－復元模写事業を踏まえて－	同上	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
7	その他有形文化財に関連する調査研究	趣旨説明	副館長　栗原祐司	5月22日	国際博物館の日記念シンポジウム

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
8	同上	記念講演「博物館とSDGs」	同上	6月7日	岡山県博物館協議会総会
9	同上	外国公館の展示施設	同上	6月9日	日本展示学会第41回研究大会
10	同上	動向紹介「博物館法改正について」	同上	6月12日	アート・ドキュメンテーション学会2022年度年次大会
11	同上	セッション「新しい博物館法と公開天文台」パネリスト	同上	6月28日	日本公開天文台協会第16回全国大会
12	同上	博物館の現状と課題	同上	8月1日	文化庁第12回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー
13	同上	Cultural Heritage Disaster Risk Management Center in Japan	同上	8月23日	ICOMプラハ大会（チェコ）
14	同上	ICOMプラハ大会報告会	同上	9月16日（オンライン）	ICOMプラハ大会報告会
15	同上	KYOTO：World Heritage City－As a Field of Cultural Heritage Education	同上	11月14日	ASEAN Cultural Heritage Education International Workshop
16	同上	エコミュージアムと住民参加	同上	11月23日	軍事・戦争遺跡保存シンポジウム－近代遺跡保存の条件とエコミュージアムの可能性
17	同上	改正博物館法とICOMの博物館定義	同上	12月10日	日本展示学会展示学講座
18	同上	Panel discussion on roles of youth and tsunami museums for resilience	同上	12月15日	第4回世界津波博物館会議
19	同上	博物館法改正について2023	同上	5年2月19日（オンライン）	第113回アート・ドキュメンテーション学会研究会
20	同上	基調報告：博物館現場から読み解く改正法の概要とポイント	同上	5年3月4日（オンライン）	改正博物館施行間近！～現場の視点で改正法のポイントを考える～」フォーラム
21	同上	博物館法の改正への対応	同上	5年3月10日	令和4年度岡山県博物館協議会第2回研修会
22	同上	古代日本における施釉陶器生産技術の展開―奈良三彩その後―	学芸部長　尾野善裕	8月28日	中国古陶瓷学会「唐三彩学術研討会」
23	同上	八事裏山窯の瓦生産	同上	11月12日	第11回中世瓦研究会「永福寺式軒瓦の成立と展開～瓦から探る中世寺院造営の背景～」
24	同上	仏像入門	学芸部上席研究員　淺湫毅	7月15日	智積院研修会
25	同上	天台のみほとけ　―妙法院と三十三間堂を中心	同上	10月16日	妙法院仏教文化講座
26	同上	妙法院に伝わる秀吉ゆかりの漆椀　―高台寺蒔絵、大逆転	学芸部教育室長　永島明子	11月27日	第555回　妙法院仏教文化講座
27	同上	漆器のたのしみ	同上	5年1月28日	国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館　特別展「日本のうるし工芸」関連第117回公開講座
28	同上	重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵「源重之」収蔵紀年特別講演会パネルディスカッション	学芸部調査・国際連携室長　降矢哲男	4月9日	重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵「源重之」収蔵紀年特別講演会（秋水美術館）
29	同上	茶の湯の歴史　奈良時代から鎌倉時代	同上	10月23日	清水寺 北法相宗仏教文化講座
30	同上	茶の湯の歴史　室町時代から近代	同上	11月27日	清水寺 北法相宗仏教文化講座
31	同上	茶の湯と仏教の関わり	同上	5年3月19日	第557回　妙法院仏教文化講座
32	同上	軒瓦の同笵・異笵に関する新視点ー変形忍冬唐草文軒平瓦6647Cの再検討からー	学芸部考古室長　石田由紀子	7月9日	第23回立命館大学考古学談話会
33	同上	寺社に奉納された絵馬	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也	5年3月26日	清水寺 北法相宗仏教文化講座
34	同上	佐竹本三十六歌仙絵「源重之」	学芸部企画室研究員　井並林太郎	4月30日	「重要文化財　佐竹本三十六歌仙絵「源重之」収蔵記念特別展　歌仙絵と太刀」記念講演会（秋水美術館）
35	同上	王朝歌人の表情―佐竹本三十六歌仙絵『小大君』から―	同上	8月28日	「一笑一顰　－日本美術に描かれた顔－」展　特別講演（大和文華館）
36	同上	京都・高山寺の名宝　鳥獣戯画―その魅力と謎―	同上	10月2日	「国宝　鳥獣戯画と愛らしき日本の美術」展　記念講演会（福岡市美術館）
37	同上	歌仙絵と似絵の創成―うた／絵／物語が交差する場としての歌林苑	同上	10月8日	和歌文学会第68回大会（立正大学）
38	同上	国宝・日月四季山水図屏風の美　天野山金剛寺の歴史とともに	同上	11月17日	「仏教美術と西陣織」展　講演会（西陣織あさぎ美術館）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
39	同上	The Protection and Conservation of Cultural Heritage During the Edo (1615-1868) and Meiji (1868-1912) Eras: The Foundation of Japan's Conservation of Cultural Properties	学芸部列品管理室研究員 森道彦	5月6日	国際シンポジウム「Conservation Thinking in Japan　バード大学院センター（米国ニューヨーク市）
40	同上	中国の美術と玄奘三蔵	調学芸部査・国際連携室研究員　森橋なつみ	12月25日	清水寺 北法相宗仏教文化講座
41	同上	三輪山と古墳時代の神マツリ	学芸部研究員　古谷毅	10月19日	山の辺文化会議 令和４年度シンポジウム「ヤマト王権誕生の地」ー纒向遺跡と三輪山ー」
42	同上	Conservation Thinking in Japan: Nobuyuki Kamba and Melissa M. Rinne in Conversation	学芸部調査・国際連携室主任専門職　リンネ マリサ	5月6日	国際シンポジウム「Conservation Thinking in Japan　バード大学院センター（米国ニューヨーク市）
43	同上	An Insider's Introduction to the Kyoto National Museum	同上	6月27日	アジア・ソサイエティ（東京 国際文化会館）「Art for Breakfast」シリーズ
44	同上	The Power of Collecting and Collections: Wallpaper and Interior Design (Moderator)	同上	6月27日	ICOM―ICDAD年次会議、ICOMプラハ大会 2022（チェコ共和国プラハ市）

【奈良国立博物館】　53件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　30件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品等及び館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	奈良国立博物館の仏教美術コレクション	美術室長　岩井共二	4月24日	「SHIBUYAで仏教美術―奈良国立博物館コレクションより」記念講演会
2	同上	東アジア世界のブッダの姿	美術室長　岩井共二	7月16日	夏季連続講座「仏像のかたち」
3	同上	如来像の着衣について	美術室長　岩井共二	12月18日	奈良国立博物館サンデートーク
4	同上	平安貴族と装飾経	列品室長　斎木涼子	7月17日	奈良国立博物館サンデートーク
5	同上	解脱房貞慶をめぐる五台山文殊信仰の造形	教育室長　谷口耕生	7月23日	「五台山文化圏における文物の生成・継承・波及」第2回ワークショップ
6	同上	明恵上人をめぐる仏教絵画	教育室長　谷口耕生	9月18日	奈良国立博物館サンデートーク
7	同上	美術からみた聖徳太子	工芸考古室主任研究員 三田覚之	8月20日	柏原市立歴史資料館講演会
8	同上	図像から彫像へ ―不動明王像の魅力	企画室主任研究員 山口隆介	7月30日	夏季連続講座「仏像のかたち」
9	同上	古写真と仏像研究―大阪・藤田美術館所蔵空也上人像の近代―	企画室主任研究員 山口隆介	11月20日	奈良国立博物館サンデートーク
10	同上	興福寺の仏像―日本仏教彫刻の精華	企画室主任研究員 山口隆介	10月7日	公立学校共済組合友の会「歴史教室・奈良」
11	同上	快慶研究最前線―阿弥陀如来像を中心に―	企画室主任研究員 山口隆介	12月4日	人文研アカデミー2022シンポジウム「日本古代中世の仏像彫刻―阿弥陀如来の変容をさぐる―」
12	同上	菩薩像のかたちと信仰―観音菩薩を中心に	教育室研究員　内藤航	7月23日	夏季連続講座「仏像のかたち」
13	同上	薬師如来像をめぐって	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	4月17日	奈良国立博物館サンデートーク
14	同上	強く、こわい、ほとけたち	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	5月21日	京都学講座
15	同上	シミュレーションを利用した立体文化財の転倒防止に関する研究―法蔵禅寺観音立像を例に―	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	6月18日、19日	第44回文化財保存修復学会大会
16	同上	滋賀・浄土寺所蔵天部形立像の転倒防止に関する研究―シミュレーション解析を利用して―	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	9月10日、11日	第39回日本文化財科学会大会
17	同上	奈良・如意輪寺所蔵　源慶作厨子入り蔵王権現立像について―13世紀興福寺との関係に注目して―	美術室アソシエイトフェロー　松井美樹	5月21日	第74回美術史学会研究大会
18	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」	大安寺の祈りと営み―出土品を中心に―	企画室長　中川あや	5月21日	「特別展　大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」公開講座
19	貞享本當麻曼荼羅朱里完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」に関する調査研究	貞享本當麻曼荼羅とその周辺	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	8月6日	「貞享本當麻曼荼羅朱里完成記念特別展　中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」公開講座

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
20	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」に関する調査研究	なぜなぜ？はっけん！ほとけさまのかたち	教育室研究員　翁みほり	8月21日	奈良国立博物館講堂
21	「第74回　正倉院展」に関する調査研究	正倉院宝物の魅力	館長　井上洋一	10月23日	大野城市心のふるさと館特別展記念講演会
22	同上	正倉院宝物の魅力―遙かな歴史と驚きの技術―	学芸部長　吉澤悟	10月7日	京都アスニー講座
23	同上	正倉院宝物と天平文化	学芸部長　吉澤悟	10月8日	企画展「上野三碑の時代　七・八世紀の都と東国」特別講演
24	同上	せいぶ正倉院講座	学芸部長　吉澤悟	11月2日	奈良市西部公民館
25	同上	古代の戸籍と正倉院文書について	資料室長　野尻忠	10月16日	奈良国立博物館サンデートーク
26	同上	今年の正倉院展のみどころ	工芸考古室研究員 三本周作	9月25日	読売新聞東京本社
27	同上	正倉院の仏具―奈良時代の寺院と法会の世界―	工芸考古室研究員 三本周作	11月12日	「第74回　正倉院展」公開講座
28	同上	仏像けんきゅー部（ゲスト出演）	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	10月30日	奈良国立博物館講堂
29	同上	プレミアムカード会員特別鑑賞会　第74回正倉院展編	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	11月4日	奈良国立博物館講堂
30	同上	賛助会会員特別鑑賞会　第74回正倉院展編	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	11月4日	奈良国立博物館講堂

○その他有形文化財に関連する調査研究　23件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関する調査研究	文化遺産と社会	館長　井上洋一	1月27日	奈良シニア大学
2	同上	弥生絵画にみる倭人の世界	館長　井上洋一	8月7日	奈良学セミナー
3	同上	仏教美術以前の日本美術	館長　井上洋一	8月7日	奈良国立博物館サンデートーク
4	同上	自らの文化がある限り、その国は生きながらえる	館長　井上洋一	8月27日	国立大学法人奈良国立大学機構 奈良カレッジズ学問祭
5	同上	青銅のまつり	館長　井上洋一	10月1日	新宿歴史博物館特別展記念講演会
6	同上	大岩山銅鐸と弥生時代の青銅祭祀	館長　井上洋一	10月15日	滋賀県立安土城考古博物館特別展記念講演会
7	同上	文化遺産と社会	館長　井上洋一	11月4日	國學院大學一四〇周年記念講演会
8	同上	銅鐸・その祈りと形	館長　井上洋一	5年1月14日	特別ワークショップ&レクチャー「未知っち、見ちっち Vol.Ⅲ　見立ての世界」（大分県立美術館）
9	同上	弥生時代の青銅器：形・模様を分けて見えてくるもの	館長　井上洋一	5年2月25日	新琵琶湖学セミナー（滋賀県立琵琶湖博物館）
10	同上	世界古代文明の聖地を巡る	館長　井上洋一	5年3月1日	芸術文化教養講座特別編（大分県立美術館）
11	同上	お雇い外国人エドアルド・キヨッソーネと日本美術	館長　井上洋一	5年3月26日	連続公開講座「図書館劇場」（奈良県立図書情報館）
12	同上	博物館情報・メディア論　資料のドキュメンテーションとデータベース	情報サービス室長　宮崎幹子	7月21日	同志社大学
13	同上	奈良博の教育普及	教育室研究員　翁みほり	12月11日	奈良学セミナー
14	同上	遠隔操作ロボット（アバター）を用いた遠隔地域間での文化財・交流学習について	教育室研究員　翁みほり、（共同発表者：東上佳佑（大分県商工観光労働部先端技術挑戦課））	5年2月4日	第13回世界遺産学習全国サミットinオンラインなら
15	同上	博物館の展示について	工芸考古室研究員 三本周作	6月7日	奈良国立博物館講堂
16	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	サステナブルな文化財保存	保存修理指導室長 荒木臣紀	3月20日	奈良国立博物館サンデートーク
17	同上	文化財の健康診断―X線CT調査でみる文化財―	保存修理指導室アソシエイトフェロー 安藤真理子	6月19日	奈良国立博物館サンデートーク
18	同上	文化財を加害するムシの話	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	5月15日	奈良国立博物館サンデートーク
19	同上	新種のシミの報告	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会

20	同上	竹材のフラスから加害種を特定する分子生物学的手法の検討	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
21	同上	アフリカヒラタキクイムシを用いた高温処理（48℃及び50℃）の繰り返しによる効果判定の実験	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
22	同上	文化財害虫とその対処―最近のトピックを中心に―	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	11月15日	九州国立博物館IPMセミナー
23	同上	外国人観光客の影響による博物館の変化―奈良国立博物館を例として―	情報サービス室アソシエイトフェロー　張　小娟	11月18日	浙江省博物館主催国際シンポジウム「博物館と地域振興」

【九州国立博物館】　21件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	開かれた博物館への取り組み	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子	11月25日	放送大学面接授業、九州国立博物館
2	同上	考古学を楽しむ	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子	12月2日	西南コミュニティカレッジ

○その他有形文化財に関連する調査研究　19件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	収蔵庫分類の観点から考える松浦家コレクション―熙の分類の意義―	学芸部文化財課研究員　松浦晃佑	6月4日	第44回松浦党研究連合大会　記念講演（平戸文化センター）
2	同上	展示ケース内VOC濃度低減のための内装材及び換気ファンの効果に関する検証	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　和泉田絢子、同研究員　渡辺祐基、同研究補佐員　富松志帆、松尾実香、同課長　木川りか	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
3	同上	新種のシミの報告	東京文化財研究所　島田潤、佐藤嘉則、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、同課長　木川りか、奈良国立博物館　小峰幸夫	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
4	同上	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究－2021年限定公開における収蔵庫内環境測定値の検討	京都大学　今岡知晃、小椋大輔、学芸部博物館科学課長　木川りか、東京国立博物館　和田浩、文化財保存活用センター　吉田直人、東京文化財研究所　建石徹、秋山純子、佐藤嘉則、京都大学　藤井義久、東京文化財研究所　北原博幸、文化庁文化財部　森井順之、京都大学　伊庭千恵美、高取伸光、石川和輝	9月10日～11日	日本文化財科学会第39回大会
5	同上	”Black Spots”の正体は何か？－還元性硫黄化合物が展示時の銅製遺物の劣化に及ぼす影響	奈良文化財研究所　柳田明進、脇谷草一郎、学芸部博物館科学課長　木川りか、東京文化財研究所　佐藤嘉則、学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史、副館長　小泉惠英、松浦市教育委員会　内野義、安木由美、奈良文化財研究所副所長　高妻洋成	9月10日～11日	日本文化財科学会第39回大会
6	同上	国宝「初音の調度」のうち刀掛、寄り掛り、掛硯箱（胡蝶蒔絵）の木地構造および制作技法のX線CT調査	学芸部博物館科学課研究員渡辺祐基、学芸部企画課特別展室長　川畑憲子、徳川美術館　板谷寿美、吉川美穂、学芸部博物館科学課研究補佐員田中麻美、同課長　木川りか	9月10日～11日	日本文化財科学会第39回大会
7	同上	美術品、動産文化財の調査とレスキュー	学芸部博物館科学課長木川りか、同上主任研究員　鷲頭桂	10月29日	鹿児島県建築士会主催ヘリテージマネージャースキルアップ講習会講師、鹿児島市国際交流センター
8	同上	美術工芸品をはじめとする動産文化財の調査とレスキュー	学芸部博物館科学課長木川りか、同上主任研究員　鷲頭桂	5年1月21日	福岡県建築士会主催ヘリテージマネージャースキルアップ講習会講師、福岡八重洲ビル

9	同上	博物館の環境管理	学芸部博物館科学課長 木川りか	11月24日	放送大学、九州国立博物館
10	同上	首里城跡出土の勾玉と玉材片の材質と技法について	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	6月18日～19日	文化財保存修復学会第44回大会〈ポスター発表〉
11	同上	弥生時代から古墳時代の赤色顔料	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	9月8日	別府市湯けむり歴史講座講師、別府市公会堂
12	同上	赤色顔料の分析内容と九州での使用状況について	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	9月25日	田川市石炭・歴史博物館講座「田川ゼミナール」講師、田川市民会館
13	同上	弥生時代から古墳時代の赤色顔料	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	10月23日	令和４年度神戸市埋蔵文化財センター秋季企画展『元素でたどる考古学』講演会講師、神戸市埋蔵文化財センター
14	同上	初音蒔絵婚礼調度・書棚のX線CT調査について	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	12月5日	漆工修理技術者研修会（試行第一回）
15	同上	染織品に対する赤外線画像の有効性の検討	東京文化財研究所　秋山純子、学芸部企画課研究員　桑原有寿子、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　和泉田絢子	9月10日～11日	日本文化財科学会第39回大会（ポスター発表）
16	同上	九州国立博物館　特集展示「御所の器―公家山科家伝来の古伊万里」について	学芸部企画課研究員　酒井田千明	10月30日	東洋陶磁学会第二回研究会（オンライン開催）
17	同上	近世の日本と欧州の上層階級の器―肥前磁器の様相について―	学芸部企画課研究員　酒井田千明	12月17日	比較文明学会九州支部研究会
18	同上	講評	学芸部企画課長　伊藤信二	12月9日	第46回福岡県伝統的工芸品表彰式
19	同上	日本近世の帝鑑図―狩野派と雲谷派	博物館科学課　主任研究員　鷲頭桂	5年3月18日	東亞儒教藝術研究學術工作坊、台湾・中央研究院

【東京文化財研究所】　78件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　20件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　15件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	日本東洋美術史の資料学的研究	早稲田大学會津八一記念博物館所蔵「べしみ」面に関する一考察	文化財情報資料部研究補佐員　大谷優紀	4月27日	文化財情報資料部研究会
2	同上	『兼見卿記』にみる絵師・扇屋宗玖について	日本東洋美術史研究室長 小野真由美	4月27日	文化財情報資料部研究会
3	同上	螺鈿の位相―理智院蔵秀吉像厨子から見る高台寺蒔絵と南蛮漆器の関係―	文化財情報資料部特任研究員　小林公治	7月25日	文化財情報資料部研究会
4	同上	遊楽図のまなざし―徳川美術館蔵・相応寺屏風を中心に	文化財情報資料部長 江村知子	11月8日	第56回オープンレクチャー
5	同上	日本美術に関する資料学的研究―とくに16世紀公家日記にみる絵画関連記事について―	日本東洋美術史研究室長 小野真由美	12月6日	東京文化財研究所総合研究会
6	同上	漆工専門家 三木栄のタイでの活動ー同時代の資料を中心にー	文化財情報研究室長 二神葉子	3月2日	文化財情報資料部研究会
7	日本の近・現代美術に関する調査研究・情報整備・資料収集	岸田劉生の静物画―「見る」ことの主題化	近・現代視覚芸術研究室研究員　吉田暁子	11月8日	第56回オープンレクチャー
8	同上	中井宗太郎「国展を顧みて」を読む	文化財情報資料部上席研究員　塩谷純	12月23日	文化財情報資料部研究会
9	同上	「虚空間状況探知センターから「世界蜂起」へ：松澤宥アーカイブからみる1970年代の表現共同体の構築の試み」	文化財アーカイブズ研究室長　橘川英規	3月15日	文化財情報資料部研究会
10	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	桑山玉洲と岩瀬広隆の絵具・絵画作品の材料調査	副所長　早川泰弘	9月15日	文化財情報資料部研究会
11	同上	彩色材料分析から浮かび上がる桑山玉洲の絵画制作	文化財情報資料部広領域研究室長　安永拓世	9月15日	文化財情報資料部研究会
12	同上	彩色材料分析から浮かび上がる岩瀬広隆の絵画制作	共立女子大学文芸学部 准教授　近藤壮	9月15日	文化財情報資料部研究会
13	同上	呉春筆「白梅図屏風」と絵画の特殊な基底材（「芭蕉布・葛布・絹の繊維の同定」）	文化財情報資料部広領域研究室長　安永拓世	10月19日	2022年度 第1回 文化ファッション研究機構講演会
14	同上	菩薩像における条帛の着用・非着用の問題について―薬師寺金堂薬師三尊像に関する考察の手がかりとして―	文化財情報資料部アソシエイトフェロー 黒﨑夏央	11月28日	文化財情報資料部研究会
15	同上	徳川頼宣の「初陣具足」と「江雪左文字」―家康が託した思いとともに―	文化財情報資料部広領域研究室長　安永拓世	2月5日	ふくやま美術館　特別展「名刀 江雪左文字―江雪斎、家康、頼宣が愛した刀の物語―」記念講演会

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等	儀礼文化としての生活文化	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	5月8日	儀礼文化学会
2	重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等	東京文化財研究所における染織技術の記録	無形文化遺産部無形文化財研究室主任研究員 菊池理予	6月25日	丸紅ギャラリー開館記念展II「講演会「『美』の継承―きもの文化を未来に繋ぐ」
3	同上	工芸技術を支える人々	無形文化遺産部無形文化財研究室主任研究員 菊池理予	8月21日	全国・いしかわの工芸講演会（国立工芸館）
4	同上	芭蕉布・葛布・絹の繊維の同定	無形文化遺産部無形文化財研究室主任研究員 菊池理予	10月19日	2022年度第1回文化ファッション研究機構 講演会
5	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等	気候変動と伝統的知識：オセアニアの事例から	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智	11月18日	文化遺産国際協力コンソーシアム令和4年度シンポジウム「気候変動と文化遺産―いま、何が起きているのか―」

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　36件

○文化財の調査手法に関する調査研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財の記録作成の意義	文化財情報研究室長 二神葉子	6月2日	研修会「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」
2	同上	文化財写真撮影の基本	文化財情報資料室 専門職員　城野誠治	6月2日	研修会「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　34件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	竹材のフラスから加害種を特定する分子生物学的手法の検討	文化財防災センターアソシエイトフェロー　小峰幸夫、生物科学研究室長佐藤嘉則、生物科学研究室アソシエイトフェロー島田潤　他	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
2	同上	アフリカヒラタキクイムシを用いた高温処理（48℃及び50℃）の繰り返しによる効果判定の実験	文化財防災センターアソシエイトフェロー　小峰幸夫、生物科学研究室長佐藤嘉則　他	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
3	同上	新種のシミの報告	生物科学研究室アソシエイトフェロー　島田潤、生物科学研究室長　佐藤嘉則　他	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
4	同上	ATP測定法による保存環境の清浄度評価に向けた試み	生物科学研究室研究補佐員　岡部迪子、生物科学研究室長　佐藤嘉則	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
5	同上	博物館内における遺構生物劣化と保存対策に関する検討―遺構展示室における微生物調査―	生物科学研究室アソシエイトフェロー・島田潤、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
6	文化財の保存環境にかかる調査研究	放射光X線CTを用いた焼成レンガにおける硫酸ナトリウム塩の析出性状の定量化と飽和透水係数に対する影響	修復技術研究室　研究員 水谷悦子他2名	9月11日	2022年度日本建築学会大会（北海道）
7	同上	多孔質材料中の硫酸ナトリウムの塩析出の定量評価と飽和透水係数の推定におけるCTの利用可能性	修復技術研究室研究員 水谷悦子他2名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
8	同上	歴史的煉瓦造建築物の塩類風化対策に関する研究 塩を含む材料中の含水率、塩濃度の測定方法と電気的脱塩方法に関する基礎的検討	修復技術研究室研究員 水谷悦子他3名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
9	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	文化財の2次元的な分光分析を行うためのハイパースペクトルカメラの性能評価	分析科学研究室アソシエイトトフェロー　紀芝蓮、分析科学研究室長　犬塚将英	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
10	同上	秋田蘭画に関連する画材資料の分析調査	分析科学研究室アソシエイトトフェロー　紀芝蓮、分析科学研究室長　犬塚将英他1名	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
11	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	天草市・祇園橋附石造記念碑の劣化と保存	修復計画研究室長 朽津信明、研究補佐員　白石明香	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
12	同上	富岡市・オオツノシカの化石骨出土記念碑について	修復計画研究室長 朽津信明、研究補佐員　白石明香	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
13	同上	福島県沖地震に伴う薬師堂石仏の劣化とその評価	修復計画研究室長 朽津信明、研究補佐員　白石明香、廣瀬浩司	10月13日～14日	日本応用地質学会2022年度研究発表会
14	文化財修復と伝統技法に関する調査研究	Identification of Sliced Shellfish Films	修復材料研究室　研究員 倉島玲央　他	9月5日～9日	IIC 2022 Wellington Congress
15	同上	環境要因が与える桐油彩色への影響	修復材料研究室　研究員 倉島玲央　他	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
16	同上	文化財修復に使用されるフノリの精製効果に関する評価	修復材料研究室長 早川典子　他	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
17	同上	和紙資料の緑青焼けに対する多層裏打紙の効果	同上	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
18	同上	フノリと膠を使用した鉄媒染染織品の処置方法の検討	同上	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
19	同上	Experimental Treatment for Black Dyed Textiles Using Japanese Traditional Adhesives Funori and Nikawa	同上	9月5日～9日	IIC 2022 Wellington Congress
20	同上	Influence of Silk Production Methods on East Asian Painting Expressionand Conservation: Fiber Shape and Durability	同上	9月5日～9日	IIC 2022 Wellington Congress
21	同上	The Relationship Between Traditional Painting Materials and Techniques in Japan from a Scientific Perspective	同上	5月6日	Symposium of “Conservation Thinking in Japan and India”
22	同上	日本画掛軸モデル試料における肌裏紙の打ち直し後の劣化挙動	客員研究員　稲葉政満　他	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
23	同上	墨材料としての煤の性状	客員研究員　宇高健太郎	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
24	同上	墨の構造と機能について	客員研究員　宇高健太郎	6月4日	膠文化研究会第14回公開研究会
25	同上	古梅園の歴史と伝統を守り続ける墨づくり（代理講演）	客員研究員　宇高健太郎	6月4日	膠文化研究会第14回公開研究会
26	同上	Science, Production, and Applications of Animal Glue (*Nikawa*): Painting, Inkstick (*Sumi*), and Conservation	客員研究員　宇高健太郎	10月18日	ハーバード大学 講演
27	同上	Production of Classical Deer Antler Animal Glue	客員研究員　宇高健太郎	10月19日	ボストン美術館 講演及びワークショップ
28	同上	Materials, Techniques, and Construction of Japanese Painting	客員研究員　宇高健太郎	10月19日	ボストン美術館 講演及びワークショップ
29	同上	膠 玄（くろ）と色 -古梅園所蔵の古墨と書籍資料-（企画展示及び解説）	客員研究員　宇高健太郎　他	6月5日	東京藝術大学大学美術館
30	同上	宇高健太郎、古典絵画における墨の研究付論:伊藤若冲紙本墨画作品の復元模写による検証（展示及び解説）	客員研究員　宇高健太郎	6月4日	第5回 公益財団法人芳泉文化財団 文化財保存学日本画・彫刻研究発表展 於 東京藝術大学大学美術館
31	同上	紙文化財補修用材料としての高機能化楮繊維の調製方法の検討	客員研究員　稲葉政満　他	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
32	多様な文化財の修復技術に関する調査研究	Study on the Environmental Control and Material Condition for the Use of Closed schools as a Cultural Property Storage Room	修復技術研究室　研究員 芳賀　文絵　他	11月11日～12日	第56回　韓国文化財保存科学会
33	同上	Disaster Drill for Removing Museum Materials under the Assumrtion of Flooding	修復技術研究室　研究員 千葉毅　他	11月11日～12日	第56回　韓国文化財保存科学会
34	同上	Current status of the Cultural Heritage Disaster Risk Management Center establishment and activities in Japan	修復技術研究室長 建石徹　他	11月11日～12日	第56回　韓国文化財保存科学会

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　10件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　10件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	Amendment of the ICOM Statutes	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 邱君妮	8月21日	ICOM 26th General Conference
2	同上	日本における木造建造物を守る制度 日本の文化遺産の保存と活用	文化遺産国際協力センター国際情報研究室長 金井健	9月8日 9月22日	ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保存協力事務所　文化遺産の保護に資する研修2022
3	同上	Action on Priorities for Capacity Building of Heritage Management: in the case of Japan	文化遺産国際協力センター国際情報研究室長 金井健	9月21日	ICCROM・IUCN World Heritage Leadership Forum 2022

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	Amendment of the ICOM Statutes	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 邱君妮	8月21日	ICOM 26th General Conference
2	同上	日本における木造建造物を守る制度 日本の文化遺産の保存と活用	文化遺産国際協力センター 国際情報研究室長 金井健	9月8日 9月22日	ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保存協力事務所　文化遺産の保護に資する研修2022
4	同上	景観としての世界遺産：範囲設定とその根拠法	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 松浦一之介	12月26日	令和4年度世界遺産研究協議会
5	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力における博物館の役割について	文化遺産国際協力センター長　友田正彦	5月22日	国際博物館の日記念2022シンポジウム「博物館の力：わたしたちを取り巻く世界を変革するもの」
6	同上	International Cooperation between Japan and Vietnam for the Conservation of Thang Long Imperial Citadel Site	文化遺産国際協力センター長　友田正彦	9月9日	INTERNATIONAL CONFERENCE “20 years of research, conservation and promotion of the values of Thang Long - Ha Noi Imperial Citadel Heritage Site”
7	同上	The history of Japanese expeditions to Bahrain	アソシエイトフェロー 山田綾乃	12月11日	International Symposium “Archaeology and International Cooperation: Japanese Contribution to Bahrain Archaeology and Cultural Heritage”
8	同上	ネパール2015年ゴルカ地震後の復興　歴史的建造物修理の体制と手法について	アソシエイトフェロー 淺田なつみ	5年1月10日	東京文化財研究所令和4年度第3回総合研究会
9	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	明治時代の洋風建築にみられるスタッコ装飾の保存	文化遺産国際協力センター主任研究員　前川他	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
10	同上	ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院の保存修復効果	文化遺産国際協力センター主任研究員　前川他	9月10日～11日	日本文化財科学会第39回大会

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　12件

○文化財情報基盤の整備・充実　6件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	写真の整理、及びデータベースとしての目録の作成について	文化財情報研究室長 二神葉子	6月2日	研修会「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」
2	同上	東京文化財研究所所蔵伊藤延男資料の概要とその特徴	文化遺産国際協力センター国際情報研究室長　金井健	9月7日	日本建築学会大会学術講演会
3	同上	鎌倉芳太郎の遺したもの	専門職員　城野誠治	10月29日	「1972年開催「50年前の沖縄展」と鎌倉芳太郎写真の今」展記念講演会
4	文化財情報基盤の整備・充実	総合検索のリニューアルについて	主任研究員　小山田智寛	6月28日	文化財情報資料部研究会
5	同上	写真・映像資料の記録と活用	文化財情報研究室長 二神葉子	12月7日	令和４年度 青森県立郷土館博物館の仕事普及啓発事業 講演会
6	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	年史編纂資料の研究活用に向けた記述編成-東文研史資料を例に	研究補佐員　田村彩子	5年1月31日	文化財情報資料部研究会

○調査研究成果の発信　6件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報基盤の整備・充実	記録作成と情報発信	文化財情報研究室長 二神葉子	9月2日	文化財の記録作成に関するセミナー「記録作成と情報発信・画像圧縮の利用」
2	調査研究成果の発信	文化間の対話を促進する博物館の可能性―台湾の博物館事業を中心に	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 邱君妮	6月25日	全日本博物館学会第48回研究大会
3	同上	文化的権利の保障・保証を実践する場としてのミュージアム ―台湾の「文化平権」概念から考える―	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 邱君妮	7月3日	公益財団法人東京都歴史文化財団 だれもが文化でつながる国際会議2022
4	同上	Representing Silkroad as inclusive and shared cultural heritage: focusing on Maritime Silk Route	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 前田康記、藤井郁乃	12月2日	Architecture Media Politics Society : REPRESENTING PASTS - VISIONING FUTURES
5	同上	市民と協働する博物館の可能性－木博館の街角館の事例から	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 邱君妮	12月17日	国立民族学博物館国際シンポジウム　地域文化と博物館
6	同上	霧島ジオパークにおける重層的な地域資源の利活用に関する研究	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 藤井郁乃	5年3月18日	令和４年度 霧島ジオパーク学術研究支援補助金 研究成果発表会

【奈良文化財研究所】　89件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　27件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　0件

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　27件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡等整備)	平城宮跡の史跡指定	文化遺産部長　内田和伸	6月25日	平城宮跡史跡指定百年・奈良文化財研究所創立70周年記念シンポジウム
2	同上	平城宮跡の史跡指定百年	文化遺産部長　内田和伸	12月10日	平城京歴史講座
3	同上	史跡保護制度の誕生と平城宮跡の史跡指定	文化遺産部長　内田和伸	5年3月11日	佐保川歴史講座　佐保川自治連合会
4	我が国の記念物に関する調査研究(庭園)	文化財庭園の特質とその継承	文化遺産部主任研究員　高橋知奈津	8月13日	山形県文化財保護協会
5	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	高松塚古墳とキトラ古墳－壁画古墳はなぜ築かれたか－	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	7月1日	京都アスニーセミナー令和４年７月講座
6	同上	キトラ天文図を描く～描き間違いは故意か過失か～	都城発掘調査部主任研究員　若杉智宏	10月16日	四神の館「飛鳥星まつりギャラリートーク」
7	同上	石室解体事業と発掘調査－国宝壁画の救出－	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	10月22日	奈良文化財研究所第14回東京講演会
8	同上	キトラ古墳と世界最古の天文図	都城発掘調査部主任研究員　若杉智宏	10月23日	くろまろ塾本部講座「古墳・壁画で見る古代」
9	同上	いつの星、どこの空～キトラ天文図に描かれた星空～	都城発掘調査部主任研究員　若杉智宏	12月23日	四神の館「キトラ古墳壁画天文図解説映像公開イベント」
10	同上	高松塚古墳と東アジアの交流－調査研究の最前線から－	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	5年1月29日	ACCU文化遺産セミナー2022
11	同上	畿内終末期古墳と高松塚	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	5年2月4日	歴史と文化を学ぶ会
12	同上	藤原宮大極殿院の調査	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　岩永玲	5年3月1日	条里制・古代都市研究会
13	中国・韓国との共同研究	７～８世紀前半期日本出土唐代瓷器	客員研究員　巽淳一郎	8月28日	唐三彩学術研討会
14	同上	日中出土三彩の比較および唐三彩の設計と製作技術を考える	都城発掘調査部考古第二研究室長　神野恵	8月28日	唐三彩学術研討会
15	同上	奈良三彩の若干の問題について	都城発掘調査部主任研究員　丹羽崇史	8月28日	唐三彩学術研討会
16	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	日本における文化的景観保護の特質	文化遺産部主任研究員　惠谷浩子	12月26日	令和4年度世界遺産研究協議会
17	同上	宇治茶の生まれた土地―文化的景観の調査から	文化遺産部主任研究員　惠谷浩子	6月4日	日本民俗建築学会 第49回大会
18	同上	営みに根差した庭、その連なり	文化遺産部主任研究員　惠谷浩子	7月23日	庭園アーカイヴ・プロジェクト研究会
19	同上	風土と暮らしの関わり方	文化遺産部主任研究員 惠谷浩子	12月17日	能登里山里海SDGs マイスタープログラム
20	同上	伊奈冨神社の七島池の植生と景観	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	10月2日	伊奈冨神社庭園島岸修復工事終了記念シンポジウム
21	同上	高松塚古墳の仮整備と公開活用	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	10月22日	奈良文化財研究所第14回東京講演会
22	同上	琵琶湖疏水で結ばれた別邸群の庭	文化遺産部主任研究員　惠谷浩子	5年2月4日	日本イコモス研究会
23	同上	近代日本のスギ主産地と文化的景観	文化遺産部主任研究員　惠谷浩子	5年3月9日	文化的景観研究会（第2回）
24	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	古代集落の構造把握にむけた中間まとめ	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　道上祥武	12月16日	第26回　古代官衙・集落研究会
25	古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行	平城宮の瓦	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　岩永玲	5年2月4日	第22回　シンポジウム「奈良末～平安初期の軒瓦」
26	同上	西大寺・薬師寺・法隆寺の瓦	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　田中龍一	5年2月4日	第22回　シンポジウム「奈良末～平安初期の軒瓦」
27	水中文化遺産に関する調査研究	“Black Spots”の正体は何か？ −還元性硫黄化合物が展示時の銅製遺物の劣化に及ぼす影響	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、同室長・脇谷草一郎、副所長・髙妻洋成ほか6名	9月10日	日本文化財科学会第39回大会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　37件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　9件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	年輪年代学研究	曲物の年輪年代測定からみた平城宮・京跡出土遺構の数値年代－土器の年代観との対応関係－	年代学研究室長　星野安治	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
2	同上	古都奈良の植生と木材利用：趣旨説明	年代学研究室長　星野安治	10月1日	第37回日本植生史学会･日本花粉学会第63回大会合同大会公開シンポジウム「奈良の森と花粉と人のいま・むかし」
3	動植物遺存体の分析方法の研究開発	復興事業に伴う貝塚調査と縄文前・中期の動物資源利用	環境考古学研究室客員研究員　松崎哲也	5月14日	2022年度宮城県考古学会研究発表会『新たにわかった！宮城の縄文時代』
4	同上	愛知県保美貝塚の動物利用	環境考古学研究室長　山崎健	6月25日	日本動物考古学会第9回大会
5	同上	朝日遺跡とシカ	環境考古学研究室長　山崎健	8月6日	弥生人といきもの2022シカをねらえ！講演会
6	同上	遺跡の花粉分析データからみた奈良盆地の植生と木材利用の関わり	環境考古学研究室客員研究員　上中央子	10月1日	第37回日本植生史学会大会・日本花粉学会第63回大会合同大会公開シンポジウム『奈良の森と花粉と人のいま・むかし』
7	同上	動植物遺体の展示活用－奈良文化財研究所・環境考古学研究室の実践事例－	環境考古学研究室長　山崎健・環境考古学研究室客員研究員　上中央子	10月1日	第37回日本植生史学会大会・日本花粉学会第63回大会合同大会公開シンポジウム『奈良の森と花粉と人のいま・むかし』
8	同上	展示活用に関する議論の試み	環境考古学研究室長　山崎健	11月27日	近江貝塚研究会第348回例会
9	同上	遺跡出土の骨からみたカツオ	環境考古学研究室長　山崎健	5年2月24日	シンポジウム　カツオの古代学

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　28件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	トレハロース処理法の寸法安定性に関する考察１　- 接触角から推定される結晶形態による検討 -	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・松田和貴、同研究員・柳田明進、都城発掘調査部主任研究員・田村朋美、副所長・高妻洋成ほか4名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
2	同上	溶媒蒸発速度の制御による水浸出土木製遺物の保存処理における薬剤含浸の効率化（その３）	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・松田和貴、同室長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
3	同上	出土銅製品に施された漆塗膜の剥離メカニズムの検討（その１）―カールした塗膜とその金属下地の状態把握―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー・楊曼寧、同研究員・柳田明進、同室長・脇谷草一郎ほか1名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
4	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	Basic study on deterioration mechanism of wetting-drying cycles by comparing deterioration state and preservation environment of stone cultural properties	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか1名	6月12日	4th International Symposium on Architectural Heritage Conservation Technology
5	同上	歴史的煉瓦造建築物の塩類風化対策に関する研究 ―塩を含む材料中の含水率、塩濃度の測定方法と電気的脱塩方法に関する基礎的検討―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか2名	6月25日	日本建築学会近畿支部研究発表会
6	同上	文化財資料の変形・損傷予測に基づいた保存環境の制御方法の検討 ―法隆寺金堂飛天壁画の下地材料を対象とした湿潤時のひずみの測定	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか3名	6月25日	日本建築学会近畿支部研究発表会
7	同上	特別名勝一乗谷朝倉氏庭園の景石保存に関する研究 ―周辺環境が景石の劣化におよぼす影響―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、副所長・高妻洋成ほか4名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
8	同上	博物館内における遺構の展示手法と周辺環境の最適化に関する研究 ―遺構展示室内の環境調査と遺構の埋戻し方法の検討―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、副所長・高妻洋成ほか4名	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
9	同上	史跡名勝瑞泉寺庭園における庭石の風化状況に関する調査	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長･脇谷草一郎、同研究員･柳田明進、副所長・高妻洋成ほか1名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
10	同上	同一石材で造られた石棺の劣化状態および保存環境の比較による乾湿繰り返しによる石材劣化メカニズムの検討	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか1名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
11	同上	蛍光X線を用いた多孔質材料表面近傍の塩濃度分析手法の検討	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎 同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか2名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
12	同上	法隆寺金堂飛天壁画の模擬下地材料を対象とした湿潤・乾燥時のひずみの測定	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎 同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか3名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
13	同上	全天空写真による日射が石造文化財に及ぼす影響の推定	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか2名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
14	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	ガラス製品の同位体比分析	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	4月2日	キンカ京都科学者クラブ第382回例会
15	同上	COMPOSITIONAL AND ISOTOPIC INVESTIGATION OF PLANT-ASH GLASS BEADS IN JAPAN	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか1名	4月30日	14th International Conference on Thai Studies
16	同上	喜界島のガラス―城久遺跡群出土のガラス玉―	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	6月11日	日本ガラス工芸学会　第60回　オンライン研究会
17	同上	Glass beads trade of Xiongnu and Xianbei	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	6月30日	The 9th Worldwide Conference of the SEAA in Daegu, Korea
18	同上	ブハラオアシス出土のガラス製遺物のSr同位体比分析	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか6名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
19	同上	ウズベキスタン・ブハラオアシス内遺跡から出土した初期イスラームガラスの化学分析	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか6名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
20	同上	猪ノ鼻(1)遺跡出土玉類等のXRF、ESR、XRDによる非破壊分析	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか2名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
21	同上	Archaeological glass investigations	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	9月27日	2022年 Be Archaeo 第2回サマースクール
22	同上	Scientific Analysis on the Myanmar Glazed Ceramics	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか2名	11月9日	22nd Congress of the INDO-PACIFIC PREHISTORY ASSOCIATION
23	同上	ガラスのいま―科学分析でわかる古代ガラスの産地と流通―	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	12月1日	第26回保存科学クラブ
24	同上	Archaeometrical Study on the Ancient Sandwich Glass Beads Found in Japan	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	12月8日	International Year of Glass 2022 (IYOG2022) Closing Conference
25	同上	古代ガラスの色と技術	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	5年3月4日	早川泰弘東京文化財研究所副所長・高妻洋成奈良文化財研究所副所長退任記念シンポジウム「分析化学の発展がもたらした文化財の新しい世界-色といろいろ-」
26	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	高松塚古墳から出土した棺金具の付着物質に関する分析	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員・中田愛乃、都城発掘調査部主任研究員・田村朋美、保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第一研究室長・ 廣瀬覚, 飛鳥資料館学芸室長・石橋茂登ほか5名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
27	同上	ガランドヤ２号墳における緑色生物に関する報告	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー・松野美由樹、同保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか1名	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
28	同上	屋外文化財の保存ー環境調整による遺跡現地保存法の考察ー	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎	7月3日	2022年度龍谷大学文化遺産学研究会講演会

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　14件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　14件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進	Archaeological practice and management in Japan - with a focus on field and laboratory collaborations	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	6月14日	Workshop ChemArch - Nice
2	同上	Beyond Fish Soup: Wider Application of Biomolecular Archaeology in Ancient Japanese Culinary Practices	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	6月17日	トリノ大学招待講演
3	同上	Intensification of starchy food cooking? Biomolecular and isotopic	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	7月3日	NINTH WORLDWIDE CONFERENCE OF THE SOCIETY FOR EAST ASIAN

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
		evidence from Majiabang culture pottery, Neolithic China			ARCHAEOLOGY
4	同上	Detecting cultural boundaries during the Jomon	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	7月3日	NINTH WORLDWIDE CONFERENCE OF THE SOCIETY FOR EAST ASIAN ARCHAEOLOGY
5	同上	New Evidence of Millet Consumption in the Early Iron Age of Kazakhstan by Pottery Lipid Residue Analysis	企画調整部国際遺跡研究室 アソシエイトフェロー 村上夏希	7月3日	NINTH WORLDWIDE CONFERENCE OF THE SOCIETY FOR EAST ASIAN ARCHAEOLOGY
6	同上	石神遺跡出土土器の残存有機物に対する試験的分析	企画調整部国際遺跡研究室 アソシエイトフェロー 村上夏希	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
7	同上	ガスクロマトグラフィーを用いて食の過去を探る：近年の成果から	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	9月16日	日本分析科学会
8	同上	Organic Residue Analysis of Pottery: Principles and Applications in Central Asia	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	9月20日	9th International Archaeological School (IAS)
9	同上	カザフスタン南東部の青銅器時代土器を対象としたレプリカ法調査	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	10月2日	第37回日本植生史学会大会
10	同上	Reconstructing the Nomad Cuisine: Organic Residue Analysis of Early Iron Age Pottery in Kazakhstan	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	10月12日	5th International Congress of Archaeology of the Eurasian Steppes
11	同上	アンコール西トップ遺跡の研究・復元プロジェクトの最新成果	企画調整部国際遺跡研究室 主任専門職　佐藤由似	10月28日	2022 Asian Archaeology 国際学術シンポジウム
12	同上	Why aquatic oils in the Jōmon? Comparing lipid residues between pottery and furnace stones and from examination of isotopic mixing curves	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	11月8日	Early Pottery in the North: New Perspectives
13	同上	Visualizing the “invisible rice” in biomolecular archeology	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	11月26日	Exploring future avenues in Pan Asian rice domestication and agriculture studies
14	同上	日本の文化遺産調査および活用におけるデジタル技術	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	11月26日	4段階BK21文化遺産スマート技術融合教育研究チーム「文化遺産のデジタル活用」

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　11件

○文化財情報基盤の整備・充実　11件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関するデータベースの充実	文化財情報プラットフォームとしての全国遺跡報告総覧－デジタルアーカイブ・リファレンスツール・学術情報の流通－	企画調整部主任研究員 高田祐一	4月23日	日本図書館研究会第375回研究例会
2	同上	Integrating the Japanese Archaeological Dataset into the ARIADNEplus Data Infrastructure	企画調整部主任研究員高田祐一、企画調整部アソシエイトフェロー Peter Yanase Franco Niccolucci	7月28日	Digital Humanities 2022
3	同上	時空間情報とシソーラスで接続する文化財データベース	企画調整部主任研究員高田祐一	8月25日	第31回専門家招待講演北大学校人文学術院
4	同上	人文情報学時代の多言語化	企画調整部アソシエイトフェロー吴 修喆	9月12日	東京六本木ロータリークラブ例会
5	同上	일본 전국의 유적을 검색하다	企画調整部主任研究員高田祐一,、企画調整部アソシエイトフェロー扈 素妍	9月28日	고고학술정보 디지털 대전환 韓国文化財研究院
6	同上	Following the Thread: Integrating SORAN’s Dataset Into ARIADNEplus	企画調整部主任研究員高田祐一、企画調整部アソシエイトフェロー Peter Yanase	11月11日	27th Conference on Cultural Heritage and New Technologies (CHNT)
7	同上	How to Avoid Becoming Use(r)less: Tips on Ensuring the Longevity of Your Database	企画調整部主任研究員高田祐一、企画調整部アソシエイトフェロー Peter Yanase	5年2月23日	ICCROM Lecture Series: Information Data Management and Cultural Heritage
8	同上	文化財多言語化政策の沿革	企画調整部アソシエイトフェローPeter Yanase	5年3月10日	令和4年度文化財担当者特別研修「文化財多言語化課程」
9	同上	文化財多言語化事業における現状の問題点	企画調整部アソシエイトフェロー扈 素妍	5年3月10日	令和4年度文化財担当者特別研修「文化財多言語化課程」
10	同上	文化財多言語化担当者の役割	企画調整部アソシエイトフェロー吴 修喆	5年3月10日	令和4年度文化財担当者特別研修「文化財多言語化課程」
11	同上	文化財報告書データベースにおけるテキスト可視化と地理情報	企画調整部主任研究員高田祐一、企画調整部アソシエイトフェロー Peter Yanase、武内 樹治	5年3月16日	言語処理学会第29回年次大会

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	無形文化遺産保護と研究の役割 IRCIの調査研究事業を中心に	研究担当室長　野嶋洋子	7月11日	日本学術会議地域研究委員会文化人類学分科会
2	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	インドネシア ジャワ島の伝統芸能と人々の暮らし―無形文化遺産の伝承を考える-	アソシエイトフェロー 岡部政美	8月28日	第34回無形文化遺産理解セミナー

c-④ シンポジウム開催実績一覧

令和5年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
21件	7件	0件	2件	0件	5件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	9件	8件		1件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	1件	0件		4件	

【本部文化財活用センター】　0件

【本部文化財防災センター】　4件

○令和4年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「気候変動と文化遺産－いま、何が起きているのか－」

開 催 日　10月23日
開催場所　東京大学弥生講堂一条ホール／オンライン
主　　催　文化遺産国際協力コンソーシアム、文化財防災センター、文化庁
参加者数　会場 64人、オンライン 140人
事業内容　気候変動が有形無形の文化遺産に与える影響を正しく理解するための情報を共有するとともに、この分野での今後の国際協力の方向性や課題を議論する国際シンポジウムを開催した。

○国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題(Ⅱ)　―災害後の復旧・復興の事例と課題―」

開 催 日　資料配信：12月14日～22日、シンポジウム：12月21日～22日
開催場所　奈良県コンベンションセンター／オンライン
共　　催　文化庁、ICCROM、文化財防災センター、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所
参加者数　会場 14人、オンライン 198人
事業内容　アジア太平洋地域における災害時の文化財対応の事例や課題を共有し、文化財への被害を最小限にとどめるためには平常時からどのような取り組みを進めればよいかを考える機会を提供するシンポジウムを開催した。

○シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開Ⅵ―文化遺産を守り伝える新たな技術―」

開 催 日　5年2月24日
開催場所　東北大学災害科学国際研究所多目的ホール／オンライン
主　　催　東北大学災害科学国際研究所、奈良文化財研究所、文化財防災センター
参加者数　会場 10人、オンライン 40人
事業内容　東北大学災害科学国際研究所、奈良文化財研究所、文化財防災センターで連携研究協定を締結することで、これまでの3者の連携研究活動をさらに促進し、さらなる研究の発展を目指す協定のキックオフシンポジウムを開催した。

○シンポジウム「無形文化遺産と防災―被災の経験から考える防災・減災―」

開 催 日　5年3月7日
開催場所　東京文化財研究所地下セミナー室
主　　催　文化財防災センター
共　　催　東京文化財研究所
参加人数　87人
事業内容　国立文化財機構内におけるこれまでの取り組みを整理した上で、災害による被害を経験した無形文化遺産の事例を参照し、今後、どのようなかたちでこれまでの成果を発展させることができるのかを議論することを目的とし開催した。

【東京国立博物館】　0件

【京都国立博物館】　2件

○研究発表と座談会　中世天台戒家の思想と文化

開 催 日　4月29日
開催場所　京都国立博物館
主　　催　公益財団法人仏教美術研究上野記念財団・京都国立博物館
参加人数　70人
事業内容　仏教美術研究上野記念財団と当館との共催で行ったシンポジウム。特別展「最澄と天台宗のすべて」（4月12日～5月22日）に合わせて開催したものである。「戒家」とは中世天台宗において戒律復興を唱導した学僧を指し、近年とみに研究が進んでいる分野である。仏教史、美術史の学際的な研究者3名の発表、それに基づき座談会を行った。

○国際シンポジウム　アジアの博物館教育は、いま－国立博物館の事例から－

開 催 日　5年2月4日
開催場所　ハイブリット式（Zoomウェビナーの利用）／京都国立博物館
主　　催　京都国立博物館
参加人数　258人（対面及びWeb当日参加者）
事業内容　日本における博物館教育（ミュージアム・エデュケーション）は、この分野の先進国である欧米の理念や手法を積極的に取り入れて進展してきた。近年、アジア地域の博物館においても、様々な教育プログラムが積極的に行われてきたが、これまで担当者同士の交流は限られており、このシンポジウムでは、アジア地域の博物館教育の担当者が互いのバック・グラウンドと現状を開かれた場で共有し、参加者とともにこれからの博物館教育のあり方について考える機会とした。

【奈良国立博物館】　0件

【九州国立博物館】　5件

○公開シンポジウム　全国高等学校歴史学フォーラム2022

開 催 日　8月7日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　九州国立博物館
参加者数　21人(参加校関係者数)

事業内容　　高校生が、歴史学研究に関する活動内容や成果をポスターセッションにて発表。
「江戸時代の農村地帯における庚申信仰の広がりについて」、（群馬県立高崎北高等学校）、「『鉾之記』にせまる！」（九州産業大学付属九州産業高等学校 史跡探索研究部）、「ダークツーリズムとしての熊谷空襲」（埼玉県立熊谷西高等学校）、「石錘FISHING!?～弥生のおもりで魚釣り～」（福岡県立糸島高等学校 歴史部）、「『甘木絞』の魅力　～失われかけた地域文化の再生に向けて～」（福岡県立朝倉高等学校 史学部）、「九州北部の『道』の歴史推移について」（福岡県立八幡高等学校）、「栃木県におけるサメ食文化に関する一考察」（栃木県立矢板東高等学校 リベラルアーツ同好会）

○公開シンポジウム　九州国立博物館「大宰府学研究」事業・特別史跡「大野城跡」史跡指定90年記念シンポジウム
大宰府四王院- 「西の都」に築かれた鎮護国家思想の寺 -
開 催 日　9月3日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　九州国立博物館・福岡県
参加者数　105人
事業内容　大野城が置かれていた時にも既に創建され、大宰府のみならず日本列島規模においても重要な位置を占めた四王院について、その解明の光を当てるシンポジウムを開催した。

○国際シンポジウム　日米文化教育交流会議（カルコン）シンポジウム
開 催 日　10月24日
開催場所　ミュージアムホール、エントランス
主　　催　国際交流基金カルコン事務局・九州国立博物館
参加者数　105人
事業内容　日米両国の官民学からなる学識者を一堂に集めて両国間の文化・教育交流・知的交流に関する諸問題を討議し、文化・教育・知的交流分野での交流の増進と相互理解の向上について勧告を行うことを目的とするシンポジウムを開催した。

○公開シンポジウム　令和4年度IPMセミナー
開 催 日　11月15日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　九州国立博物館
共　　催　文化庁、東京文化財研究所
参加者数　132人
事業内容　「月刊文化財」10月号、「文化財の保存科学(2)－文化財の生物被害とその対策－」の内容をわかりやすく解説し、普及するセミナーを開催。
現地での講演のほか、登録者約300名には、講演概要の動画をオンラインで配信。

○公開シンポジウム　「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群特別研究事業成果報告会
開 催 日　3月12日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会
共　　催　九州国立博物館、日本イコモス国内委員会
参加者数　160人
事業内容　古代東アジアにおける航海、交流、祭祀」について、能登・対馬への現地視察および各委託研究者による研究報告を踏まえた総括検討会を行い、現時点での到達点を示すとともに、課題を整理した成果報告会を開催した。

【東京文化財研究所】　8件

○第31回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「技術から見た国際協力のかたち」
開 催 日　8月28日
開催場所　オンライン
主　　催　文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁
参加者数　88人
事業内容　文化遺産分野における新技術の導入をめぐる課題について考えるとともに、技術移転をはじめとする今後の国際協力のあり方を議論する研究会を開催した。

○国際研修「紙の保存と修復」評価セミナー2022　シンポジウム
開 催 日　9月12日
開催場所　オンライン
主　　催　東京文化財研究所、文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）
参加者数　50人
事業内容　国際研修「紙の保存と修復」の評価を行うためのセミナーを開催し、最終日を公開シンポジウムとした。

○国際シンポジウム「メソポタミアの水と人―文化遺産から暮らしを見直す」
開 催 日　10月22日
開催場所　オンライン
主　　催　東京文化財研究所、特定非営利活動法人メソポタミア考古学教育研究所
参加者数　50人
事業内容　イラクの水資源問題や古代の水利に関する調査成果などを通じ、水と人の関わりについて考える国際シンポジウムを開催した。

○令和4年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「気候変動と文化遺産－いま、何が起きているのか－」
開 催 日　10月23日
開催場所　東京大学弥生講堂一条ホール／オンライン
主　　催　文化遺産国際協力コンソーシアム、文化財防災センター、文化庁
参加者数　会場64人、オンライン140人
事業内容　気候変動が有形無形の文化遺産に与える影響を正しく理解するための情報を共有するとともに、この分野での今後の国際協力の方向性や課題を議論する国際シンポジウムを開催した。

○国際シンポジウム「考古学と国際貢献：バーレーンの文化遺産保護に対する日本の貢献」
開 催 日　12月11日
開催場所　東京文化財研究所
主　　催　東京文化財研究所、金沢大学古代文明・文化資源学研究所
参加者数　30人
事業内容　バーレーンの文化遺産と、日本を含む各国によるその調査の歴史と成果を紹介する国際シンポジウムを開催した。

○国際シンポジウム「バーレーン考古学をめぐって」
開 催 日　12月14日
開催場所　金沢大学サテライトプラザ
主　　催　金沢大学古代文明・文化資源学研究所、東京文化財研究所
参加者数　15人
事業内容　日本を含む各国によるバーレーンにおける考古調査の最新成果を紹介する国際シンポジウムを開催した。

○世界遺産研究協議会「文化財としての『景観』を問いなおす」
開 催 日　12月26日
開催場所　東京文化財研究所
主　　催　東京文化財研究所

参加者数　　48人
事業内容　　国内の世界遺産に関係する自治体担当者や研究者等とする研究会を開催した。

○第32回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「中央ヨーロッパにおける文化遺産国際協力のこれまでとこれから」
開 催 日　　1月28日
開催場所　　オンライン
主　　催　　文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁
参加者数　　95人
事業内容　　中央ヨーロッパ地域の歴史と文化における特徴を概観し、同地域での日本による文化遺産国際協力活動を振り返るとともに、今後の協力のあり方について議論する研究会を開催した。

【奈良文化財研究所】　1件

○平城宮跡史跡指定100周年・奈良文化財研究所創立70周年記念シンポジウム「平城宮跡の過去・現在・未来」
開 催 日　　6月25日
開催場所　　なら100年会館大ホール
主　　催　　奈良文化財研究所
参加者数　　328人
事業内容　　テーマ「平城宮跡の過去・現在・未来」について、4名による講演及びパネル・ディスカッションを開催した。

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

○無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究　持続可能なまちづくりと無形文化遺産　第一回 国際シンポジウム
開 催 日　　5年2月1日～2月2日
開催場所　　奈良文化財研究所、奈良国立博物館
主　　催　　アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)
参加者数　　83人（うち現地参加16名、オンライン参加67名）
事業内容　　無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究のキックオフ・イベントとして、事業で連携する機関の研究者を含め、アジア太平洋地域から有形文化遺産や景観に注目しつつ、関連する無形文化遺産について調査研究を行う研究者を招き、様々な事例を共有しながら、持続可能なまちやコミュニティを実現するために無形文化遺産が果たす様々な役割や課題について議論した。また議論のなかでは、有形・無形の文化遺産の統合的な保護の可能性についても扱い、SDGsという文脈においてどのように議論を深めていくことができるのか、今後2024年度にかけて事業を展開していくなかで考慮すべき様々な課題や可能性を洗い出した。また、本シンポジウムをオンライン公開で開催することを通じて、本事業について広く一般に共有するとともに、無形文化遺産保護とSDGsについて学ぶ機会を提供した。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

令和 5 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
587 件	348 件	155 件	93 件	58 件	42 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	207 件	50 件		157 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	0 件	3 件		29 件	

【本部文化財活用センター】　3件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　0 件

〇その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	本部文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	文化財活用センターによる保存環境に関する相談対応について	「文化財の虫菌害」No.83　令和 4 年 6 月号	（公財）文化財虫菌害研究所	6月26日	無
2	同上	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人	文化財をまもり、いかすー文化財活用センター保存担当の来し方行く末ー	文化財をしらべる・まもる・いかすー国立文化財機構 保存・修復の最前線ー	アグネ技術センター	12月31日	無
3	同上	本部文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	博物館・美術館の保存環境を整えるー文化財活用センターの協力事業ー	文化財をしらべる・まもる・いかすー国立文化財機構 保存・修復の最前線ー	アグネ技術センター	12月31日	無

【本部文化財防災センター】　29件

〇文化財防災に関する調査研究　　29 件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財防災に関する調査研究	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、瀧川裕貴、李善姫	新型コロナ禍と民俗行事ー東北三県での調査ー	日本民俗学 310	日本民俗学会	5月20日	無
2	同上	文化財防災センター研究員　後藤知美	支援施策の変遷と民俗学のかかわり	日本民俗学 310	日本民俗学会	5月20日	有
3	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	東日本大震災から 10 年の道程ー民俗芸能の再開と再定位ー	楽劇学（29）	楽劇学会	5月31日	無
4	同上	文化財防災センター長高妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　中島志保、同客員研究員　浜田拓志、	文化財防災に関わる地域の連携体制構築	文化財保存修復学会第 44 回研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月18日	有
5	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	文化財防災センターの役割と今後の展望	文化財保存修復学会第 44 回研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月18日	無
6	同上	文化財防災センター長高妻洋成、同副センター長建石徹、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介	文化財防災センター発足後の取り組	日本文化財科学会第 39 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9月10日	有
7	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	文化財防災センターの活動状況と今後の課題	文化財の虫菌害 84	文化財虫菌害研究所	12月26日	無
8	同上	文化財防災センター長高妻洋成	文化財を災害からまもる―文化財防災における保存科学の使命―	文化財をしらべる・まもる・いかすー国立文化財機構　保存・修復の最前線ー	アグネ技術センター	12月31日	無
9	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	被災地のくらしを取り戻すために―民俗文化財防災の課題―	文化財をしらべる・まもる・いかすー国立文化財機構　保存・修復の最前線ー	アグネ技術センター	12月31日	無
10	同上	文化財防災センター研究員　中島志保	ネットワークで文化財を災害からまもる―地域防災体制の構築―	文化財をしらべる・まもる・いかすー国立文化財機構　保存・修復の最前線ー	アグネ技術センター	12月31日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
11	同上	奈良国立博物館学芸部保存修理指導室長　荒木臣紀	被災ガラス乾板を再生する―保存と活用に向けて―	文化財をしらべる・まもる・いかすー国立文化財機構　保存・修復の最前線ー	アグネ技術センター	12月31日	無
12	同上	文化財防災センター長　髙妻洋成	文化財防災スパイラル	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
13	同上	文化財防災センター長　髙妻洋成	救うのは「お宝」か―地域の文化財の救援―	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
14	同上	文化財防災センター副センター長　建石徹	文化財レスキューとその活動	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
15	同上	文化財防災センター副センター長　建石徹	大災害時代の文化財防災	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
16	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	大災害の現場から―東日本大震災をケーススタディに―	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
17	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	文化財がつなぐ地域のくらし	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
18	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	総がかりでまもる文化財	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
19	同上	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	被災書画の救援	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
20	同上	文化財防災センター研究員　黄川田翔	災害発生時における情報収集と伝達	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
21	同上	文化財防災センター研究員　水谷悦子	必ず必要になる一時保管場所	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
22	同上	文化財防災センターアソシエイトフェロー　小峰幸夫	後回しのツケは大きいムシとカビ	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
23	同上	文化財防災センター研究員　中島志保	まずはひとありき―現場に求められる人材とその育成―	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
24	同上	文化財防災センター研究員　後藤知美	活躍が期待される文化財専門職員	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
25	同上	文化財防災センター研究員　上椙英之	命を守る文化財―自然災害伝承碑―	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
26	同上	文化財防災センターアソシエイトフェロー　中屋菜緒	博物館における災害への備えー火災と地震から文化財をまもるー	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
27	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	用具を通して伝える無形文化遺産の被災とその意味	東北宗教学（特集号）	東北大学大学院文学研究科宗教学研究室	5年3月31日	無
28	同上	文化財防災センター研究員　中島志保	文化財防災のための研修の検討	文化財論叢Ⅴ　奈良文化財研究所創立70周年記念論文集	奈良文化財研究所	5年3月31日	無
29	同上	文化財防災センター研究員　後藤知美	無形民俗文化財の災害リスクの可視化と防災 ―福岡県京都郡苅田町・等覚寺の松会の事例から―	無形文化遺産研究報告17	東京文化財研究所	5年3月31日	有

【東京国立博物館】155件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　139件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	博物館教育課長　鈴木みどり、博物館教育課ボランティア室長　金井裕子、博物館教育課ボランティア室アソシエイトフェロー永田香織、博物館教育課ボランティア室有期雇用職員　渡邉瑛子、清水美幸	「紅型ができるまで」	教育特集展示リーフレット	東京国立博物館	4月1日	無
2	同上	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	特集展示『浅草寺のみほとけ』の展示作品	浅草寺	浅草寺教化部	4月1日	無
3	同上	企画課特別展室長　猪熊兼樹	平安後期における宋画受容 ―「鳥獣戯画」乙巻を対象として―	『鳥獣戯画研究の最前線』	東京美術	4月30日	無
4	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	白描画としての鳥獣戯画―線描の妙技	『鳥獣戯画研究の最前線』	東京美術	4月30日	無
5	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	鳥獣戯画研究の展望	『鳥獣戯画研究の最前線』	東京美術	4月30日	無
6	同上	企画課特別展室研究員 高橋真作	五百羅漢図	『國華』1519	國華社	5月20日	有
7	同上	企画課特別展室研究員 高橋真作	山田道安筆 鍾馗図	『國華』1519	國華社	5月20日	有
8	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	回顧と展望―日本（古代）美術	『史学雑誌』第131編第5号	史学会	5月20日	無
9	同上	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美ほか	磁器・ガラスに使用される光学用エポキシ樹脂の 剥離に関する実験	一般社団法人文化財保存修復学会第44回大会研究発表要旨集	一般社団法人文化財保存修復学会第44回大会実行委員会	6月18日	無
10	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	―	絵巻　東京国立博物館セレクション	東京国立博物館	6月20日	無
11	同上	列品管理課平常展調整室長　市元塁	門田誠一著『魏志倭人伝と東アジア考古学』	『古代文化』74巻第1号	古代学協会	6月30日	無
12	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造	「東地中海における青銅器・鉄器時代移行期」を理解するために	『古代文化』74巻第1号	古代学協会	6月30日	有
13	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員 大橋美織	杜秋艇「耶馬渓図巻」（東京国立博物館蔵）	『美術フォーラム21』第45号	醍醐書房	6月30日	無
14	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	第2節第2項自然状態の銀、第3節第1項石見銀山の銀を用いた可能性のある銀製品	石見銀山学ことはじめVI銀	大田市教育委員会	6月30日	無
15	同上	企画課特別展室研究員 高橋真作	仏儒道三教一致思想の絵画 ：三聖図・三笑図・三酸図をめぐって	『アジア遊学271　儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画』	勉誠出版	7月1日	無
16	同上	上席研究員　勝木言一郎	大英博物館所蔵の報恩経変相 Stein Painting 12の図像に関する一考察	『アジア遊学271　儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画』	勉誠出版	7月1日	無
17	同上	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	女性と写経3　久能寺経	ビオ・シティ91号	株式会社ブックエンド	7月7日	無
18	同上	博物館教育課教育講座室研究員　横山梓	作品解説	創立150周年事業　特集「東博のガラスコレクション―明治期ガラス工芸の諸相」リーフレット	東京国立博物館	7月12日	無
19	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮ほか	弥生後期社会の実像―集落構造と地域社会―	古代学研究第233号	古代学研究会	8月19日	無
20	同上	列品管理課平常展調整室長　市元塁	物故者記事「菅谷文則」	日本美術年鑑 令和2年版	東京文化財研究所	8月25日	無
21	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	東京国立博物館における保存と修理「特集　古代染織の保存と修理――50年にわたる取り組み」によせて	『MUSEUM』第699号	東京国立博物館	8月	有
22	同上	客員研究員　谷豊信	Ｘ光影像下的中国古代封泥研究	孫慰祖主編『中国古代封泥全集』12	吉林美術出版社（中国）	9月1日	有
23	同上	客員研究員　谷豊信	Ｘ光影像下的楽浪封泥研究　－日本東京大学考古学研究室、東京国立博物館蔵品探討－	孫慰祖主編『中国古代封泥全集』15	吉林美術出版社（中国）	9月1日	有
24	同上	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	明治十五年・十七年、内国絵画共進会と「嚴島神社蔵経模本（平家納経装幀模本）」	創立150年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9月6日	無
25	同上	古川攝一（平常展調整室研究員）	白描図像の模写をめぐって	創立150年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9月6日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
26	同上	調査研究課東洋室主任研究員　児島大輔	断章・美をつくしの蔵　建造物としての大阪市立美術館	『美をつくし―大阪市立美術館コレクション』	毎日新聞社	9月14日	無
27	同上	上席研究員　勝木言一郎	「シルクロード探検」「大谷探検隊」	『博物館でアジアの旅　アジア大発見！』	東京国立博物館	9月21日	無
28	同上	列品管理課平常展調整室長　市元塁	高橋由一が触れたアジア	『博物館でアジアの旅　アジア大発見！』	東京国立博物館	9月21日	無
29	同上	列品管理課平常展調整室長　市元塁	周漢文化展覧会	『博物館でアジアの旅　アジア大発見！』	東京国立博物館	9月21日	無
30	同上	調査研究課東洋室研究員　六人部克典	日本と「宋代書画」の出会い	『博物館でアジアの旅　アジア大発見！』	東京国立博物館	9月21日	無
31	同上	企画課特別展室研究員　高橋真作	二つの牧谿伝承作 ： 円覚寺蔵「白衣観音図」と建長寺蔵「猿猴図」をめぐって	『アジア遊学』275	勉誠出版	10月1日	無
32	同上	企画課特別展室長　猪熊兼樹	「清　最後の王朝」「北京と紫禁城」「皇帝の儀式」「紫禁城の意匠」など	もっと知りたい中国美術	東京美術	10月5日	無
33	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長・惠美千鶴子	装飾料紙と書1　大字和漢朗詠集と法輪寺切	ビオ・シティ92号	株式会社ブックエンド	10月7日	無
34	同上	企画課特別展室研究員　福島修	永青文庫所蔵の唐物漆器	『季刊永青文庫』No. 118	公益財団法人永青文庫	10月8日	無
35	同上	副館長　富田淳	世界とともに歩む東京国立博物館	『東京国立博物館創立150年記念　特別展　国宝　東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション	10月18日	無
36	同上	列品管理課登録室長　佐藤寛介	キリンと天産資料	ミュージアムヒストリー　東京国立博物館150年のあゆみ	東京国立博物館	10月20日	無
37	同上	企画課特別展室研究員　福島修	作品解説	『西行 ： 語り継がれる漂泊の歌詠み』	公益財団法人五島美術館	10月21日	無
38	同上	列品管理課登録室長　佐藤寛介	戦国武将と刀剣	現代語訳　備前軍記	山陽新聞社	10月22日	無
39	同上	列品管理課登録室長　佐藤寛介	山中鹿介と兜	現代語訳　備中兵乱記	山陽新聞社	10月22日	無
40	同上	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	蛍光X線分析による「五馬図巻」の調査結果について	修理調査報告「五馬図巻」	東京国立博物館	10月24日	無
41	同上	特任研究員　今井敦	「古九谷様式」再考	古九谷の多様性とハレ	石川県九谷焼美術館	10月29日	無
42	同上	副館長　富田淳	「乾隆帝とはどのような人物か」「乾隆帝と歴代書画」ほか	もっと知りたい中国の美術	東京美術	10月30日	無
43	同上	列品管理課平常展調整室長　市元塁	「皇帝のコレクション 青銅器・玉器」ほか	もっと知りたい中国の美術	東京美術	10月30日	無
44	同上	調査研究課東洋室研究員　六人部克典	「乾隆帝の書画鑑蔵と編纂物」「皇帝のコレクション 書跡」ほか	もっと知りたい中国の美術	東京美術	10月30日	無
45	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　廣谷妃夏	法隆寺伝来〈赤地獅子鳳凰円文錦〉及び〈赤地格子連珠花文錦〉の制作年代再考―東部ユーラシア染織品との比較から―	『美術史』193冊	美術史学会	10月31日	有
46	同上	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄ほか	北海道東部の北筒式期における石器群の構造と原料の獲得消費	『札幌学院大学　人文学会紀要』112号	札幌学院大学総合研究所	10月31日	無
47	同上	保存修復課保存修復室研究員・沼沢ゆかり	インドネシア伝世インド更紗の年代考察 人物模様と染織技法を視座として	高梨学術奨励基金年報　令和3年度　助成研究成果報告	公益財団法人高梨学術奨励基金	11月1日	無
48	同上	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	奈良国立博物館の展示環境-なら仏像館(旧本館)と東西新館の比較から	国立民族学博物館調査報告No.155	国立民族学博物館	11月7日	無
49	同上	企画課出版企画室主任研究員　三笠景子	「茶の湯を創った青磁茶碗」	『茶の湯の歴史を問い直す　創られた伝説から真実へ』	筑摩書房	11月20日	無
50	同上	特任研究員　今井敦	「和物茶陶」の発見と創造―「和漢の構図」の再検討	茶の湯の歴史を問い直す　創られた伝説から真実へ	筑摩書房	11月20日	無
51	同上	特任研究員　田沢裕賀	南蛮文化発祥以前、大分は禅宗文化の基地であった	「大本山相国寺と金閣・銀閣の名宝」図録	大分県立美術館	11月26日	無
52	同上	特任研究員　今井敦	唐物模倣の論理	中近世土器の基礎研究　第29号	中世土器研究会	12月4日	無
53	同上	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	古墳時代の動向	日本考古学年報74	日本考古学協会	12月5日	無
54	同上	客員研究員　谷豊信	楽浪土城の遺構再考	黄暁芬編『古代東アジア都市の構造と変遷』	同成社	12月10日	無
55	同上	列品管理課登録室長　佐藤寛介	津山藩主松平家伝来「朱漆塗本小札啄木糸威胴丸具足」の歴史的意義	MUSEUM　701号	東京国立博物館	12月15日	有
56	同上	調査研究課考古室研究員　山本亮	土器から見た古墳時代前期の淀川流域	季刊考古学・別冊39　淀川流域の古墳時代	雄山閣	12月25日	無
57	同上	調査研究課長　松嶋雅人	150年後の国宝を考えることの意味	『150年後の国宝展』図録	東京国立博物館	12月28日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
58	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	膨大な作品を伝えるために―所蔵品の保存と修理のマネジメント―	文化財をしらべる・まもる・いかす　―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	アグネ技術センター	12月31日	無
59	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	第5章3節 文化財の内部構造を知る-X線CTの導入と活用-	文化財をしらべる・まもる・いかす　―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	アグネ技術センター	12月31日	無
60	同上	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	多様な文化財を公開するために―立体作品の保存と修理―	文化財をしらべる・まもる・いかす　―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	アグネ技術センター	12月31日	無
61	同上	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	染と織を魅せる―染織文化財の保存と活用―	文化財をしらべる・まもる・いかす　―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	アグネ技術センター	12月31日	無
62	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	Introduction and utilization of X-ray CT systems for cultural properties in Japan	文物保护与考古科学 Vol.34	上海博物館	12月	有
63	同上	企画課特別展室主任研究員 河野正訓	山口県赤妻古墳出土品の来歴調査	古文化談叢88	九州古文化研究会	5年1月1日	有
64	同上	調査研究課工芸室主任研究員　清水健、調査研究課東洋室研究員　六人部克典	特集　博物館に初もうで――兎にも角にもうさぎ年	『特集　博物館に初もうで――兎にも角にもうさぎ年』	東京国立博物館	5年1月2日	無
65	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長・惠美千鶴子	装飾料紙と書2　竹生島経	ビオ・シティ93号	株式会社ブックエンド	5年1月11日	無
66	同上	副館長　富田淳	王羲之略伝-書聖のまなざし-	『連携企画20周年　王羲之と蘭亭序』	公益財団法人台東区芸術文化財団	5年1月31日	無
67	同上	副館長　富田淳	道真と貫之の曲水宴	『連携企画20周年　王羲之と蘭亭序』	公益財団法人台東区芸術文化財団	5年1月31日	無
68	同上	副館長　富田淳	王羲之から藤原行成へ	『連携企画20周年　王羲之と蘭亭序』	公益財団法人台東区芸術文化財団	5年1月31日	無
69	同上	副館長　富田淳	変革者としての王羲之	『連携企画20周年　王羲之と蘭亭序』	公益財団法人台東区芸術文化財団	5年1月31日	無
70	同上	列品管理課平常展調整室長 市元塁	楊泓著（市元塁訳）穹廬から殿堂へ―雲岡石窟における空間構造の変遷と諸問題―	美術研究438号	東京文化財研究所	5年2月28日	無
71	同上	調査研究課工芸室主任研究員　清水健	『聆涛閣集古帖』より明らかになった国宝・線刻釈迦三尊等鏡像（京都・泉屋博古館蔵）の伝来	『企画展示　いにしえが、好きっ！―近世好古図録の文化誌―』	国立歴史民俗博物館	5年3月7日	無
72	同上	調査研究課工芸室主任研究員　清水健	正倉院宝物の公開と模造の歴史	『企画展示　いにしえが、好きっ！―近世好古図録の文化誌―』	国立歴史民俗博物館	5年3月7日	無
73	同上	学芸企画部　博物館教育課教育講座室研究員　横山梓	作品紹介「重要文化財　巴文大壺　珠洲」	『國華』第1529号	國華社	5年3月20日	有
74	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	広島県立美術館所蔵南蛮漆器書見台についての調査報告	広島県立美術館研究紀要第26号	広島県立美術館	5年3月24日	無
75	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	俯仰する竹と鳳凰―夏昶筆「朝陽舞鳳図」にみる「異形の竹」絵画化の系譜	松竹梅の美術史	中央公論美術出版	5年3月30日	無
76	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	第三章 柄と鐺様金具(1),(3)、第四章 剣身(3)	伝世洋剣水口レイピアの謎に迫る	中央公論美術出版	5年3月31日	無
77	同上	博物館教育課教育講座室研究員　山本桃子	私立大学附属・系属高校生徒の学外活動に関する研究-学校外での学習と課外活動に着目して-	『早稲田教育評論』第37巻,第1号	早稲田大学教育総合研究所	5年3月31日	有
78	同上	博物館教育課ボランティア室長　金井裕子	東京国立博物館所蔵「木挽町狩野家伝来資料」について	『東京国立博物館紀要』	東京国立博物館	5年3月31日	無
79	同上	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子	平清盛・頼盛両筆「紺紙金字経」および「厳島切」の整理と伝来	禁裏・公家文庫研究9輯	思文閣出版	5年3月31日	無
80	同上	調査研究課考古室長　井出浩正	縄文時代中期における地域間交流の研究―土器の容量計測を用いた比較―	東京国立博物館紀要58号（2022年度）	東京国立博物館	5年3月31日	無
81	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	佐渡奉行所跡で出土した炉跡の被熱温度推定	日本鉱業史研究 No.73	日本鉱業史研究会	5年3月	無
82	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	中世聖徳太子絵伝における南無仏太子説話の図像	ハーバード美術館蔵南無仏太子像の研究	中央公論美術出版	5年3月	無
83	同上	特任研究員　今井敦	「日本陶磁のオリジナリティー―中国陶磁と比較して」	石川県九谷焼美術館　紀要『九谷を拓く』第6号	石川県九谷焼美術館	5年3月31日	無
84	特別調査「法隆寺献納宝物」（第42次）	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	蛍光X線分析・X線CT調査報告	法隆寺献納宝物特別調査概報42竜首水瓶	東京国立博物館	4月15日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
85	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行、保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛ほか	蛍光 X 線分析・X 線 CT 調査報告	法隆寺献納宝物特別調査概報 42 竜首水瓶	東京国立博物館	4 月 15 日	無
86	収蔵品等の有形文化財に関する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	発見！！「五龍図巻」の兄弟たち	博物館でアジアの旅 アジア大発見！	東京国立博物館	9 月 21 日	無
87	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	「五馬図巻」とその受容史	修理調査報告「五馬図巻」	東京国立博物館	10 月 24 日	無
88	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	「五馬図巻」の修理	修理調査報告「五馬図巻」	東京国立博物館	10 月 24 日	無
89	同上	調査研究課東洋室研究員 六人部克典	「五馬図巻」題跋の書法について	修理調査報告「五馬図巻」	東京国立博物館	10 月 24 日	無
90	同上	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	「五馬図巻」の表装裂について	修理調査報告「五馬図巻」	東京国立博物館	10 月 24 日	無
91	創立 150 年記念特集「再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅」に関連する調査研究	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　廣谷妃夏	作品解説等	博物館でアジアの旅　アジア大発見	東京国立博物館	9 月 12 日	無
92	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　廣谷妃夏	作品解説等	特集「再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅」リーフレット	東京国立博物館	9 月 21 日	無
93	同上	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	作品解説等	特集「再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅」リーフレット	東京国立博物館	9 月 12 日	無
94	同上	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	作品解説等	博物館でアジアの旅　アジア大発見	東京国立博物館	9 月 21 日	無
95	創立 150 年記念特集「東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―」に関連する調査研究	東京国立博物館学芸企画部企画課特別展室長・猪熊兼樹	正倉院宝物の模造	創立 150 年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9 月 6 日	無
96	同上	企画課特別展室研究員　福島修	名品のどこを見たか　漆芸模造の世代と視点	創立 150 年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9 月 6 日	無
97	同上	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長・土屋貴裕	東京国立博物館の歴史と近代模写・模造	創立 150 年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9 月 6 日	無
98	同上	工芸室長・小山弓弦葉	高田義男の染織文化財調査と模造	創立 150 年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9 月 6 日	無
99	同上	調査研究課工芸室主任研究員　清水健	蜷川式胤模造の正倉院宝物	創立 150 年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9 月 6 日	無
100	創立 150 年記念特集「チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―」に関連する調査研究	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	創立 150 年記念特集　チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―	リーフレット	東京国立博物館	7 月 26 日	無
101	同上	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	「チベット仏教」他、作品解説 4 件	もっと知りたい中国の美術	東京美術	10 月 30 日	無
102	創立 150 年記念特集「王羲之と蘭亭序」に関連する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	描かれたさまざまな雅集	『連携企画 20 周年　王羲之と蘭亭序』	公益財団法人台東区芸術文化財団	5 年 1 月 31 日	無
103	同上	調査研究課東洋室研究員 六人部克典	宋元明清における王羲之書法の展開	『連携企画 20 周年 王羲之と蘭亭序』	公益財団法人台東区芸術文化財団	5 年 1 月 31 日	無
104	創立 150 年記念特集「コレクションの探求　はにわ展から 50 年」に関連する調査研究	企画課特別展室主任研究員 河野正訓・調査研究課考古室研究員　山本亮	―	創立 150 年記念特集 コレクションの探求　はにわ展から 50 年	東京国立博物館	5 年 2 月 28 日	無
105	沖縄復帰 50 年記念特別展「琉球」に関する調査研究	企画課長　原田あゆみ	鎌倉芳太郎が出会った人と沖縄	『沖縄復帰 50 年記念特別展　琉球』	NHK、NHK プロモーション、読売新聞社	5 月 3 日	無
106	同上	企画課特別展室長・猪熊兼樹	琉球の宮廷	『沖縄復帰 50 年記念特別展　琉球』	NHK、NHK プロモーション、読売新聞社	5 月 3 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
107	同上	企画課出版企画室主任研究員　三笠景子	総論「琉球・沖縄の文化と歩み」	『沖縄復帰 50 年記念特別展　琉球』	NHK、NHK プロモーション、読売新聞社	5 月 3 日	無
108	同上	博物館教育課教育普及室長　品川欣也	東京国立博物館所蔵の琉球資料	『沖縄復帰 50 年記念特別展　琉球』	NHK、NHK プロモーション、読売新聞社	5 月 3 日	無
109	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	琉球の文様	『沖縄復帰 50 年記念特別展　琉球』	NHK、NHK プロモーション、読売新聞社	5 月 3 日	無
110	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	琉装のかたち	『沖縄復帰 50 年記念特別展　琉球』	NHK、NHK プロモーション、読売新聞社	5 月 3 日	無
111	同上	企画課出版企画室主任研究員　三笠景子	「沖縄復帰 50 年記念 特別展 琉球」	『陶説』828 号	日本陶磁協会	6 月 1 日	無
112	同上	企画課長　原田あゆみ	沖縄復帰五〇年記念特別展「琉球」開催の意義	ICOMOSJapan information	（一社）日本イコモス国内委員会	9 月 7 日	無
113	日中国交正常化 50 周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」に関する調査研究	絵画・彫刻室主任研究員・植松瑞希	乾隆帝の秘蔵絵画と近代日本	もっと知りたい　中国の美術	東京美術	10 月 30 日	無
114	東京国立博物館創立 150 年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」に関する調査研究	企画課出版企画室主任研究員　三笠景子	「博物館のために―横河民輔の東洋陶磁コレクション」	『東京国立博物館創立 150 年記念　特別展　国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
115	同上	博物館教育課教育普及室長　品川欣也	東京国立博物館の考古コレクション	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
116	同上	東京国立博物館学芸企画部企画課特別展室長　猪熊兼樹	在りし日の鳳輦	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
117	同上	列品管理課登録室長　佐藤寛介	東京国立博物館 150 年の歩み	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
118	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	帝室博物館から国立博物館へ―戦後における国宝絵画指定が意味すること	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
119	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	国宝中国絵画のお名前事情	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
120	同上	調査研究課考古室研究員・飯田茂雄	作品解説	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
121	同上	調査研究課東洋室研究員　六人部克典	東京国立博物館の東洋書跡	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
122	同上	保存修復課長　和田浩	東京国立博物館の保存修復	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
123	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員 大橋美織	松方コレクションの浮世絵版画 - その流転と公開 -	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
124	同上	企画課特別展室研究員　福島修	東京国立博物館の漆工	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
125	同上	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	東京国立博物館の調査研究小史―彫刻分野を中心に	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
126	同上	調査研究課考古室研究員・飯田茂雄	作品解説	ミュージアムヒストリー 東京国立博物館―150 年のあゆみ―	東京国立博物館	10 月 20 日	無
127	同上	特任研究員　田良島哲	森鴎外と正倉院	『正倉院宝物に学ぶ 4』	思文閣出版	10 月	無
128	同上	列品管理課長　沖松健次郎	蘇る百五十年前の展示風景―湯島聖堂博覧会	東京人	都市出版株式会社	11 月 3 日	無
129	特別企画「大安寺の仏像」に関する調査研究	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	大安寺の仏像	うえの　762 号	上野のれん会	5 年 1 月 1 日	無
130	同上	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	奈良の大寺　大安寺	大安寺の仏像	東京国立博物館	5 年 1 月 2 日	無
131	同上	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	コラム　大安寺の奈良時代の木彫群	大安寺の仏像	東京国立博物館	5 年 1 月 2 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
132	特別展「東福寺」に関する調査研究	企画課特別展室研究員　高橋真作	明兆筆「五百羅漢図」の新知見	『特別展 東福寺』	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	5 年 3 月 7 日	無
133	同上	企画課特別展室研究員　高橋真作	明兆筆「五百羅漢図」の本絵と下絵	『特別展 東福寺』	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	5 年 3 月 7 日	無
134	同上	調査研究課東洋室研究員　六人部克典	遺偈―師資相承の書―	『特別展 東福寺』	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	5 年 3 月 7 日	無
135	博物館環境デザインに関する調査研究	木下史青(東京国立博物館上席研究員・デザイン)	Treasure×Pleasure ―東京国立博物館の展示デザイン	「博物館研究 57」特集〈博物館を支える人々〉	公益財団法人日本博物館協会	10 月 1 日	無
136	博物館教育に関する調査研究	博物館教育課教育講座室研究員　山本桃子ほか	分野横断型学習としてのオブジェクトベーストラーニングのさらなる機能拡張-人びとのウェルビーイングの向上への貢献を目指して-	The KeMCo Review 01	慶應義塾ミュージアム・コモンズ	5 年 3 月 31 日	有
137	博物館広報・国際交流活動に関する調査研究	上席研究員兼広報室長　鬼頭智美	欧米が見た鳥獣戯画―近代における海外出品をめぐって―	『鳥獣戯画研究の最前線』	東京美術	4 月 30 日	無
138	同上	上席研究員兼広報室長　鬼頭智美	つたえる、つなぐ―博物館広報のあゆみ―	特集リーフレット	東京国立博物館	9 月 27 日	無
139	同上	企画課国際交流室　ミオッシュ・ヴォズニ、上席研究員兼広報室長　鬼頭智美ほか	―	Japanese to English Translation at the Tokyo National Museum	東京国立博物館	12 月 20 日	無

〇その他有形文化財に関連する調査研究　16件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部保存修復課長・和田浩	屏風の振動応答特性を検証するための基礎的研究	日本包装学会誌 31(3)	日本包装学会	6月1日	有
2	同上	学芸研究部保存修復課長・和田浩	ハンドリフトを用いた文化財の施設内輸送時に生じる振動の原因と対策に関する研究	文化財保存修復学会 44 回大会	文化財保存修復学会	6月19日	無
3	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー・相川悠、学芸研究部保存修復課長・和田浩	展示室における換気対策が与えるエネルギー消費への影響と持続可能な博物館環境の維持に関する考察	文化財保存修復学会 44 回大会	文化財保存修復学会	6月19日	無
4	同上	学芸研究部保存修復課長・和田浩	2022 年度災害対策調査部会の活動報告	文化財保存修復学会 44 回大会	文化財保存修復学会	6月19日	無
5	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー・相川悠、学芸研究部保存修復課長　和田浩	展示室における換気対策が与えるエネルギー消費への影響と持続可能な博物館環境の維持に関する考察	文化財保存修復学会 44 回大会	文化財保存修復学会	6月19日	無
6	同上	保存修復課長　和田浩	綿の衝撃試験についての基礎的研究	日本包装学会第 31 回年次大会	日本包装学会	7月20日	無
7	同上	保存修復課長　和田浩	美術品輸送の安全対策に関する研究動向	日本包装学会誌 31(4)	日本包装学会	8月1日	無
8	同上	保存修復課長　和田浩	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究 -2021 年限定公開における収蔵庫内環境測定値の検討-	日本文化財科学会第 39 回大会	日本文化財科学会	9月10日	無
9	同上	保存修復課長　和田浩	博物館施設内輸送における振動計測	第 60 回全日本包装技術研究大会	日本包装技術協会	11月18日	無
10	同上	保存修復課長　和田浩	都市と文化財のデジタル化で生まれる博物館の新たな展開	教職課程センター紀要 7	大東文化大学	12月	無
11	同上	保存修復課長　和田浩	文化財を安全に運ぶ-振動解析による施設内輸送の安全性評価-	文化財をしらべる・まもる・いかす　―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	アグネ技術センター	5年3月	無
12	同上	保存修復課長　和田浩	入場者数の展示室内環境への影響の検証を目的とした特別展覧会における室内滞留者数傾向の解析	国立民族学博物館研究報告 47(4)	国立民族学博物館	5年3月	有
13	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	特任研究員　田良島哲	文化政策としてのデジタルアーカイブ	『デジタルアーカイブ・ベーシックス 知識インフラの再設計』	勉誠出版	11月	無
14	創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	副館長　富田淳	東京国立博物館の 150 年	絲綢之路	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	10月25日	無
15	同上	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子	東京国立博物館百五十年史編纂に関わる資料の整理と活用	専門図書館 2022 年 11 月号	専門図書館協議会	11月25日	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
16	同上	上席研究員兼広報室長 鬼頭智美	海外展開催：日本文化の世界への発信	ミュージアムヒストリー 東京国立博物館 150 年のあゆみ	東京国立博物館	10月20日	無

【京都国立博物館】 93件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　36件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺」に関する調査研究	学芸部上席研究員　淺湫毅	伝宝生如来坐像　観心寺蔵	『なにわ』805 号	大阪府警察	6月29日	無
2	同上	同上	僧形神像として造立か（地蔵菩薩立像　観心寺蔵）	『京都新聞』8 月 4 日	京都新聞社	8月4日	無
3	同上	学芸部企画室研究員　井並林太郎	重要文化財　藍韋威腹巻	『なにわ』804 号	大阪府警察	5月	無
4	同上	同上	概説　観心寺・金剛寺の歴史と文化財	『特別展　河内長野の霊地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―』図録	京都国立博物館	7月30日	無
5	同上	同上	中世の力強さ満ちた絵画（日月山水図屏風　天野山金剛寺蔵）	『京都新聞』8 月 9 日	京都新聞社	8月9日	無
6	同上	同上	甲冑 22 件、正成への愛着（藍韋威腹巻　天野山金剛寺蔵）	『京都新聞』8 月 10 日	同上	8月10日	無
7	同上	学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦	「真言密教と密教法具―観心寺で発見された大壇具の謎―」	『特別展　河内長野の霊地　観心寺と金剛寺－真言密教と南朝の遺産－』図録	京都国立博物館	7月30日	無
8	同上	学芸部調査・国際連携室研究員　上杉智英	重要文化財　遊仙窟	『なにわ』806 号	大阪府警察	7月	無
9	同上	同上	概説　観心寺・金剛寺の歴史と文化財 金剛寺本『遊仙窟』断簡、発見の意義	『特別展　河内長野の霊地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―』図録	京都国立博物館	7月30日	無
10	同上	学芸部特任研究員　宮川禎一	棟札・観心寺出土瓦[古代～中世]	『特別展　河内長野の霊地　観心寺と金剛寺－真言密教と南朝の遺産－』（図録）	京都国立博物館	7月30日	無
11	同上	学芸部研究員　古谷　毅	観心寺出土文字瓦[中世～近世・近世]	『特別展　河内長野の霊地　観心寺と金剛寺－真言密教と南朝の遺産－』（図録）	京都国立博物館	7月30日	無
12	特別展「京に生きる文化　茶の湯」に関する調査研究	学芸部列品管理室長　羽田聡	金地院所蔵　国宝「秋景冬景山水図」の附属書状について	『特別展　京に生きる文化　茶の湯』図録	読売新聞社・京都国立博物館	10月8日	無
13	同上	学芸部調査・国際連携室長　降矢哲男	国宝　大井戸茶碗　銘 喜左衛門	『なにわ』809 号	大阪府警察	9月29日	無
14	同上	同上	京に生きる文化 茶の湯	『茶道雑誌』第 86 巻 10 号	河原書店	10月1日	無
15	同上	同上	特別展「京に生きる文化 茶の湯」によせて	『淡交』№952	淡交社	10月1日	無
16	同上	同上	京に生きる文化　茶の湯	『特別展　京に生きる文化　茶の湯』図録	読売新聞社・京都国立博物館	10月8日	無
17	同上	同上	京に生きる文化　茶の湯	『陶説』№833	日本陶磁協会	11月1日	無
18	同上	同上	京に生きる文化 茶の湯上　国宝「大井戸茶碗　銘喜左衛門」	『読売新聞』11 月 12 日	読売新聞社	11月12日	無
19	同上	学芸部調査・国際連携室研究員　森橋なつみ	茶の美術としての中国絵画	『特別展　京に生きる文化　茶の湯』図録	読売新聞社・京都国立博物館	10月8日	無
20	同上	同上	重要文化財　遠浦帰帆図　伝牧谿筆	『なにわ』809 号	大阪府警察	9月5日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
21	同上	同上	重要文化財　玉澗筆・自賛「洞庭秋月図」（和魂漢才―書画のススメ）	『美術の窓』469 号	生活の友社	9月20日	無
22	同上	同上	牧谿の絵画と日本	『淡交』952 号	淡交社	10月1日	無
23	特別展「東福寺」に関する調査研究	学芸部列品管理室研究員　森道彦	「普門院常住什物目録」と初期の東福寺画壇	『特別展 東福寺』	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	5年3月7日	無
24	同上	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也	コラム、作品解説	『特別展 東福寺』	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	5年3月7日	無
25	特集展示に関する調査研究	同上	新出の与謝蕪村筆「奥の細道図巻」について	『新発見！蕪村の「奥の細道図巻」』	京都国立博物館	6月	無
26	同上	学芸部企画室長・工芸室長　山川曉	お迎え人形	『なにわ』813 号	大阪府警察	5年2月	無
27	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	学芸部企画室長・工芸室長　山川曉	綾地蝶牡丹文片身替小袖（復元新調）	『綾地蝶牡丹文片身替小袖（復元新調）』パンフレット	芦刈山保存会	7月	無
28	同上	学芸部列品管理室長　羽田聡	博物館・美術館コレクション　クローズアップ 53　京都国立博物館Ⅱ	『大東書道』633 号	大東文化大学書道研究所	10月20日	無
29	同上	同上	博物館・美術館コレクション　クローズアップ 54　京都国立博物館Ⅲ	『大東書道』634 号	同上	11月20日	無
30	同上	同上	博物館・美術館コレクション　クローズアップ 55　京都国立博物館Ⅳ	『大東書道』635 号	同上	12月20日	無
31	同上	学芸部企画室研究員　井並林太郎	平安絵巻としての鳥獣戯画―場面展開の妙味―	『鳥獣戯画研究の最前線』	東京美術	4月	無
32	同上	学芸部企画室アソシエイトフェロー　青木 麻佑花	阿弥陀・不動・毘沙門像懸仏	『なにわ』810 号	大阪府警察	11月29日	無
33	特別公開展示に関する調査研究	学芸部研究員　古谷毅	展示概説、コラム	『特別公開　熊本・宮崎の古墳文化－石人と貝輪－』（展示解説リーフレット）	京都国立博物館	6月	無
34	同上	同上	美術館だより 367 石人･ゴホウラ製貝輪	『なにわ』2 月号（812 号）	大阪府警察本部	5年2月23日	無
35	その他有形文化財に関連する調査研究	学芸部企画室長・工芸室長　山川曉	人形の保存および展示における京都国立博物館の課題	『人形玩具研究』	日本人形玩具学会	5年3月	有
36	同上	学芸部教育室長　永島明子	妙法院に伝わる秀吉ゆかりの漆椀　―高台寺蒔絵、大逆転―	『蓮華』103 号　仏教文化講座たより	妙法院門跡	5年2月1日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　57件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館情報、文化財情報に関する調査研究	学芸部列品管理室　研究補佐員　西村由希子、同室長　羽田聡、同研究員　近藤無滴、学芸部　三島貴雄、国立歴史民俗博物館　後藤真	京都国立博物館における記録資料の整理と課題　メタ文化財情報アーカイブズ構築に向けて	デジタルアーカイブ学会第 7 回研究大会一般研究発表（オンライン）予稿集	デジタルアーカイブ学会	11 月 2 日	無
2	文化財の製作技法・材料等に関する調査研究	学芸部保存科学室長　降幡順子	7・8 世紀出土瓦・施釉瓦胎土色と鉄イオンに関する研究	『SPring-8/SACLA 利用研究成果集 10』第 4 号	高輝度光科学研究センター	4 月	有
3	同上	同上	科学調査が文化財修理に役立つ	文化財をしらべる・まもる･いかす - 国立文化財機構　保存･修復の最前線－	アグネ技術センター	12 月	無
4	同上	同上	上庄田瓦窯跡出土鴟尾の胎土分析―鴟尾表面の色調に着目して―	洛北窯跡出土鴟尾指定準備業務報告書	京都市埋蔵文化財研究所	5 年 3 月	無
5	同上	保存科学室長　降幡順子、東京文化財研究所　犬塚将英、建石徹、早川泰弘、奈良文化財研究所　脇谷草一郎、田村朋美、中田愛乃、大迫美月、辻本与志一、文化庁　米村祥英	小型 X 線回折分析装置の開発と高松塚古墳壁画の彩色材料分析への適用	『保存科学』第６２号	東京文化財研究所	5 年 3 月	有
6	同上	学芸部保存科学室長　降幡順子	飛鳥地域出土の湖西窯産須恵器の胎土分析	『文化財論叢Ⅴ』	奈良文化財研究所	5 年 3 月 31 日	無
7	同上	学芸部保存科学室長　降幡順子、研究員　古谷毅	兵庫県西宮山古墳出土品の研究Ⅰ―非鉄金属製遺物 1―	『学叢』第 44 号	京都国立博物館	6 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
8	同上	学芸部研究員　古谷毅	三珠大塚古墳出土の鈴付銅釧 －貝輪形銅釧の系譜(覚書）－	『モノ・構造・社会の考古学-今福利恵博士追悼論文集-』	今福利恵博士追悼論文集刊行会	11月13日	無
9	その他有形文化財に関連する調査研究	副館長　栗原祐司	あれもこれもみんな博物館	『てんとう虫』5月号	UC カード会員誌	4月	無
10	同上	副館長　栗原祐司	見どころ充実、知の宝庫 国立博物館	『てんとう虫』5月号	UC カード会員誌	4月	無
11	同上	副館長　栗原祐司	“好き”を極める個性派博物館	『てんとう虫』5月号	UC カード会員誌	4月	無
12	同上	副館長　栗原祐司	慰霊と追悼の博物館	『会報』No.70	旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会	4月	無
13	同上	副館長　栗原祐司	博物館法の一部を改正する法律が成立	『学会ニュース』No.140	全日本博物館学会	4月	無
14	同上	副館長　栗原祐司	戦禍に晒されるウクライナの博物館	『博物館研究』4年5月号	日本博物館協会	5月	無
15	同上	副館長　栗原祐司	最終段階の ICOM 博物館定義見直し	『博物館研究』4年6月号	日本博物館協会	6月	無
16	同上	副館長　栗原祐司	博物館で進むキャッシュレス化	『新美術新聞』1602 号	美術年鑑社	6月	無
17	同上	副館長　栗原祐司	コレクションをめぐる法制度と権利関係	金山喜昭編『博物館とコレクション管理』	雄山閣	6月	無
18	同上	副館長　栗原祐司	平和を考えるミュージアムーいま、私たちができること	月刊『海外子女教育』	海外子女教育振興財団	7月	無
19	同上	副館長　栗原祐司	2022 年国際博物館の日について	『博物館研究』4年7月号	日本博物館協会	7月	無
20	同上	副館長　栗原祐司	博物館定義の見直し	『新美術新聞』1604 号	美術年鑑社	7月	無
21	同上	副館長　栗原祐司	夏休みの美術館	『新美術新聞』1608 号	美術年鑑社	8月	無
22	同上	副館長　栗原祐司	教科書で見た“アレ”	「Discover Japan」2022 年 9 月号	株式会社ディスカバー・ジャパン	8月	無
23	同上	副館長　栗原祐司	スーパーマニアック	『Discover Japan』2022 年 9 月号	株式会社ディスカバー・ジャパン	8月	無
24	同上	副館長　栗原祐司	ICOM 博物館定義が改正	『新美術新聞』1613 号	美術年鑑社	9月	無
25	同上	副館長　栗原祐司	博物館法改正と ICOM プラハ大会報告	『展示学』64	日本展示学会	10月	無
26	同上	副館長　栗原祐司	ICOM プラハ大会で博物館の定義が改正	『学会ニュース』No.142	全日本博物館学会	10月	無
27	同上	副館長　栗原祐司	ICOM プラハ大会の概要	『博物館研究』4年11月号	日本博物館協会	11月	無
28	同上	副館長　栗原祐司	ICOM の新たな定義と DEAI	『新美術新聞』1615 号	美術年鑑社	11月	無
29	同上	副館長　栗原祐司	第 4 回世界津波博物館会議報告	『学会ニュース』No.143	全日本博物館学会	5年1月	無
30	同上	副館長　栗原祐司	平和な社会の実現に向けて	『博物館研究』5年2月号	日本博物館協会	5年2月	無
31	同上	副館長　栗原祐司	ICOM の最新の動向	『博物館研究』5年2月号	日本博物館協会	5年2月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
32	同上	副館長　栗原祐司	第4回世界津波博物館会議開催される	『新美術新聞』1622 号	美術年鑑社	5年2月	無
33	同上	副館長　栗原祐司	ウェルビーイングの博物館へ	『聖教新聞』2023 年 2 月 10 日（京都版）	聖教新聞社	5年2月	無
34	同上	副館長　栗原祐司	ICOM プラハ大会が開催	全国美術館会議機関誌『ZENBI』Vol.23	全国美術館会議	5年2月	無
35	同上	副館長　栗原祐司	記憶を伝える場としてのミュージアム	清水万由子・林美帆・除本理史『公害の経験を未来につなぐ』	ナカニシヤ出版	5年2月	無
36	同上	副館長　栗原祐司	ウクライナ文化財　被害 1189 点	『産経新聞』5 年 2 月 18 日	株式会社産経新聞社	5年2月	無
37	同上	副館長　栗原祐司	戦時下におけるウクライナの博物館と文化遺産の保護	『ICOM 日本委員会ジャーナル』	ICOM 日本委員会	5年3月	無
38	同上	副館長　栗原祐司	ミュージアム列島東西南北	『週間教育 PRO』	株式会社 ERP	4月～5年3月（連載）	無
39	同上	学芸部長　尾野善裕	万灯山長圓寺伝来茶陶考	『中近世陶磁器の考古学第 16 巻』	雄山閣	5 月 25 日	無
40	同上	学芸部長　尾野善裕	飯が盛られた天目茶碗―万灯山長圓寺校割帳にみる「天目」―	『學叢』第 44 号	京都国立博物館	6 月 24 日	無
41	同上	学芸部長　尾野善裕（共著：奈良文化財研究所　森川実・文化庁　大澤正吾）	石神遺跡土坑 SK1150 出土の土器	『奈良文化財研究所紀要 2022』	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
42	同上	学芸部長　尾野善裕	「金琺瑯」の謎　琉球ヨリ来タル“和蘭陀ノ焼物”だが中国製	『なごみ』通巻 511 号	淡交社	7 月 1 日	無
43	同上	学芸部長　尾野善裕（共著：奈良文化財研究所　神野恵）	盂蘭盆会供養具　陶磁器	『元奈良町惣年寄清水家資料調査報告書』	奈良文化財研究所	5 年 3 月 31 日	無
44	同上	学芸部長　尾野善裕	古代尾張の窯業生産と天皇家産機構	『文化財論叢Ⅴ』	奈良文化財研究所	5 年 3 月 31 日	無
45	同上	学芸部保存科学室長　降幡順子、学芸部長　尾野善裕（共著：香川県立ミュージアム　野村美紀・古野徳久、香川県教育委員会　渡邊誠・竹内裕貴）	本堯時松平頼該霊廟の調査―高松藩主松平家墓所の系譜における位置―	『ミュージアム調査研究報告』第 14 号	香川県立ミュージアム	5 年 3 月 31 日	無
46	同上	学芸部上席研究員　浅湫毅	仏師運慶の東国下向について	『學叢』第 44 号	京都国立博物館	6 月 24 日	無
47	同上	同上	嘉多丸君と幕末の京都仏師康敬	『函谷鉾』41 号	函谷鉾保存会	7 月 1 日	無
48	同上	学芸部保存科学室長　降幡順子、企画室研究員　井並林太郎	佐竹本三十六歌仙絵「源重之」科学分析結果報告	『重要文化財　佐竹本三十六歌仙絵「源重之」収蔵記念特別展　歌仙絵と太刀』展覧会図録	秋水美術館	4 月	無
49	同上	学芸部調査・国際連携室長　降矢哲男	総論　高麗茶碗の種類と特徴、コラム、個別解説	『茶の湯の茶碗　第 2 巻　高麗茶碗』	淡交社	5 年 2 月 23 日	無
50	同上	学芸部考古室長　石田由紀子	第 4 章　牛込大教会信者詰所で採集された遺物　第 2 節　4 瓦	『布留遺跡布留（堂垣内）地区発掘調査報告書』考古学調査研究報告 31	埋蔵文化財天理教調査団	10 月	無
51	同上	同上	変形忍冬唐草文軒平瓦 6647 の再検討	『飛鳥の考古学 2022』	奈良文化財研究所　飛鳥資料館	5 年 1 月	無
52	同上	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也	所有者の想いに寄り添う―寄託品修理のマネジメント―	文化財をしらべる・まもる・いかす―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	アグネ技術センター	12 月	無
53	同上	同上	作品解説	『西新井大師こよみ』令和 5 年版	西新井大師総持寺	12 月	無
54	同上	同上	狩野家による極書の発給	『仏師と絵師』	思文閣出版	5 年 3 月	無
55	同上	学芸部企画室研究員　井並林太郎	百萬遍知恩寺の歴代祖師・住持肖像画について	『學叢』第 44 号	京都国立博物館	6 月 24 日	無
56	同上	学芸部列品管理室研究員　森道彦	公益財団法人渡辺美術館調査報告書（第 9 回）	公益財団法人渡辺美術館調査報告書（第 9 回）	渡辺美術館	5 年 3 月	無
57	同上	学芸部調査・国際連携室研究員　森橋なつみ	女史箴図が語るもの	『アジア遊学』271	勉誠出版	7 月 1 日	無

【奈良国立博物館】 58件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　27件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」に関する調査研究	学芸部長　吉澤悟、美術室長　岩井共二、列品室長　斎木涼子、教育室長　谷口耕生、企画室長　中川あや、資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、企画室主任研究員　山口隆介、教育室研究員　内藤航、工芸考古室研究員　三本周作、工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	作品解説	『特別展　大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―』展覧会図録	奈良国立博物館、日本経済新聞社、NHK エンタープライズ近畿	4月	無
2	同上	列品室長　斎木涼子	『日本霊異記』にみる大安寺と社会のつながり（コラム）	同上	同上	同上	無
3	同上	列品室長　斎木涼子	虚空蔵求聞持法とは（コラム）	同上	同上	同上	無
4	同上	教育室長　谷口耕生	各論　「霊山の実相」としての大安寺釈迦如来像	同上	同上	同上	無
5	同上	教育室長　谷口耕生	大安寺絵所（コラム）	同上	同上	同上	無
6	同上	企画室長　中川あや	総論　大安寺―美術、史料、考古が織りなす歴史	同上	同上	同上	無
7	同上	企画室長　中川あや	平安貴族が讃えた大安寺釈迦如来像（コラム）	同上	同上	同上	無
8	同上	企画室長　中川あや	奈良博の扉　大安寺「災害と復興の歴史」	『月刊大和路ならら』第283号	一般社団法人なら文化交流機構	同上	無
9	同上	教育室研究員　内藤航	各論　大安寺の木彫群に関する覚書	『特別展　大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―』展覧会図録	奈良国立博物館、日本経済新聞社、NHK エンタープライズ近畿	同上	無
10	同上	教育室研究員　内藤航	清凉寺釈迦如来像の請来と河原院釈迦如来像の造立（コラム）	同上	同上	同上	無
11	同上	工芸考古室研究員　三本周作	国宝・金銅透彫舎利容器の「かたち」を読む（コラム）	同上	同上	同上	無
12	「SHIBUYA で仏教美術」に関する調査研究	資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、企画室主任研究員　山口隆介、工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	作品解説	『SHIBUYA で仏教美術』展覧会図録	渋谷区立松濤美術館	同上	無
13	名品展「珠玉の仏たち」に関する調査研究	企画室主任研究員　山口隆介	作品解説	『なら仏像館　名品図録 2021 改訂版』	奈良国立博物館	5月	無
14	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」に関する調査研究	美術室長　岩井共二、列品室長　斎木涼子、教育室長　谷口耕生、資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、工芸考古室主任研究員　三田覚之、企画室主任研究員、山口隆介、教育室研究員　内藤航、工芸考古室研究員　三本周作、美術室アソシエイトフェロー　松井美樹	作品解説	『貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展　中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語』展覧会図録	奈良国立博物館、読売新聞社、NHK 奈良放送局	7月	無
15	同上	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	総論　中将姫と當麻曼荼羅	同上	同上	同上	無
16	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」に関する調査研究	教育室研究員　翁みほり	作品解説	『わくわくびじゅつギャラリー　はっけん！ほとけさまのかたち』展覧会図録	奈良国立博物館	同上	無
17	聖徳太子 1400 年御遠忌記念「国宝・法隆寺展」に関する調査研究	美術室長　岩井共二、列品室長　斎木涼子、教育室長　谷口耕生、企画室長　中川あや、資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、企画室主任研究員　山口隆介、工芸考古室主任研究員　三田覚之、教育室研究員　内藤航、工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人、美術室アソシエイトフェロー　松井美樹	作品解説	『聖徳太子 1400 年御遠忌記念　国宝・法隆寺展』展覧会図録	日本経済新聞社	9月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
18	特別展「第 74 回正倉院展」に関する調査研究	学芸部長　吉澤悟、美術室長　岩井共二、列品室長　斎木涼子、教育室長　谷口耕生、企画室長　中川あや、資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、工芸考古室主任研究員　三田覚之、企画室主任研究員　山口隆介、教育室研究員　内藤航、工芸考古室研究員　三本周作、工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人、美術室アソシエイトフェロー　松井美樹	作品解説	『第 74 回 正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10 月	無
19	同上	学芸部長　吉澤悟	概説　正倉院展と正倉院宝物について	同上	同上	同上	無
20	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	宝物寸描　素木三鈷箱について復元的に考える	同上	同上	同上	無
21	同上	工芸考古室研究員 三本周作	奈良博の扉　正倉院宝物の魅力 第 74 回正倉院展から	『月刊大和路ならら』第 289 号	一般社団法人なら文化交流機構	同上	無
22	同上	工芸考古室研究員 三本周作	正倉院宝物と奈良時代の仏教―「第 74 回正倉院展」の出陳宝物を中心に―	『月刊アートコレクターズ』第 164 号	生活の友社	同上	無
23	東京国立博物館創立 150 年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」に関する調査研究	工芸考古室主任研究員 三田覚之	法隆寺献納宝物	『東京国立博物館創立 150 年記念　特別展　国宝　東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK、NHK プロモーション	同上	無
24	式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」に関する調査研究	学芸部長　吉澤悟、列品室長　斎木涼子、教育室長　谷口耕生、企画室長　中川あや、資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、工芸考古室主任研究員　三田覚之、企画室主任研究員　山口隆介、教育室研究員　内藤航、工芸考古室研究員　三本周作、工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人、美術室アソシエイトフェロー　松井美樹	作品解説	『式年造替記念特別展 春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―』展覧会図録	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK 奈良放送局、NHK エンタープライズ近畿	12 月	無
25	同上	学芸部長　吉澤悟	概説　式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」	同上	同上	同上	無
26	同上	学芸部長　吉澤悟	式年造替記念特別展　春日大社若宮国宝展―祈りの王朝文化―の見どころ	『月刊大和路ならら』第 291 号	一般社団法人なら文化交流機構	同上	無
27	同上	教育室研究員　内藤航	各論　獅子・狛犬（春日若宮撤下品）の調査報告	『式年造替記念特別展 春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―』展覧会図録	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK 奈良放送局、NHK エンタープライズ近畿	同上	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　31件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関連する調査研究	保存修理室長　荒木臣紀（共著：藤田励夫）	金峯山寺所有、新出の金峯山寺経塚出土紺紙金字経について	『鹿園雑集』第 25 号	奈良国立博物館	5 年 3 月 31 日	無
2	その他有形文化財に関連する調査研究	列品室長　斎木涼子	神仏習合―神と仏を結びつける思想はどのように展開されたのか	『論点・日本史学』	ミネルヴァ書房	8 月	無
3	同上	教育室長　谷口耕生	薬師寺に伝わる涅槃図～来歴とその特徴～	『薬師寺』第 214 号	薬師寺	12 月 1 日	無
4	同上	教育室長　谷口耕生	聖護院所蔵「熊野宮曼荼羅」―修理に伴う地検を中心に―	『鹿園雑集』第 25 号	奈良国立博物館	5 年 3 月	無
5	同上	情報サービス室長　宮崎幹子	「美術史学と博物館における「記述」と「写真」―研究の方法論とデジタル化との関連から―」	『洛北史学』	洛北史学会	6 月	有
6	同上	情報サービス室長　宮崎幹子、企画室主任研究員　山口隆介	作品解説	『仏師快慶の研究』（奈良国立博物館編）	思文閣出版	5 年 3 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
7	同上	企画室長　中川あや	隅田八幡神社経塚出土鏡について	隅田八幡神社経塚発掘調査報告書	橋本市教育委員会	5年3月	無
8	同上	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	当麻曼荼羅九品往生図に認められる鑑戒画的図様	『アジア遊学 271　儒教思想と絵画　東アジアの勧戒画』	勉誠出版	6月	無
9	同上	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	作品解説	『宗祖慈攝大師真盛上人不断念佛相続十九萬日大法会記念　西教寺の仏教美術』	天台真盛宗総本山　西教寺	11月1日	無
10	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	竜首水瓶の修理について	『法隆寺献納宝物特別調査概報 42 竜首水瓶』	東京国立博物館	4月	無
11	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	竜首水瓶関連史料	『法隆寺献納宝物特別調査概報 42 竜首水瓶』	同上	同上	無
12	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	《報告》法隆寺献納宝物　裳と袍の本格修理と復元模造製作について第六九八号　東京国立博物館	『ＭＵＳＥＵＭ』第 698 号	同上	6月	有
13	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	法隆寺探訪記〈2〉金堂という奇跡の空間	『聖徳』第 248 号	聖徳宗教学部	7月	無
14	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	日本の刺繍美	『美術の窓』12 月号	株式会社生活の友社	11月	無
15	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	法隆寺探訪記〈3〉失われた塵尾	『聖徳』第 249 号	聖徳宗教学部	5年1月26日	無
16	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	法隆寺印仏の由来	『聖徳』第 249 号	聖徳宗教学部	5年1月26日	無
17	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	宝瓶のきた道	『目の眼』第 559 号	株式会社目の眼	5年3月15日	無
18	同上	企画室主任研究員　山口隆介	古写真細見―所在不明大日如来像―	『鹿園雑集』第 25 号	奈良国立博物館	5年3月	無
19	同上	企画室主任研究員　山口隆介	快慶の生涯と「如法」の仏像	『仏師快慶の研究』(奈良国立博物館編)	思文閣出版	5年3月	無
20	同上	工芸考古室研究員　三本周作	快慶作品における金属製荘厳具について―仏師と金工をめぐる一試論―	『仏師快慶の研究』(奈良国立博物館編)	思文閣出版	5年3月	無
21	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー　安藤真理子(共著:福田浩子、岡地智子、小林公治、安藤真理子、鳥越俊行、宮田将寛)	広島県立美術館所蔵南蛮漆器書見台についての調査報告―東京国立博物館所蔵南蛮漆器書見台 CT 調査結果との比較を通じて―	広島県立美術館　研究紀要第 26 号	広島県立美術館	5年3月24日	無
22	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	グラビア解説　柄香炉（瓶鎮柄香炉）	『聖徳』第 248 号	聖徳宗教学部	同上	無
23	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	平安中期の「比叡山仏所」と南都仏師の関係」	『鹿島美術研究』年報第 38 号別冊	鹿島美術財団	9月	無
24	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	西大寺金銅透彫舎利容器の蓮華形銀器について	『鹿園雑集』第 25 号	奈良国立博物館	5年3月31日	無
25	同上	美術室アソシエイトフェロー　松井美樹	グラビア解説　役行者二鬼像	『聖徳』第 249 号	聖徳宗教学部	5年1月26日	無
26	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	保存修理指導室長　荒木臣紀	文化財をしらべる・まもる・いかす―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	『文化財をしらべる・まもる・いかす―国立文化財機構 保存・修復の最前線―』	アグネ技術センター	12月31日	無
27	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	竹材のフラスから加害種を特定する分子生物学的手法の検討	『文化財保存修復学会第四十四回大会研究発表要旨集』	文化財保存修復学会	6月18日	無
28	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー 小峰幸夫	アフリカヒラタキクイムシを用いた高温処理（48℃及び 50℃）の繰り返しによる効果判定の実験	『文化財保存修復学会第四十四回大会研究発表要旨集』	同上	同上	無
29	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー 小峰幸夫	文化財害虫とその対処―最近のトピックを中心に―	『月刊文化財』第 709 号	第一法規	10月	無
30	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー 小峰幸夫	New records of Ctenolepisma calvum (Ritter,1910) (Zygentoma, Lepismatidae) from Japan	『 Biodiversity Data Journal 10』	Pensoft	11月	有
31	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	後回しのツケは大きい　ムシとカビ	『入門　大災害時代の文化財防災』	同成社	5年3月	無

【九州国立博物館】　42件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　9件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	学芸部博物館科学課 主任研究員　鷲頭桂	「北斎の素顔―日新除魔図の世界―」	『特別展　北斎』（特別展図録）	講談社	4月14日	無
2	同上	学芸部企画課長 伊藤信二	作品解説	『特別展　河内長野の霊地観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―』（展覧会図録）	京都国立博物館	7月	無
3	同上	学芸部企画課長 伊藤信二	作品解説	『東京国立博物館創立150周年記念特別展　国宝　東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション	10月	無
4	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子、文化交流展室長　川村佳男、交流課主任研究員　今井涼子、特別展室アソシエイトフェロー　齋藤徳子、石橋有実	「かわいい考古学のススメ」への道　ー市民と博物館の連携型展覧会の一例としてー	紀要『東風西声』18号	九州国立博物館	5年3月	無
5	同上	苅田町教育委員会　若杤善満、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、同研究補佐員　田中麻美、学芸部展示課主任研究員　岡寺良	土製地蔵菩坐像の製作過程の復元的考察―中世九州北部に出土する特徴的な一群について―	紀要『東風西声』18号	九州国立博物館	5年3月	無
6	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	「琉球漆器の技法」	『沖縄復帰50年記念特別展　琉球』	NHK、NHKプロモーション、読売新聞社	5月3日	無
7	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	作品解説	『沖縄復帰50年記念特別展　琉球』	NHK、NHKプロモーション、読売新聞社	5月3日	無
8	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	立体感と漆芸の粋「黒漆首里那覇港図堆錦衝立」	『読売新聞』8月23日	読売新聞社	8月23日	無
9	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	「国宝　初音の調度」	『九州王国』	九州国立博物館	12月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　33件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関連する調査研究	学芸部企画課長 伊藤信二	「国宝　竜首水瓶（法隆寺献納宝物）について」	『法隆寺献納宝物特別調査概報42 竜首水瓶』	東京国立博物館	4月	無
2	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	第Ⅰ部　外国考古学研究の動向「中国」	『日本考古学年報』74	日本考古学協会	12月	無
3	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	響銅長頸瓶の形態と製作工程 ー内視鏡カメラによる内面の観察を踏まえてー	『FUSUS　アジア鋳造技術史学会誌』15号	アジア鋳造技術史学会	5年1月	有
4	同上	学芸部企画課アソシエイトフェロー　李梅	麦積山石窟壁画の重修――装飾文様　パルメット――	鹿島美術研究年報第38号別冊	公益財団法人鹿島美術財団	9月	無
5	同上	学芸部企画課アソシエイトフェロー　李梅	麦積山石窟の弥勒	みろくへの道 （東京藝術大学ユーラシア文化交流センター）	PAO	12月	無
6	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか	「九州国立博物館における生物被害の予防について」	『月刊文化財』令和4年10月号	第一法規	9月	無
7	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	X線CTなどによる文化財害虫の検出と診断	『月刊文化財』令和4年10月号	第一法規	9月	無
8	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか	「九州国立博物館IPM研修ー資料保存のソフト面として」	『持続可能な博物館資料の保存を考える』園田直子編、国立民族学博物館調査報告　155	国立民族学博物館	11月	有
9	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	X線イメージングによる木材穿孔性の文化財害虫の検出	『持続可能な博物館資料の保存を考える』園田直子編、国立民族学博物館調査報告　155	国立民族学博物館	11月	有
10	同上	東京文化財研究所アソシエイトフェロー　島田潤、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、奈良国立博物館アソシエイトフェロー　小峰幸夫、学芸部博物館科学課長　木川りか、東京文化財研究所室長　佐藤嘉則	New records of *Ctenolepisma calvum* (Ritter, 1910) (Zygentoma, Lepismatidae) from Japan.	Biodiversity Data Journal 10	Pensoft Publishers	11月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
11	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか	「変幻自在な菌類の世界：人知れず覇権を握る、すごい生き物」	『かびと生活』巻頭言、Vol. 15、no.2	NPO 法人カビ相談センター	12 月	無
12	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	アコースティック・エミッションによる木材害虫の非破壊検出―ケブトヒラタキクイムシの食害を受けた木製民芸品における一事例―	『保存科学』62	東京文化財研究所	5 年 3 月	有
13	同上	京都大学　藤原裕子、（公財）日光社寺文化財保存会　原田正彦、東京文化財研究所　北原博之、佐藤嘉則、島田潤、学芸部博物館科学課長　木川りか、国立民族学博物館　日高真吾、京都大学　藤井義久	「湿度制御した温風処理による木造建造物加害甲虫類の殺虫(2) 殺虫効果の確認と建造物への影響の検討」	『保存科学』62	東京文化財研究所	5 年 3 月	有
14	同上	東京文化財研究所　小野寺裕子、島田潤、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、奈良国立博物館　小峰幸夫、学芸部博物館科学課長　木川りか、東京文化財研究所　佐藤嘉則	「マダラシミおよびニュウハクシミに対するベイト剤の殺虫効果」	『保存科学』62	東京文化財研究所	5 年 3 月	有
15	同上	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 和泉田絢子、研究員　渡辺祐基、課長　木川りか	「博物館の展示収蔵空間における空気環境の管理と対策事例について」	紀要『東風西声』18 号	九州国立博物館	5 年 3 月	無
16	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか	文化財害虫の新たな殺虫法を模索する―臭化メチル代替法の取り組み―	文化財をしらべる・まもる・いかす―国立文化財機構　保存・修復の最前線－	アグネ技術センター	12 月	無
17	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	木材中に潜む文化財害虫を見つけ出す―X 線 CT による検出と生態解析―	文化財をしらべる・まもる・いかす―国立文化財機構　保存・修復の最前線－	アグネ技術センター	12 月	無
18	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	博物館で文化財をまもる―九州国立博物館博物館科学課保存修復室研究員の日常―	文化財をしらべる・まもる・いかす―国立文化財機構　保存・修復の最前線－	アグネ技術センター	12 月	無
19	同上	筑紫女学園大学　田村史子、日本大学　中川一人、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	東南アジアの金属楽器『ゴング』に関する体系的研究―その形と音	『筑紫女学園大学人間文化研究所年報』33 号	筑紫女学園大学人間文化研究所年報	8 月	無
20	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	「首里城跡出土の勾玉と玉材片の材質と技法について」	『文化財保存修復学会第 44 回大会研究発表要旨集』	文化財保存修復学会	6 月	無
21	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	「神領 10 号墳から出土した赤色顔料について」	『大隅大崎　神領 10 号墳の研究Ⅲ』	鹿児島大学総合研究博物館	5 年 3 月	無
22	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	「首里城跡から出土した勾玉製作関係資料について」	紀要『東風西声』18 号	九州国立博物館	5 年 3 月	無
23	同上	大西漆芸修復スタジオ 大西智洋、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、浦添市美術館　金城聡子	黒漆孔雀牡丹唐草沈金食籠の修復実績と X 線 CT 調査報告	『浦添市美術館紀要』18 号	浦添市教育委員会　教育部浦添市美術館	5 年 3 月	無
24	同上	学芸部文化財課長 白井克也	加耶の広口壺	紀要『東風西声』18 号	九州国立博物館	5 年 3 月	無
25	同上	学芸部博物館科学課 主任研究員　鷲頭桂	「玄宗皇帝絵にみる勧戒性―長恨歌絵を中心に」	『アジア遊学 271　善を勧め、悪を戒める―勧戒画の世界』	勉誠社	6 月 30 日	無
26	同上	学芸部博物館科学課 主任研究員　鷲頭桂	「世界史のなかの南蛮美術」	『美術フォーラム 21』46 号	醍醐書房	12 月 15 日	有
27	同上	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 瓜生翠	「月江正印墨蹟 識語」	『日本歴史』888、口絵解説	日本歴史学会	5 月	無
28	同上	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 瓜生翠	「妙光寺所蔵 元版普寧寺蔵『大般若経』」	横内裕人編『対馬の渡来版経 護り伝える東アジアの至宝』	勉誠出版	8 月	無
29	同上	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 瓜生翠	「萬松院所蔵の朝鮮版経典」	横内裕人編『対馬の渡来版経 護り伝える東アジアの至宝』	勉誠出版	8 月	無
30	同上	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 瓜生翠	「多久頭魂神社所蔵高麗版大蔵経にみる対馬宗氏の蔵経改」	『歴史学研究』1030	歴史学研究会	12 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
31	同上	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 瓜生翠	「木版印刷文化財の付着物からみる製作痕の観察－重要文化財「多久頭魂神社高麗版一切経」を例としてー」	紀要『東風西声』18 号	九州国立博物館	5 年 3 月	無
32	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、同アソシエイトフェロー　和泉田絢子、同研究補佐員　田中麻美	叢梨地牡丹唐草向鶴絞散蒔絵調度の木地構造について（3）化粧道具（手箱）	紀要『東風西声』18 号	九州国立博物館	5 年 3 月	無
33	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	作品解説、講評（漆芸、金工、人形、諸工芸）	第 56 回西部伝統工芸展図録	日本工芸会	6 月	無

【東京文化財研究所】　50件

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　17件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　6件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部研究補佐員　大谷優紀	早稲田大学會津八一記念博物館所蔵「べしみ」面に関する一考察	『美術研究』439 号	東京文化財研究所	5 年 3 月	無
2	同上	文化財情報資料部日本東洋美術史研究室長 小野真由美	作品紹介　狩野探幽筆　探幽縮図（梅竹菓子巻）	『MUSEUM』702 号	東京国立博物館	5 年 2 月	有
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部　近・現代視覚芸術研究室研究員　吉田暁子	「壺」幻視―新収蔵の岸田劉生《壺》を契機として―	『視る』518 号	京都国立近代美術館	5 月	無
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部研究員米沢玲、広領域研究室長安永拓世	光明寺所蔵羅漢図について―重層的な作品理解を目指して―	『美術研究』437 号	東京文化財研究所	8 月	無
5	同上	文化財情報資料部広領域研究室長　安永拓世	徳川頼宣の「初陣具足」と「江雪左文字」―家康が託した思いとともに―	『福山城築城 400 年記念協賛事業 特別展 名刀 江雪左文字―江雪斎、家康、頼宣が愛した刀の物語―』	ふくやま美術館	5 年 2 月	無
6	同上	文化財情報資料部広領域研究室長　安永拓世	「与謝蕪村筆「寒山拾得図」（妙法寺蔵）再考」	『妙法寺蔵　与謝蕪村筆寒山拾得図　共同研究報告書』	東京文化財研究所	5 年 3 月	無

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　　11件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等	無形文化遺産部無形文化財研究室	「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告 6」	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
2	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室	「富本節『山姥』考―東京文化財研究所所蔵「文化財保存レコード」を中心にー」	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
3	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室	「【資料紹介】近世染織技法書における糊の原材料」	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
4	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室研究員 鎌田紗弓・無形文化遺産部調査研究アシスタント 齋藤穂歌	「無形のわざを書き記す：浅田譜における「作譜」(1)」	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
5	重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	新型コロナ禍の民俗芸能	日本民俗楽　第 310 号	民俗芸能刊行委員会	5 月	無
6	同上	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	岩村町獅子芝居	民俗芸能　第 100 号	民俗芸能刊行委員会	11 月	無
7	同上	無形文化遺産部主任研究員　今石みぎわ	南西諸島における製糖技術	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
8	同上	無形文化遺産部研究員 後藤知美	無形文化遺産の災害リスクの可視化と防災―防災対策・災害対応の標準化に向けて―	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
9	同上	無形文化遺産部研究員 後藤知美	相互作用を生み出す場としての民俗文化センター	まつりは守れるか	八千代出版	4 年 9 月 30 日	無
10	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	文化財情報資料部文化財情報資料研究室長　二神葉子	無形文化遺産の保護に関する第 17 回政府間委員会における議論の概要と今後の課題	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
11	同上	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智	気候変動と無形文化遺産	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　27件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	副所長　早川泰弘他	春日権現験記絵の彩色材料調査（巻十三・巻十四）	宮内庁三の丸尚蔵館所蔵国宝 絹本著色 春日権現験記絵 巻十三・巻十四 光学調査報告書	東京文化財研究所	5年3月31日	無
2	同上	文化財情報資料部客員研究員　山梨絵美子	「春日権現験記絵」の成立と受容の変遷	宮内庁三の丸尚蔵館所蔵国宝 絹本著色 春日権現験記絵 巻十三・巻十四 光学調査報告書	東京文化財研究所	5年3月31日	無
3	同上	文化財情報資料部専門職員　城野誠治	写真によって捉えた情報の考察	扇面法華経―光学調査報告書 近紫外線写真・蛍光写真・近赤外線写真編	東京文化財研究所	5年3月31日	無
4	同上	文化財情報資料部客員研究員　田中潤	四天王寺蔵扇面法華経冊子にみる服飾表現	扇面法華経―光学調査報告書 カラー写真編	東京文化財研究所	5年3月31日	無
5	同上	副所長　早川泰弘他	国宝 法華経（久能寺経）の材料調査 従地涌出品第十五 随喜功徳品第十八 普賢菩薩勧発品第二十八	国宝 法華経（久能寺経） 光学調査報告書	東京文化財研究所	5年3月31日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　22件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	生物科学研究室長 佐藤嘉則、アソシエイトフェロー　島田潤	文化財害虫の新たな検出法 -DNAバーコーディングの応用-	文化財の虫菌害　第83号	文化財虫菌害研究所	6月26日	無
2	同上	生物科学研究室長 佐藤嘉則	分子生物学的手法による文化財害虫の特定	月刊文化財　第709号	第一法規株式会社	10月1日	無
3	同上	アソシエイトフェロー 島田潤　他	文化財害虫とその対処-最近のトピックを中心に-	月刊文化財　第709号	第一法規株式会社	10月1日	無
4	同上	アソシエイトフェロー 島田潤、生物科学研究室長　佐藤嘉則	New records of Ctenolepisma calvum (Ritter, 1910) (Zygentoma, Lepismatidae) from Japan	Biodiversity Data Journal vol.10	Pensoft Publishers	11月3日	有
5	同上	生物科学研究室長 佐藤嘉則	持続可能な資料保存における有害生物管理の諸課題	国立民族学博物館調査報告155	株式会社遊文社	11月7日	有
6	同上	生物科学研究室客員研究員　北原博幸、同室長 佐藤嘉則、同客員研究員 藤井義久　他	湿度制御した温風処理による木造建造物加害甲虫類の殺虫(1) 温湿度制御性能の評価	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
7	同上	生物科学研究室客員研究員　北原博幸、同室長 佐藤嘉則、アソシエイトフェロー　島田潤、同客員研究員　藤井義久　他	湿度制御した温風処理による木造建造物加害甲虫類の殺虫（2） 殺虫効果の確認と建造物への影響の検討	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
8	同上	生物科学研究室研究補佐員　小野寺裕子、アソシエイトフェロー島田潤、 同室長　佐藤嘉則　他	ベイト剤によるシミの殺虫効果	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
9	同上	生物科学研究室客員研究員　片山葉子、同室長 佐藤嘉則、分析科学研究室長・犬塚将英　他	虎塚古墳壁画から落下した微小剥落片の微生物叢解析	文化財論叢5	奈良文化財研究所	5年3月31日	無
10	文化財の保存環境にかかる調査研究	修復技術研究室　研究員水谷悦子，客員研究員伊庭千恵美，研究補佐員相馬静乃，保存環境研究室長　秋山純子	博物館・美術館の冬季の空調消費エネルギー量と間欠運転時の収蔵庫内環境	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
11	同上	研究補佐員　相馬静乃，保存環境研究室長　秋山純子、佐野千絵	シャープカットフィルターで短波長側を遮光した 光照射によるクルクミン染料の変退色挙動について	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
12	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	分析科学研究室長 犬塚将英、同室アソシエイトフェロー　紀芝蓮他7名	高輪築堤から採取された目地資料の分析調査	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
13	同上	分析科学研究室アソシエイトフェロー　紀芝蓮、 同室長　犬塚将英他4名	光明寺所蔵「羅漢図」に使われた彩色材料	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
14	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	修復計画研究室長 朽津信明他2名	富山市大山地域の恐竜の足跡化石の経年変化評価	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
15	同上	修復計画研究室長 朽津信明	文化財としての自然史資料の修復について	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
16	文化財修復と伝統技法に関する調査研究	修復材料研究室長 早川典子　他	デンプン糊で裏打ちされる文化財へのα-アミラーゼ適用方法に関する検討	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
17	同上	修復材料研究室　研究員 倉島玲央　他	硬化乾燥初期における漆塗膜に水が与える影響	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
18	同上	アソシエイトフェロー 鳥海秀実	保存修復専門家(コンサヴァター)の職業の定義、倫理規程と実務指針	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
19	同上	修復材料研究室長 早川典子　他	デジタルマイクロスコープによる 3 次元計測値の補正方法について－繊維実測の精度向上のための事前検証－	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
20	多様な文化財の修復技術に関する調査研究	保存科学研究センター研究員　芳賀文絵、室長 建石徹	紙資料の真空凍結乾燥における乾燥温度と乾湿繰り返しによる状態の変化について	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
21	同上	保存科学研究センター研究員　芳賀文絵、千葉毅、室長　建石徹	文化財防災と保存科学の接点と相互作用　－修復技術研究室設置にあたって－	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
22	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	分析科学研究室長 犬塚将英　他 10 名	小型 X 線回折分析装置の開発と高松塚古墳壁画の彩色材料分析への適用	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　1件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　1件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター客員研究員　山田大樹	Governance Challenges in Nepal After the Gorkha Earthquake, in Light of the World Heritage Convention	Post-trauma and the Recovery Governance of Cultural Heritage	Springer	12 月	無

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　5件

○調査研究成果の発信　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部長 江村知子	失われた寒山拾得像をもとめて-文化財アーカイブの奇跡	『寒山拾得図襖絵共同研究報告書』	東京文化財研究所	5 年 3 月	無
2	同上	文化財情報資料部研究員 米沢玲	展覧会評　ブッダのお弟子さん　教えをつなぐ物語	『美術研究』438 号	東京文化財研究所	5 年 3 月	無
3	文化財情報基盤の整備・充実	文化遺産国際協力センター国際情報研究室長 金井健	東京文化財研究所所蔵伊藤延男資料の概要とその特徴	日本建築学会大会学術講演梗概集	日本建築学会	9 月	無
4	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　藤井郁乃	霧島ジオパークにおける重層的な地域資源の利活用に関する研究	令和 4 年度 霧島ジオパーク学術研究支援補助金　実績報告書	霧島ジオパーク推進連絡協議会事務局	5 年 2 月	無
5	調査研究成果の発信	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　藤井郁乃、前田康記	コラム　海域で捉え直す文化遺産：調査「海域交流ネットワークと文化遺産」から見えてきたこと	『文化遺産の世界 ウェブサイト　レポート』	NPO 法人文化遺産の世界	12 月 16 日	無

【奈良文化財研究所】157件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　86件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　7件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部建造物研究室長　大林潤	松江市内社寺建築の特質―松江市内社寺建築悉皆調査より―	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
2	同上	都城発掘調査部主任研究員　鈴木智大	高野山の近世建築における古代・中世建築の継承	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
3	同上	都城発掘調査部研究員 福嶋啓人	地形と伝統的町割りの連関―佐渡市小木町を事例として―	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
4	同上	都城発掘調査部研究員 山崎有生	生駒市における歴史的建造物悉皆調査について	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
5	同上	文化遺産部建造物研究室長　大林潤	松江神社の造営大工と松江藩御大工について	文化財論叢Ⅴ　奈良文化財研究所創立 70 周年記念論文集	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
6	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部歴史研究室アソシエイトフェロー　橘悠太	仁和寺御経蔵聖教の形成と展開	文化財論叢Ⅴ　奈良文化財研究所創立 70 周年記念論文集	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
7	同上	文化遺産部歴史研究室長　吉川聡	平城京・宮のあとの断章―奈良文化財研究所の敷地から―	文化財論叢Ⅴ　奈良文化財研究所創立 70 周年記念論文集	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　79 件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡等整備)	文化遺産部長　内田和伸	宮跡顕彰に対する国家的な動き―第 13 回貴族院議会「御歴世宮阯保表ノ建議」ほか	未来につなぐ平城宮跡―保存運動のあけぼの―　平城宮跡資料館図録	奈良文化財研究所	4 月	無
2	同上	文化遺産部長　内田和伸	史蹟名勝天然紀念物保存法と山田寺跡の史跡指定	『特別史跡山田寺　史跡指定一〇〇年』	奈良文化財研究所	6 月	無
3	同上	文化遺産部長　内田和伸	歴史的建造物の復元	造園大百科事典	朝倉書店	7 月 1 日	無
4	同上	文化遺産部長　内田和伸	建造物の修理・整備・防災	造園大百科事典	朝倉書店	7 月 1 日	無
5	同上	文化遺産部長　内田和伸	史跡等の整備・復旧・復元・防災	造園大百科事典	朝倉書店	7 月 1 日	無
6	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	登録紀念物	造園大百科事典	朝倉書店	7 月 1 日	無
7	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	近代の庭園･公園等に関する調査研究/名勝に関する全国的な調査	造園大百科事典	朝倉書店	7 月 1 日	無
8	同上	文化遺産部長　内田和伸	特別史跡平城宮跡の初期の整備	のこった奇跡のこした軌跡―未来につなぐ平城宮跡―平城宮跡資料館図録	奈良文化財研究所	10 月 1 日	無
9	同上	文化遺産部長　内田和伸	近世城跡から移築された城郭建築遺構の保存・活用について	移築された遺跡由来の遺構および石造物の現状と課題 令和３年度 遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	5 年 3 月 20 日	無
10	同上	文化遺産部長　内田和伸	奈良市内の近代庭園における古材利用	移築された遺跡由来の遺構および石造物の現状と課題 令和３年度 遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	5 年 3 月 20 日	無
11	同上	文化遺産部長　内田和伸	移築･移設された遺跡由来の遺構および石造物について	移築された遺跡由来の遺構および石造物の現状と課題 令和３年度 遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	5 年 3 月 20 日	無
12	平城宮･京の発掘調査	都城発掘調査部考古第三研究室長　今井晃樹ほか	平城宮東方官衙地区の調査　一第 621 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
13	同上	都城発掘調査部遺構研究室研究員　山崎有生ほか	平城宮東院地区の調査　一第 633 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
14	同上	都城発掘調査部史料研究室研究員　垣中健志ほか	平城宮西北部の調査　一第 642 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
15	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹ほか	平城京左京三条一坊十五坪の調査 第 635 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
16	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本祥隆ほか	平城京左京一条二坊十五坪の調査 第 638・639 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
17	同上	都城発掘調査部遺構研究室研究員　目黒新悟	興福寺東金堂院の調査　第 640 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
18	同上	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　浦蓉子ほか	平城京左京三条四坊十坪の調査 第 641 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
19	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　村田泰輔ほか	興福寺鐘楼出土白色薄片の材料分析　第 625 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
20	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	都城発掘調査部遺構研究室研究員　目黒新悟	大仏殿の検討を踏まえた組物と軒の復元　一東大寺東塔の復元研究 5―	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
21	同上	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー　山本光良ほか	仏壇の検討　一東大寺東塔の復元研究 6―	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
22	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部考古第二研究室長　神野恵	平城京出土の唐の白磁	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
23	同上	国学院大学　青木敬（客員研究員）	押捺位置からみた「美濃国」「美濃」刻印須恵器	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
24	同上	都城発掘調査部考古第三研究室長　今井晃樹・同考古第二研究室長　林正憲	平城京・藤原京出土軒瓦の新種について	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
25	同上	企画調整部展示企画室長　岩戸晶子	3 次元モデルを活用した法隆寺所用古代鬼瓦の復元	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
26	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹ほか	平城宮東院築出土土器および土壌の残存脂質分析　―第 593・633 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
27	同上	都城発掘調査部考古第三研究室長　今井晃樹	昭和 38 年一条院調査出土の古代瓦 第 17－1 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
28	同上	企画調整部展示企画室長　岩戸晶子	薬師寺出土資料から見る近代史の一側面　第 88－21・103-23・500 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
29	同上	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　浦蓉子ほか	平城宮・京出土木質遺物の樹種　第 440・524 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
30	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹	平城宮・京出土の遊戯具（２）	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
31	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	埋蔵文化財センター年代学研究室長　星野安治・都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚・副所長　高妻洋成ほか	藤原京左京六条三坊出土曲物円板の年輪年代測定	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
32	同上	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　岩永玲・同考古第一研究室長　廣瀬覚・同考古第一研究室研究員　谷澤亜里・埋蔵文化財センター主任研究員　村田泰輔・上中央子（客員研究員）	藤原宮大極殿院―第 208 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
33	同上	都城発掘調査部考古第三研究室長　林正憲・埋蔵文化財センター長　金田明大	日高山瓦窯の調査―第 207-3 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
34	同上	都城発掘調査部主任研究員　山藤正敏・同主任研究員　鈴木智大・同考古第三研究室研究員　道上祥武・埋蔵文化財センター主任研究員　村田泰輔・同センター長　金田明大ほか	大官大寺南方の調査―第 206 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
35	同上	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　松永悦枝	石神遺跡東方の調査―第 209 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
36	同上	特任研究員　玉田芳英	飛鳥・藤原地域出土の墨書土器・刻書土器（１）	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	有
37	同上	片山健太郎（埼玉県立歴史と民族の博物館）・都城発掘調査部主任研究員　田村朋美	飛鳥・藤原地域出土の馬具・帯金具	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
38	同上	上中央子（客員研究員）	大官大寺南方 SD4590 の大型植物遺体群	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
39	同上	尾野善裕（京都国立博物館）・都城発掘調査部考古第二研究室長　森川実・大澤正吾（文化庁）	石神遺跡土坑 SK1150 出土の土器	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
40	同上	都城発掘調査部主任研究員　山藤正敏・同史料研究室長　山本崇	石神遺跡 SD1347A 出土の土器群・木簡―石神遺跡第 14・15 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
41	同上	藤間温子（客員研究員）・都城発掘調査部史料研究室長　山本崇	飛鳥池遺跡出土削屑の再釈読―第 84 次ほか	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
42	同上	都城発掘調査部副部長　清野孝之	川原寺式軒丸瓦 601 型式Ｃ種の同笵瓦の検討	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
43	同上	都城発掘調査部副部長　清野孝之	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）のこの 10 年と展望	月刊文化財 705 号	第一法規出版	4 年 6 月	無
44	同上	都城発掘調査部副部長　清野孝之	山田寺の歴史と発掘調査	特別史跡山田寺跡　史跡指定 100 年	奈良文化財研究所	10 月	無
45	同上	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	壁画古墳・高松塚古墳の調査成果とその意義	上野三碑の時代 令和４年度群馬県立歴史博物館第 107 回企画展	群馬県立歴史博物館	10 月	無
46	同上	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	高松塚古墳の出土品（奈文研ギャラリー77）	奈文研ニュース No. 85	奈良文化財研究所	6 月	無
47	同上	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　松永悦枝	石神遺跡東方の調査（飛鳥藤原第 209 次）	奈文研ニュース No. 85	奈良文化財研究所	6 月	無
48	同上	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　道上祥武	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 210 次）	奈文研ニュース No. 86	奈良文化財研究所	9 月	無
49	同上	都城発掘調査部史料研究室長　山本崇	但馬出土文字資料集成の刊行	奈文研ニュース No. 87	奈良文化財研究所	12 月	無
50	同上	都城発掘調査部主任研究員　若杉智宏	奥山廃寺の調査（飛鳥藤原第 211-6 次）	奈文研ニュース No. 87	奈良文化財研究所	12 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
51	同上	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　谷沢亜里	石神遺跡東方の調査（飛鳥藤原第 212 次）	奈文研ニュース No.88	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
52	同上	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　岩永玲	藤原宮大極殿院　飛鳥藤原第 208 次調査	飛鳥の考古学 2022	奈良文化財研究所	5 年 1 月	無
53	同上	都城発掘調査部主任研究員　山藤正敏	大官大寺南方　第 206 次調査	飛鳥の考古学 2022	奈良文化財研究所	5 年 1 月	無
54	同上	都城発掘調査部主任研究員　山藤正敏	石神遺跡 SD1347 出土の土器群　石神遺跡（第 14 次）	飛鳥の考古学 2022	奈良文化財研究所	5 年 1 月	無
55	同上	都城発掘調査部考古三研究室研究員　岩永玲	藤原宮大極殿院の調査	条里制・古代都市研究 38	条里制・古代都市研究会	5 年 3 月	無
56	同上	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	藤原宮中枢部の構造ー大極殿院を中心に	考古学ジャーナル 778 号	ニューサイエンス社	5 年 2 月	無
57	同上	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	山田寺伽藍配置計画の再検討	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
58	同上	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　岩永玲	藤原宮大極殿院北部の造営過程に関するー検討	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
59	同上	都城発掘調査部主任研究員　若杉智宏	甘樫丘東麓遺跡と乙巳の変	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
60	同上	都城発掘調査部副部長　清野孝之	飛鳥・藤原地域の川原寺式軒丸瓦	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
61	同上	都城発掘調査部長　箱崎和久	飛鳥池遺跡出土建築部材の建築史的意義	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
62	同上	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　浦蓉子	藤原宮・京出土の紡織具	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
63	同上	特任研究員　玉田芳英	藤原宮造営に関する覚書	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
64	同上	飛鳥資料館学芸室長　石橋茂登	キトラ古墳・高松塚古墳壁画についての覚書	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
65	同上	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　道上祥武	「藤原宮」後	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
66	同上	都城発掘調査部史料研究室長　山本崇	日付のある木簡考ー木簡からみた古代の休日ー	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
67	同上	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　田中龍一	平安時代における川原寺の瓦生産―軒平瓦の分析を中心に―	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
68	同上	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー村上夏希・都城発掘調査部考古第二研究室長　森川実・企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	石神遺跡井戸 SE800 出土土器付着炭化物の残存脂質分析	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
69	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館学芸室長　石橋茂登	キトラ古墳・高松塚古墳壁画についての覚書	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
70	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部景観研究室長　中島義晴他	『整備基本計画の策定から整備へ』に関するアンケートの集計結果	第 46 回全国遺跡環境整備会議資料集	第 46 回全国遺跡環境整備会議実行委員会	10 月 20 日	無
71	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	歴史的な庭園の修復事業の具体例	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
72	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	阿佐家住宅・箸蔵寺本坊の庭園および徳島県域の類例	吉野川支流域名勝調査報告書	三好市教育委員会	5 年 3 月	無
73	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	高松塚古墳壁画男子女子群像「乾拓」体験イベント	奈文研ニュース No.87	奈良文化財研究所	5 年 1 月	無
74	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	高松塚古墳の仮整備と公開活用	第 14 回東京講演会講演資料集	奈良文化財研究所	10 月 22 日	無
75	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	歴史的庭園の修復	造園大百科事典	朝倉書店	7 月 1 日	無
76	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	埋蔵文化財センター主任研究員　村田泰輔	The Construction of the Historical Disaster Evidence Database and its Effectiveness.	JDR Vol.17	富士技術出版株式会社	4 月	有
77	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹ほか	古代集落の構造と変遷	第 25 回古代官衙・集落研究会報告書	奈良文化財研究所	12 月 16 日	無
78	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	都城発掘調査部史料研究室研究員　垣中健志	文献史料から見た古代集落	『第 25 回古代官衙・集落研究会報告書　古代集落の構造と変遷 2』（奈良文化財研究所研究報告 36 冊）	奈良文化財研究所	12 月 16 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
79	水中文化遺産に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、同室長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成ほか6名	“Black Spots”の正体は何か？－還元性硫黄化合物が展示時の銅製遺物の劣化に及ぼす影響	日本文化財科学会第39回大会要旨集	日本文化財科学会	9月10日	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　39件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　13件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治	旧森川家住宅古材の年輪年代調査	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	無
2	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治ほか	藤原京左京六条三坊出土曲物円板の年輪年代測定	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	無
3	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治ほか	平城宮・京出土木質遺物の樹種－第440・524次	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	無
4	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治	正倉院聖語蔵（旧尊勝院経蔵）の年輪年代	正倉院紀要45	宮内庁正倉院事務所	5年3月31日	無
5	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治ほか	靍尾遺跡出土木製品類の樹種同定・年輪年代測定	京都府遺跡調査報告集	京都府埋蔵文化財調査研究センター	5年3月31日	無
6	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治ほか	木津川河床遺跡出土井戸枠部材・木製品類の樹種同定・年輪年代測定	京都府遺跡調査報告集	京都府埋蔵文化財調査研究センター	5年3月31日	無
7	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治	仁和寺塔中蔵聖教箱の年輪年代学的検討	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5年3月31日	無
8	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治	年輪年代調査	法隆寺金堂古材調査報告書	法隆寺	5年3月31日	無
9	動植物遺存体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎健	古代（飲食と考古学）	季刊考古学159	雄山閣	5月1日	無
10	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎健	モモ核に認められたネズミの食痕	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	有
11	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎健ほか	魚類遺存体からみた縄文海洋進出史（東北～東海地方）	季刊考古学161	雄山閣	11月1日	無
12	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎健	学際領域研究の動向	日本考古学年報74	日本考古学協会	12月5日	無
13	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎健	西大寺食堂院出土の動物遺体	再現古代寺院の食事	吉川弘文館	5年3月31日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　26件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・松田和貴、同研究員・柳田明進、都城発掘調査部主任研究員・田村朋美、副所長・高妻洋成ほか4名	トレハロース処理法の寸法安定性に関する考察１　-接触角から推定される結晶形態による検討-	日本文化財科学会第39回大会要旨集	日本文化財科学会	9月10日	無
2	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー・楊曼寧、同研究員・柳田明進、同室長・脇谷草一郎ほか1名	出土銅製品に施された漆塗膜の剥離メカニズムの検討（その１）―カールした塗膜とその金属下地の状態把握―	日本文化財科学会第39回大会要旨集	日本文化財科学会	9月10日	無
3	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・松田和貴、同室長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成	溶媒蒸発速度の制御による水浸出土木製遺物の保存処理における薬剤含浸の効率化（その３）	日本文化財科学会第39回大会要旨集	日本文化財科学会	9月10日	無
4	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進	鉄製遺物の腐食から考える展示・保管時の適切な環境条件	金属93号	アグネ技術センター	3年2月25日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
5	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、都城発掘調査部（平城地区）・浦蓉子ほか 3 名	平城宮・京出土鉄製遺物の腐食に及ぼす埋蔵環境の影響― 埋蔵時における鉄製遺物内部への塩化物塩集積に関する検討 ―	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
6	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・松田和貴	出土木製遺物の保存処理の効率化をめざした新たな薬剤含浸法の検討	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
7	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、副所長・髙妻洋成ほか 4 名	「屋外文化財の保存－環境調整による遺跡現地保存法の一考察－」	『月刊文化財』（703 号）	第一法規	4 月	無
8	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、副所長・髙妻洋成ほか 4 名	特別名勝一乗谷朝倉氏庭園の景石保存に関する研究 ―周辺環境が景石の劣化におよぼす影響―	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
9	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、副所長・髙妻洋成ほか 4 名	博物館内における遺構の展示手法と周辺環境の最適化に関する研究－遺構展示室内の環境調査と遺構の埋戻し方法の検討－	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
10	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、副所長・髙妻洋成ほか 1 名	史跡名勝瑞泉寺庭園における庭石の風化状況に関する調査	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
11	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか 2 名	歴史的煉瓦造建築物の塩類風化対策に関する研究 ―塩を含む材料中の含水率、塩濃度の測定方法と電気的脱塩方法に関する基礎的検討―	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概	日本建築学会近畿支部	6 月 25 日	無
12	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか 3 名	文化財資料の変形・損傷予測に基づいた保存環境の制御方法の検討―法隆寺金堂飛天壁画の下地材料を対象とした湿潤時のひずみの測定	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概	日本建築学会近畿支部	6 月 25 日	無
13	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか 1 名	同一石材で造られた石棺の劣化状態および保存環境の比較による乾湿繰り返しによる石材劣化メカニズムの検討	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
14	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか 2 名	蛍光 X 線を用いた多孔質材料表面近傍の塩濃度分析手法の検討	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
15	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか 3 名	法隆寺金堂飛天壁画の模擬下地材料を対象とした湿潤・乾燥時のひずみの測定	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
16	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか 2 名	全天空写真による日射が石造文化財に及ぼす影響の推定	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
17	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進 ほか 2 名	博物館内における遺構の展示手法と周辺環境の最適化に関する研究－遺構展示室内における遺構の展示環境の調査－	一乗谷朝倉氏遺跡資料館紀要 2021	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館	9 月 10 日	無
18	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか 6 名	ブハラオアシス出土のガラス製遺物の Sr 同位体比分析	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
19	同上	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか 6 名	ウズベキスタン・ブハラオアシス内遺跡から出土した初期イスラームガラスの化学分析	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
20	同上	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか 2 名	猪ノ鼻(1)遺跡出土玉類等の XRF、ESR、XRD による非破壊分析	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
21	同上	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか 6 名	和泉・塔塚古墳出土遺物調査報告（３）―大阪市立美術館旧保管資料を中心として―	同志社大学歴史資料館館報第 25 号	同志社大学歴史資料館	5 年 2 月 20 日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
22	同上	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか 2 名	ミャンマー産陶器の化学分析	東南アジア考古学第 42 号	東南アジア考古学会	5 年 2 月 25 日	無
23	同上	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	Sr 同位体比分析による日本列島出土ガラスの産地に関する考察	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
24	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、同室長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成ほか 5 名	Deterioration Tests Using Simulated Tumulus to Evaluate In Situ Preservation of Metal Artifacts in a Stone Chamber	Metal2022 PROCEEDINGS OF THE INTERIM MEETING OF THE ICOM-CC METALS WORKING GROUP	ICOM—CC and the National museum of finland	9 月 10 日	無
25	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー・松野美由樹、同保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか 1 名	ガランドヤ２号墳における緑色生物に関する報告	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
26	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員・中田愛乃、都城発掘調査部主任研究員・田村朋美、保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第一研究室長・ 廣瀬覚, 飛鳥資料館学芸室長・石橋茂登ほか 5 名	高松塚古墳から出土した棺金具の付着物質に関する分析	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　7 件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 7 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化遺産保護に関する国際協働	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	The importance of wild resources as a reflection of the resilience and changing nature of early agricultural systems in East Asia and Europe	Frontiers in Ecology and Evolution	Frontiers	10 月 26 日	有
2	同上	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	Bayesian analyses of direct radiocarbon dates reveal geographic variations in the rate of rice farming dispersal in prehistoric Japan	Science Advances	American Association for the Advancement of Science	4 月	有
3	同上	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	Отпечатки проса на керамике раннего железного века из кургана Тортоба в Западном Казахстане	Қазақстан археологиясы	Институт археологии им. А. Х. Маргулана	12 月 19 日	有
4	同上	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	平城宮東院地区出土土器および土壌の残存脂質分析	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月	無
5	同上	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	古代遺跡出土の磨痕石に遺された残存脂質	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月	無
6	同上	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	混合モデルを用いた土器残存脂質における植物質食料の寄与度の評価	中国新石器時代文明の探求	六一書房	5 年 3 月 20 日	無
7	同上	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	Lipid residues in ancient pastoralist pottery from Kazakhstan reveal regional differences in cooking practices	Frontiers in Ecology and Evolution	Frontiers	11 月 10 日	有

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　25件

○調査研究成果の発信　0件

○文化財情報基盤の整備・充実　25件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	SNS 等を活用したオープンな情報発信	令和 3 年度小豆島大坂城石垣石丁場調査概報	小豆島石丁場調査団	5 月 31 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
2	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	小瀬原石丁場の文字刻印	令和3年度小豆島大坂城石垣石丁場調査概報	小豆島石丁場調査団	5月31日	無
3	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	小瀬原石丁場における水中調査	令和3年度小豆島大坂城石垣石丁場調査概報	小豆島石丁場調査団	5月31日	無
4	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	3Dデータを活用した石垣石材刻印の検出法	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	無
5	同上	企画調整部アソシエイトフェロー吳 修喆	科学技術社会論の視点からみる文化財多言語化ー多言語化木簡リーフレットのプロデュースを例にー	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	無
6	同上	企画調整部アソシエイトフェロー扈 素妍	韓国における文化財用語　醇化に関する断想概要	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	無
7	同上	企画調整部主任研究員 高田祐一、企画調整部アソシエイトフェロー Peter Yanase、 Franco Niccolucci	Integrating the Japanese Archaeological Dataset into the ARIADNEplus Data Infrastructure	Digital Humanities 2022: Conference Abstracts	DH2022 Local Organizing Committee	7月31日	有
8	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	スマホLiDARによる文化財調査―ワークフロー確立に向けた基礎整理―	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
9	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	文化財3Dモデルをインターネットで公開する―歴史系博物館・埋蔵文化財センター等のsketchfab 開設状況―	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
10	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	3D技術を活用した石材刻印の可視化手法―CloudCompareで見えない線刻を鮮明化する	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
11	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	SNS 利用で効果的に情報発信力を強化する―歴史系博物館・埋蔵文化財センター等のTwitter 開設状況―	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
12	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	学生座談会「コロナ禍は、学生の文献収集活動にどう影響を与えたか？ 次世代の調査研究環境のあり方を考える」	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
13	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	2022年度数字で見る全国遺跡報告総覧	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
14	同上	企画調整部アソシエイトフェロー吳 修喆	文化財を「翻訳」する（三）：練習問題と参考資料	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
15	同上	企画調整部アソシエイトフェロー扈 素妍	「文化財」から「国家遺産」へ：韓国における文化遺産体制の変化	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
16	同上	企画調整部アソシエイトフェロー扈 素妍	韓国における「都城」の英訳考：UNESCO 世界文化遺産の ICOMOS 評価書を中心に	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
17	同上	企画調整部アソシエイトフェローPeter Yanase	文化財多言語化のためのPython入門：韓国語の形態素解析	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
18	同上	企画調整部アソシエイトフェロー吳 修喆	文化財中訳スタイル・マニュアル：約物編	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
19	同上	企画調整部アソシエイトフェロー扈 素妍	文化財韓訳スタイル・マニュアル：約物編	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
20	同上	企画調整部アソシエイトフェローPeter Yanase	文化財多言語化のための英文タイポグラフィ入門	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
21	同上	企画調整部アソシエイトフェローPeter Yanase、Rebekah Harmon	文化財英訳スタイル・マニュアル（英語版）	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
22	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	日本の遺跡情報を国際連携する：ARIADNE と SEADDA	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
23	文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究	企画調整部主任研究員 高田 祐一、武内 樹治	日本全国における文化財オープンデータの現状と課題	デジタルアーカイブ学会誌	デジタルアーカイブ学会	5月6日	有
24	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	日本考古学協会セッションアフタートーク「考古学・埋蔵文化財情報のオープン化のなぜ？誰が？どうやって？」」－	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
25	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	デジタル時代の発掘調査報告書のあり方―オンライン3D報告書を考える―	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

令和5年3月31日現在

【本部文化財活用センター】

○調査研究刊行物　　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	2021年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書	300	文化庁、首都圏小中学校、都道府県教育委員会、都道府県教育センター、国内の美術館・博物館等

【本部文化財防災センター】

○調査研究刊行物　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	令和3年度文化財防災センター年次報告書	400	連携協力機関、関係者・協力者等 （奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」を通じて、WEB上にて公開）

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物　　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	「MUSEUM」697～702号（6冊）	各1,800	美術館・博物館・大学・研究所等
2	「東京国立博物館紀要」58号	500	美術館・博物館・大学・研究所等
3	「東京国立博物館文化財修理報告」23	—	ウェブ公開
4	「法隆寺献納宝物特別調査概報」XLII(42)　竜首水瓶（令和3年度PDF制作、令和4年度刊行）	400	美術館・博物館・大学・研究所等

○展覧会図録等　　20件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展図録	特別展　沖縄復帰50年記念『琉球』	—	—
2		特別展　『国宝　東京国立博物館のすべて』	—	
3		特別企画『大安寺の仏像』	13,000	来館者無料配布、美術館・博物館・大学・研究所、関係者等
4		特別展　『東福寺』	—	—
5	特集展示 そのほか	150年特集「東京国立博物館の近世仏画―伝統と変奏―」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
6		150年特集「親と子のギャラリー 翼と羽」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
7		150年特集「時代を語る洋画たち」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
8		150年特集「東博のガラスコレクション」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
9		150年特集「チベット仏教の美術」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
10		150年特集「大谷探検隊と古代裂」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
11		150年特集「イスラーム陶器」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
12		150年特集「天下一号を授かった面打」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
13		150年特集「はにわ展から50年」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
14		「博物館で初もうで　兎にも角にもうさぎ年」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
15		『博物館でアジアの旅　アジア大発見！』	2,000	関係機関・協力先等
16		『東京国立博物館セレクション　絵巻』	2,000	関係機関・協力先等
17		修理記念報告書　『五馬図巻』	1,500	関係機関・協力先等
18		『続 根付　高円宮コレクション』	3,300	関係機関・協力先等
19		150年特集『東京国立博物館の模写・模造』	2,000	関係機関・協力先等
20		『東京国立博物館 考古展示室へいこう』（考古展示室ガイドブック）	2,000	関係機関・協力先等

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物　　3件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	研究紀要「学叢」第44号	800	美術館・博物館・大学等
2	文化財保存修理所　修理報告書20	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
3	社寺調査報告32　観心寺〈彫刻編〉	500	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等

○展覧会図録等　　6件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	伝教大師1200年大遠忌記念　特別展　最澄と天台宗のすべて	―	美術館・博物館・大学等
2	特別展　河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―	3,000	同上
3	特別展　京に生きる文化　茶の湯	―	同上
4	親鸞聖人生誕850年特別展　親鸞―生涯と名宝	―	同上
5	特集展示　新発見！蕪村の「奥の細道図巻」　リーフレット	8,000	来館者無料配布、ウェブ公開
6	特別公開　特別公開　熊本・宮崎の古墳文化―石人と貝輪―　リーフレット	13,000	同上
7	特集展示　雛まつりと人形　リーフレット	4,500	同上

※博物館だより、Newsletterの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物　　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」第25号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書 第5号	650	美術館・博物館・大学・研究機関等・教育委員会等

○展覧会図録等　　7件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	『特別展　大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―』	1,800	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	特別展	『貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展　中将姫と當麻曼荼羅　―祈りが紡ぐものがたり―』	1,830	美術館・博物館・大学・研究機関等
3	特別陳列	『わくわくびじゅつギャラリー はっけん！ほとけさまのかたち』	1,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
4	特別展	『第74回正倉院展』	2,350	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特別展	『The 74th Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』	960	美術館・博物館・大学・研究機関等
6	特別展	『式年造替記念特別展　春日大社　若宮国宝展―祈りの王朝文化―』	1,940	美術館・博物館・大学・研究機関等
7	特別公開	特別公開　奈良・不退寺本尊　聖観音菩薩立像	5,000	来館者等無料配布

※博物館だよりの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物　　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	九州国立博物館　研究紀要『東風西声』第18号	900	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	九州国立博物館　文化財修復報告　第5号（平成25年度～平成27年度）	600	文化財所有者・博物館・行政機関・研究機関等

○展覧会図録等　　6件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	特別展『北斎』	5,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	特別展	沖縄復帰50年記念特別展『琉球』	1,400	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	特別展	特別展『ポンペイ』	1,200	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	特別展	特別展『加耶』	1,100	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	特集展示等	特集展示『御所の器　公家山科家伝来の古伊万里』	1,500	博物館・美術館・大学・研究機関等
6	特集展示等	特集展示『種子島　風と波が育んだ歴史』	1,400	博物館・美術館・大学・研究機関等

※アジアージュの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　　6件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『妙法寺蔵 与謝蕪村筆寒山拾得図襖　共同研究報告書』	700	大学・研究機関・教育委員会・博物館・美術館・図書館等

・無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	第15回東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開学術講座「樹木利用の文化　桜をつかう、桜を奏でる」	250	大学・研究機関・教育委員会・図書館等、ウェブ公開

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
2	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス　フォーラム4「伝統芸能と新型コロナウイルス―これからの普及・継承―」報告書	100	大学・研究機関・教育委員会・図書館等、ウェブ公開
3	「肥後琵琶の伝承および関連資料の現状調査」報告書	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等、ウェブ公開
4	Techniques that support Japanse Performing Arts 1:Biwa（琵琶パンフ英語版）	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等、ウェブ公開
5	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅳ「型紙と型染」報告書	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　　8 件

・文化財の調査手法に関する研究開発の推進　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本著色 春日権現験記絵 巻十三・巻十四 光学調査報告書』	500	大学・研究機関、図書館等
2	『扇面法華経―光学調査報告書 カラー写真編』	600	大学・研究機関、図書館等
3	『扇面法華経―光学調査報告書 近紫外線写真・蛍光写真・近赤外線写真編』	600	大学・研究機関、図書館等
4	『国宝 法華経（久能寺経） 光学調査報告書』	600	大学・研究機関、図書館等
5	『ものの記憶―読み解き・伝え・遺す― 色彩編』	600	大学・研究機関、図書館等

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　3件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『国宝久能寺経　光学調査報告書』	600	大学・研究機関・教育委員会・博物館・美術館・図書館等
2	『国宝扇面法華経冊子　光学調査報告書　―蛍光Ｘ線分析編―』	600	大学・研究機関・教育委員会・博物館・美術館・図書館等
3	『Conservation and Restoration of Internal Features』	200	大学・研究機関・博物館・研究者等

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　　15 件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　15件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	令和4年度世界遺産研究協議会　文化財としての「景観」を問いなおす	PDF	官公庁、自治体、国際機関等
2	各国の文化財保護法令シリーズ［27］ドイツ	100	官公庁、図書館等
3	ブータンの伝統的石造民家建築保存のための予備調査　概報	PDF	ブータン内務文化省、事業関係者等
4	アジア諸国等文化遺産保存修復協力　令和４年度事業成果報告書	50	外部評価委員会、事業関係者等
5	Research Project on Stucco Decoration and Clay Statues	60	外部評価委員会、研究機関、関係団体等
6	トルコ共和国における事前調査報告書－文化財保存修復に係る共同研究の確立を目指して－	40	外部評価委員会、研究機関、関係団体等
7	International Course on Conservation of Japanese Paper: Evaluation 2022 /国際研修「紙の保存と修復」評価2022	150	関係者・関係機関等
8	第31回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「技術から見た国際協力のかたち」（日本語版）	200	大学・研究機関・図書館等
9	第31回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「技術から見た国際協力のかたち」（英語版）	200	大学・研究機関・図書館等
10	第32回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「中央ヨーロッパにおける文化遺産国際協力のこれまでとこれから」（日本語版）	200	大学・研究機関・図書館等
11	文化遺産国際協力コンソーシアム令和4年度国際協力調査　欧州における複数国協力体制およびウクライナ支援動向に関する調査報告書（日本語版）	200	大学・研究機関・図書館等
12	令和4年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム　気候変動と文化遺産－いま、何が起きているのか－（日本語版）	200	大学・研究機関・図書館等
13	令和3年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム　海と文化遺産ー海が繋ぐヒトとモノ（英語版）	200	大学・研究機関・図書館等
14	第30回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　文化遺産×市民参画=マルチアクターによる国際協力の可能性（英語版）	200	大学・研究機関・図書館等
15	文化遺産国際協力コンソーシアム　パンフレット	1000	関係機関・一般

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　　12 件

・調査研究成果の発信 12件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『東京文化財研究所年報』2021年度版	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	『東京文化財研究所概要』2022年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	『東文研ニュース』78号	1,400	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	『東文研ニュース』79号	1,400	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	『令和2年版　日本美術年鑑』	600	大学・研究機関、図書館等
6	『美術研究』437号	400	大学・研究機関、図書館等
7	『美術研究』438号	400	大学・研究機関、図書館等
8	『美術研究』439号	400	大学・研究機関、図書館等
9	『無形文化遺産研究報告』第17号	300	博物館・美術館・大学・研究機関等

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
10	『第17回無形民俗文化財研究協議会報告書』	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
11	『保存科学』62号	600	博物館・美術館・図書館・大学・研究機関等
12	『タイ・バンコク所在王室第一級寺院　ワット・ラーチャプラディットの漆扉』	1,000	博物館・美術館・大学・研究機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　　8件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『松江市内社寺建築詳細調査報告書』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　7件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『移築された遺跡由来の遺構および石造物の現状と課題　令和３年度 遺跡整備・活用研究集会報告書』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	藤原宮大極殿院の調査　飛鳥藤原第 210 次調査　現地見学会資料	2,000	現地見学者来場者・一般
3	平城宮発掘調査出土木簡概報（四十六）	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	第 25 回古代官衙・集落研究会報告書　古代集落の構造と変遷 2（奈良文化財研究所研究報告 36 冊）	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	第 26 回古代官衙・集落研究集会 古代集落の構造と変遷 3 研究報告資料	180	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	古代但馬国関係出土文字資料集成（本文編）（図版編）	700	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	『第 22 回シンポジウム「奈良末～平安初期の軒瓦」』発表要旨	400	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　　1 件

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	文化財をしらべる・まもる・いかす　ー国立文化財機構　保存・修復の最前線ー	―	一般書籍

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　　0 件

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　　15件

・文化財情報基盤の整備・充実　6件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良文化財研究所研究報告 : デジタル技術による 文化財情報の記録と利活用 5	50	電子公開
2	文化財多言語化研究報告3	650	研究機関・教育委員会・図書館等
3	NABUNKEN : A Walk Around the Institute（巡訪研究室―奈文研へのご招待―）	110	電子公開
4	巡访研究室 ―来自奈文研的邀请― (NABUNKEN: A Walk Around the Institute / 巡訪研究室―奈文研へのご招待―)	110	電子公開
5	巡訪研究室 ―來自奈文研的邀請― (NABUNKEN: A Walk Around the Institute / 巡訪研究室―奈文研へのご招待)	110	電子公開
6	순방연구실 ―나라문화재연구소로부터의 초대― (NABUNKEN: A Walk Around the Institute / 巡訪研究室―奈文研へのご招待―)	110	電子公開

・調査研究成果の発信　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良文化財研究所紀要2022	2,600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	奈良文化財研究所概要2022	2,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『奈文研ニュース』No.85～No.88	各2,200	大学・研究機関
4	文化財論叢Ⅴ　奈良文化財研究所創立70周年記念論文集　奈良文化財研究所学報第102冊	550	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・展示公開施設の充実　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	春期特別展『未来につなぐ平城宮跡 ー保存運動のあけぼのー』図録	3,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	秋期特別展『地下の正倉院展ー平城木簡年代記〔クロニクル〕ー』図録	3,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	秋期特別展『のこった奇跡のこした軌跡ー未来につなぐ平城宮跡ー』	3,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	飛鳥資料館図録第75冊『飛鳥美人　高松塚古墳の魅力』	1,800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	飛鳥資料館カタログ第39冊『飛鳥の考古学2022』	1,800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物　　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『IRCI概要2022(日本語版)』	600 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
2	『IRCI概要2022(英語版)』	600 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
3	Research on ICH Affected by the COVID-19 Pandemic: 'A Preliminary Report of the Questionnaire-Based Survey Conducted in FY 2021'	－ データ版のみ公開	※ウェブ公開
4	『IRCIリーフレット（英語版）』	1,000 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
5	『IRCIリーフレット（日本語版）』	1,000 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

令和5年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	176	67	41	10	5	11	109	36	72	1
科学研究費補助金のみ	52	21	11	4	2	4	31	10	21	0
学術研究助成基金助成金のみ	124	46	30	6	3	7	78	26	51	1
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）
※科学研究費助成事業の研究分担者等として参画しているものについてはc①2）他機関の共同研究への参画実績参照
※科学研究費の交付決定額には間接経費を含む。

【東京国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　11件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	田沢裕賀	研究員	基盤研究(A)【令和3年度繰越】	1,150
2	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	浅見龍介	学芸企画部長	基盤研究(B)【令和3年度繰越】	885
3	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	浅見龍介	学芸企画部長	基盤研究(B)	2,080
4	失われた古代・中世絵巻の復原的研究―作品伝来情報の検討から―	土屋貴裕	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長	基盤研究(B)	3,120
5	中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究	富田　淳	副館長	基盤研究(B)	3,250
6	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器と鋳造技術の比較研究	高浜　秀	客員研究員	基盤研究(B)【令和3年度繰越】	3,346
7	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器と鋳造技術の比較研究	高浜　秀	客員研究員	基盤研究(B)	4,160
8	輸送中の振動を受ける美術品の蓄積疲労予測システムの理論構築	和田　浩	学芸研究部保存修復課長	基盤研究(B)【令和3年度繰越】	900
9	輸送中の振動を受ける美術品の蓄積疲労予測システムの理論構築	和田　浩	学芸研究部保存修復課長	基盤研究(B)	2,470
10	3Dマルチ入力・マルチ出力土器分類DLモデルの開発研究	山本　亮	学芸研究部調査研究課考古室研究員	学術変革領域研究(A)	2,600
11	茶の湯の歴史を問い直す－創られた伝説から真実へ	三笠 景子	学芸企画部企画課出版企画室主任研究員	研究成果公開促進費（学術図書）	2,400

2）学術研究助成基金助成金のみ　30件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	中世律宗絵画に関する基礎的研究	瀬谷　愛	学芸研究部保存修復課保存修復室長	基盤研究(C)	0	4,420〈平成30～5年度〉
2	礼拝像・祭具制作における素材選択の心性史：材質とその聖性の喧伝に関する調査・研究	児島大輔	学芸研究部調査研究課東洋室主任研究員	基盤研究(C)	0	4,420〈平成30～5年度〉
3	文書・典籍料紙における繊維の再利用に関する基礎的研究	高橋 裕次	客員研究員	基盤研究(C)	650	2,210〈元～5年度〉
4	縄文時代の地域間交流の研究－CADを用いた土器容量の比較－	井出 浩正	学芸研究部調査研究課考古室長	基盤研究(C)	0	4,160〈元～5年度〉
5	白描図像の分析から帰納する仏画研究―玄証本を起点に―	古川　攝一	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員	基盤研究(C)	780	4,290〈元～4年度〉
6	藤原定家の和歌に基づく「定家詠十二ヶ月和歌花鳥図」の歴史的展開の解明	遠藤　楽子	学芸企画部博物館情報課情報資料室主任研究員	基盤研究(C)	390	4,420〈2～6年度〉
7	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	高橋　真作	学芸企画部企画課特別展室研究員	基盤研究(C)	780	4,420〈2～6年度〉
8	高精細複製絵画による屏風絵を中心とする実験的展示照明による基盤的理論の構築	松嶋　雅人	学芸研究部調査研究課長	基盤研究(C)	1,170	4,160〈2～5年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
9	東アジアの宮廷工芸に関する物質文化研究－相対的文化史観に基づいて－	猪熊　兼樹	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究(C)	910	4,160 〈2～4年度〉
10	海外博物館の日本美術展示にみる現代「日本」観の研究	鬼頭　智美	学芸企画部上席研究員	基盤研究(C)	1,170	4,290 〈2～5年度〉
11	中国と日本の書画における表装文化の総合的研究	鍋島　稲子	客員研究員	基盤研究(C)	1,560	4,160 〈3～5年度〉
12	明治初期宝物調査資料の収集整理による書の鑑賞・受容の歴史に関する研究	恵美　千鶴子	学芸企画部百五十年史編纂室長	基盤研究(C)	1,170	3,900 〈3～5年度〉
13	高精細スキャナー画像を活用した日本刀の研究	佐藤　寛介	学芸研究部列品管理課登録室長	基盤研究(C)	260	2,600 〈3～7年度〉
14	X線断層写真(CT)を用いた乾漆技法の研究	丸山　士郎	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	基盤研究(C)	910	4,160 〈3～7年度〉
15	大谷探検隊将来品を中心とした西域美術の再評価に関する研究	勝木　言一郎	学芸研究部上席研究員	基盤研究(C)	1,300	4,160 〈3～5年度〉
16	高精細X線CTスキャナ活用を中心とする古代中国の封泥の作成方法に関する総合的研究	谷　豊信	客員研究員	基盤研究(C)	1,170	4,160 〈3～5年度〉
17	パレスチナ沿岸地域に展開した古代の覇権主義勢力と在地社会に関する考古学的研究	小野塚　拓造	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	基盤研究(C)	1,560	4,030 〈3～5年度〉
18	中世の神仏習合における仏教彫刻に関する研究	増田　政史	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員	基盤研（C）	1,170	2,470 〈4～6年度〉
19	保存環境と鑑賞環境が調和した次世代型の展示照明の構築に向けた基礎的研究	黄川田　翔	学芸研究部保存修復課環境保存室研究員	基盤研（C）	1,950	3,770 〈4～6年度〉
20	16・17世紀中国江南地域における旅行と絵画の関係についての事例研究	植松　瑞希	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室主任研究員	若手研究(B)	0	3,250 〈平成29～5年度〉
21	江戸時代後期における風景表現に関する研究	大橋　美織	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	若手研究	0	4,030 〈平成30～5年度〉
22	農工具からみた古代東アジアにおける技術交流の研究	河野　正訓	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	若手研究	0	2,080 〈平成30～5年度〉
23	黒染め染織文化財に対する脱酸化・抗酸化・強化処置法の開発	佐藤 萌	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員	若手研究	0	3,900 〈平成30～5年度〉
24	日本陶磁における金銀彩の特殊性について	三笠 景子	学芸企画部企画課出版企画室主任研究員	若手研究	0	2,080 〈元～4年度〉
25	ICT技術を用いた個人的コンテキストに応じた展示解説の研究	中村 麻友美	学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員	若手研究	0	3,900 〈元～5年度〉
26	天台宗における仏像の模刻と信仰上の意義	西木　政統	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	若手研究	910	4,290 〈2～5年度〉
27	瀟湘八景の受容研究　絵画・建築・庭園	武　瀟瀟	学芸企画部企画課アソシエイトフェロー	若手研究	780	3,250 〈3～6年度〉
28	フィンランドを事例とした多文化共生のためのミュージアムの教育機能	山本　桃子	学芸企画部博物館教育課アソシエイトフェロー	若手研究	0	4,290 〈元～5年度〉
29	地中海世界の大転換期（前12世紀～前10世紀）と「フェニキア人」の出現	小野塚　拓造	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	国際共同研究強化(A)	0	15,210 〈2～5年度〉
30	古代壁画物理モデル構築に向けての探索的研究	和田　浩	学芸研究部保存修復課長	挑戦的研究（萌芽）	1,690	6,240 〈4～6年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【京都国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	松本　伸之	館長	基盤研究（A）	4,030
2	備前児島の野崎家に伝わる文化財の総合調査：塩田王の美術コレクション	永島　明子	学芸部教育室長	基盤研究（A）	12,480
3	埴輪生産組織の構造分析と古代手工業論による古墳時代日韓交渉史再構築の基礎的研究	古谷　毅	研究員	基盤研究（B）	2,730
4	博物館史資料アーカイブズを活用したメタ文化財情報構築の検討	羽田　聡	学芸部美術室長	基盤研究（B）	4,680

2）学術研究助成基金助成金のみ　6件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究	福士　雄也	学芸部保存修理指導室主任研究員	若手研究（B）	0	3,770 〈平成28～4年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
2	思渓版大蔵経刊行実態の解明－目録と遣例による実証的研究－	上杉　智英	学芸部美術室研究員	若手研究（B）	0	3,900（平成28～4年度）
3	中国の王朝交替期における絵画動向をめぐって―宋代以後の遺民画家の作例を中心に	森橋　なつみ	学芸部連携協力室研究員	若手研究（B）	0	4,030（平成28～4年度）
4	藤原宮造営に伴う造瓦の新技術とその導入経路に関する総合的研究	石田　由紀子	学芸部考古室長	基盤研究（C）	0	9,100（平成30～4年度）
5	御室仁清窯跡出土陶片の科学的特徴―野々村仁清が受容した生産技術と陶工必用―	降幡　順子	学芸部保存科学室長	基盤研究（C）	910	4,290（令和2～5年度）
6	仏教における伝法衣一染織史および心性史の視座からの考察ー	山川　暁	学芸部企画室長	基盤研究（C）	650	1,560（令和4～6年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	宮崎　幹子	学芸部情報サービス室長	基盤研究（B）	3,120
2	古写真・絵はがき・売立目録をもちいた仏像彫刻の研究―奈良地方の作品を中心に―	山口　隆介	学芸部企画室主任研究員	若手研究	3,400

2）学術研究助成基金助成金のみ　3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	叡尊・忍性による中世的救済ネットワークの研究	吉澤　悟	学芸部長	基盤研究（C）	0	2,990〈平成29～4年度〉（補助事業期間延長）
2	密教聖教に基づく護国修法の基礎的研究	斎木　涼子	学芸部列品室長	若手研究（B）	0	1,560〈平成29～4年度〉（補助事業期間延長）
3	仏師快慶の工房制作と分業体制に関する基礎的研究-三尺阿弥陀を中心に-	山口　隆介	学芸部企画室主任研究員	若手研究	0	4,030〈平成30～4年度〉（補助事業期間延長）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究	小泉　惠英	副館長	基盤研究（B）	4,160
2	博物館等の展示収蔵環境の有機酸等VOCs低減に向けた現場システムの構築	木川　りか	学芸部博物館科学課長	基盤研究（B）	5,850
3	在外日本美術の保存修復技法の比較調査と国際的な保存活用に向けて	島谷　弘幸	館長	基盤研究（B）	4,030
4	統計的画像処理と機械学習を併用した文化財のデジタル復元技術の基盤創出	河野　一隆	学芸部長	基盤研究（B）	9,490

2）学術研究助成基金助成金のみ　7件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	名物裂を中心とした日本伝世古渡裂の歴史的・技法的成立過程を探る研究	桑原　有寿子	学芸部企画課・研究員	若手研究	650	4,160〈2～5年度〉
2	中国製鎗金器の基盤的研究-東アジアにおける漆器の相互的影響-	川畑　憲子	学芸部企画課特別展室長	基盤研究（C）	780	4,030〈3～7年度〉
3	近世大名家伝来コレクションの基礎的研究-松浦家コレクションの分析を通じて-	松浦　晃佑	学芸部文化財課資料登録室研究員	基盤研究（C）	520	2,860〈3～7年度〉
4	九州の古墳出土ベンガラの流通に関する実証的研究	志賀　智史	学芸部博物館課保存修復室長	基盤研究（C）	910	2,860〈3～5年度〉
5	人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用にむけた研究基盤の確立	河野　一隆	学芸部長	国際共同研究強化(B)	3,835	18,330〈元～5年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
6	数理モデルと非破壊評価法に基づく文化財害虫の検出精度の向上	渡辺　祐基	博物館科学課・研究員	若手研究	1,430	4,550〈4～6年度〉
7	文化財デジタル復元のための統計的画像処理および機械学習技術の創出	河野　一隆	学芸部長	挑戦的研究（萌芽）	1,430	6,240〈4～6年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　10件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	小林　公治	文化財情報資料部　研究員	基盤研究(A)	8,320
2	酒呑童子絵巻の研究	江村　知子	文化財情報資料部長	基盤研究(B)	10,920
3	絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査	早川　典子	保存科学研究センター修復材料研究室長	基盤研究(B)	1,690
4	ポンペイ遺跡壁画における無機物を主体とした保存修復材料による補強技法の確立	前川　佳文	文化遺産国際協力センター主任研究員	基盤研究(B)	2,990
5	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	犬塚　将英	保存科学研究センター分析化学研究室長	基盤研究(B)	1,820
6	紙文化財補修用材料としての高機能化楮繊維の開発	稲葉　政満	無形文化遺産部　客員研究員	基盤研究(B)	9,100
7	イラン東部へのウルク文化の拡大に関する考古学的研究	安倍　雅史	文化遺産国際協力センター主任研究員	新学術領域研究(研究領域提案型)	2,600
8	日本の無形文化遺産保護におけるジェンダーに関する研究	久保田　裕道	無形文化遺産部　無形民俗文化財研究室長	特別研究員奨励費(外国人)	300
9	旅館おかみの誕生	後藤　知美	無形文化遺産部　研究員	研究成果公開促進費（学術図書）	0
10	沖縄久高島イザイホー映像記録データベース	石村　智	無形文化遺産部　音声映像記録研究室長	研究成果公開促進費（データベース）	1,900

2）学術研究助成基金助成金のみ　26件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
1	常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原　恵美	無形文化遺産部　室長	基盤研究(C)	0	4,290（平成30～4年度）
2	ポスト１９６８年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として	橘川　英規	文化財情報資料部　室長	基盤研究(C)	0	4,420（平成30～4年度）
3	鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究	朽津　信明	保存科学研究センター　室長	基盤研究(C)	0	4,290（元～4年度）
4	様々な文化財に使用された彩色材料への赤外線画像による画的調査の検討	秋山　純子	保存科学研究センター　室長	基盤研究(C)	780	4,290（元～5年度）
5	地域文化の表象としての「箕」の形態に関する学際的研究	今石　みぎわ	無形文化遺産部　主任研究員	基盤研究(C)	650	4,290（2～4年度）
6	従属栄養性微生物の硫黄酸化と腐食性ガスの生成について	片山　葉子	保存科学研究センター　客員研究員	基盤研究(C)	1,300	4,420（2～4年度）
7	イランの乾燥地帯における農業施設の建築構法および建築技術者の存在形態に関する研究	淺田　なつみ	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	基盤研究(C)	780	1,950（3～5年度）
8	近現代建造物の価値評価における同時代性に着目した文化財の現状変更概念の再考	金井　健	文化遺産国際協力センター室長	基盤研究(C)	780	3,510（3～6年度）
9	ブータンにおける祭礼芸能の変容実態とその保護に関する研究	久保田　裕道	無形文化遺産部　室長	基盤研究(C)	1,560	3,770（4～6年度）
10	博物館で用いるためのサンプリングバッグによる放散試験方法の開発	古田嶋　智子	保存科学研究センター　客員研究員	基盤研究(C)	1,820	4,160（4～6年度）
11	占領期の文化財保護に関する研究－GHQの博物館概念と博物施策の展開－	境野 飛鳥	文化遺産国際協力センター客員研究員	基盤研究(C)	1,040	3,510（4～7年度）
12	シミ科未記載種の国内分布の実態調査と生態学的特徴に基づく防除方法の検討	島田　潤	保存科学研究センター　アソシエイトフェロー	基盤研究(C)	1,820	4,160（4～6年度）
13	マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田　まきは	客員研究員	若手研究	0	4,160（平成30～4年度）
14	中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究	米沢　玲	文化財情報資料部　研究員	若手研究	0	1,560（元～4年度）

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
15	木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案	古田嶋　智子	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究	0	4,160（元～4年度）
16	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	宇高　健太郎	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究	260	4,160（元～4年度）
17	南西諸島における風葬の定着過程に関する研究	牛窪　彩絢	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー	若手研究	1,430	3,770（2～4年度）
18	組積造建造物の通電による脱塩の適応可能性に関する検討	水谷　悦子	保存科学研究センター　研究員	若手研究	1,170	4,160（2～4年度）
19	初期合成染料の染色堅牢性評価と変退色挙動の検討	片渕　奈美香	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー	若手研究	1,430	3,380（3～5年度）
20	日本音楽合奏における「間」：多様な拍の伸縮をめぐって	鎌田　紗弓	無形文化遺産部　研究員	若手研究	1,820	4,550（4～6年度）
21	洪水常襲地における水害経験の地域史と災害文化形成プロセスの解明	後藤　知美	無形文化遺産部　研究員	若手研究	1,560	4,680（4～7年度）
22	近代の河川工事絵馬にみる河川管理のあり方と地域社会の接点：利根川中流域を中心に	後藤　知美	無形文化遺産部　研究員	研究活動スタート支援	1,560	3,120（3～4年度）
23	被災文化財保全のための一時保管と処置方法の最適化に向けた研究	芳賀　文絵	保存科学研究センター　研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,860（3～4年度）
24	カジリムシ目昆虫における外部寄生性の進化に伴う形態変化の解明	島田　潤	保存科学研究センター　アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,560	3,120（3～4年度）
25	ポストコンフリクト国における文化多様性と平和構築実現のための文化遺産研究	石村　智	無形文化遺産部　室長	挑戦的研究（萌芽）	2,860	6,600（4～7年度）
26	言説分析を用いた保存修復家の職業像の研究：修復と医療の比喩をてがかりに	大川　柚佳	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	780	1,430（4～5年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　21件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	植物考古学から探るイネ、雑穀、ムギ食文化の交流と変容	庄田　慎矢	企画調整部　国際遺跡研究室長	学術変革領域研究(A) 計画研究	18,460
2	木簡等の研究資源オープンデータ化を通じた参加誘発型研究スキーム確立による知の展開	馬場　基	都城発掘調査部（平城地区）史料研究室長	基盤研究（S）	22,880
3	災害で埋没した建物による民家建築史の研究	箱崎　和久	都城発掘調査部長	基盤研究（A）	8,580
4	東北アジアの農耕化過程における食と調理の変化への考古生化学的アプローチ	庄田　慎矢	企画調整部　国際遺跡研究室長	基盤研究（A）	8,320
5	南都の未整理文書聖教にもとづく寺社とその周辺社会の調査研究	吉川　聡	文化遺産部　歴史研究室長	基盤研究（B）	3,900
6	松帆銅鐸発見を契機とする銅鐸論の再構築	難波　洋三	都城発掘調査部（平城地区）　客員研究員	基盤研究（B）	2,990
7	中央アジア 天山ーパミール地域における後期旧石器文化成立過程の研究	国武　貞克	主任研究員	基盤研究（B）	3,380
8	ユーラシア東部における細石刃石器群の出現と拡散：中国北部クロスロード仮説の検証	加藤　真二	企画調整部長	基盤研究（B）	3,640
9	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による大和の古代寺院・宮都出土瓦の生産・供給体制の研究	清野　孝之	都城発掘調査部副部長	基盤研究（B）	1,300
10	埴輪の生産・流通体制の総合的検証にもとづく王権中枢部巨大古墳群造営過程の解明	廣瀬　覚	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　考古第一研究室長	基盤研究（B）	2,470
11	古代都城から出土する製塩土器の生産地推定	神野　恵	都城発掘調査部（平城地区）　考古第二研究室長	基盤研究（B）	3,380
12	土製鋳型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築	丹羽　崇史	都城発掘調査部（平城地区）　主任研究員	基盤研究（B）	3,250
13	古建築用語の相互訳及び英訳を通した系統的把握による東アジア木造建築史の基盤構築	鈴木　智大	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　主任研究員	基盤研究（B）	2,990
14	古代官衙における空間構造の変遷と展開に関する実証的研究	小田　裕樹	都城発掘調査部（平城地区）　主任研究員	基盤研究（B）	1,040
15	古代における年輪年代学的木材産地推定を可能にする標準年輪曲線ネットワークの整備	星野　安治	埋蔵文化財センター　年代学研究室長	基盤研究（B）	3,120
16	平城宮跡・藤原宮跡・飛鳥宮跡における風景の再現・創造・継承に関する計画論的研究	本中　眞	所長	基盤研究（B）	7,280
17	中央アジアの雑穀をめぐる料理と物質文化の考古生化学的研究	庄田　慎矢	企画調整部　国際遺跡研究室長	特別研究員奨励費	1,200

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
18	燈謎――漢字文化圏文字遊戯の諸相	呉　修喆	企画調整部　アソシエイトフェエロー	研究成果公開促進費(学術図書)	1,200
19	全国遺跡報告総覧	高田　祐一	企画調整部　主任研究員	研究成果公開促進費（データベース）	2,000
20	歴史災害痕跡データベース	村田　泰輔	埋蔵文化財センター　主任研究員	研究成果公開促進費（データベース）	6,800
21	奈良の都の木簡に会いに行こう！２０２２	馬場　基	都城発掘調査部（平城地区）　史料研究室長	ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI	490

2）学術研究助成基金助成金のみ　51 件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	カザフスタンにおける現生人類北回り拡散ルートの解明に関する国際共同研究の基盤強化	国武　貞克	主任研究員	国際共同研究強化（B）	3,640	18,200 〈平成30～4年度〉
2	展示施設を拠点とする地域住民参加型の歴史的建造物の調査	西田　紀子	都城発掘調査部（平城地区）　主任研究員	基盤研究（C）	－	4,550 〈平成29～4年度〉
3	呪符木簡の時代的地域的特質からみた「木に文字を記す文化」の史的考究	山本　崇	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　史料研究室長	基盤研究（C）	－	4,550 〈平成29～4年度〉
4	近世における北前船と東北産木材の流通に関する年輪年代学的研究	光谷　拓実	埋蔵文化財センター　客員研究員	基盤研究（C）	－	4,420 〈平成30～4年度〉
5	近世末期から近代に生じた日本庭園の意匠の地域性と現代への継承―出雲地方を中心に	中島　義晴	文化遺産部　景観研究室長	基盤研究（C）	－	3,250 〈平成30～4年度〉
6	鎖国期日本のマジョリカ陶器色絵フォグリー文アルバレルロとカトリック修道院	松本　啓子	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　客員研究員	基盤研究（C）	910	3,640 〈元～4年度〉
7	塩類風化が進行する遺跡構成材料からの効果的な脱塩方法の開発	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター　保存修復科学研究室長	基盤研究（C）	－	3,250 〈元～4年度〉
8	ポスト・バイヨン期のクメール建築の建築的特徴に関する研究	大林　潤	文化遺産部　建造物研究室長	基盤研究（C）	－	3,510 〈元～4年度〉
9	日本と中国における大工道具の比較による東アジア木造建築技術史の基盤構築	李　暉	都城発掘調査部（平城地区）　アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	650	4,420 〈元～5年度〉
10	山口県域の銅生産・銅銭鋳造関係古代出土文字資料を用いた政治・社会的地域特質の解明	竹内　亮	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　客員研究員	基盤研究（C）	910	4,290 〈2～5年度〉
11	絵画表現の多様性を生みだす彩色材料のナノ構造	杉岡　奈穂子	埋蔵文化財センター　客員研究員	基盤研究（C）	1,300	4,420 〈2～4年度〉
12	東アジア出土の植物灰ガラスは西アジア産か？－ガラス交易路解明に向けての基礎研究－	田村　朋美	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　主任研究員	基盤研究（C）	1,170	4,290 〈2～4年度〉
13	古墳に埋葬された鉄製文化財の腐食は予測可能か？－数値解析による現地保存評価の確立	柳田　明進	埋蔵文化財センター　研究員	基盤研究（C）	910	4,030 〈3～5年度〉
14	古代における食文化の実態解明に関する環境考古学的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター　環境考古学研究室長	基盤研究（C）	780	4,160 〈3～7年度〉
15	三次元データで拓く木簡研究の新地平	山本　祥隆	都城発掘調査部（平城地区）　主任研究員	基盤研究（C）	1,040	4,160 （4～7年度）
16	３次元デジタル技術を活用した古代瓦葺技術の系譜と展開に関する考古学的検討	岩戸　晶子	企画等西部　展示企画室長	基盤研究（C）	780	4,160 （4～8年度）
17	植物遺体群からみた古代都城における草本植物相に関する基礎的研究	上中　央子	埋蔵文化財センター　客員研究員	基盤研究（C）	1,300	4,160 （4～6年度）
18	出土漆塗膜の模擬試料作成の試み―より安定的な保存処理法の開発のために	楊　曼寧	埋蔵文化財センター　アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	1,820	4,160 （4～6年度）
19	大嘗宮にみる宮中祭祀施設の配置・造営計画に関する研究	福嶋　啓人	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　研究員	基盤研究（C）	1,430	3,900 （4～8年度）
20	近代庭園における遺跡由来石造物の取り扱いとインタープリテーションに関する研究	内田　和伸	文化遺産部長	基盤研究（C）	1,560	4,030 （4～6年度）
21	歴史災害の実像解明への考古・歴史・地質学的複合解析による災害履歴検索地図の開発	村田　泰輔	埋蔵文化財センター　主任研究員	挑戦的研究（開拓）	2,470	22,880 〈平成30～5年度〉
22	XR技術を活用した発掘・被災文化財保護現場のデジタルトランスフォーメーション	金田　明大	埋蔵文化財センター長	挑戦的研究（開拓）	3,250	24,700 （4～8年度）

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
23	埴輪ハケメの年輪年代学：年輪年代学的同一材推定を応用した埴輪同工品の認定	星野　安治	埋蔵文化財センター　年代学研究室長	挑戦的研究（萌芽）	2,210	6,370 〈3～5年度〉
24	後期旧石器時代開始期の日本列島における新人到来研究の革新	国武　貞克	主任研究員	挑戦的研究（萌芽）	2,860	6,500 〈3～5年度〉
25	新しい遺跡を発見する：機械学習による自動地形判読手法の開発	高田　祐一	企画調整部　主任研究員	挑戦的研究（萌芽）	2,990	5,850 〈3～4年度〉
26	出土カンボジア漆分析に関する学際的研究	佐藤　由似	企画調整部　主任専門職	挑戦的研究（萌芽）	2,340	6,240 （4～6年度）
27	X線CTを用いた非破壊観察による固着資料の文字復元	上椙　英之	埋蔵文化財センター　研究員	挑戦的研究（萌芽）	2,600	6,500 （4～6年度）
28	シルクロード天山北路の形成過程に関する考古学的研究	山藤　正敏	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　主任研究員	若手研究	－	4,160 〈平成30～4年度〉
29	アンコール王朝の終焉と陶磁器需要の変容に関する考古学的研究	佐藤　由似	企画調整部　主任専門職	若手研究	－	3,770 〈平成30～4年度〉
30	墨書木製品の分類を手がかりとした日本における木簡利用全史の解明	藤間　温子	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　客員研究員	若手研究	520	2,860 〈元～4年度〉
31	古代壁画の制作技法の伝習に関する研究-シルクロード近隣地域と日本の壁画を中心に	中田　愛乃	埋蔵文化財センター　客員研究員	若手研究	780	2,600 〈元～4年度〉
32	文化的景観における棚田集落の相対的価値の解明にむけた比較研究	恵谷　浩子	文化遺産部　主任研究員	若手研究	－	3,900 〈元～4年度〉
33	石造物からみるブリテン島における古代と初期中世の境界	岩永　玲	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　研究員	若手研究	390	1,560 〈2～4年度〉
34	玉類の流通からみた弥生・古墳時代併行期の日韓交渉	谷澤　亜里	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　研究員	若手研究	1,300	4,290 〈2～4年度〉
35	西日本集落遺跡の分析に基づく古代地域社会の実証的研究	道上　祥武	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）研究員	若手研究	910	4,290 〈2～5年度〉
36	飲食物表現からみた古代東アジアにおける古墳葬送儀礼の考古学的研究	松永　悦枝	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）研究員	若手研究	520	2,210 〈2～5年度〉
37	文化財修理に用いられる和紙の膨潤収縮挙動	金　旻貞	埋蔵文化財センター　客員研究員	若手研究	1,040	3,900 〈2～4年度〉
38	出土木製遺物の保存処理の飛躍的効率化を実現する溶媒蒸発を用いた薬剤含浸技術の確立	松田　和貴	埋蔵文化財センター　研究員	若手研究	650	4,160 〈2～4年度〉
39	考古系展示施設における観覧行動分析とそれに基づく多様な「学び」の構築と実践	廣瀬　智子	企画調整部　アソシエイトフェロー	若手研究	1,300	4,030 〈2～4年度〉
40	越後大工・小黒杢右衛門一族の作風―近世在方大工の作家論的研究	目黒　新悟	都城発掘調査部（平城地区）　研究員	若手研究	910	4,160 〈2～5年度〉
41	『築山庭造伝』前編・後編にみる作庭技術とその流布に関する基礎的研究	高橋　知奈津	文化遺産部　主任研究員	若手研究	520	2,340 〈2～5年度〉
42	日本に伝存する漢字文義謎資料のデータベース化による文化史的研究	呉　修喆	企画調整部　アソシエイトフェロー	若手研究	1,040	4,420 〈3～5年度〉
43	大破した寺院聖教の保存・活用にむけた調査方法に関する研究	橘　悠太	文化遺産部　アソシエイトフェロー	若手研究	650	3,250 〈3～5年度〉
44	3Dデジタル技術等の多角的応用による土器製作者の動的身体技法復元のための基礎研究	平川　ひろみ	埋蔵文化財センター　客員研究員	若手研究	1,950	4,680 〈3～5年度〉
45	残材と周辺植生に基づく古墳時代集落における木材調達とその利用に関する研究	浦　蓉子	都城発掘調査部（平城地区）　研究員	若手研究	1,170	3,900 〈3～6年度〉
46	考古生化学から探る古代日本の土器利用	村上　夏希	企画調整部　アソシエイトフェロー	若手研究	1,300	4,680 （4～6年度）
47	人工知能（ＡＩ）による深層学習を活用した縄文原体の素材同定	髙野　紗奈江	埋蔵文化財センター　客員研究員	研究活動スタート支援	1,170	2,080 〈3～4年度〉
48	近代における日本人産婆の越境実態の検証―渡韓産婆の事例を通じて―	扈　素妍	企画調整部　アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	780	1,820 〈3～4年度〉
49	平安京・大和国における瓦生産・流通構造―９～12世紀を中心に―	田中　龍一	都城発掘調査部（平城地区）　研究員	研究活動スタート支援	910	2,340 〈3～4年度〉
50	顕在化した遺跡である古墳が持つ顕著な文化財的価値とその現在的な利活用に関する研究	川畑　純	都城発掘調査部（平城地区）　主任研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,860 （4～5年度）
51	戦後文化財修理としての桂離宮御殿整備工事の研究―合成樹脂を始めとした新技術の導入	髙野　麗	都城発掘調査部（平城地区）　研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,860 （4～5年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

1）科学研究費補助金のみ　0件

2）学術研究助成基金助成金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	無形文化遺産の継承・変容と自然災害による影響の動態的把握：バヌアツ北部事例研究	野嶋　洋子	研究担当室長	基盤研究（C）	0	4,160 〈平成30～5年度〉 （補助事業期間延長）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

c-⑧ 客員研究員一覧

令和5年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
154人	51 人	31人	11人	8人	1人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	96 人	37人		59人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財防災センター			
	0 人	7 人			

【東京国立博物館】　31人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（公益財団法人根津美術館理事・副館長）	絵画に関する研究
2	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学及び医学関係の館史資料に関する調査研究
3	東野　治之（公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋館長）	法隆寺献納宝物の資料の研究
4	田辺　龍太（一般財団法人水原フィラテリー財団主任）	切手に関する調査研究
5	金子　浩昌（日本考古学協会員）	日本考古・民族資料の骨角牙製品に関する調査研究
6	湊　信幸（元東京国立博物館副館長）	絵画に関する研究
7	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
8	西岡　康宏（元東京国立博物館副館長）	東洋漆工に関する研究
9	田中　淑江（共立女子大学家政学部教授）	江戸時代を中心とする小袖に関する研究
10	佐々木　利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
11	望月　幹夫（松戸市立博物館長）	日本考古資料に関する調査研究
12	澤田　むつ代（名誉館員）	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代裂の保存と修理に関する調査研究
13	佐藤　サアラ（公益財団法人常盤山文庫主任学芸員）	東洋陶磁（宋・元代）に関する研究
14	高濱　秀	中央ユーラシア青銅器に関する研究
15	加藤　雅久（居住技術研究所主宰）	帝室博物館・復興本館建設における技術史的考察
16	池田　宏（元東京国立博物館上席研究員）	工芸品、歴史資料に関する調査研究
17	田中　公明（公益財団法人中村元東方研究所専任研究員）	チベット・ネパール仏教美術の調査研究
18	日高　慎(東京学芸大学教育学部文化財科学分野(考古学)教授)	埴輪 挂甲の武人 についての調査と修理における助言
19	石松 日奈子 (文化庁文化審議会専門委員(文化財分科会))	日本所在の中国彫刻に関する調査研究
20	赤沼　多佳	茶陶の調査
21	西脇　康（東京大学史料編纂所学術支援専門職員）	貨幣の鑑別・完全非破壊品位測定
22	高橋　裕次（公益財団法人大倉文化財団大倉集古館学芸部長）	東京国立博物館百五十年史に関わる研究
23	石川　岳彦（東京大学大学院人文社会系研究科研究員）	漢代土器の調査研究
24	藤田　晴啓（新潟国際情報大学経営情報学部経営学科教授）	考古資料デジタルデータの活用研究
25	村上　佳代（文化学園服飾博物館学芸員）	アジア遊牧民染織コレクションに関する調査研究
26	谷　豊信（元東京国立博物館学芸研究部長）	館蔵及び構内出土品の調査研究
27	中川原 育子（名古屋大学人文学研究科助教）	大谷探検隊収集品の価値の再評価に向けての基礎的調査研究
28	丸山 猶計（大東文化大学文学部書道学科准教授）	特別展「本阿弥光悦の大宇宙」ワーキング書跡担当
29	堀内　秀樹（東京大学埋蔵文化財調査室准教授）	館蔵陶片の調査研究
30	皿井　舞（学習院大学文学部哲学科教授）	新規購入の仁王像に関する調査研究・活用
31	小林　牧	複製やデジタル技術を使った新しい鑑賞コンテンツ、地域の博物館や学校と協働した文化財鑑賞プログラム

【京都国立博物館】　11人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井上　一稔（同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究
2	宇都宮　啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	後藤　真（国立歴史民俗博物館准教授）	文化財情報に関する調査研究
4	守屋　雅史（大阪市立東洋陶磁美術館長）	陶磁器に関する調査研究
5	赤尾　栄慶（京都国立博物館名誉館員）	古写経に関する調査研究
6	増記　隆介（東京大学大学院准教授）	仏画に関する調査研究
7	山本　英男（嵯峨美術短期大学教授）	中世絵画に関する調査研究
8	久保　智康（京都国立博物館名誉館員）	金工品に関する調査研究
9	呉　孟晋（京都大学准教授）	漆工及び染織に関する調査研究
10	池田　宏（京都国立博物館名誉館員）	中国絵画に関する調査研究
11	難波　洋三（京都国立博物館名誉館員）	甲冑に関する調査研究

【奈良国立博物館】　8人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	清水昭博（帝塚山大学文学部教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
3	根立研介（前 京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
4	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
5	橋詰　文之（和泉市久保惣記念美術館副館長）	金工品の調査及び研究
6	澤田　むつ代（東京国立博物館名誉館員）	染織品の調査及び研究
7	藤田　譲（大阪大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
8	高橋　悠介（慶応義塾大学斯道文庫准教授）	書跡の調査及び研究

【九州国立博物館】　1人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	伊藤嘉章（愛知県陶磁美術館総長/町田市立博物館館長）	アジアの文化財の伝統的制作・修理技法に関する調査研究

【東京文化財研究所】　37人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	三上　豊（和光大学非常勤講師）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
2	丸川雄三（国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
3	山梨絵美子(千葉市美術館長)	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究
4	田中　淳（大川美術館長）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
5	片山まび（東京藝術大学美術学部教授）	『売立目録』工芸部門の調査研究
6	永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所主席研究員）	刊行物アーカイブズシステムの運用・評価に関する調査研究
7	津田徹英（青山学院大学文学部比較芸術学科　教授）	日本東洋古美術に関する資料整理とウェブ公開
8	田中　潤（学習院大学非常勤講師）	古文書の解読や絵画等に見られる服飾の解析
9	川瀬由照（早稲田大学教授）	仏教美術作品の専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充
10	山崎　剛（金沢美術工芸大学教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
11	俵木　悟（成城大学文芸学部教授）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
12	大西秀紀（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員）	音声映像記録に関する調査研究
13	菊池健策（都留文科大学非常勤講師）	無形民俗文化財の調査
14	森下愛子（公益財団法人泉屋博古館分館学芸課学芸員）	工芸技術（主に陶芸分野）に関する調査研究
15	宮田繁幸（東京福祉大学大学院特任准教授）	ユネスコ無形文化遺産条約に関わる調査研究及び情報収集
16	神野知恵（国立民族学博物館機関研究員）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
17	谷垣内和子（日本芸能実演家団体協議会常勤職員）	伝統芸能に関わる選定保存技術の調査研究及び情報収集
18	伊藤　純（川村学園女子大学講師）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
19	川野邊渉	文化財修復材料と伝統技術に関する研究
20	伊庭千恵美（京都大学大学院工学研究科准教授）	文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究
21	藤井義久（京都大学大学院農学研究科教授）	木造建造物の生物被害対策の研究
22	稲葉政満（東京藝術大学名誉教授）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
23	本多貴之（明治大学理工学部准教授）	伝統的修復材料に関する分析調査研究
24	北原博幸（トータルシステム研究所代表）	湿度制御温風殺虫処理の処理システムに関するプロジェクト研究を進める上での工学技術的な指導・助言及び基礎研究
25	山本記子（一般社団法人国宝修理装潢師連盟代表理事）	日本画修復に使用される材料及び技法の研究
26	貴田啓子（東京藝術大学准教授）	日本における絵画の劣化要因に関する研究
27	岡田　健（奈良大学教授）	法隆寺金堂壁画をはじめとする文化財の化学分析調査
28	片山葉子（東京農工大学名誉教授）	高松塚・キトラ古墳壁画及び他の装飾古墳等における微生物生態学的調査研究
29	苅田重賀（日本航空協会専任課長）	近代文化遺産（特に航空関連）の保存修復に関する調査・研究
30	古田嶋智子（国立アイヌ民族博物館ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）	文化財を取り巻く空気環境の成分分析
31	宇髙健太郎	文化財構成材料としての墨，煤，膠並びに修理材料としての膠の研究と，修理用膠の製造あるいは関連技術供与等
32	大河原典子（鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業の修復研究及び技術移転の手法研究
33	杉山恵助（東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復手法研究、国際研修での技術移転方法に関する研究
34	山田大樹（帝京大学文化財研究所講師）	南アジア・西アジア地域等における歴史的都市・集落保存に関する研究
35	境野飛鳥（国際日本文化研究センター特任専門職員）	文化財保護制度に関する研究
36	間舎裕生（慶応義塾大学非常勤講師）	西アジアをはじめとする考古学に関する研究
37	五木田まきは（金沢大学古代文明・文化資源学研究所客員研究員）	文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究

【奈良文化財研究所】　59人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	髙野　紗奈江（京都大学大学院文学研究科非常勤講師）	山内清男縄文原体関係資料の整理と調査
2	羽生　淳子（総合地球環境学研究所研究部客員教授）	考古学をはじめとする日米間の文化財分野での学術交流への協力
3	小林　謙一	遺物及びその調査技術、文化財情報の蓄積に関する指導助言
4	Shaun Ian Mackey	東南アジアの文化財や多言語化に関する専門的な助言
5	杉山　　洋（龍谷大学文学部歴史学科教授）	カンボジアプロジェクトを中心とした国際遺跡研究室事業への助言
6	廣瀬　智子	考古系展示施設に関わる調査研究、教育普及事業及び展示活動等に対する助言
7	綾村　　宏	歴史研究室所蔵の調書・写真類の調査
8	前川　　歩（畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科講師）	近現代建築に関する調査・研究
9	小野　健吉	庭園史研究・遺跡整備研究についての指導・助言
10	Emmanuel MARES（京都産業大学文化学部文化学科准教授）	森蘊旧蔵資料・村岡正旧蔵資料の整理に関する助言
11	岩永　省三	古代都城制および都城出土遺物の調査・研究
12	難波　洋三	都城及び寺院出土の金属器等の調査・研究
13	小池　伸彦	平城宮・京跡等出土冶金関連遺物・遺構の調査・研究
14	青木　　敬（國學院大學文学部教授）	官衙・集落に関するデータベース拡充に関する指導・助言
15	深澤　芳樹	学報の編集作業における弥生土器の整理に関する学術的な助言
16	黒田　洋子（奈良女子大学古代学学術センター協力研究員）	文字画像データベース構築における研究協力及び助言
17	杉本　一樹（宮内庁正倉院事務所調査員）	都城発掘調査部史料研究室における正倉院文書関連研究などに対する指導・助言
18	舘野　和己（奈良女子大学名誉教授 大阪府立近つ飛鳥博物館長）	木簡の整理・釈読等に関する指導・助言

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
19	方　　国花（韓国慶北大学人文学術院HK研究教授）	主として木簡に見える古代日本の漢字の字形に関する研究
20	渡邉　晃宏（奈良大学文学部教授）	主として木簡に見える古代日本の漢字の字形に関する研究
21	諫早　直人（京都府立大学文学部歴史学科准教授）	中国遼寧省文物考古研究所と行う共同研究「３－６世紀日中古代遺跡出土遺物の比較研究」に参加
22	上原　眞人（公益財団法人辰馬考古資料館長）	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器の資料集作成にむけた指導、助言
23	松村　恵司	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器・金属器整理、研究に関する指導、助言
24	巽　　淳一郎	中国河南省文物考古研究所との共同研究「東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力」に参加
25	松本　啓子	奈良・大阪両地域の宮殿・京域の情報をもとに類似点・相違点を比較するうえでの専門的知識の供与及び助言
26	竹内　　亮（奈良県立万葉文化館主任研究員）	連携研究において、古代但馬地域出土文字資料集成作成のための専門的知識を供与
27	藤間　温子	墨書木製品等の調査研究
28	大賀　克彦（奈良女子大学古代学学術研究センター特任講師）	古代における玉類の生産と流通に関する調査研究
29	荻山　琴美（大分県立歴史博物館学芸員）	彩色文化財や埋蔵文化財の科学調査・分析等
30	小椋　大輔（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存環境の研究
31	北田　正弘	考古遺物等の調査分析
32	金　　旻貞（株式会社修美　社員）	彩色文化財の材料調査業務
33	肥塚　隆保	古墳壁画の保存修理業務
34	杉岡　奈穂子	壁画等の材料調査業務
35	辻本　與志一（株式会社文化財保存）	古墳壁画の保存修理業務
36	中村　力也（宮内庁正倉院事務所保存整理室長）	奈良時代の遺物及び古代壁画等の材料調査業務
37	福永　　香（国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所電磁波先進研究センター長）	文化財の非破壊診断調査
38	三村　　衛（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存環境の研究
39	村上　　隆(京都美術工芸大学工芸学部美術工芸学科特任教授）	考古遺物の保存科学
40	柳　　成煜（日本学術振興会特別研究員）	彩色文化財の材料調査業務
41	中田　愛乃	彩色文化財の材質分析など
42	青木　政幸（公益財団法人辰馬考古資料館学芸員）	考古遺物の調査
43	上中　央子（日本学術振興会特別研究員）	微化石の調査研究、花粉分析
44	大江　文雄	遺跡出土資料の指導助言や調査研究
45	茂原　信生（京都大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言と調査分析
46	中橋　孝博（九州大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言
47	松崎　哲也	現生標本の整理・管理
48	伊東　隆夫（京都大学名誉教授）	木造文化財の木材組織学的研究
49	児島　大輔（大阪市立美術館学芸課学芸員）	美術工芸品の年輪年代学的研究
50	光谷　拓実	木造文化財の年輪年代学的研究
51	小澤　　毅（三重大学人文学部教授）	遺跡及びその調査技術に関する研究
52	岸田　徹（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター）	遺跡探査法の開発および遺跡探査の知見からの考古学研究の推進
53	狭川　真一（大阪大谷大学文学部歴史文化学科教授）	遺跡及びその調査技術に関する研究
54	西口　和彦	遺跡探査の研究
55	西山　昭仁（京都大学防災研究所地震・火山研究グループ非常勤研究員）	「考古・文献資料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開並びにその他地質考古学的解析」事業への協力
56	平川ひろみ（鹿児島国際大学非常勤講師・同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター研究員）	三次元計測手法の開発及び民族学的知見からの考古学研究の推進
57	野下　浩司（九州大学理学研究院　助教）	考古資料への形態測定学・三次元計測手法の開発研究の促進
58	中川　朋美（南山大学人類学研究所博士研究員）	出土古人骨への形態測定学・三次元計測手法の開発研究の促進
59	山中　敏史	遺跡及びその調査技術に関する研究

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

【本部文化財防災センター】7人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	天野真志（大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館准教授）	地域防災体制の構築、災害時ガイドライン等の整備
2	岡田健（奈良大学文学部教授）	災害時ガイドライン等の整備
3	鶴岡典慶（京都女子大学家政学部教授）	災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発
4	浜田拓志（元和歌山県立近代美術館副館長）	災害時ガイドライン等の整備
5	日髙真吾（大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館人類基礎理論研究部教授）	災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発
6	前川歩（畿央大学健康科学部専任講師）	災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発
7	松下正和（国立大学法人神戸大学地域連携推進室特命准教授）	地域防災体制の構築、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発

d ウェブサイトアクセス件数

令和5年3月31日現在

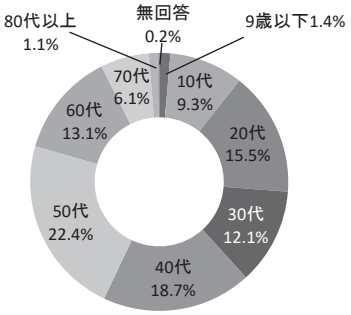
	H30	R1	R2	R3	R4
国立文化財機構	336,016	362,356	302,279	409,102	379,623
文化財活用センター	29,320	42,733	124,300	114,951	166,535
e国宝	3,471,727	4,247,236	1,952,296	650,197	818,665
国立文化財機構所蔵品統合検索システム（ColBase）	54,338	76,875	140,553	142,970	250,005
国立文化財機構寄附ポータルサイト※1	―	―	3,998	6,166	11,698
文化財防災センター※2	93,817	182,485	219,544	52,561	18,111
東京国立博物館	7,679,851	8,235,810	7,021,923	11,382,143	10,569,749
京都国立博物館※3	4,382,078	4,948,829	3,480,100	3,514,043	1,948,061
奈良国立博物館	1,316,654	1,704,901	1,082,864	1,236,917	1,129,746
九州国立博物館	1,752,803	2,047,955	824,819	977,605	1,430,301
東京文化財研究所	4,494,214	2,989,314	5,094,252	3,865,899	3,457,717
奈良文化財研究所	13,931,633	17,604,865	15,138,198	10,467,301	11,020,663
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	10,779	13,261	13,284	15,472	17,146

・アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数。
・「文化財活用センター」及び「文化財防災センター」以外の施設は、データベースのアクセス件数を含む。
※1「国立文化財機構寄附ポータルサイト」は2年8月7日に開設。
※2 2年度までは、文化財防災ネットワークのウェブサイトアクセス件数。（3年度のウェブサイトリニューアルにより統合）
※3 ウェブサイトの解析システム変更のため、4年度のウェブサイトアクセス件数は、旧解析システム期間（4/1～5/17）及び新解析システム期間（5/18～3/31）のアクセス数を合算し実績値とした。

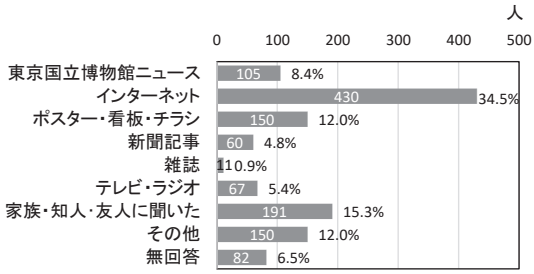
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間：令和4年4月1日（金）～令和5年3月31日（金） 開館日数：310日間
アンケート実施日：4月30日、6月11日、8月13日、10月8日、11月3日、12月10日、令和5年2月11日（計7回）
回答者数：1001人
アンケート実施日総合文化展来館者数：23040人
アンケート回収率：4.3%

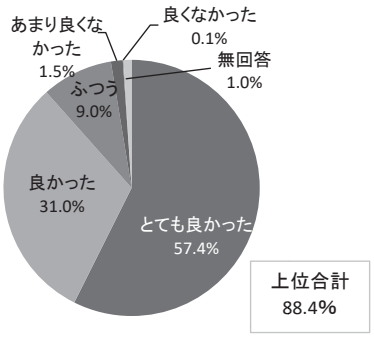
①アンケート回答年齢層



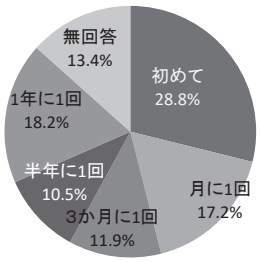
②認知経路 （複数回答）



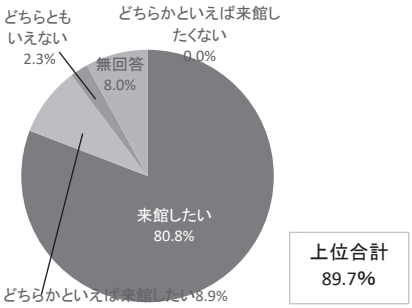
③展示に関する満足度



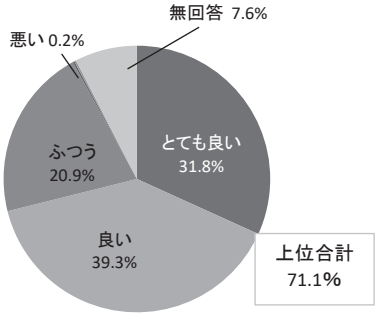
④来館頻度



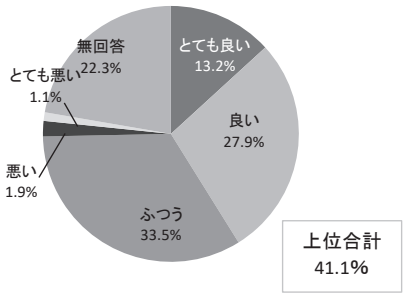
⑤再来館希望率



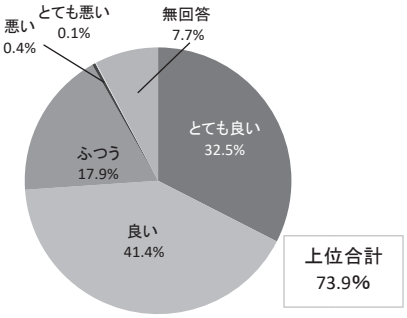
⑥ミュージアムショップに対する満足度



⑦レストランに対する満足度



⑧館内スタッフの対応について



主な意見・感想

・予想以上にボリュームが多く、満足感があった。
・その日にどの作品が展示されているか、わかりやすく告知してほしい。
・キャプションの文字が小さくて見づらい。
・書には書き下し文や現代語訳をつけてほしい。
・夜間開館を再開してほしい。
・休憩場所を増やしてほしい。

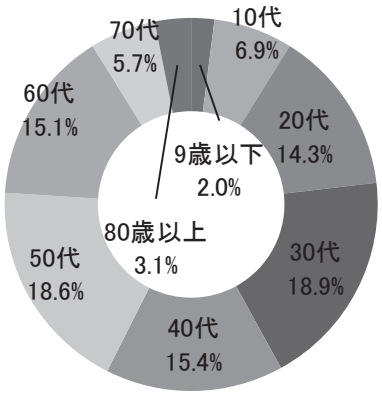
《外国人アンケート集計結果》

※新型コロナウイルス感染症の影響で、外国人の来館を見込めないため、実施していない。

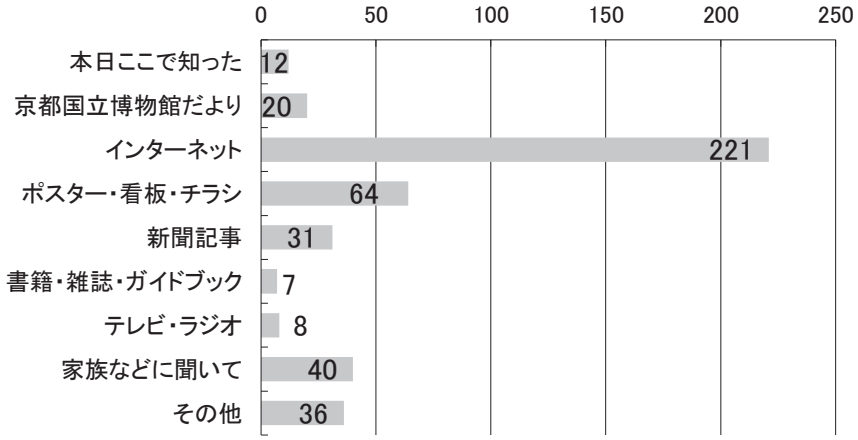
平常展（名品ギャラリー）
アンケート集計結果

開催期間：令和4年6月14日（火）～令和4年7月24日（日）　開館日数：36日間
　　令和5年1月2日（月・休）～令和5年3月5日（日）　開館日数：55日間
回答者数：378人
来館者数：56,341人（平常展開催期間のみ）
アンケート回収率：0.6%

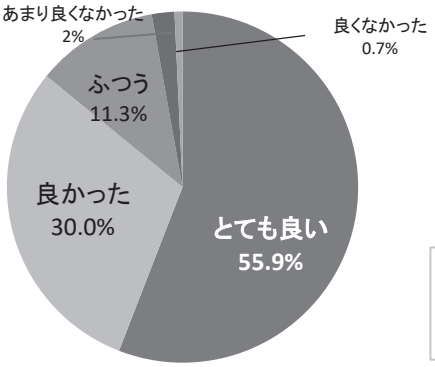
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）

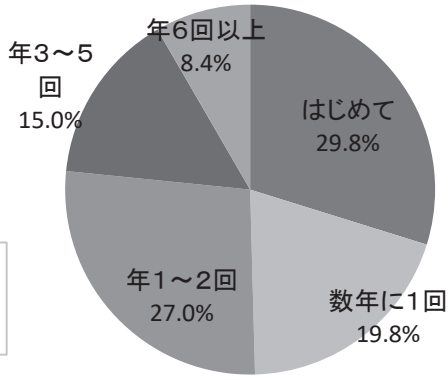


③展示に関する満足度



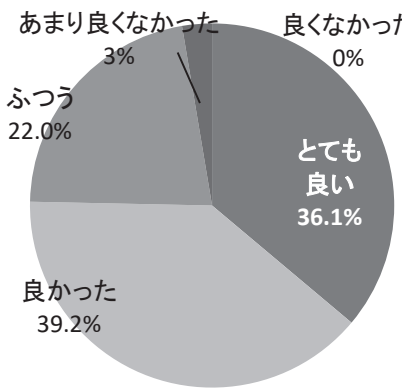
上位合計
85.9%

④来館頻度



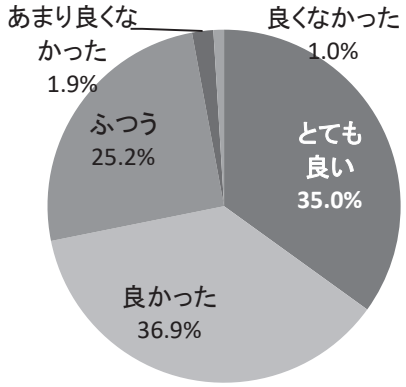
上位合計
56.8%

⑤ミュージアムショップに対する満足度



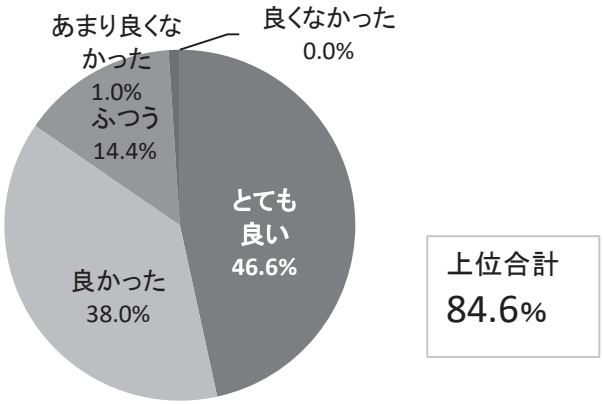
上位合計
75.3%

⑥レストランに対する満足度



上位合計
71.9%

⑦館内スタッフの対応について



上位合計
84.6%

主な意見・感想

・名品ギャラリーの素晴らしさを知った
・写真撮影できるところを設けてほしい
・解説が難しくても博物館dictionary で理解できた
・特別展期間中も平常展を見たい
・屋外含め全面禁煙にすべき
・置き題箋ではなくガラス貼付の方が読みやすい

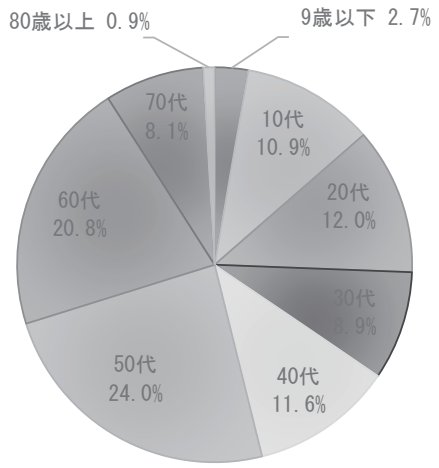
平常展（名品展）アンケート集計結果

開催期間：令和4年4月1日（金）～令和5年3月31日（金）　開館日数：318日間

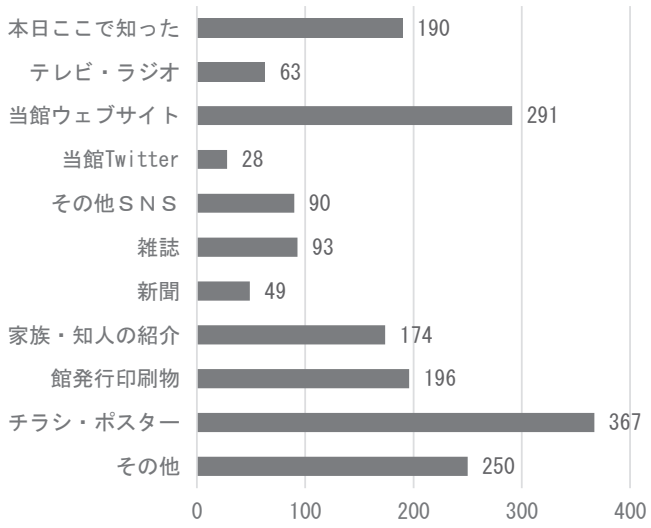
（回答者数：1,292人　入館者数：116,116人　アンケート回収率：1.11%）

（日本語：1,197人／英語：95人）

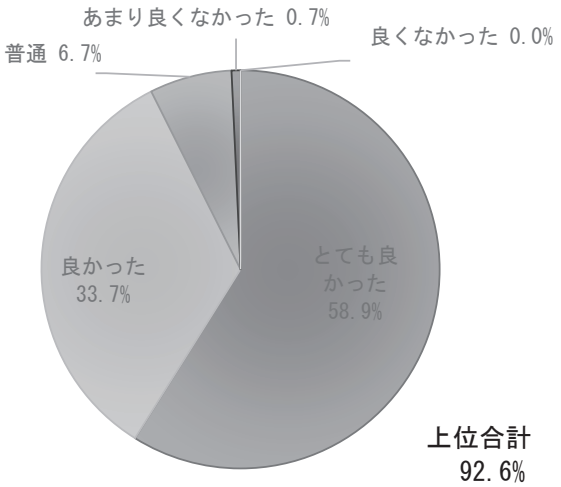
①年齢層



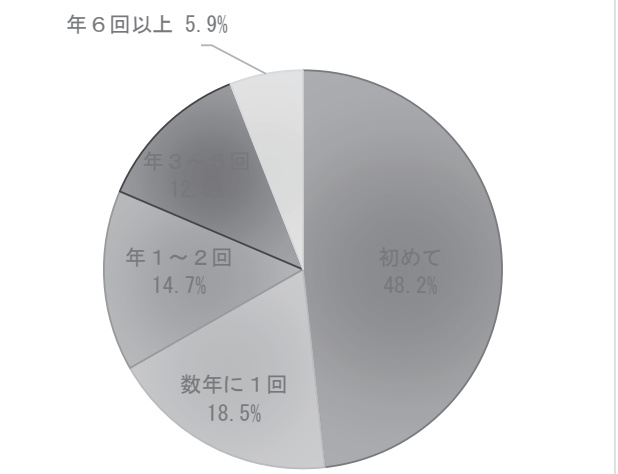
②認知経路（複数回答）



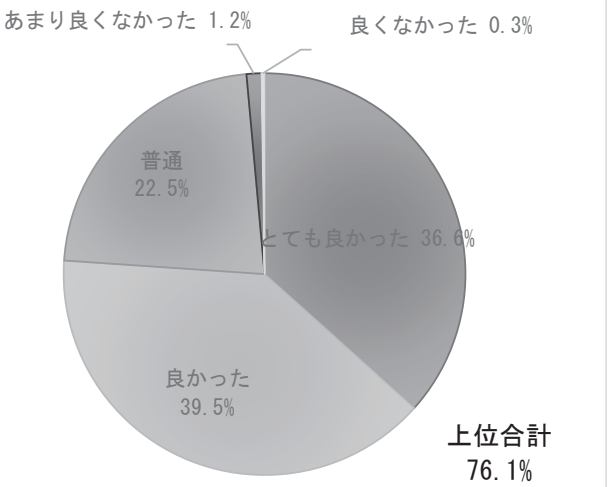
③展示に関する満足度



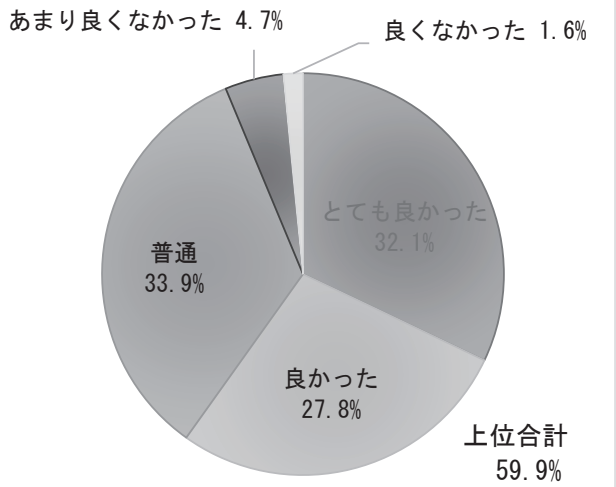
④来館頻度



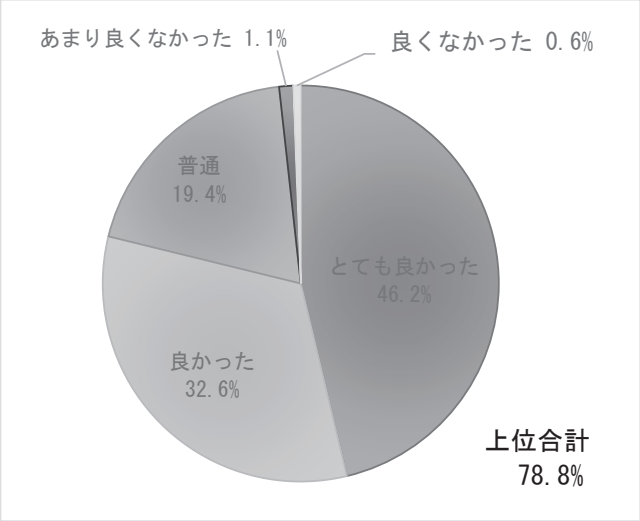
⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥レストランに対する満足度



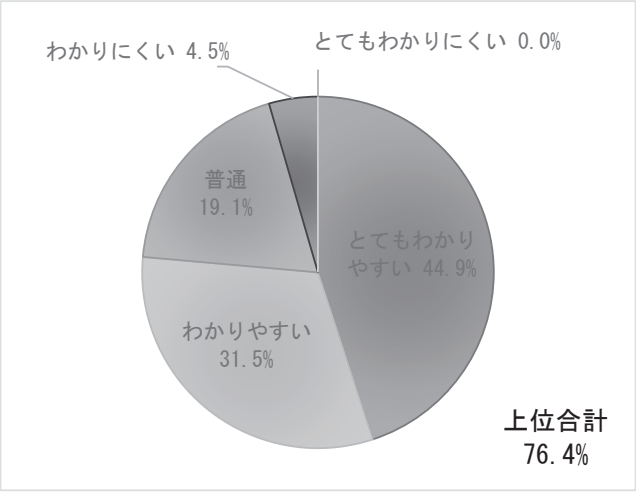
⑦スタッフ対応に関する満足度



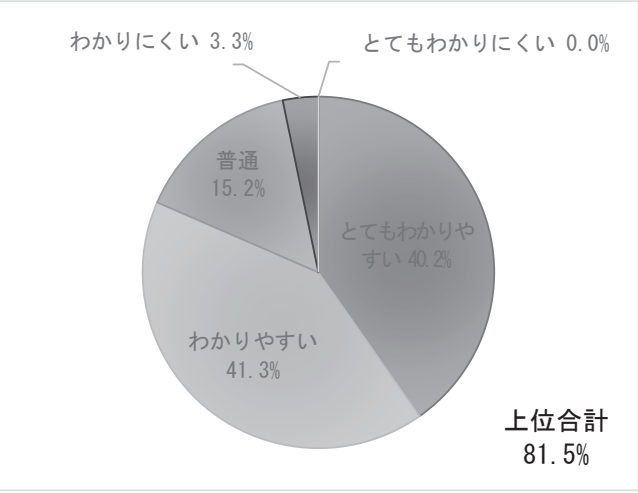
⑧主な意見・感想
・迫力ある仏像をたくさん見ることができた。
・普段触れない分野を見ることができてよかった。
・中国青銅器も良い。
・ざんまいずがかわいいかった。
・仏像館の説明が不足している物もある。
・一部暗いと感じる所があった。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：95人

１．（外国人アンケート）
施設の案内・説明・看板について



２．（外国人アンケート）
展示のパネル・キャプションについて

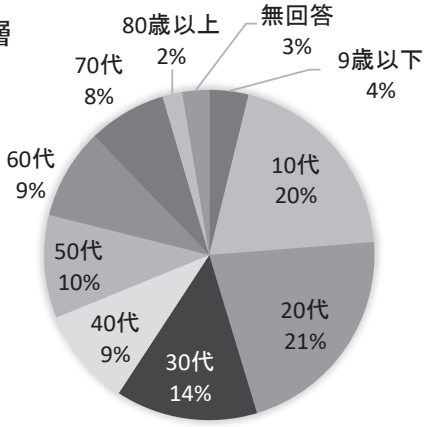


⑧主な意見・感想
・もう少し彫刻の写真が撮れればよかったです。
・展示品は素晴らしいが、それぞれの背景や情報、説明が不足している。

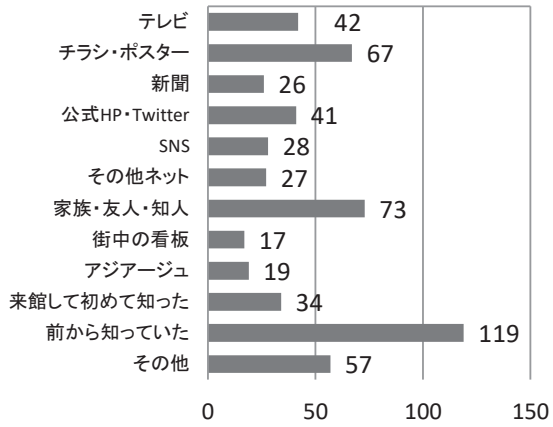
文化交流展　アンケート集計結果

開催期間：令和4年4月1日(金)～令和5年3月31日(金)　開館日数:307日間
回答者数：417人　来館者数：239,282人　アンケート回収率：0.2%

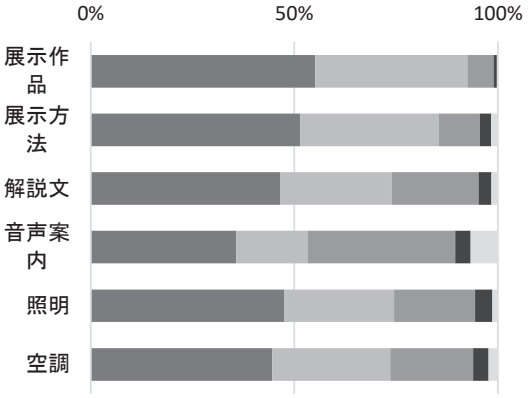
①年齢層



②認知経路（複数回答）

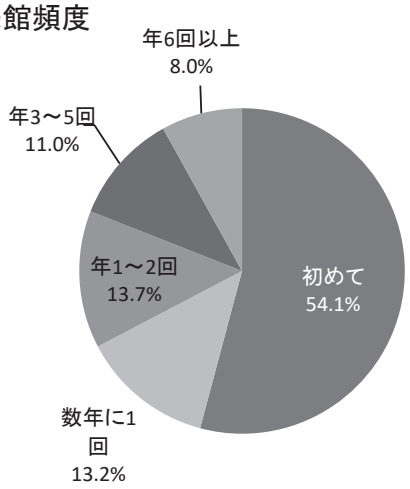


③展示に関する満足度

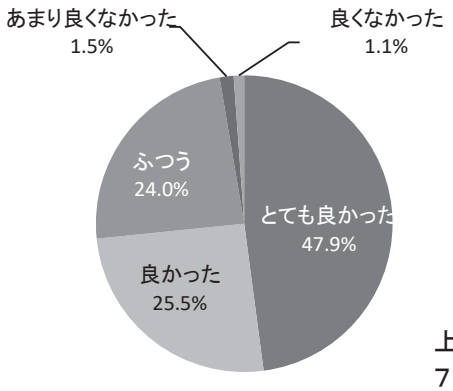


上位合計の平均
77．0%

④来館頻度

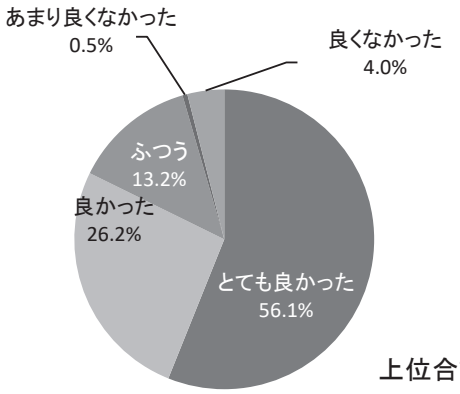


⑤ミュージアムショップに対する満足度



上位合計
73．4%

⑥館内スタッフの対応について



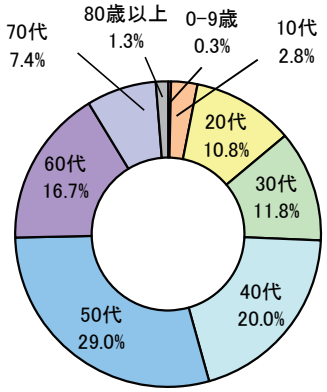
上位合計
82．3%

主な意見・感想
かわいい展良かったです。本当にどれも可愛いです。
展示室内に椅子や休憩スペースをもう少し増やしてほしいと感じた。ゆっくり見て回ったため、途中で水分補給しづらく感じた。
レプリカに触ることが出来たので良かったです。
音声ガイドがわかりやすくて良かったです。ですが、スマホを持って聞きながら歩いていると別の物を読み取ってしまい、少しわずらわしかった。

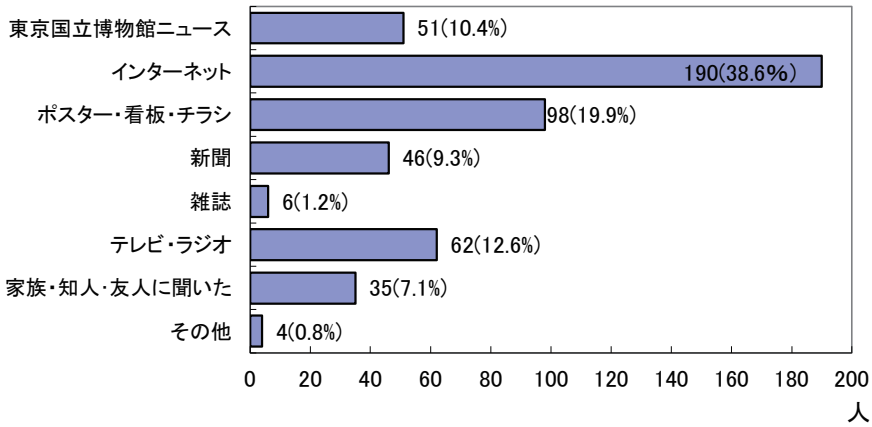
特別展「空也上人と六波羅蜜寺」
アンケート集計結果

開催期間：令和４年３月１日（火）～５月８日（日）（６２日）
総入館者数：１４６，０８５人
回答者数：３９０人

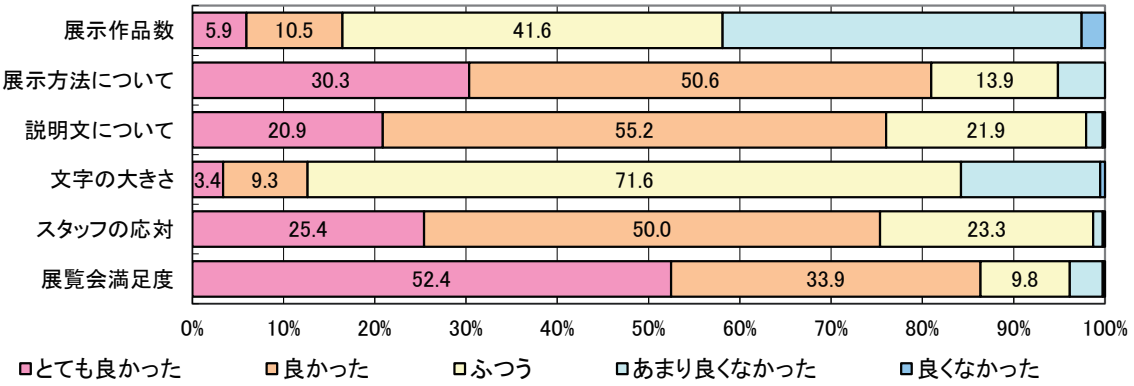
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・貴重な仏像を実際に見られてよかった。
・空也上人立像を全方向から見られたのがよかった。
・作品数としては多くなく、時間をかけてゆっくり見ることができた。
・照明がケースに反射して作品が見えにくかった。
・事前予約制のわりに混んでいた。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	39.3	2.6
展示方法	5.1	0.0
説明文	1.8	0.3
文字サイズ	15.2	0.5
スタッフの応対	1.0	0.3
展覧会の満足度	3.6	0.3

（%）

2022年は、空也上人の没後1050年にあたります。空也上人は、疫病がおさまり世の中が穏やかになるように祈り、京都東山の地に西光寺（現在の六波羅蜜寺）を創建しました。本展では、市井の人々から絶大な信仰を得た空也上人の足跡をたどりながら、六波羅蜜寺の歴史をたどり、古くからの埋葬の地であった鳥辺野という独特の立地がもたらした信仰の蓄積をご紹介しました。東京では半世紀ぶりの公開となった空也上人立像をはじめ、創建時につくられた四天王立像、定朝作と伝えられる地蔵菩薩立像、運慶作の地蔵菩薩坐像、伝平清盛坐像など、平安・鎌倉彫刻の名品が一同に会する貴重な機会となりました。

本展を観覧しアンケートに答えた86.4%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的なご意見が寄せられました。それぞれの作品を間近にじっくりと観覧できるような展示方法や、空也上人立像を360度鑑賞できることなどが、満足度を高める結果になったと考えられます。

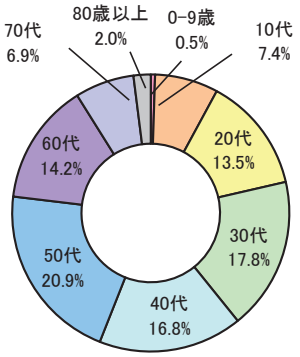
一方で、照明による作品の見づらさや、会場の混雑についてのご意見もいただきました。今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

沖縄復帰50年記念 特別展「琉球」

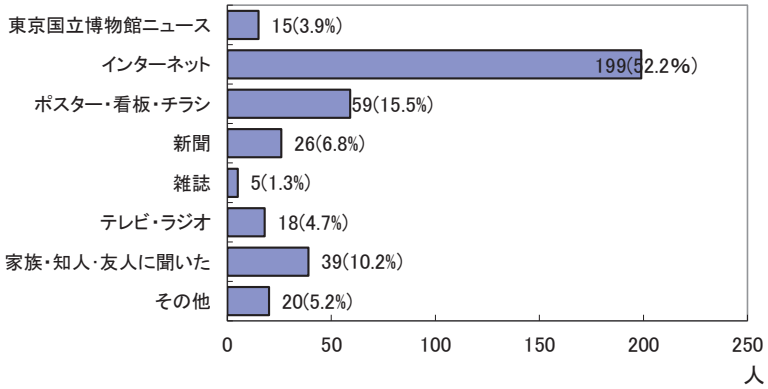
アンケート集計結果

開催期間：令和４年５月３日（火祝）～６月２６日（日）（４８日）
総入館者数 ： ９０，３９５人
回答者数：３９５人

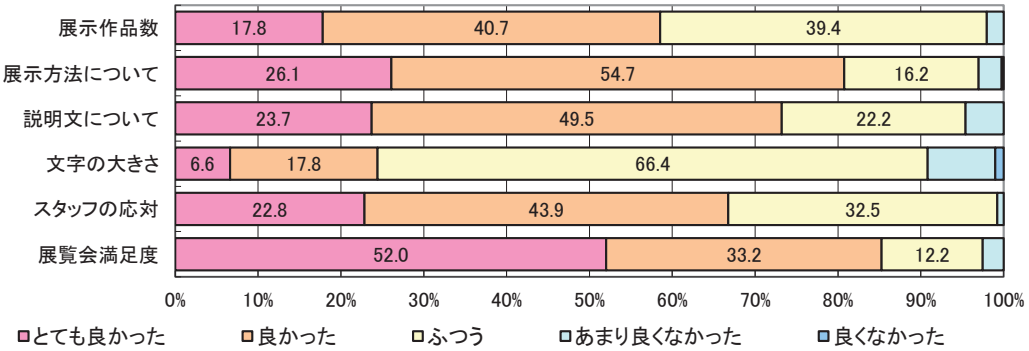
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・展示内容が充実しており見応えがあった。
・琉球独特の文化を知ることができて勉強になった。
・コロナ禍で沖縄に行けないため、東京で作品を見ることが出来て良かった。
・黄色地に赤文字のキャプションが読みにくかった。
・展示替えで、王冠を見ることができず残念だった。
・撮影可の刀剣の周辺に人が多く、ゆっくり見ることができなかった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.0	0.0
展示方法	2.8	0.3
説明文	4.6	0.0
文字サイズ	8.1	1.0
スタッフの応対	0.8	0.0
展覧会の満足度	2.5	0.0

（%）

令和4年（2022）、沖縄県は復帰50年を迎えました。かつて琉球王国として独自の歴史と文化を有した沖縄は、明治以降の近代化や先の戦争という困難を乗り越え、現在もその歴史、文化を未来につなぐ努力を続けています。本展では、王国時代の歴史資料・工芸作品、国王尚家に伝わる宝物に加え、考古遺物や民族作品などのさまざまな文化財が一堂に会しました。

また、沖縄県では、平成27年度より琉球王国文化遺産集積・再興事業として、失われた文化遺産の復元に取り組んできました。この事業によって制作された復元作品も多数展示し、琉球・沖縄の歴史や文化を総合的にご覧いただきました。

本展を観覧しアンケートに答えた85.3%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的なご意見が寄せられました。コロナ禍で沖縄に行くことが難しい状況の中、幅広い分野の資料を通して琉球の歴史や文化に触れられたことが、このような評価につながったと考えられます。

展示室内の写真撮影可エリアについては好意的なご意見をいただく一方で、「撮影する人が滞留してゆっくり見る事ができなかった」等のご意見も寄せられました。また、「キャプションが黄色地に赤文字で読みにくかった」等のご意見もいただきました。

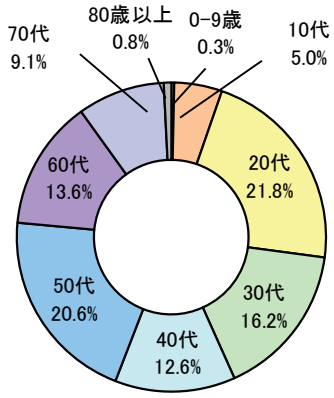
今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

日中国交正常化50周年記念 特別デジタル展「故宮の世界」

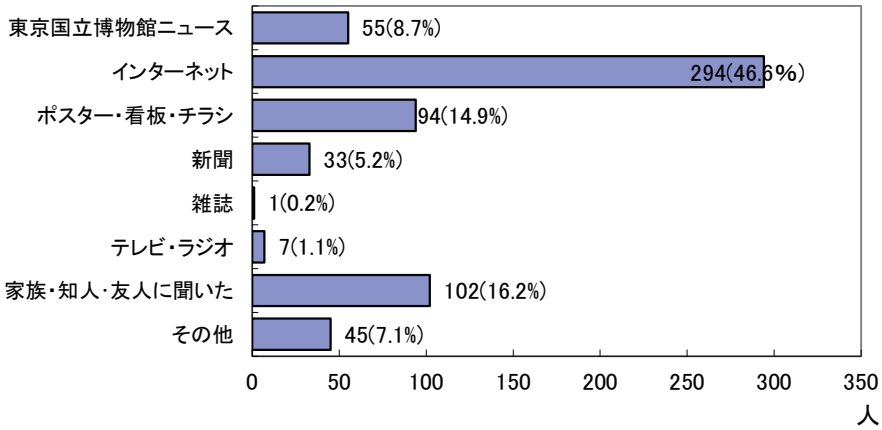
アンケート集計結果

開催期間：令和４年７月２６日（火）～９月１９日（月祝）（５０日）
総入館者数 ： ２７，８３９人
回答者数：６２５人

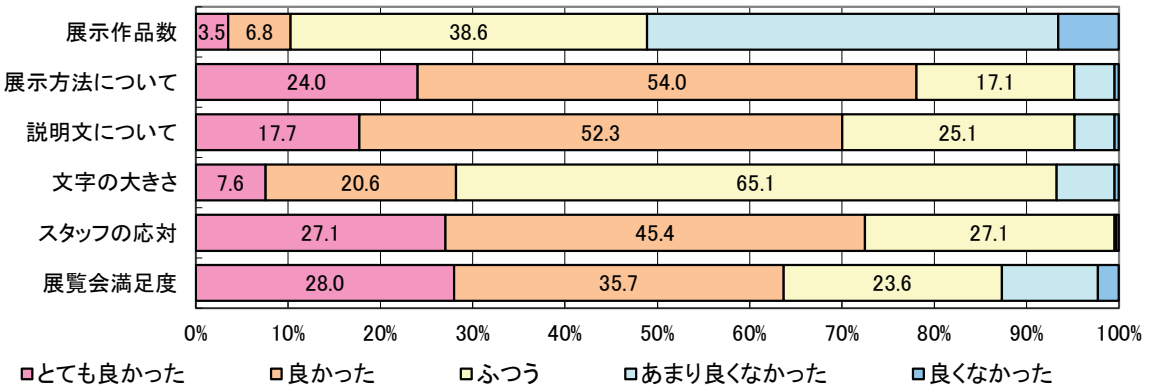
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・デジタルで作品の細部まで見ることができてよかった。
・映像が綺麗だった。
・新しい試みで興味深かった。他にもデジタル展示をやってほしい。
・展示作品数が少ないので、物足りなく感じた。
・もっと実物展示を充実させてほしい。
・展示室が暗く、足元が見えない。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	44.5	6.6
展示方法	4.4	0.5
説明文	4.3	0.5
文字サイズ	6.3	0.5
スタッフの応対	0.2	0.3
展覧会の満足度	10.5	2.3

（%）

中国の首都北京の中心に位置する故宮博物院は、往時の姿を伝える壮麗な建築群を有し、186万件以上のすぐれた美術品を所蔵する博物館です。かつては紫禁城と呼ばれ、明・清の両王朝で、歴代皇帝が国を治める拠点として造営された壮麗な宮殿でもありました。日中国交正常化50周年の節目の年となる2022年、東京国立博物館と故宮博物院が、両者と10年以上にわたり文化資産のデジタル化に関する研究を行ってきた凸版印刷と、紫禁城をテーマにした特別デジタル展を共同で開催いたしました。

本展では、VR（バーチャル・リアリティ）によって再現された清王朝最盛期の紫禁城、高精細3D（三次元）データを用いた工芸品のデジタル鑑賞、超大画面シアターに投影された青緑山水の傑作「千里江山図巻」の画中への旅行体験など、最先端のデジタル技術による展示を通じて、中国美術の奥深さを紹介しました。さらに、東京国立博物館が所蔵・管理するコレクションの中から、歴代皇帝や宮廷にゆかりのある文化財を展示しました。

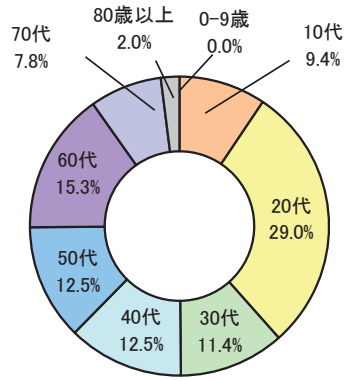
本展を観覧しアンケートに答えた63.7%のお客様から、「とても良かった」「良かった」との好意的なご意見が寄せられました。映像の美しさや、デジタル技術により、作品の細部までじっくりと鑑賞できた点に対して、好意的な評価をいただきました。また、本展では、特別展としては比較的多くの20代のお客様にご来場いただきました。

一方で、「展示作品数が少ない」「もっと実物展示を充実させてほしい」等のご意見も寄せられました。また、「展示室が暗く、足元が見えない」等のご意見もいただきました。今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

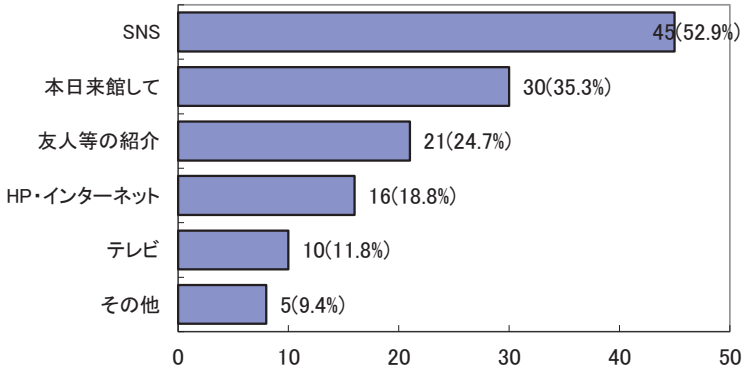
150年後の国宝展―ワタシの宝物、ミライの宝物
アンケート集計結果

開催期間：令和４年１１月２日（火）～１月２９日（日）（７２日）
総入館者数 ： １７８，５２５人
回答者数：２５５人

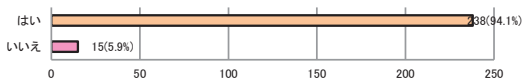
①アンケート回答年齢層



②認知経路（自由回答）



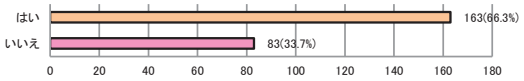
③150年後の国宝候補の背景やストーリーは伝わったか



④具体的にどのような点から伝わったか（抜粋）

・150年前、今、150年後のイメージが分かった。
・今、あたりまえにあるものが、いつか貴重なものになることもあるのだとしみじみ感じた。

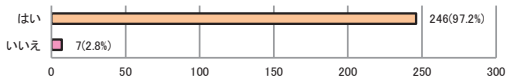
⑤本展を通じて未来の国宝候補を考えることはできたか



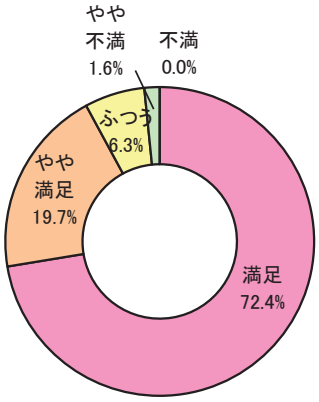
⑥具体的にどのような点から考えることができたか（抜粋）

・一般の方々から募集された品々の展示で、自分たちの思い出が国宝につながることもあるのかなと思えた。
・身近で大切なものが国宝になるのかもと考えられた。

⑦本展を通じて国宝や文化財を身近に感じられたか



⑧本展全体の満足度



⑨展示全体に対する意見・感想（抜粋）

・写真撮影可能な点が良かった。
・博物館の原点を感じた。
・様々な取り組みに挑戦していて良かった。
・椅子の設置など休憩できる場所が欲しい。
・デジタル展示が多いこともあり、まぶしく感じた。

本展は、今から150年後の西暦2172年に伝え残していきたい国宝候補を、その背景のストーリーと共に展示するものです。一般部門及び企業部門で構成されています。まず、一般部門は「ワタシの宝物、ミライの宝物」というテーマで一般公募を行い、その中から当館が選んだものを展示しました。そして、企業部門については、展覧会に出展協力いただいた企業と、当館にてどのような国宝候補が適当かを協議の上、展示を行いました。

本展は、過去を保存する装置である博物館が未来をみつめることを意図したプロジェクトとして計画したものです。

本展を観覧しアンケートに答えた92%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的なご意見が寄せられました。150年後の未来はどのような物が国宝になっているかを皆で考えることを意図した展示や、写真撮影を可能としたことなどから、このような評価につながったと考えられます。

また、アンケートの回答者年齢層についてはほかの特別展に比べ、若年層が多く、認知経路としての手段がSNS、インターネットが多いことからも、普段当館に来館しない層が比較的多く来館したことが想定されます。本展によって、新たな来館者を開拓することができたと考えられます。

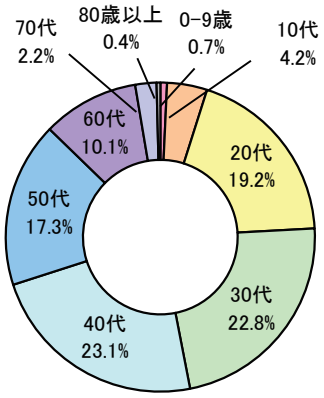
なお、当館で通常展示する文化財とは異なった作品を展示していた関係により、映像が多く、まぶしいと感じさせてしまう展示室があったことや、休憩場所として椅子を設置できなかったことなどの意見を参考に、今後の観覧環境の向上に努めて参ります。

東京国立博物館創立150年記念 特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」

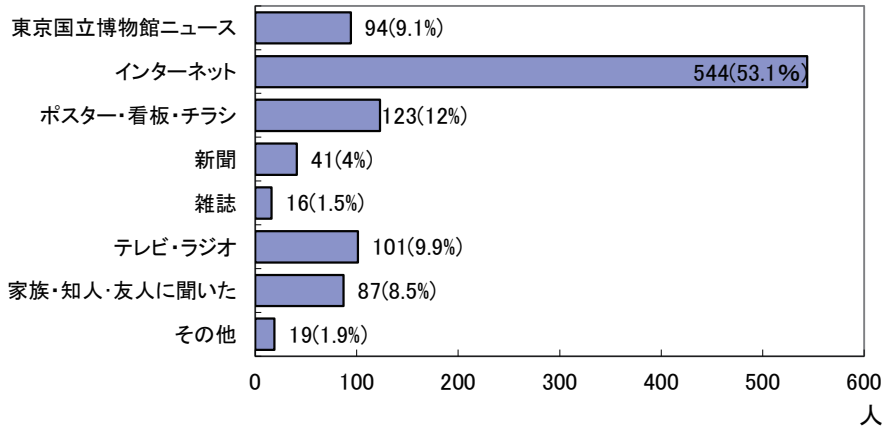
アンケート集計結果

開催期間：令和４年１０月１８日（火）～１２月１８日（日）（５５日）
総入館者数 ： ３５１，１５３人
回答者数：９１７人

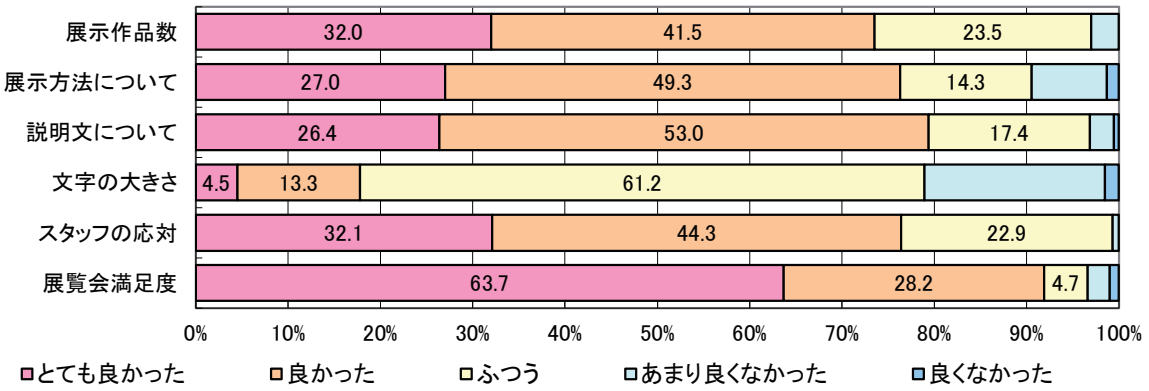
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・教科書で見た作品が生で見られて感動した。
・ボリュームがあり、とても見ごたえがあった。
・刀剣の展示が見やすかった。
・チケットの入手が難しかった。
・人が多くて見にくかった。
・グッズが売り切れていて残念だった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	3.0	0.0
展示方法	8.1	1.3
説明文	2.6	0.6
文字サイズ	19.5	1.5
スタッフの応対	0.7	0.0
展覧会の満足度	2.4	1.0

（%）

東京国立博物館（東博）は、令和4年（2022）、創立150年を迎えました。明治5年（1872）の発足以来、日本でもっとも長い歴史をもつ博物館として、かけがえのない文化財の保存と公開という命題を両立させながら、日本の文化を未来へ、そして世界へ伝えていく役割を果たしてきました。

本展は、この大きな節目を記念して開催され、150年の間に積み重ねられた約12万件という膨大な所蔵品の中から、国宝89件すべてを含む名品と、明治から令和にいたる150年の歩みを物語る関連資料を通して、東京国立博物館の全貌を紹介いたしました。

本展は、事前予約制による入館者数を制限した運営を行ってきましたが、多くのお客様より観覧を希望される声をいただき、開館時間の延長 、休館日の臨時開館など、更なる観覧機会の提供に努めてまいりました。さらに、文化財保護の観点から展示作品の状態等を考慮したうえで、1週間に限って会期を延長いたしました。

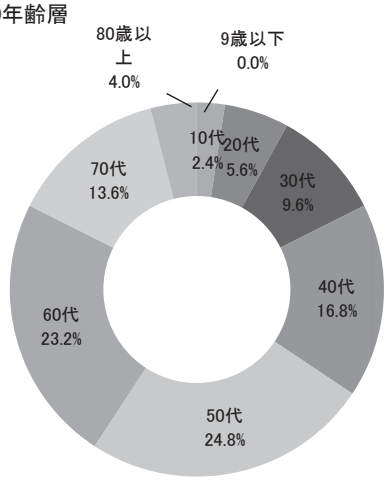
本展を観覧しアンケートに回答した91.9%の方から、「とても良かった」「良かった」との好意的なご意見が寄せられました。一方で、事前予約制の中で連日チケットが完売となった状況へのご意見や、会場内の混雑対策へのご意見が寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

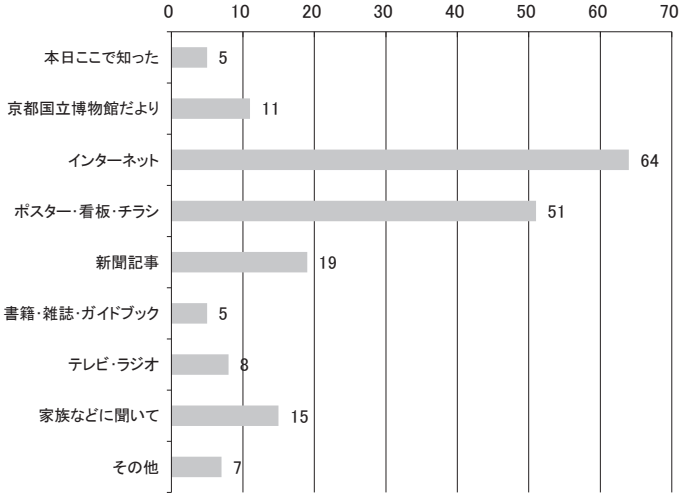
特別展覧会「最澄と天台宗のすべて」
アンケート集計結果

開催期間：令和 4年 4月 12日（火）～ 5月22日（日）（36日間）
回答者数： 136人（総来館者数 42,642人 アンケート回収 0.3%）

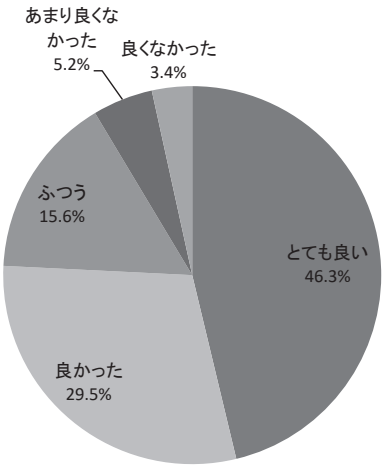
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
75.8%

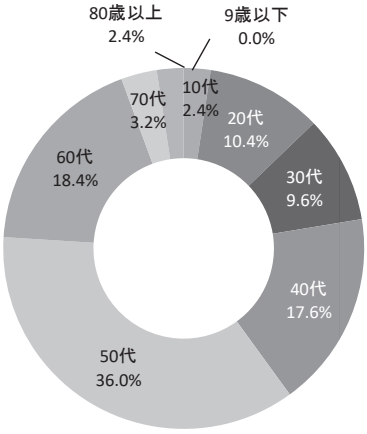
④主な意見・感想

・”天台宗のすべて”と銘打つのにふさわしい内容だった
・おもしろく仏教をもっと知りたいと思った
・映像コーナーが多く楽しめた
・内容が盛りだくさんだった
・写真撮影を自由にしてほしい

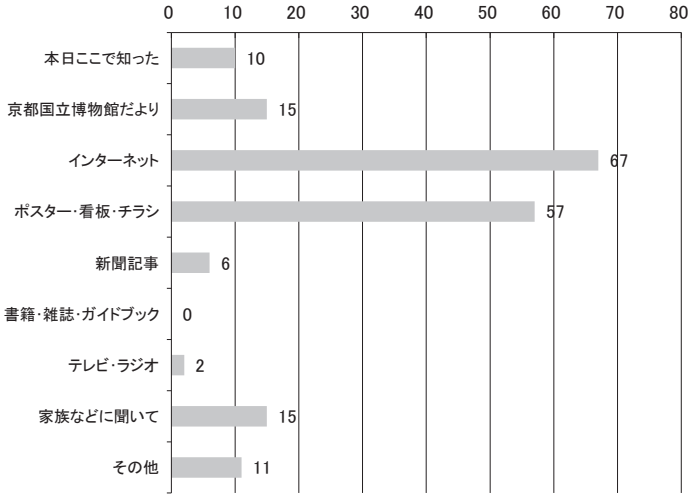
特別展覧会「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺」
アンケート集計結果

開催期間：令和 4年 7月 30日（土）～ 9月 11日（日）（38日間）
回答者数：142人（総来館者数 28,211人　アンケート回収率 0.5%）

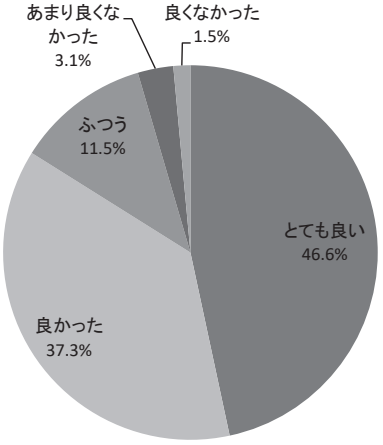
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



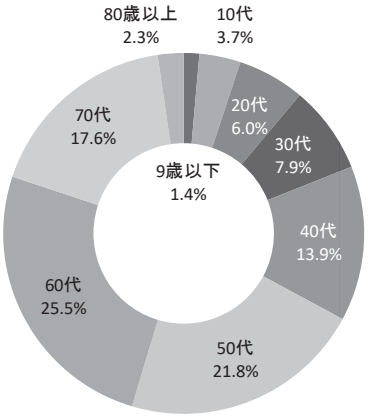
アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
83.9%

④主な意見・感想
・照明が截金や彩色が分かりやすいよう当てられている
・一部だけでも子供にも分かるないようにしてほしい
・調査や報告の大切さも伝わってくる展覧会だった
・今後も新たな知見を得られる展示をしてほしい
・図録の字を大きくしてほしい

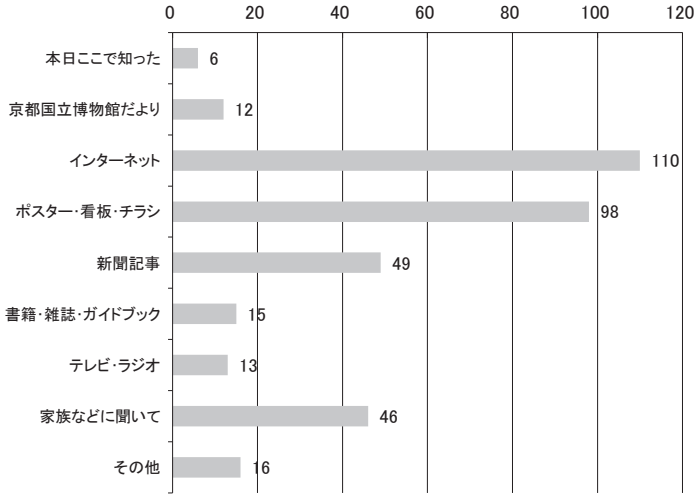
特別展覧会「京に生きる文化　茶の湯」
アンケート集計結果

開催期間：令和 4年 10月 8日（土）～ 12月 4日（日）（50日間）
回答者数：255人（総来館者数 89,495人　アンケート回収率 0.3%）

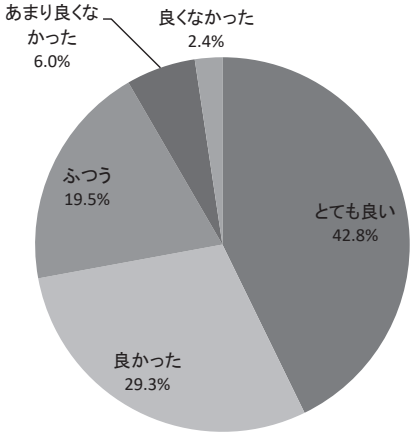
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
72.1%

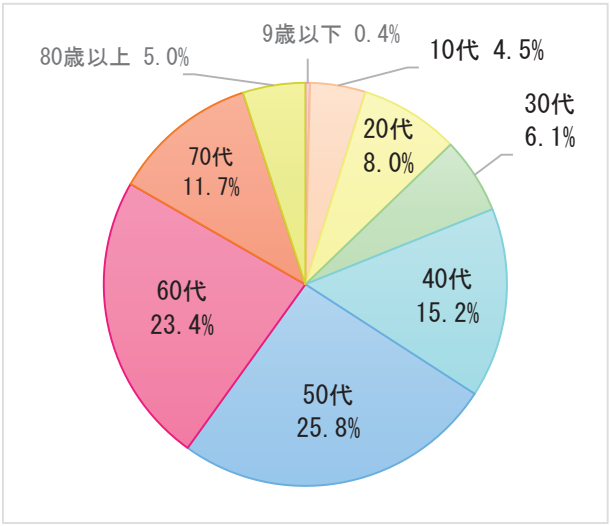
④主な意見・感想
・遠方でなかなか行けない畠山記念館の作品を見ることができた
・素晴らしい展示品ばかりで正に名品展だった
・茶道のことも分からなくても凄さが分かる展示だった
・道具を実際に使うことを想像することができた
・能装束の能舞台風の背景に学芸員のこだわりを感じた

特別展「大安寺のすべて－天平のみほとけと祈り－」

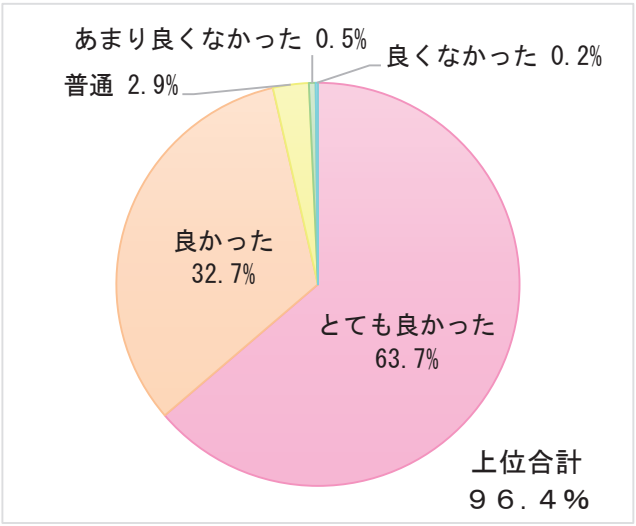
アンケート集計結果

開催期間：令和4年4月23日（土）～令和4年6月19日（日）（51日間）
回答者数：561人　　入場者数：32,971人　　回収率：1.70%

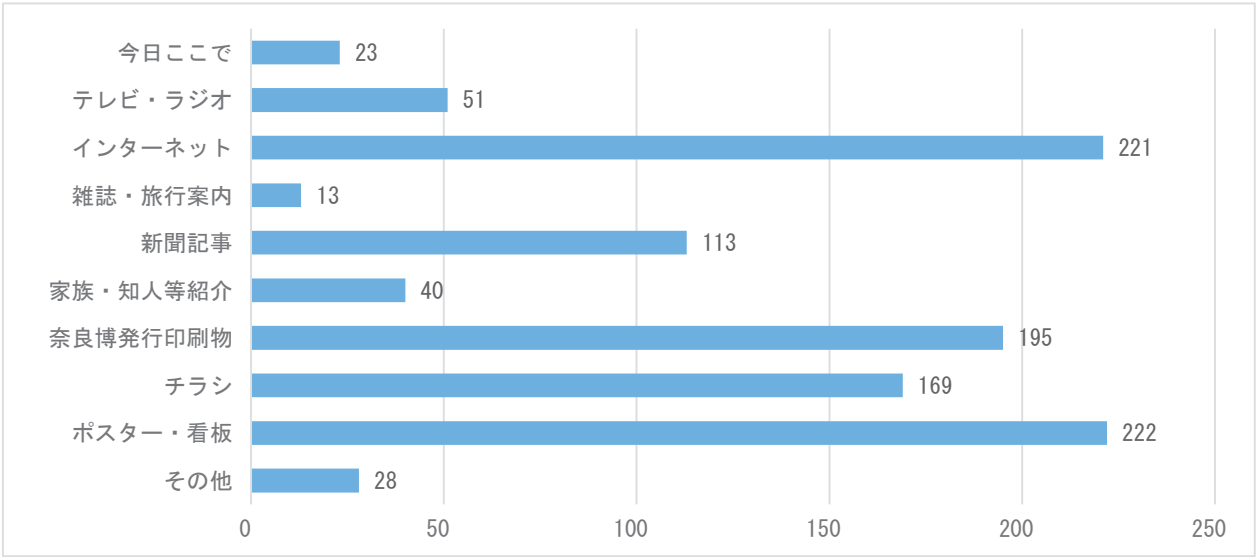
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



④主な意見・感想

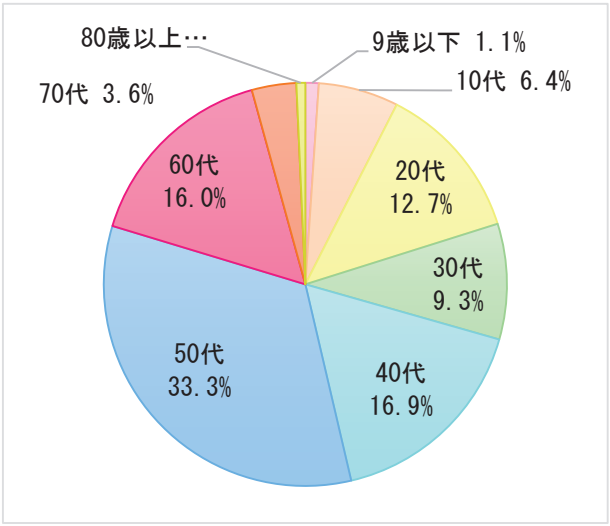
・奈良に来た甲斐があったと思わせてくれる、本格的な展覧会でした。
・大安寺の姿を知るうえで貴重な資料や仏像を拝見することができ、ありがとうございました。
・十一面観音像が印象に残りました。
・宝誌和尚立像が見れてよかった。
・四天王像の見比べができたのは、良かったと思います。
・休憩用のイスがいつもより多かったようで、助かりました。
・馬頭観音像も通期で展示してほしかった。
・空調が少し寒かった。
・少し照明が暗く文字が見にくかった。
・1時間毎にコロナに対する注意の音声が流れるのが少し邪魔です。

貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅－祈りが紡ぐ物語－」

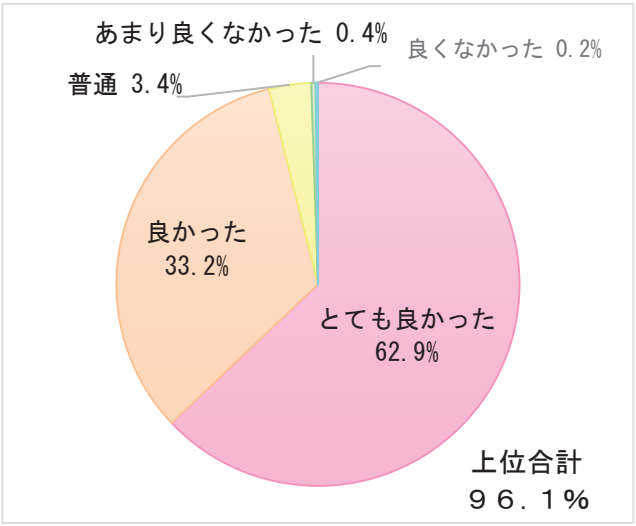
アンケート集計結果

開催期間：令和4年7月16日（土）～令和4年8月28日（日）（39日間）
回答者数：562人　　入場者数：19,966人　　回収率：2.81%

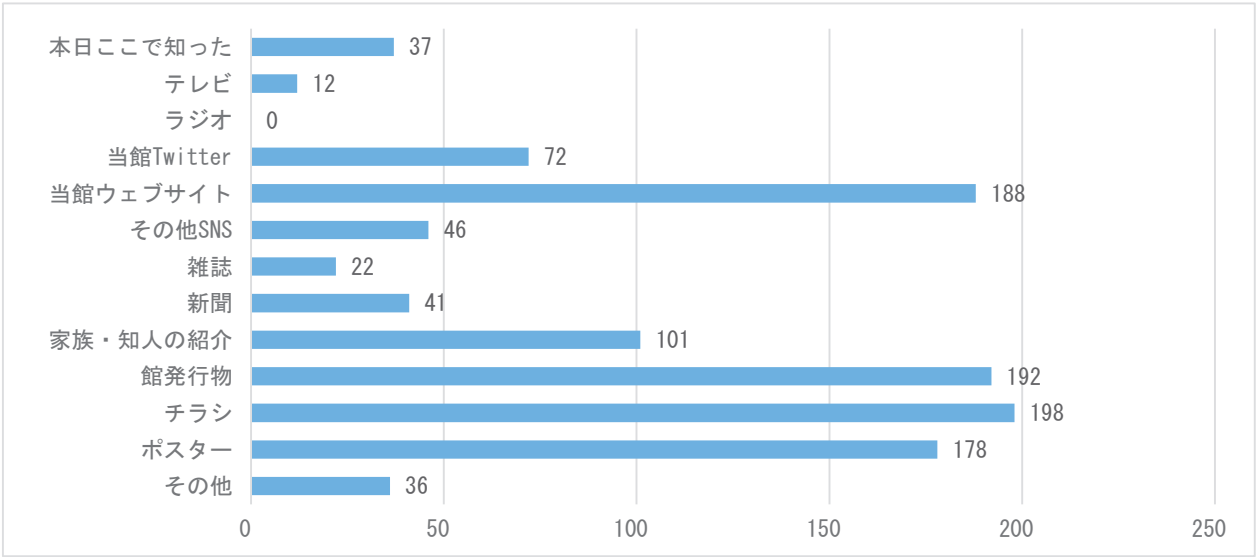
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



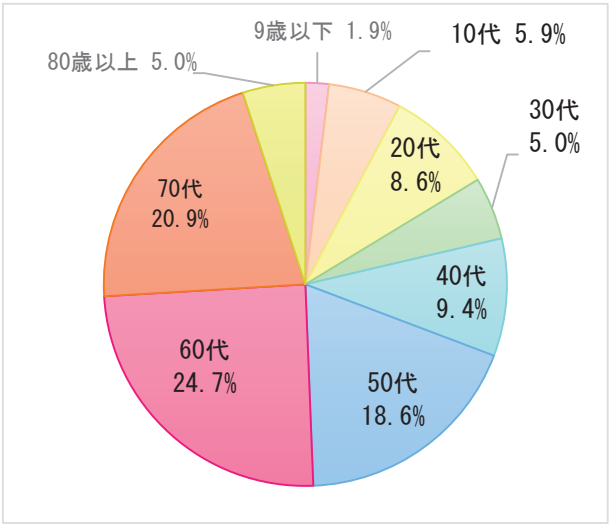
④主な意見・感想

・當麻曼荼羅がすばらしかった。
・芸能との関わりまで紹介されていて奥行きのある展示構成でした。
・ツムラと中将姫の関係が興味深かった。
・曼荼羅がとてもたくさん展示されており、違いや共通点をさがすのがおもしろかったです。
・曼荼羅の細部がみれるデジタルビューアーがとてもよかったです。
・とても丁寧に説明がかかれていて分かりやすかったです。
・音声ガイドと一緒に楽しめてすごく良かった。
・練供養の映像があったらよかった。
・自由に見られて良い反面、順路としてはわかり難くかった。
・少し冷房がききすぎてて寒かった。

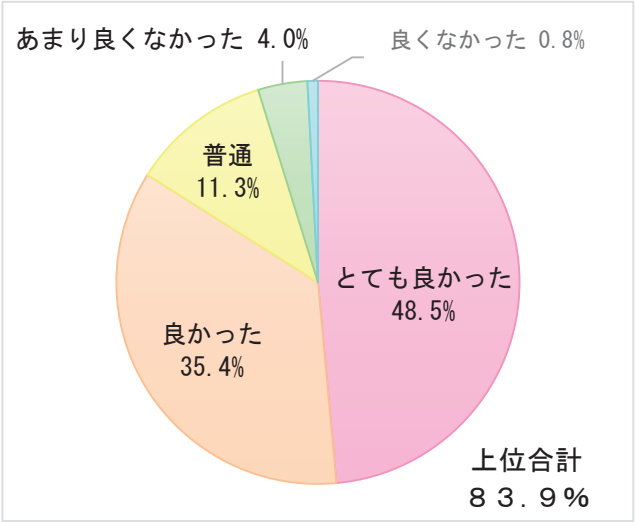
「第74回正倉院展」
アンケート集計結果

開催期間：令和4年10月29日（土）～令和4年11月14日（月）（17日間）
回答者数：484人　　入場者数：87,672人　　回収率：0.55%

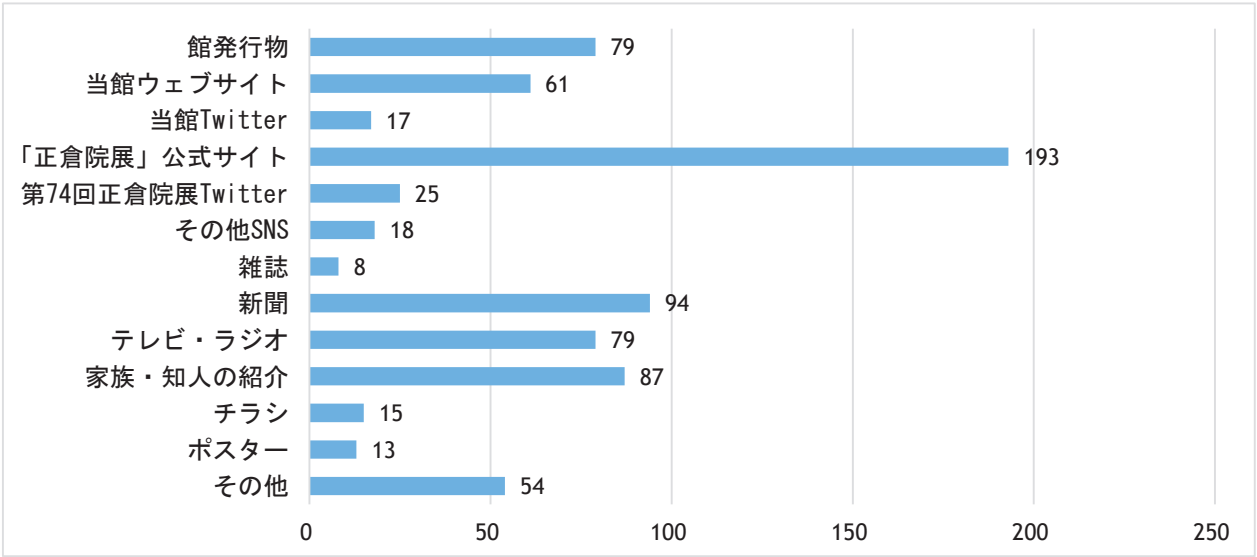
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



④主な意見・感想

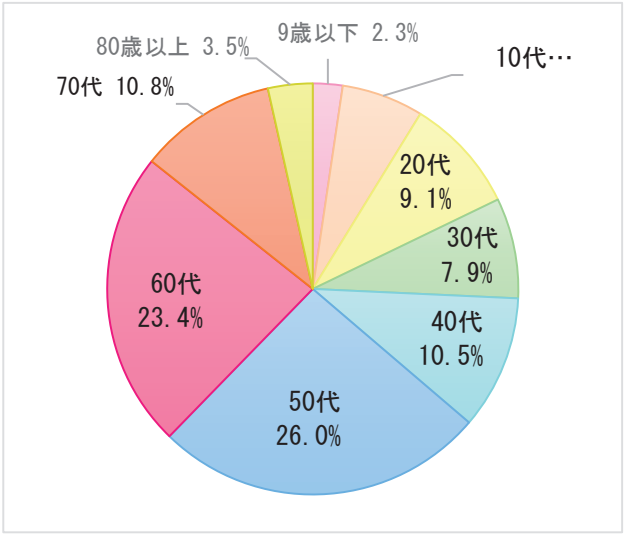
・展示の仕方が拡大図などもあって見やすかった。
・混雑と混乱を避けるためこれからも日付指定は続けてほしい。
・来年も又は毎年来たいと思えるものでありました。
・初めての正倉院展感動した。
・貴重な宝物を実際に見ることができた。
・目玉になるようなものがなく、地味だった。
・今年は入場者が多かったです。
・予約制になりゆっくりと見れるのはいいのだが予約のキャンセルや変更が出来ないのが少しこまる。
・グッズ売り場のレジが少ないと思います。
・出口付近でのイス・ベンチなどが少ない。

式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展－祈りの王朝文化－」

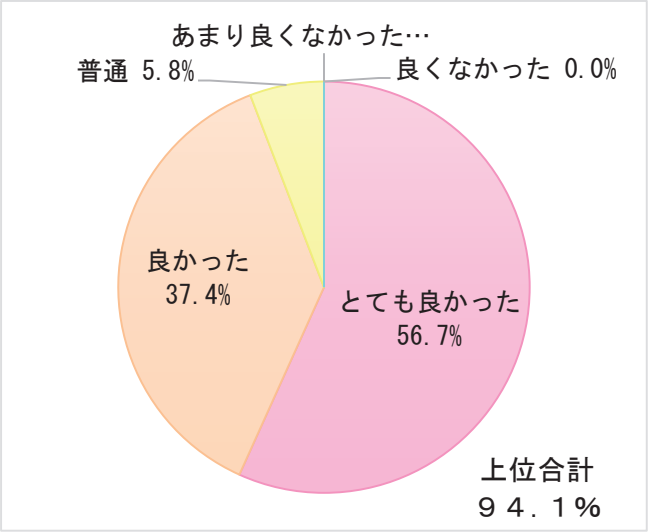
アンケート集計結果

開催期間：令和4年12月10日（土）～令和5年1月22日（日）（34日間）
回答者数：344人　　入場者数：22,888人　　回収率：1.50%

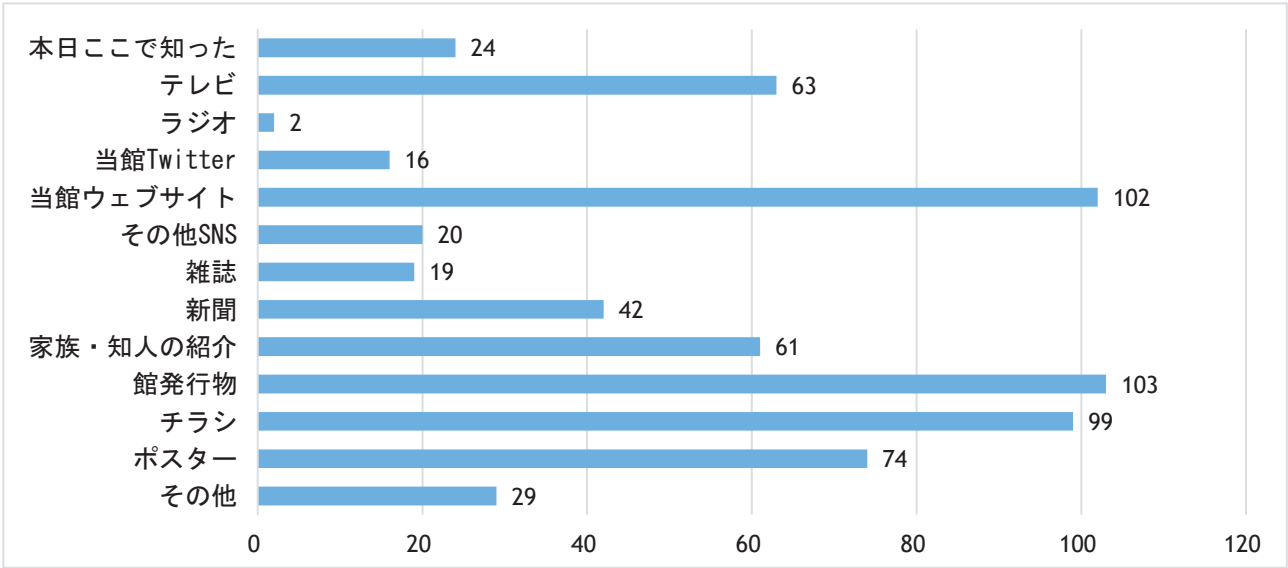
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



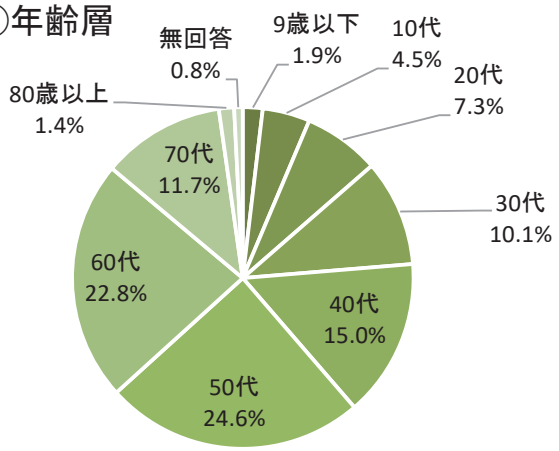
④主な意見・感想

・複製されたものと本物があって比較できた。当時こんなに美しかったと想像できた。
・春日大社の宝物の由来等勉強できた。
・貴重な品々を間近に見ることが出来、良かったです。
・なかなか見られない国宝を見ることができたから。
・ゆっくり観ることができ、解説もわかりやすかった。
・車イスで特別展を毎回観ているが、車イスでは見えぬ展示がある。
・鎧、兜の重量を知りたい。
・お庭が素晴らしい。
・館内がとても寒いです。

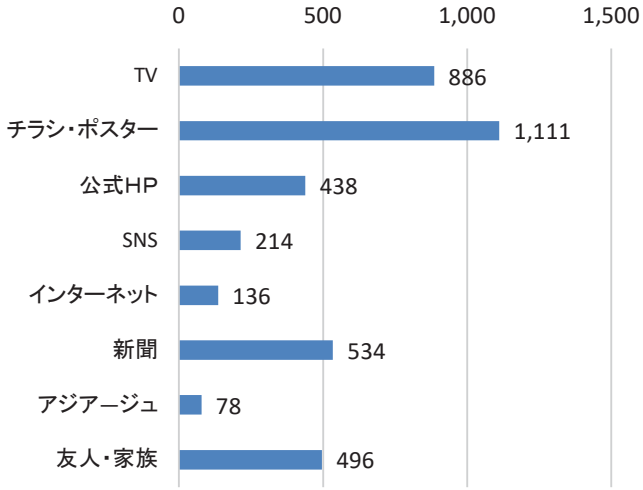
特別展「北斎」
アンケート集計結果

開催期間：4年4月16日(土)～6月12日(日)（51日間）
総回答者数：2,565人（総来館者数：135,955人　アンケート回収率：1.89%）

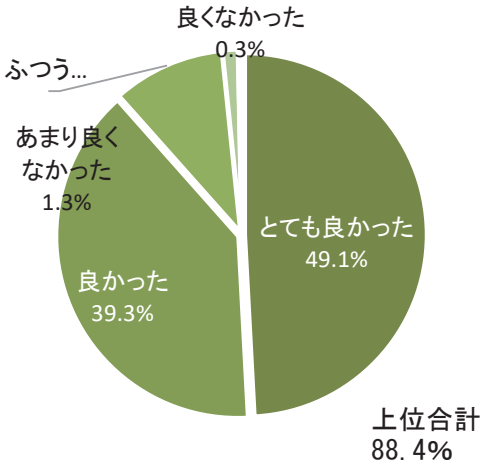
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



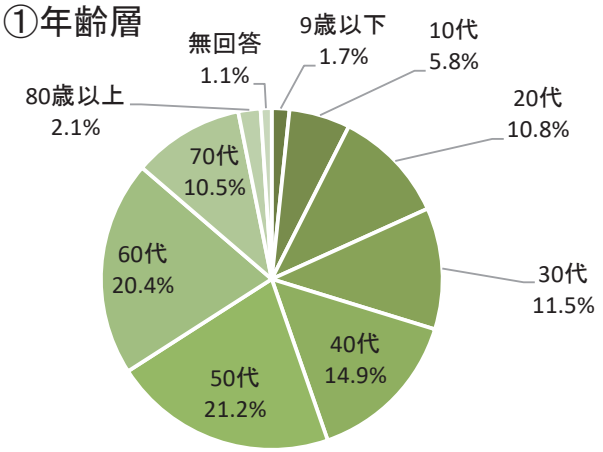
④主な意見・感想

・多くの作品が見れて大満足です。北斎の生涯について改めて学べました。
・日新除魔図の展示に圧倒されました。とても見やすくて一日一日のコメントも全て楽しみました。
・会場内を自由に動けた事と、写真が撮れるコーナーがあったのが楽しかった。スタッフの方も親切でした。
・凱風快晴の刷りの工程説明は面白かったです。富士越龍図が印象に残りました。
・人が多くじっくりと北斎の絵を見ることができなかった。もう少し近くで細部までじっくりと見れる工夫が欲しかった。
・今回は画そのものが小さいので、かなり近づいて鑑賞する必要があり、暗いので大変だった。平日なのに人が多い。

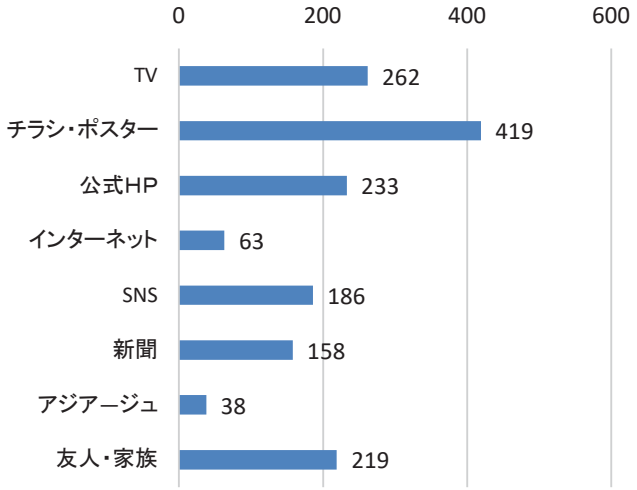
特別展「琉球」
アンケート集計結果

開催期間：4年7月16日(土)～9月4日(日)（45日間）
総回答者数：1,139人（総来館者数：41,054人　アンケート回収率：2.77%）

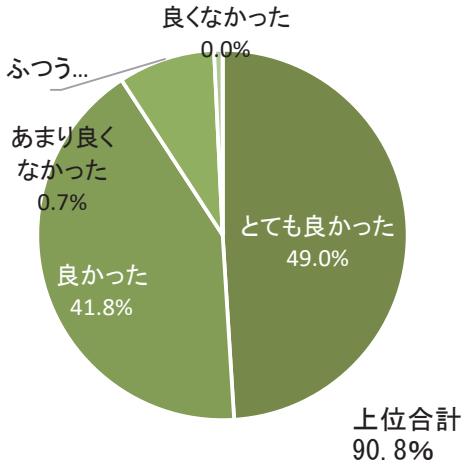
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



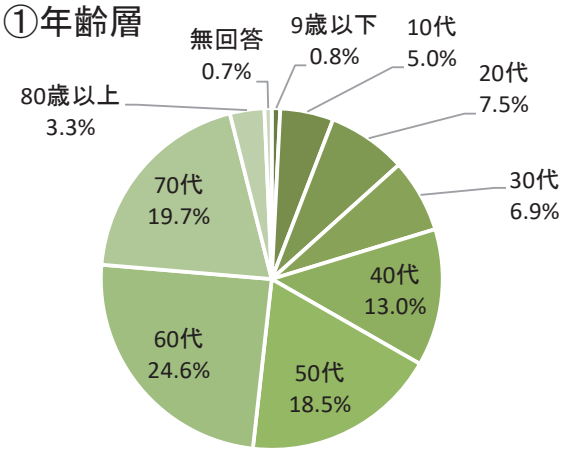
④主な意見・感想

・順路が非常に分かりやすいです。動線が分かりやすいと見落としがなく助かります。撮影可のエリアがあって楽しかったです。
・琉球に関する知識はほとんどなかったが、展示・解説共にとても楽しめた。音声ガイドを購入しなかったことを少し後悔するくらいでした。
・沖縄の魔除けとか、所々に配してあるちょっとした仕掛けが楽しく良かったです。
・ゲームとのコラボ目当てで来たものですが、琉球独特の工芸品等の美しさに驚きました。
・最後の首里城の説明には、大変感動しました。
・ほんの少し明るさが欲しいと思いました。目が悪いのであまりよく見えなかったです。

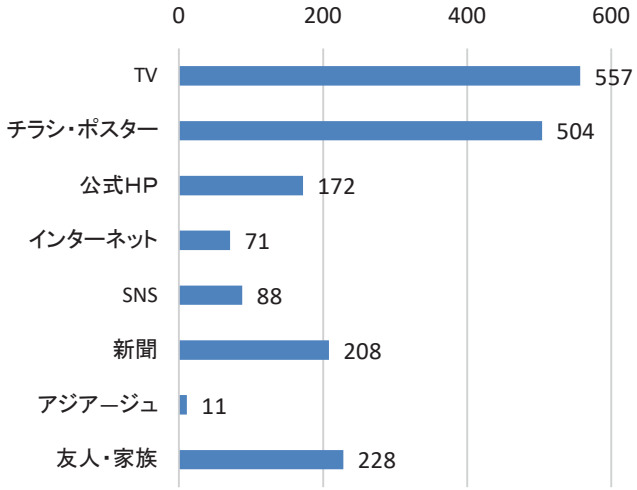
特別展「ポンペイ」
アンケート集計結果

開催期間：4年10月12日(水)～12月4日(日)（48日間）
総回答者数：1,746人（総来館者数：79,919人　アンケート回収率：2.18%）

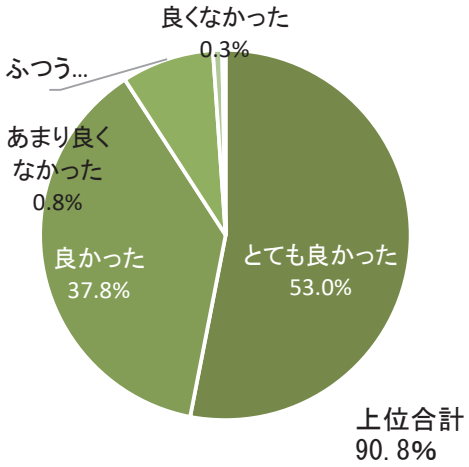
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



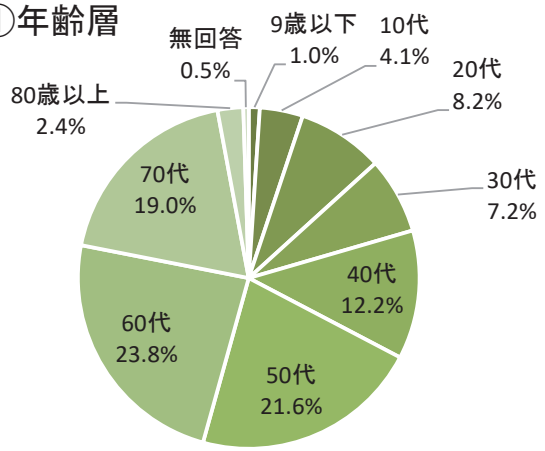
④主な意見・感想

・展示空間自体が実際の遺跡の様で没入感があり、楽しく観覧出来ました。床に猫の足跡があったのも可愛かったです。
・2000年も前にここまでの文明が発達していたということに大変驚きました。
・写真撮影OKなのが新鮮でした。2000年前の人々の息吹を感じられ、タイムスリップしたような気持ちになれました。
・解説文が小さく読みづらい。音声ガイドが少々分かりづらかった。
・疲れやすいのでもう少し椅子が欲しかった。特に画像の所に。全体的に見やすくて良かったです。

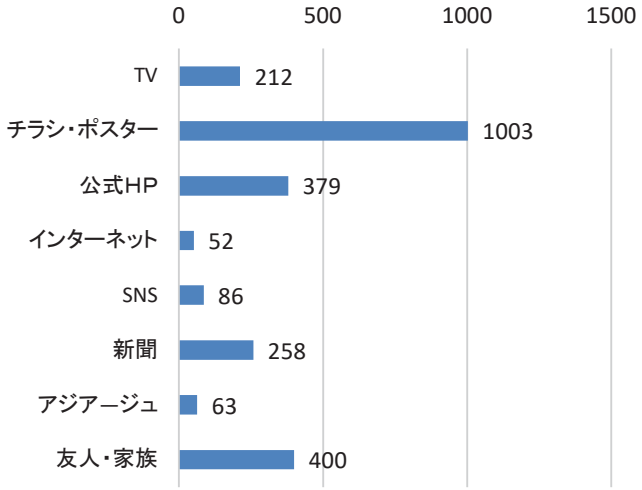
特別展「加耶」
アンケート集計結果

開催期間：5年1月24日(火)～3月19(日)（48日間）
総回答者数：2,681人（総来館者数：26,990人　アンケート回収率：9.93%）

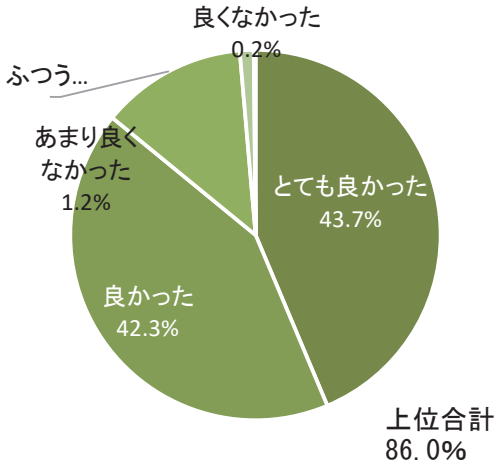
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・渡来人と倭人との交流。加耶の鉄文化とそれが当時の日本と、どの様につながっていったのか、興味深く拝見しました。
・日本と朝鮮半島の交流の深さについては九州の地だからこそ今後も発信していただきたい。
・牛や馬のはにわの展示を牧場風にしていたので面白かったです。
・作品の説明文等、以前に比べ文字も大きくなり分かりやすい。
・鉄がよく保存良く残っていたと思いました。加耶と倭の交流が存在していたと知れてよかった。現在ももっと交流してほしいですね。